

山口県埋蔵文化財センター調査報告 第74集

田ノ浦遺跡 II

—平成20・21年度調査—

2011

財団法人 山口県ひとづくり財団

山口県埋蔵文化財センター

山口県埋蔵文化財センター調査報告 第74集

た の うら い せき
田 ノ 浦 遺 跡 II

—平成20・21年度調査—

2011

財団法人 山口県ひとづくり財団

山口県埋蔵文化財センター

序

本書は、上関町大字長島字田ノ浦地内に所在する田ノ浦遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。発掘調査は、上関原子力発電所準備工事に伴うもので、中国電力株式会社からの委託を受けて、財団法人山口県ひとつづくり財団が実施しました。

田ノ浦遺跡は平成17・18年度調査に続く2回目の調査であり、前回と同様、縄文時代から古代・中世における遺構や多数の遺物が発見されました。特に縄文時代の遺物は出土量が多く、当時の食料であるドングリを貯蔵した跡とみられる土坑がまとまって発見されたのは大きな成果といえます。これらの資料は、この地で住む縄文時代の人々が、どのように生活していたかを具体的に示すものとして注目されます。また黒曜石やサヌカイトなど他地域との交流を示す遺物も発見されました。今回の調査は、海浜部に立地する集落跡として、また、瀬戸内海をめぐる交易や歴史を考える上で良好な資料となるとみられます。

このような調査記録を収録した本書が、学術研究のみでなく、文化財への理解や郷土の歴史を学ぶ資料として、幅広く活用されることを願うものであります。

おわりに、当発掘調査の実施並びに報告書の作成に当たってご協力いただいた関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成23年3月

財団法人 山口県ひとつづくり財団
理事長 藤井俊彦

例 言

- 1 本書は、平成20年度から22年度にかけて発掘調査・資料整理を行った、田ノ浦遺跡（山口県熊毛郡上関町大字長島字田ノ浦2727番1ほか）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、財団法人山口県ひとつくり財団が中国電力株式会社の委託を受けて実施したものである（上関原子力発電所準備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託）。
- 3 調査組織は次のとおりである。

調査主体	財団法人山口県ひとつくり財団	山口県埋蔵文化財センター
調査・整理担当	文化財専門員	谷口 哲一
	〃	後藤 義拓
	〃	米田 浩晃
整理担当	調査員	山本 寛子
	〃	中原 香織

- 4 調査にあたっては、山口県教育委員会、上関町教育委員会、中国電力株式会社並びに地元関係各位から協力・援助を得た。
- 5 本書の第1図は国土地理院発行の5万分の1地形図「柳井」「光」「室津」を複製・縮小して使用した。また第2図は上関町、第3、4図は中国電力株式会社から提供された地形図をもとに作成した。
- 6 今回の調査では、放射性炭素年代、種実・樹種同定、花粉分析などの自然科学分析を（株）加速器分析研究所に委託し、その結果を付編に掲載している。また、（株）アルカには出土石器の実測、整理、分析を委託し、その成果として本文に図・石器観察表を、付編に使用痕分析の結果を掲載している。
- 7 調査や出土遺物の整理にあたっては、次の方々にご指導を賜った。記して謝意を表します。
角張 淳一 金関 恕 木下 尚子 幸泉 満夫 高橋 哲 千葉 豊 水ノ江 和同
八木 勝枝 柳浦 俊一 渡辺 一雄
- 8 本書に使用した方位は、国土座標（世界測地系）で示し、標高は海拔標高（m）である。
- 9 本書に使用した土色の色調表記は、農林省農林水産技術会議事務局（監修）『新版標準土色帖』Munsell方式に従った。
- 10 実測図の遺物番号は図版中の遺物番号と対応する。
- 11 本書で使用した遺構略号は、次のとおりである。
S K：土坑 S P：柱穴
- 12 本書の挿図・写真は、調査・整理担当者が分担して作成した。文章の執筆は、Iを米田、Ⅲ、Ⅳのうち縄文土器については中原が担当し、その他は谷口が執筆した。なお編集は谷口が行った。

本文目次

I	遺跡の位置と環境	1
II	調査の経緯と経過	3
1	調査に至る経緯	3
2	調査の経過	3
III	調査の成果	7
1	調査の概要	7
(1)	20・21-1区	7
(2)	20・21-2区	16
(3)	20・21-3区	24
(4)	層序	27
2	遺構	30
(1)	縄文時代	30
(2)	弥生時代	37
(3)	古墳時代	38
(4)	古代以降	38
3	遺物	43
(1)	土器・土製品	43
(2)	石器・石製品	182
(3)	鉄製品	263
(4)	木製品	263
IV	まとめ	265
V	付編	270
	使用痕分析	270
	田ノ浦遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）	275
	田ノ浦遺跡の自然科学分析	283

挿 図 目 次

第 1 図	遺跡の位置と周辺の遺跡	2
第 2 図	遺跡の位置と周辺地形図 (1)	4
第 3 図	遺跡の位置と周辺地形図 (2)	5
第 4 図	調査範囲と調査区設定図	6
第 5 図	20・21 - 1 区土層断面図 (1)	8
第 6 図	20・21 - 1 区遺構配置図 (1)	9・10
第 7 図	20・21 - 1 区遺構配置図 (2)・土層断面図 (2)	11・12
第 8 図	20・21 - 1 区土層断面図 (3)	13
第 9 図	20・21 - 2 区遺構配置図 (1)	14
第 10 図	20・21 - 2 区遺構配置図 (2)	15
第 11 図	20・21 - 2 区土層断面図 (1)	17
第 12 図	20・21 - 2 区土層断面図 (2)	18
第 13 図	20・21 - 2 区土層断面図 (3)	19
第 14 図	20・21 - 2 区土層断面図 (4)	20
第 15 図	20・21 - 3 区遺構配置図 (1)	22
第 16 図	20・21 - 3 区遺構配置図 (2)	23
第 17 図	20・21 - 3 区土層断面図	24
第 18 図	土層断面模式図	25・26
第 19 図	全体遺構配置図 (1)	28
第 20 図	全体遺構配置図 (2)	29
第 21 図	縄文時代土坑実測図 (1)	31
第 22 図	縄文時代土坑実測図 (2)	33
第 23 図	縄文時代土坑実測図 (3)	35
第 24 図	縄文時代遺物出土状況図	36
第 25 図	縄文時代自然木検出状況図	36
第 26 図	弥生時代土坑実測図	37
第 27 図	弥生時代遺物出土状況図 (1)	37
第 28 図	弥生時代遺物出土状況図 (2)	37
第 29 図	古代遺構面実測図	38
第 30 図	古代以降土坑実測図 (1)	39
第 31 図	古代以降土坑実測図 (2)	40
第 32 図	古代以降土坑実測図 (3)	41
第 33 図	杭列跡実測図	41
第 34 図	柱穴列跡実測図	42
第 35 図	縄文土器実測図 (1)	44
第 36 図	縄文土器実測図 (2)	45
第 37 図	縄文土器実測図 (3)	46
第 38 図	縄文土器実測図 (4)	48
第 39 図	縄文土器実測図 (5)	49
第 40 図	縄文土器実測図 (6)	50
第 41 図	縄文土器実測図 (7)	51

第 42 図	縄文土器実測図 (8)	52
第 43 図	縄文土器実測図 (9)	53
第 44 図	縄文土器実測図 (10)	54
第 45 図	縄文土器実測図 (11)	55
第 46 図	縄文土器実測図 (12)	57
第 47 図	縄文土器実測図 (13)	58
第 48 図	縄文土器実測図 (14)	59
第 49 図	縄文土器実測図 (15)	60
第 50 図	縄文土器実測図 (16)	61
第 51 図	縄文土器実測図 (17)	62
第 52 図	縄文土器実測図 (18)	63
第 53 図	縄文土器実測図 (19)	64
第 54 図	縄文土器実測図 (20)	65
第 55 図	縄文土器実測図 (21)	67
第 56 図	縄文土器実測図 (22)	68
第 57 図	縄文土器実測図 (23)	69
第 58 図	縄文土器実測図 (24)	70
第 59 図	縄文土器実測図 (25)	71
第 60 図	縄文土器実測図 (26)	72
第 61 図	縄文土器実測図 (27)	73
第 62 図	縄文土器実測図 (28)	74
第 63 図	縄文土器実測図 (29)	76
第 64 図	縄文土器実測図 (30)	77
第 65 図	縄文土器実測図 (31)	78
第 66 図	縄文土器実測図 (32)	79
第 67 図	縄文土器実測図 (33)	80
第 68 図	縄文土器実測図 (34)	81
第 69 図	縄文土器実測図 (35)	83
第 70 図	縄文土器実測図 (36)	84
第 71 図	縄文土器実測図 (37)	85
第 72 図	縄文土器実測図 (38)	86
第 73 図	縄文土器実測図 (39)	87
第 74 図	縄文土器実測図 (40)	88
第 75 図	縄文土器実測図 (41)	89
第 76 図	縄文土器実測図 (42)	90
第 77 図	縄文土器実測図 (43)	91
第 78 図	縄文土器実測図 (44)	92
第 79 図	縄文土器実測図 (45)	93
第 80 図	縄文土器実測図 (46)	94
第 81 図	縄文土器実測図 (47)	95
第 82 図	縄文土器実測図 (48)	96
第 83 図	縄文土器実測図 (49)	97
第 84 図	縄文土器実測図 (50)	98
第 85 図	縄文土器実測図 (51)	99

第 86 図	縄文土器実測図 (52)	100
第 87 図	縄文土器実測図 (53)	101
第 88 図	縄文土器実測図 (54)	102
第 89 図	縄文土器実測図 (55)	103
第 90 図	縄文土器実測図 (56)	104
第 91 図	縄文土器実測図 (57)	105
第 92 図	縄文土器実測図 (58)	106
第 93 図	縄文土器実測図 (59)	107
第 94 図	縄文土器実測図 (60)	108
第 95 図	縄文土器実測図 (61)	109
第 96 図	縄文土器実測図 (62)	110
第 97 図	縄文土器実測図 (63)	111
第 98 図	縄文土器実測図 (64)	112
第 99 図	縄文土器実測図 (65)	113
第 100 図	縄文土器実測図 (66)	114
第 101 図	縄文土器実測図 (67)	115
第 102 図	縄文土器実測図 (68)	116
第 103 図	縄文土器実測図 (69)	117
第 104 図	縄文土器実測図 (70)	118
第 105 図	縄文土器実測図 (71)	119
第 106 図	縄文土器実測図 (72)	120
第 107 図	弥生土器実測図 (1)	154
第 108 図	弥生土器実測図 (2)	155
第 109 図	弥生土器実測図 (3)	157
第 110 図	弥生土器実測図 (4)	158
第 111 図	弥生土器実測図 (5)	159
第 112 図	弥生土器実測図 (6)	160
第 113 図	弥生土器実測図 (7)	161
第 114 図	弥生土器実測図 (8)	162
第 115 図	弥生土器実測図 (9)	163
第 116 図	弥生土器実測図 (10)	164
第 117 図	ミニチュア土器実測図	165
第 118 図	須恵器実測図	173
第 119 図	土師器実測図 (1)	173
第 120 図	遺構出土 (SP) の須恵器・土師器実測図	174
第 121 図	土師器実測図 (2)	174
第 122 図	カマド実測図	175
第 123 図	製塩土器実測図 (1)	176
第 124 図	製塩土器実測図 (2)	176
第 125 図	黒色土器・陶磁器実測図	176
第 126 図	瓦質土器実測図	177
第 127 図	土製品実測図 (1)	181
第 128 図	土製品実測図 (2)	182
第 129 図	土製品実測図 (3)	183

第 130 图	石器・石製品実測图 (1)	186
第 131 图	石器・石製品実測图 (2)	187
第 132 图	石器・石製品実測图 (3)	188
第 133 图	石器・石製品実測图 (4)	189
第 134 图	石器・石製品実測图 (5)	190
第 135 图	石器・石製品実測图 (6)	191
第 136 图	石器・石製品実測图 (7)	199
第 137 图	石器・石製品実測图 (8)	200
第 138 图	石器・石製品実測图 (9)	201
第 139 图	石器・石製品実測图 (10)	202
第 140 图	石器・石製品実測图 (11)	204
第 141 图	石器・石製品実測图 (12)	205
第 142 图	石器・石製品実測图 (13)	206
第 143 图	石器・石製品実測图 (14)	207
第 144 图	石器・石製品実測图 (15)	208
第 145 图	石器・石製品実測图 (16)	209
第 146 图	石器・石製品実測图 (17)	210
第 147 图	石器・石製品実測图 (18)	212
第 148 图	石器・石製品実測图 (19)	212
第 149 图	石器・石製品実測图 (20)	213
第 150 图	石器・石製品実測图 (21)	214
第 151 图	石器・石製品実測图 (22)	215
第 152 图	石器・石製品実測图 (23)	216
第 153 图	石器・石製品実測图 (24)	217
第 154 图	石器・石製品実測图 (25)	222
第 155 图	石器・石製品実測图 (26)	223
第 156 图	石器・石製品実測图 (27)	224
第 157 图	石器・石製品実測图 (28)	225
第 158 图	石器・石製品実測图 (29)	226
第 159 图	石器・石製品実測图 (30)	227
第 160 图	石器・石製品実測图 (31)	228
第 161 图	石器・石製品実測图 (32)	229
第 162 图	石器・石製品実測图 (33)	230
第 163 图	石器・石製品実測图 (34)	231
第 164 图	石器・石製品実測图 (35)	232
第 165 图	石器・石製品実測图 (36)	233
第 166 图	石器・石製品実測图 (37)	234
第 167 图	石器・石製品実測图 (38)	235
第 168 图	石器・石製品実測图 (39)	236
第 169 图	石器・石製品実測图 (40)	237
第 170 图	石器・石製品実測图 (41)	238
第 171 图	石器・石製品実測图 (42)	239
第 172 图	石器・石製品実測图 (43)	240
第 173 图	石器・石製品実測图 (44)	241

第 174 図	石器・石製品実測図 (45)	242
第 175 図	石器・石製品実測図 (46)	243
第 176 図	石器・石製品実測図 (47)	244
第 177 図	石器・石製品実測図 (48)	245
第 178 図	石器・石製品実測図 (49)	249
第 179 図	石器・石製品実測図 (50)	250
第 180 図	石器・石製品実測図 (51)	251
第 181 図	石器・石製品実測図 (52)	252
第 182 図	石器・石製品実測図 (53)	254
第 183 図	石器・石製品実測図 (54)	255
第 184 図	石器・石製品実測図 (55)	256
第 185 図	石器・石製品実測図 (56)	257
第 186 図	石器・石製品実測図 (57)	258
第 187 図	石器・石製品実測図 (58)	259
第 188 図	石器・石製品実測図 (59)	260
第 189 図	石器・石製品実測図 (60)	261
第 190 図	石器・石製品実測図 (61)	262
第 191 図	鉄製品実測図	264
第 192 図	木製品実測図	264
第 193 図	試料採取場所位置図 (20・21 - 2 区)	269

表 目 次

第1表	縄文時代土坑一覽	30
第2表	弥生時代～古代・中世土坑一覽	40
第3表	縄文土器観察表	121～152
第4表	弥生土器観察表	165～171
第5表	須恵器・土師器ほか観察表	177～180
第6表	土製品観察表	184、185
第7表	石器・石製品観察表(1)	191～198
第8表	石器・石製品観察表(2)	202、203
第9表	石器・石製品観察表(3)	203
第10表	石器・石製品観察表(4)	209
第11表	石器・石製品観察表(5)	211
第12表	石器・石製品観察表(6)	213
第13表	石器・石製品観察表(7)	218
第14表	礫器組成表	219
第15表	石器・石製品観察表(8)	220、221
第16表	石器・石製品観察表(9)	233
第17表	石器・石製品観察表(10)	234
第18表	石器・石製品観察表(11)	236
第19表	石器・石製品観察表(12)	246～248
第20表	石器・石製品観察表(13)	253
第21表	石器・石製品観察表(14)	254
第22表	石器・石製品観察表(15)	257
第23表	石器・石製品観察表(16)	257
第24表	石器・石製品観察表(17)	260
第25表	石器・石製品観察表(18)	263
第26表	鉄製品観察表	264
第27表	木製品観察表	264
第28表	試料採取土層対照表	269

図 版 目 次

- 図版1 発掘調査範囲
- 図版2 上：遺跡完掘状況（縄文～弥生）
下：遺跡完掘状況（縄文）
- 図版3 上：遺跡全景（南東から）
下：遺跡全景（北東から）
- 図版4 上：20・21-1区完掘状況（南東から）
下：20・21-3区完掘状況
- 図版5 上：20・21-2区完掘状況（弥生）
下：20・21-2区完掘状況（縄文）
- 図版6 上：20・21-1区調査前状況（南東から）
中：20・21-2区調査前状況（東から）
下：20・21-3区調査前状況（東から）
- 図版7 上：20・21-1区礫検出状況（北から）
下：20・21-1区礫検出状況（北から）
- 図版8 上：20・21-2区礫検出状況（北から）
下：20・21-2区礫検出状況（北から）
- 図版9 上：20・21-3区礫検出状況（弥生～古代）
（北東から）
下：20・21-3区礫検出状況（縄文～弥生）
（北東から）
- 図版10 上：20・21-3区遺構面（縄文）完掘状況
（北東から）
中左：柱穴群完掘状況（1）（北から）
中右：柱穴群完掘状況（2）（北東から）
下左：柱穴群完掘状況（3）（南東から）
下右：柱穴群完掘状況（4）（北東から）
- 図版11 左1：SK14完掘状況（南から）
右1：SK27完掘状況（北から）
左2：SK15土器出土状況（東から）
右2：SK16・17完掘状況（北から）
左3：SK22礫検出状況（東から）
右3：SK22完掘状況（東から）
左4：SK24・25土器出土状況（東から）
右4：SK24・25完掘状況（東から）
- 図版12 上：SK30ドングリ出土状況（南東から）
下：SK30ドングリ出土状況（部分 南東から）
- 図版13 左1：SK30（南東から）
右1：SK30（南東から）
左2：SK28完掘状況（南から）
右2：SK29完掘状況（南から）
左3：SK23ドングリ出土状況（南東から）
右3：SK23ドングリ出土状況（部分 南東から）
左4：SK34ドングリ出土状況（南から）
右4：SK34ドングリ出土状況（部分 東から）
- 図版14 上：SK20土層断面（南東から）
下：SK20完掘状況（南東から）
- 図版15 上：SK35礫検出状況（南から）
下：SK35ドングリ出土状況（南から）
- 図版16 左1：SK33・35土層断面（北西から）
右1：SK33完掘状況（南から）
左2：SK18完掘状況（北西から）
右2：SK19ドングリ出土状況（北西から）
左3：SK31・32検出状況（北東から）
右3：SK31・32完掘状況（北東から）
左4：SK21完掘状況（南東から）
右4：SK36完掘状況（北西から）
- 図版17 上：SK10土器出土状況（西から）
中：SK10土器出土状況（部分 西から）
下：SK10完掘状況（西から）
- 図版18 左1：SK12完掘状況（南東から）
右1：SK1完掘状況（北東から）
左2：SK3完掘状況（北東から）
右2：SK群完掘状況（東から）
左3：SK 7完掘状況（北東から）
右3：SK・SP完掘状況（南東から）
左4：SK11完掘状況（西から）
右4：SK13完掘状況（西から）
- 図版19 上：20・21-1区遺構面（古代）完掘状況
（北から）
下：20・21-2区遺構面（古代）完掘状況
（北から）
- 図版20 上：20・21-1区柱穴完掘状況（北東から）
中：20・21-2区柱穴完掘状況（北から）
下：20・21-3区柱穴完掘状況（東から）
- 図版21 上：20・21-2区湿地跡（古代）検出状況
（北から）
中：20・21-2区湿地跡（古代）検出状況
（北から）
下：20・21-2区杭出土状況（北から）
- 図版22 上：20・21-2区湿地跡（弥生）検出状況
（北から）
中：20・21-2区湿地跡（弥生）内自然木

- 検出状況(北から)
下: 20・21-2区湿地跡(弥生)内自然木
検出状況(東から)
- 図版23 上: 20・21-2区遺構面(縄文)完掘状況
(北から)
下: 20・21-2区遺構面(縄文)完掘状況
(北東から)
- 図版24 上: 20・21-2区完掘状況(北西から)
中左: 20・21-2区完掘状況(北東から)
中右: 20・21-2区完掘状況(南東から)
下左: 自然流木検出状況(北東から)
下右: 自然流木検出状況(北西から)
- 図版25 左1: 土層P'-P北半部(北から)
右1: 土層N'-N(北西から)
左2: 20・21-2区東半部土層断面(北西から)
右2: 土層Q-Q'(北東から)
左3: 土層M'-M、L'-L(北西から)
右3: 土層Q-Q'西半部(北東から)
左4: 土層R-R'(北東から)
右4: 土層K'-K南半部(北西から)
- 図版26 左1: 土層O'-O(部分 南西から)
右1: 土層O'-O(拡大 南西から)
左2: 土層H'-H北半部(北西から)
右2: 土層H'-H南半部(西から)
左3: 土層C'-C(南東から)
右3: 土層F'-F、G'-G(南から)
左4: 土層I-I'(南東から)
右4: 20・21-1区湿地跡(縄文)(南西から)
- 図版27 左1: 土層D'-D(縄文)(南西から)
右1: 土層H'-H湿地跡部分(北西から)
左2: 土層T-T'(遺構面まで)(南東から)
右2: 土層S-S'(北東から)
左3: 土層U-U'(北東から)
右3: 遺構面下掘り下げ部分(北東から)
左4: 土層S-S'(遺構面下)(北東から)
右4: 土層T-T'(遺構面下)(南東から)
- 図版28 左1: 20・21-1区石斧出土状況(東から)
右1: 20・21-1区石皿出土状況(南から)
左2: 20・21-1区弥生土器出土状況(東から)
右2: 20・21-2区土師器出土状況(東から)
左3: 20・21-2区石錘出土状況(北から)
右3: 20・21-2区土師器出土状況(西から)
左4: 20・21-2区土錘出土状況(西から)
右4: 20・21-2区土師器出土状況(西から)
- 図版29 左1: 20・21-2区弥生土器出土状況(東から)
右1: 20・21-2区縄文土器出土状況
(北東から)
左2: 20・21-2区弥生土器出土状況
(東から)
右2: 20・21-2区縄文土器出土状況(北から)
左3: 20・21-2区弥生土器出土状況
(南東から)
右3: 20・21-2区黒曜石石核出土状況
(北から)
左4: 20・21-3区須恵器出土状況(北から)
右4: 20・21-3区石錘出土状況(東から)
- 図版30 左1: 20・21-3区縄文土器出土状況(北から)
右1: 20・21-3区縄文土器出土状況(北から)
左2: 20・21-3区黒曜石石核出土状況
(東から)
右2: 20・21-3区黒曜石石核出土状況
(南から)
左3: 20・21-3区石斧出土状況(東から)
右3: 20・21-3区石匙出土状況(北から)
左4: 20・21-3区石匙出土状況(西から)
右4: 20・21-3区黒曜石石核出土状況
(南から)
- 図版31 縄文土器(1)
図版32 縄文土器(2)
図版33 縄文土器(3)
図版34 縄文土器(4)
図版35 縄文土器(5)
図版36 縄文土器(6)
図版37 縄文土器(7)
図版38 縄文土器(8)
図版39 縄文土器(9)
図版40 縄文土器(10)
図版41 縄文土器(11)
図版42 縄文土器(12)
図版43 縄文土器(13)
図版44 縄文土器(14)
図版45 縄文土器(15)
図版46 縄文土器(16)
図版47 縄文土器(17)
図版48 縄文土器(18)
図版49 縄文土器(19)
図版50 縄文土器(20)
図版51 縄文土器(21)

- 図版52 縄文土器 (22)
- 図版53 縄文土器 (23)
- 図版54 縄文土器 (24)
- 図版55 縄文土器 (25)
- 図版56 縄文土器 (26)
- 図版57 縄文土器 (27)
- 図版58 縄文土器 (28)
- 図版59 縄文土器 (29)
- 図版60 縄文土器 (30)
- 図版61 縄文土器 (31)
- 図版62 縄文土器 (32)
- 図版63 縄文土器 (33)
- 図版64 縄文土器 (34)
- 図版65 縄文土器 (35)
- 図版66 縄文土器 (36)
- 図版67 縄文土器 (37)
- 図版68 縄文土器 (38)
- 図版69 縄文土器 (39)
- 図版70 縄文土器 (40)
- 図版71 縄文土器 (41)
- 図版72 縄文土器 (42)
- 図版73 縄文土器 (43)
- 図版74 縄文土器 (44)
- 図版75 縄文土器 (45)
- 図版76 縄文土器 (46)
- 図版77 縄文土器 (47)
- 図版78 縄文土器 (48)
- 図版79 縄文土器 (49)
- 図版80 縄文土器 (50)
- 図版81 弥生土器 (1)
- 図版82 弥生土器 (2)
- 図版83 弥生土器 (3)
- 図版84 弥生土器 (4)
- 図版85 弥生土器 (5)
- 図版86 弥生土器 (6)
- 図版87 弥生土器 (7)
- 図版88 弥生土器 (8)
- 図版89 土師器 (1)・須恵器 (1)
- 図版90 土師器 (2)・須恵器 (2)
- 図版91 土師器 (3)
- 図版92 製塩土器
- 図版93 黒色土器・陶磁器・瓦質土器
- 図版94 土製品 (1)
- 図版95 土製品 (2)
- 図版96 石器・石製品 (1)
- 図版97 石器・石製品 (2)
- 図版98 石器・石製品 (3)
- 図版99 石器・石製品 (4)
- 図版100 石器・石製品 (5)
- 図版101 石器・石製品 (6)
- 図版102 石器・石製品 (7)
- 図版103 石器・石製品 (8)
- 図版104 石器・石製品 (9)
- 図版105 石器・石製品 (10)
- 図版106 石器・石製品 (11)
- 図版107 石器・石製品 (12)
- 図版108 石器・石製品 (13)
- 図版109 石器・石製品 (14)
- 図版110 石器・石製品 (15)
- 図版111 石器・石製品 (16)
- 図版112 石器・石製品 (17)
- 図版113 石器・石製品 (18)
- 図版114 石器・石製品 (19)
- 図版115 石器・石製品 (20)
- 図版116 石器・石製品 (21)
- 図版117 石器・石製品 (22)
- 図版118 石器・石製品 (23)
- 図版119 石器・石製品 (24)
- 図版120 石器・石製品 (25)
- 図版121 石器・石製品 (26)
- 図版122 石器・石製品 (27)
- 図版123 石器・石製品 (28)
- 図版124 石器・石製品 (29)
- 図版125 石器・石製品 (30)
- 図版126 石器・石製品 (31)
- 図版127 石器・石製品 (32)
- 図版128 石器・石製品 (33)
- 図版129 石器・石製品 (34)
- 図版130 石器・石製品 (35)
- 図版131 石器・石製品 (36)
- 図版132 石器・石製品 (37)
- 図版133 石器・石製品 (38)
- 図版134 鉄製品・木製品
SK30切り取り作業・土壌試料採取
作業風景

I 遺跡の位置と環境

田ノ浦遺跡は熊毛郡上関町大字長島字田ノ浦地内に所在する(第1図参照)。長島は、山口県南東部より瀬戸内海に突き出す室津半島の先端から、南西方向に伸びるように位置している。この島は、室津半島の脊梁を貫く大星山・皇座山からなる山脈から派生する支脈の一つである。連山状の景観を持ち大部分が山地であるが、臨海部に小規模な平地が点在し、そこに人口の集中がみられる。遺跡は長島最西端の入江に位置しており、周囲を急峻な山に囲まれている。遺跡の立地する狭小な地形は、縄文時代には汀線に沿って堆積した浜堤及びその背面での山側からの土砂流入によって生じた湿地によって構成されていたと考えられ、現在は小規模な扇状地としてとらえられる。

田ノ浦遺跡(1)は縄文時代から中世にかけての遺物が出土した。数量で見ると縄文時代のものが圧倒的に多く、また、縄文遺跡としては今のところ上関町内唯一である。近隣の縄文時代の遺跡としては、室津半島西岸に著名な岩田遺跡(13)がある。室津半島沿岸部には、他にも西岸に尾国遺跡(11)・浜崎遺跡(15)、東岸に与浦遺跡(12)・宮田遺跡(22)・黒島浜遺跡(23)がある。いずれも田ノ浦遺跡と同様な立地で、小さな入江に面した浜堤および小扇状地にあり、与浦遺跡など海水面下にも遺物包含層を持つ遺跡が確認されている。これらの遺跡の出土遺物は前期から晩期に及ぶが、後期のものが多く、この時期に定着的な居住化が進んだと思われる。遺物には石鏃や石錘などが見られ、狩猟・漁猟により生活の糧を得ていたのであろう。また、岩田遺跡からは、晩期の層ではドングリの貯蔵穴群が見つかっている。今回の調査で田ノ浦遺跡からもドングリの貯蔵穴群が発見されており、この地域では木の実の採集も盛んであったことがうかがえる。

弥生時代の遺跡としては、まず先にあげた岩田遺跡や尾国遺跡があげられる。両遺跡からは前期の土器が出土している。また、大星山の東側山麓、標高約60~220mには前期末から後期にかけての遺物包含地が点在する。縄文遺跡が海岸線一帯に分布するのに対し、稲作の発展により、室津半島の居住区域がより広範囲に拡大していったとみられる。八島の山麓部には三浦遺跡(2)が、祝島の山腹部にはカタイ遺跡(4)・山惣津遺跡(5)があり、中期の遺物包含層を有する。これらの遺跡は眺望が開けた立地下にあり、海上交通に対する見張りのな役割が想起される。また、弥生後期の遺跡として、室津半島基部に近い標高286mの稜線上に吹越遺跡(18)がある。農耕には不適な立地であり、武器である鉄鏃や鉄製品と共に大量の炭化米が出土したことから、軍事的機能を持つ高地性集落と考えられている。弥生期後半、この地域に社会的緊張が生じていた証左となろう。

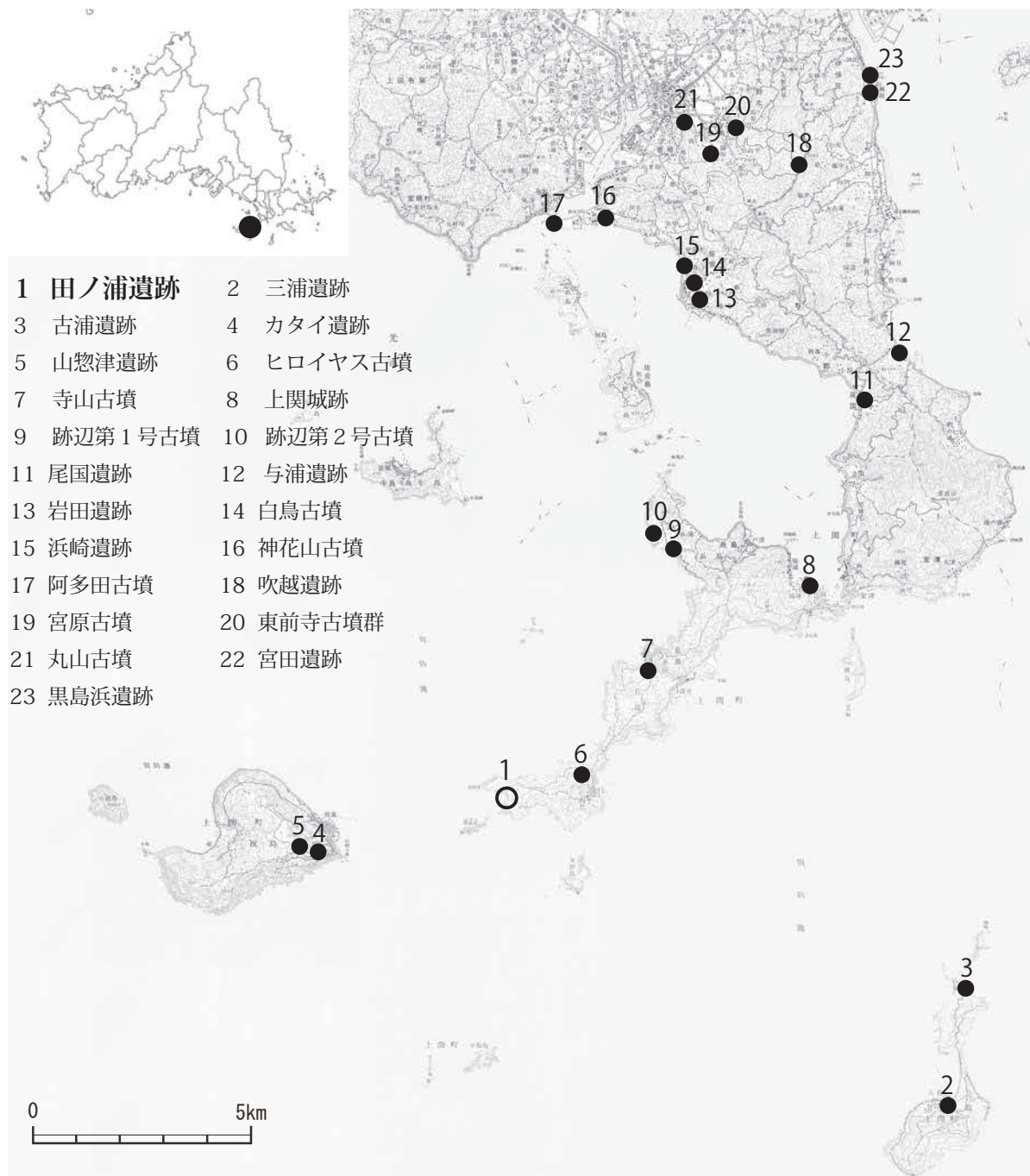
古墳時代に入ると、5世紀には室津半島の基部に白鳥古墳(14)・神花山古墳(16)・阿多田古墳(17)などの前方後円墳が現れる。特に白鳥古墳は全長約120mの県下最大規模であり、この地に畿内勢力と結び付き、瀬戸内海の要所に勢威を奮った首長がいたことを裏付けている。古墳時代後期には、古墳の小型化・群集化が顕著となり、室津半島の大野南地区はその典型で、東前寺古墳群(20)や丸山古墳(21)などが密集する。ここが広い可耕地であったことから、農業発展に伴い、この地域に住む階層の社会的成長があったと思われる。上関町内にもヒロイヤス古墳(6)、寺山古墳(7)、跡辺古墳群(9・10)などがあり、地域基盤を基に成長した有力者がいたことがうかがえる。また八島の古浦遺跡(3)からは土師器の包含層が見つかっている。

古代には、上関は瀬戸内航路の主要な泊まりとしての地位を占めており、祝島は『万葉集』に収録されている遣新羅使の詠んだ歌に登場している。平安時代に入ると、矢島（八島）と竈戸関（上関）が伊保庄・柱島と共に、山城国賀茂別雷神社の社領になったことが古文書から確認できる。

中世、上関一帯は海賊衆の活動が著しかったことが様々な文献に記され、戦国時代には村上水軍活躍の舞台となった。長島北東端の城山には、その拠点となった上関城（8）がある。

参考文献

上関町史編纂委員会『上関町史』1988、平生町史編纂委員会『平生町史』1978、柳井市史編纂委員会『柳井市史（通史編）』1984、山口県史編さん委員会『山口県史（資料編 考古1）』2000、小野忠雄『山口県の考古学』1985、宮田伊津美『図説 岩国・柳井の歴史』2005、山口県埋蔵文化財センター『田ノ浦遺跡』2007、山口県教育委員会『岩田遺跡』1954、同『柳井市与浦遺跡』1974、柳井市教育委員会『黒島浜遺跡』1977、平生町教育委員会『高地性集落 吹越遺跡』1972、山口県教育財団『上関城跡』1999



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

Ⅱ 調査の経緯と経過

1 調査に至る経緯(第2、3図 図版1)

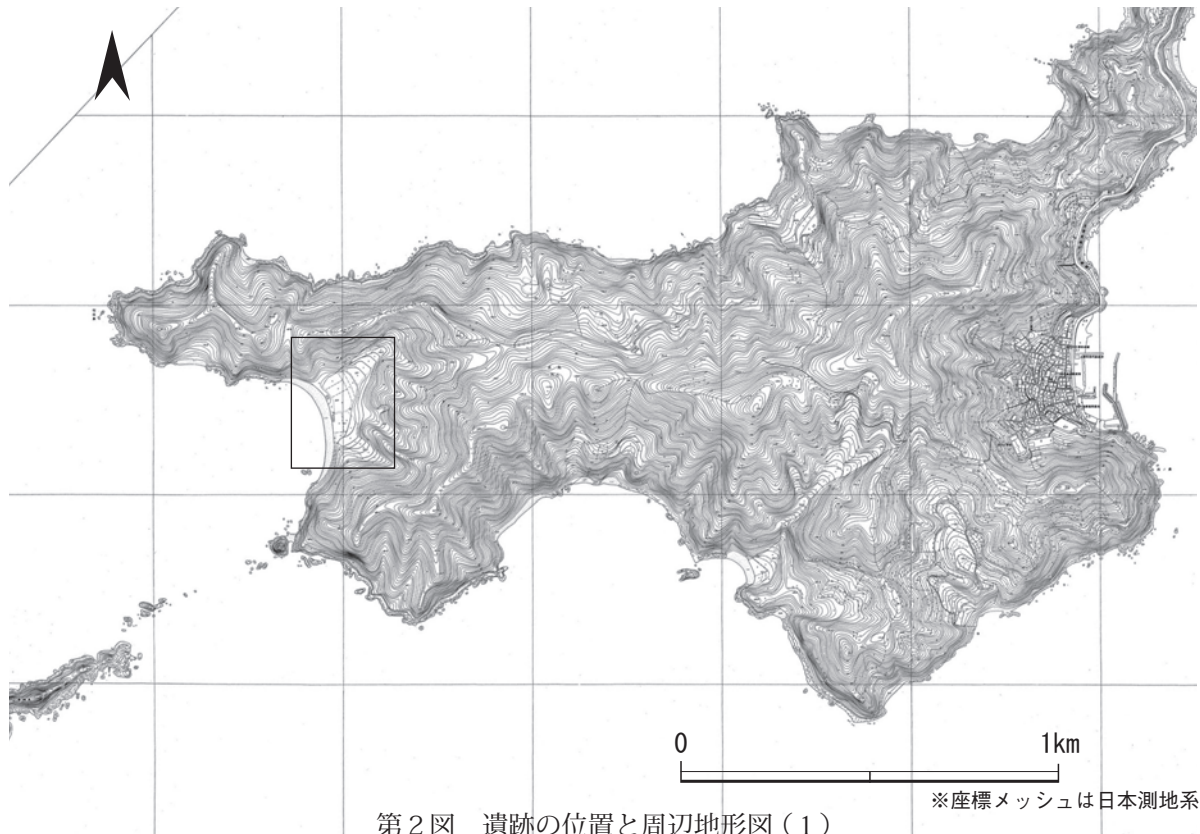
田ノ浦遺跡は中国電力株式会社が建設を計画している上関原子力発電所予定地内に所在する遺跡である。平成17・18年度には原子力発電所建設に伴う詳細調査工事に関連して、山口県ひとつくり財団・山口県埋蔵文化財センターが2,000㎡について発掘調査を実施し、その成果は『田ノ浦遺跡』(2007)として調査報告書が刊行されている。

今回中国電力株式会社は、新たに原子力発電所準備工事を計画したことから、前回と同様に工事予定地内における埋蔵文化財の有無について、平成20年4月18日付けで上関町教育委員会に照会した。町教育委員会はこれを受けて山口県教育委員会と協議の結果、前回調査地の隣接部分であることから試掘調査が必要と判断され、予定地内の試掘調査を県教育委員会が実施することとなった。試掘調査は同年5月26日～6月5日に行い、縄文土器などの遺物包含層が確認された。これを受けて中国電力株式会社は文化財保護法に基づき、埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等のための発掘届け出を7月29日付けで県教育委員会に提出した。県教育委員会は試掘調査の結果から予定地内の1,098㎡について、事前の発掘調査が必要である旨を8月12日付けで通知した。これにより発掘調査の実施について中国電力、町教育委員会、県教育委員会が協議を行った結果、平成20年度内に調査を開始することとし、調査は当センターが担当することとなった。

2 調査の経過(第4図 図版6)

調査対象地内には山側から海岸へ至る町道が位置するため、調査に伴い町道を付け替える仮設町道の設置が必要であり、また海岸側にあるN T T施設は平成21年7月に撤去予定であることなどから、対象地を一括して発掘調査を行うことが難しいため、調査区を3分割することとした。区名には調査年度を付して表記することとし、町道北側でN T T施設を含まない範囲を20・21-1区、N T T施設部分を20・21-3区、これ以外を20・21-2区とした(第4図)。

発掘調査は平成21年1月26日から調査を開始した。まず調査対象地のうち竹林となっている部分の伐採を行い、調査前の地形測量を行う。そののち20・21-1区より調査に取りかかる。まず重機による表土掘削ののち、人力による遺構検出を実施。試掘調査の結果から遺物包含層が何層にわたり堆積していることが予測されたため、慎重に掘り下げを行った結果、中央部分で安定した堆積土を基盤とした遺構面を確認した。上面からは古代須恵器などが散見されることから、古代遺構面と判断され、柱穴、土坑が確認された。なお一部中世に下る遺構遺物も認められた。この部分的な遺構面に相当する海岸側の層では、製塩土器片が出土したが、人頭大の礫を多く含む礫群が広がっており、製塩に伴う遺構は確認されなかった。この礫群には弥生土器、縄文土器が包含されており、高潮等に起因する二次堆積と判断される。礫群内に遺物を包含することから、礫の検出状況を図化、写真撮影を行いながら、徐々に掘り下げを行った。これらの遺物包含層は古代遺構面下では、弥生土器を中心に含む包含層と、縄文土器の包含層に大別される。包含層を掘り下げると旧浜堤とみられる堆積面があり、北東側に傾斜して湿地跡とみられる粘質シルト層が確認された。ここからは縄文土器片や黒曜石片が出土し、縄文期の湿地跡と判断された。なお掘り下げ面が深くなり最下面では湧水があるなど調査は困

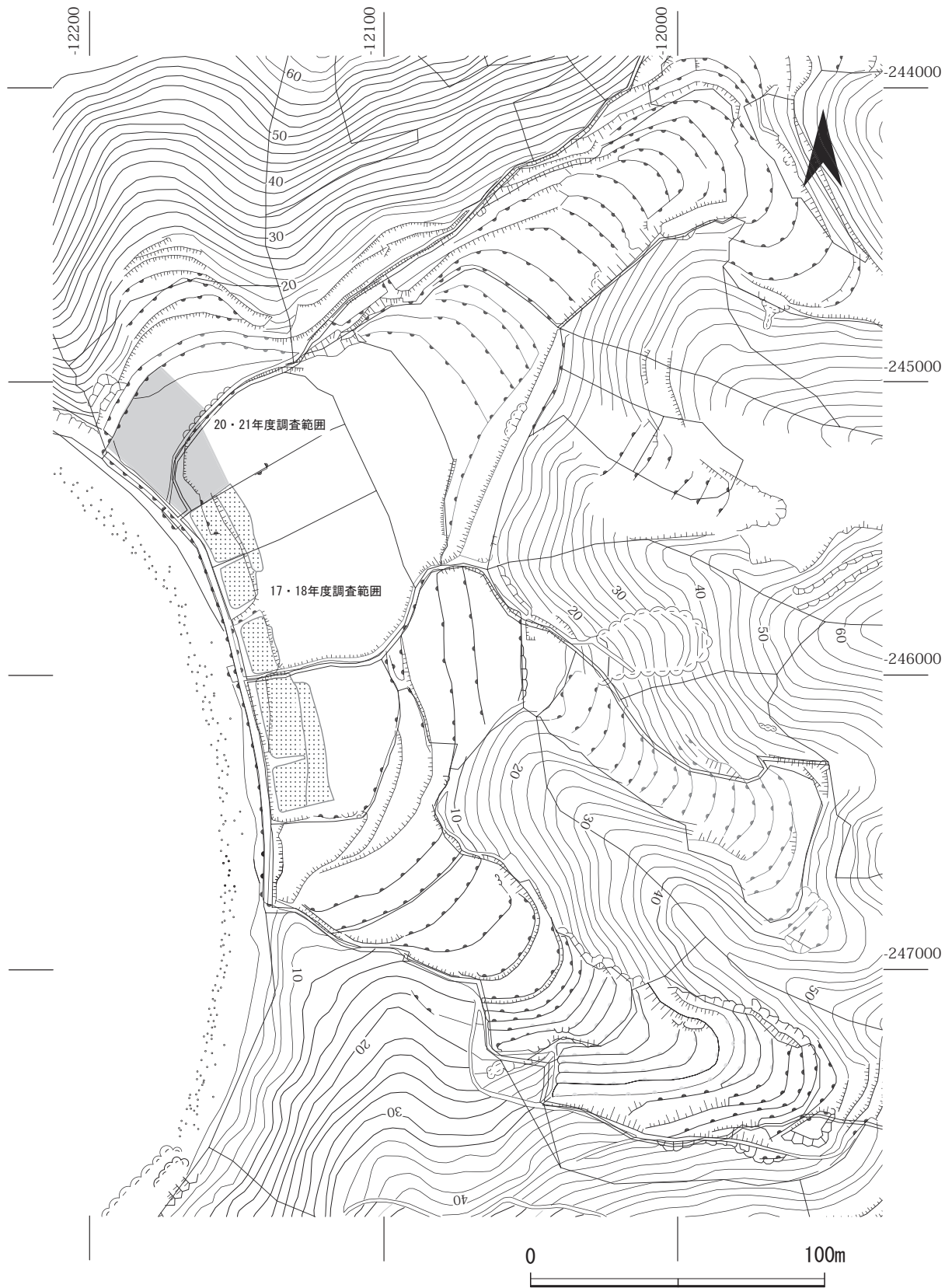


第2図 遺跡の位置と周辺地形図(1)

難を極めたが、階段掘りや調査壁面の安全勾配の確保等、安全に配慮して調査を実施した。1区は空中写真等の記録を取り、7月7日に調査を終了した。

7月13日からは3区の調査を開始。1区調査で得られた成果から重機により包含層上面まで掘削。その後1区と同様の礫群の広がりを確認した。これより上では古代製塩土器片やカマド片が出土したが、遺構は検出されていない。礫群は弥生を中心に包含する礫群1と縄文を包含する礫群2に分けられたことから、それぞれ記録保存を行い、礫群を除去した。これより下は比較的安定した浜堤砂層で、この面で縄文土器片が出土する柱穴を確認し、縄文時代のもものと判断した。遺構実測を行ったのち、この面で3区の空中写真を撮影を行う。

2区は7月6日から開始し、以後3区と並行して調査を実施した。重機による表土掘削後、間を置いて8月11日より人力による掘り込みを行う。2区は海岸側に浜堤の高まりがあり、北側にむかって緩やかに下っている。古代相当面では、1区の続きとみられる遺構面が検出され、ここに柱穴、土坑が確認された。さらに北東側では当時の湿地跡と杭跡が確認された。実測後これを掘り下げ、礫を多く含む弥生包含層および湿地跡を検出。弥生における明確な遺構および遺構面は確認できなかった。弥生包含層は旧地形にそって北東側に下っており、マンガンおよび鉄の沈着、硬化層が広範囲に認められた。この面を空中写真撮影ののち、これらを掘り下げると縄文包含層および縄文遺構面を検出。遺構面には土坑21基を確認し、このうち堅果類(ドングリ)貯蔵穴とみられるものが14基あり、内部にイチイガシなどの堅果類が出土した。この遺構面での状態を空中写真撮影等の記録保存を行う。これらの貯蔵穴は残存状況が良好ではないが、県内では平生町岩田遺跡につぐ検出例であることから、関係機関と協議の結果、今後の調査研究のために資料化することを目的として、遺構の切り取り・保存処理を行うこととなった。堅果類貯蔵穴のうち最も堅果類の残存状況が良好なSK30を選定し、施

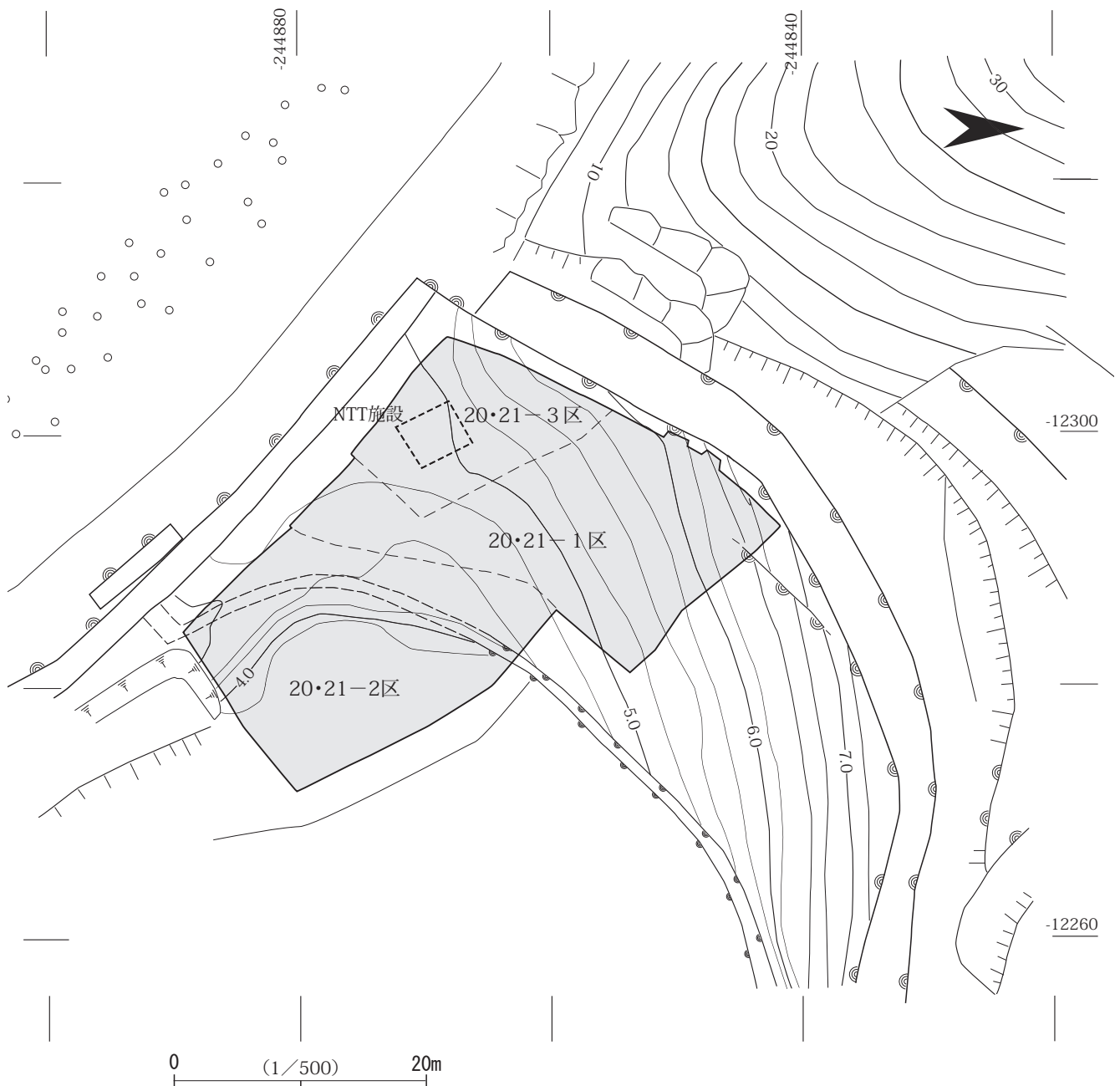


第3図 遺跡の位置と周辺地形図(2)

工は(財)元興寺文化財研究所が実施した(図版134)。この縄文遺構面より下層で少量の縄文土器片と多くの自然流木を含む湿地跡内堆積層が検出されたことから、部分的に掘り下げてその状況を確認した。その下は砂礫層(玉砂利など)で本来の浜堤の形成層で無遺物とみられることから、これを最下層とした。また最下層の確認は3区でも実施した。実測、写真等の記録保存ののち、遺跡の立地する地形の古環境を調査するため、自然科学分析用の土壌サンプルを採取し(図版134)、平成22年3月19日現地での調査を終了した。

4月25日には、四代地区公民館および上関町中央公民館で発掘調査の成果を公開する発掘調査報告会を上関町教育委員会とともに実施した。映像による遺跡の解説と出土遺物の展示を行い、多くの参加者があった。

現地調査終了後、平成22年度は、発掘調査で出土した大量の出土遺物の整理を行い、個々の実測、写真撮影等の資料化を進め、発掘調査報告書として本書を刊行するに至った。



第4図 調査範囲と調査区設定図

Ⅱ 調査の成果

1 調査の概要

(1) 20・21－1区(第5～8図 図版4)

20・21－1区(以下1区と称す)は南から試掘トレンチ(試掘時に掘削したもので、調査時には土層観察に流用)、中央トレンチ、調査区北端の東トレンチを設定し、このトレンチの調査結果や土層観察を行いながら、堆積土の掘り込みを行った。以下、各時代の概要と各土層断面について説明する。

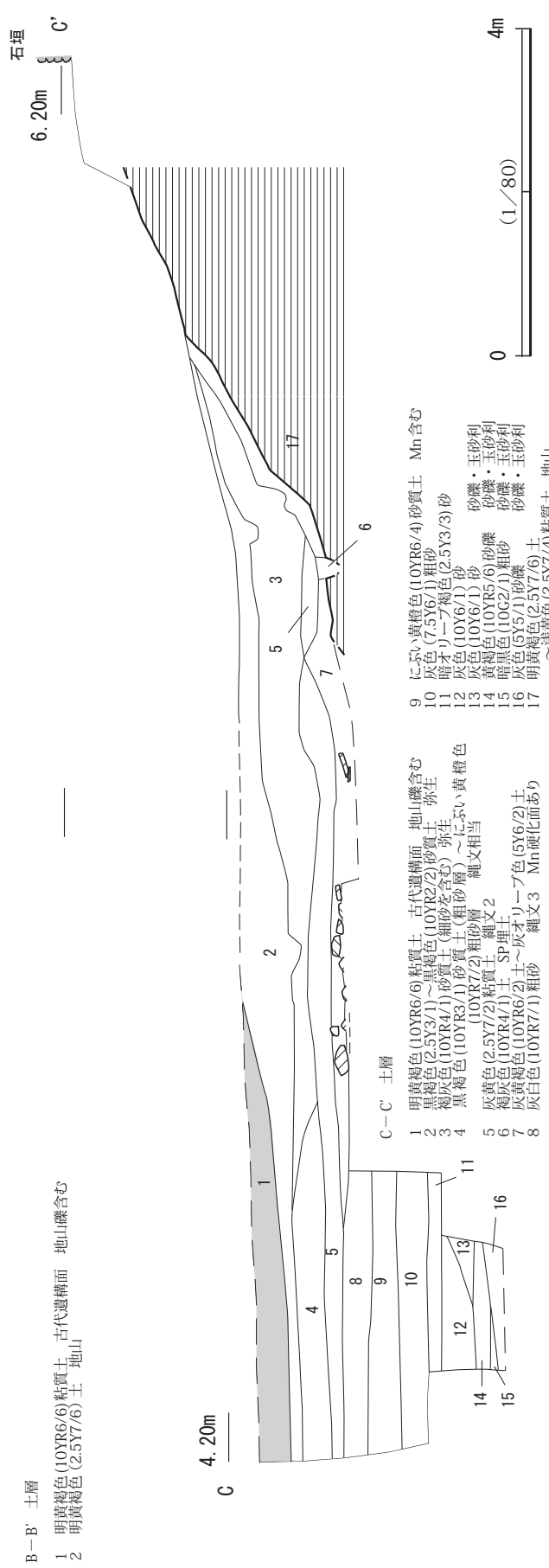
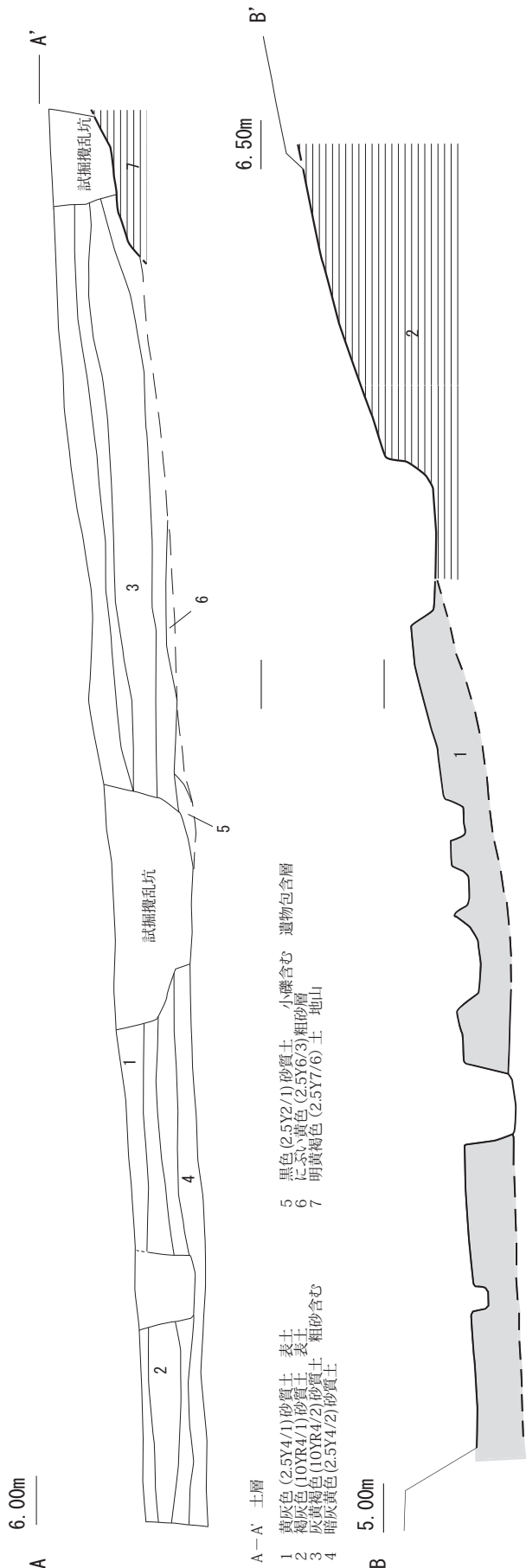
古代(第6図 図版19) 調査区中央に標高4mで地山礫を含む明黄褐色粘質土が、最大60cmの厚さで堆積していた。地山礫を含んでおり、調査区西側の丘陵谷部から流出した安定した堆積土を基盤として、遺構面を構築しているとみられる(第6図ドット範囲)。この遺構面からは柱穴、土坑が確認された。この堆積層を境に、これより上層は古代、または古代～中世の遺物を含む包含層が堆積する。古代遺構面は海岸側に向かって厚さが薄くなり、礫群が広がるあたりから確認できなくなるが、古代遺構面当層(礫群の上面)で製塩土器が出土したSK10が検出されたことから、海岸側にも古代遺構面が存在する可能性がある。ただ礫群上面は古代須恵器、土師器、製塩土器、弥生土器、縄文土器が混在することから、高潮等による攪乱を受けているとみられ、明確な遺構は他に認められない。調査区の北西側は花崗岩風化土の地山からなる急峻な丘陵が迫っているが、この地山面に柱穴群を検出した。遺物がないため、時期は不明であるが、層序から古代以降とみられる。

弥生(第6図) 古代遺構面および古代遺物包含層を除去した面で、調査区の南半全体に礫群が検出された。これらの礫群は高潮などの浸食・攪乱によるものとみられ、礫群内には弥生土器を中心とする遺物包含層を形成している。出土する弥生土器はその多くが弥生時代前期から中期初にかけてのものである。遺構は確認されていないが、北西側斜面に弥生土器がまとまって出土した範囲があることから、丘陵裾部に遺構が存在した可能性がある。

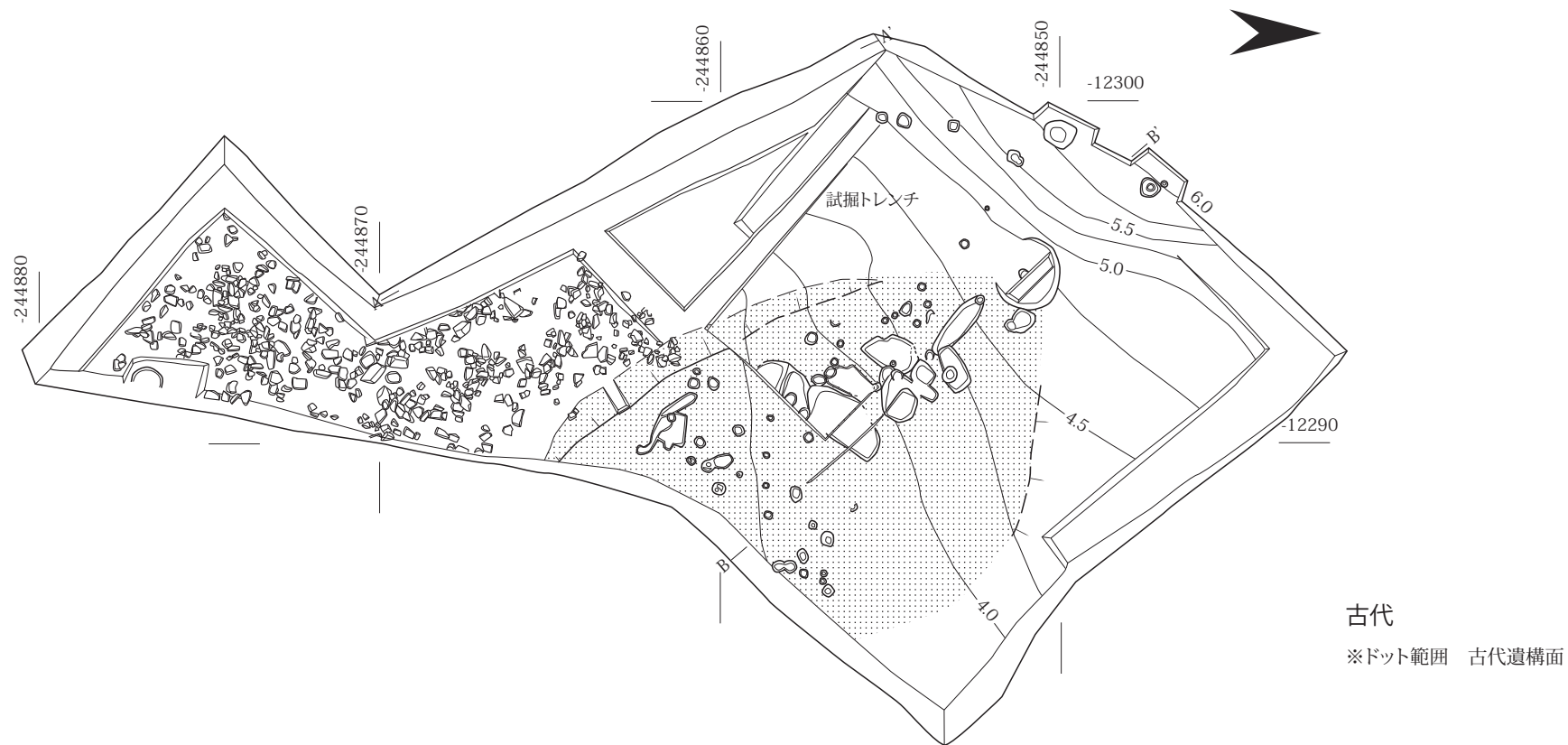
縄文(第7図 図版7) 弥生遺物包含層の下には縄文遺物包含層が堆積していた。この縄文遺物包含層は土層H-H'の土層観察により、土質から大きく2層に分けられる。上層は黒色系の粗砂土で、縄文土器とともに大型の礫を多く含んでいる。上層は土色の違いからさらに2層に分層されることから、上から「縄文」、「縄文2」とし、下層の黄色または黄褐色系の粗砂層は「縄文3」としてそれぞれ遺物の取り上げを行った。これら3層には前期から晩期の土器が包含され、その中心は後期土器である。またマンガンまたは鉄分の沈着、硬化面がブロック状に入り込むのが特徴である。第7図はこの縄文包含層を掘り下げたもので、「縄文3」下は北東に向かって低くなり、湧水のある粘質シルト層へとつながる。この粘質シルト層は当初の浜堤に対応する後背湿地とみられ、縄文土器片や黒曜石剥片を含んでいる。遺物包含層以外の縄文時代遺構は、わずかに試掘トレンチから山側斜面にかけて、柱穴が1個確認されたのみである。

土層A-A'(第5図) 1区南壁で、表土から古代遺構面までの土層。表土下は古代を中心とする遺物包含層である。

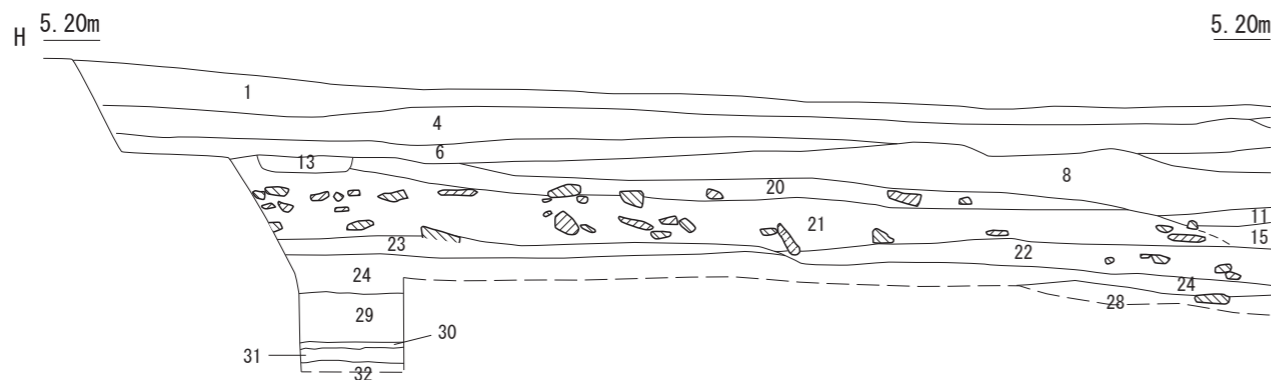
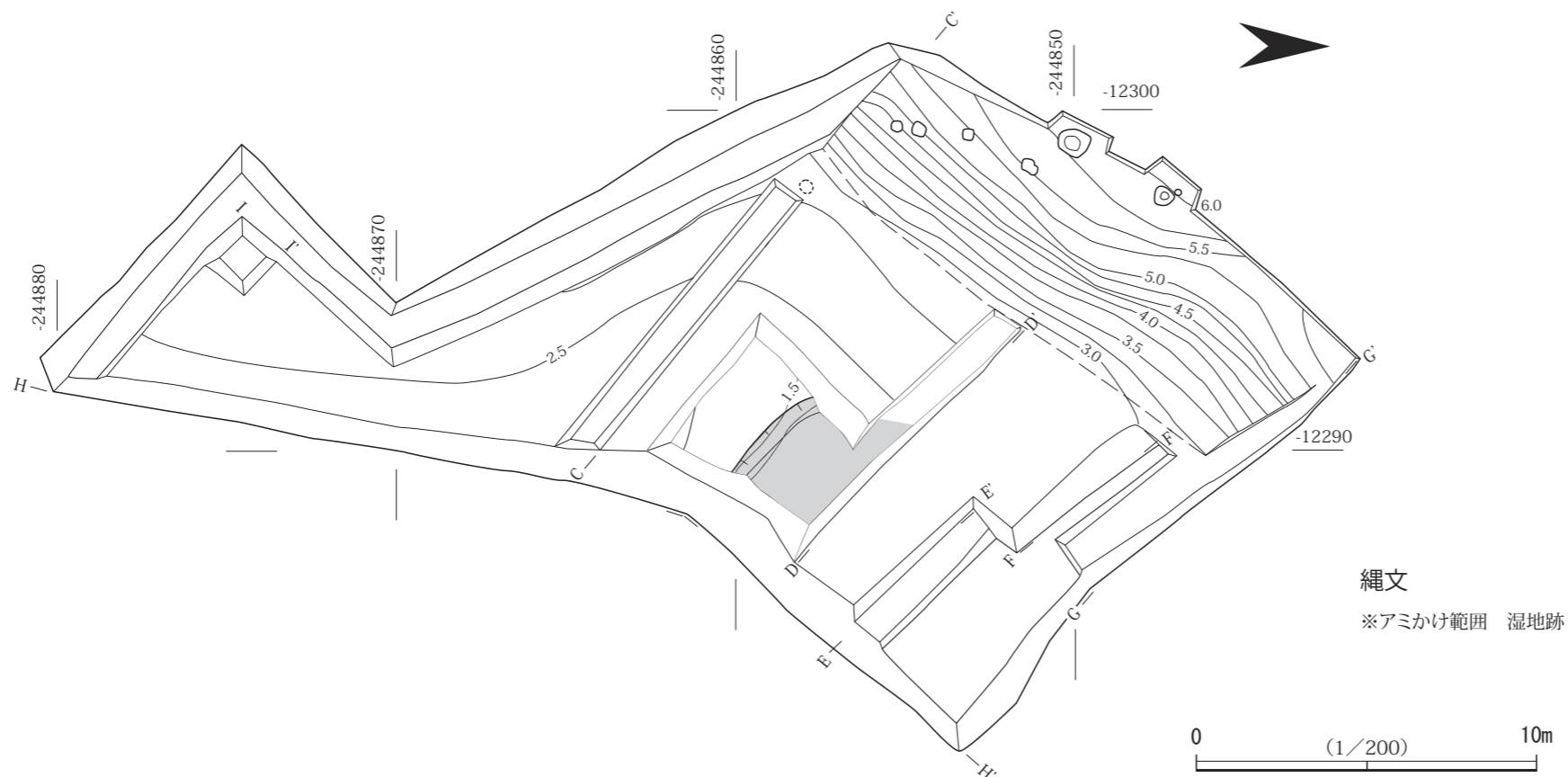
土層B-B'(第5図) 古代遺構面のほぼ中央断面で、厚さは約60cm。地山礫を含む黄褐色粘質土で、西側谷部から扇形に堆積している。



第5図 20・21-1区土層断面図(1)



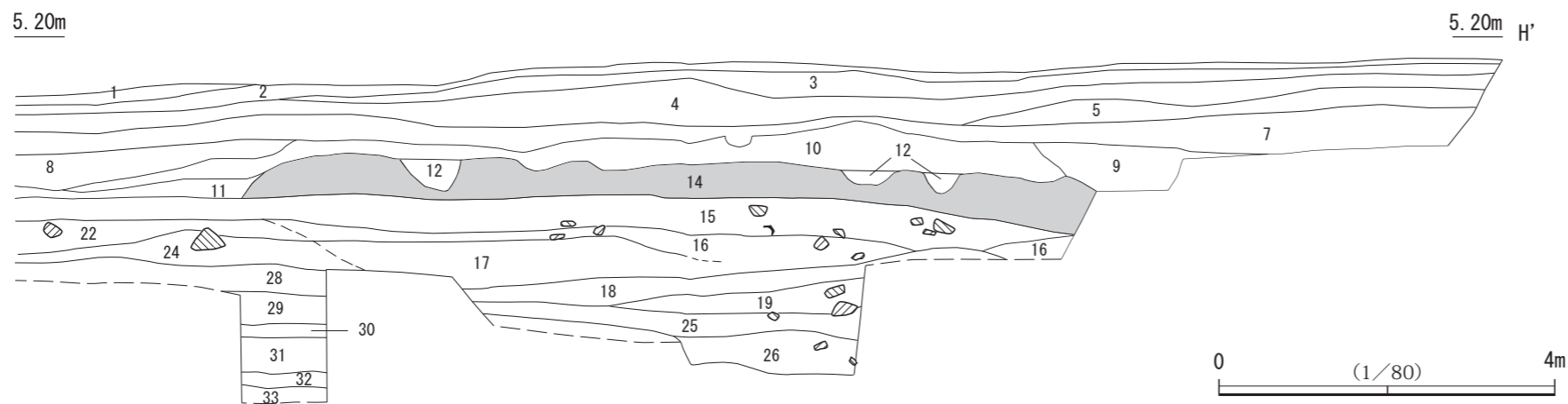
第6図 20・21 - 1区遺構配置図(1)



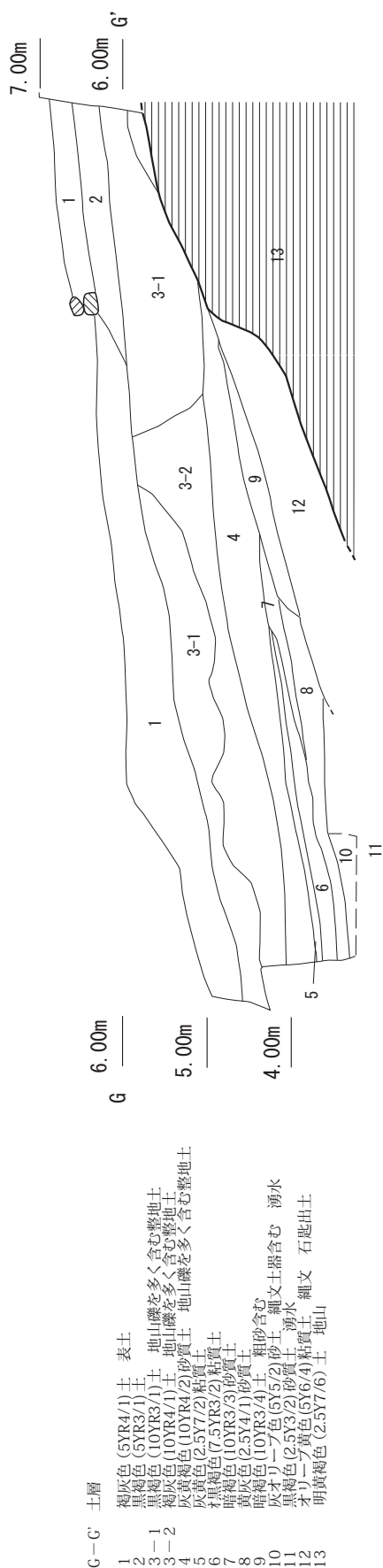
H-H' 土層

- 1 表土
- 2 灰黄色(2.5Y6/2)砂質土
- 3 にぶい黄色(2.5Y6/3)土
- 4 黄褐色(10YR5/6)砂質土
- 5 暗灰黄色(2.5Y5/2)土
- 6 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
- 7 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土 古代
- 8 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂礫(粗砂・円礫) 古代
- 9 灰オリーブ色(5Y5/2)砂質土 礫多含む 谷部客土
- 10 黄灰色(2.5Y4/1)砂質土 古代包含層
- 11 オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土
- 12 S P埋土 黄灰色(2.5Y4/1)土
- 13 S K 10埋土 黒褐色(10YR3/2)砂質土
- 14 明黄褐色(10YR6/6)粘質土 古代遺構面 地山礫含む
- 15 黒褐色(10YR2/2)砂質土 弥生
- 16 にぶい黄褐色(10YR7/3)粗砂 弥生
- 17 灰白色(10YR7/1)粗砂 Mn硬化ブロック 弥生

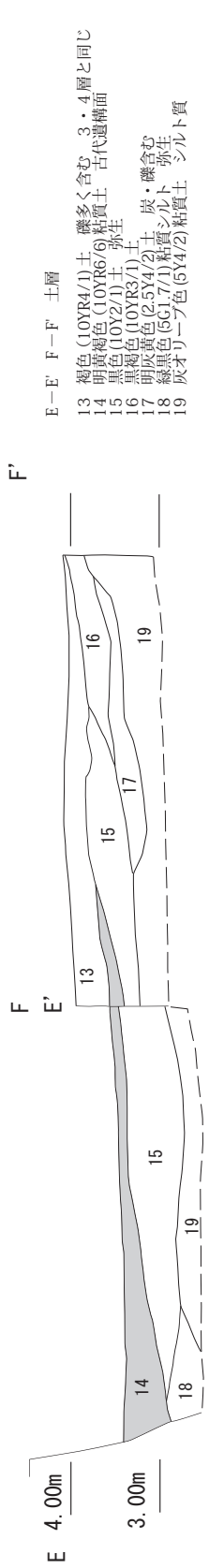
- 18 明オリーブ灰色(5GY7/1)粗砂 弥生~縄文
- 19 灰色(N4/)シルト 粗砂含む 縄文
- 20 黒褐色(10YR2/2)砂~砂質土 弥生
- 21 黒色(10YR2/1)細砂~粗砂 縄文
- 22 にぶい黄褐色(10YR7/2)粗砂層 縄文2
- 23 にぶい黄色(2.5Y6/3)粗砂層 縄文2
- 24 にぶい黄色(2.5Y6/3)粗砂層 Mn硬化ブロック 縄文3
- 25 青灰色(5B6/1)シルト~灰黄色(2.5Y6/2)粗砂 縄文湿地(青灰色シルト)
- 26 緑灰色(10G6/1)砂質シルト 縄文湿地(灰黒色シルト)
- 27 にぶい黄色(2.5Y6/3)砂
- 28 灰黄色(2.5Y6/2)粗砂 Mnブロック含む
- 29 灰色(7.5Y6/1)粗砂
- 30 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂
- 31 灰色(10Y6/1)粗砂~砂礫 しまりあり
- 32 黄褐色(10YR5/6)砂礫 玉砂利
- 33 灰色(5Y5/1)砂礫 玉砂利



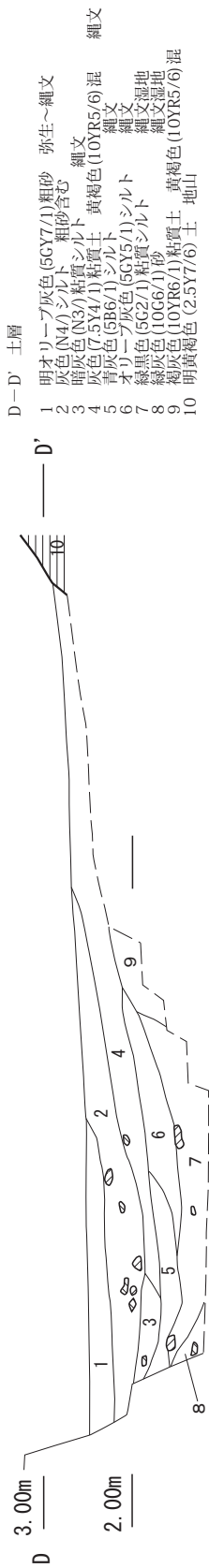
第7図 20・21-1区遺構配置図(2)・土層断面図(2)



- G-G' 土層
- 1 褐灰色 (5YR4/1) 土 表土
 - 2 單褐色 (5YR3/1) 土
 - 3-1 褐褐色 (10YR4/1) 土 地山礫を多く含む整地土
 - 3-2 灰褐色 (10YR4/1) 土 地山礫を多く含む整地土
 - 4 灰黄褐色 (2.5Y7/2) 粘質土
 - 5 灰褐色 (5Y7/2) 粘質土
 - 6 暗褐色 (7.5YR3/2) 粘質土
 - 7 暗褐色 (10YR3/3) 粘質土
 - 8 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土
 - 9 暗褐色 (10YR3/4) 土 粗砂を含む
 - 10 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂土 湧水
 - 11 單褐色 (2.5Y3/2) 砂質土 湧水
 - 12 オリーブ黄褐色 (5Y6/4) 粘質土 湧水
 - 13 明黄褐色 (2.5Y7/6) 土 地山



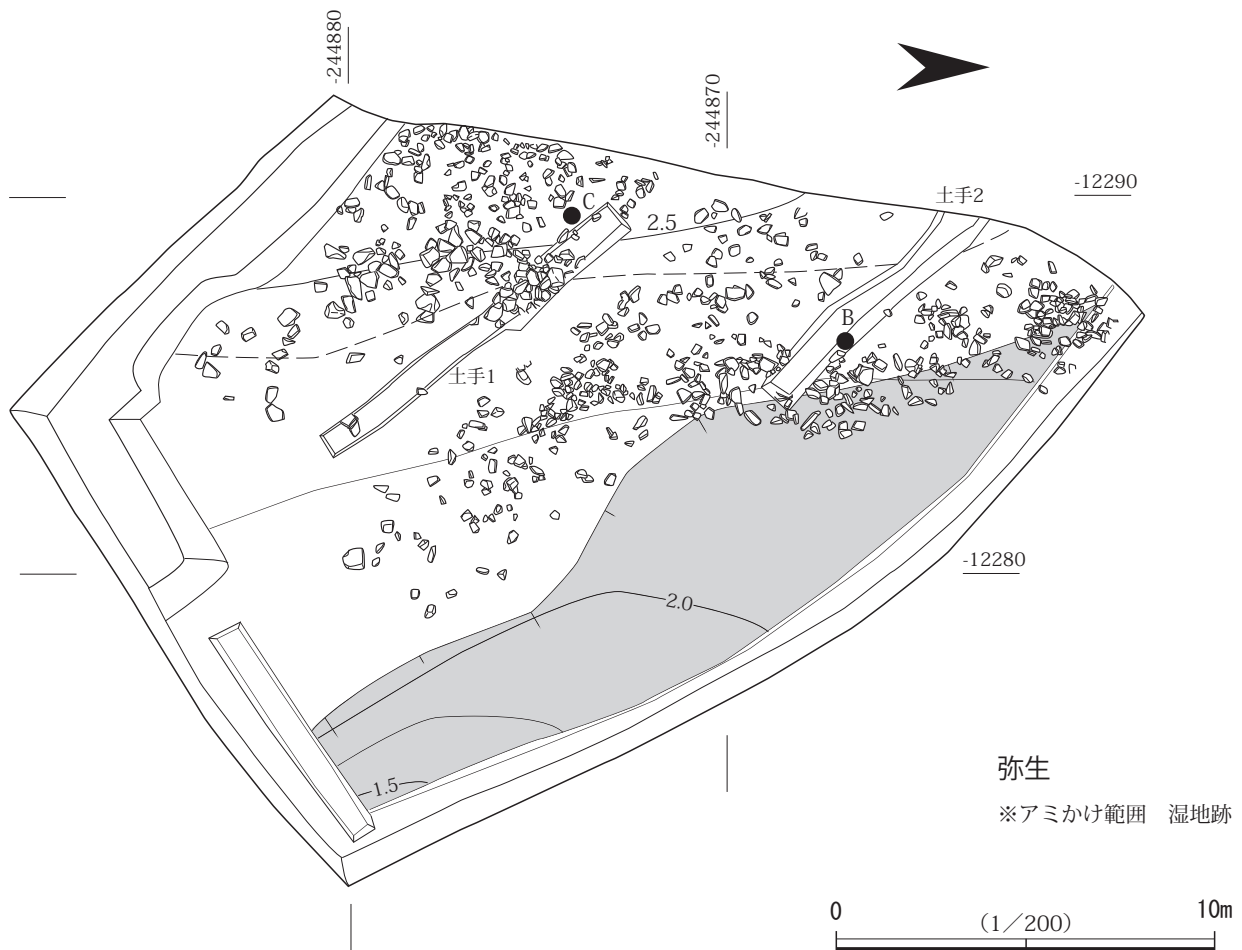
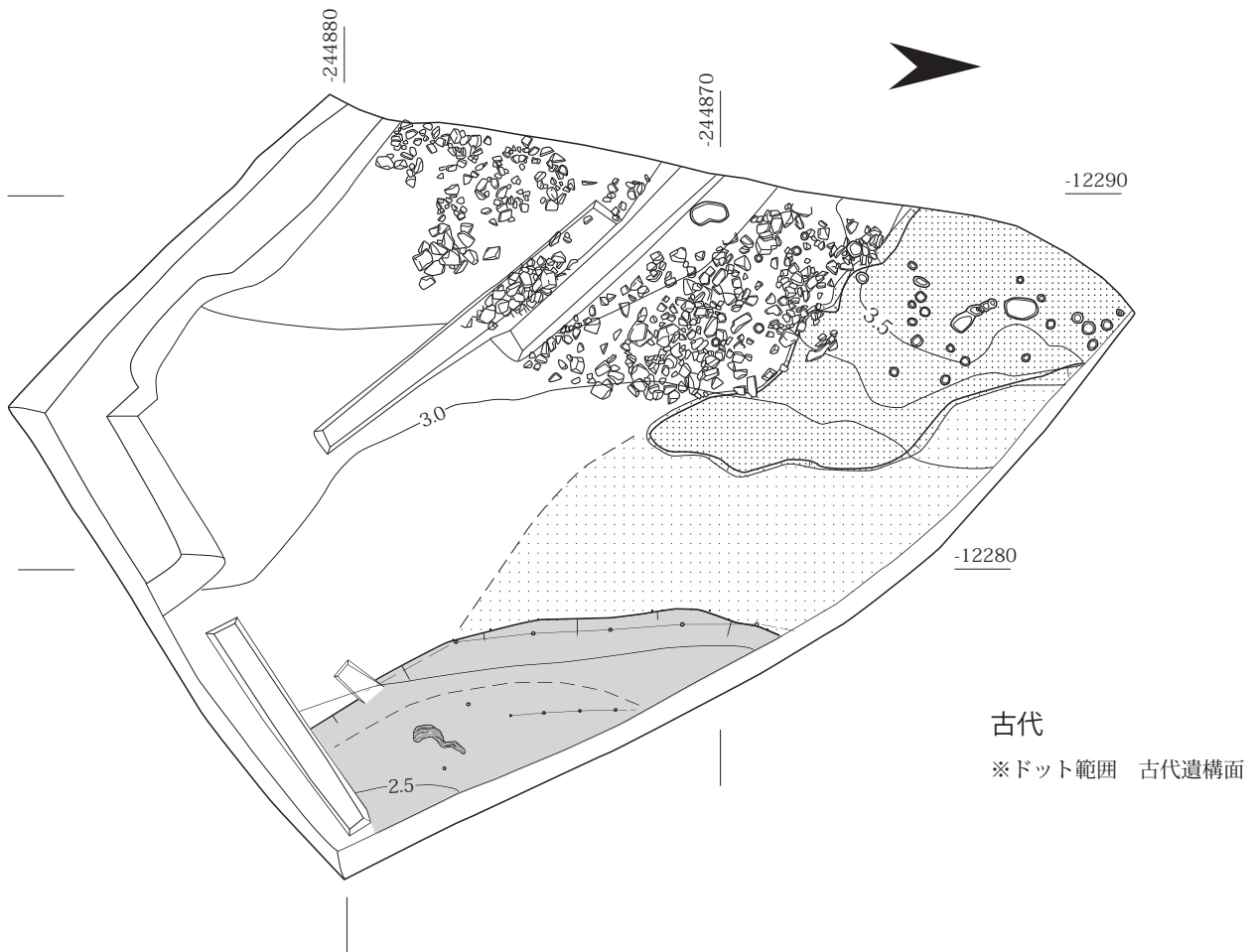
- E-E' F-F' 土層
- 13 褐色 (10YR4/1) 土 礫多く含む 3・4層と同じ
 - 14 明黄褐色 (10YR6/6) 粘質土 古代遺構面
 - 15 單色 (10Y2/1) 土 弥生
 - 16 單褐色 (10YR3/1) 土
 - 17 明黄褐色 (2.5Y4/2) 土 崩・礫を含む
 - 18 緑褐色 (5G1/7) 粘質シルト 弥生
 - 19 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘質土 シルト質



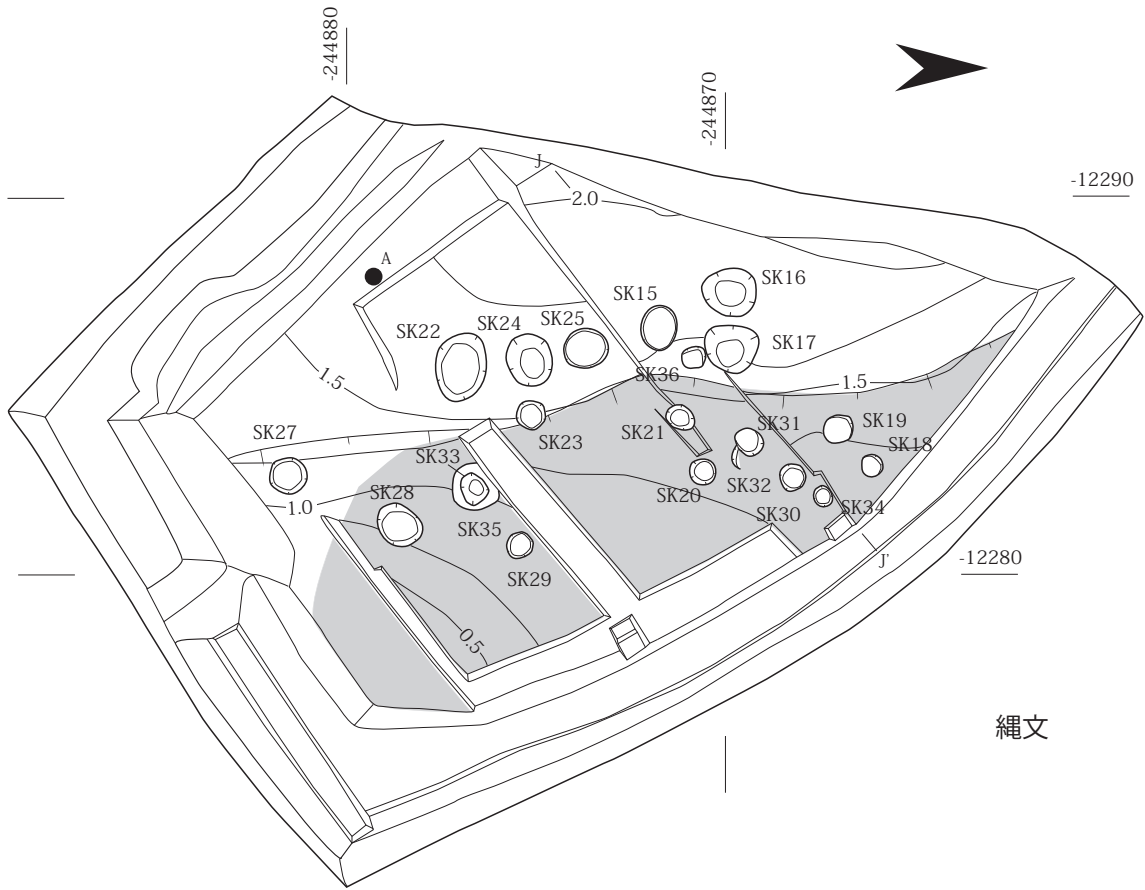
- D-D' 土層
- 1 明オリーブ灰色 (5GY7/1) 粗砂 弥生~縄文
 - 2 灰色 (N4/1) シルト 粗砂を含む
 - 3 暗灰色 (N3/1) 粘質シルト 縄文
 - 4 灰褐色 (7.5Y4/1) 粘質土 黄褐色 (10YR5/6) 混
 - 5 青灰色 (5B6/1) シルト 縄文
 - 6 オリーブ灰色 (5GY5/1) シルト 縄文
 - 7 緑褐色 (5G2/1) 粘質シルト 縄文湿地
 - 8 緑灰色 (10G6/1) 砂 縄文湿地
 - 9 褐灰色 (10YR6/1) 粘質土 黄褐色 (10YR5/6) 混
 - 10 明黄褐色 (2.5Y7/6) 土 地山



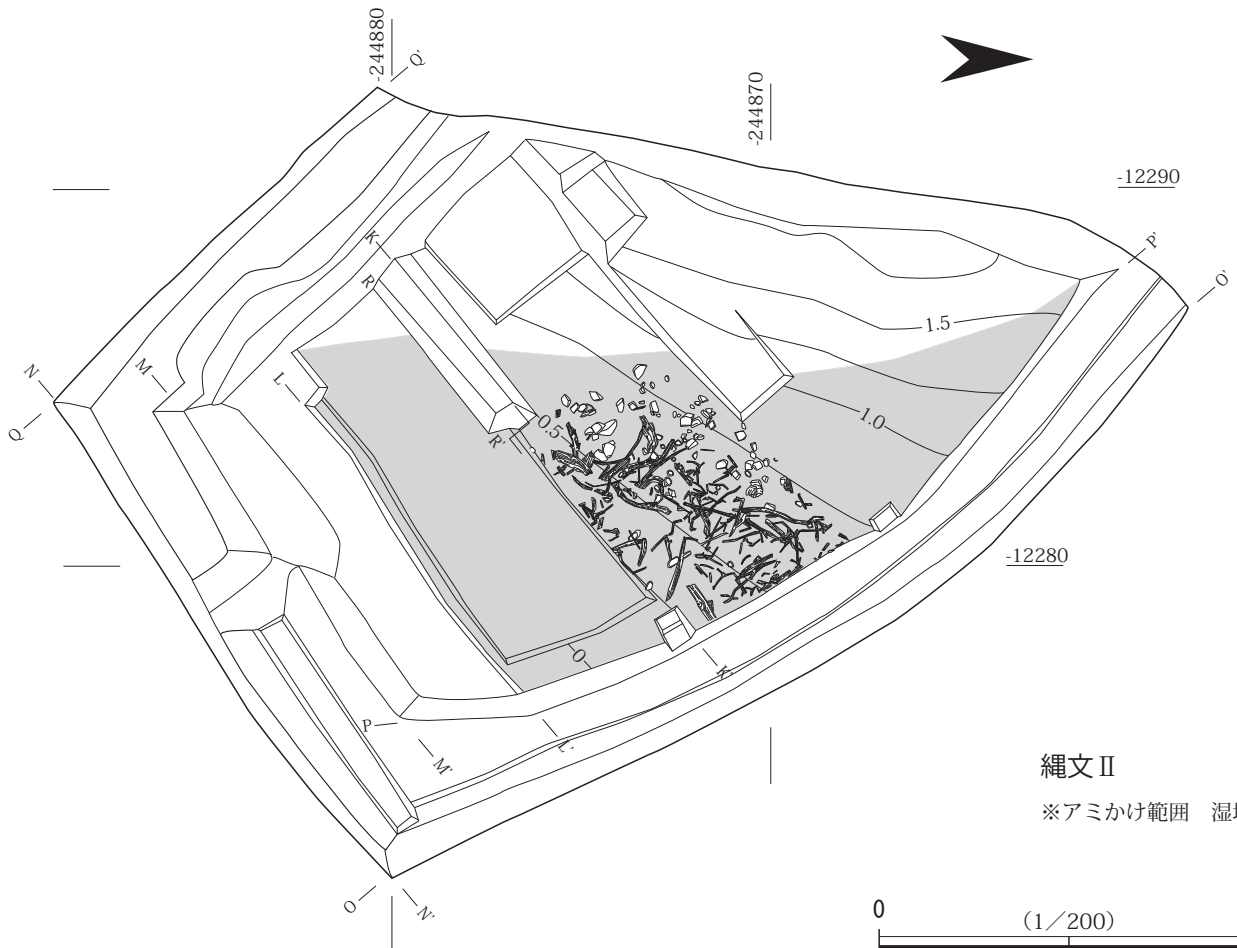
第8図 20・21-1区土層断面図(3)



第9図 20・21-2区遺構配置図(1)



縄文



縄文II

※アミかけ範囲 湿地跡



第10図 20・21-2区遺構配置図(2)

土層C-C'(第5図) 試掘トレンチに沿った土層断面。古代遺構面下には弥生包含層が山側斜面から堆積している。その下には「縄文2」相当層、「縄文3」層が堆積する。この「縄文2」層、または「縄文3」層面の山側斜面で柱穴(SP)が検出された。「縄文3」層より下はきめ細かな砂層や砂礫・玉砂利層で、無遺物層である。

土層H-H'(第7図 図版26) 28層以下は旧浜堤の形成層とみられ、北側へ向かって傾斜し、縄文時代の湿地跡(19層以下)となる。湿地跡内の25、26層には縄文土器片や黒曜石剥片が含まれていた。縄文遺物包含層は「縄文」、「縄文2」、「縄文3」からなり、「縄文」は礫を多く含む。旧地形にそって海岸側で厚く、湿地跡に向かって薄く堆積している。この縄文遺物包含層上に弥生土器を中心とした包含層が、海岸側は薄く、湿地側で厚く堆積している。古代遺構面はこの上位の堆積層上に形成され、海岸側でこれに相当する面でSK10が掘り込まれている。

土層G-G'・E-E'・F-F'(第8図 図版26) 調査区北端の東レンチの土層である。地形的に北西側斜面から開けた小谷筋にあたることから、トレンチ底面では湧水がある。表土下には近世または近代に谷部を埋めたとみられる客土層がある。最下の地山傾斜面上から石匙(1405)が出土。

土層D-D'(第8図 図版27) 縄文時代湿地跡の土層断面である。8層には縄文土器や黒曜石剥片が含まれ、7層が浜堤の傾斜面とみられる。

(2) 20・21-2区(第9~14図 図版5)

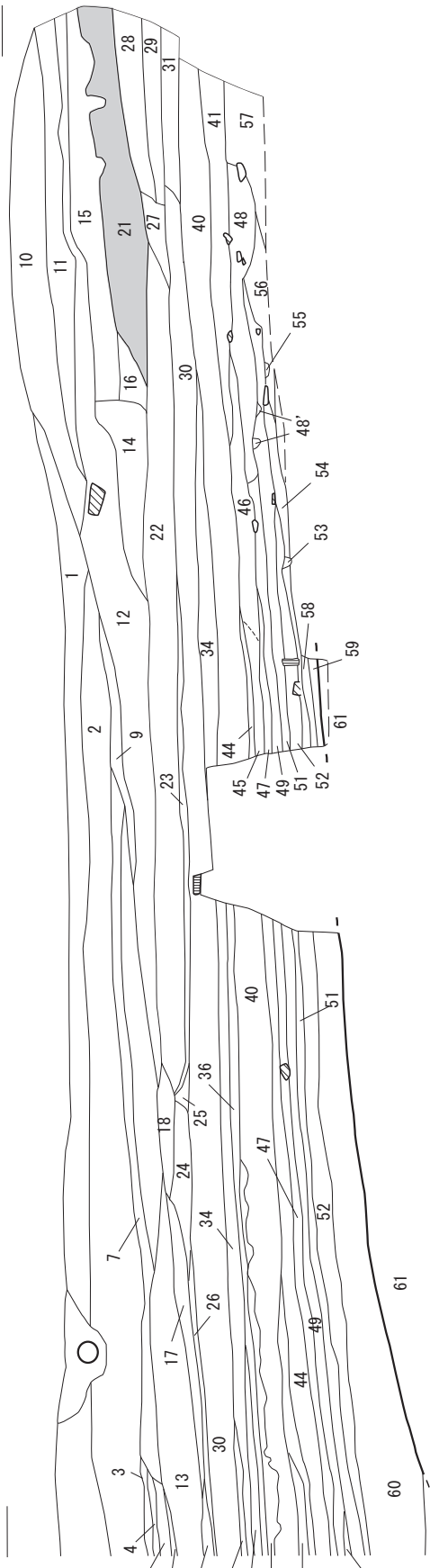
20・21-2区(以下2区と称す)は古代、弥生面では調査区に並行する土手1、2を設置し、土層観察を行った。縄文面では直交するトレンチや土手を設置し、土層観察ののち掘り下げを行った。

古代(第9図 図版19) 1区からつながる古代遺構面が調査区北側で検出され、柱穴、土坑が確認された。北西側丘陵の谷筋から堆積した明黄褐色土層および明黄色土層は下位の弥生包含層を覆うように2区まで広がっており、この安定した土層上を居住範囲としたとみられる。湿地跡との境には、杭列跡が検出され、湿地跡内には杭や曲げ物側板や自然木片が出土した。遺構面より南側は下層の礫群が露出し、その中にいくつかの柱穴やSK11が検出された。おそらく遺構面をなす堆積層が薄いため、礫群が露出したとみられる。

弥生(第9図 図版5) 古代整地層を除くと弥生土器を中心とする遺物と、礫を多く含む堆積層があり、これを弥生包含層とした。包含層中の礫は調査区のおぼ西半に分布しており、これを除去した状態が図版5である。調査区の南西が高く、北東へ下っていく地形で、傾斜に伴い弥生包含層も厚くなり、層中のマンガンや鉄分の沈着層も厚く堆積していた。湿地跡と見られる範囲は調査区北辺にそって広がり、ここからは少量の土器片と自然流木が出土した。弥生期の遺構は確認されていない。

縄文(第10図 図版5) 前述の弥生面下にある縄文包含層「縄文」「縄文3」を掘り下げて検出したのが縄文時代遺構面である。弥生面と同じく東側へ傾斜する地形であり、西側が浜堤部分、東側に粘質シルト層が広がる湿地跡が確認された。浜堤部分の高まりでは7基の土坑が確認された。縄文土器や礫が混入しており、廃棄土坑とみられる。湿地跡内は、土層観察で大きく分けて2層の粘質シルトが堆積していることが明らかとなったので、上位から「粘質シルト1」、「粘質シルト2」と呼称して、これを面的に掘り下げていった。これらのうち「粘質シルト2」面で土坑を14基検出した。浜堤部分の土坑と比べると径60~70cmと小型であり、内部からドングリが出土したことから、堅果類貯蔵穴

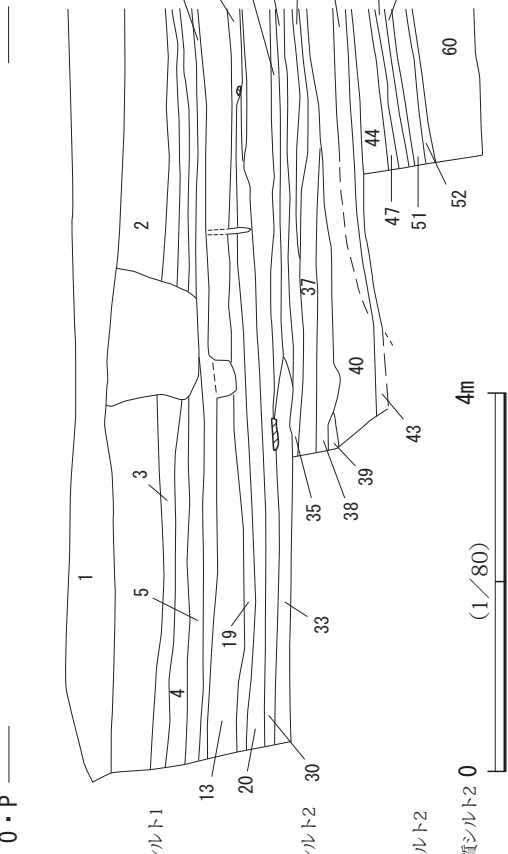
4.50m
0' - P'



O-P-0'P' 土層

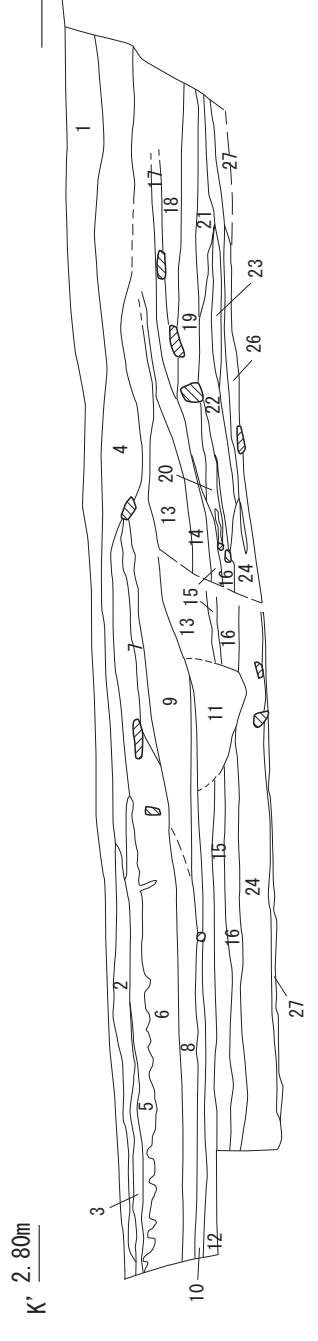
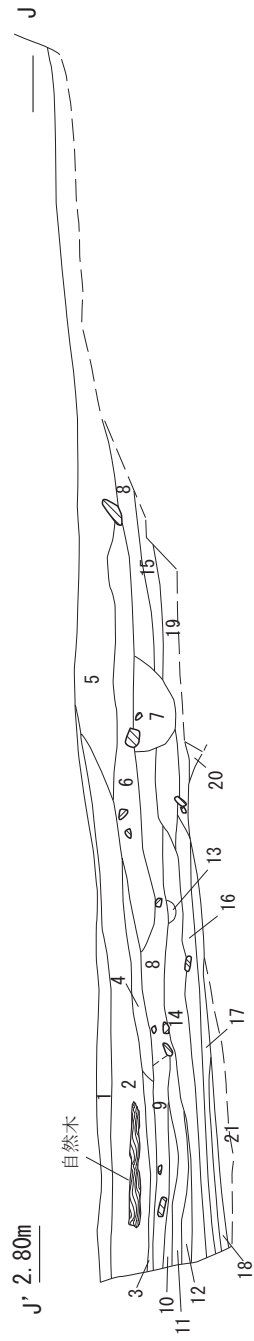
- 1 工事整地土、ガラス含む
- 2 灰色(5Y5/1)粘質土、白表土
- 3 黄灰色(2.5Y4/1)砂質土
- 4 灰オリーブ褐色(5Y4/2)粗砂
- 5 オリーブ褐色(2.5Y4/4)粘質シルト
- 6 オリーブ黒色(5Y3/1)粘質シルト
- 7 にぶい黄色(2.5Y6/3)砂土、Mn沈着
- 8 黄灰色(2.5Y4/1)砂土
- 9 黄褐色(10YR5/6)土、Mn沈着
- 10 黄褐色(10YR5/2)土、Mn沈着
- 11 灰褐色(10YR4/2)土
- 12 灰褐色(10YR4/1)粘質シルト
- 13 黒褐色(7.5YR3/1)土、Mn沈着・酸化面
- 14 古代包合層
- 15 古褐色(N4)粗砂
- 16 灰オリーブ褐色(5Y5/2)粘質シルト
- 17 オリーブ黒色(5Y3/2)砂質シルト
- 18 黒色(2.5Y2/1)粘質シルト
- 19 黒色(N2)粘質シルト
- 20 暗黄褐色(10YR6/6)粘質土、古代整地層
- 21 暗黄褐色(10YR7/8)粗砂質土、小礫・軽石含
- 22 暗黄褐色(10YR7/8)粗砂質土、弥生
- 23 暗黄褐色(10YR7/8)粗砂質土、弥生
- 24 暗黄褐色(10YR7/8)粗砂質土、弥生
- 25 暗黄褐色(10YR7/8)粗砂質土、弥生
- 26 暗黄褐色(10YR7/8)粗砂質土、弥生
- 27 暗黄褐色(10YR7/8)粗砂質土、弥生
- 28 暗黄褐色(10YR7/8)粗砂質土、弥生
- 29 暗黄褐色(10YR7/8)粗砂質土、弥生
- 30 暗黄褐色(10YR7/8)粗砂質土、弥生
- 31 暗黄褐色(10YR7/8)粗砂質土、弥生
- 32 暗黄褐色(10YR7/8)粗砂質土、弥生
- 33 暗黄褐色(10YR7/8)粗砂質土、弥生
- 34 暗黄褐色(10YR7/8)粗砂質土、弥生

4.50m
0' - P

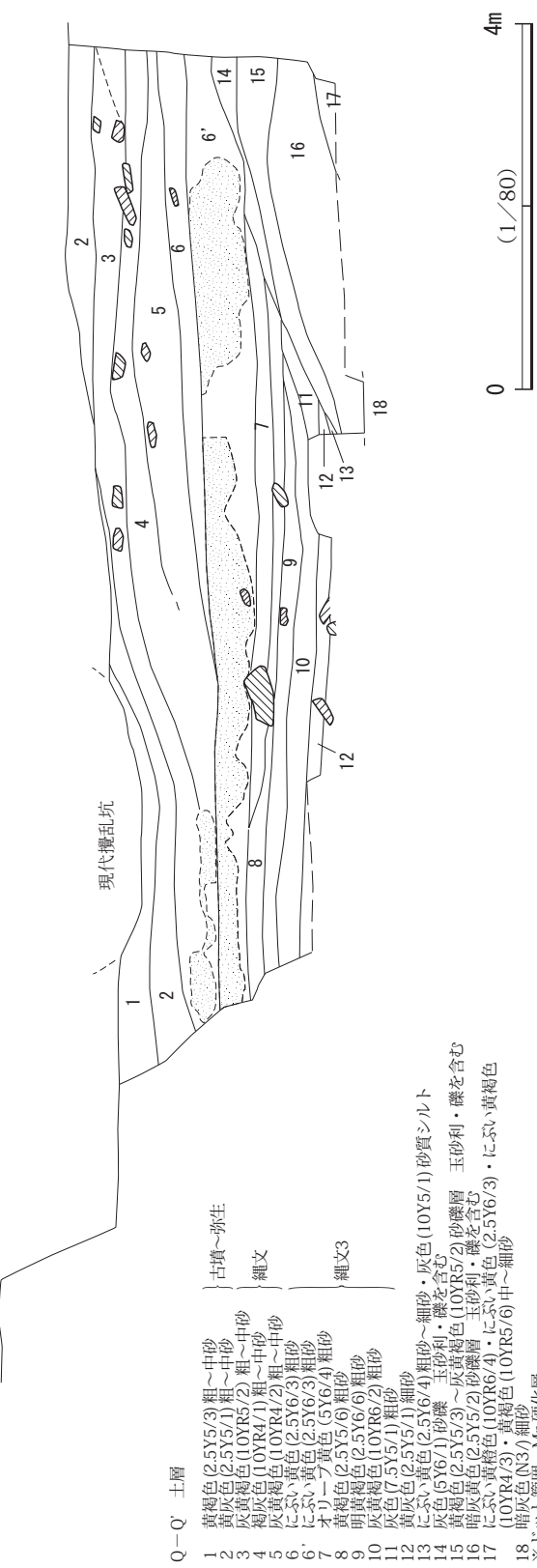
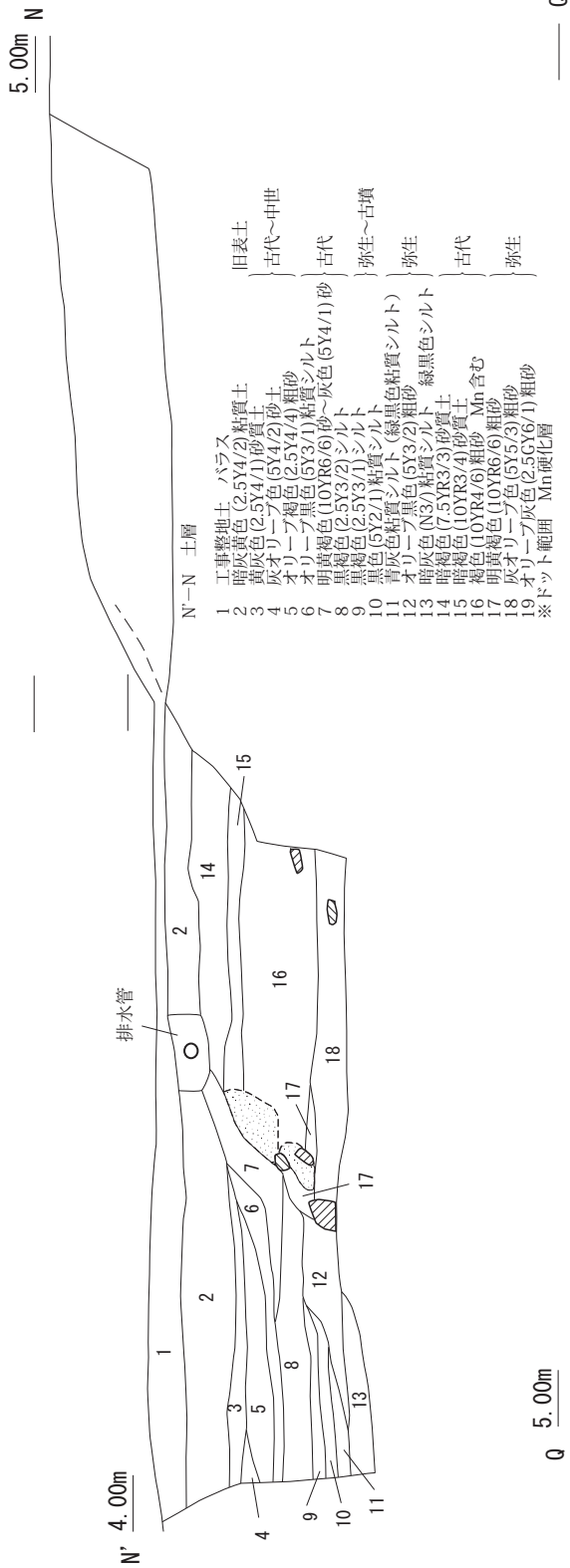


- 35 黄灰色(2.5Y5/1)粗砂
- 36 灰色(10YR6/1)粗砂
- 37 黄褐色(2.5Y7/3)粗砂
- 38 黄褐色(2.5Y6/1)粗砂
- 39 暗黄褐色(5B4/1)粗砂
- 40 黄褐色(2.5Y4/1)粗砂
- 41 暗褐色(10YR3/3)粘質シルト
- 42 灰褐色(2.5Y6/2)粘質シルト
- 43 灰褐色(7.5YR3/1)シルト(砂混)～粘質シルト
- 44 黒褐色(2.5Y3/2)シルト
- 45 暗褐色(N3)粘質シルト
- 46 暗黄褐色(10G4/1)粘質シルト
- 47 黒色(10Y2/1)シルト
- 48 暗黄褐色(2.5Y5/2)粘質シルト
- 49 暗黄褐色(10YR4/1)粘質シルト
- 50 暗黄褐色(7.5Y4/1)粘質シルト
- 51 暗褐色(10YR2/2)粘質シルト
- 52 暗褐色(10YR2/2)粘質シルト
- 53 暗褐色(10YR2/2)粘質シルト
- 54 暗褐色(10YR2/2)粘質シルト
- 55 暗褐色(10YR2/2)粘質シルト
- 56 暗褐色(10YR2/2)粘質シルト
- 57 暗褐色(10YR2/2)粘質シルト
- 58 暗褐色(10YR2/2)粘質シルト
- 59 暗褐色(10YR2/2)粘質シルト
- 60 暗褐色(10YR2/2)粘質シルト
- 61 暗褐色(10YR2/2)粘質シルト

第11図 20・21-2区土層断面図(1)



第12図 20・21 - 2区土層断面図(2)



第14図 20・21-2区土層断面図(4)

又はその可能性がある土坑であることが明らかとなった。浜堤部の土坑と堅果類貯蔵穴の遺構面には、海岸からの流入砂層が間層として堆積する場合があるため、両者に前後関係があるとみられるが、出土土器からすると縄文時代後期初頭から前葉とみられる。

縄文Ⅱ（第10図 図版24） 遺構面下の「粘質シルト2」内にはわずかに縄文土器細片や黒曜石片が出土することから、トレンチにより下位の状況を確認した。それによると「粘質シルト2」下は自然木を多く含む腐葉土層、泥土層があり、これより下は玉砂利を多く含む当初の浜堤形成層で、無遺物層と判断した。そこでこの最下層まで掘り下げることとしたが、調査区の深さが表土より4mを超え、さらに東へ傾斜していることから、安全面に考慮して調査区の西半を面的に検出することとした。「粘質シルト2」下の腐葉土層からは、縄文土器細片、種子、樹皮・葉のほか、多くの自然流木や3点の木製品（1867～1869）が出土した。この最下層の時期は、出土土器が細片のため明確でないが、層序的に同一とみられる1区や3区の浜堤傾斜面では前期土器片も出土していることから、前期に遡る可能性がある。

土層O・P-O'・P'（第11図 図版25、26） 土層O-O'と土層P-P'を図面合成した土層である。弥生包含層を覆って堆積する21・22層が古代遺構面となり、それより上位は古代～中世の包含層である。33～36層は弥生土器を含む粗砂、シルト層で、イネ属花粉が検出されたことから耕作土の可能性はある。畦畔等は確認されていない。縄文湿地層は大別して「粘質シルト1」、「粘質シルト2」に分けることができる。「粘質シルト」は最下に葉、樹皮、木片などを含む薄い腐葉土層（泥土層）の上に青灰色、灰色の粘質シルトが交互に堆積するもの（図版26）で、この堆積単位が大きく2層あることから、上から「粘質シルト1」、「粘質シルト2」と呼称して遺物の取り上げを行った。堅果類貯蔵穴はこの「粘質シルト2」面で検出されたものである。「粘質シルト2」下は樹皮、葉、流木、炭を多く含む腐葉土層（「粘質シルト2下の腐葉土層」）で、縄文土器細片を包含していた。これより下は玉砂利や礫を含む砂礫層で、当初の浜堤形成層とみられ、東側へさらに下っていく。

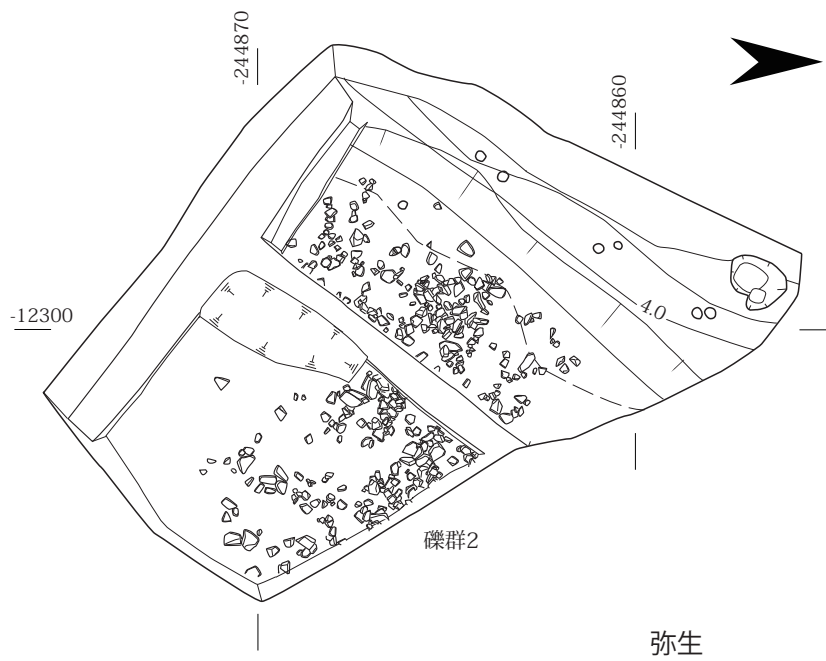
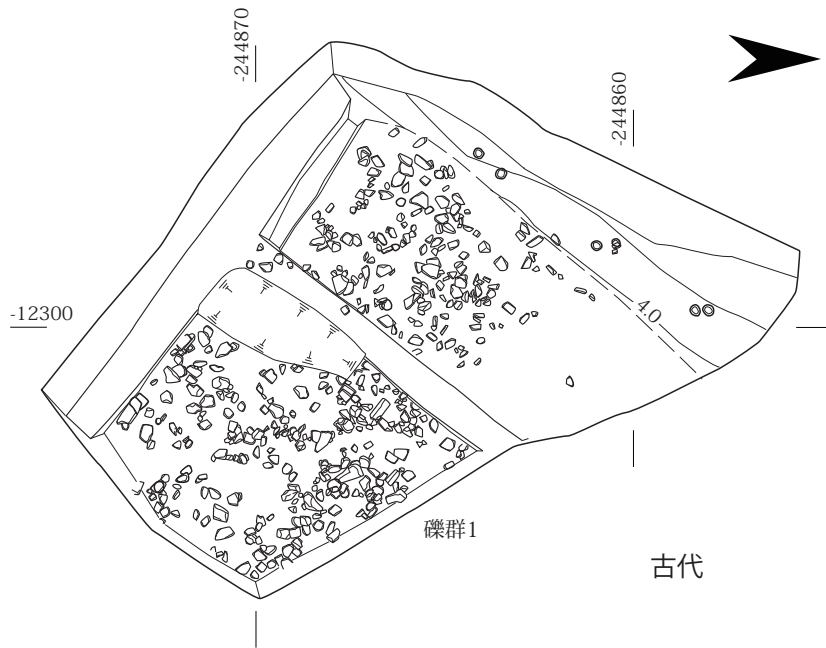
土層J-J'（第12図） 浜堤部に検出された土坑（SK17）と湿地跡との関係を示す土層断面である。SK17は「粘質シルト1」より下位で、「粘質シルト1」と「粘質シルト2」層の間に海側から流入した砂層があり、この上面から掘りこまれている。これからすると、層序的に「粘質シルト2」面の堅果類貯蔵穴群とは前後関係があるとみれるが、土器からすると両者とも縄文時代後期初頭～前葉に属する。

土層K-K'（第12図 図版25） 「粘質シルト1」上の粗砂層は土層断面に凹凸のある荒れた痕跡を残すことから、縄文湿地層に高潮等によって粗砂が堆積した状況を示している。堅果類貯蔵穴であるSK35は「粘質シルト2」面から掘り込まれている。

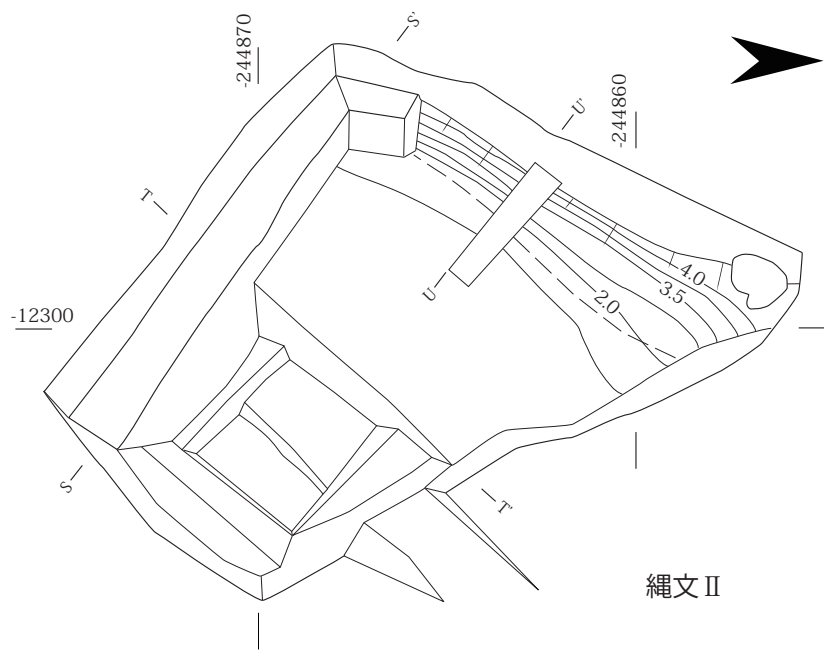
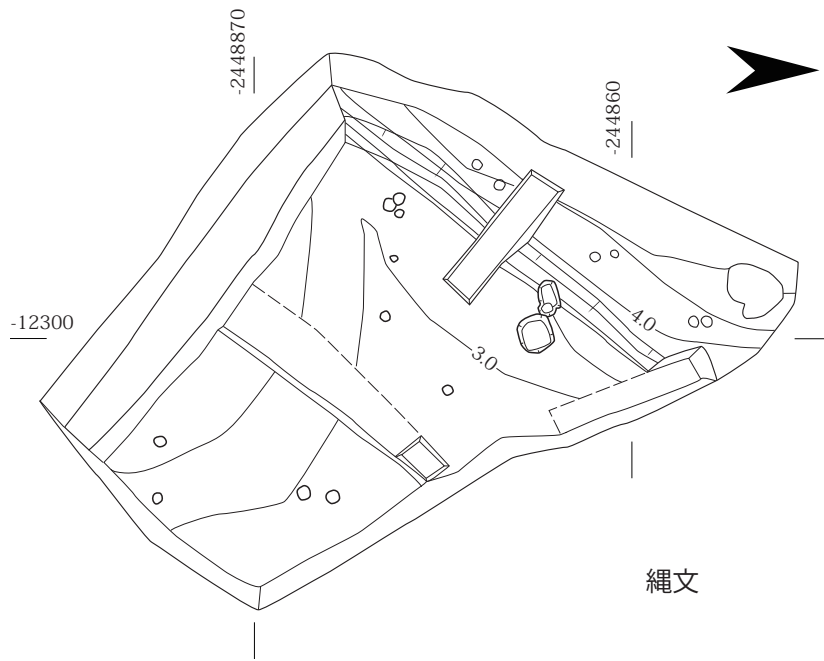
土層M-M'（第13図 図版25） 調査区東辺の土層で、弥生包含層以下の堆積状況を示す。弥生包含層内にはマンガンや鉄分が沈着、硬化層が厚く堆積しており、土器にも多く付着している。「粘質シルト1」に対応する浜堤部堆積層は7、17層以下にみられる。

土層L-L'（第13図 図版25） 調査区東辺の「粘質シルト1」から最下層にかけての土層で、縄文遺構面となる「粘質シルト2」と浜堤側の境には砂層とシルト層が互層となっている。

土層N-N'（第14層 図版25） 調査区東辺の土層で、表土から弥生包含層までの堆積状況を示す。古代における浜堤部分は14～16層で、対応する湿地跡は6～9層である。湿地跡との境にはマンガン、



第15図 20・21-3区遺構配置図(1)



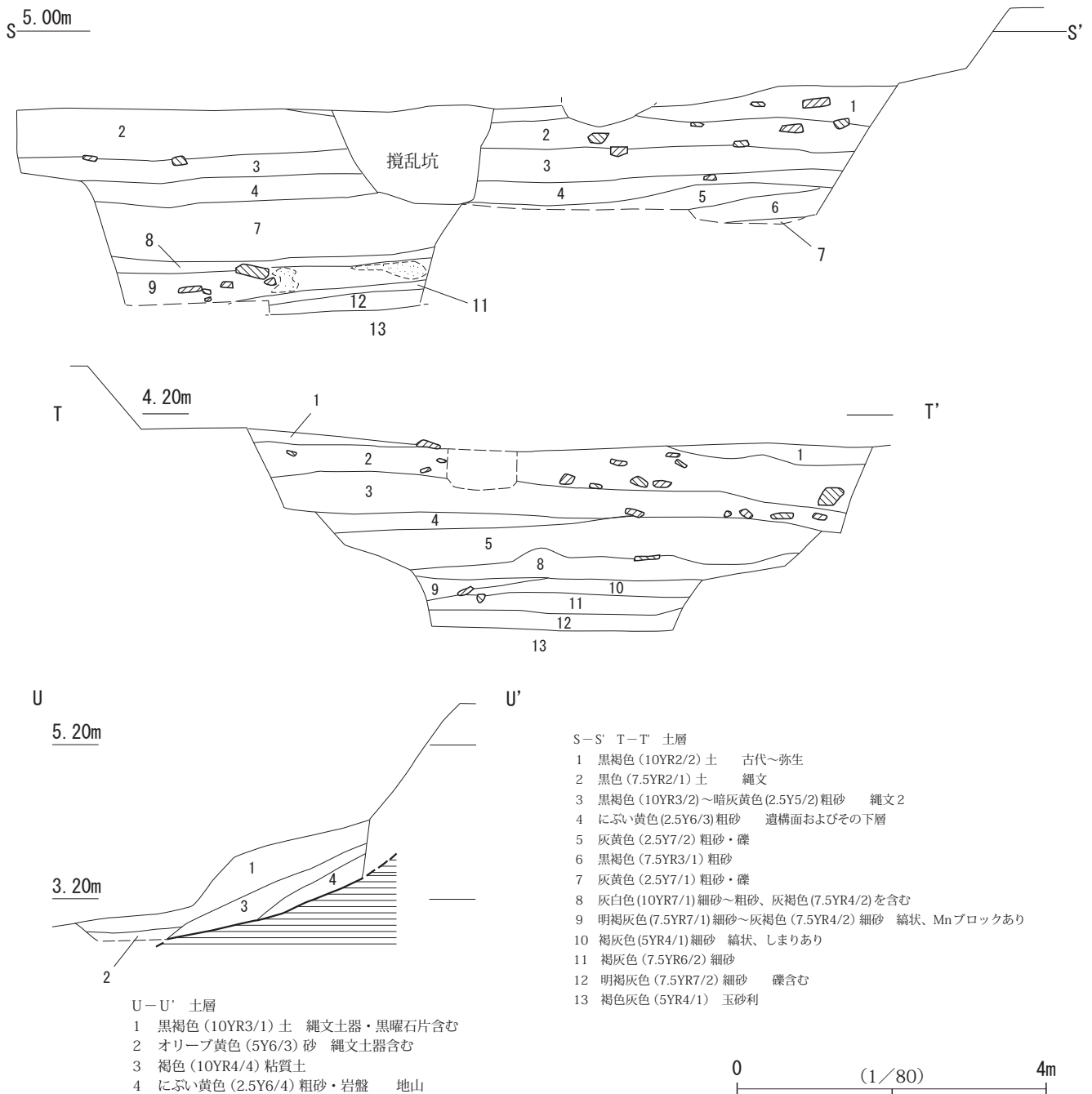
第16図 20・21-3区遺構配置図(2)

鉄分の硬化層がブロック状に入り込む。古代と弥生包含層の間の9、10層は古墳時代土師器を含むことから、弥生～古墳時代の包含層であろう。

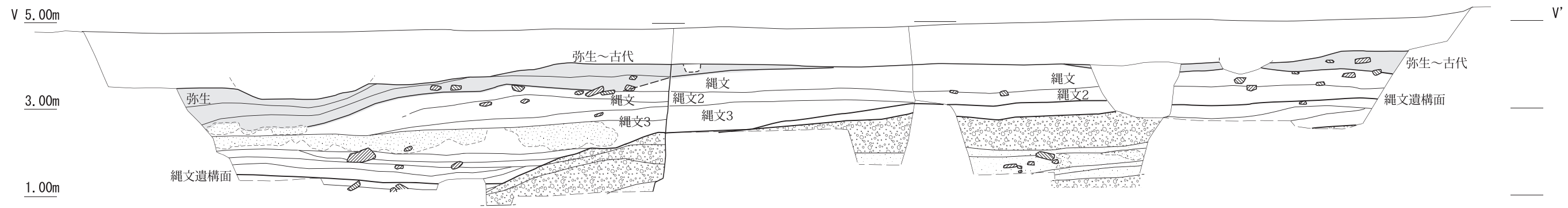
土層Q-Q' (第14図 図版25) 14～17層が当初の浜堤形成層である砂礫、玉砂利層で、3区から続く浜堤部は、ここから西へ傾斜していく。1区の「縄文」相当層が4、5層、「縄文3」相当層が6、6'層以下の層とみられる。なお「縄文2」は明確に対応関係が判断できなかった。「縄文3」の中心はマンガン、鉄分の硬化層がある6、6'層で、多くの縄文土器が出土した。これ以下の層は暫時出土数が少なくなる。調査区南隅での遺構面および浜堤の高さは標高約1.5mである。

(3) 20・21 - 3区 (第15～17図 図版4、10)

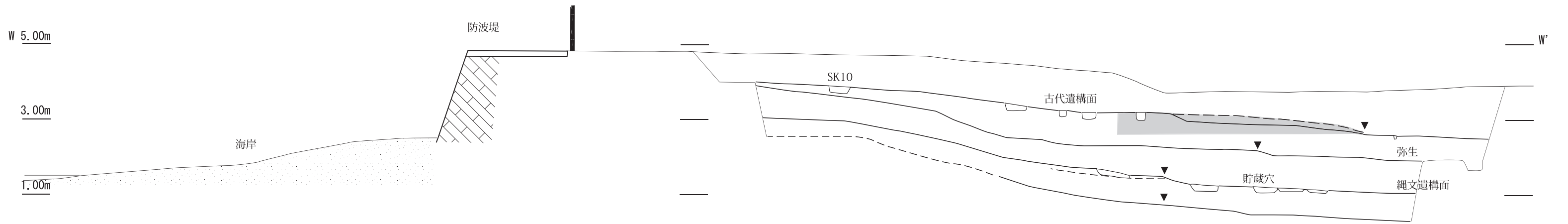
3区はNTT施設が位置していたところで、その施設へ連結するケーブルの埋設坑が中央に攪乱坑と



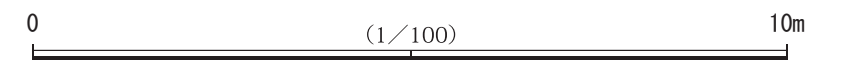
第17図 20・21 - 3区土層断面図



海岸側（南東—北西）土層断面



東西土層断面



第18図 土層断面模式図

して確認された。この攪乱坑にそって中央土手を設置し、土層観察を行いながら掘り下げた。

古代(第15図 図版9) 全体にわたって礫群1が検出され、この礫群1上面で古代須恵器、土師器、製塩土器、カマドなどの破片が出土したことから、この面を古代とした。西側斜面には柱穴が等間隔で確認され、柵等の可能性がある。

弥生(第15図 図版9) 礫群1を含む堆積層は弥生土器を中心に出土することから弥生包含層とし、これを掘り下げた。下位から新たな礫群2が検出され、礫中に縄文土器を含むことから、この上面で弥生面とした。これに対応する西側斜面面でSK12を検出した。

縄文(第16図 図版4、9、10) 礫群2と前期から晩期までの縄文土器を多く含む包含層(1区の「縄文」「縄文2」に対応)を除去し、旧浜堤を形成したとみられる比較的安定した砂層を検出した面である。この面では柱穴11個、土坑2基(SK14、SK26)を検出した。

縄文II(第16図 図版10) 柱穴や土坑が確認された縄文遺構面を形成する堆積層は、縄文土器を包含することから、これを面的に掘り下げて旧浜堤の状況を確認した。包含される縄文土器は、「縄文」「縄文2」に比べ前期、中期土器の比率が高くなるのが特徴である。これらは「遺構面およびその下層」として観察表に取り上げた。この層下は細砂層、礫・玉砂利層などの浜堤の基層が確認された。

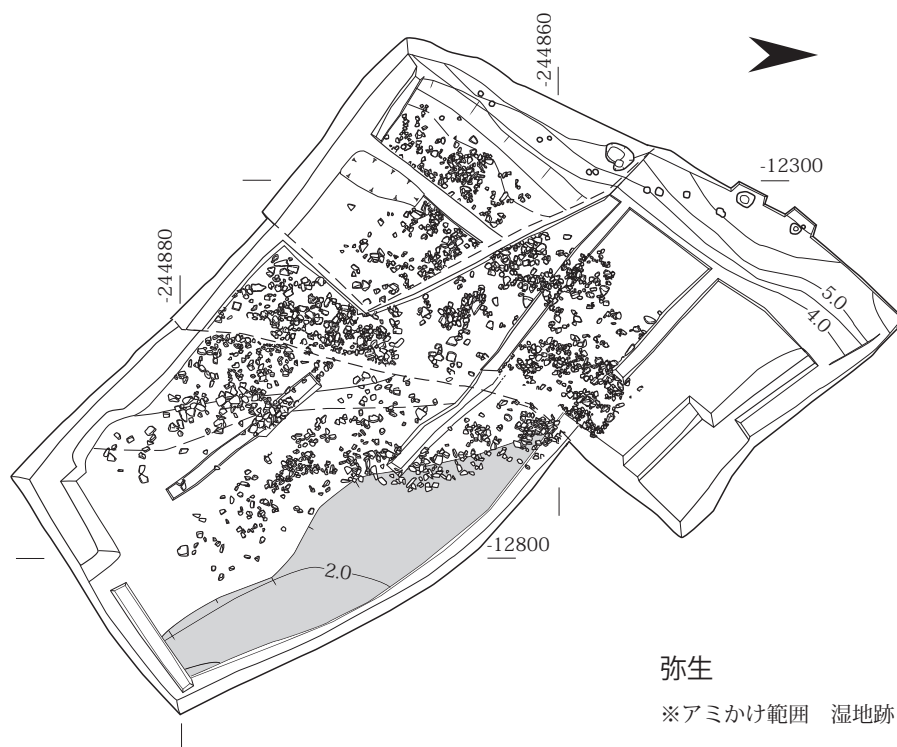
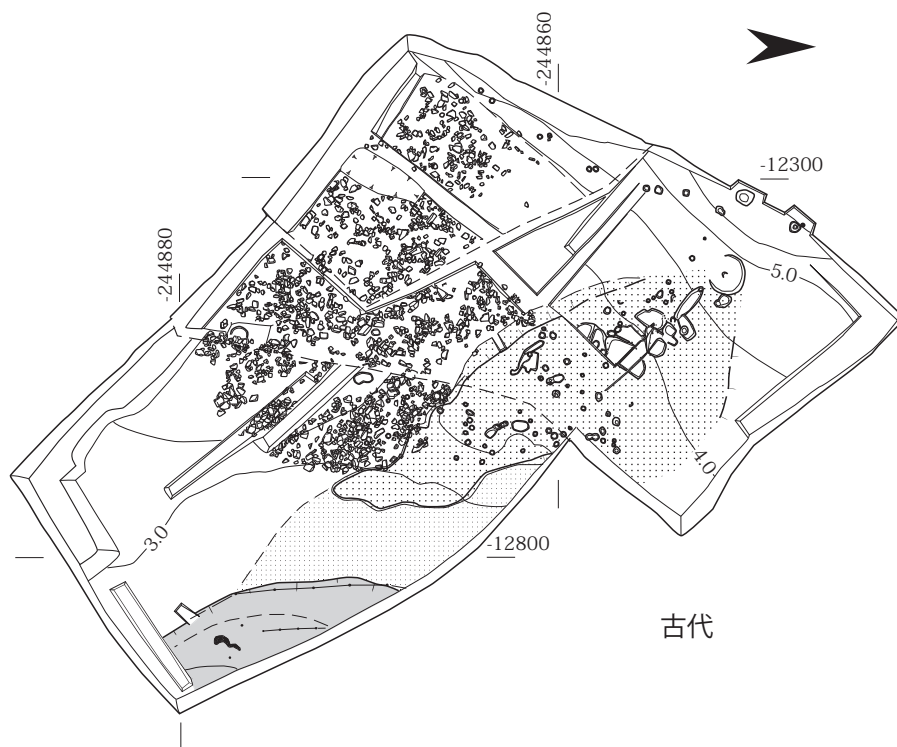
土層S-S'・T-T'層(第17図 図版27) 3区の海岸側および中央部の土層である。攪乱坑があるものの、「縄文」「縄文2」が厚く堆積し、その下の4層上面が遺構面となる。これより下は細砂層、礫・玉砂利層である。

土層U-U'(第17図 図版27) 山側斜面の堆積を確認するための土層である。1、2層は「縄文」下にあり地山斜面に堆積する「黒褐色土」で、縄文土器片、黒曜石剥片を包含する。

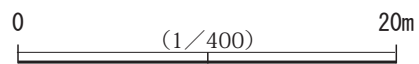
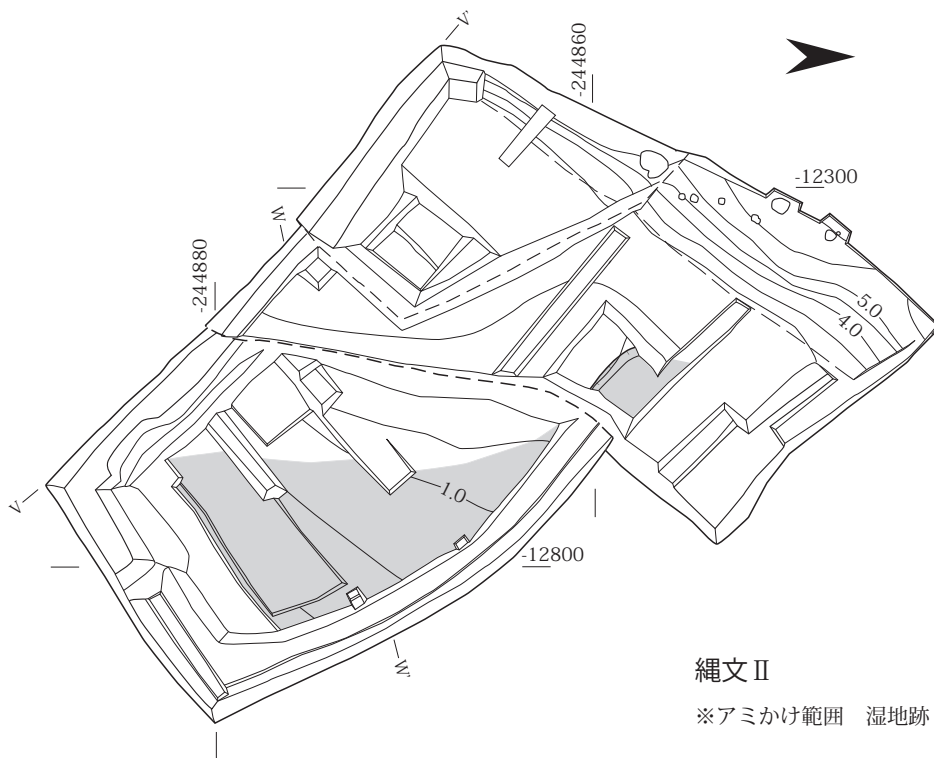
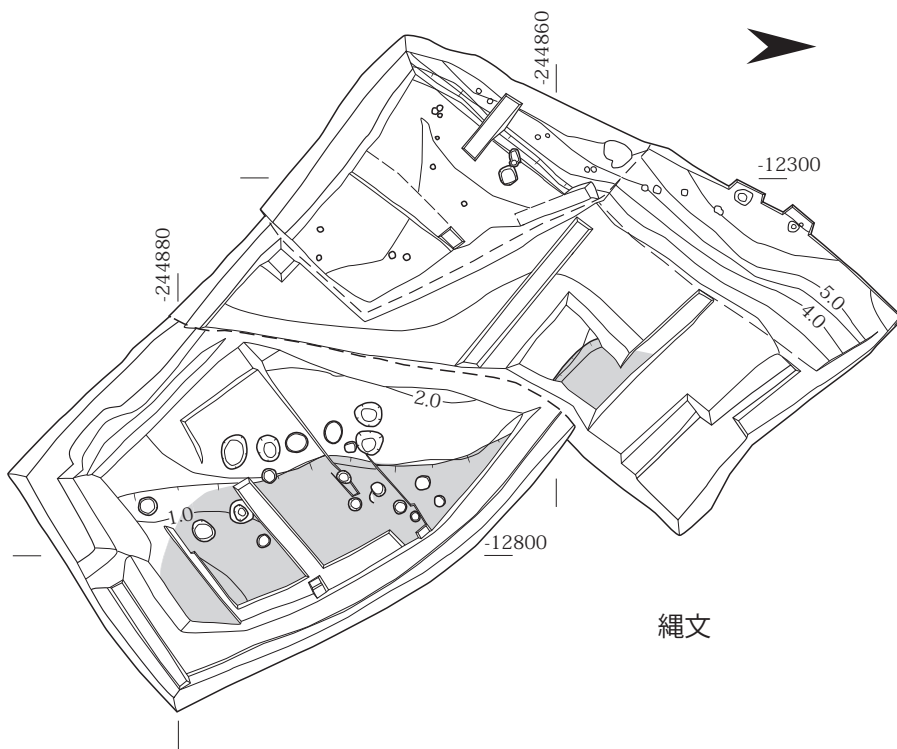
(4) 層序(第18～20図)

各区の概要を述べてきたが、各区の時代別成果を合成したのが第19、20図である。また第18図は調査区の南辺(海岸側)および東西土層を合成し、模式図としたものである。東西土層は、海岸から浜堤、後背湿地を横断し、古代、弥生、縄文の各包含層、遺構面および湿地跡の範囲を示したものである。

今回の調査で縄文時代の遺構面は3区の標高約3mから2区にむかって傾斜し、南端隅では標高約1.5mである。遺構面につながる「粘質シルト2」は標高1.5～1.0mの間にある。また「粘質シルト2」下の浜堤は、調査区の東端隅で標高約-0.5mで、さらに下っていくとみられる。縄文時代の基底面となるのは、浜堤を構成する礫層(玉砂利含む)とその上を覆う安定した細砂層である。これが3区から2区に向かって傾斜しており、この上面が縄文時代遺構面となる。ただ3区ではこの上に前期から後期初～中葉の縄文土器を含む砂層「遺構面およびその下」が堆積し、これが遺構面となる。遺構面上には縄文時代の包含層である「縄文」「縄文2」「縄文3」が堆積する。この分層は最初に調査を行った1区の成果を2、3区に反映したものであるが、2区の場合、1区との土層連続性が把握できなかったため、「縄文」「縄文2」を3区では「縄文」としている。各包含層の時期は、出土土器から判断すると、「縄文」から「縄文3」は、前期から晩期までの土器が出土する。遺構面では検出遺構の出土土器から、後期初頭から前葉、また「遺構面およびその下層」では後期とともに前期、中期土器も含まれる。縄文湿地跡の「粘質シルト1」は後期から晩期、「粘質シルト2」のうち遺構面に相当する層は後期初頭から前葉で、最下面は前期に遡る可能性がある。



第19図 全体遺構配置図(1)



第20図 全体遺構配置図(2)

2 遺 構

今回の調査で検出された遺構は、縄文時代の土坑23基、柱穴11個、弥生時代の土坑1基、古代またはそれ以降の時期とみられる土坑13基、柵跡を含む柱穴90個、杭列跡などである。以下個別に述べる。

(1) 縄文時代

柱穴 (SP) (第16、20図 図版10)

1区および3区の東端で計11個の柱穴を確認した。いずれも北西から南東へのびる当時の浜堤部分にあたり、標高は3.0m前後である。これらの柱穴は径20～30cmで、にぶい黄色粗砂層の基底面に掘りこまれていた。おそらく竪穴建物に伴う柱穴と推定されるが、深さが10～20cmと浅く、高潮等による礫群が堆積していたことから、上部を削平されたと考えられる。柱穴内部からは縄文土器細片が出土した。時期はこの遺構面に対応する2区の土坑から後期とみられる。

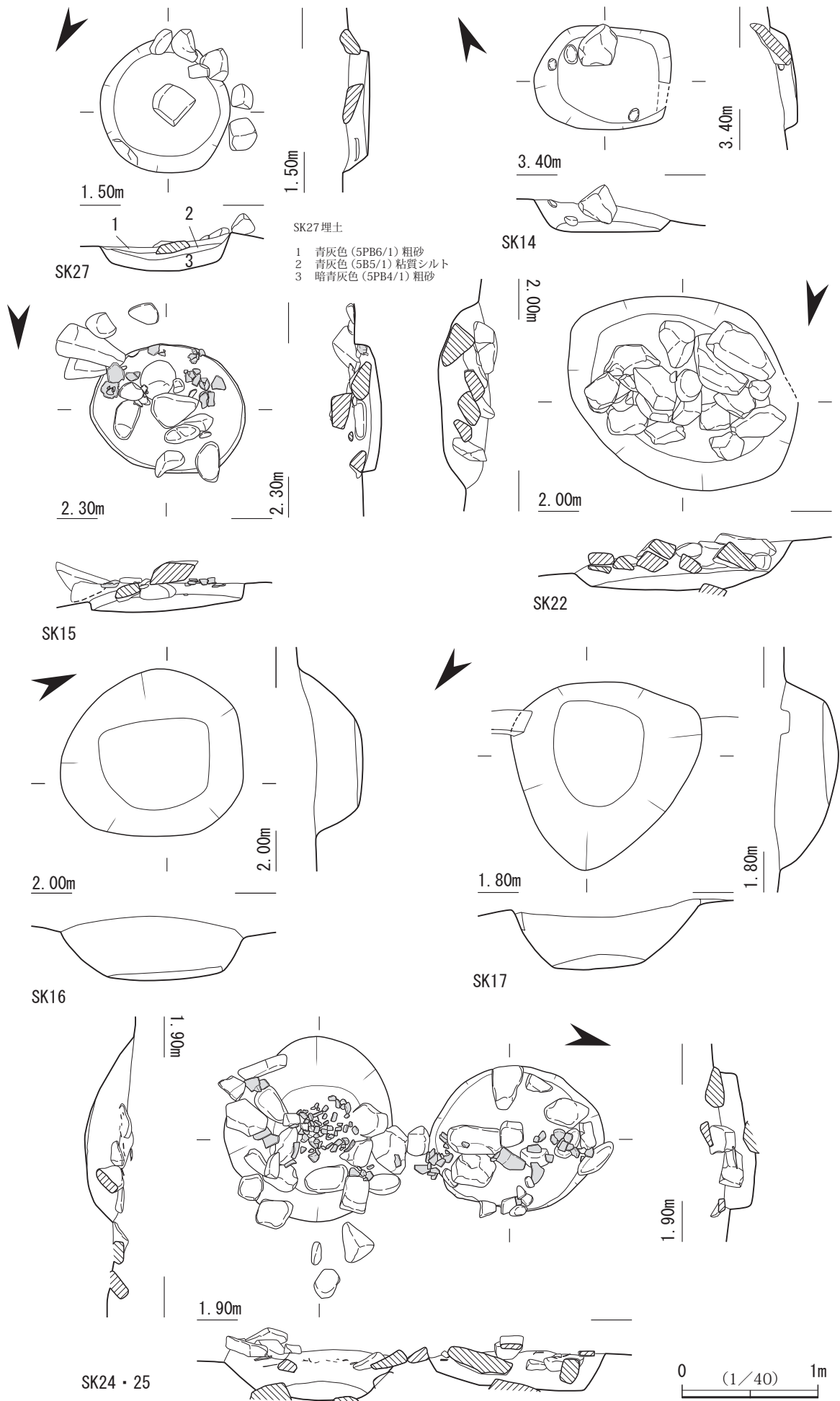
土坑 (SK) (第21～23図 図版11～16)

縄文時代の土坑は3区から2基(SK14、26)、2区から21基(SK15～25、27～36)の、計23基の土坑が確認された。SK14、26は柱穴と同じ北西から南東へ続く縄文時代浜堤上に位置するが、SK15～25、27～36は、後背湿地への緩斜面および湿地跡にかけてに立地する。

SK15～17、22～25、27は、径100cmを超える円形または長円形の土坑で、内部には縄文土器と

第1表 縄文時代土坑一覧

番号	調査区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	平面形	出土遺物・堅果類	備 考
SK14	20・21-3	100	76	8～23	不整形	縄文土器	
SK15	20・21-2	114	94	21	長円形	縄文土器 有溝石錘 石鏃 礫器	
SK16	20・21-2	136	125	41	不整円形	縄文土器 磨製石斧	広葉樹片
SK17	20・21-2	140	130	51	不整形		
SK18	20・21-2	63	61	7	円形	イチイガシ アカガシ亜属A	葉 (広葉樹?)
SK19	20・21-2	74	72	10	円形	イチイガシ アカガシ亜属A	
SK20	20・21-2	68	65	24	円形	イチイガシ	マツ
SK21	20・21-2	71	61	32	円形	イチイガシ	広葉樹樹皮
SK22	20・21-2	183	141	36	長円形	縄文土器	
SK23	20・21-2	73	63	28	不整円形	縄文土器 イチイガシ アカガシ亜属A	
SK24	20・21-2	135	125	37	長円形	縄文土器 打製石斧	
SK25	20・21-2	129	106	27	長円形	縄文土器 打欠石錘 石鏃	
SK26	20・21-3	78	52	16	隅丸長方形	縄文土器	
SK27	20・21-2	98	95	27	円形	縄文土器	
SK28	20・21-2	113	105	40	不整円形	イチイガシ アラカシ アカガシ亜属A スダジイ	葉 (広葉樹?)
SK29	20・21-2	70	65	13	円形	イチイガシ	
SK30	20・21-2	72	69	18	円形	イチイガシ アカガシ亜属A	葉 (広葉樹?)
SK31	20・21-2	76	66	11	長円形		SK32と重複関係
SK32	20・21-2	60 + α	36 + α	6	円形		SK31と重複関係
SK33	20・21-2	74	70	13	円形	縄文土器 イチイガシ アカガシ亜属A スダジイ ツブラシイ	ヒノキ (炭化) SK35→SK33
SK34	20・21-2	59	56	11	円形	縄文土器 イチイガシ	
SK35	20・21-2	130	118	58	不整円形	イチイガシ アラカシ	クスノキ、マツ、キハダ? SK35→SK33
SK36	20・21-2	55	52	10	円形		



第21図 縄文時代土坑実測図(1)

ともに大型の礫が混入するものもある。これらの埋土は、基本的に黄褐色系の粗砂による単一層である。SK18～21、28～36は径60～80cm、深さ6～32cmの小型土坑群である。湿地跡である「粘質シルト2」を基底面にし、浜堤と湿地跡の境に位置するこれらの土坑は、堅果類の出土、規模や構造から、貯蔵穴又はその可能性がある土坑である。なお出土堅果類の種類、数量については「付編」を参照のこと。

土層観察によれば、貯蔵穴遺構面である「粘質シルト2」上に海岸側より砂層が流入し、それがSK17の基底面となっている(第12図)ことから貯蔵穴群が先行する可能性がある。出土土器からみた時期は貯蔵穴群は縄文時代後期初頭、他は後期初～前葉と判断される。以下個別に報告する。

SK27(第21図 図版11)

円形の土坑。壁面は外傾し、南側上端にそって20～30cmの礫が検出された。縄文土器(35～38)が出土。後期初頭とみられる。

SK14(第21図 図版11)

不整形の土坑で、壁面は外傾する。内部に30～40cmの板状の石材が検出された。縄文土器(12、13)が出土。

SK15(第21図 図版11)

長円形の土坑で、深さ21cmと浅く、壁面は短く直立する。内部には30cmの円礫が検出され、縄文土器(1～11)、石鏃(1303)、礫器(1531)、有溝石錘(1668)が出土した。廃棄土坑の可能性があり、後期初頭から前葉とみられる。

SK22(第21図 図版11)

今回の調査で確認された中で最も規模の大きい縄文時代土坑である。長軸183cm、短軸141cmで、壁面は外傾し深さは36cmである。内部には30～50cmの大型の礫が廃棄された状態で検出された。礫とともに縄文土器(18、19)が出土した。後期。

SK16(第21図 図版11)

不整形の土坑で、壁面は内湾気味に外傾する。縄文土器(17、18)、磨製石斧(1825)が出土した。後期とみられる。

SK17(第21図 図版11)

不整形の土坑で、壁面は内湾気味に外傾する。出土遺物はなし。

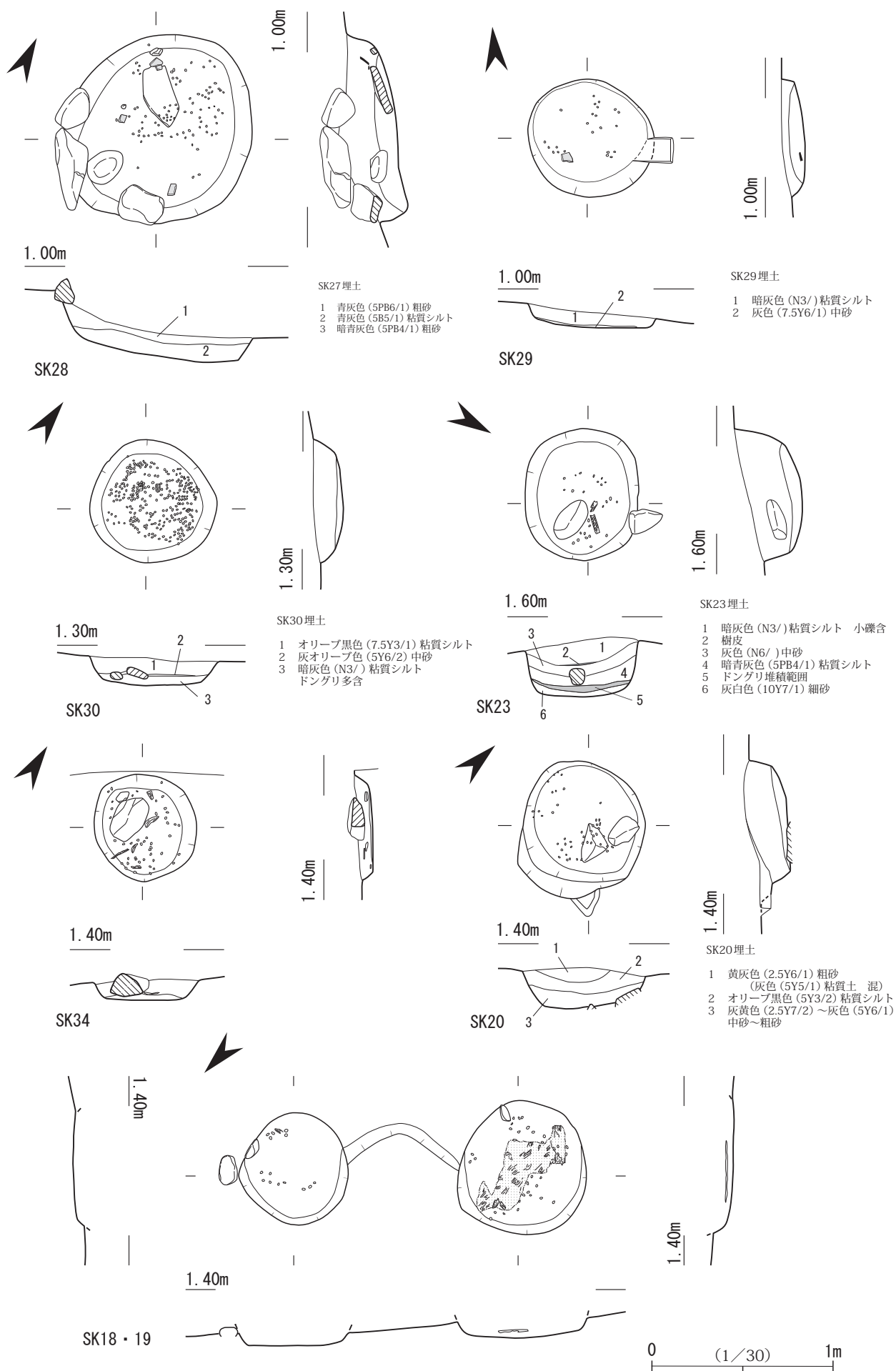
SK24・SK25(第21図 図版11)

SK24、SK25は隣接して検出された土坑である。規模、平面形は異なるが、壁面は外傾し、内部には30～50cmの礫が多く混入していた。これらの礫とともにSK24では縄文土器(16)、打製石斧(1836)、SK25では縄文土器(21～34)、打欠石錘(1689)、石鏃(1567)が出土した。いずれも廃棄土坑の可能性があり、中期末から後期初頭とみられる。

SK28(第28図 図版13)

湿地跡の縁辺に位置する堅果類貯蔵穴で、今回の調査で最も多くの堅果類が出土した。不整形で、壁面は外傾し、30cmほどの礫が土坑西側の先端にそって検出された。底面付近に出土した堅果類は、スダジイ、シイ属が1点、他はイチイガシ、アラカシで、総数568個である。

SK29(第22図 図版13)



第22図 縄文時代土坑実測図(2)

深さ13cmと浅い堅果類貯蔵穴で、壁面は短く外傾する。堅果類は底面に薄く堆積した砂層内からイチイガシ(コナラ属、アカガシ亜属含む)が出土した。

SK30(第22図 図版12、13)

小型の堅果類貯蔵穴で、壁面は外傾して立ち上がる。堅果類の種類はイチイガシ(コナラ属、アカガシ亜属を含む)である。埋土は、底面に堅果類がまとまって出土した暗灰色粘質シルトが堆積し、この上層に薄く灰オリーブ砂が流入している。なおSK30は今回の調査で最も残存状態が良好な貯蔵穴であったことから、今後の資料として遺構切り取りおよび保存を行った(図版134)。その際、堅果類は南半を取り上げ、北半は出土状態が把握できるようにそのまま残して、切り取り保存処理を行った。検出した堅果類のうち取り上げたものについては、付編で同定および数量の報告がなされている。また遺構とともに保存処理した堅果類は、保存処理の過程で肉眼観察による同定を行った結果、イチイガシと認められた。^(注)

SK23(第22図 図版13)

2区の中央、湿地跡の縁辺に位置する堅果類貯蔵穴である。壁面は直立する。底面に砂層が薄く堆積し、その上面に堅果類のイチイガシ(コナラ属)、アカガシ亜属A、木片が検出された。その上にシルト、砂が交互に堆積する。砂層上にわずかに木片、樹皮が出土した。縄文土器(14、15)が出土。

SK34(第22図 図版13)

湿地跡内に検出された小型の堅果類貯蔵穴。壁面は外傾して立ち上がる。内部には底面に縄文土器片、イチイガシ(コナラ属、アカガシ亜属含む)、木片、約30cmの礫が出土した。

SK20(第22図 図版14)

湿地跡内に検出された小型の堅果類貯蔵穴。壁面は南側が段を有するが他は直立気味に立ち上がる。堅果類はイチイガシ(コナラ属、アカガシ亜属含む)が底面に出土した。この上に黄色～灰黄色砂が覆い、さらに粘質土混じりの粗砂が堆積する。内部にはマツ材小片も出土した。

SK18(第22図 図版16)

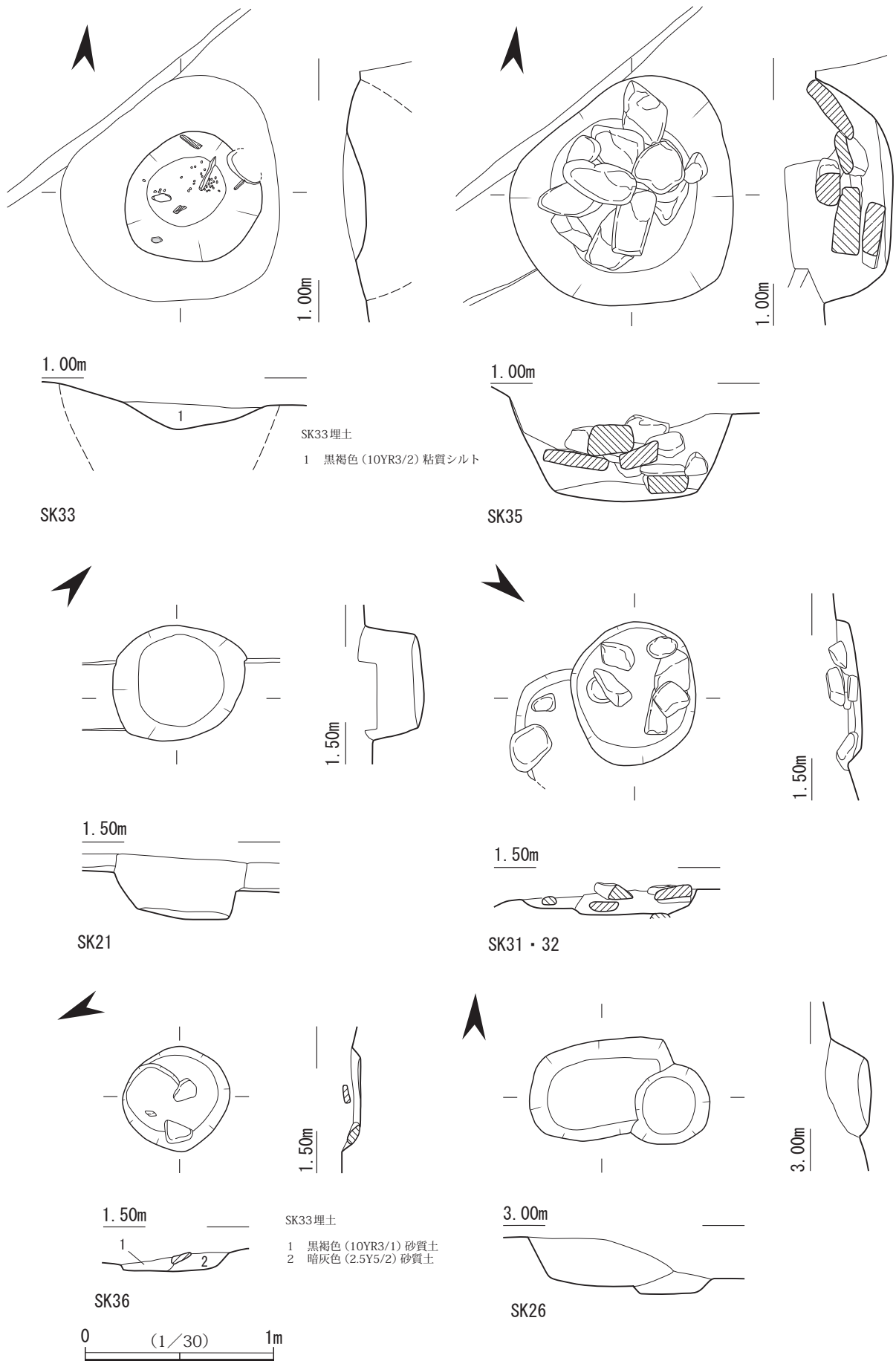
湿地内に検出された小型の堅果類貯蔵穴。深さは7cmと浅く、壁面は短く外方へ立ち上がる。堅果類はイチイガシ(コナラ属、アカガシ亜属含む)、アカガシ亜属Aで、底面から出土した。

SK19(第22図 図版16)

SK18に隣接して検出された小型の堅果類貯蔵穴。深さは10cmで、壁面は短く外方へ立ち上がる。堅果類はイチイガシ(コナラ属、アカガシ亜属含む)、アカガシ亜属Aで、底面から出土した。堅果類の上面には木片、樹皮(いずれも樹種不明)が60cm×40cmの範囲で確認された。

SK33(第23図 図版16)

20・21-2区の東端で、湿地跡の縁辺部に位置する。SK33とSK35はほぼ同一場所に重複して検出されたが、土層観察の結果、SK35埋没後SK33が掘りこまれている。径70～74cm、深さ13cmで、断面は浅い皿状を呈する。内部からはイチイガシ(コナラ属、アカガシ亜属含む)、スダジイ、ツブラジイなどのシイ属が検出されたことから堅果類貯蔵穴とみられる。ドングリの組成でシイ属が圧倒的に多いことは特徴的であり、他の貯蔵穴にはみられない。他にヒノキ炭化材が認められた。遺物は縄文土器(39～42)が出土した。混入とみられる前期前半の42以外は、後期初頭とみられる。



第23図 縄文時代土坑実測図(3)

SK35 (第23図 図版15)

SK33に先行し、径118～130cm、深さ58cmと堅果類貯蔵穴としては今回検出された中で最大の規模である。断面は、丸底から壁面が外傾して立ち上がる形態である。内面には30～40cmの大型礫が充填されており、これらの礫を除去した底面周辺で堅果類が出土した。確認された堅果類はイチイガシ(コナラ属、アカガシ亜属含む)、アラカシで、その他としてクスノキ、マツ、キハダ?等の木片、樹皮片が認められる。

SK21 (第23図 図版16)

2区の中央部分に位置し、浜堤と湿地跡の境に位置する。円形の土坑で、断面は円筒形をなす。埋土は暗灰色粘質シルトで、わずかに炭を含む。底面には粗砂が薄く堆積していた。

出土遺物はなし。内部には20cmほどの礫が入り込んでいた。底面からイチイガシ(アカガシ亜属)が1点のみ出土したが、規模、埋土や立地から、他の堅果類貯蔵穴と同様の土坑とみられる。

SK31・32 (第23図 図版16)

SK21の北側に隣接し、SK31とSK32が重複して検出されたが、前後関係は不明である。SK31は深さ11cm、SK32は6cmと浅いため、上部を削平された可能性がある。埋土は灰～オリーブ黒色粘質シルトで、粗砂がブロック状に入り込む。いずれも出土遺物はない。堅果類も検出されなかったが、SK21と同様、堅果類貯蔵穴である可能性が高い。

SK26 (第23図)

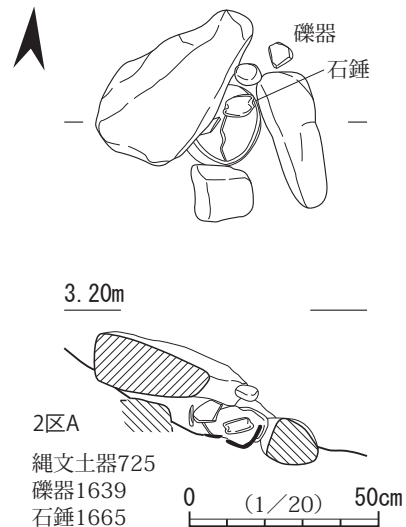
3区の西側、丘陵斜面で検出された土坑である。東側で径40cmの柱穴と重複している。隅丸長方形で縄文土器片が出土した。検出面は3区縄文時代柱穴が確認された遺構面と同層と考えられる。

SK36 (第23図 図版16)

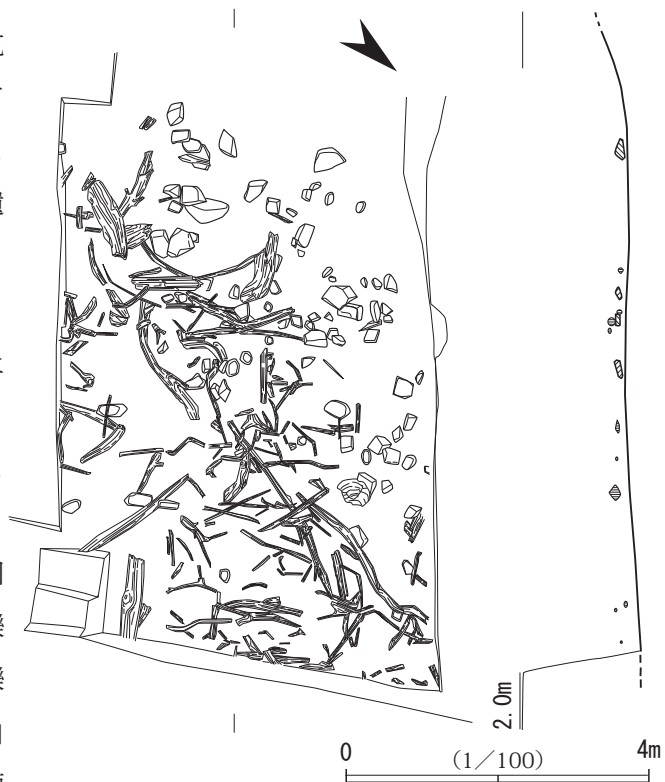
SK17に隣接する径52～55cmの小型土坑である。貯蔵穴群と同じ遺構面であり、規模や埋土から貯蔵穴である可能性が高い。

包含層内遺物出土状況 (第24図)

縄文土器の出土状況として第24図と図版28～30を示した。礫群がある場合は礫と礫の間に挟まっているような状態で、礫群を掘り下げる時に多く出土する。「縄文3」包含層では、マンガンまたは鉄が沈着・硬化層が不均一に堆積しており、この中に位



第24図 縄文時代遺物出土状況図

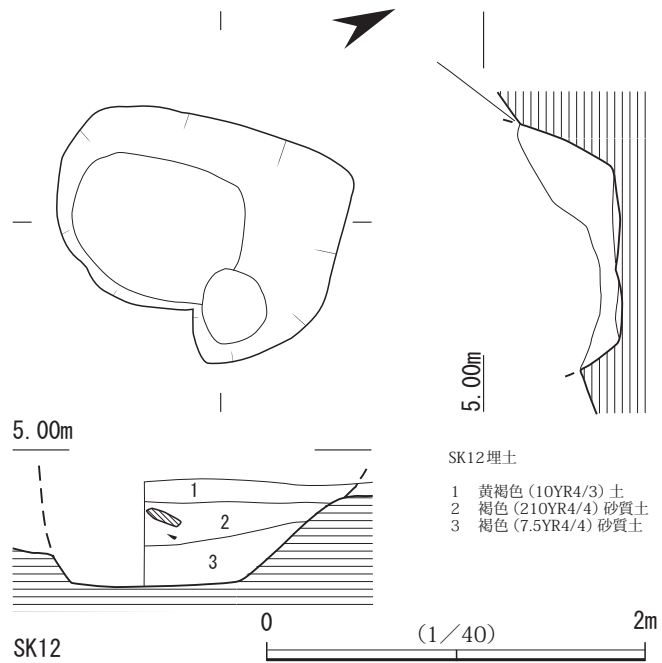


第25図 縄文時代自然木検出状況図

置する縄文土器はマンガン粒が付着していることが多い。

自然流木検出状況 (第25図 図版24)

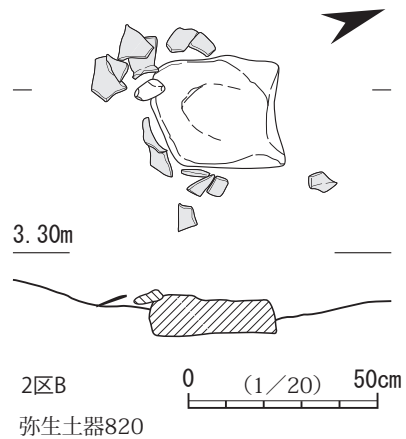
2区の最下層は、旧浜堤形成層である暗灰黄色砂礫層(玉砂利等含む)が南西に傾斜しており、この上面に多くの自然流木、種子、葉、樹皮を含む暗オリーブ色～黒褐色粘質シルトが堆積していた。自然木は折り重なるような状態で検出され、樹種同定から河畦林を構成した樹木とみられる。北側谷部周辺の木々が洪水等により流出し、浜堤斜面に堆積したとみられる。なお自然遺物に混じって縄文土器細片が出土したが、表面が摩滅しているため、詳細は不明である。



第26図 弥生時代土坑実測図

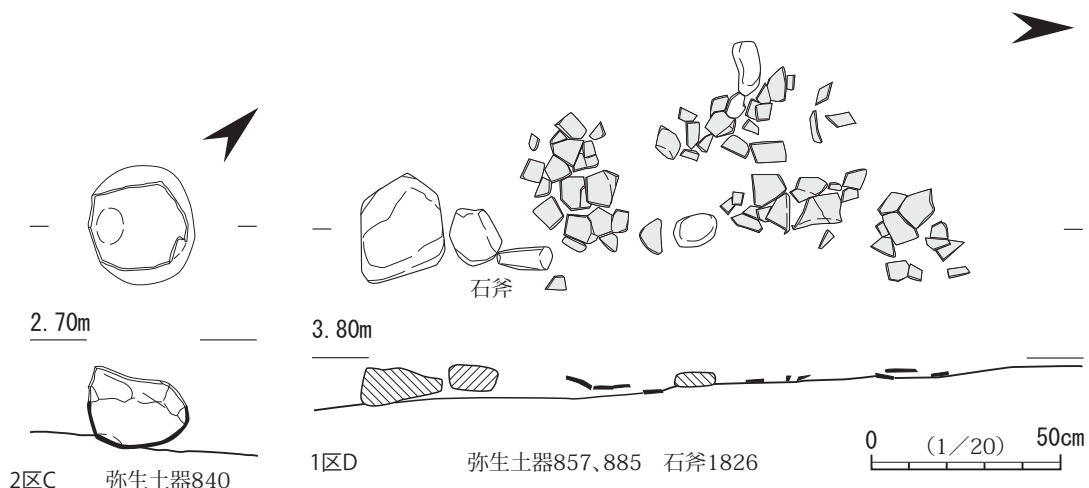
(2) 弥生時代

弥生時代の遺構で確認されたのは、山側傾斜面で検出したSK12である。弥生包含層はほぼ全域に広がっており、遺物が集中するのは海岸側の礫群中で、その中心時期は弥生時代前期から中期初頭である。遺構がほとんどないのは、高潮等による海岸礫の移動や浸食によって破壊されたものとみられ、それに伴い遺物の拡散や包含層の形成がなされたのであろう。



第27図 弥生時代遺物出土状況図(1)

遺物の出土状況は、第27、28図のように、包含層内の礫群とともに出土した状況(B)や、口頸部が欠損した壺が単独で出土したり(C)、遺構内ではないが同一個体片がまとまって出土した(D)などがあり、先に述べた堆積状況を示している。



第28図 弥生時代遺物出土状況図(2)

SK12 (第27図 図版18)

3区の西側、花崗岩風化土の丘陵斜面で検出された。長径154cm、短径104cm、深さは15～56cmである。東半に柱穴状の凹みを持つ平面不整形の土坑である。埋土は3層からなり、炭も含む。出土遺物は弥生土器片のみが出土したことから、弥生時代の土坑と判断した。

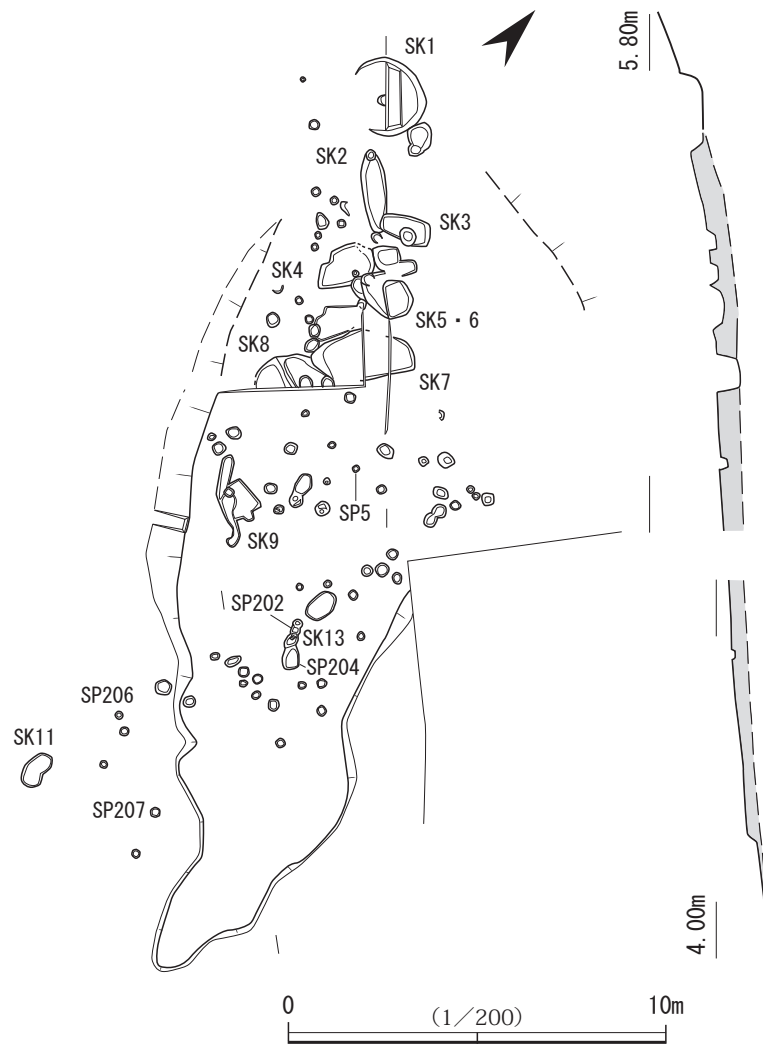
(3) 古墳時代

古墳時代の遺構は確認されていない。古墳時代遺物単独の包含層はなく、弥生主体の包含層内に散見される程度である。遺物の分布は2区の東半と3区に認められる。

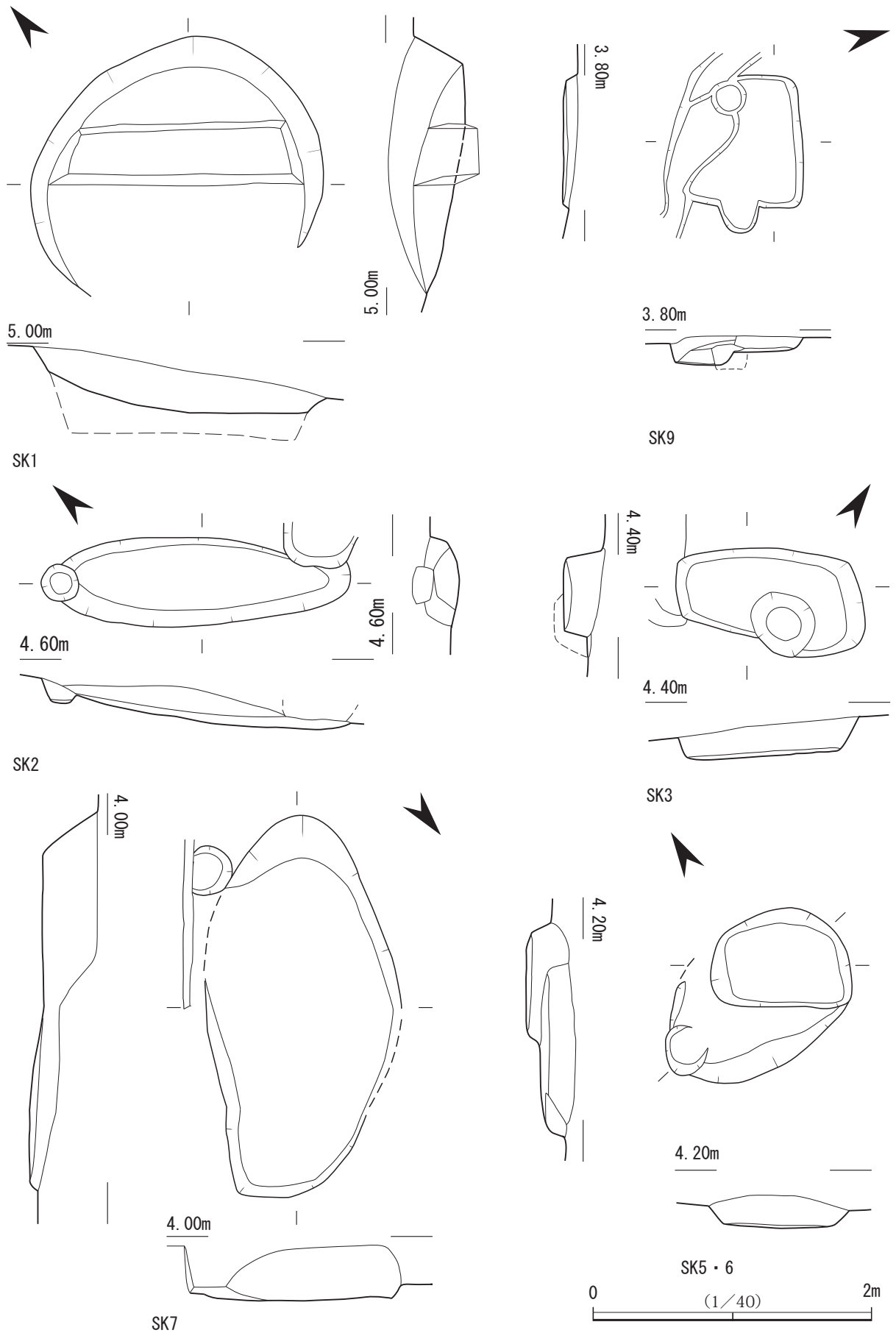
(4) 古代以降

土層断面O・P-O'・P'の観察によると、古代以前の弥生湿地跡や包含層を覆うように、西側谷部からの安定した浅黄色土および明黄褐色土の堆積土が扇形に広がっている。範囲は北西から南東にかけて長さ約18m、幅7mにわたり、厚さは最大で約60cmである。この安定した基盤に柱穴や土坑が掘り込まれ、遺構面を形成している。東側は湿地跡と接し、その境に杭列を設けている。遺構面の時期は層内から古代須恵器片が少量出土し、さらに整地層上面から古代須恵器片、土師器片が出土したことから、古代と見て良いだろう。なお遺構からは中世に属する土器片も少量ではあるが出土しており、上層から掘り込まれた柱穴もあるとみられる。

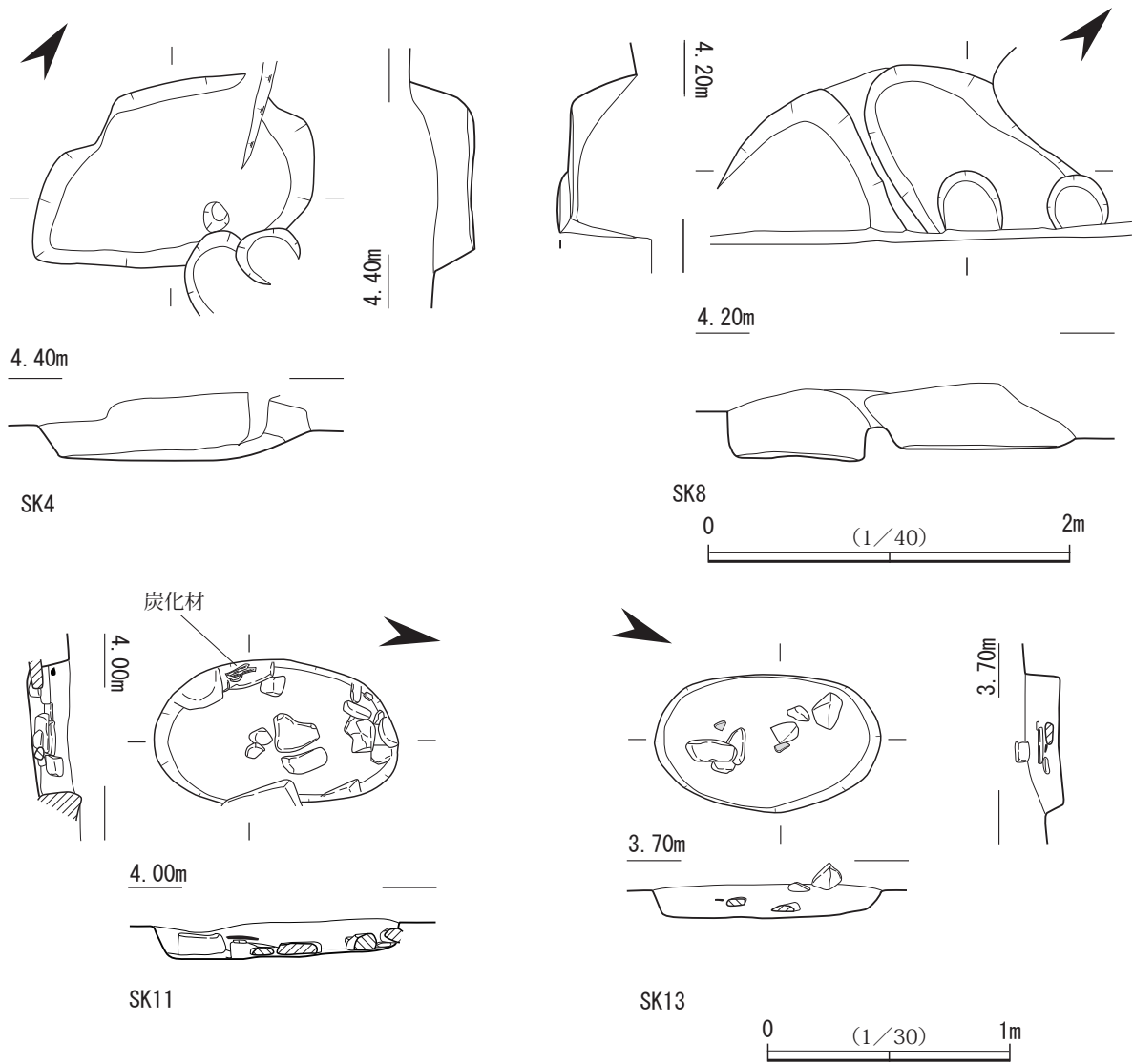
残存する遺構面より海岸側にかけては、古代以前の礫層が広く分布しており、その上面または上位の堆積層からSK12、SK10を検出した。特にSK10からは製塩土器が出土し、周囲の礫層上面からは製塩土器、土師器カマド片が分布することから、古代の遺構は海岸部まで広がっていたと見て良いだろう。製塩土器は中央の遺構面には見あたらないことから、海岸側で製塩が行われた可能性がある。海岸側に生活遺構が確認できないのは、高潮等による浸食に加え、このような生産と居住の場による遺構の違いも考慮されよう。



第29図 古代遺構面実測図



第30图 古代以降土坑実測図(1)



第31図 古代以降土坑実測図(2)

第2表 弥生時代～古代・中世 土坑一覽

番号	調査区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	平面形	出土遺物	備考
SK 1	20・21-1	208	186	55	円形		
SK 2	20・21-1	220	63	25	長円形		
SK 3	20・21-1	130	63	26	隅丸方形		
SK 4	20・21-1	148	102	26	不整形		
SK 5	20・21-1	126+ α	94+ α	24	長円形		
SK 6	20・21-1	100	72	24	隅丸円形		
SK 7	20・21-1	274	125+ α	38	不整長円形		
SK 8	20・21-1	190	90+ α	39	不整形		
SK 9	20・21-1	96	85+ α	10	不整形		
SK10	20・21-1	73	63+ α	28	円形	製塩土器	古代
SK11	20・21-2	101	60	13	長円形	炭化材片	
SK12	20・21-3	154	104	15～56	不整形	弥生土器片	弥生
SK13	20・21-3	93	57	14	長円形	土師器片、棒状土錘	古代

柱穴 (第29図 図版19、21)

遺構面で確認された柱穴は90個である。径20～30cmで、深さは10～30cm。同一方向に並ぶ柱穴はあるものの、配置から建物を復元することはできなかった。

土坑 (第30～32図 図版18)

検出された土坑は整地層の西半に位置するSK1～9と、東半に位置するSK11、13、海岸側で製塩土器が出土したSK10である。なお土坑の規模は第2表を参照のこと。

SK1～SK 8 (第30・31図 図版18)

整地層の西半に集中して検出された土坑群である。平面形は円形、長円形、不整形があり、長径は100～274cm、短径63～186cm、深さ24～55cmの規模である。いずれも埋土は褐色土の単一層。SK 8では2つの土坑が重複しているようにみえるが、埋土の差がないことから、同一の土坑と判断した。これらの土坑内からの出土遺物は皆無である。埋土中に炭や有機物を含んでおらず単一層であることから、何度も同じ範囲を掘り返して短期間に埋まったことがうかがえる。土坑の性格は明らかでないが、不整形な形状から古代以降の土取りを目的とした掘削坑などが考えられる。

SK 9 (第30図)

整地層の中央に位置する。南半を溝状の遺構と、東端で柱穴と重複しているが、本来は一辺約1mの方形とみられる。埋土は褐色粘質土。出土遺物はなし。

SK11 (第31図 図版11)

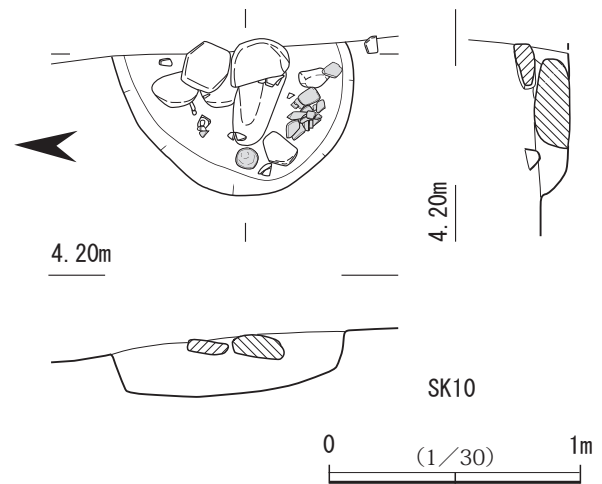
南北に主軸がある長円形の土坑である。整地層の南側、礫群の上面で検出された。内部には炭化材の一部や炭があり、内部の礫にもわずかに被熱の痕跡が認められた。出土遺物はなし。

SK13 (第31図 図版11)

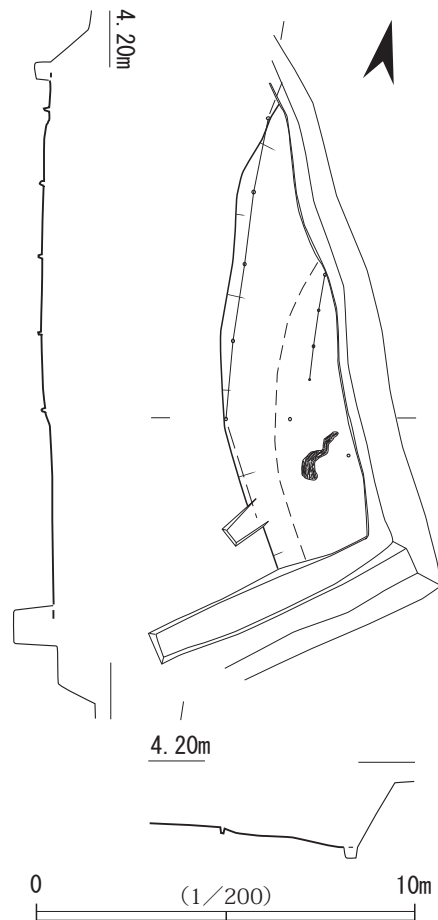
遺構面で検出された南北に主軸がある長円形の土坑である。内部には20cmほどの礫が廃棄されていた。出土遺物は土師器細片と棒状土錘(1059)である。

SK10 (第32図 図版17)

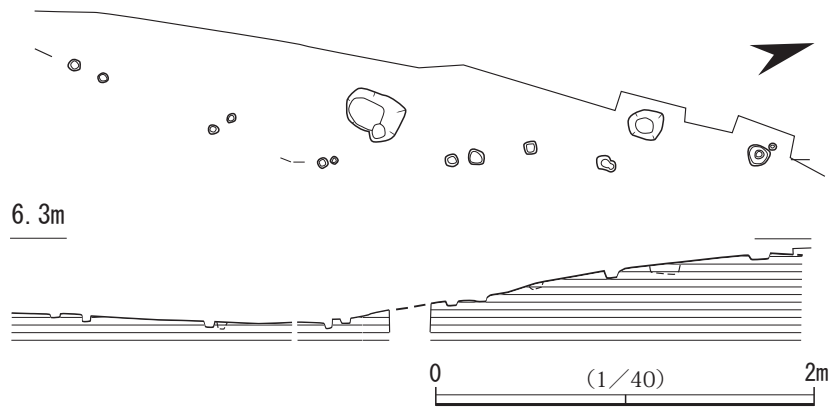
1区の海岸側で検出された土坑である。土層



第32図 古代以降土坑実測図(3)



第33図 杭列跡実測図



第34図 柱穴列跡実測図

断面H-H'の観察の結果、礫を多く含む縄文、弥生土器の包含層を掘り込んでいることが明らかとなった。内部には20～30cmの礫があり、それとともに製塩土器(1019～1022)が出土した。礫や土坑壁面には被熱の痕跡は確認されていないため、製塩に直接関連のある遺構かどうかは不明である。なお土坑の東半部は2区側に存在すると考えられたが、調査の結果、土坑の深さが浅く、基底面の礫の多くが露出していることと相まって、輪郭を検出するには至らなかった。

土坑は、掘り込まれた面を層序的に判断して、古代遺構面に相当するとみられる。また2、3区でもSK10が位置する海岸側では礫に混じりながら製塩土器片や土師器カマド片が出土していることから、海岸側で製塩が行われていた可能性がある。

杭列跡(第33図 図版21)

2区の東端に古代相当の湿地跡とともに杭跡が検出された。径5～10cm、深さ10～15cmで、内部には木質や杭の一部が残存しているものがある。これは2.0～2.1mの間隔で湿地跡の縁辺にそって直線的に並んで検出されたことから、杭列跡とみられる。

柵跡(第34図 図版20)

1、2区の西側、調査区端の山側斜面に柱穴群が検出された。明黄褐色土の地山を掘り込み、径20～40cm、深さは10～20cmと上部を削平されているとみられる。柱穴の配置から、南西から北東、および南から北へつながる位置関係が見て取れ、距離は柱間3.3～4.0mである。これより1mほどで現地形は急傾斜となることから、柱穴は建物を構成するものではなく、斜面と居住区の間にある柵跡の可能性が考えられる。またいずれも2個1組であることから、柵の支柱または建て替えも考慮される。柱穴内からの出土遺物がないため時期は不明確であるが、埋土の土色比較や検出標高から古代相当層に対応するとみられ、古代遺構面(第29図)の遺構と関連性が指摘される。

(注)(財)元興寺文化財研究所にて実施し、総数161個で、内訳はイチイガシ果実(果皮のみ残存)13、殻斗2、果実(果皮)146である。

3 遺物

今回の調査では遺物包含層を中心に、縄文時代から古代、中世にかけての遺物が多数出土した。最も多いのは縄文時代遺物で、弥生時代、古代がこれに続く。中世の遺物は前回と同様少量で、一定量を占めた古墳時代遺物は少ないのが特徴である。縄文時代は前期から晩期までの遺物が出土したが、その多くは後期（主として後期前半）である。弥生時代は前期から後期までの遺物が出土したが、前期から中期初頭のものが最も多い。

以下、各時代ごとに主たる出土遺物について述べるとともに、その詳細については遺物観察表にまとめた。遺物観察表のうち、「出土位置」は各区における平面的位置として、設定トレンチ、土層観察用土手、方位、方向（海側、山側など）を用いて表記している。「層位・遺構」では、本文「2 遺構」で述べたとおり、出土遺物から判断した包含層の時期を表記した。縄文時代はこれに加えて堆積順序も考慮して、「縄文」、「縄文2」、「縄文3」などに分層している。

なお遺物包含層は、高潮等の浸食、攪乱によって形成されたものもあることから、他時期の遺物が混在する場合がある。時期の異なる出土遺物が多く中心時期が判断しづらい包含層や、包含層間の境で明確な分層による遺物の取り上げが難しかった場合は、「弥生～古代」、「縄文～弥生」などの表記を用いて遺物を取り上げている。観察表の「胎土」では、石英・長石を含むものは「砂粒含」とし、その他特長的な石粒子を含む場合は別途表記している。

(1) 土器・土製品

縄文土器（第35～106図 図版31～80）

1～11はSK15出土。1は浅鉢。口縁部内面の屈曲部に稜を有し、外面に幅の狭い縄文帯を施す。内面ミガキ調整。福田KⅡ式とみられる。2～6は深鉢。2は外面に沈線文を施す。内外面ナデ調整。3は口縁部が内湾し、外面に沈線文を施す。波頂部に刻みを3箇所施す。内面ナデ調整。4は波頂部の高い波状口縁をなし、口縁部は内湾する。5は緩やかな波状口縁をなす。内外面ナデ調整。6は口縁部が外反し、口唇部に刻みを施す。7、8は浅鉢。7は体部が皿状に大きく開く。内面ナデ調整。8は体部が大きく開き、口縁端部が屈曲し、口唇部を尖り気味に処理する。内外面ミガキ調整。9～11は深鉢の底部。9、11は上げ底、10は平底である。

12、13はSK14出土。12は深鉢で、口縁部が緩やかに内湾する。内外面ミガキ調整。13は深鉢の底部で、やや上げ底をなす。

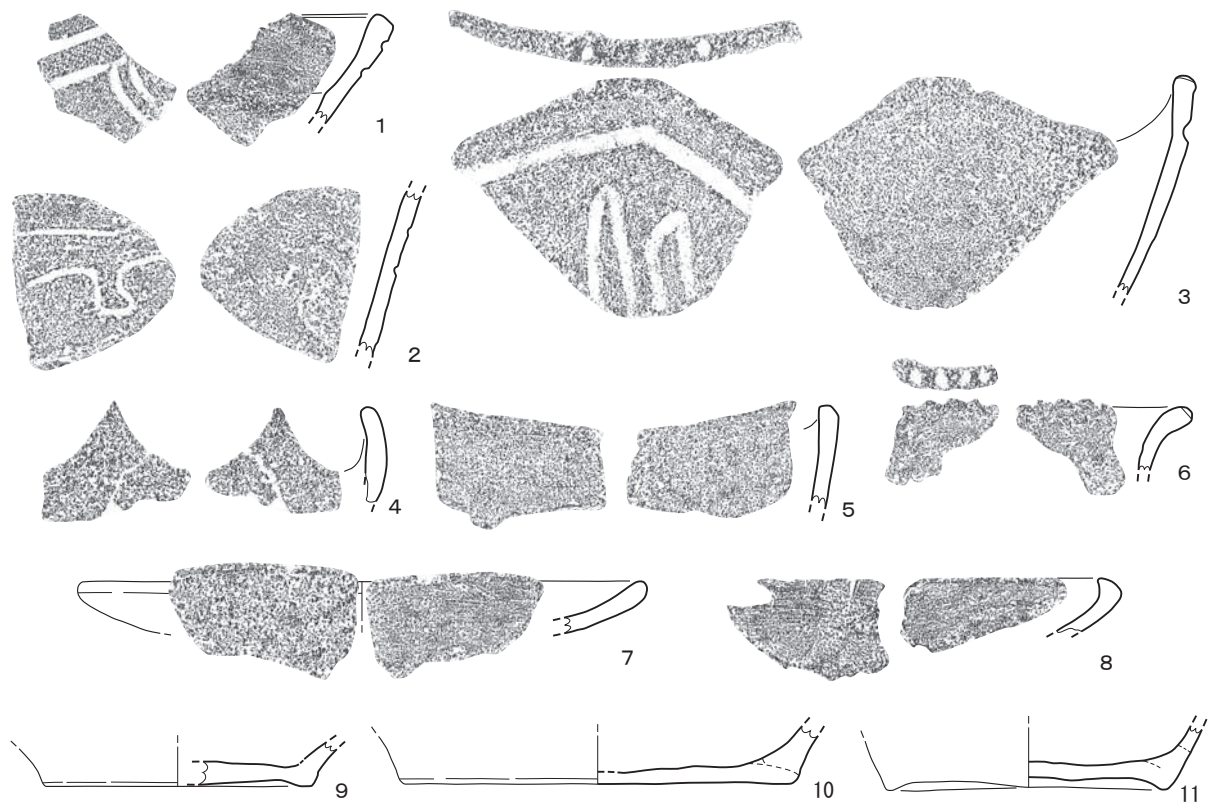
14、15はSK23出土の浅鉢。14は体部が開き、口唇部が平坦面をなす。外面に沈線文を施す。外面ミガキ、内面ナデ調整。15は内湾し、内外面ナデ調整。

16はSK24出土の深鉢で、口縁部がやや内湾する。外面に沈線文を施す。

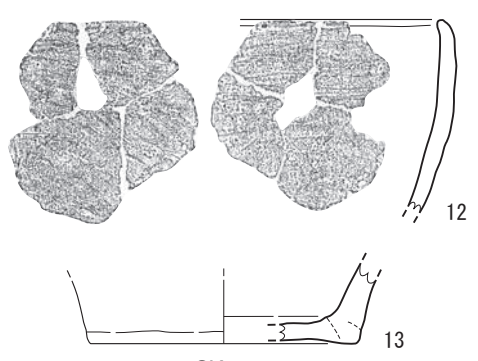
17、18はSK16出土。17は深鉢で、波状口縁をなし、口縁部がやや内湾する。外面に沈線文を施す。18は浅鉢で、体部が大きく開く。内外面ナデ調整。

19、20はSK22出土。19は深鉢の胴部片で、直線的に立ち上がる。外面に沈線文を施す。20は深鉢の底部で、やや上げ底をなす。

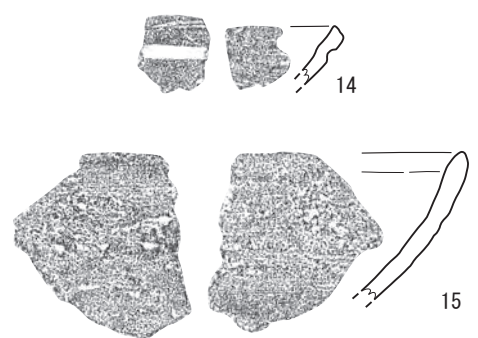
21～34はSK25出土。21～28は深鉢。21は頸部がややくびれ口縁部が直線的に立ち上がる。外面に磨消縄文を施す。方形区画文を施文し、区画内に縄文を施す。24は山形口縁をなし、口縁部が



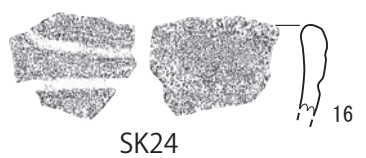
SK15



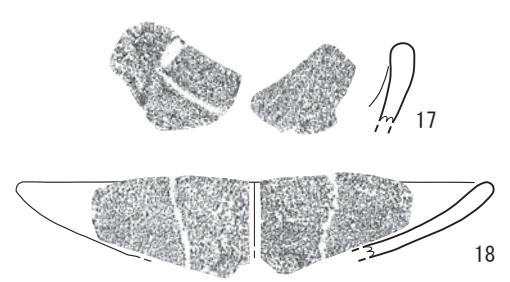
SK14



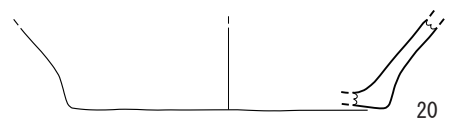
SK23



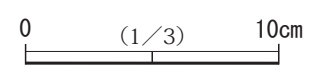
SK24



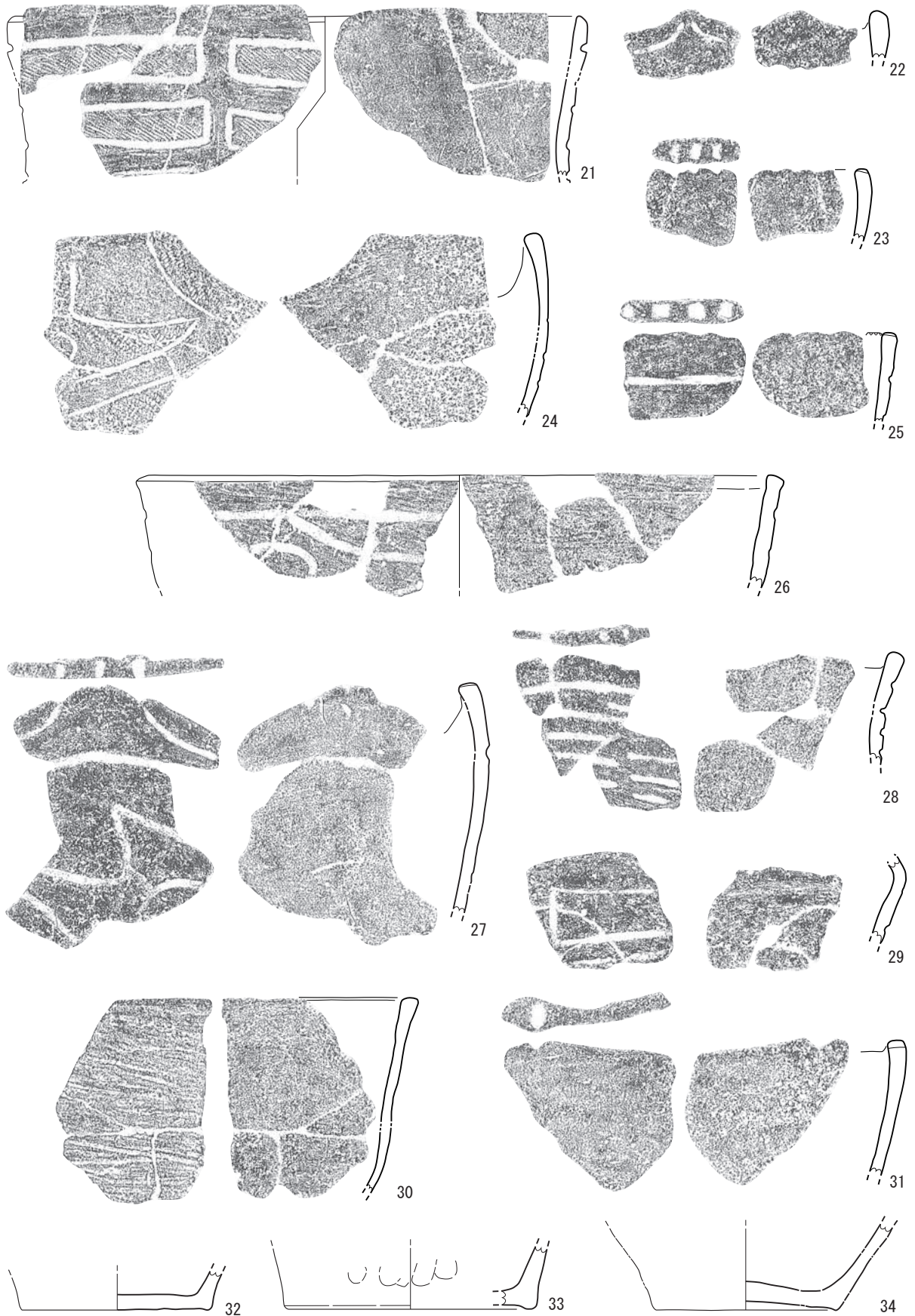
SK16



SK22



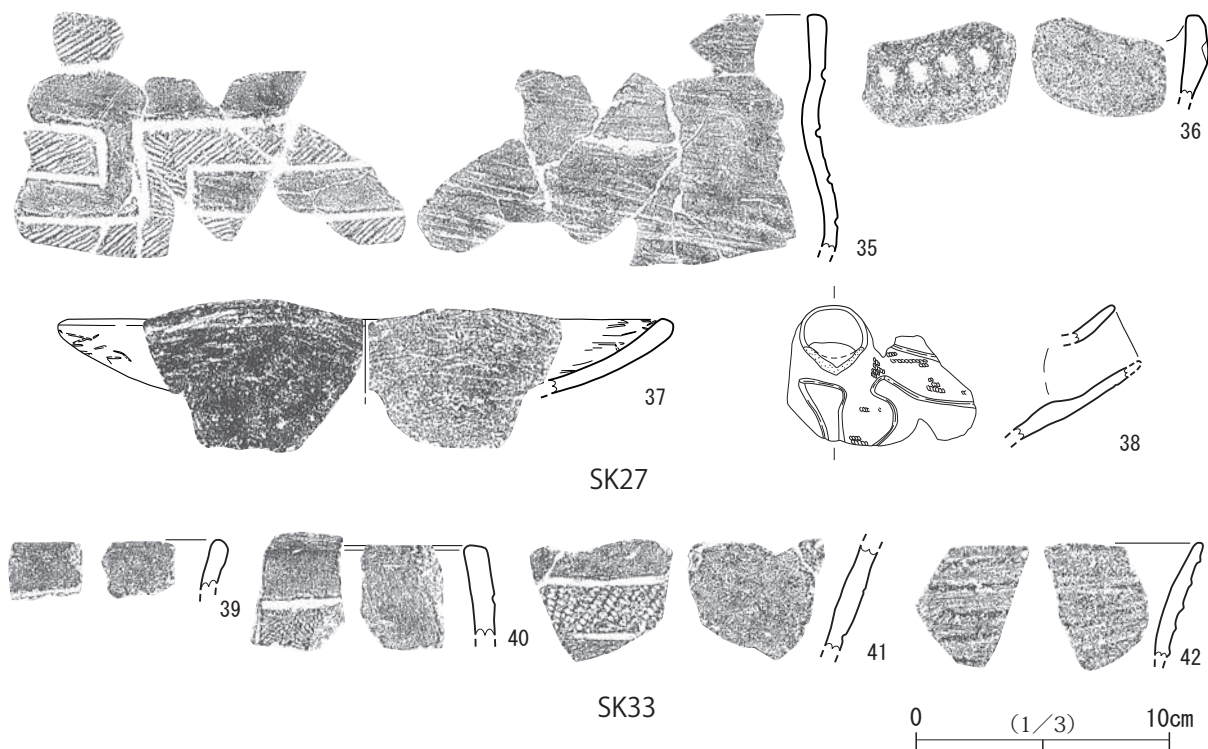
第35図 縄文土器実測図(1)



SK25

0 (1/3) 10cm

第36図 縄文土器実測図(2)



第37図 縄文土器実測図(3)

内湾する。外面に磨消縄文を施す。これらは後期初頭に位置づけられる。22は緩やかな波状口縁をなし、沈線文を施す。23は口縁部が内湾し、口唇部に刻みを施す。25は口縁部が直線的に立ち上がる。口唇部に刻み、外面に沈線文を施す。26は口縁部が外傾し、口唇部は平坦面をなす。外面に幅広く浅い沈線文を施す。内外面に粗いナデ調整。27は波状口縁をなし、口縁部が内湾する。波頂部に刻みを施し、外面に沈線文を施す。包含層出土の225と同様の文様意匠であり、同一個体の可能性がある。28は緩やかな波状口縁をなし、口縁部が外反する。口唇部に刻み、外面に短沈線を施す。29は浅鉢で、体部が直線的に立ち上がり、口縁端部が内側に屈曲する。外面に方形区画文を施す。内外面ナデ調整。30、31は深鉢。30は胴部が丸く、口縁部が外傾する。外面条痕、内面ナデ調整。31は緩やかな波状口縁をなし、口縁部が内湾する。波頂部に刻みを施す。32～34は深鉢の底部。32は平底で、内外面ナデ調整。33、34は上げ底をなす。

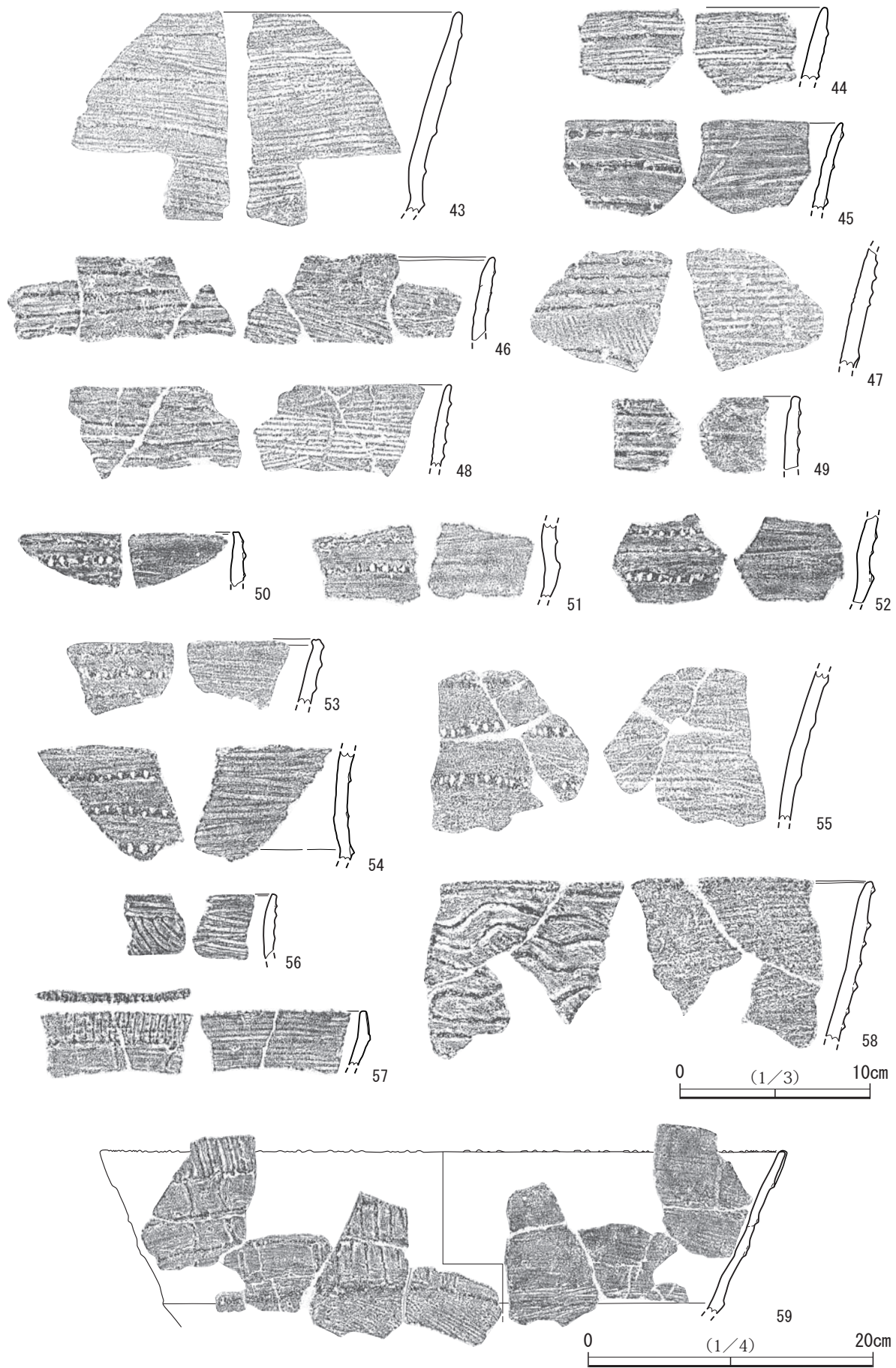
35～38はSK27出土。35、36は深鉢。35は胴部がやや張り、頸部がくびれ口縁部が直線的に立ち上がる。外面に区画文を施し、縄文部と無文部を対称に配する。外面ナデ、ミガキ調整、内面はミガキ調整を施すが、一部に二枚貝条痕の痕跡が残る。36は波状口縁をなし、外面に刻みを施す。刻みの施文原体は巻貝の可能性がある。37は浅鉢で、体部が大きく開く。内外面ミガキ調整。38は注口土器で、外面に磨消縄文を施す。これらは後期初頭に位置づけられる。

39～42はSK33出土の深鉢。39は外面に沈線文を施す。40、41は外面に磨消縄文を施す。40は外面に煤が付着する。これらは後期初頭に位置づけられる。42は口縁部が外反し、外面に隆帯文を有する。内面二枚貝条痕調整。轟B式とみられる。

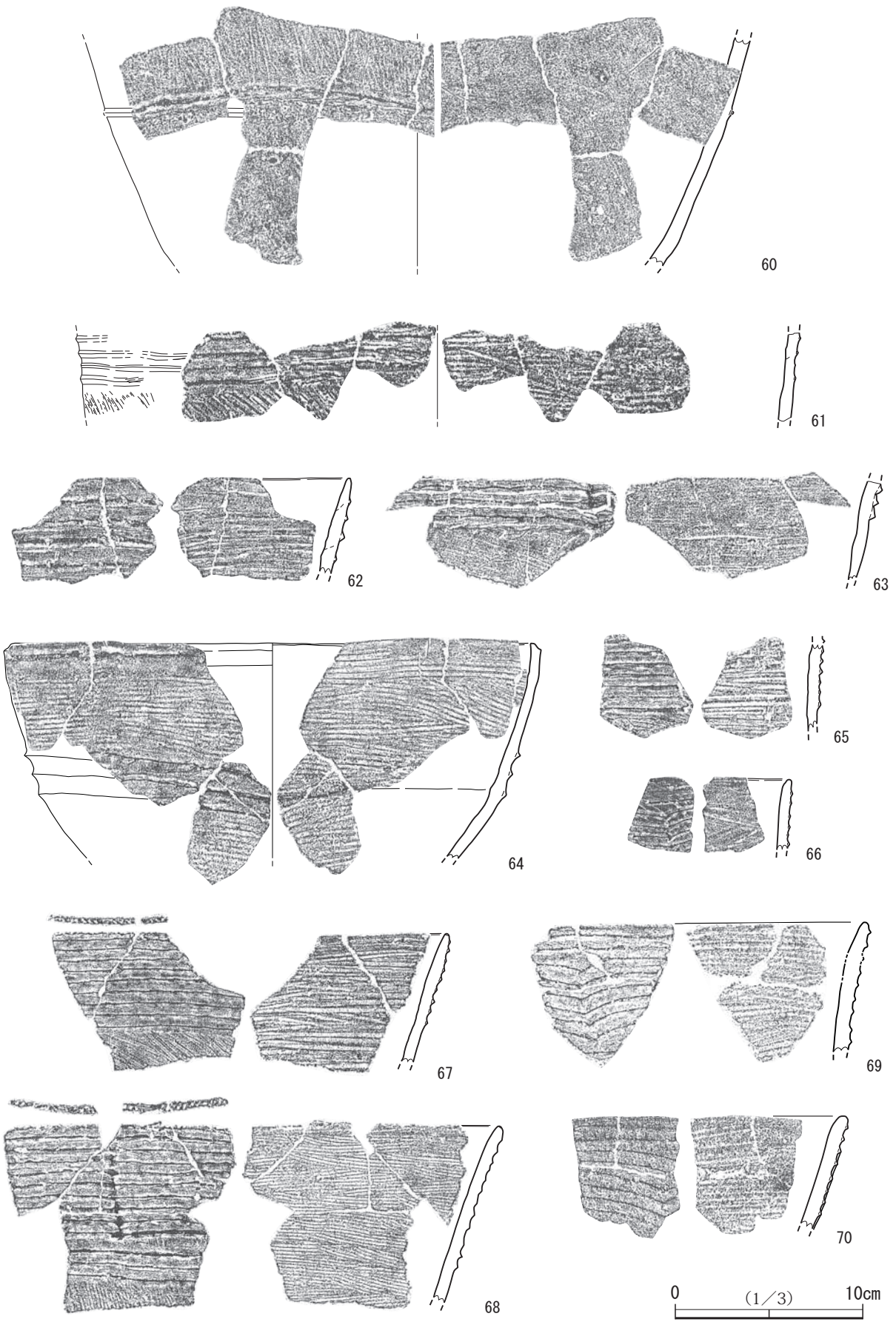
43～801は包含層出土の土器である。43～586は、時期、型式あるいは文様系統ごとに特徴を記述する。43～49は口縁に並行するミミズバレ状の隆帯文を有する。43は胴部が屈曲し、口縁部が外

反する。外面に隆帯文を4条施す。内外面二枚貝条痕調整。44は内外面二枚貝条痕調整。45は口縁部がやや外反し、口唇部を尖り気味に処理する。外面に隆帯を貼り付ける。46は口縁部がやや外反する。外面ナデ、内面二枚貝条痕調整。47は胴部片で、隆帯文が5条認められるが、下方の1条はやや斜行しているため、弧状や波状を呈する可能性がある。外面斜位、内面横位の二枚貝条痕調整。48は外面ナデ、内面二枚貝条痕調整。49は外面に隆帯を貼り付ける。50～55は隆帯上に刻みを施す。50は隆帯を貼り付け、刻みを施す。51、52は胴部片で緩やかに屈曲する。52は隆帯を貼り付け、刻みを施す。内面ナデ、外面二枚貝条痕のちナデ調整。53は内面二枚貝条痕調整。54は胴部内面の屈曲部に稜を有する。屈曲部にも隆帯を有する。内外面二枚貝条痕調整。55は外面二枚貝条痕、内面二枚貝条痕のちナデ調整。56は口縁端部からやや下がった位置に水平な隆帯文を2条施し、その下に斜位の隆帯文を施す。外面ナデ、内面二枚貝条痕調整。57は口縁端部がやや屈曲する。口縁端部外面に縦位の隆帯文を施す。内外面二枚貝条痕調整。58は口縁端部外面に水平な隆帯を1条貼り付け、その下に波状の隆帯を貼り付ける。内外面二枚貝条痕調整。59は胴部が屈曲し、屈曲部の内外面に稜を有する。口縁端部外面に縦位の隆帯を貼り付け、その下から屈曲部まで、水平な隆帯文4条と縦位の隆帯文を組み合わせ格子状に施す。内外面条痕、ナデ調整。60、61は胴部片。60は隆帯を1条貼り付ける。外面二枚貝条痕、内面ナデ調整。61は胴部がほぼ垂直に立ち上がる。隆帯文が4条認められる。外面斜位、内面横位の二枚貝条痕調整。62～64は稜が明瞭で断面三角形を呈する隆帯を貼り付ける。62は内面二枚貝条痕調整。63は胴部片で、3条の隆帯を間隔を空けずに貼り付けている。外面条痕のちナデ、内面ナデ調整。64は胴部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。胴部に3条の隆帯を貼り付ける。内外面二枚貝条痕調整。65～72は隆帯文を間隔を空けずに施し、口縁端部は尖り気味に処理する。65は胴部片で、7条の隆帯文を確認できる。内外面二枚貝条痕調整。66は口縁端部外面に水平な隆帯2条、その下に弧状の隆帯を貼り付ける。内面二枚貝条痕、ナデ調整。67は外面に9条の隆帯文を施す。外面斜位、内面横位の二枚貝条痕調整。68は口縁部が外傾し、口唇部に細かい刻みを施す。外面に12条の隆帯文を施す。外面縦位、内面横位の条痕調整。69は口縁端部外面に水平な隆帯文2条、その下に弧状の隆帯文6条、横位の隆帯文1条を施す。内面二枚貝条痕調整。70は口縁端部外面に水平な隆帯文2条、その下に弧状の隆帯文を6条確認できる。外面ナデ、内面二枚貝条痕調整。71は口縁端部からやや下がった位置に水平な隆帯文2条、その下に弧状の隆帯文4条、水平な隆帯文2条を施す。内外面斜位の二枚貝条痕調整。72は胴部片で、弧状の隆帯文2条と水平な隆帯文2条を確認できる。内外面ナデ調整。73は口縁部に隆帯を5条貼り付ける。外面斜位、内面横位の二枚貝条痕調整。43～73は轟B式とみられる。

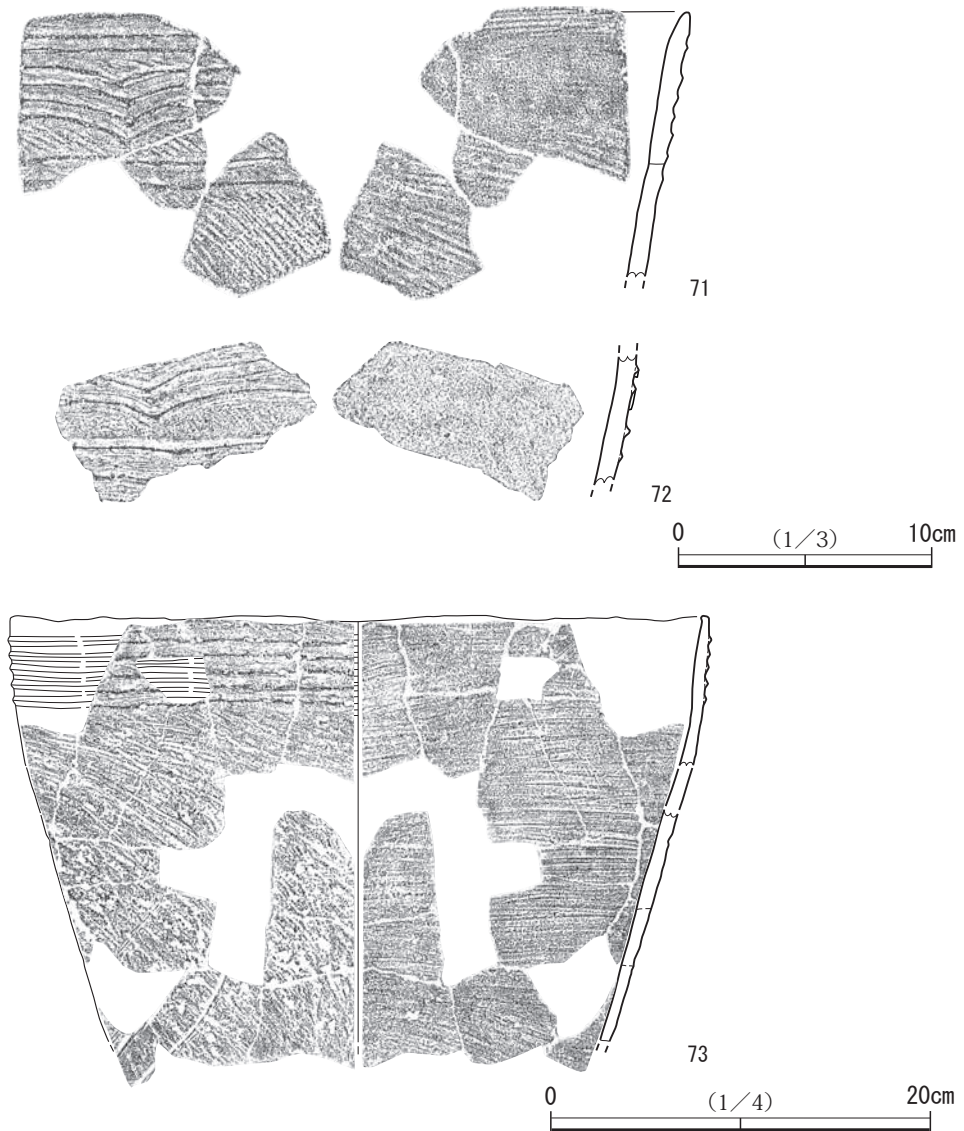
74は口縁部外面に爪形刺突文3段、口唇部に刻みを施す。内面条痕調整。75、76は胴部片で器壁が厚く、外反する。外面に爪形刺突文を施し、外面ナデ、内面条痕調整。80は爪形刺突文を施し、外面ナデ、内面条痕調整。74～76、80は羽島下層Ⅱ式とみられる。77は外面に斜位の押引文、口唇部に刻みを施す。外面ナデ、内面二枚貝条痕調整。78は外面に押引文を4段施す。内面ナデ調整。79は外面に爪形刺突文を施す。内外面ナデ調整。81は胴部片で、外面に刺突文を施す。内面ナデ調整。82は口縁部外面に押引文を施す。内面ナデ調整。83は胴部片で、横位と縦位の押引文が確認できる。外面ナデ、内面二枚貝条痕調整。84は口縁部外面に刺突文、口唇部に刻みを施す。口縁部の



第38図 縄文土器実測図(4)

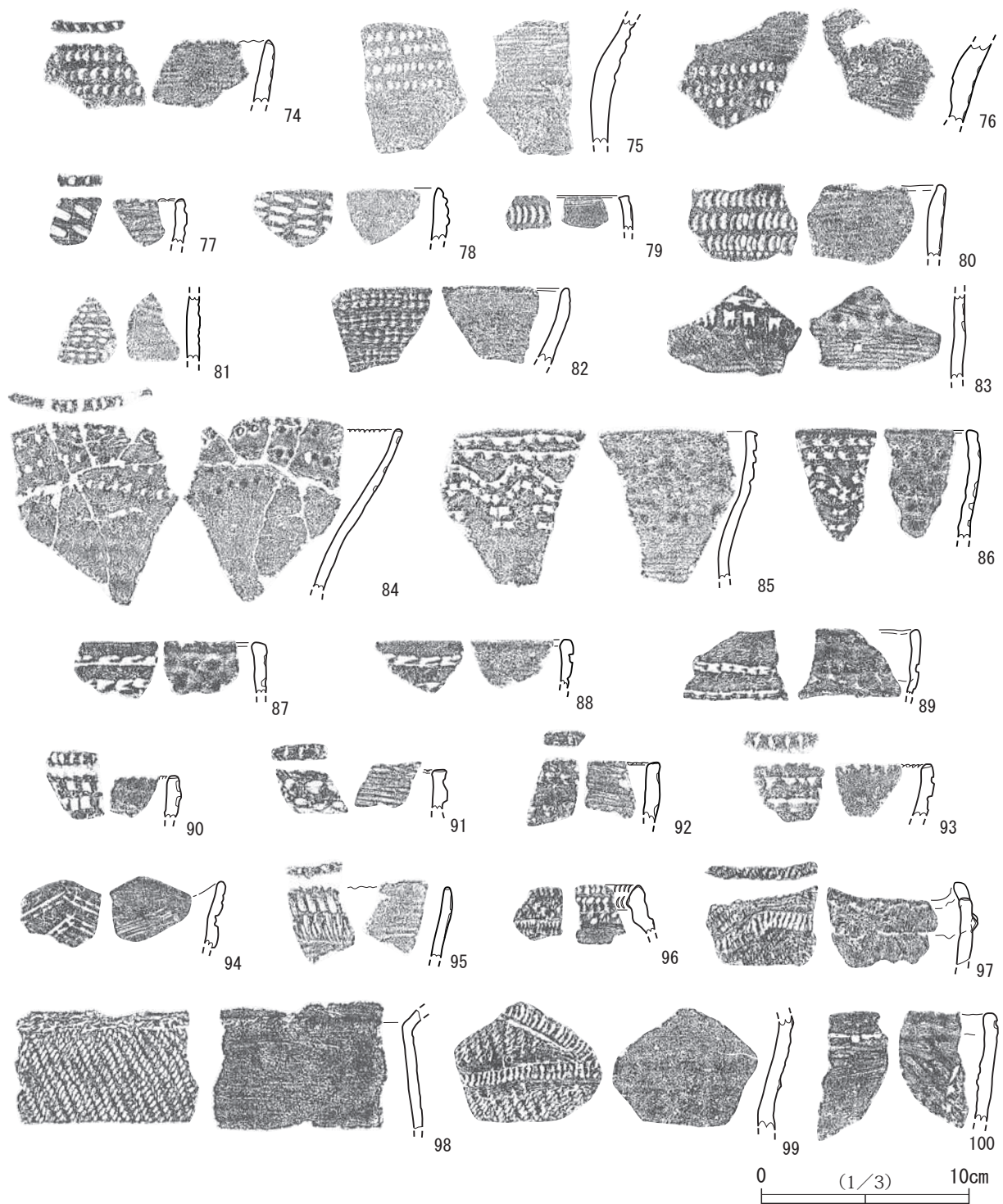


第39図 縄文土器実測図(5)



第40図 縄文土器実測図(6)

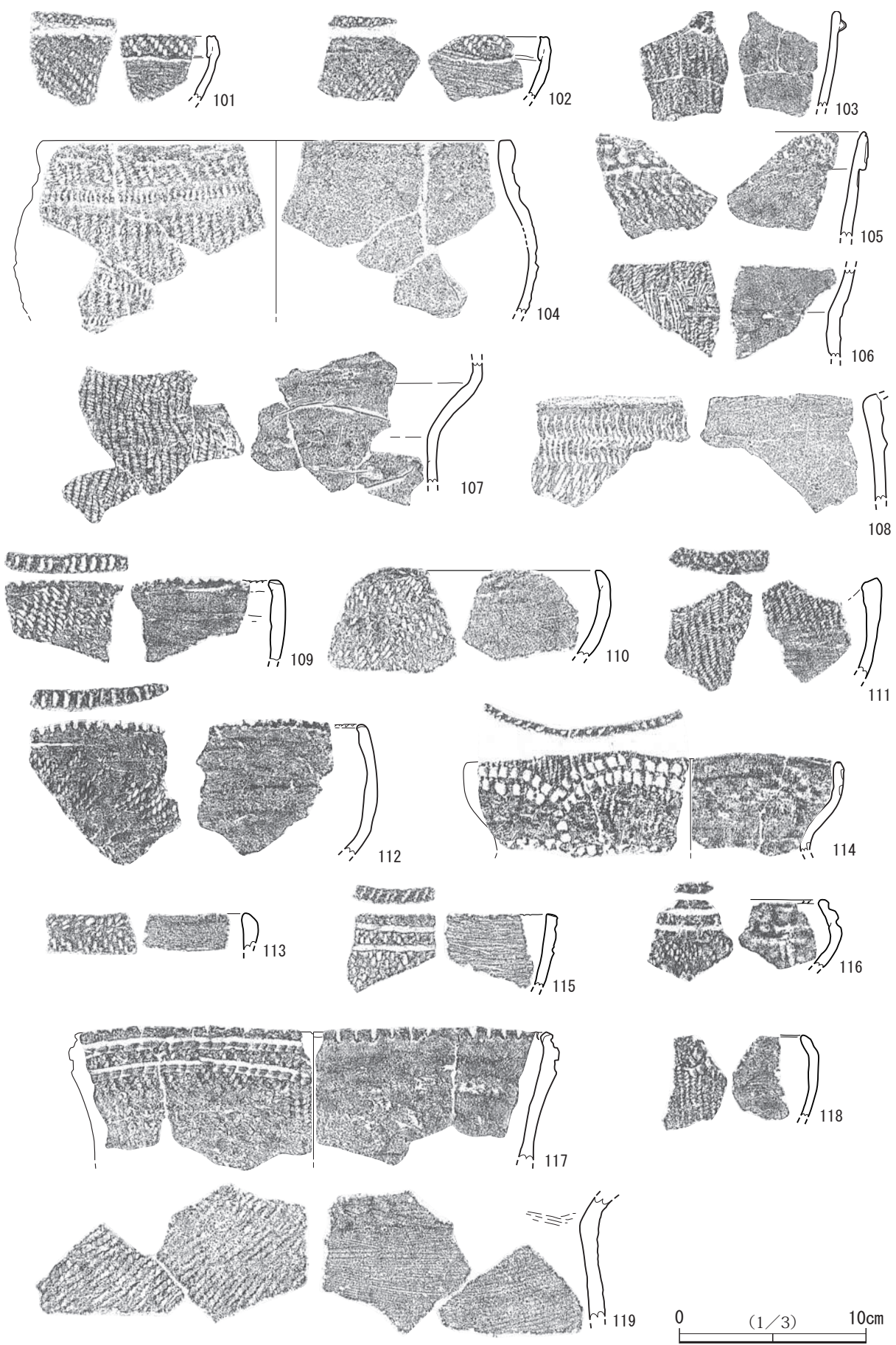
器壁が特に薄いため、刺突文を施した部分の内面に凹凸が生じ、口縁端部では刺突が貫通している。内外面ナデ調整。85～89は口縁部外面に押引文を施す。これらは器壁が薄いため、押引文を施した部分の内面に凹凸が生じている。85、86は口縁部外面に、横位2段、波状2段、断続的な横位2段の押引文を施す。85は外面ナデ、内面二枚貝条痕のちナデ調整。86は内外面ナデ調整。87～89は横位の押引文を確認できる。いずれも内外面ナデ調整。83～89は彦崎Z I式とみられる。90～93は比較的厚めの器面に押引文を施し、口唇部に細かい刻みを施す。90は外面に縄文を施し、内面ナデ調整。91は外面ナデ、内面二枚貝条痕調整。92は外面ナデ、内面条痕調整。91、92の口唇部刻みの施文原体は二枚貝腹縁である。93は内外面ナデ調整。これらは月崎下層II式の範疇でとらえられる。94は波状口縁をなし、口縁に並行する押引文を施す。これは半截竹管の截断部分を器面にあてて押し引いたとみられる。外面ミガキ、内面ナデ調整。95は外面に短沈線、口唇部に刻みを施す。沈線の施文原体は繊維状のものとみられる。内外面二枚貝条痕のちナデ調整。96は口縁部が内湾する形態のものとみられる。口唇部と口縁端部内面の突帯上に刻みを施すΣ字状刺突が認められる。内外面に縄文を施す。97は口縁が内湾する。口縁端部からやや下がった位置に断面三角形の突帯を貼り付け、爪



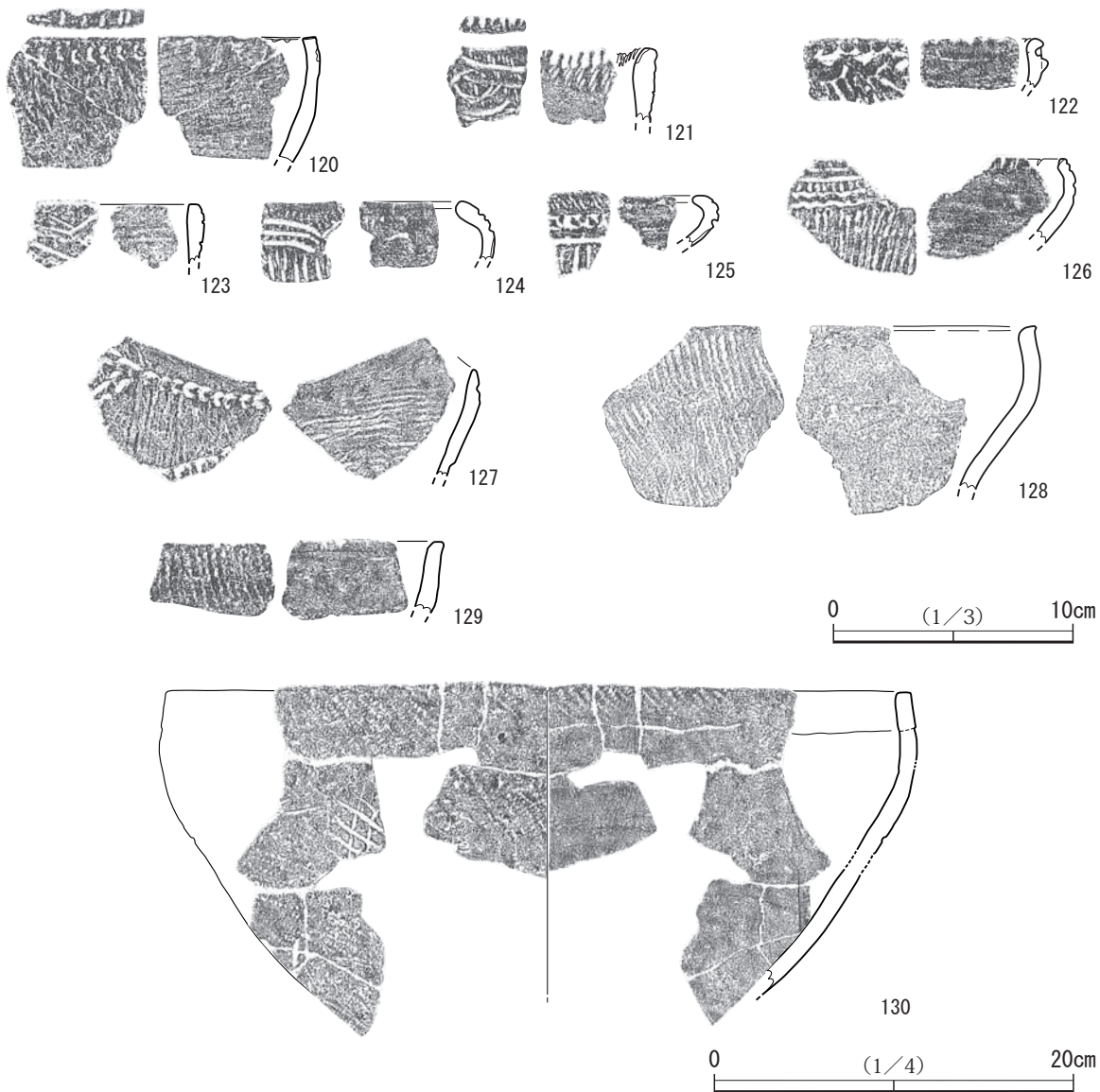
第41図 縄文土器実測図(7)

形刺突文を施す。外面、口唇部に縄文を施し、内面ナデ調整。98、99は胴部片。98は屈曲部の内面に稜を有する。外面に縄文を施し、内面ナデ調整。99は突帯を貼り付け、爪形刺突文を施す。外面に縄文を施し、内面ナデ調整。96～99は大歳山式とみられる。100は口縁部外面に刺突文を施す。外面ナデ、内面ミガキ調整。

101、102は口縁端部内面に低い突帯を貼り付ける。外面、口唇部、突帯上面に縄文を施す。船元Ⅰ式とみられる。103は口縁端部からやや下がった位置に断面三角形の突帯を貼り付け、刻みを施す。船元Ⅱ式とみられる。104は口縁部が内湾し、口縁端部が屈曲し垂直に立ち上がる。縄文を縦方向に施し、

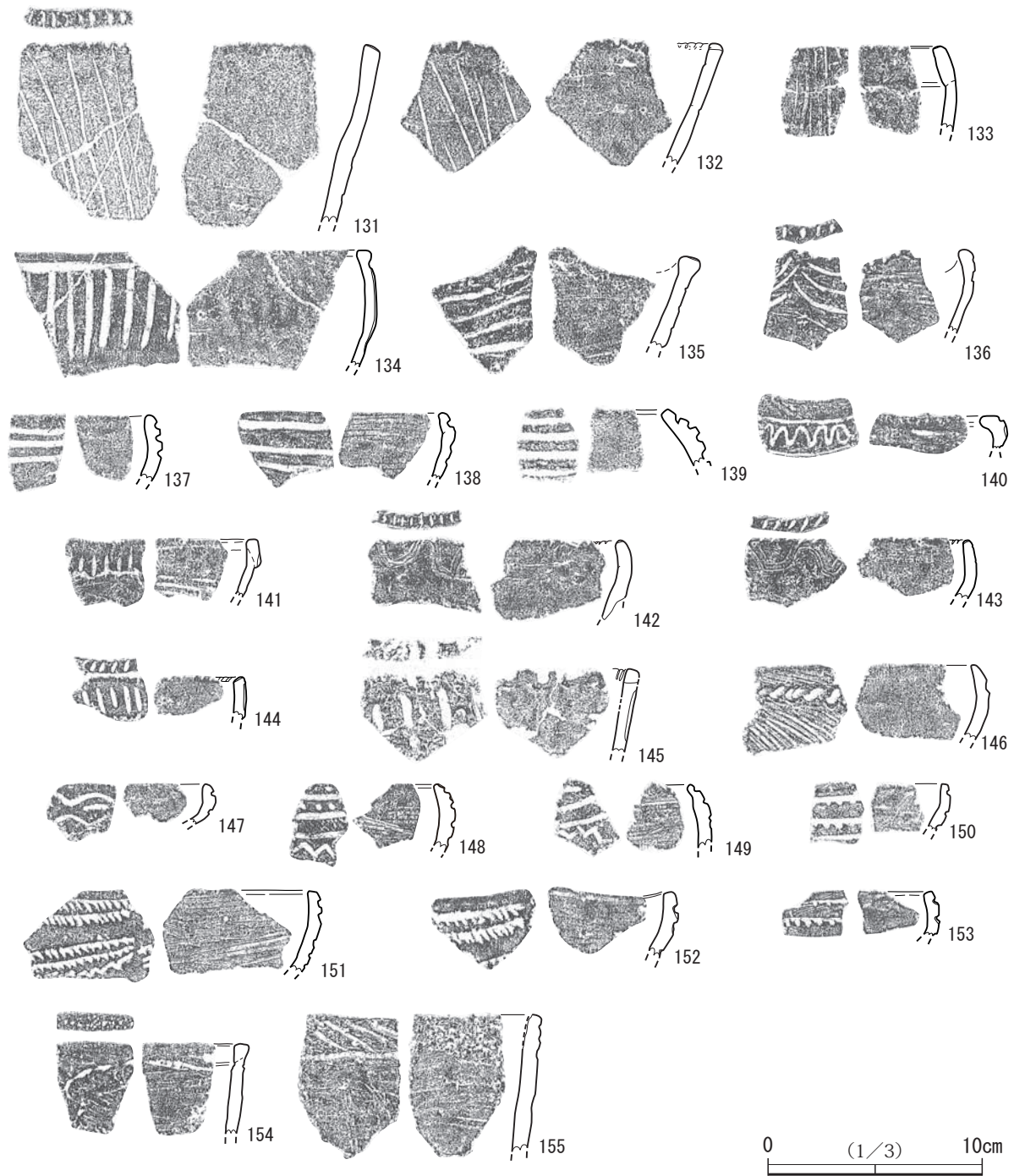


第42図 縄文土器実測図(8)



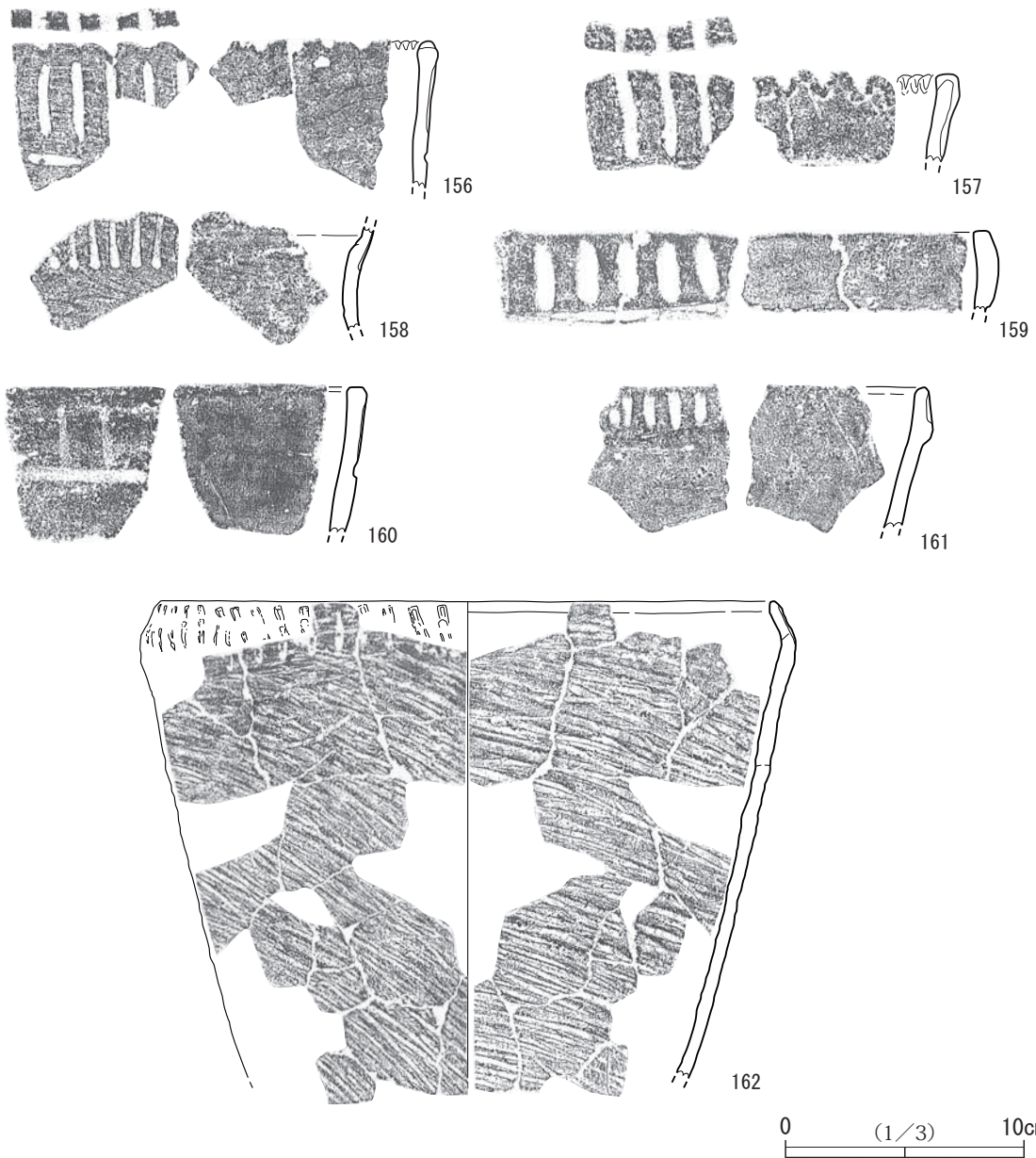
第43図 縄文土器実測図(9)

低い突帯上に爪形文を施す。突帯は口縁に並行するもの2条と斜行するもの1条が認められる。内面ナデ調整。105は口縁端部外面が肥厚し、肥厚部とその下に押引文を施す。外面に縄文を施す。106は胴部片で、屈曲部の内面に稜を有する。外面に縄文を縦方向に施す。107は口縁部と頸部の屈曲部で内面に稜を有する。外面に縄文を縦方向に施す。108は胴部片で、キャリパー形に屈曲するものとみられる。長大な節の縄文を縦方向に施し、屈曲部の下にC字型爪形文を2段施す。109は口縁部がやや内湾し、口唇部に刻みを施す。外面に縄文を縦方向に施す。110は口縁部が内湾し、外面に目の粗い縄文を施す。111は波状口縁をなし、波頂部内面が肥厚し、口唇部は平坦面をなす。外面、口唇部、口縁端部内面に節の細かい縄文を縦方向に施す。112は口縁部が内湾し、口唇部に刻みを施す。外面に目の粗い縄文を施す。113は外面に目の粗い縄文を施す。114は頸部がくびれ、口縁部が垂直に立ち上がり、口唇部に刻みを施す。外面に縄文を節の細かい縦方向に施し、連弧状、楕円形状に押引文を施す。115は口縁部が直線的に立ち上がり、口唇部は平坦面をなし、二枚貝腹縁による刻みを施す。外面に目の粗い縄文を施し、口縁に並行する浅い沈線文を2条施す。内面条痕調整。116は口縁部が内湾する。外面に縄文を施し、口縁に並行する沈線文を2条施す。口唇部に刻みを施す。117は口



第44図 縄文土器実測図(10)

縁部が直線的に立ち上がり、口縁端部がやや内湾し口唇部に刻みを施す。外面に縄文を施すが、下半部はナデ消している。口縁に並行する押引文を2段施す。押引文の施文原体は半截竹管とみられる。118は口縁部が内湾する。縄文を縦方向に施し、押引文を施す。119は頸部が屈曲し、外面に縄文を施す。内面条痕調整。キャリパー形をなし外面に縄文を施すもの(107、108、112など)や、縄文地に爪形文を施すもの(104、108)が認められ、船元式の範疇でとらえられる。120は口縁部が内湾し、口唇部は平坦面をなし、刻みを施す。外面に節の長大な縄文を施し、口縁端部外面に半截竹管による刺突文を施す。内面条痕、ナデ調整。船元I~II式併行期とみられる。121は外面に縄文、沈線文を施す。口縁端部内面に縄文を縦方向に施文し、刻みを施す。123は外面に沈線文を施す。121、123



第45図 縄文土器実測図(11)

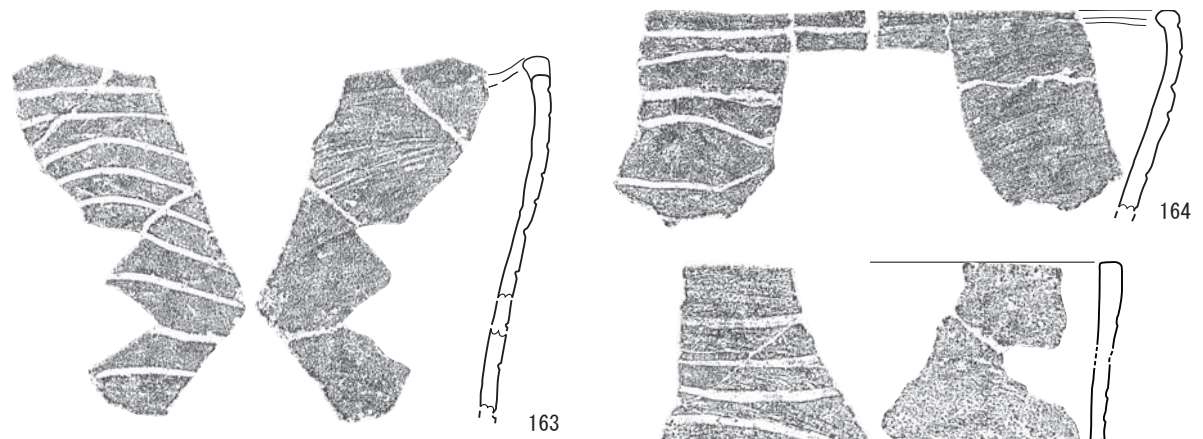
の沈線文の施文原体は半截竹管の可能性がある。船元Ⅲ式とみられる。122は口縁端部外面に撚糸文を施文し、波状に突帯を貼り付ける。口唇部に刻みを施す。124～126は口縁部が内湾する。124は外面に撚糸文を施文し、重弧文、縦位の沈線文を施す。125は外面に撚糸文を施文し、波状文、沈線文を施す。126は外面に撚糸文を施文し、波状文、押引文を施す。口唇部に刻みを施す。127は外面に撚糸文を施文し、押引文を施す。内外面二枚貝条痕、ナデ調整。128は頸部がくびれ、口縁部が内湾する。外面に撚糸文を施す。129は外面に撚糸文を施す。122～129は里木Ⅱ式とみられる。130は口縁端部が内外に肥厚する。外面および口縁端部内面に縄文を施文し、外面の縄文を胴部下半からナデ消す。内面ナデ調整。胴部のなかほどに7～8条の線刻を格子状に施す。船元式とみられる。

131、132は口縁部が直線的に立ち上がる。外面にへら描き沈線、口唇部に刻みを施す。133は口縁部が内湾し、口縁端部内面が肥厚する。外面にへら描き沈線を施す。134は口縁部が内湾し、口唇部が平坦面をなす。外面に沈線文を施す。135は波状口縁をなし、口縁部が外傾し直線的に立ち上がる。

外面に口縁に並行する沈線文を施す。波頂部は刻みを施したことにより厚みを増す。136は波状口縁をなし、口縁部は内湾し、口唇部に刻みを施す。外面にヘラ描きによる重弧文を施す。137～139はいずれも口縁部が内湾し、外面に口縁に並行する沈線文を施す。137、138は3条、139は4条まで確認できる。140は口縁端部が内側に屈曲し、口唇部に縄文を施す。外面には口縁に並行するヘラ描き沈線と波状文を施す。141は口縁部が内湾し、口縁端部外面が肥厚する。肥厚部上に刻みを施す。142、143は口縁部が内湾する。外面に幅広で浅い沈線で波状文を施す。波状文内に多数の筋が認められることから施文原体は繊維状のものとみられる。131～143は船元Ⅲ式とみられる。144は口縁部外面に短沈線、口唇部に刻みを施す。145は口縁部が直線的に立ち上がり、口唇部に刻みを施す。外面に短沈線を施す。146は口縁部が内湾する。口縁に並行して連続的に刻みを施す。外面二枚貝条痕、内面ナデ調整。147は口縁部が内湾する。外面に波状の押引文、短い横位の押引文、波状の沈線文を施す。148、149は口縁部が内湾する。口縁に並行する沈線文と波状文を施す。148は沈線間に刺突文を施す。150、153は口縁が内湾し、口唇部が平坦面をなす。口縁に並行する沈線内に刺突文を施す。150は内外面ナデ調整。153は外面条痕、内面ナデ調整。151、152は口縁部が内湾する。口縁に対して若干斜行する沈線文を施し、沈線上に刺突文を施す。先端の尖った施文具を斜め下から上向きに刺突している。154は口縁部が直線的に立ち上がり、口唇部は平坦面をなし、口唇部に浅い刺突文を多量に施す。外面に押引文を波状に施す。150～154は春日式に類似する。155は口縁部が直線的に立ち上がる。口縁端部外面に沈線文を施す。

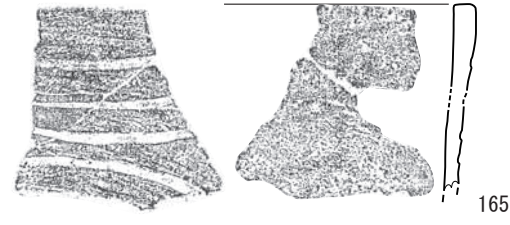
156は口縁部が直線的に立ち上がり、外面に短沈線を施す。口唇部には短沈線に対応する位置に刻みを施す。157は口唇部が直線的に立ち上がる。口唇部から口縁部外面にかけて短沈線を施す。胎土中に雲母を多量に含む。158は外面に短沈線を施し、内外面条痕調整。159は口縁部がやや内湾する。外面に沈線文と凹線状の短沈線を施す。160は口縁部が直線的に立ち上がる。外面に浅い短沈線を施す。161は口縁部が外傾し、口縁端部外面が段状に肥厚する。肥厚部に短沈線を施す。162は胴部が外傾し口縁部が屈曲し内傾する。口縁部外面に半截竹管による縦位の押引文を施す。内外面二枚貝条痕調整。以上は、中期末に位置づけられる。

163は波状口縁をなし、口縁部が内湾する。外面に水平な沈線文2条、波状文を7条施す。164は口縁部が内湾し、口縁端部が肥厚する。外面に沈線文を施す。165は口縁部が直線的に立ち上がり、口唇部が平坦面をなす。外面に沈線文を施す。164、165の沈線文は、一部の沈線が湾曲していることから、波状文をなす可能性がある。166は口縁部が外傾し、直線的に立ち上がる。外面に波状文を施す。内外面条痕調整。167は波状口縁をなし、口縁部がやや外反し、口縁端部内面が段状に肥厚する。外面に方形区画文を施す。沈線文は幅広で浅く、巻貝を施文原体とする。168は波状口縁をなし、口縁部が内湾する。口縁に並行するように区画文を施す。169は波状口縁をなし、口縁部がやや内湾する。外面に方形区画文を施す。波頂部に巻貝による刻みを施す。170は波状口縁をなし、口縁部が内湾する。外面に方形区画文を施す。171は波状口縁をなし、口縁部が外反する。外面には方形区画文を施す。172は外面に区画文を施す。173は口縁端部外面が段状に肥厚する。肥厚部の平坦面に区画文とみられる沈線文を施す。174は波状口縁をなし、外面に沈線文を施す。175～177、179、180は波状口縁をなし、三角文を施す。177は外面条痕のちナデ、内面条痕調整。178は波状口縁をなし、頸



163

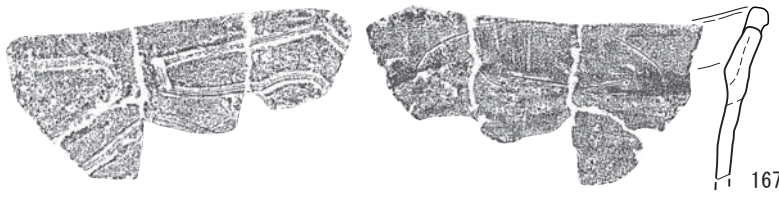
164



165



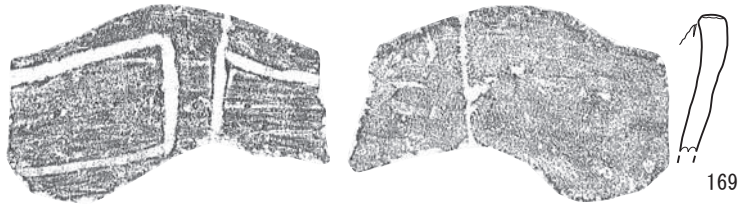
166



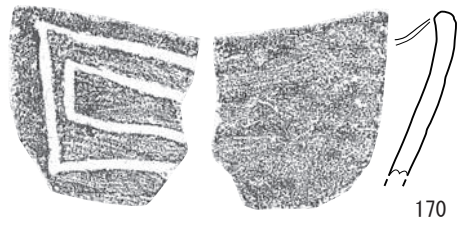
167



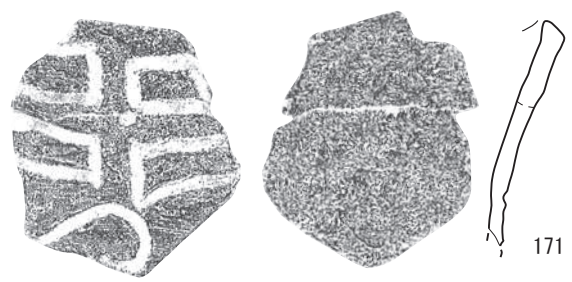
168



169



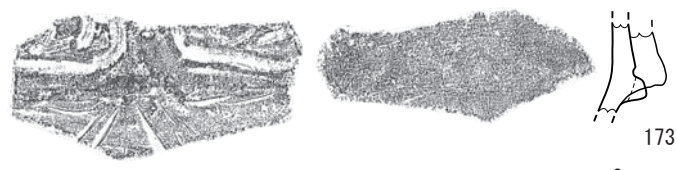
170



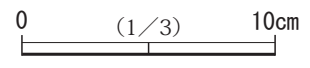
171



172



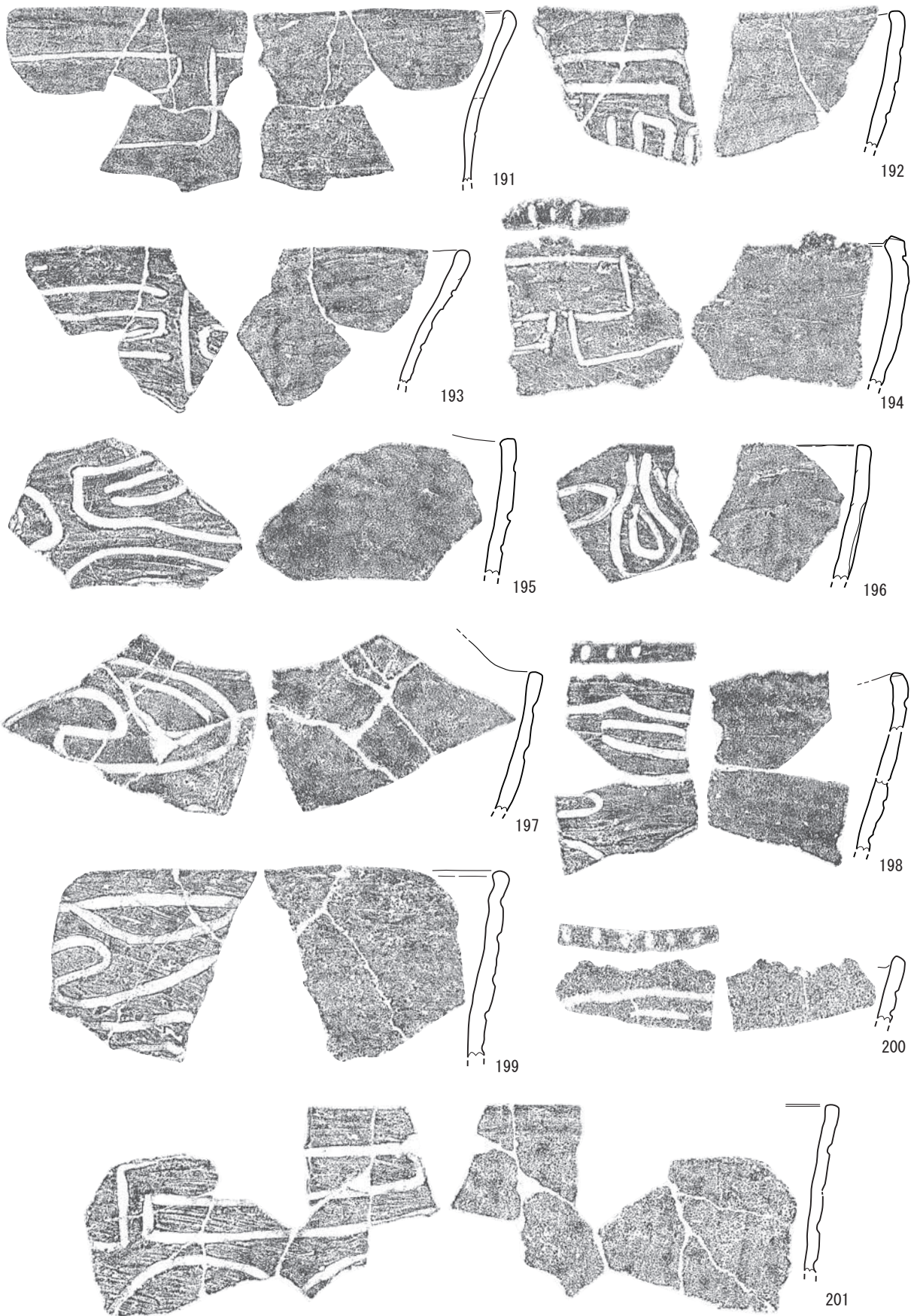
173



第46図 縄文土器実測図(12)

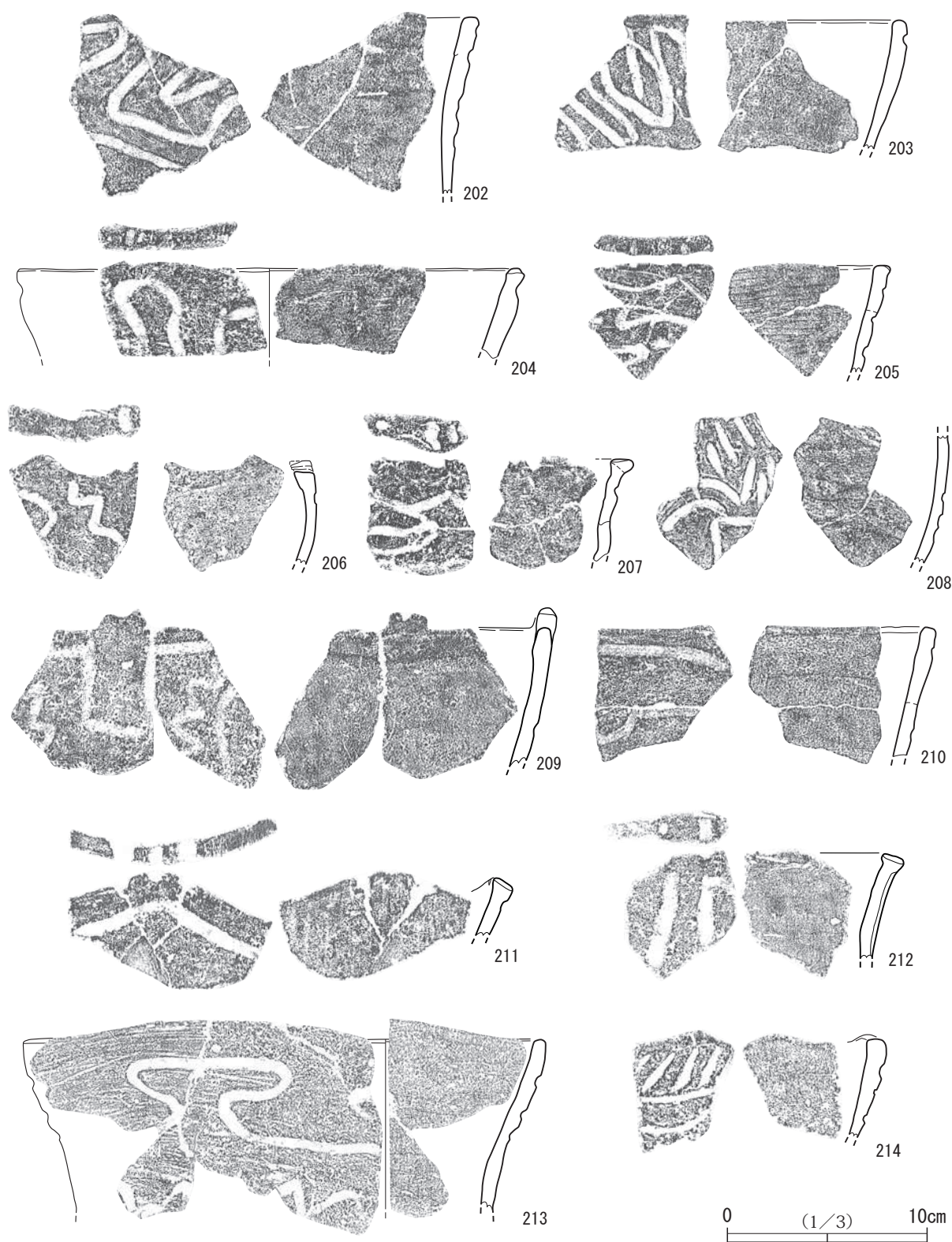


第47図 縄文土器実測図(13)



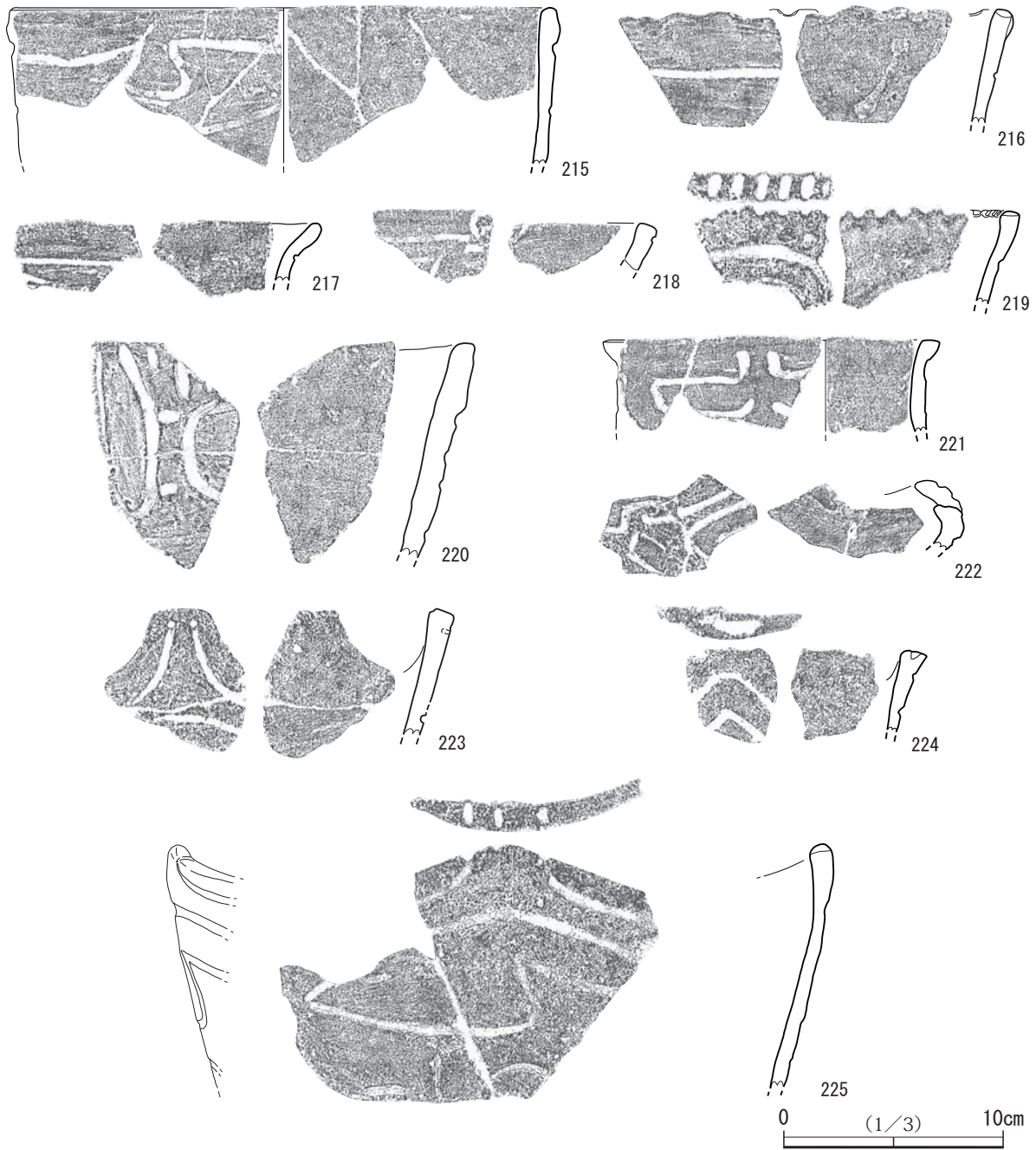
0 (1/3) 10cm

第48図 縄文土器実測図(14)



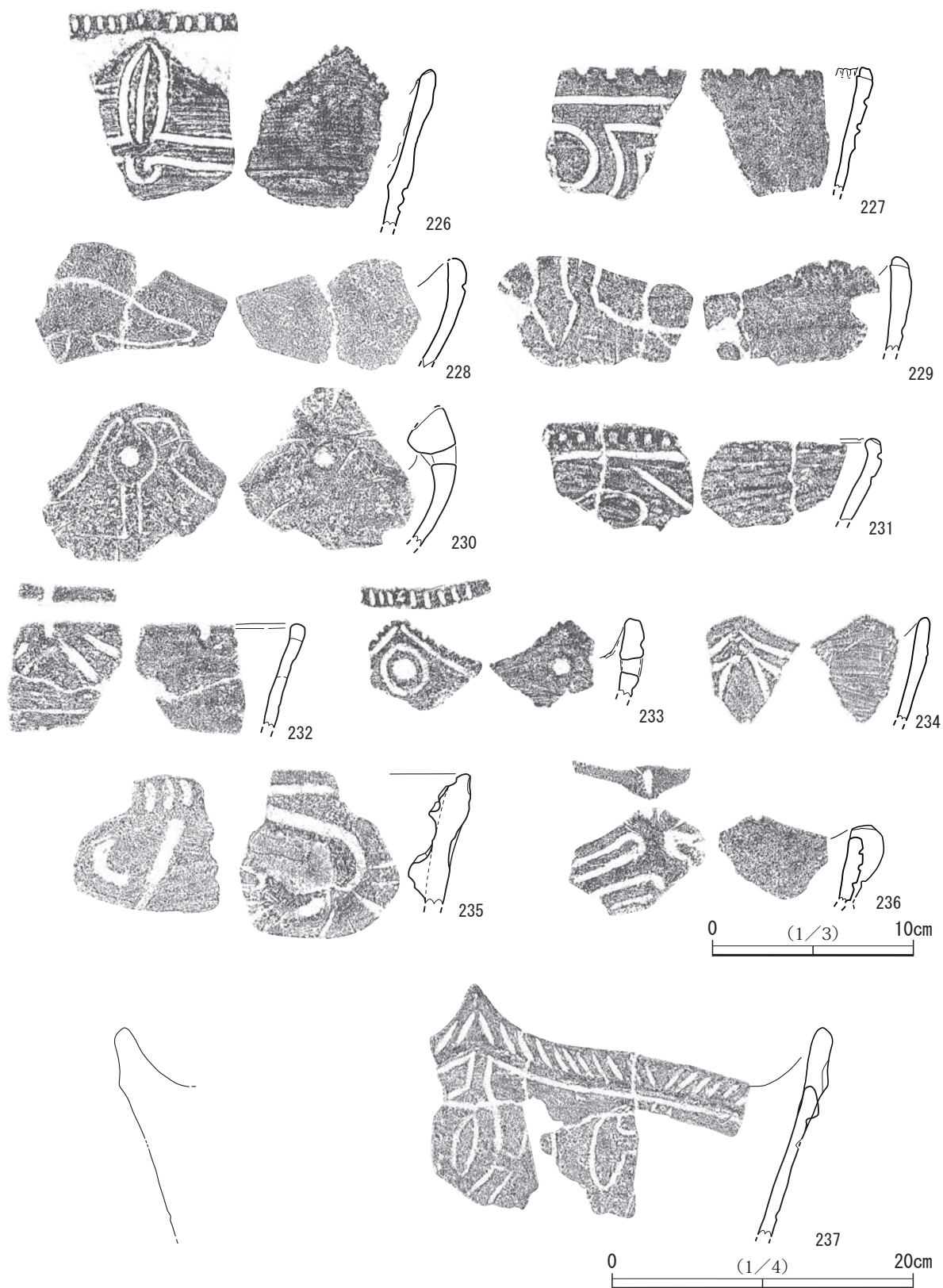
第49図 縄文土器実測図(15)

部が緩やかにくびれ口縁部が開く。波頂部を中心に区画文を左右対称に施す。外面条痕、ナデ、内面ナデ調整。183～185は長楕円形の区画文と波状文を施す。185は口唇部に刻みを3箇所施し、内外面に丁寧なナデ調整。186～190は小片のため文様構成が判然としないが、直線的な沈線文や区画文を施す。191は口縁部が外反する。外面に細い沈線文を施す。192、193は直線的な沈線文、区画文を施すが、沈線端部が途切れているものもある。内外面条痕あるいは粗いナデ調整。194は口縁部が



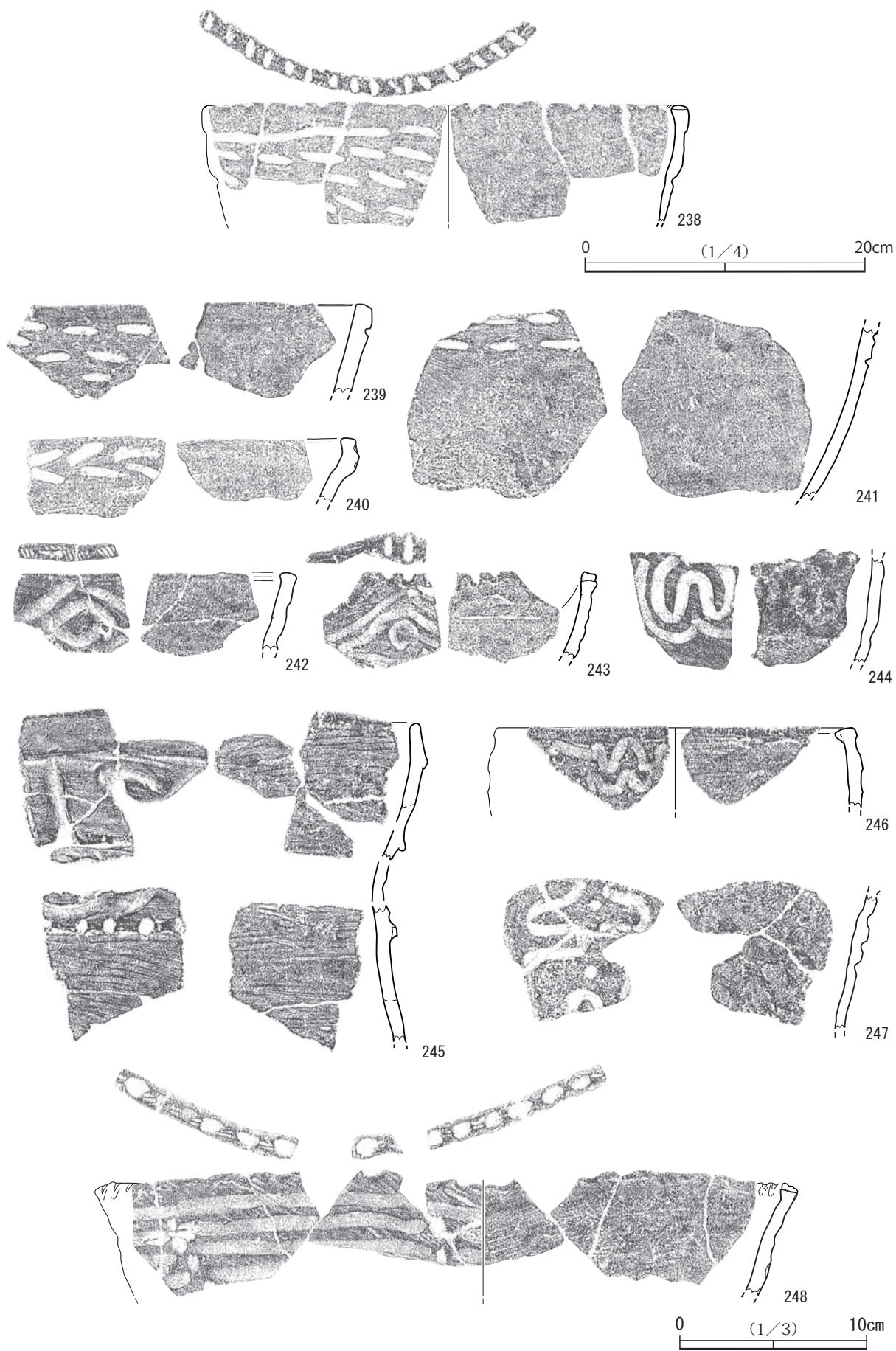
第50図 縄文土器実測図(16)

内湾し、口唇部に刻みを施す。外面に細い沈線文を施す。195は外面に区画文状の文様を施すが、沈線の一部が途切れている。内外面条痕あるいは粗いナデ調整。196は幅広で浅い沈線で円文状の沈線文を施す。197は波状口縁をなし、外面に幅広で浅い沈線で楕円文や曲線的な文様を施す。198は緩やかな波状口縁をなし、波頂部に刻みを施す。外面に沈線文を施すが、一部が途切れている。199は外面に幅広で浅い沈線で区画文や波状文を施す。外面条痕、内面粗いナデ調整。200は緩やかな波状口縁をなし、口唇部に刻み、外面に沈線文を施す。201は外面に幅広で浅い沈線で方形区画文や弧線文を施す。外面条痕、内面ナデ調整。202は口縁が外反する。外面に幅広で浅い沈線で曲線的な文様を施す。内外面粗いナデ調整。203は蛇行状に沈線文を施すが、一部が途切れている。204は口縁部が外傾し、口唇部に刻みを施す。外面に曲線的な沈線文を施す。205は外面に沈線文を施すが、沈線

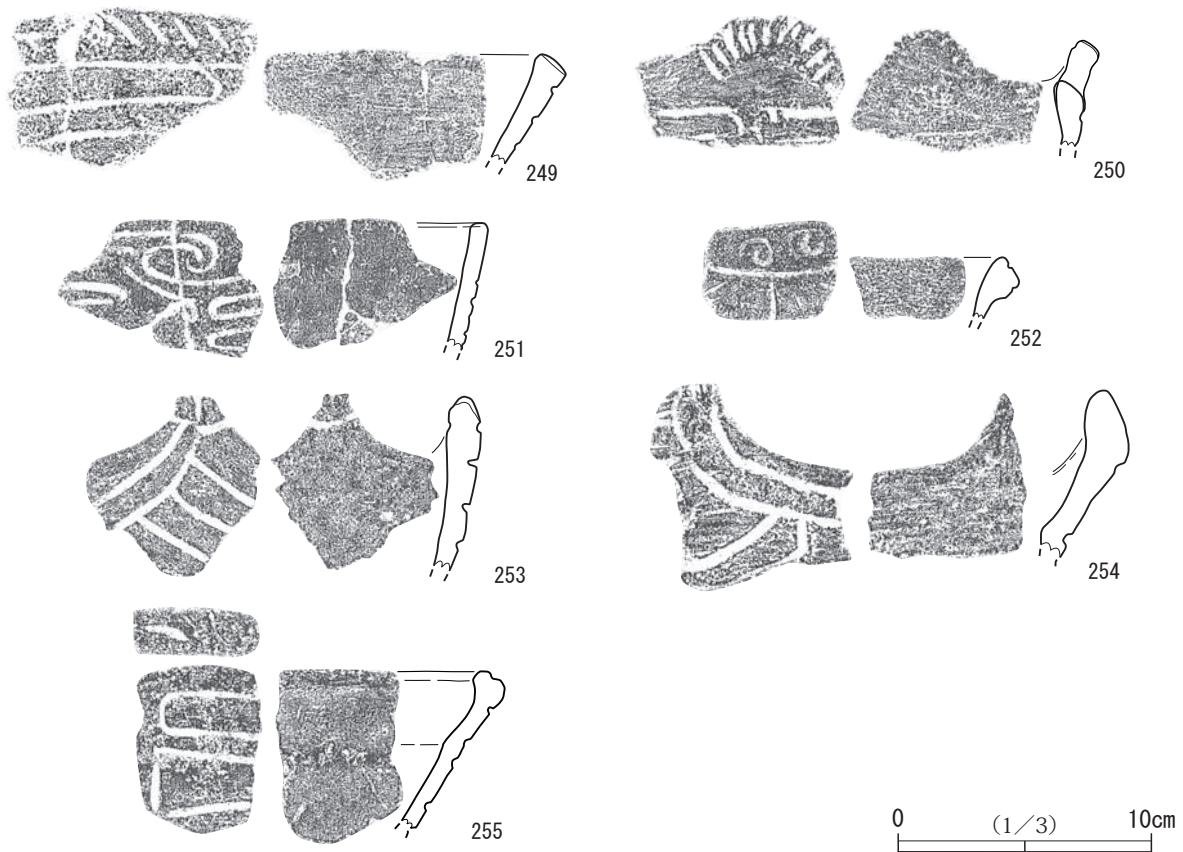


第51図 縄文土器実測図(17)

の幅や深さが一定しない。口唇部に刻みを施す。内面二枚貝条痕のちナデ調整。206は波状口縁をなし、口唇部に刻みを施す。外面に蛇行文を施す。207は口縁部が外反し、口唇部に刻みを施すが、その際の押圧によって口唇部が肥厚している。外面に沈線文を施すが、沈線の幅や深さが一定しない。208は短沈線や弧線文を施す。209は蛇行文を施す。口唇部に突起があり、刻みを施す。210は幅広で浅

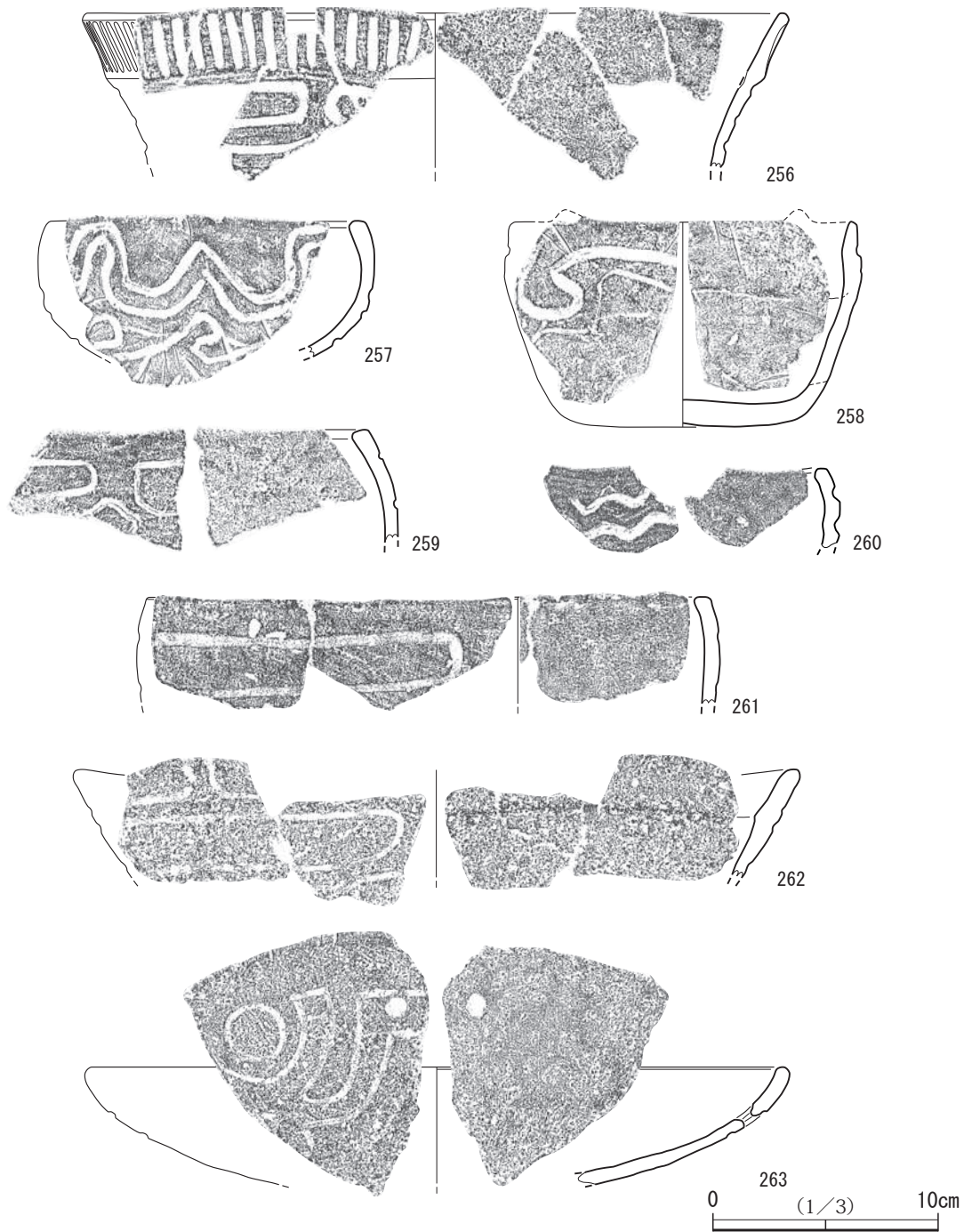


第52図 縄文土器実測図(18)



第53図 縄文土器実測図(19)

い沈線文を施す。211は緩やかな波状口縁をなし、波頂部に刻みを施す。口縁に並行する沈線文を施す。212は口縁部が外反し、外面に沈線文を施す。207と同様に、刻みを施す際の押圧によって口唇部が肥厚している。213は口縁部が外傾し、外面に曲線的な沈線文や波状文を施す。外面条痕、内面ナデ調整。214は緩やかな波状口縁をなし、外面に短沈線を施す。215は口縁部が直線的に立ち上がり、外面に曲線的な沈線文を施す。216は口唇部に刻み、外面に沈線文を施す。217は口縁部が外反し、外面に細い沈線文を施す。218は外面に細い沈線文を施す。219は外面に弧状の沈線文、口唇部に刻みを施す。220は縦長の長楕円文、短沈線、刻みを施す。221は口縁部が外反する。区画文状の沈線文を施すが、端部が途切れる。222は波状口縁をなし、口縁部が内湾する。外面に沈線文を施す。223は山形口縁をなす。口縁に並行する沈線文を施し、沈線端部に刺突文を施す。224は山形口縁をなし、頂部平坦面に刻みを施す。外面に山形の沈線文を施す。225は緩やかな波状口縁をなし、波頂部に刻みを施す。外面に曲線的な沈線文を施す。SK25出土の27と同様の文様意匠であり、同一個体の可能性がある。外面ミガキ、内面ナデ調整。226は波状口縁をなし、口唇部に刻みを施す。外面に紡錘文、沈線文を施す。沈線端部は鈎手状をなす。内外面二枚貝条痕調整。227は口縁に並行する沈線文から垂下するように渦巻文状に沈線文を施す。口唇部に刻みを施す。228は緩やかな波状口縁をなし、口縁が内湾する。外面に細い沈線文を施す。229は緩やかな波状口縁をなし、口縁部が内湾する。波頂部から垂下するスペード文を施す。230は波状口縁をなし、口縁部が内湾する。波頂部に円孔を有し、そのまわりに細い沈線文を施す。231は外面に沈線文、口唇部に刻みを施す。外面条痕のちナデ、内面粗いナデ調整。232は外面に斜行する短沈線、口唇部に刻みを施す。233は波状口縁をなし、口



第54図 縄文土器実測図(20)

唇部に刻みを施す。円孔を有し、その周りに円文を施す。234は波状口縁をなし、口縁部が内湾する。外面に沈線文を施す。235は外面に沈線文、刻みを施す。内面に渦巻状の突帯を貼り付け、その上に沈線文を施す。口縁端部内面に縄文を施す。236は波状口縁をなし、波頂部に刻みを施す。外面には口縁に並行する区画文を施す。237は口縁部が外傾し、口縁端部外面が段状に肥厚し、肥厚部に刻み、それ以下に紡錘文を施す。

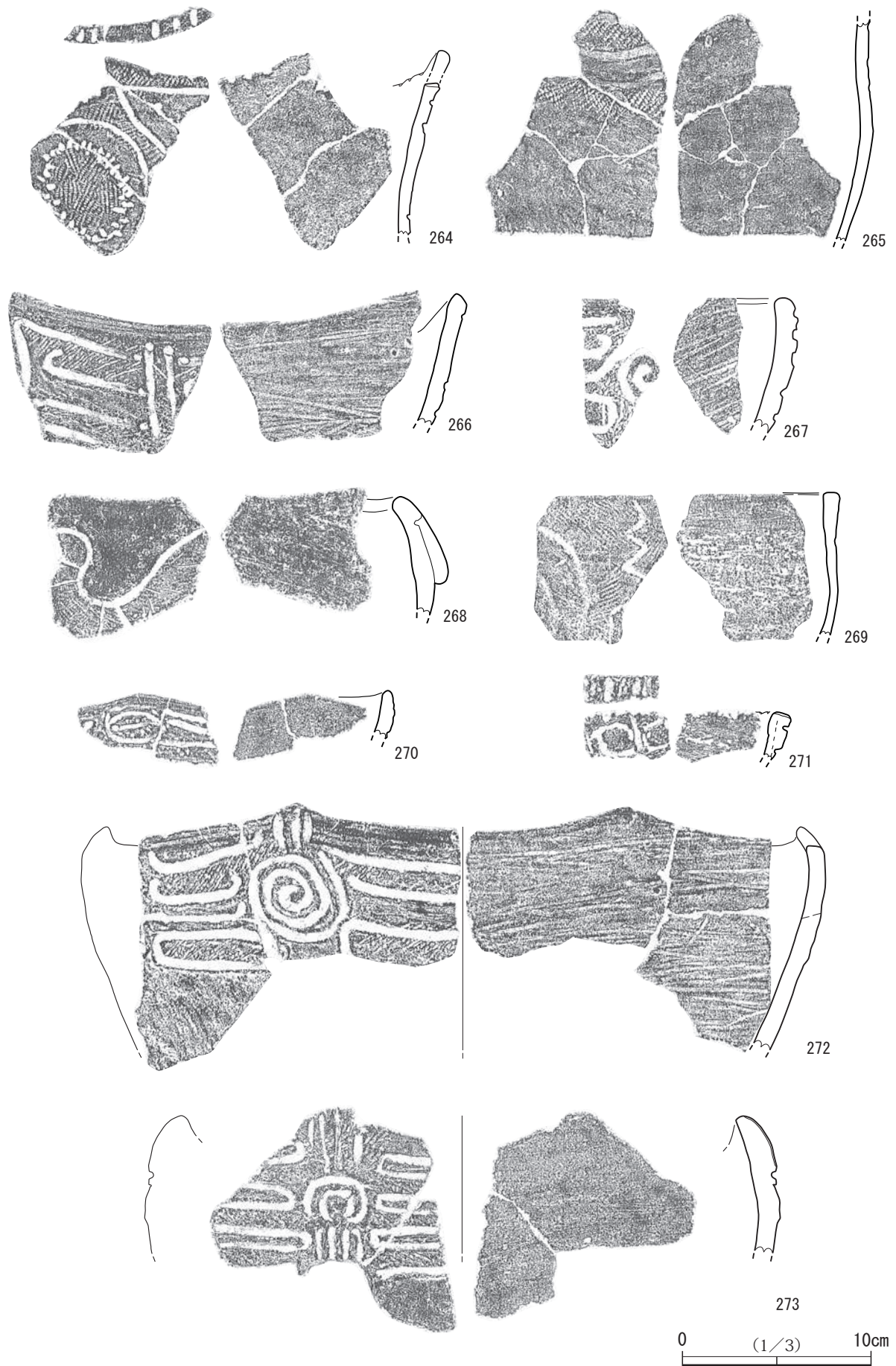
238は外面に短沈線、口唇部に刻みを施す。胎土中に雲母を多量に含む。内外面ナデ調整。239、241は同一個体とみられ、外面に短沈線を施す。240は口縁部が屈曲し、口縁端部外面に短沈線をハの字状に施す。242は菱形状に凹線文を施し、口唇部に刻みを施す。243は山形口縁をなし、頂部平

坦面に刻みを施す。外面に円文、菱形状に凹線文を施す。244は胴部片で、曲線的な凹線文を施す。245は頸部がくびれ、口縁部が内湾する。外面に凹線文を施す。図化していない同一個体片が数点あり、それらには波状の凹線文が認められる。凹線文の施文原体は巻貝である。口縁端部外面と頸部、胴部が段状に肥厚し、胴部の段上に刻みを施す。内外面条痕調整。246は口縁部が内湾する。外面に波状の凹線文を施す。247は蛇行状の凹線文、刺突文を施す。外面は丁寧なナデ調整で平滑に仕上げる。248は口縁部が外傾し、口唇部に二枚貝による圧痕と刻みを施す。外面に凹線文、凹点を施す。外面二枚貝条痕、内面ナデ調整。西和田式に類似する。

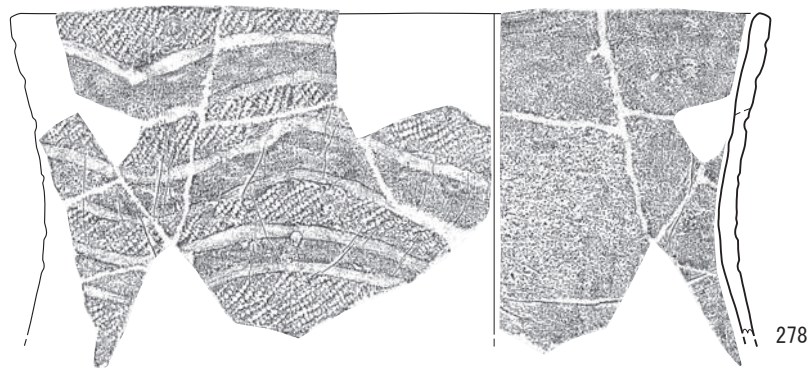
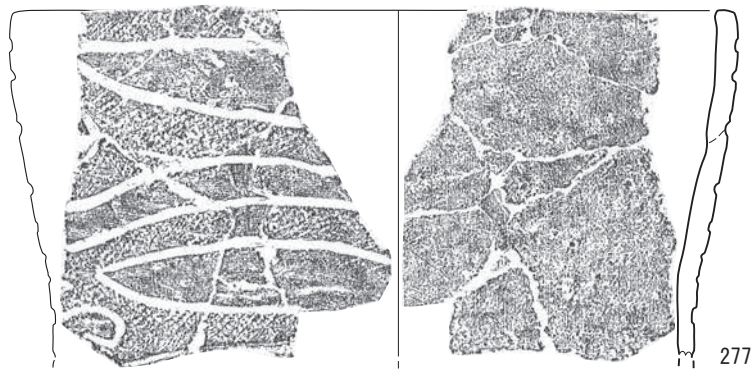
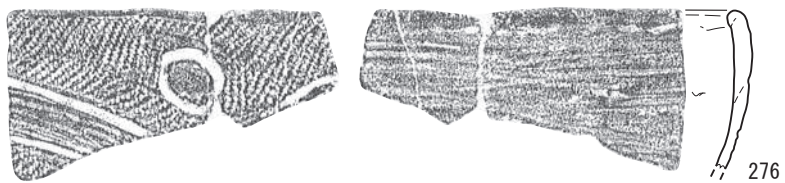
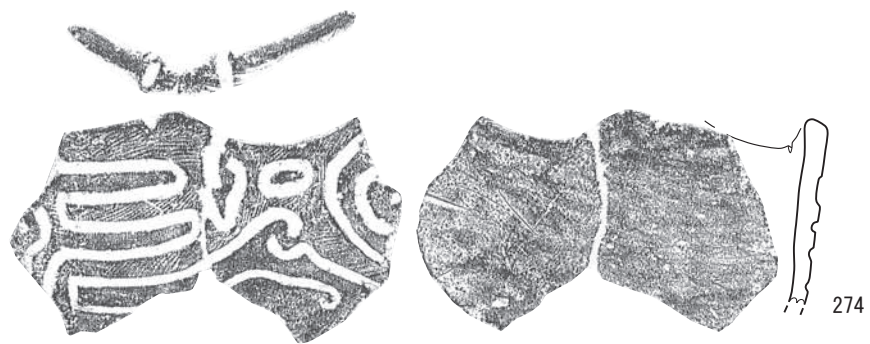
249は口縁部が外傾し、口唇部が平坦面をなし、斜位の刻みを施す。外面に沈線文を施す。250は波状口縁をなし、波頂部が外反し刻みを施す。外面に沈線文を施す。251は外面に鈎手状の渦巻文を施す。252は口縁端部外面が肥厚し、口唇部が平坦面をなす。平坦面上に渦巻文を施す。253は波状口縁をなし、波頂部に刻みを施し、外面に沈線文を施す。254は波状口縁をなし、波頂部が肥厚する。外面に沈線文を施す。255は口縁部が直線的に立ち上がる浅鉢で、内面の屈曲部に稜を有する。外面に方形区画文を施す。256は口縁部が外反し、口縁端部外面が段状に肥厚する。肥厚部に短沈線、外面に区画文を施す。

257～263は鉢、浅鉢。257は外面に波状文を施す。内外面ナデ、ミガキ調整。258は体部上半に波状文を施す。259は外面に区画文を施す。260は口縁部外面に波状文を施す。261は外面に方形区画文を施す。262は口縁部が外傾し、直線的に立ち上がり、内面の屈曲部に稜を有する。外面に区画文を施す。263は体部が大きく開き、外面に円文やJ字文状の沈線文を施す。

264は口縁部が外反し、口唇部に刻みを施す。外面に刺突文による円文、沈線文を施す。円文内や沈線文間に縄文を施す。265は胴部片で緩やかに内湾する。浅い沈線文を施し、区画外に縄文を施文する。胴部下半には文様が認められない。266は波状口縁をなす。外面に縄文を施し、区画状に沈線文を配するが、沈線端部が途切れ、沈線端部に刺突文を施す。胎土中に角閃石を含む。外面ナデ、内面二枚貝条痕調整。267は口縁部が内湾し器壁は比較的厚い。外面に縄文、渦巻文を施す。外面ナデ、内面条痕調整。胎土中に角閃石を含む。268は口縁部が内湾し、口縁端部外面が肥厚する。肥厚部が沈線で画され、それ以下に縄文を施し、赤色顔料を塗布する。肥厚部に丁寧なナデ調整。加曾利E式に類似する。269は口縁部が内湾し、口縁端部が直線的に立ち上がる。外面に縄文、蛇行文、沈線文を施す。270は緩やかな波状口縁をなす。外面に縄文、細い沈線文を施す。271は口縁端部外面が肥厚し、口唇部に刻みを施す。外面に縄文、細い沈線文を施す。272は緩やかな波状口縁をなし、口縁部が内湾する。口縁部外面に縄文、短沈線、渦巻文、区画文状の沈線文を施す。273は緩やかな波状口縁をなし、口縁部が内湾する。外面に縄文、短沈線、重弧文、区画文を施す。内外面ナデ調整。272、273は文様意匠が類似しており、胎土中にはともに角閃石を含む。274は波状口縁をなし、口唇部に刻みを施す。外面に縄文、円文、鈎手状の沈線文を施す。275は山形口縁の頂部がくぼみ、巻貝による刺突文を施す。外面に蛇行文、区画文を施し、区画外に縄文を施す。下半部には文様が認められない。内外面ミガキ調整。276は口縁部が内湾する。外面に縄文、円文、弧線状の沈線文を施す。円文内や沈線文間には縄文を施さない。内外面条痕調整。277は頸部がくびれ口縁部がやや内湾する。外面に波状文を施し、縄文帯をなすように縄文を施文する。278は頸部がくびれ、口縁部が直線的に



第55図 縄文土器実測図(21)



0 (1/3) 10cm

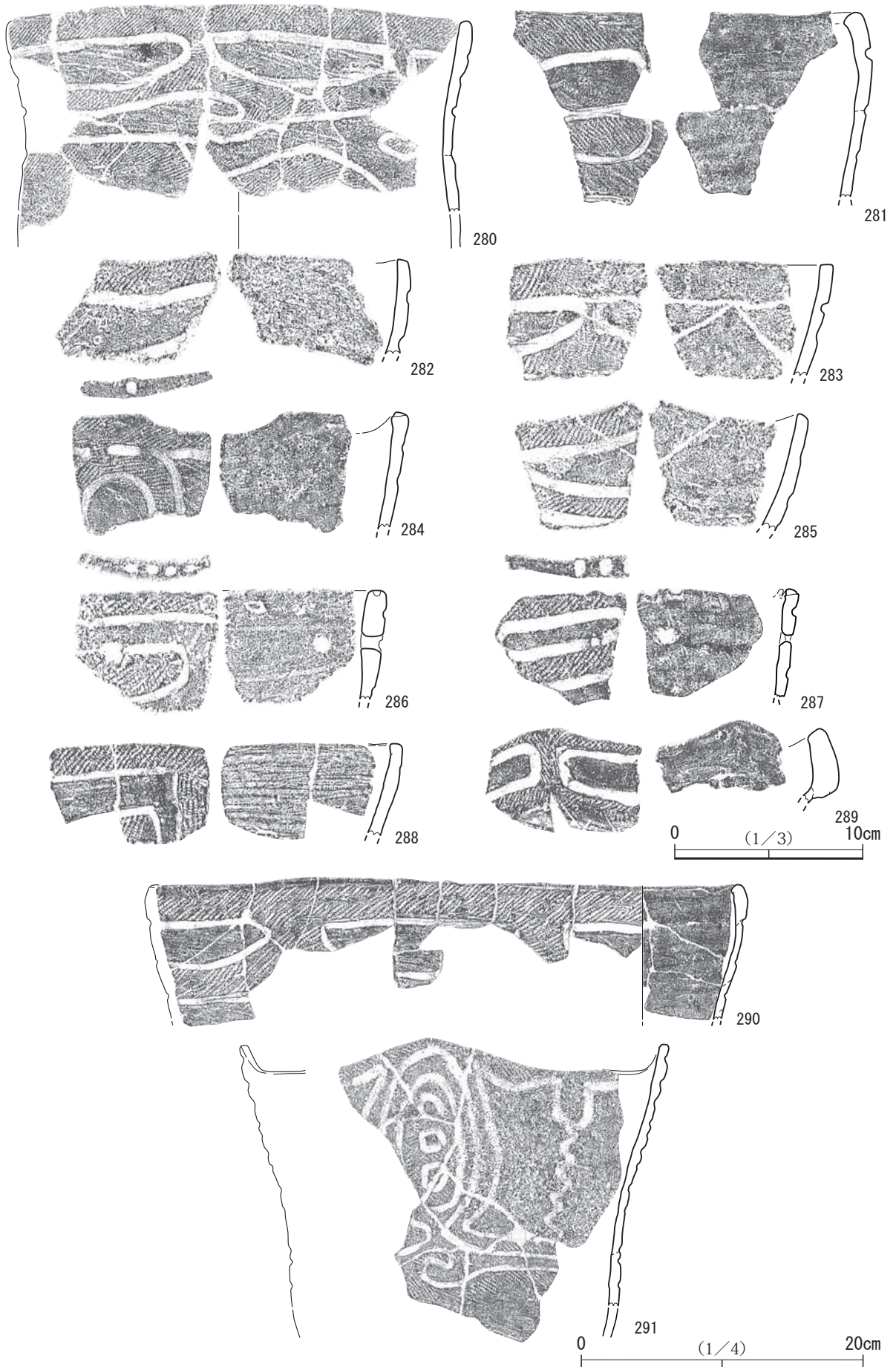
第56図 縄文土器実測図(22)



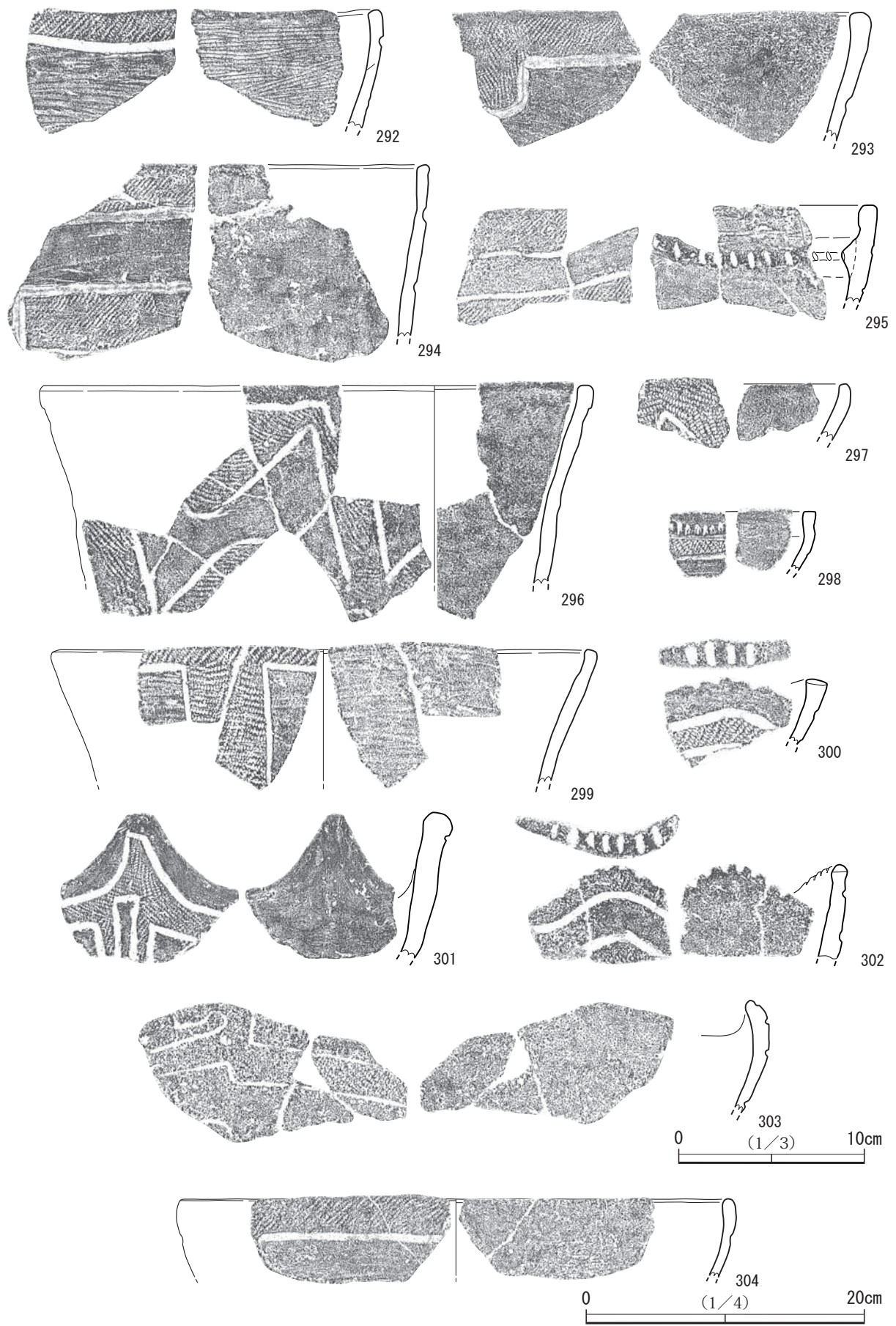
第57図 縄文土器実測図(23)

立ち上がる。外面に波状文を施し、縄文部と無文部が交互に現れるように縄文を施す。沈線文の施文原体は巻貝である。279は緩やかな波状口縁をなし、頸部がくびれ、胴部が張る。口縁部から胴部上半にかけて円文と沈線文を施し、縄文部と無文部が交互に現れるように縄文を施す。胴部下位には波状文を施す。280は頸部がくびれ、口縁部が直線的に立ち上がる。外面に長楕円形の区画文と波状文を施し、区画外に縄文を施す。沈線文の施文原体は巻貝である。281～288は小片のため文様構成が明らかではないが、いずれも区画文を施し、縄文部と無文部が交互に現れるように縄文を施すものとみられる。281の沈線文の施文原体は巻貝である。284、287は口唇部に刻み、286は刺突文を施す。289は波状口縁をなし、口縁端部外面が段状に肥厚する。肥厚部に方形区画文を施し、区画外に縄文を施す。290は外面に区画文を施し、区画外に縄文を施す。291は波状口縁をなし、頸部がくびれ口縁部が垂直に立ち上がる。外面に紡錘文、円文を施し、縄文部と無文部が交互に現れるように縄文を施す。無文部に蛇行文、胴部に波状文を施す。292、293、304は口縁端部外面に沈線文で画された縄文部を有する。292は内外面二枚貝条痕調整。294は方形区画文を施し、区画内に縄文を施す。293、294の沈線文の施文原体は巻貝である。295は口縁部が内湾し、内面に突帯を貼り付け、突帯上に刻みを施す。264～295は縄文と、比較的幅広で浅い沈線文で施文しており、縄文帯をなすものも認められる。

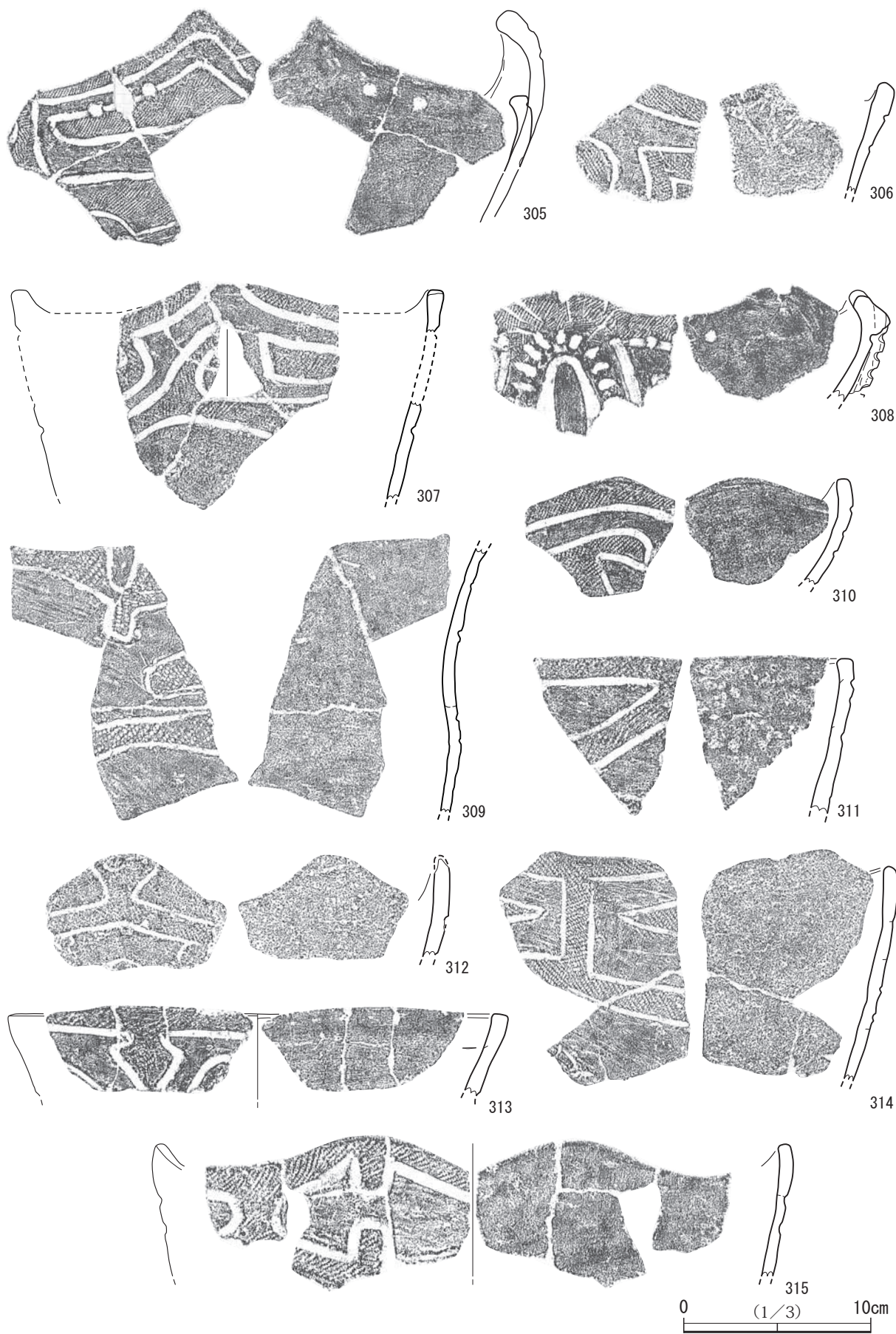
296は縄文帯が横位、斜位に展開し、幅が均一でなく、沈線端部が一部途切れている。299は口縁部の幅の狭い縄文部から幅広の縄文帯が垂下する。300、302は波状口縁をなし、波頂部に刻みを施す。302は胎土中に雲母を多量に含む。303は波状口縁をなし、口縁部が内湾する。外面の縄文帯は波頂部から垂下する。305は波状口縁をなし、波頂部の口縁端部が肥厚する。外面に幅の均一でない縄文帯を施し、内外面ミガキ調整。補修孔を有する。307は波状口縁をなす。外面に縄文帯を左右非対称に施す。胎土中に雲母を多量に含む。308は緩やかな波状口縁をなし、波頂部に刻みを施す。外面に紡錘形の突帯を貼り付け、刻みを施す。突帯のまわりに沈線文、縄文を施す。309は胴部が張り頸部がくびれ口縁部が直線的に立ち上がる。外面に幅の均一でない縄文帯を施す。310は波状口縁をなし、外面に先端の尖るJ字文を施す。胎土中に雲母を多量に含む。311は幅の均一な縄文帯を施す。



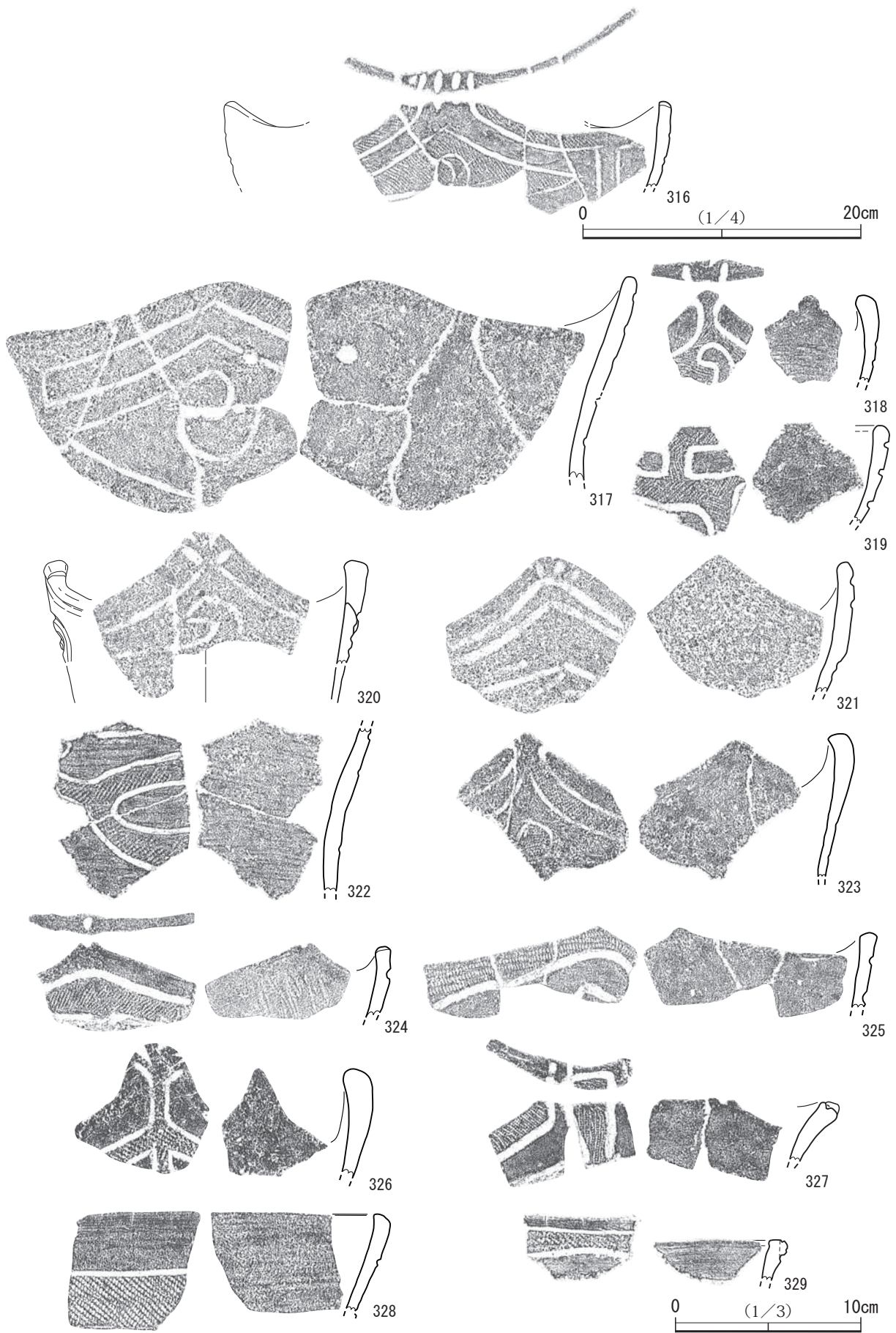
第58図 縄文土器実測図(24)



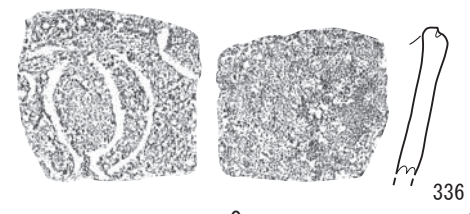
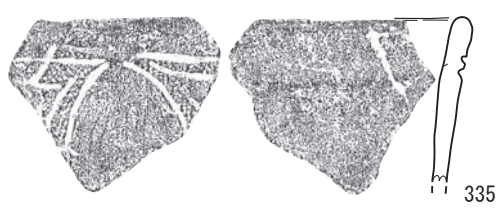
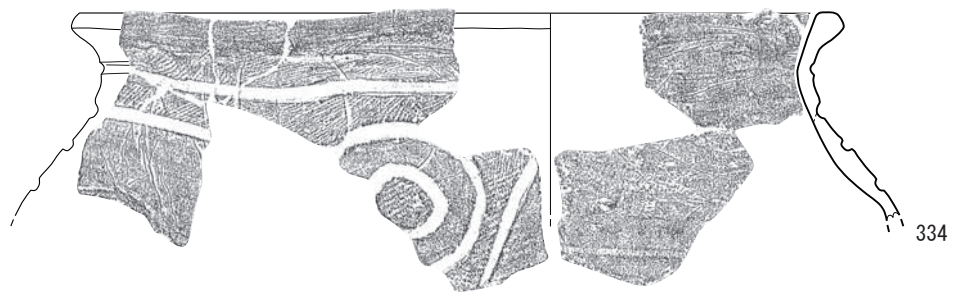
第59図 縄文土器実測図(25)



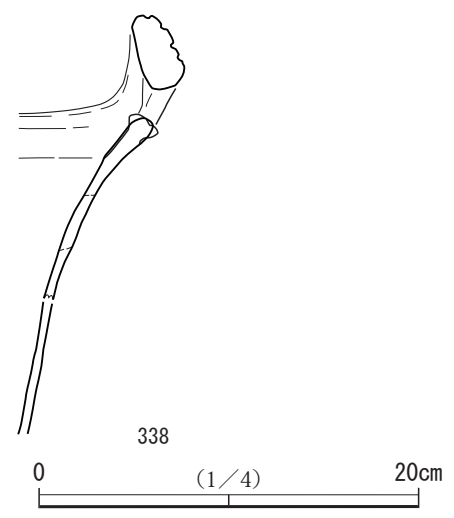
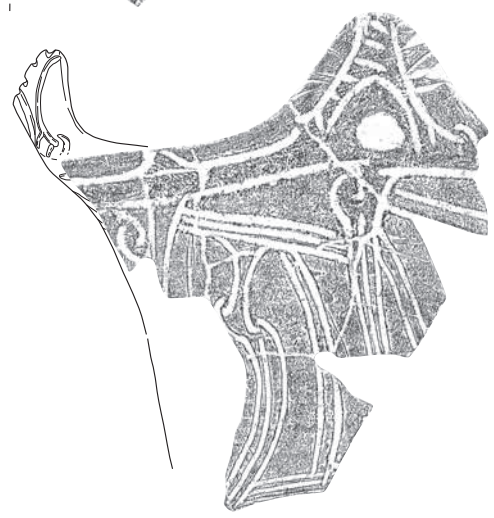
第60図 縄文土器実測図(26)



第61図 縄文土器実測図(27)



0 (1/3) 10cm

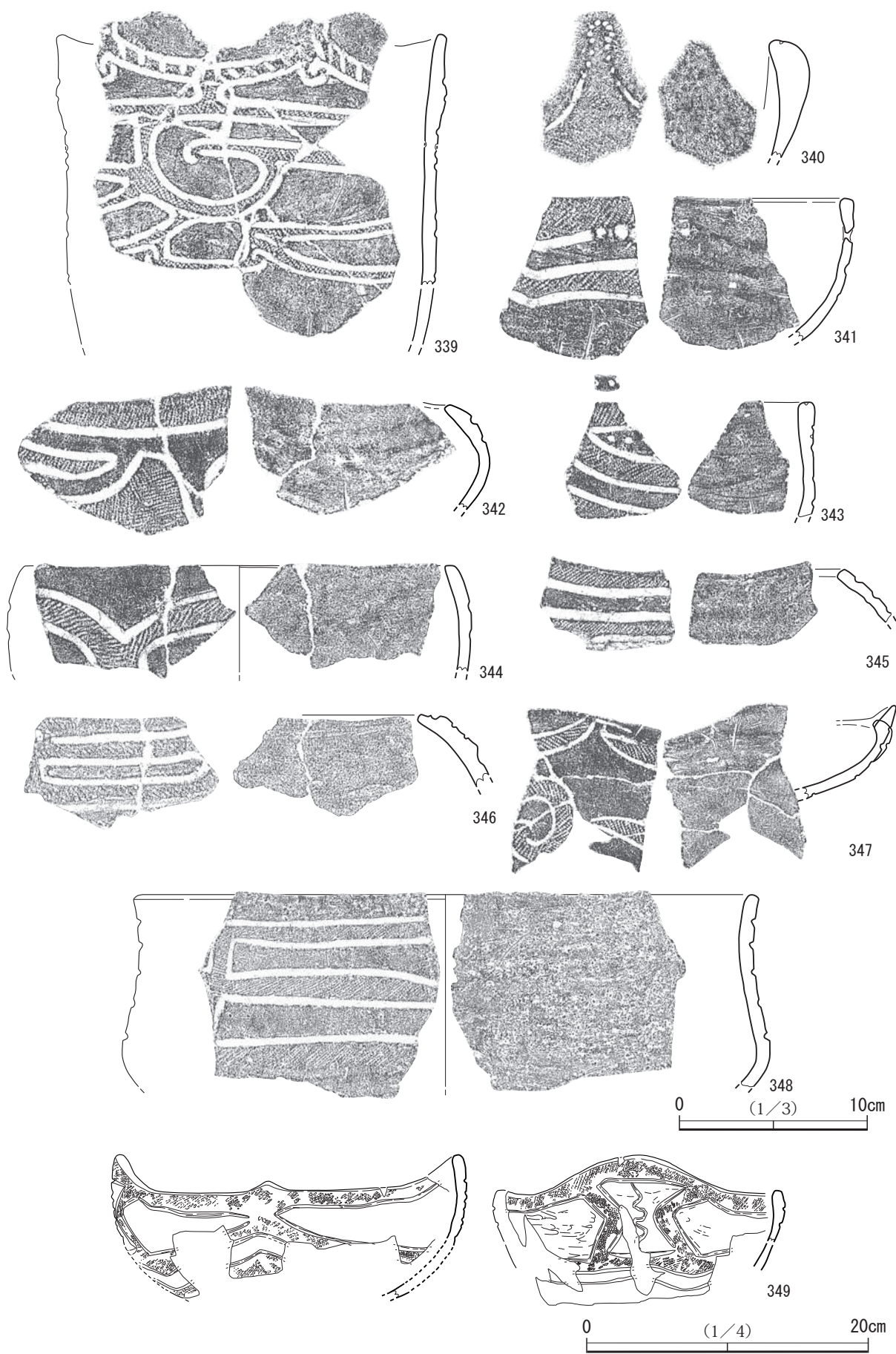


0 (1/4) 20cm

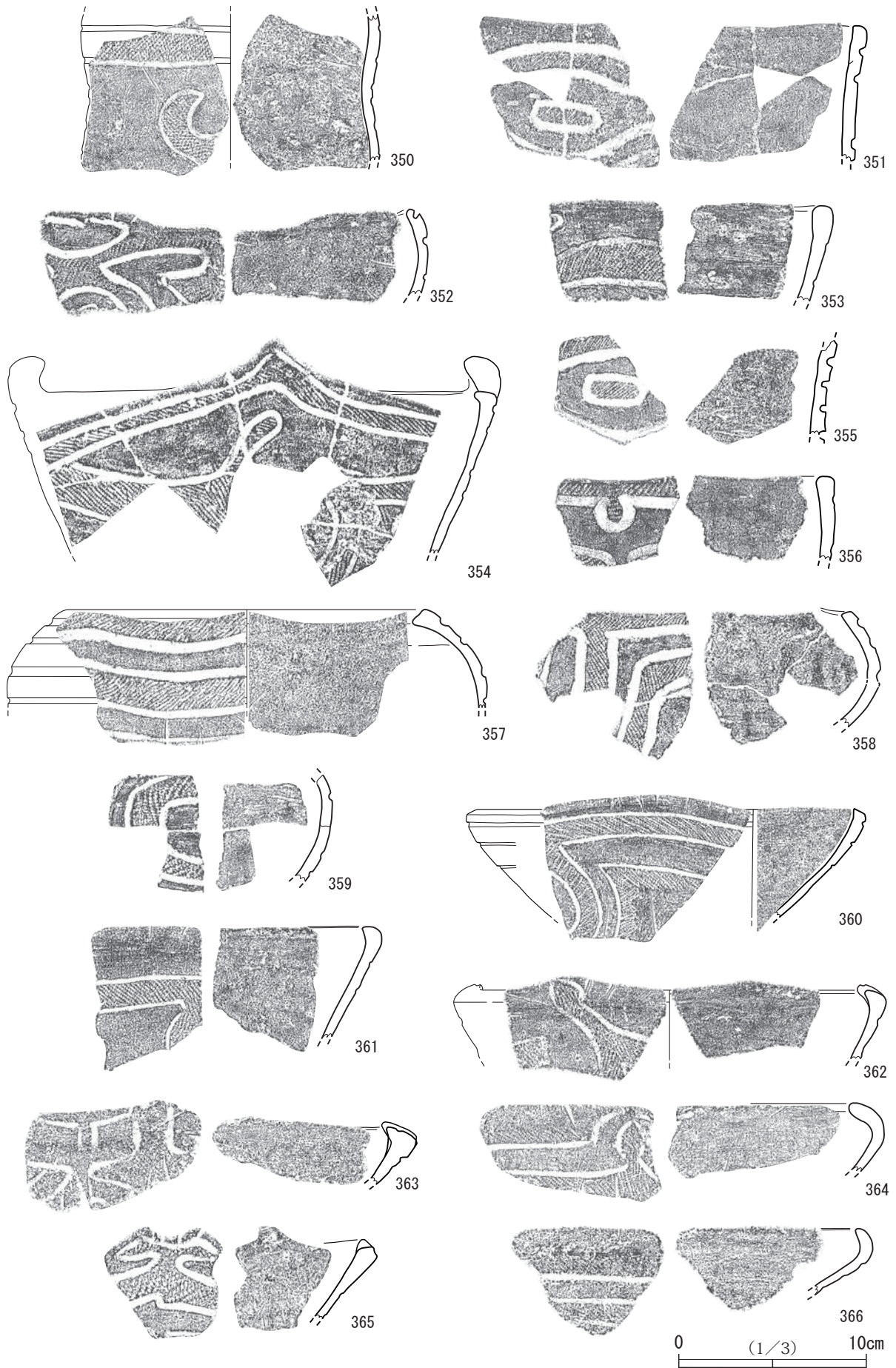
第62図 縄文土器実測図(28)

312は波状口縁をなし、口縁部が内湾する。縄文帯が波頂部から垂下する。313は口縁部が外傾する。口縁端部外面にスペード文を施す。314は幅の均一な縄文帯を施す。316と同様の文様構成であろう。316は山形口縁をなし、頂部に刻みを施す。外面に先端のとがるJ字文を施す。外面ナデ、内面条痕調整。317は波状口縁をなし、頸部がくびれ口縁部が直線的に立ち上がる。外面に先端のとがるJ字文を施す。318は波状口縁をなし、外面にJ字文を施す。320は波状口縁をなし、波頂部の口縁端部が肥厚する。外面にJ字文を施す。322は外面に楕円形の縄文帯を施す。外面ナデ、内面二枚貝条痕調整。323は波状口縁をなし、口縁部が内湾する。外面にJ字文を施す。325は波状口縁をなす。外面に巻貝擬縄文を施す。326は波状口縁をなし、波頂部が肥厚する。波頂部から縄文帯が垂下する。327は口縁部が外反し、口唇部が平坦面をなす。外面の縄文帯が口唇部まで及ぶ。内外面ミガキ調整。330～333は外面に巻貝擬縄文を施す。330～332は幅の狭い縄文帯をなし、いずれも内外面ナデ調整。333は区画文内に擬縄文を施す。外面ナデ、内面ミガキ調整。334は頸部がくびれ、口縁部が開く。外面に円文を施す。外面ナデ、内面ナデ、ミガキ調整。335は外面に幅の狭い縄文帯を施す。336は緩やかな波状口縁をなし、波頂部に刺突文を施す。外面に紡錘文を施す。337は山形口縁をなし、頂部に刻みを施す。外面に幅の狭い縄文帯を渦巻状に施す。338は波状口縁をなし、波頂部が肥厚し突起状を呈する。突起部に円孔、梯子状の沈線文と縄文を施す。胴部文様は3本沈線で構成され、沈線端部は鈎手状をなす。内外面ナデ調整。339は波状口縁をなし、頸部がややくびれる。口縁部外面の幅の狭い縄文帯に刻みを施す。胴部文様は渦巻状J字文をなし、沈線端部が鈎手状になる。内外面ナデ調整。外面に沈線文を施し、波頂部の沈線内には刺突文を施す。340は波状口縁をなし、波頂部が肥厚する。以上は磨消縄文を施すもので、J字文を施すもの(316、317など)も認められ、中津式とみられる。また、幅の狭い縄文帯で鈎手状の文様が認められるもの(339)や3本沈線を施すもの(338)は、福田KⅡ式とみられる。

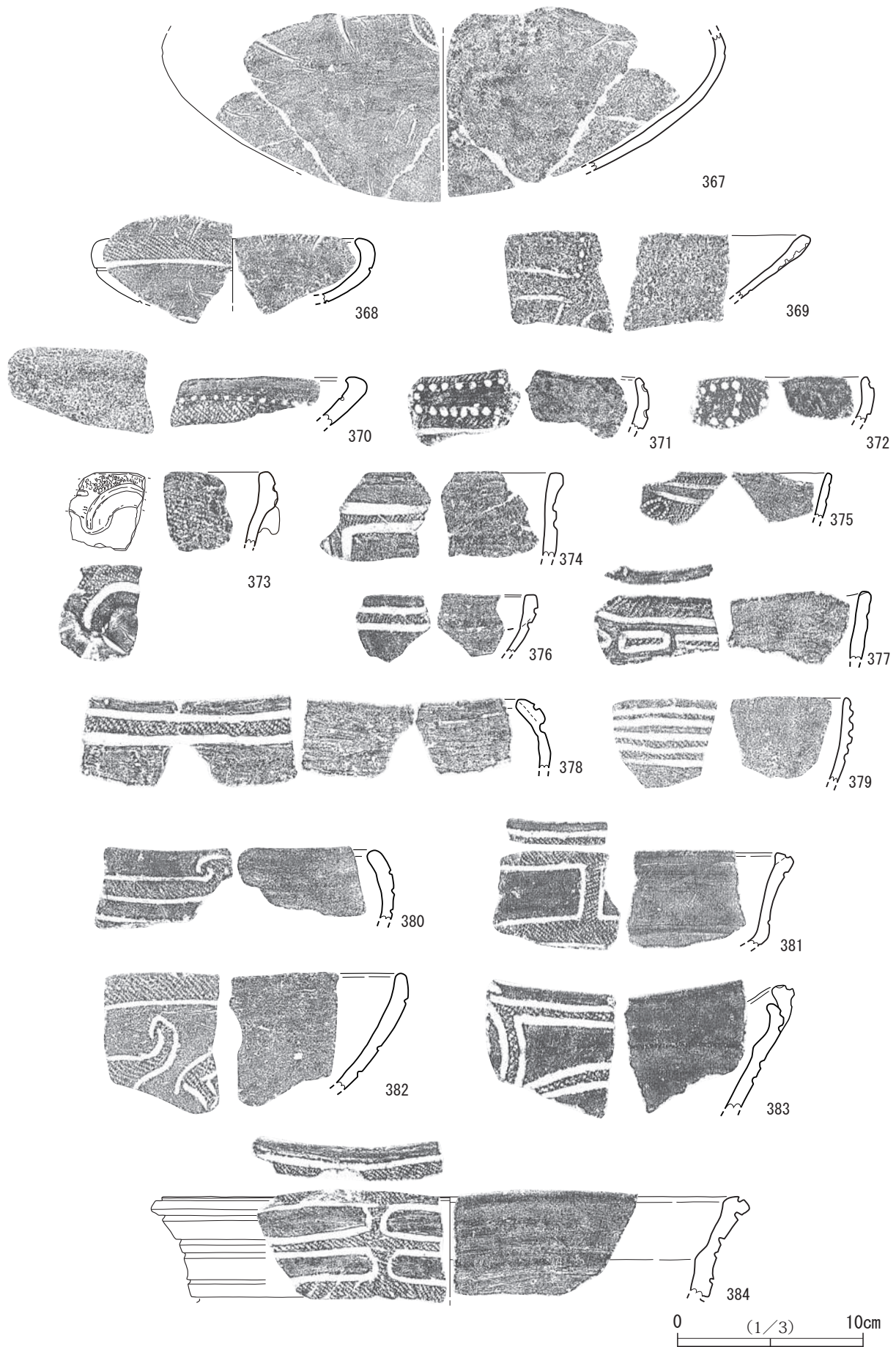
341～400は浅鉢、鉢。341は外面に縄文帯を施し、内外面ミガキ調整。342は無文部が幅の狭い帯状を呈する。外面ミガキ、内面ナデ調整。343は外面に縄文帯を施し、無文部と口唇部に刺突文を施す。344は外面に連弧状の縄文帯を施す。外面ミガキ、内面ナデ調整。345、346、348は縄文帯を水平に施す。347は緩やかな波状口縁をなし、波頂部の内面が段状に肥厚する。外面に渦巻状の縄文帯を施し、沈線端部は鈎手状をなす。内外面ミガキ調整。349は平面楕円形を呈する浅鉢。長辺24.9cm、短辺20.3cmを測る。波状口縁をなし、短辺側の波頂部が高く、長辺側が低い。外面に縄文帯を施し、短辺側の無文部に蛇行文を施す。外面ミガキ、内面ナデ調整。350は頸部がくびれる鉢。外面に先端のとがるJ字文を施す。351、355は外面に楕円形の文様を施す。353は縄文帯に赤色顔料を塗布する。外面ナデ、内面条痕、ナデ調整。354は波状口縁をなし、口縁端部内面が肥厚する。外面に幅が均一でない縄文帯を施す。沈線端部が途切れている。外面ナデ、内面条痕のちナデ調整。357は内湾するボウル形浅鉢。外面に縄文帯を水平に施す。360、361は体部が直線的に立ち上がる浅鉢で、ともに外面ミガキ、内面ナデ調整。360は縄文帯が渦巻文状に湾曲する。362～366は口縁部が内側に屈曲する浅鉢。362、363、365は口唇部が平坦面をなし、縄文帯が口唇部にも及ぶ。369は体部が大きく開く浅鉢。外面に縄文帯を施し、沈線内に刺突文を施す。370は体部が開き、口縁端部が屈曲する浅鉢。内面に縄文、沈線文を施し、沈線内に刺突文を施す。371、372は口縁部に区画文を施



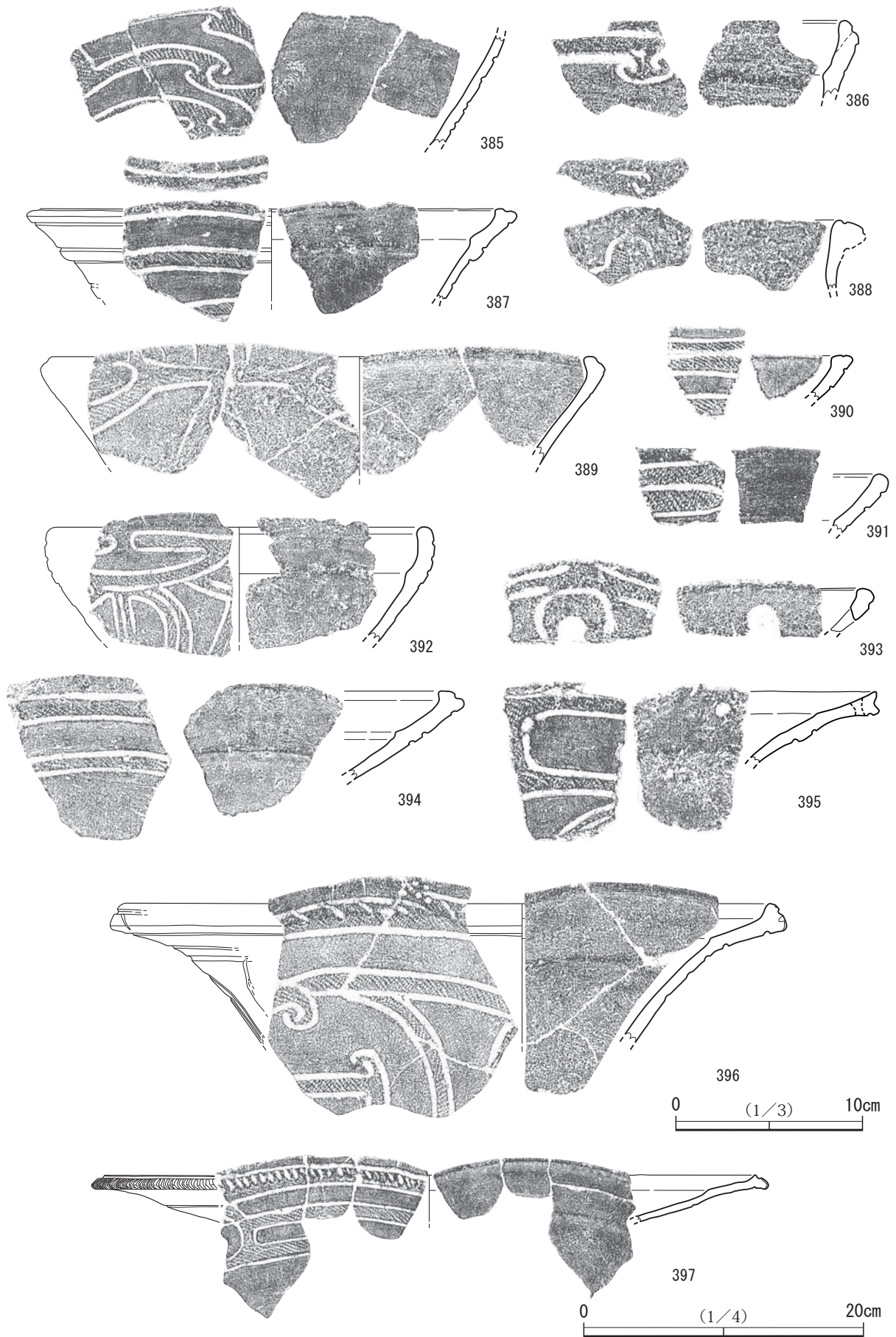
第63図 縄文土器実測図(29)



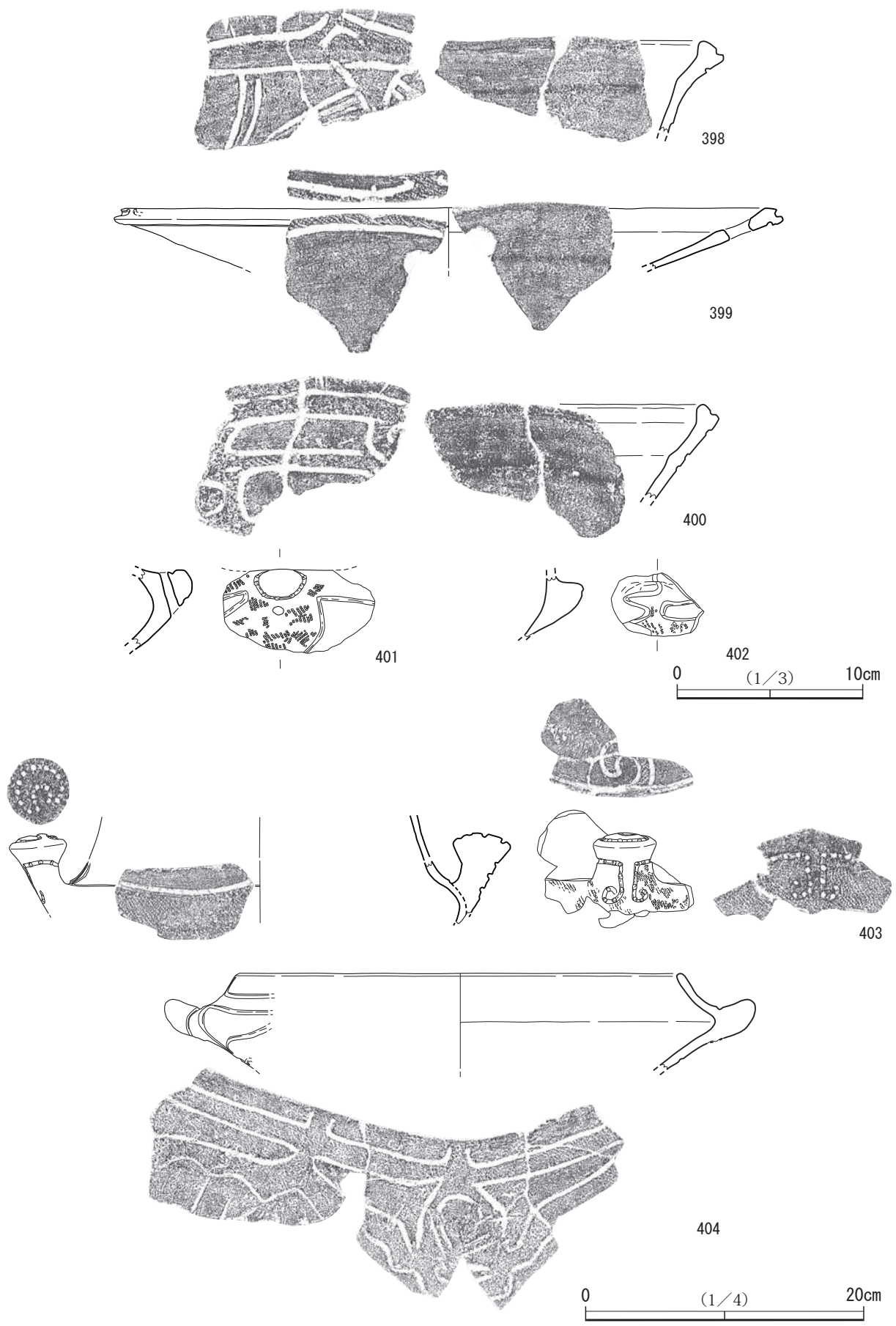
第64図 縄文土器実測図(30)



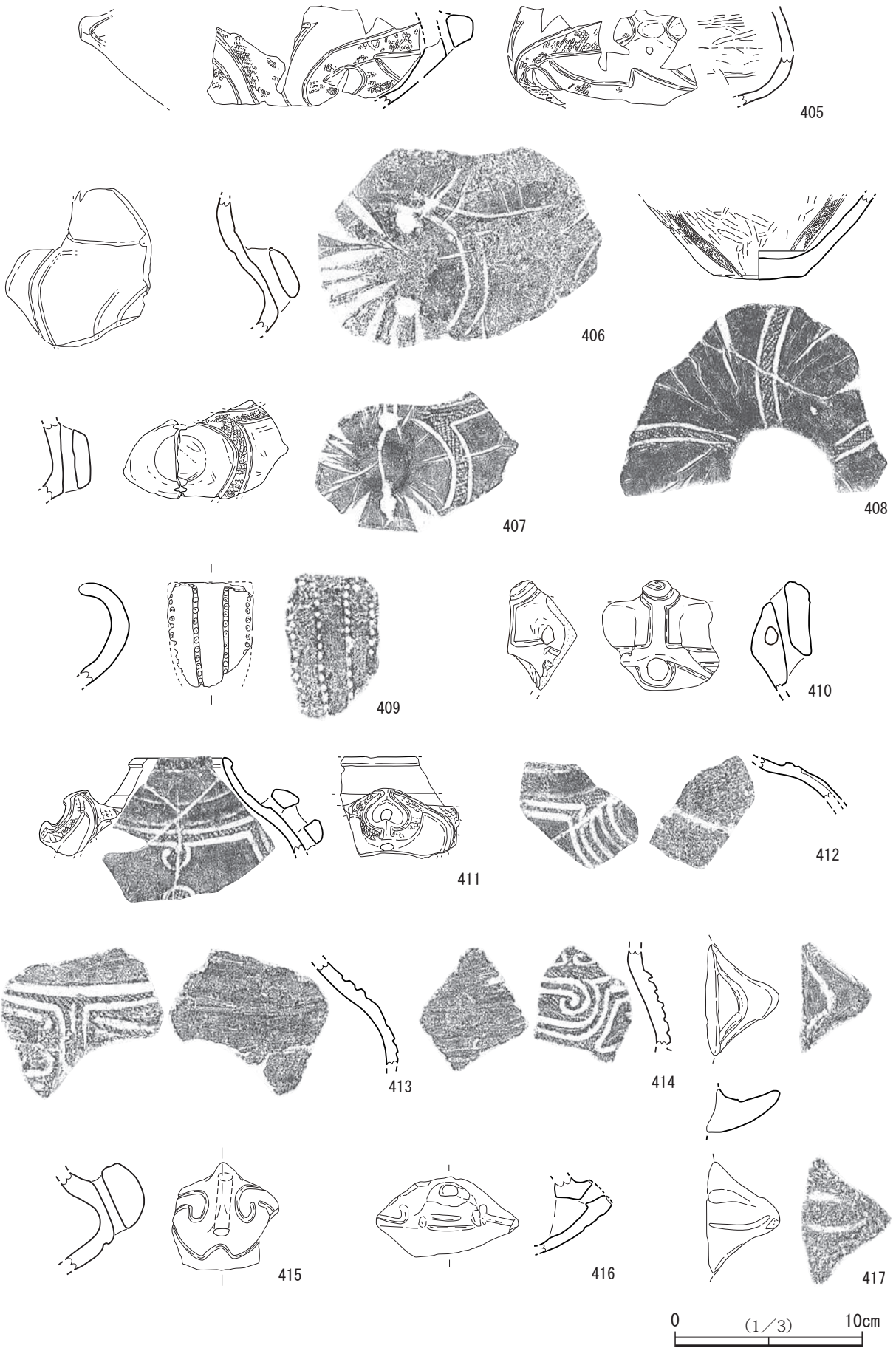
第65図 縄文土器実測図(31)



第66図 縄文土器実測図(32)



第67図 縄文土器実測図(33)

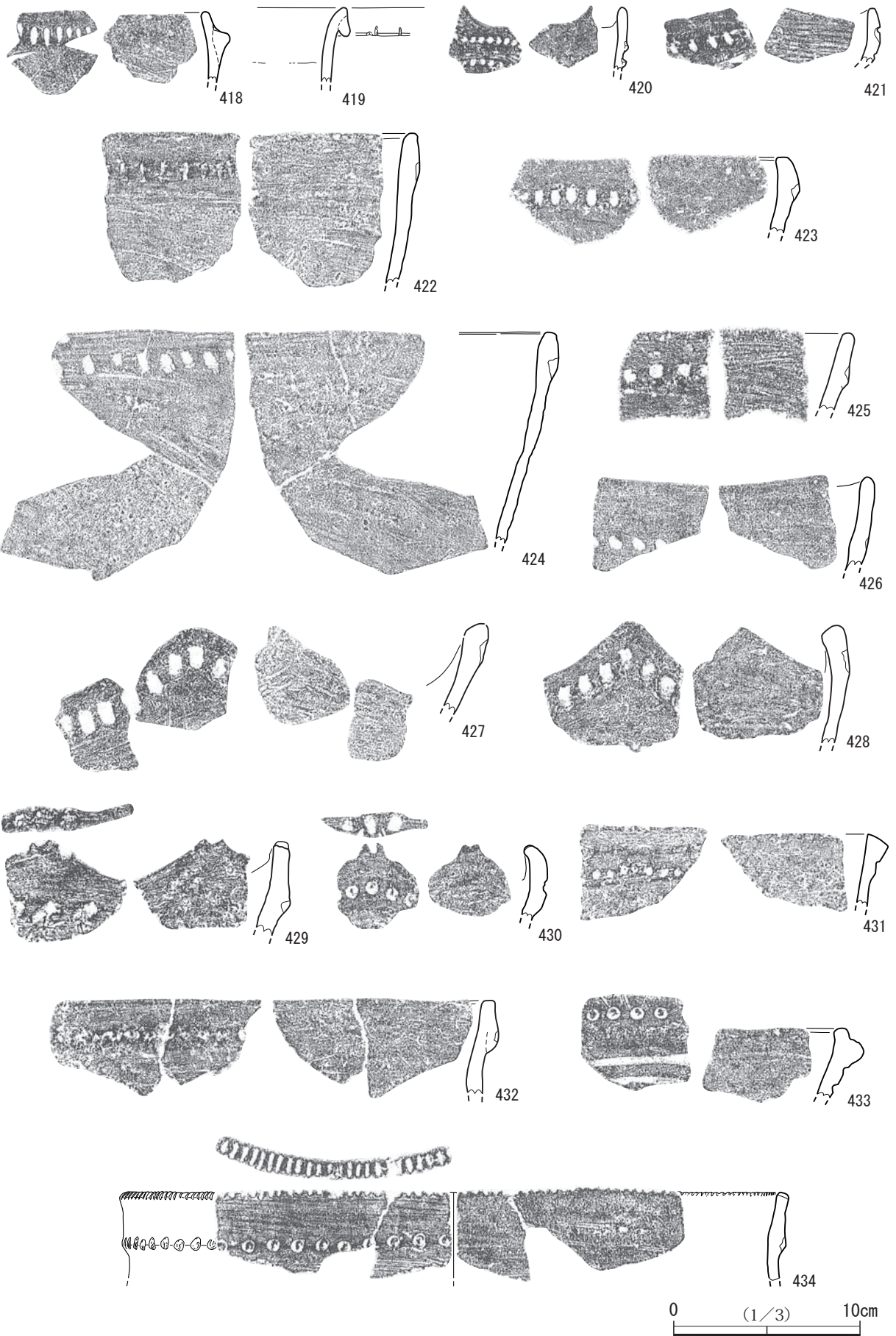


第68図 縄文土器実測図(34)

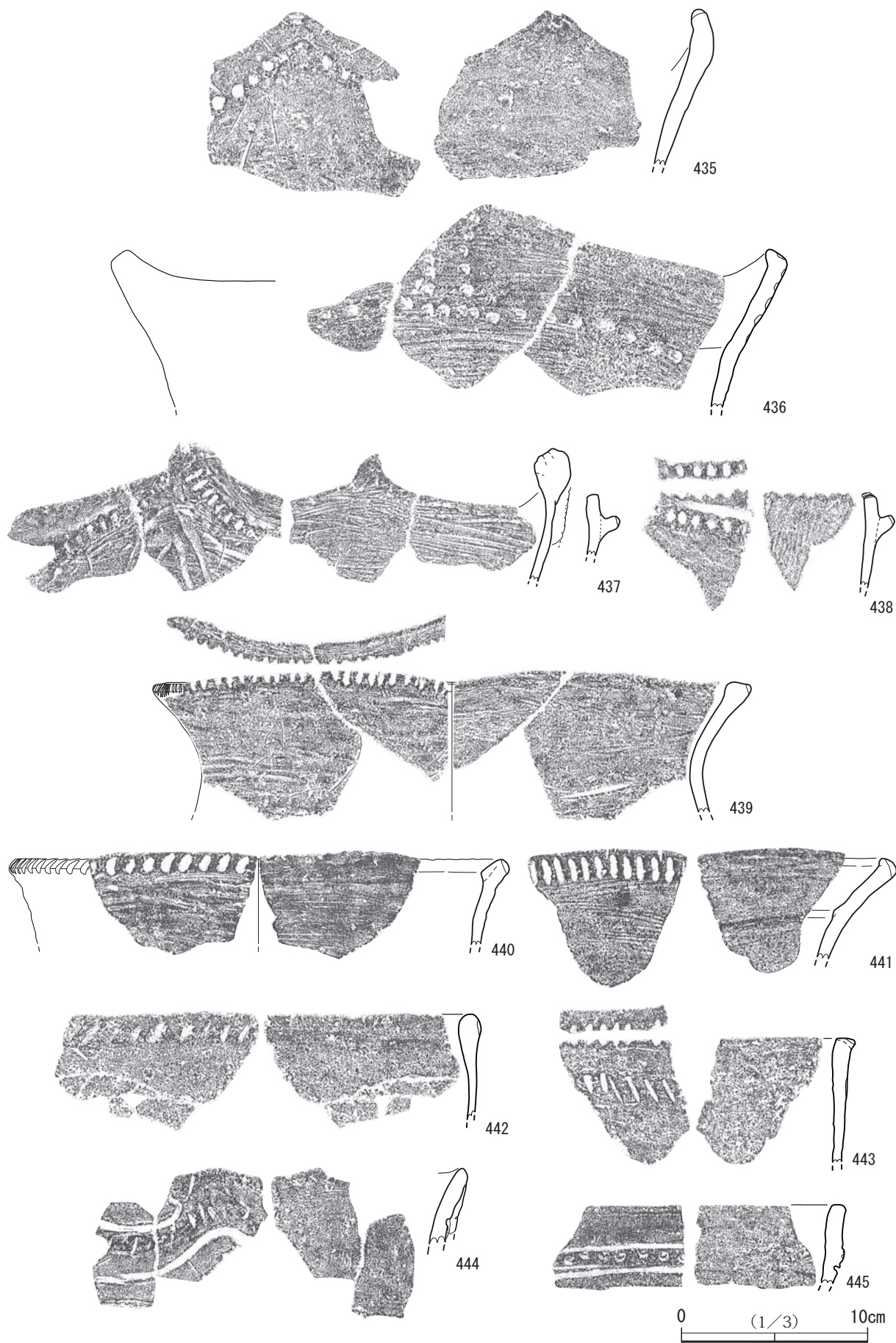
し、沈線内に刺突文を施す。375は外面に沈線文と二枚貝腹縁による刺突文を施す。綾B式に類似する。373は口縁端部外面が段状に肥厚する。肥厚部に縄文と沈線文を施し、内面にも縄文を施す。外面に赤色顔料を塗布する。374、376～379は幅の狭い縄文帯を施す。380は口縁部が内湾する。幅の狭い縄文帯を施し、沈線端部が鈎手状をなす。382は縄文帯の沈線端部が鈎手状をなす。383は波状口縁をなし、内面の屈曲部に稜を有する。外面に縄文帯を施す。沈線端部は鈎手状をなす。384は口縁部内面の屈曲部に稜を有する。外面に幅の狭い縄文帯を区画状に施す。385は胴部片。縄文帯の沈線端部が鈎手状をなす。386は口縁部が外傾し、内面の屈曲部に稜を有する。外面に幅の狭い縄文帯を施す。沈線端部が鈎手状をなす。387は体部が開き、内面の屈曲部に稜を有する。外面に幅の狭い縄文帯を施す。381、384、387、390は口唇部にも縄文帯を施す。389は体部が開き、口縁端部が屈曲する。外面に幅の狭い縄文帯を施す。392は口縁部が内湾し、内面の屈曲部に稜を有する。外面に幅の狭い縄文帯を施し、下半部には3本沈線を施す。393は円孔を有し、その周りに沈線文を施す。394～400は内面の屈曲部に稜を有し、頸部が外反あるいは外傾する。いずれも口唇部に縄文帯を施す。396は口唇部の縄文帯に斜行刻みと刺突文を施す。外面に幅の狭い縄文帯を施し、沈線端部は鈎手状をなす。外面ミガキ、内面ナデ調整。397は体部が大きく開く。口唇部の縄文帯に刻みを施す。外面ミガキ、内面ナデ、ミガキ調整。398は口唇部のみ縄文帯を施し、それ以下は2本沈線を施す。399は体部が大きく開く。口唇部のみ縄文帯を施し、それ以下は無文となる。内外面ミガキ調整。以上は磨消縄文を施す浅鉢、鉢類であり、J字文を施すもの(350)や沈線内に刺突文を施すもの(370～372)も認められ、中津式とみられる。また、口縁部内面に稜を有するものや、鈎手状の文様(385、396など)、3本沈線による磨消縄文(392)を施すものが認められ、福田KⅡ式とみられる。

401、402は浅鉢あるいは深鉢の把手。401は把手端部の円形の沈線内に刺突文を施す。403は把手付の壺。把手側面と頂部の沈線内に刺突文を施す。把手頂部の沈線はC字形を呈する。把手より上半の胴部には渦巻状の縄文帯を施す。404は把手付の浅鉢。上半部に縄文帯、下半部に波状文を施す。405は把手付の浅鉢で平面楕円形を呈する。把手に穿孔を有する。406、407は双耳壺。把手の周囲に縄文帯を施す。408は壺で、底部まで縄文帯が施される。406～408は同一個体の可能性がある。409は深鉢の口縁端部外面につく突起と考えられる。沈線内に刺突文を施す。401～409は中津式とみられる。410は深鉢の突起で、突起頂部に渦巻文を施す。411は双耳壺。外面に突帯状をなす縄文帯を施す。沈線端部が鈎手状をなす。把手には2方向から穿孔を施す。412は壺の胴部。外面に突帯状をなす縄文帯を施す。411と同一個体あるいは同様の器種の可能性がある。413、414は壺の胴部。幅の狭い縄文帯を施す。414は渦巻文を施し、沈線端部が鈎手状をなす。416は注口で外面に沈線文を施す。410～417は福田KⅡ式あるいはその併行期に位置づけられる。

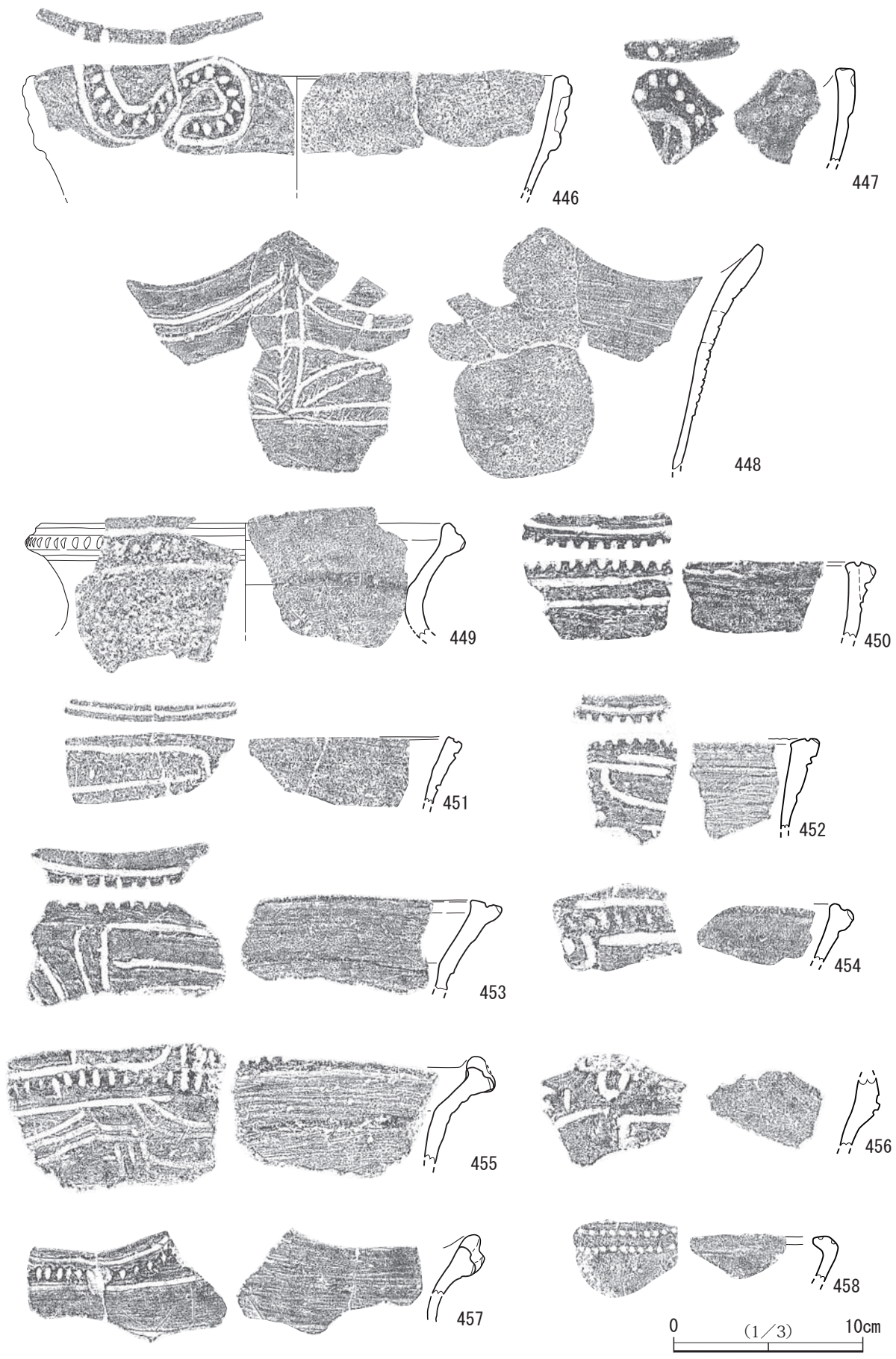
418は口縁部端部からやや下がった位置に隆帯を貼り付け、隆帯の上部に刻みを施す。419は外反する口縁端部外面に隆帯を貼り付け、隆帯上に刻みを施す。420は口縁部に隆帯を2条貼り付け、隆帯上部に刺突文を施す。421は口縁部に刻み、沈線文を施す。422は口縁端部外面が肥厚し、肥厚上に刻みを施す。423～425は口縁端部外面が段状に肥厚し、刻みあるいは刺突文を施す。424、425の刻み、刺突文の施文原体は巻貝である。427、428は波状口縁をなし、口縁端部内面が肥厚する。外面に巻貝による刻みを施す。429は波状口縁をなし、口縁端部外面が肥厚する。肥厚部と波頂部に



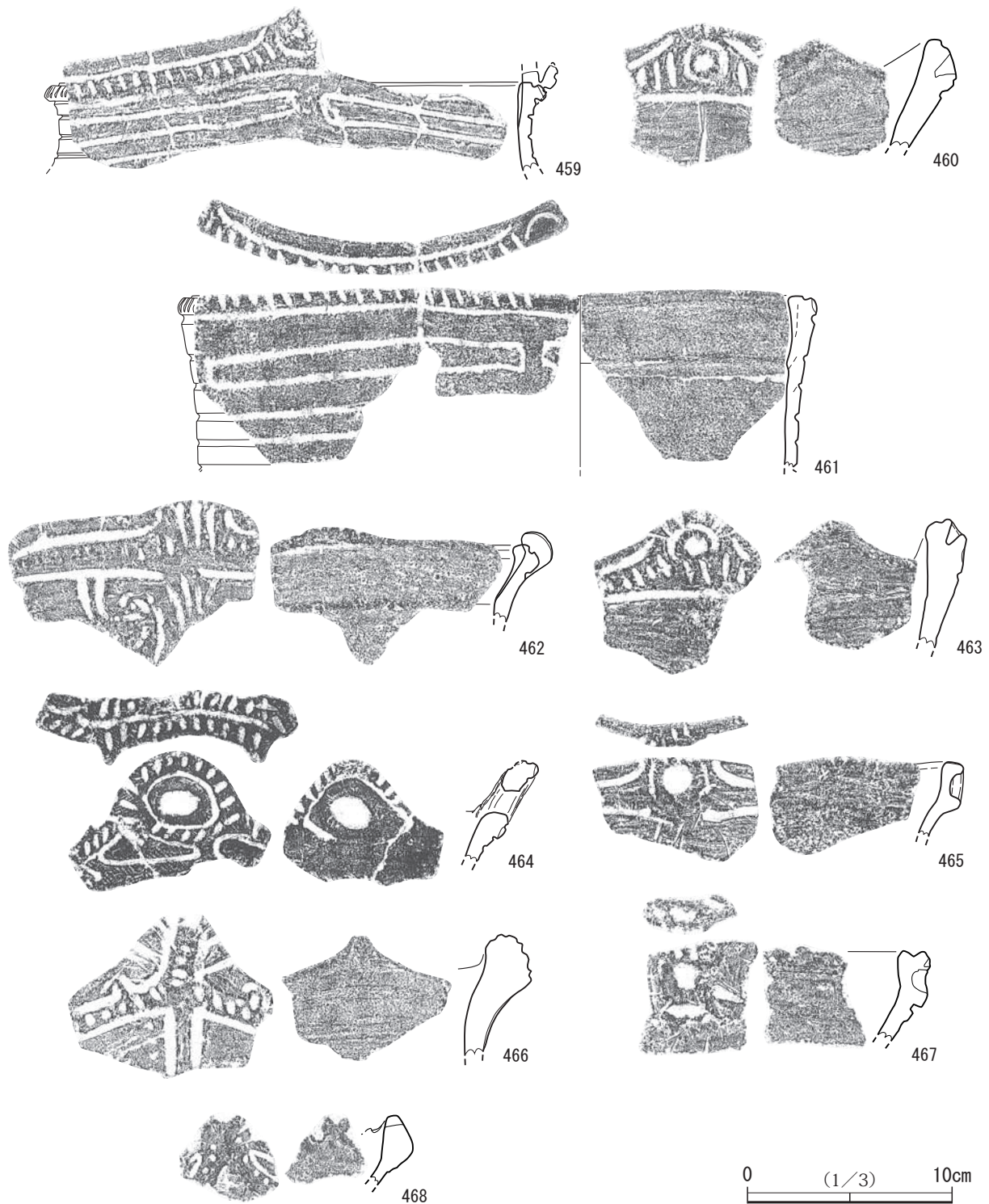
第69図 縄文土器実測図(35)



第70図 縄文土器実測図(36)

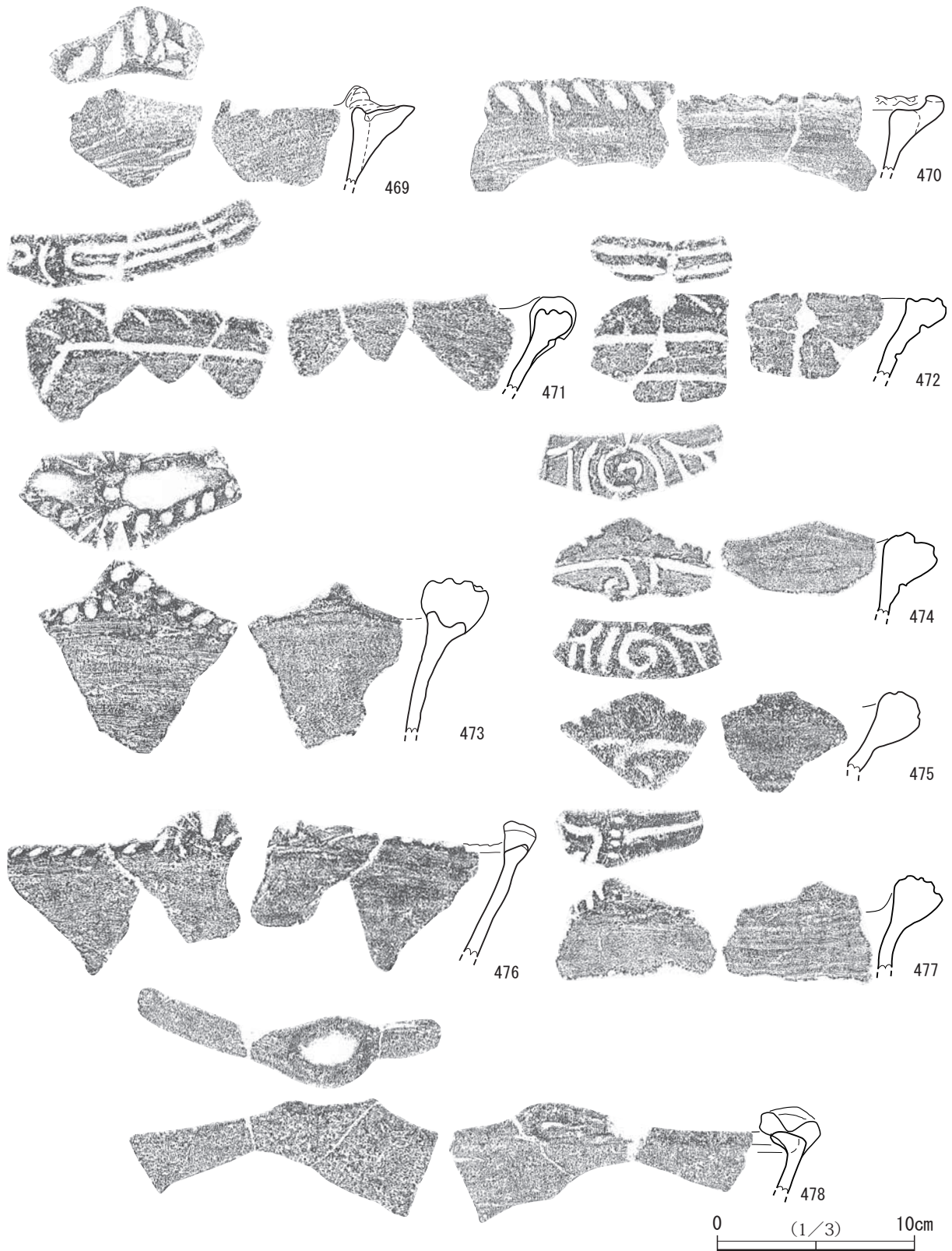


第71図 縄文土器実測図(37)



第72図 縄文土器実測図(38)

巻貝による刻みを施す。430は波状口縁をなし、波頂部に刻み、外面に刺突文を施す。刻みと刺突文の施文原体は巻貝である。431は外面に刺突文を施す。432は口縁端部外面が段状に肥厚し、巻貝による刺突文を施す。433は口縁部に隆帯を有し、隆帯の上部に巻貝による刺突文、下部に沈線文を施す。434は口縁端部外面が段状に肥厚し、巻貝による刺突文を施す。外面巻貝条痕、内面ナデ調整。435は波状口縁をなし、波頂部に刻み、外面に巻貝による刺突文を施す。436は外面に巻貝による刺突文を施す。437は波状口縁をなし、波頂部端部外面が肥厚する。口縁部に隆帯を貼り付け、刻みを施す。

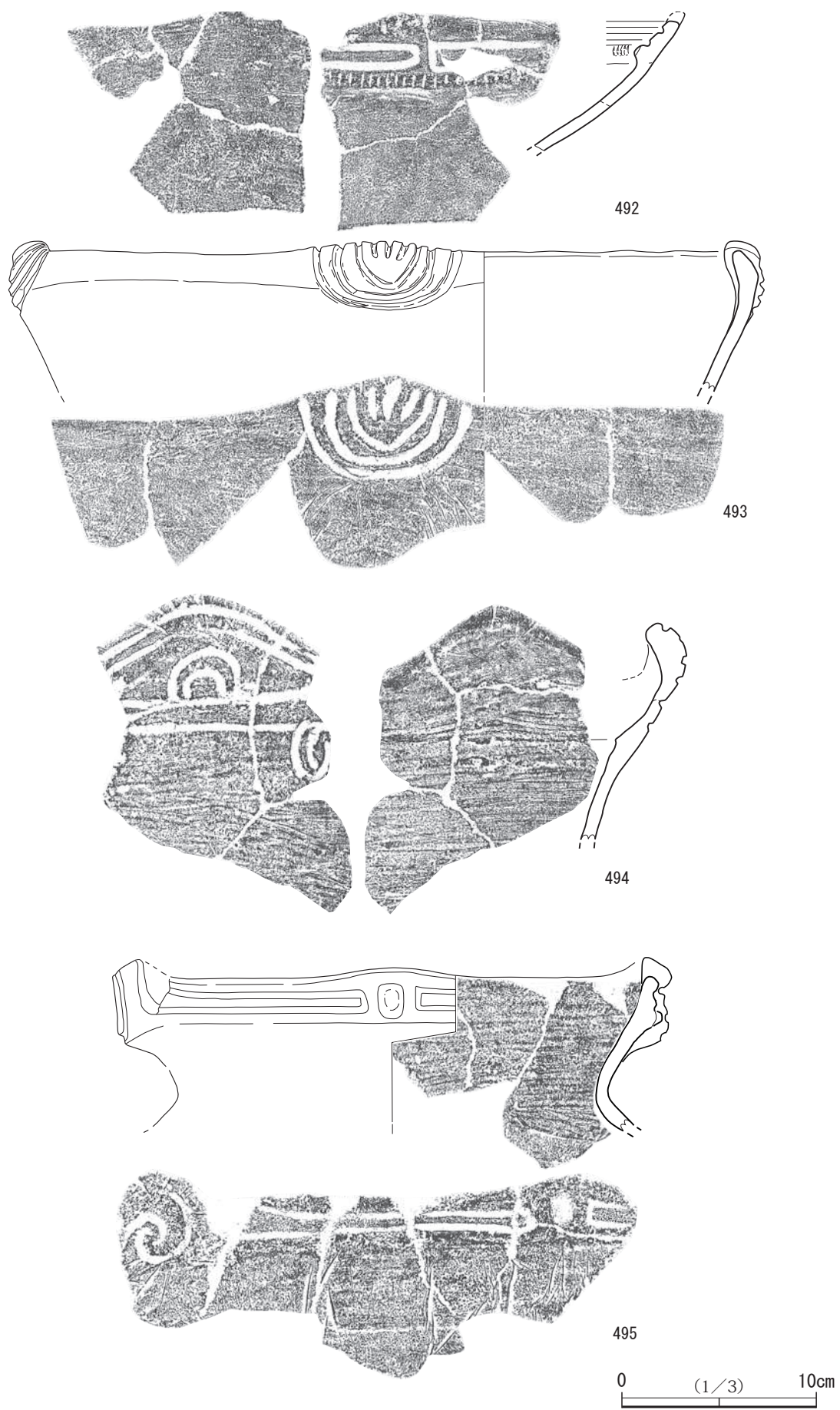


第73図 縄文土器実測図(39)

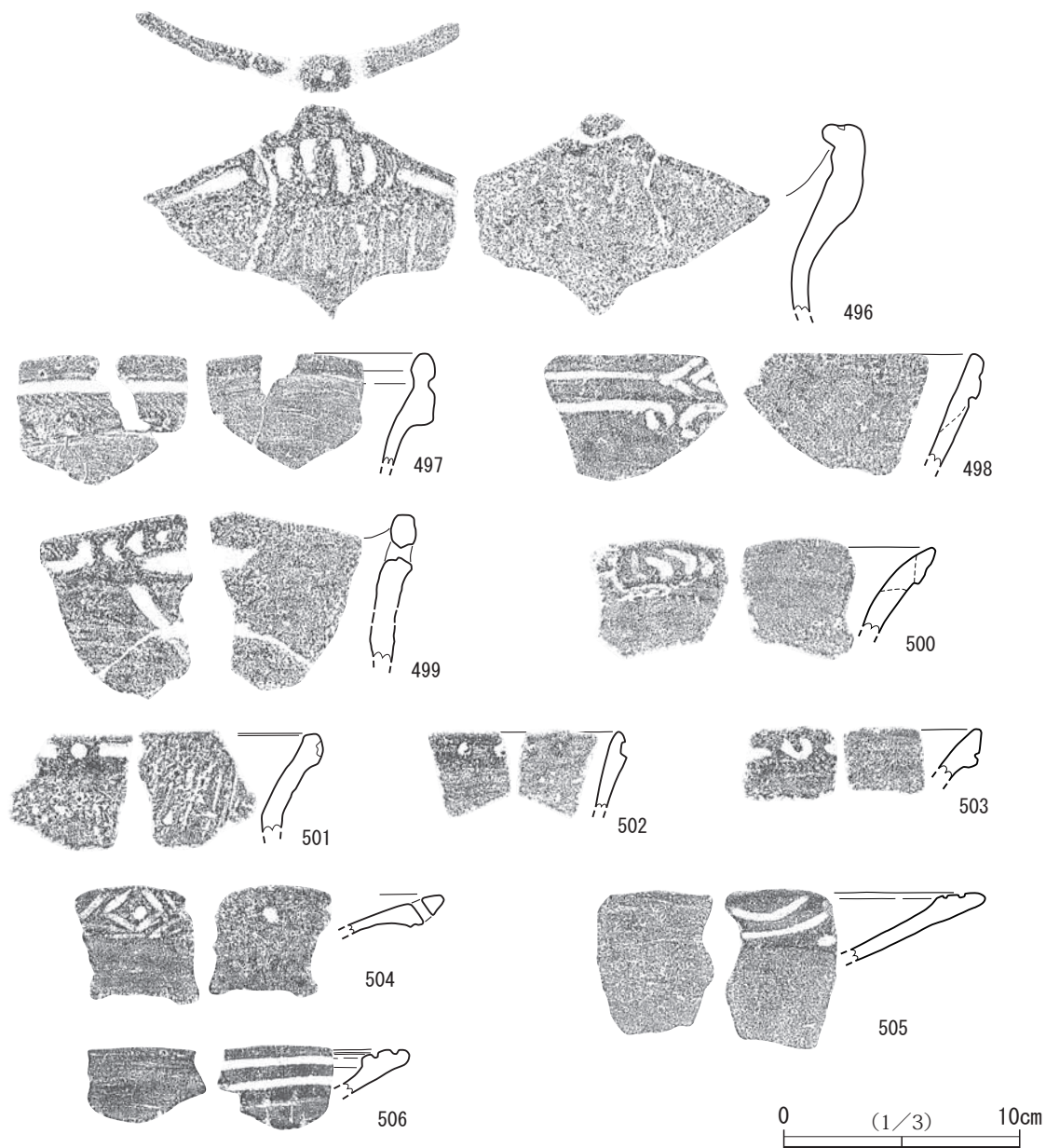
隆帯の下には紡錘文を施す。内外面巻貝条痕調整。438は口縁部に隆帯を貼り付け、口唇部と隆帯上に刻みを施す。439～443は口縁部内面が肥厚し、口唇部に刻みを施す。444は口縁部に隆帯を貼り付け、刻みを施す。隆帯の上下には沈線文を施す。445は口縁部に隆帯を有し、巻貝による刺突文を施す。隆帯の上下に沈線文を施す。446は口縁部にS字状の隆帯を貼り付け、刻みを施す。隆帯の上



第74図 縄文土器実測図(40)



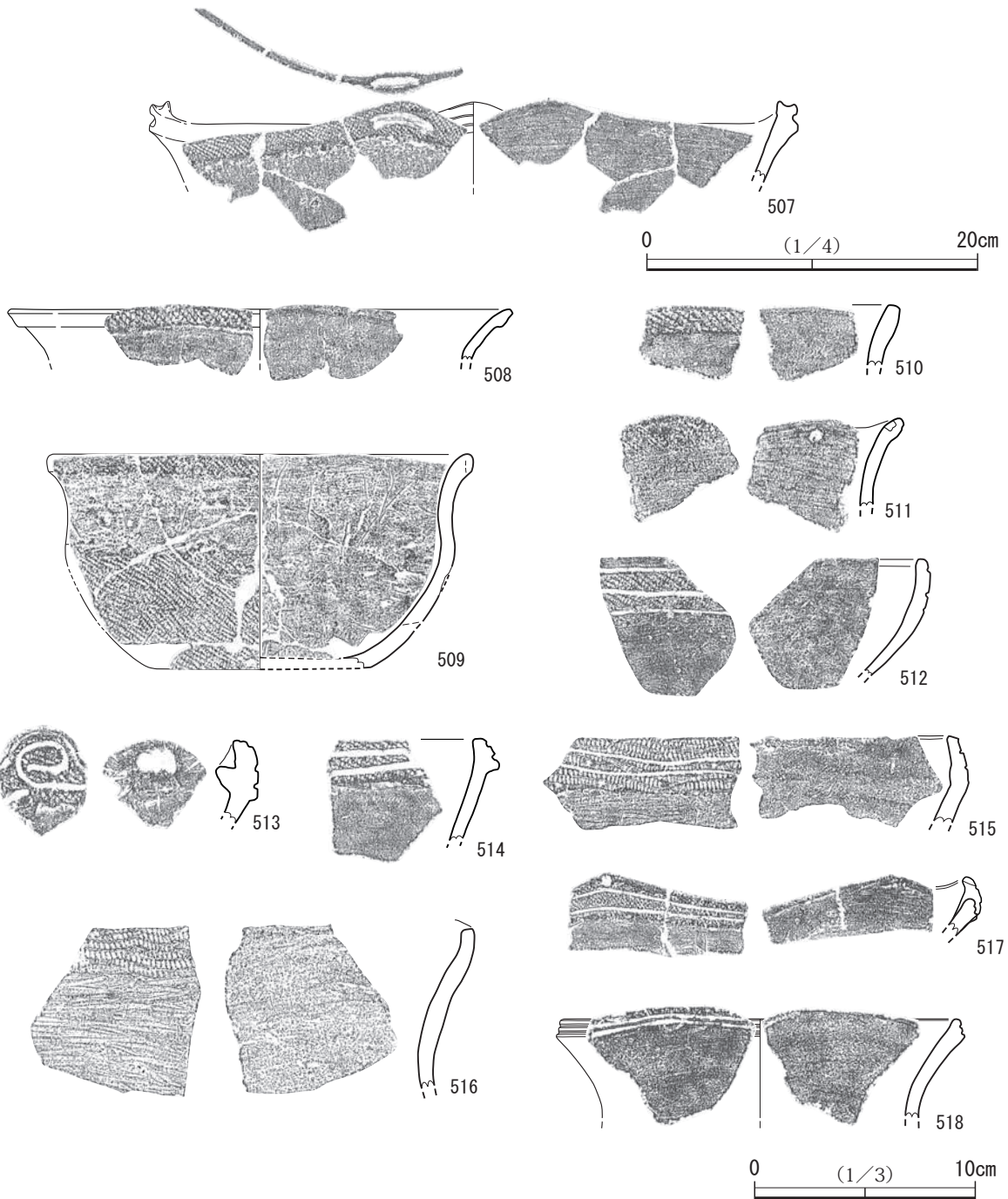
第75図 縄文土器実測図(41)



第76図 縄文土器実測図(42)

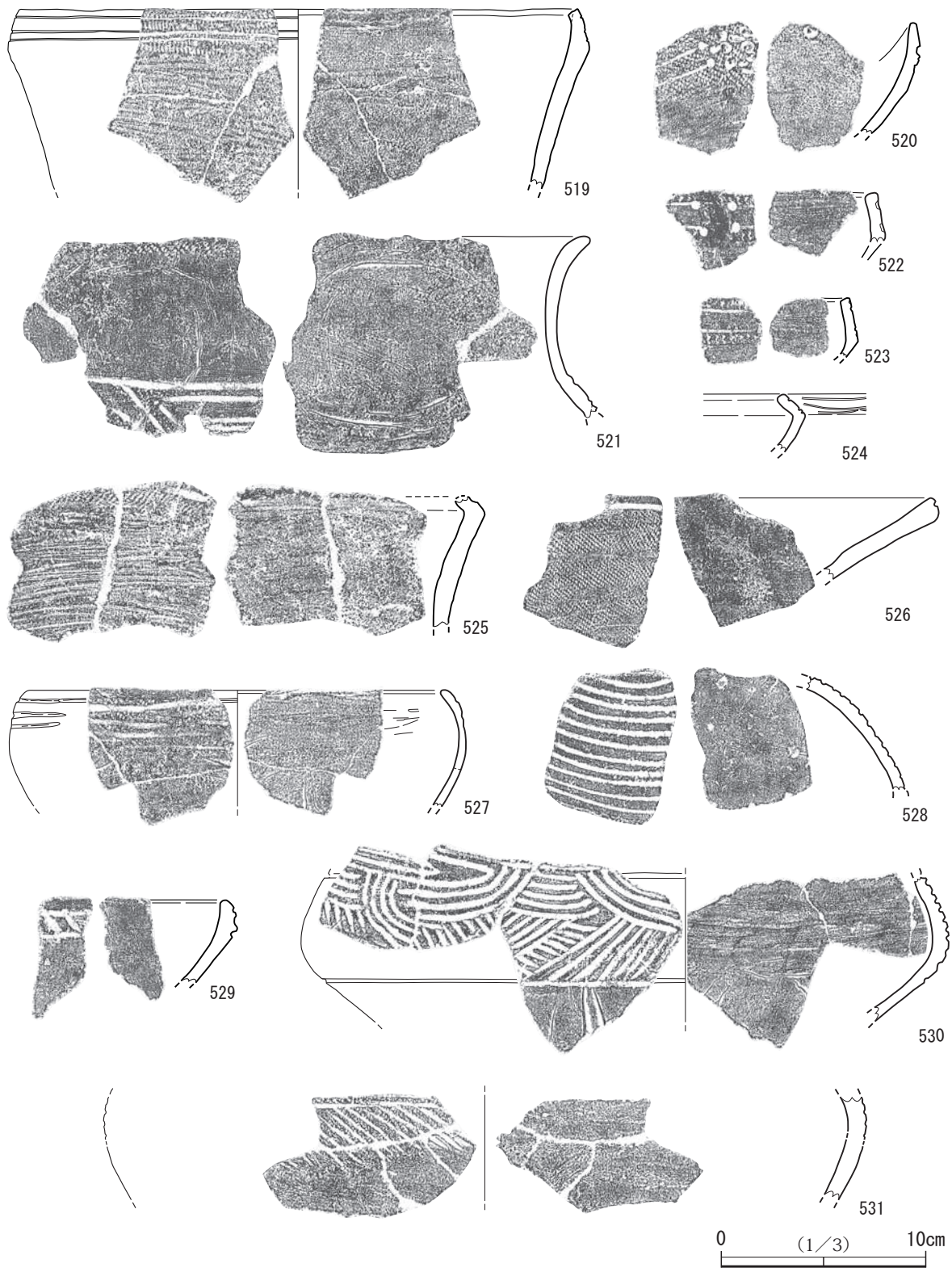
下に沈線文を施す。同一個体の破片からS字状の隆帯は口縁部に4箇所つくとみられる。448は波状口縁をなし、口縁部が外反する。外面の2条の沈線間に刻みを施す。コウゴ-松式に類似する。

449～468は口縁端部外面が肥厚し、沈線文や刻みを施すものである。449は頸部がくびれ、口縁部が外反する。肥厚部に刻みを施す。451は口縁端部、外面に沈線文を施す。455は口縁部が外反し、内面の屈曲部に稜を有する。口縁端部に沈線文、刻み、頸部に沈線文を施す。457は口縁部が外反する。口縁端部外面が肥厚し、刻みを施す。459は口縁部が外反し、口縁端部外面に沈線文、刻みを施す。口縁端部が一部突起状をなす。460、463は波状口縁をなし、波頂部に円形刺突、その周囲に円文あるいは弧線文、刻みを施す。461はほぼ直立し、口縁部内面に稜を有する。口縁端部外面の刻みと沈線文が一部で途切れ、弧線文を施す。462は口縁部が外反し、内面の屈曲部に稜を有する。口縁端部外面に刻み、沈線文を施す。頸部に沈線文を施す。464は口唇部に山形の突起を有する。突起の中央部分は円孔となる。円孔のまわりに円文、刻みを施す。口唇部には沈線文、刻み、外面には縄文を施



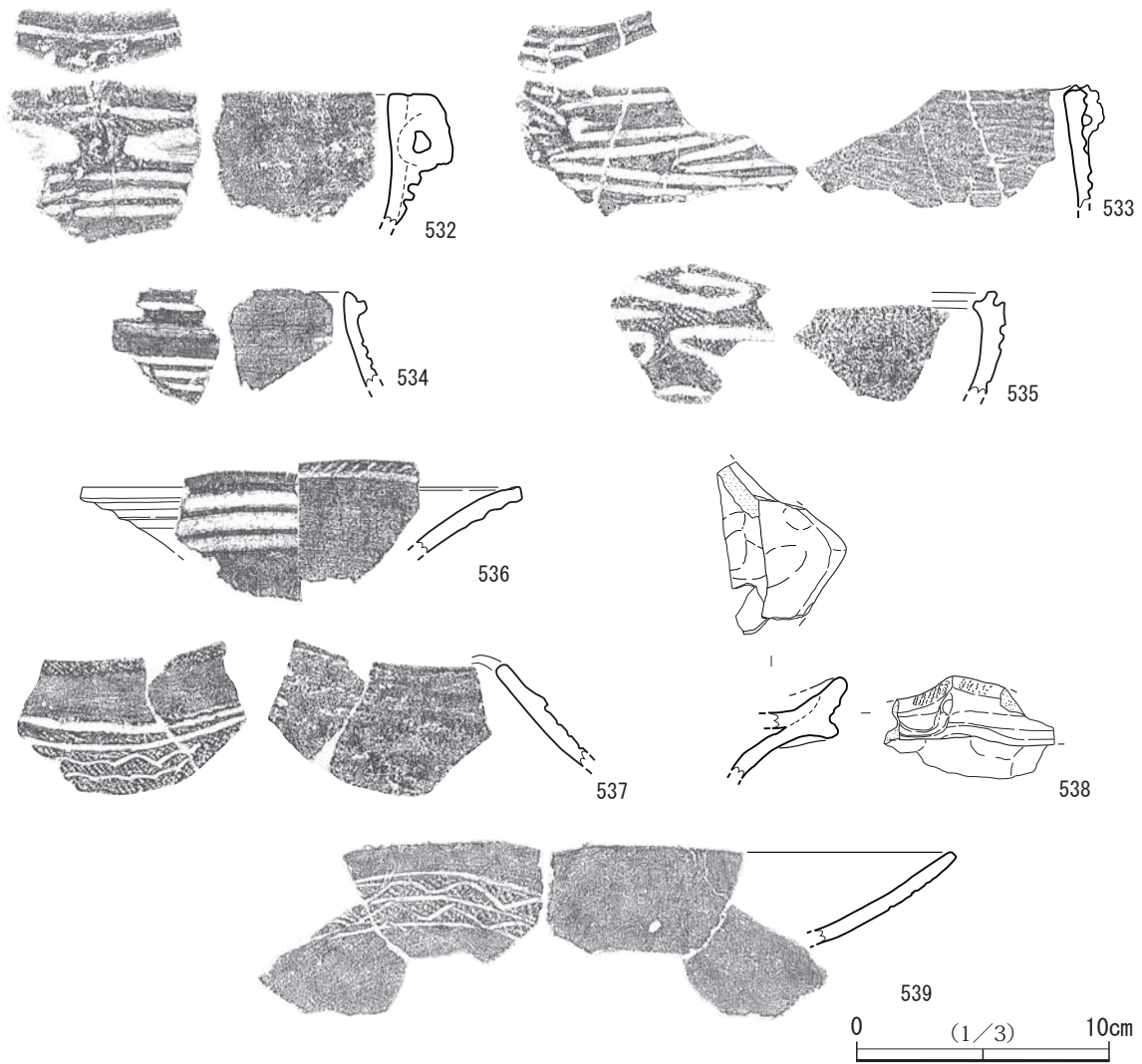
第77図 縄文土器実測図(43)

す。465、467は口縁端部外面が肥厚し、暗孔、沈線文を施す。口唇部に刻みを施す。468は口縁端部外面が肥厚し、沈線文、刺突文を施す。469～478は口縁端部外面が肥厚し、上面に施文するものである。469、470は同一個体で、口唇部に短沈線刻みを施す。471は口唇部に沈線文、刻みを施す。472は口唇部に沈線文を施す。473は肥厚した口唇部が浅くくぼみ、そのまわりに刻みを施す。474、475は口唇部上面に渦巻文、重弧文を施し、外面に渦巻文を施す。476は口唇部に突起を有する。口唇部および突起に刻みを施す。477は口唇部に沈線文、刻みを施す。478は肥厚した口唇部が浅くくぼむ。479は山形の突起を有する。突起部は振られており中央部分は円孔状をなす。口唇部に刻みを施す。480～484は深鉢の口唇部に付く突起である。480は突起の外面に縄文帯を施し、沈線端部は鈎手状になる。481は突起の外面に突帯を貼り付け、刻み、沈線文を施す。482は突起の外面に沈線



第78図 縄文土器実測図(44)

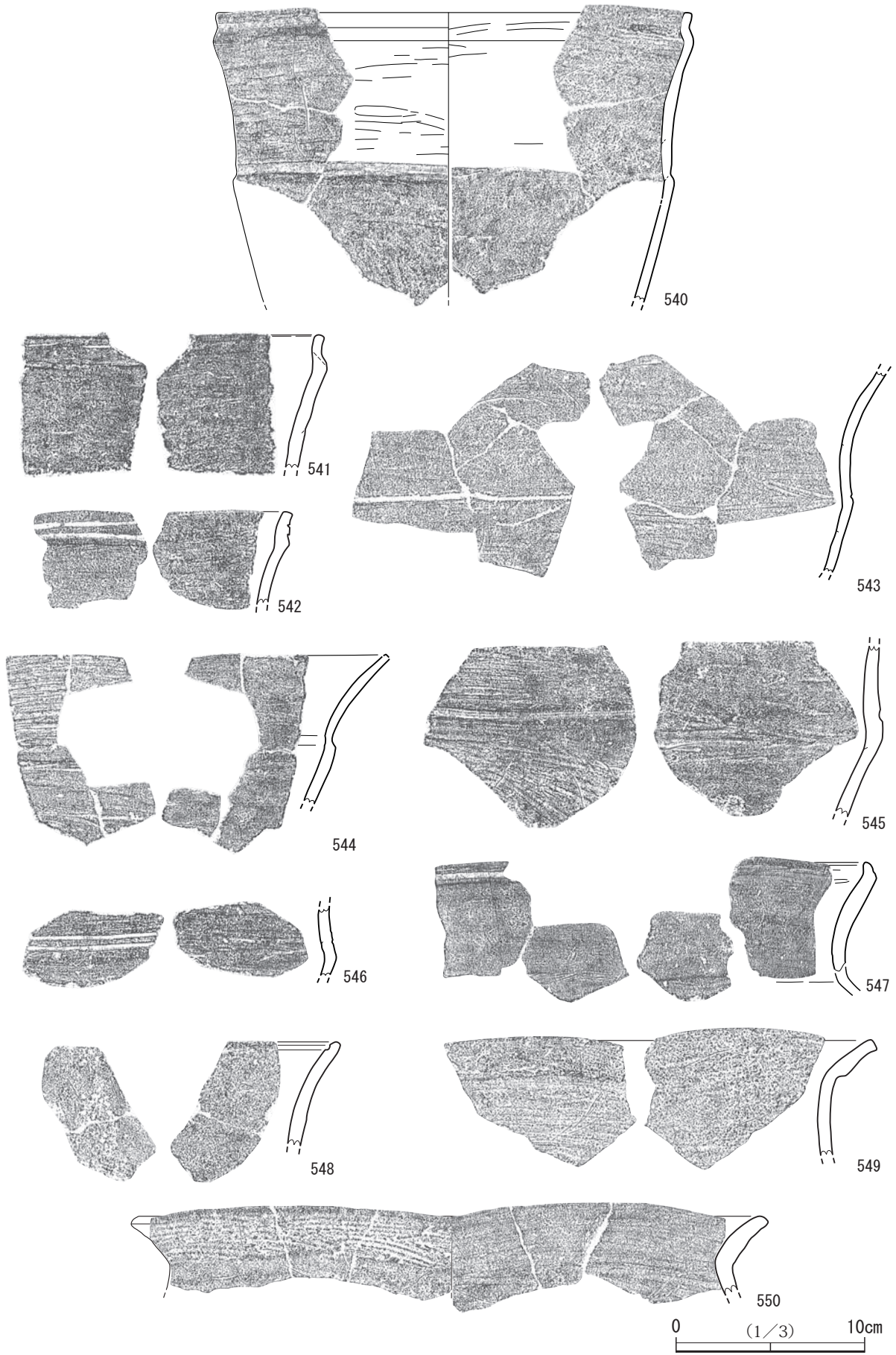
文、円形刺突を施す。沈線端部は途切れている。483は中央部分が円孔となる山形突起の一部であろう。口唇部には刻みを施す。484は突起の中央に暗孔、口唇部に刻みを施す。485～487は緩やかな波状口縁をなし、頸部がくびれ、口縁部が内湾する。485は口唇部に沈線文、刻みを施し、頸部以下は無文である。486は波頂部の端部外面に渦巻文を施し、頸部にも沈線文を施す。487は口唇部に沈線文、弧線文、刻みを施す。頸部は無文であるが、胴部には刺突文を施す。488は487と同様の胴部刺突文



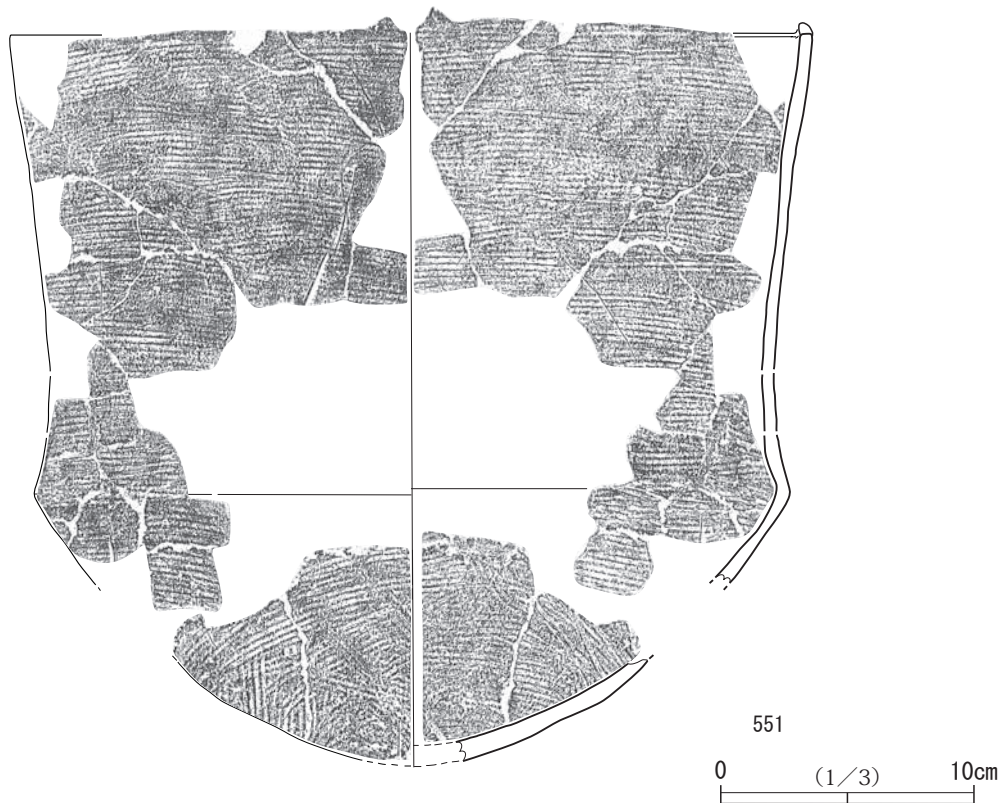
第79図 縄文土器実測図(45)

であろう。489は緩やかな山形口縁の頂部にあたる。頂部中央にあたる部分に楕円形に突帯を貼り付け、暗孔状をなす。490は緩やかな波状口縁をなす。口縁端部外面が段状に肥厚し、平端面をなす。平坦面に幅広で浅い沈線文と縄文を施す。491は口縁部が外反し、内面の屈曲部に稜を有する。口縁端部が肥厚し、上面に細い沈線文と刻みを施す。492は口縁端部内面が段状に肥厚し、沈線文、刻みを施す。口縁端部が肥厚し、その外面あるいは上面に施文するもので、頸部が無文になるもの(485、487など)や口唇部上に突起を有するもの(479～483など)は縁帯文成立期に位置づけられる。

493～496は口縁部に突起を有するもので、いずれも頸部が無文である。493は口縁部が内湾する。突起には刻みと重弧文を施す。494は波状口縁をなし、波頂部が内湾する。外面に重弧文、鉤手状の沈線文を施す。495は頸部がくびれる。口縁端部外面が段状に肥厚し、杵状の区画文を施す。また口縁部の突起は大小二種類認められ、大きい突起には渦巻文を鉤手状に施し、小さい突起には暗孔を施す。496は波状口縁をなし、波頂部に突起を有する。外面に沈線文、突起上に刺突文を施す。497は口縁端部外面が段状に肥厚し、沈線文と縄文を施す。498は口縁端部外面が肥厚し、沈線文を施す。499は緩やかな波状口縁をなし、波頂部中央に器面の内外から穿孔を施す。穿孔の周囲に刻みと沈線文を施す。501は口縁端部外面が肥厚し、外面に沈線文、竹管による刺突文を施す。502は口縁端部外面に巻貝



第80図 縄文土器実測図(46)

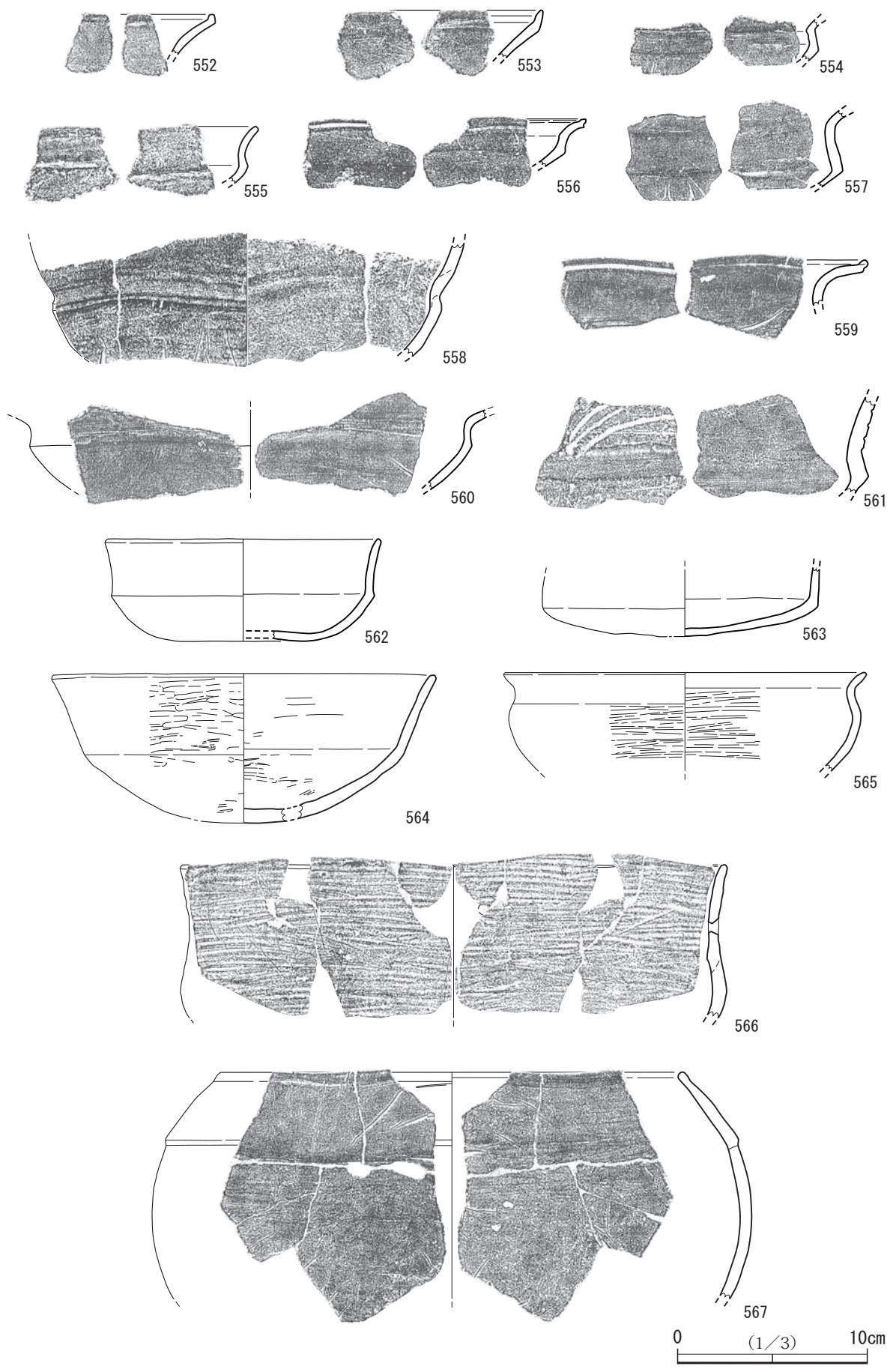


第81図 縄文土器実測図(47)

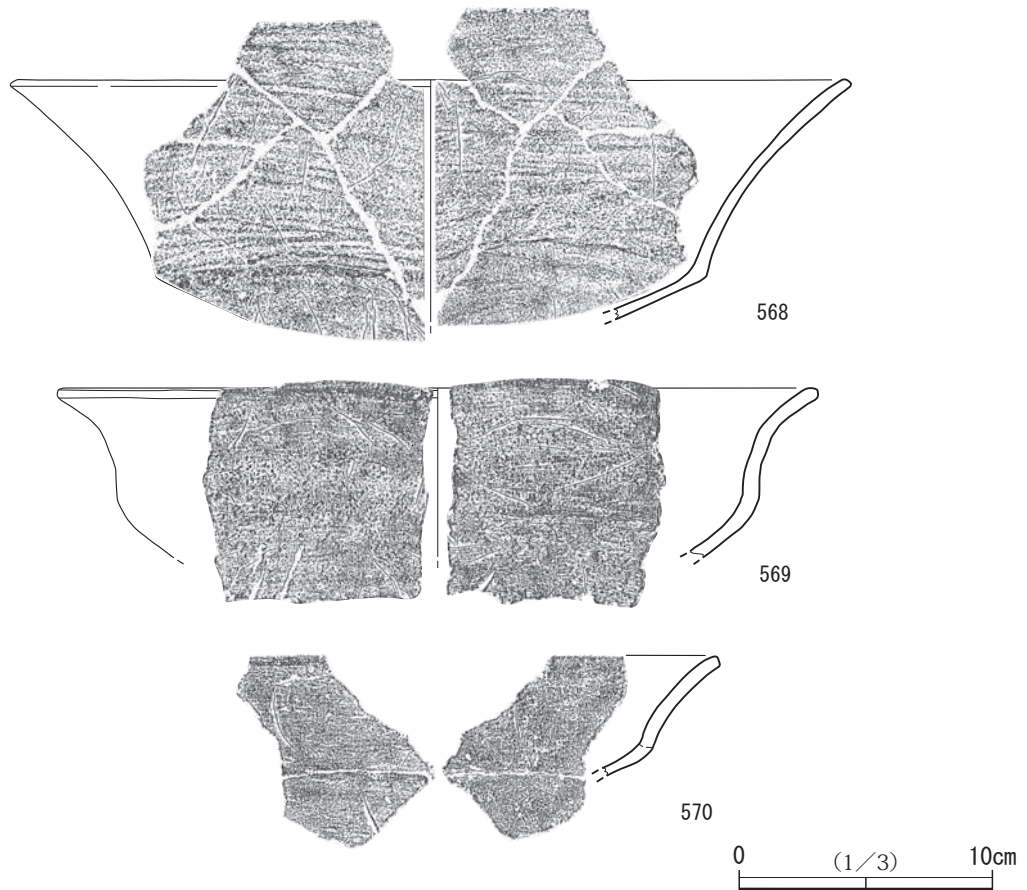
による刺突文を施す。504は口縁端部外面が段状に肥厚し、円孔、沈線文を施す。505、506は口縁端部内面が段状に肥厚し、沈線文を施す。口縁端部外面あるいは内面が段状に肥厚し、肥厚部に施文するもの(497、504～506など)が認められる。津雲A式あるいはその併行期に位置づけられる。

507、508は口縁端部外面が段状に肥厚し、縄文を施す。507は緩やかな波状口縁をなし、波頂部の口縁端部外面と上面に短沈線を施す。509は口縁端部外面が肥厚し、頸部がくびれ胴部がやや張る。口縁端部外面と胴部以下に縄文を施し、頸部は無文である。510、511は口縁端部外面に縄文を施す。511は内面に巻貝による刺突文を施す。512は口縁端部外面に縄文、ヘラ描き沈線を施す。513は口縁部の突起。口縁端部内面が肥厚し、浅くくぼむ。外面には縄文、ヘラ描き沈線による渦巻文を施す。514は口縁端部外面が段状に肥厚し、縄文、沈線文を施す。513、514は同一個体の可能性がある。515は口縁部が屈曲し、口縁端部外面に巻貝による擬縄文、ヘラ描き沈線を施す。外面巻貝条痕、内面ナデ調整。516は頸部がくびれ、口縁部がやや内湾する。口縁端部外面に巻貝による擬縄文を施し、それ以下には条痕調整を施す。517は口縁端部外面が段状に肥厚し、縄文、沈線文を施す。518は頸部がくびれ、口縁部端部外面が段状に肥厚する。口縁端部外面に縄文、ヘラ描き沈線を施す。519は口縁部が屈曲する。口縁端部外面に巻貝による擬縄文、ヘラ描き沈線を施す。520は波状口縁をなし、内湾する。口縁端部外面に縄文、ヘラ描き沈線、波頂部外面に巻貝による刺突文を施す。521は頸部がくびれ、口縁部が外反する。口縁端部外面に縄文、胴部に沈線文を施す。外面ミガキ、内面ナデ調整。525は口縁部が内側に屈曲し、口縁端部外面に縄文を施す。

522～524、526～530は浅鉢。522～524は口縁部が内側に屈曲する。522は口縁端部外面にヘラ描き沈線、刺突文を施す。沈線文の端部に刺突文を施す。523は口縁端部外面に沈線文と刺突文



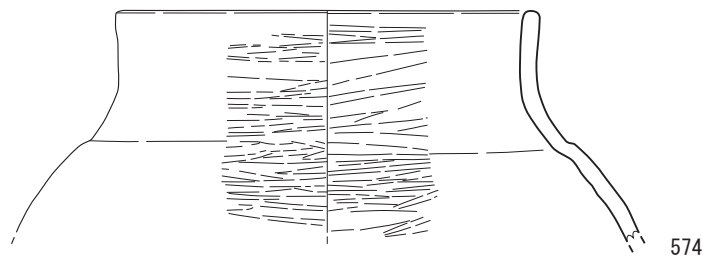
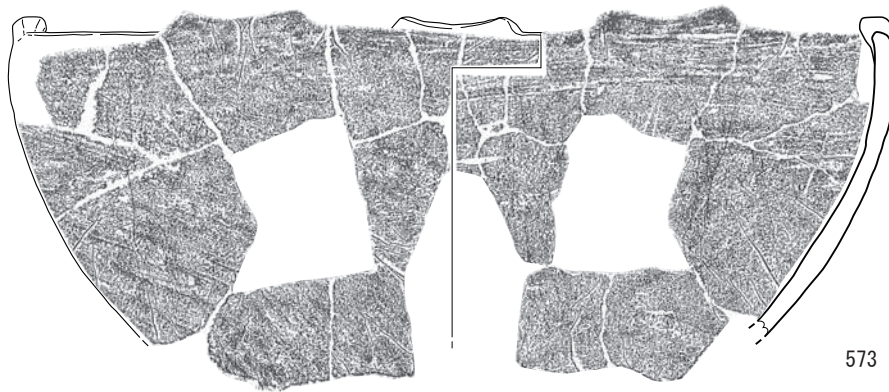
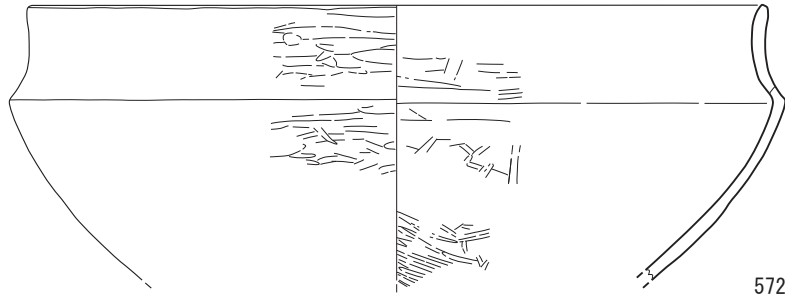
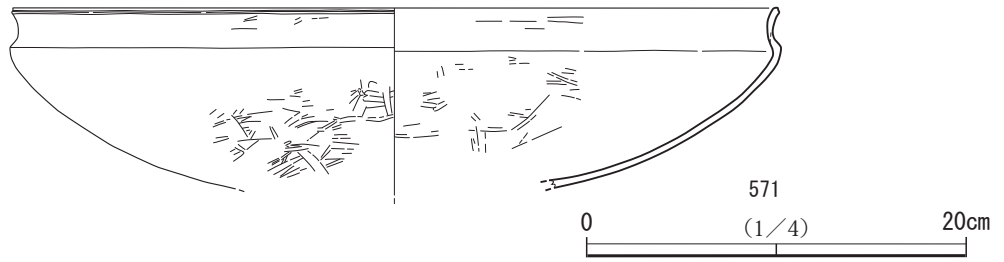
第82図 縄文土器実測図(48)



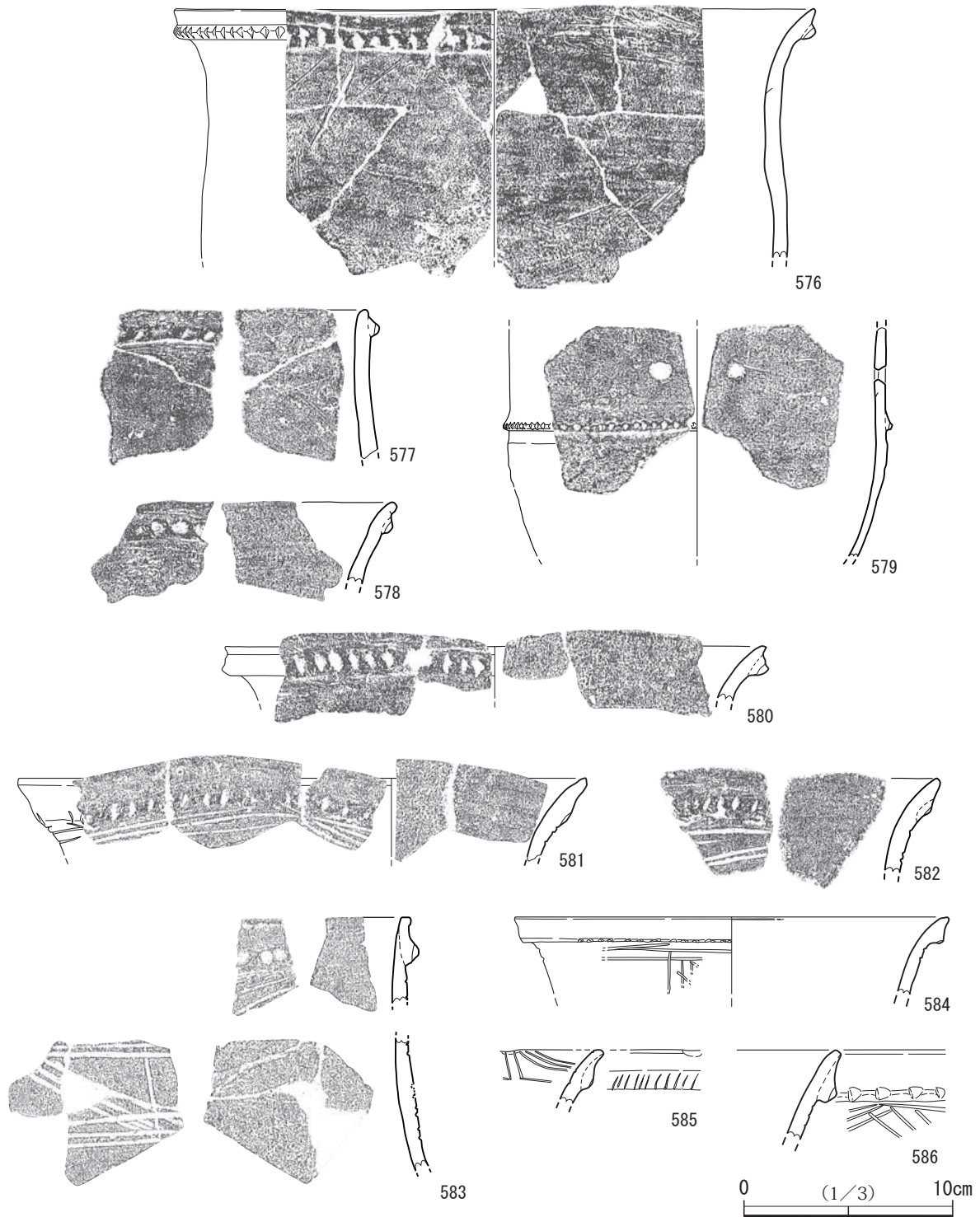
第83図 縄文土器実測図(49)

を施す。522、523の刺突文の施文原体は二枚貝腹縁の可能性ある。524は口縁端部外面に沈線文を施す。522～524は元住吉山I式併行期とみられる。526は体部が開く浅鉢。外面に縄文、口唇部に沈線文を施す。527は口縁端部外面に縄文、沈線文を施す。内面ナデ、ミガキ調整。529は口縁端部外面に沈線文を施す。528、530はボウル形の浅鉢。528は外面に沈線文を集約施文し、内外面ミガキ調整。530は胴部の上下に水平な沈線文を2条施し、その沈線間に直線と弧状の沈線文を集約施文する。531は胴部片で、縄文と沈線文を施す。532、533は口縁端部外面に突起を有する。突起部に穿孔を有し、外面に沈線文を施す。534は口縁端部外面に隆帯を有し、外面に沈線文を施す。内外面ミガキ調整。532～534は鐘崎式とみられる。535は口唇部、口縁部外面に沈線文と縄文を施す。536は口縁端部内面に刻み、外面に凹線文を施す。内面ミガキ調整。福田KⅢ式併行期とみられる。537、539は胴部に沈線文と縄文を施す。外面ミガキ調整。文様意匠が片粕式に類似する。538は口縁部が外反する。口縁端部外面が段状に肥厚し、上面に粘土を貼り付け、口唇部に縄文を施す。上面観が四角形を呈するものであろう。市来式とみられる。

540～542は口縁部が屈曲する。540は胴部が屈曲し、凹線文を施す。542は口縁部外面にヘラ描き沈線文を施す。543～546は胴部が屈曲する。544、545は胴部の屈曲部に凹線文を施す。546は屈曲部にヘラ描き沈線文を施す。547は頸部がくびれ、口縁部が屈曲する。口縁端部外面に凹線文を施す。内外面ミガキ調整。548は口縁部が外反し、口縁端部内面に凹線文を施す。549は口縁部が外反し、口縁端部外面が肥厚する。550は口縁部が外反し頸部がくびれる。外面二枚貝条痕、ナデ、内面ミガ



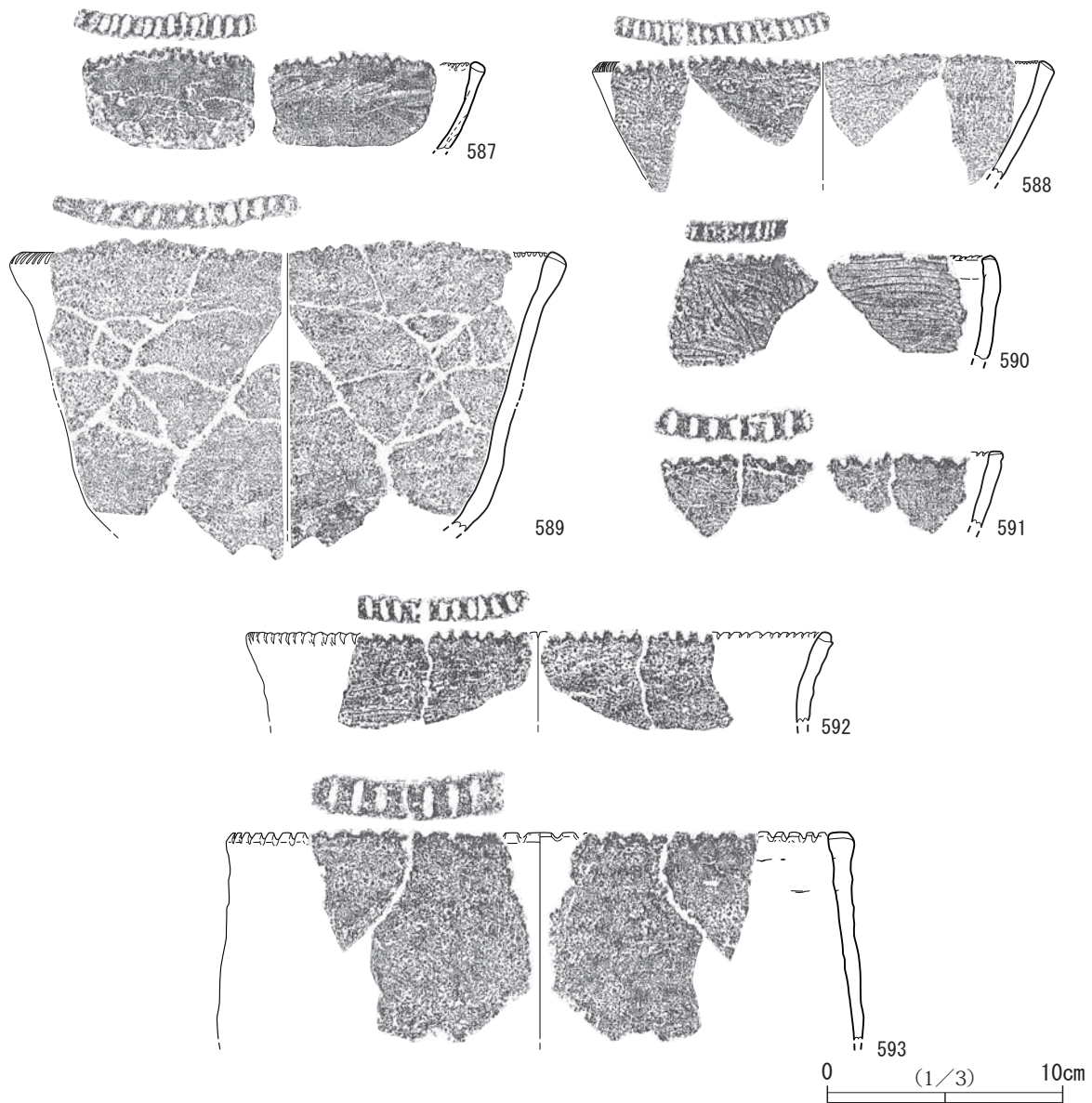
第84図 縄文土器実測図(50)



第85図 縄文土器実測図(51)

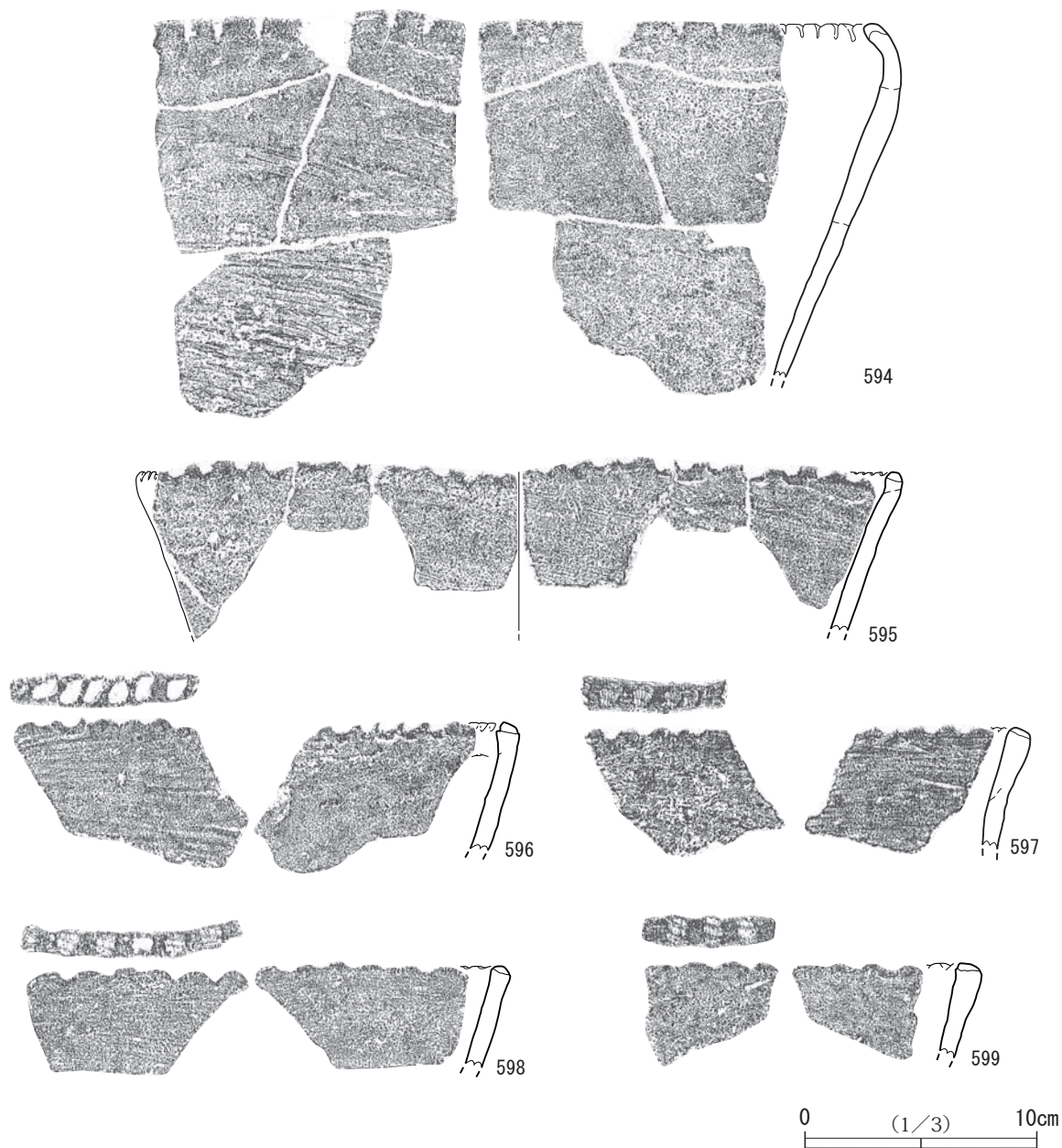
キ調整。以上は岩田第4類の範疇でとらえられ、後期末から晩期前葉に位置づけられる。551は胴部が屈曲し丸底をなす。口縁部にリボン状突起を有する。内外面二枚貝条痕調整。黒川式併行のものとみられる。

552～570は浅鉢、鉢。552は外反し、口縁端部が屈曲し立ち上がる。内外面ミガキ調整。553は外傾し、口縁端部が屈曲し立ち上がる。内外面ミガキ調整。554は胴部、頸部が強く屈曲する。内外面ミガキ調整。555は胴部が屈曲し、頸部が外反する。556は胴部が屈曲し、頸部が外反する。口縁



第86図 縄文土器実測図(52)

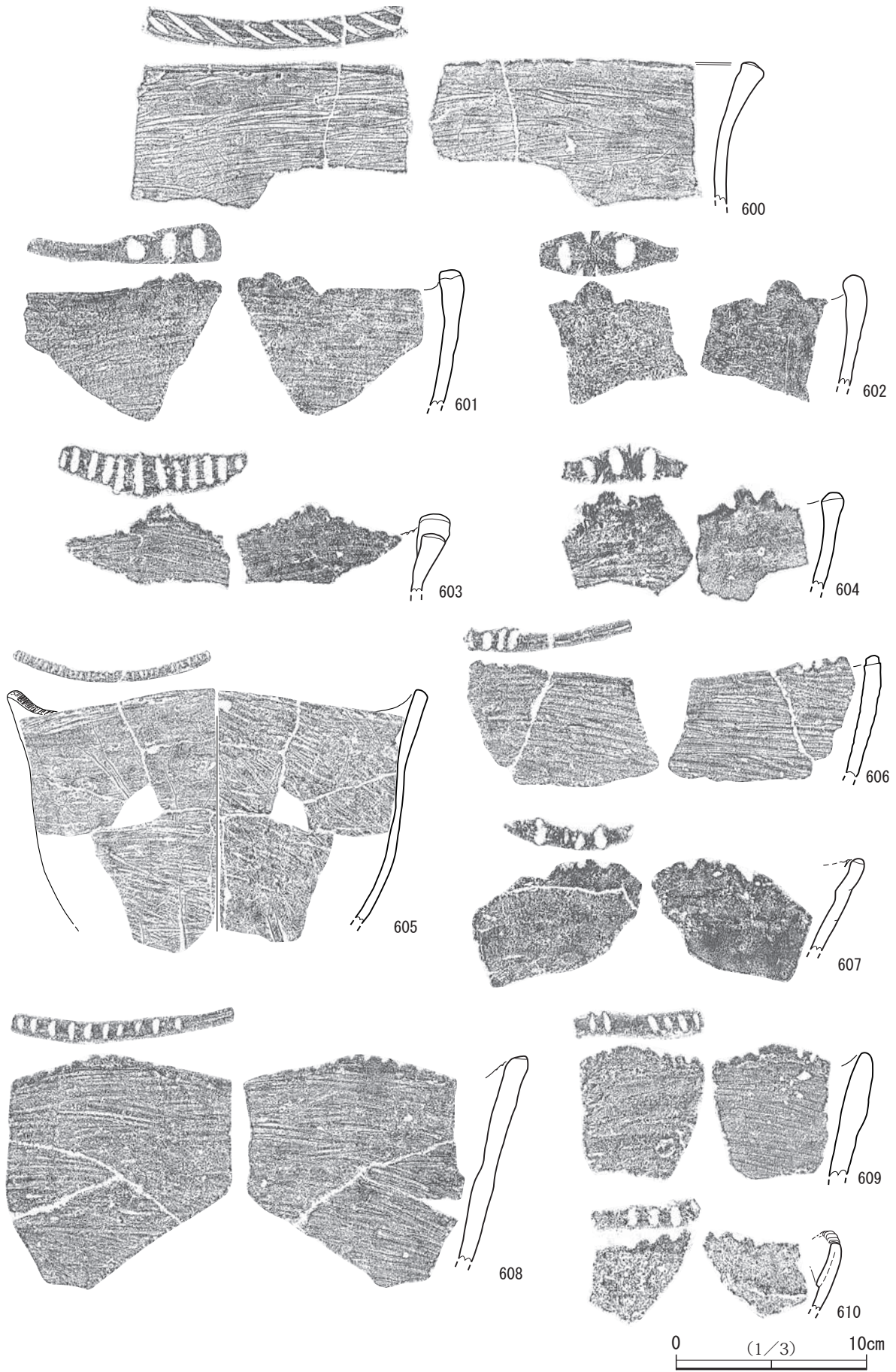
端部が屈曲し立ち上がり、外面に凹線を施す。557は胴部が強く屈曲し、頸部が外反する。内外面ミガキ調整。558は胴部が屈曲する。内外面ナデ、ミガキ調整。559は頸部が強く外反し、口縁端部が屈曲し立ち上がる。口縁端部外面に凹線を施す。560は胴部が屈曲し頸部が外反する。内外面ミガキ調整。561は胴部が強く屈曲する。外面条痕、ナデ、内面ナデ調整。562は胴部が屈曲し、頸部が外反する。内外面ナデ調整。563は胴部が屈曲し、頸部がほぼ垂直に立ち上がる。外面ミガキ、内面ナデ調整。564は胴部が屈曲し、頸部がやや外反し開く。外面ミガキ調整。565は胴部が張り、頸部がくびれ口縁部が外傾する。ミガキ、内外面ナデ調整。566は胴部が張り、頸部がややくびれ口縁部が外反する。内外面二枚貝条痕調整。567は口縁部外面が段状に肥厚する。内外面ミガキ調整。568は胴部が屈曲し、口縁部が外反し開く。内外面ともに屈曲部以上に条痕、それ以下にナデを施す。569は胴部が屈曲し、口縁部が外反する。内外面ミガキ調整。570は胴部が屈曲し、口縁部が外反する。外面ナデ、ミガキ調整。571は胴部が屈曲し、口縁部が短く外反する。内外面ミガキ調整。572は胴部が屈曲し胴部が屈曲し、口縁部が外反する。内外面ナデ、ミガキ調整。573は胴部が内湾する。口



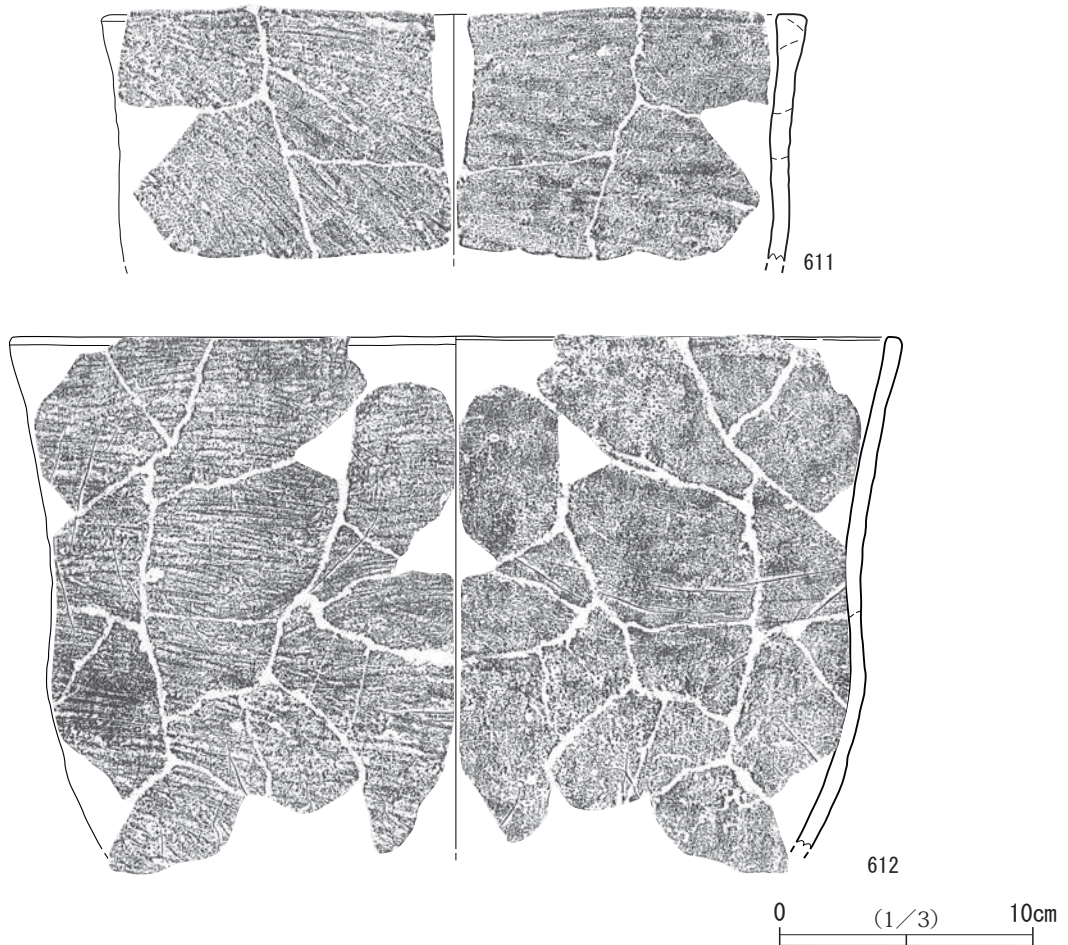
第87図 縄文土器実測図(53)

縁部にリボン状突起を有する。外面ナデ、ミガキ、内面ナデ調整。574は胴部が張り、頸部がすぼまる壺であろう。内外面ミガキ調整。575は頸部がやや内傾する。内外面条痕調整。

576は口縁部が外反し、端部からやや下がった位置に断面三角形の突帯を貼り付け、刻みを施す。口唇部は尖り気味に処理する。579は胴部の突帯上に刻みを施す。内外面ナデ調整。581、582は口縁部が外反し、端部からやや下がった位置に低い突帯を貼り付け、刻みを施す。突帯下に沈線文を施す。内外面ナデ調整。583は口縁端部からやや下がった位置の突帯上に刻みを施す。突帯下から胴部にかけて沈線文を施す。口唇部は平坦に処理する。584は口縁が外反し、口縁端部外面の突帯上に浅い刻みを施す。突帯下に沈線文を施す。端部は尖り気味に処理する。585は口縁端部外面に突帯を貼り付ける。突帯に細い刻みを施し、内面に沈線文を施す。口唇部は丸く処理する。586は口縁部が外傾し、口縁端部外面に突帯を貼り付け、刻みを施す。突帯下に沈線文を施す。口縁端部は丸く処理する。以上の刻目突帯文深鉢のうち、580、581、583～586の出土層位は弥生時代包含層であるが、いずれ



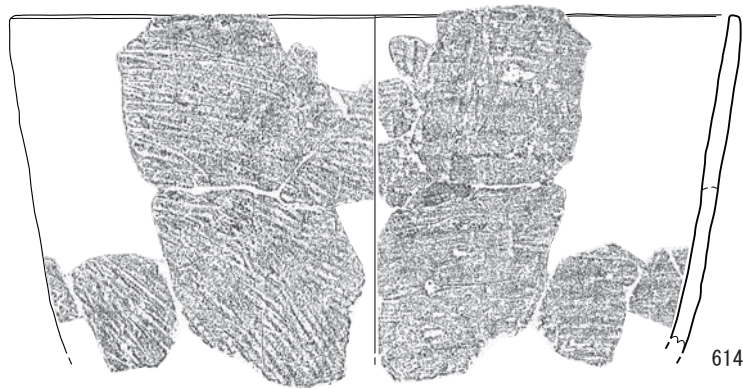
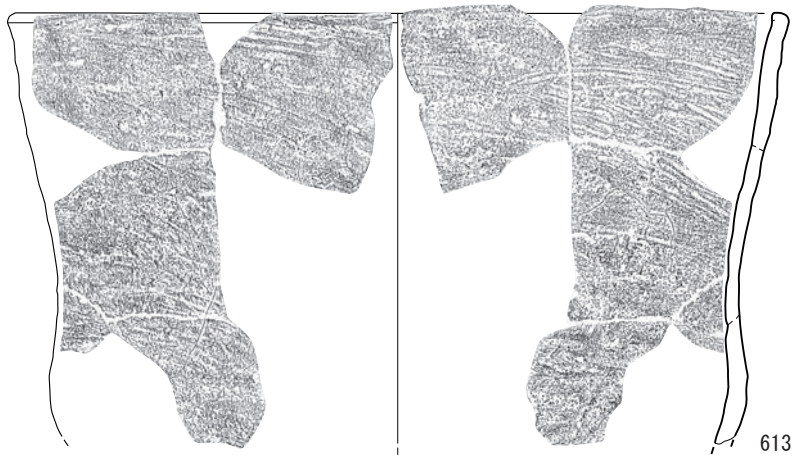
第88図 縄文土器実測図(54)



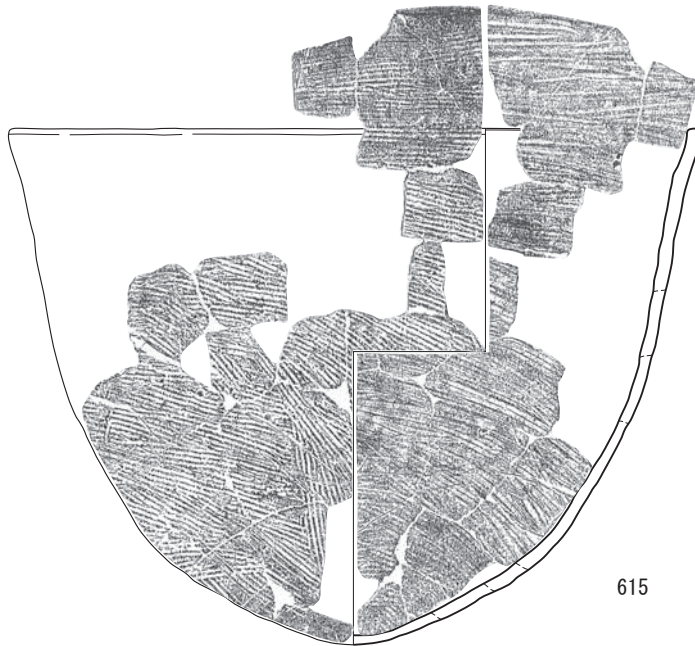
第89図 縄文土器実測図(55)

も胎土中に雲母を含み、縄文系の特徴を有するため、縄文土器に含める。

587～801は無文の土器あるいは底部片、土製品で、型式等が不明であるため、形態ごとに特徴を記述する。587～689は粗製土器である。587～610は口唇部に刻みを施す。587～593は平縁で比較的器壁が薄く小型の器形で、口唇部に直交する細かい刻みを施す。587～591は口縁部がやや内湾あるいは直線的に立ち上がる。590の口唇部刻みの施文原体は二枚貝腹縁である。内外面二枚貝条痕調整。592は口縁部が外反し、593は口縁部がやや内傾する。刻みを施す際の押圧で口唇部が肥厚する。594は口縁部が内湾し、口唇部に深めに刻みを施す。595～599は口縁部がやや内湾あるいは直線的に立ち上がる。597～599は口唇部に巻貝を押圧した刻みを施す。外面巻貝条痕調整。600は口縁部が外反し、口唇部が肥厚し平坦面をなす。口唇部に斜行する短沈線刻みを施す。外面二枚貝条痕調整。601、602、604は口縁部が内湾し、口唇部に突起を有する。601、604は突起に刻みを3箇所施し、外面条痕のちナデ調整。602は突起に刻みを2箇所施す。603は波状口縁をなし、口縁端部が肥厚する。口唇部に細い刻みを施す。605は頸部がくびれ口縁部が直線的に立ち上がり、口唇部に刻みを施す。606～610は緩やかな波状口縁をなし、波頂部に刻みを施す。606は口縁部が内湾し、内外面条痕調整。608、609は口縁部が直線的に立ち上がり、器壁がやや厚い。609は波頂部の両脇に刻みを施す。610は口縁端部内面が段状に肥厚する。611～613は胴部が丸く、頸部がややくびれ口縁部が直線的に立ち上がる。611は口縁端部が肥厚し、口唇部が平坦面をなす。614～618は口縁部が直線的に立ち上がり尖底をなすものとみられる。器壁は比較的薄い。614、615、618は外面の二枚貝条

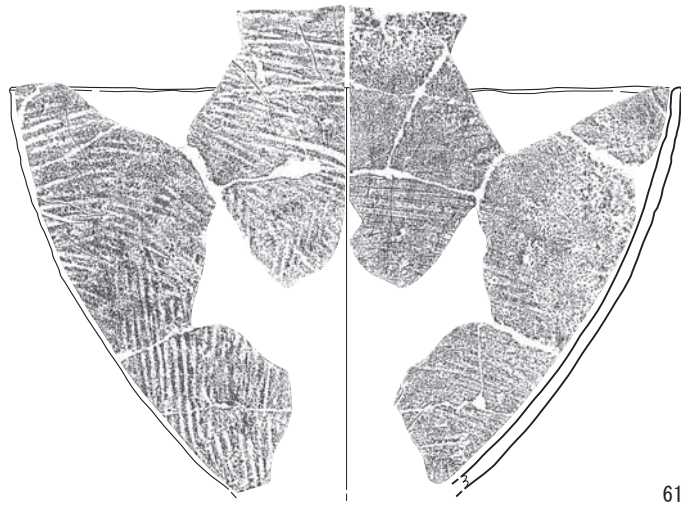
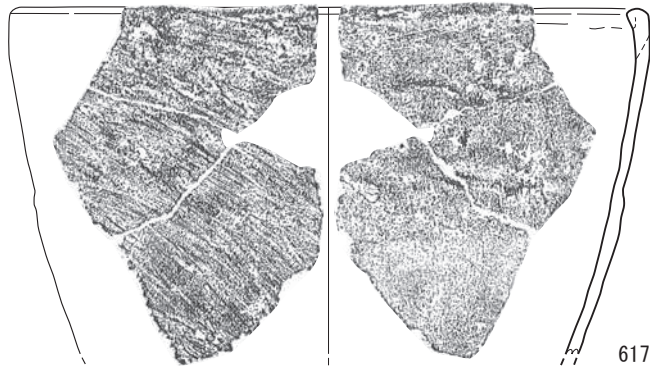
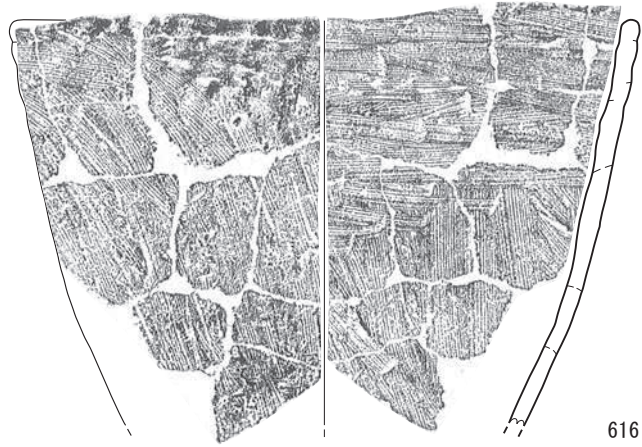


0 (1/3) 10cm



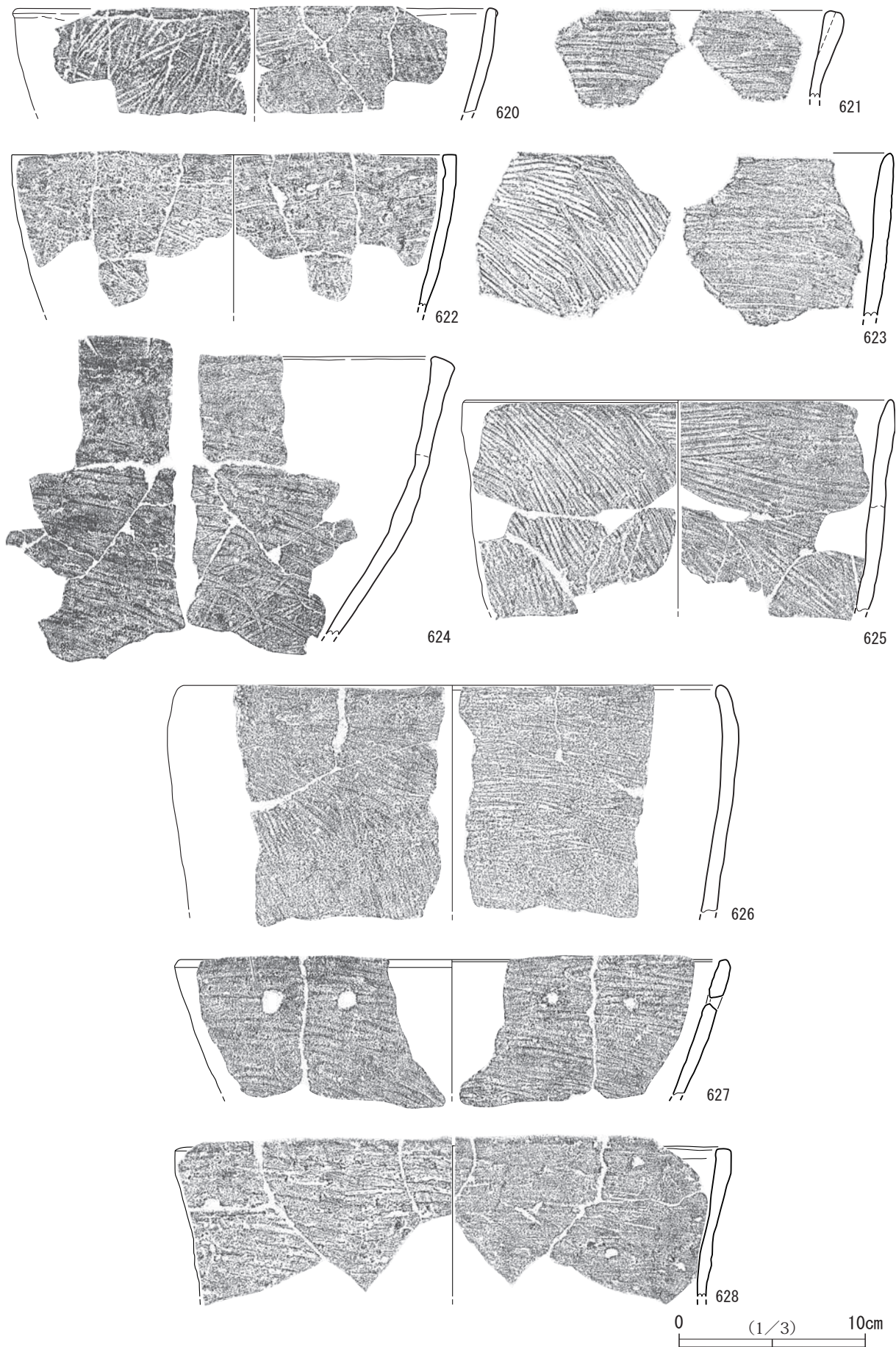
0 (1/4) 20cm

第90図 縄文土器実測図(56)

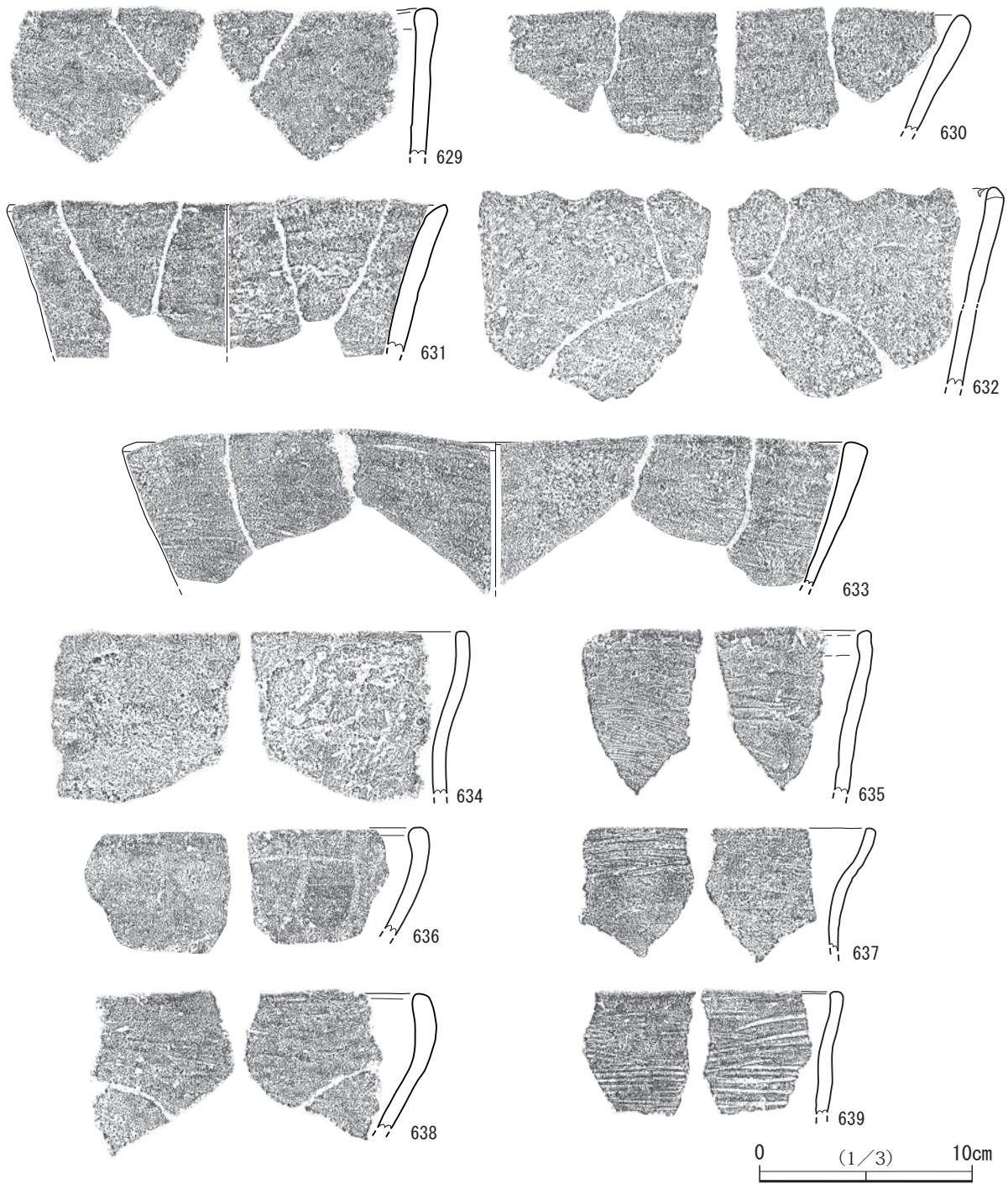


0 (1/3) 10cm

第91図 縄文土器実測図(57)

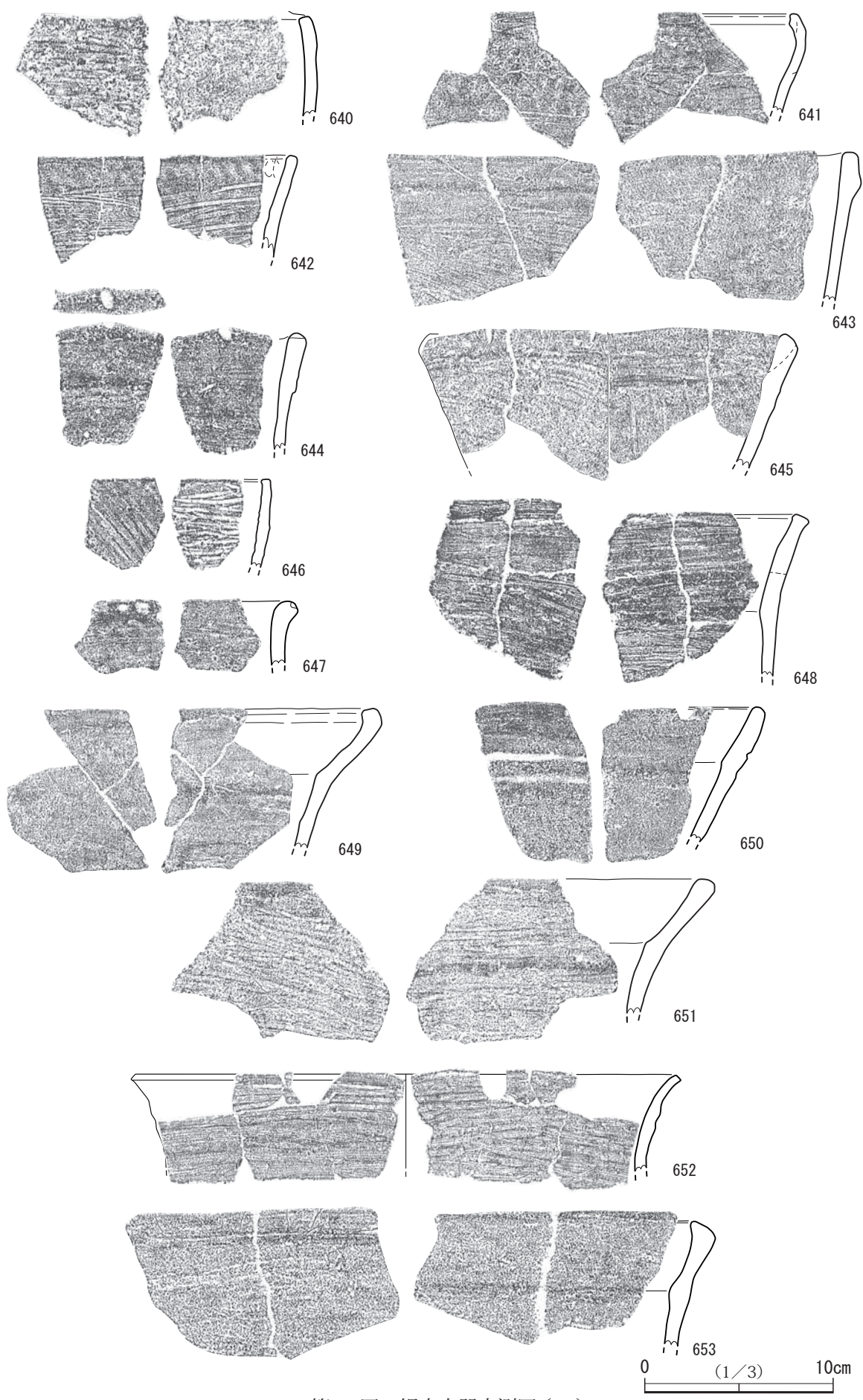


第92図 縄文土器実測図(58)

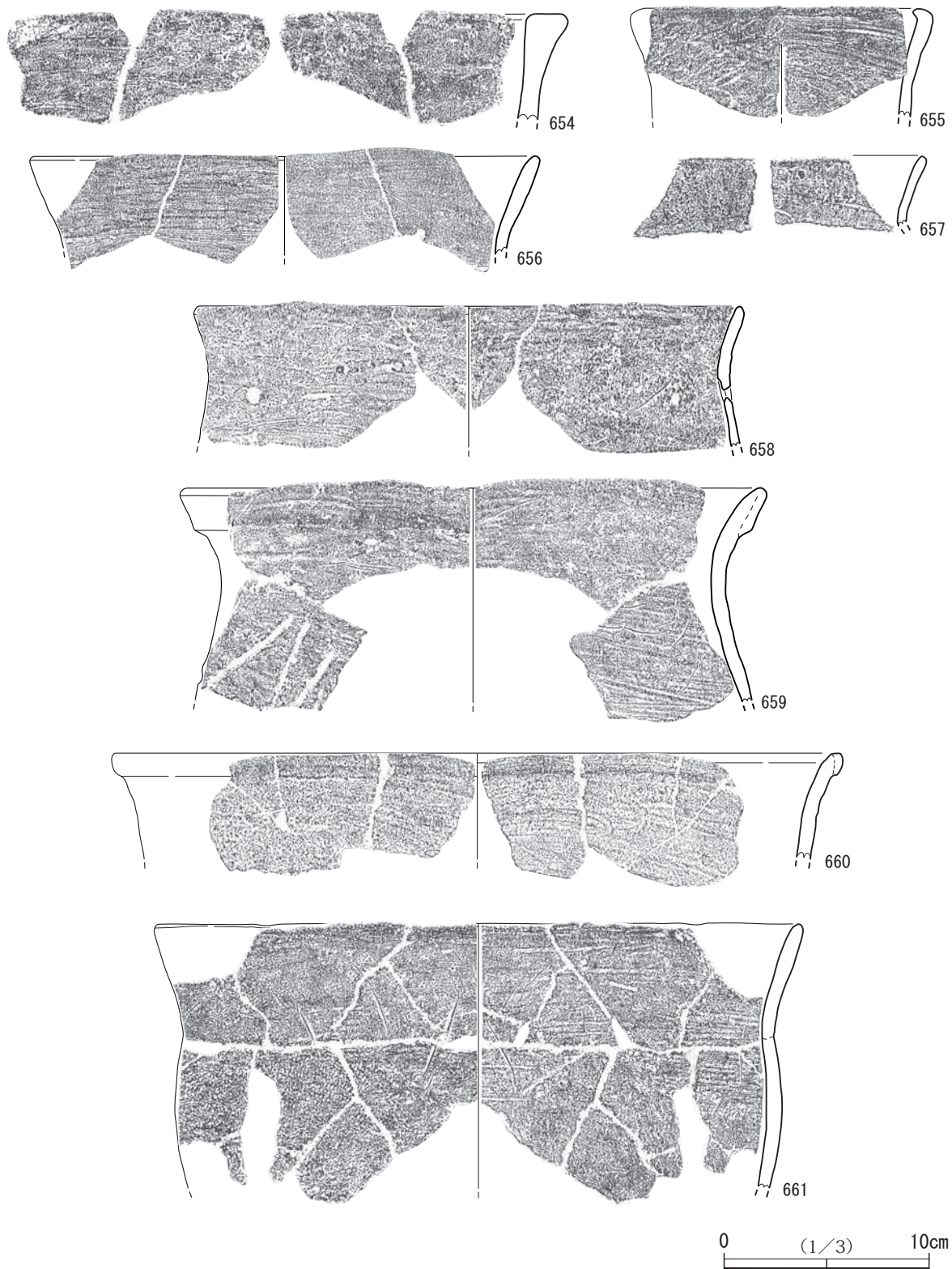


第93図 縄文土器実測図(59)

痕調整が顕著である。616は内外面に細密条痕を施す。619は口縁部が直線的に立ち上がる深鉢で、器壁は比較的厚い。620～633は口縁部がやや内湾あるいは直線的に立ち上がる。620は口縁端部外面が隆带状に肥厚する。内外面二枚貝条痕調整。621は口縁端部が肥厚する。内外面二枚貝条痕調整。624、628、633は口縁端部がやや肥厚し口唇部が平坦面をなす。623、625、631は口唇部を尖り気味に処理する。623、625は内外面ともに二枚貝条痕調整が顕著である。627は内外面条痕調整。補修孔を有する。634～639は口縁部が内湾し頸部がややくびれる。635、639は内外面二枚貝条痕調整。637は口縁端部外面に巻貝条痕、それ以下にナデを施す。641は口縁部が内湾する。642は口縁部が直線的に立ち上がり、内外面に条痕、口縁端部内面に押さえを施す。643、644は口縁端部

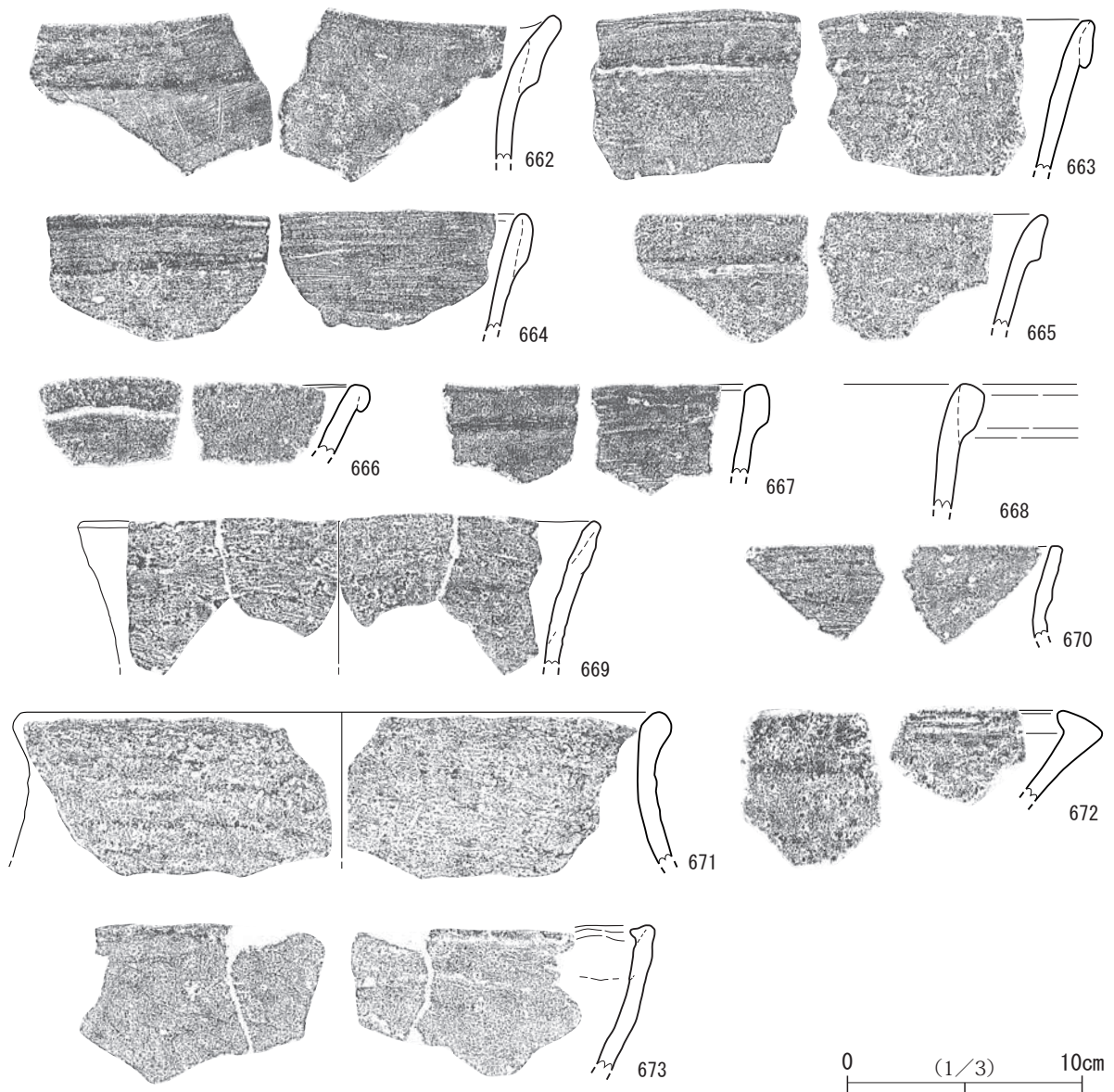


第94図 縄文土器実測図(60)



第95図 縄文土器実測図(61)

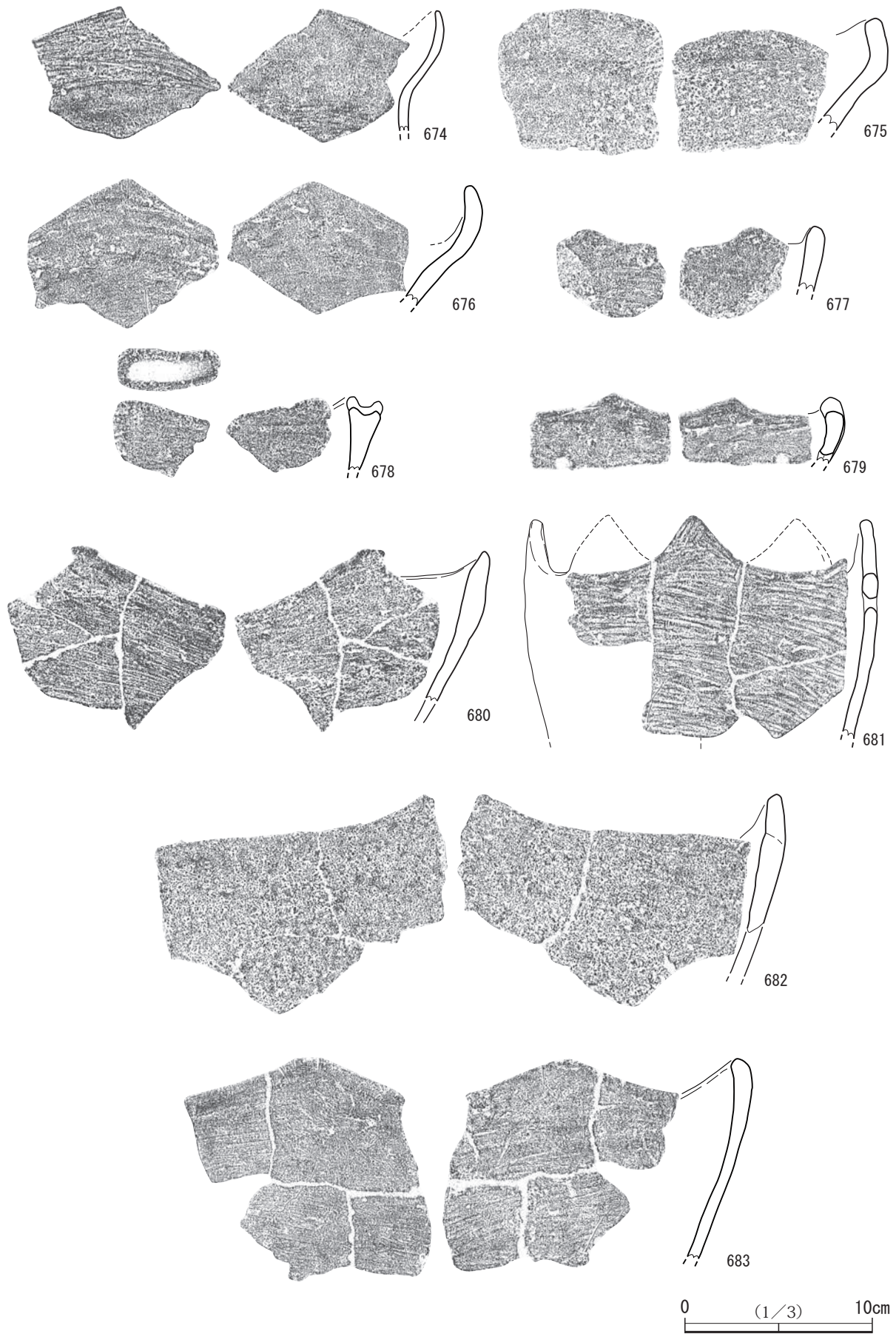
外面が段状に肥厚する。644は口唇部に刻みを施す。645、650は口縁部が直線的に立ち上がり、口縁内面の屈曲部が稜を有する。647は口縁部が外反し、口唇部に刺突文を施す。648、649、651、653は口縁部が外反し、内面の屈曲部に稜を有する。648、649は口唇部が平坦面をなす。649は口縁端部が内側に屈曲する。651は内外面二枚貝条痕調整。654は口唇部が肥厚し平坦面をなす。655は口唇部が屈曲する。656～661は頸部がくびれる。659、660、662～670は口縁端部外面が段状



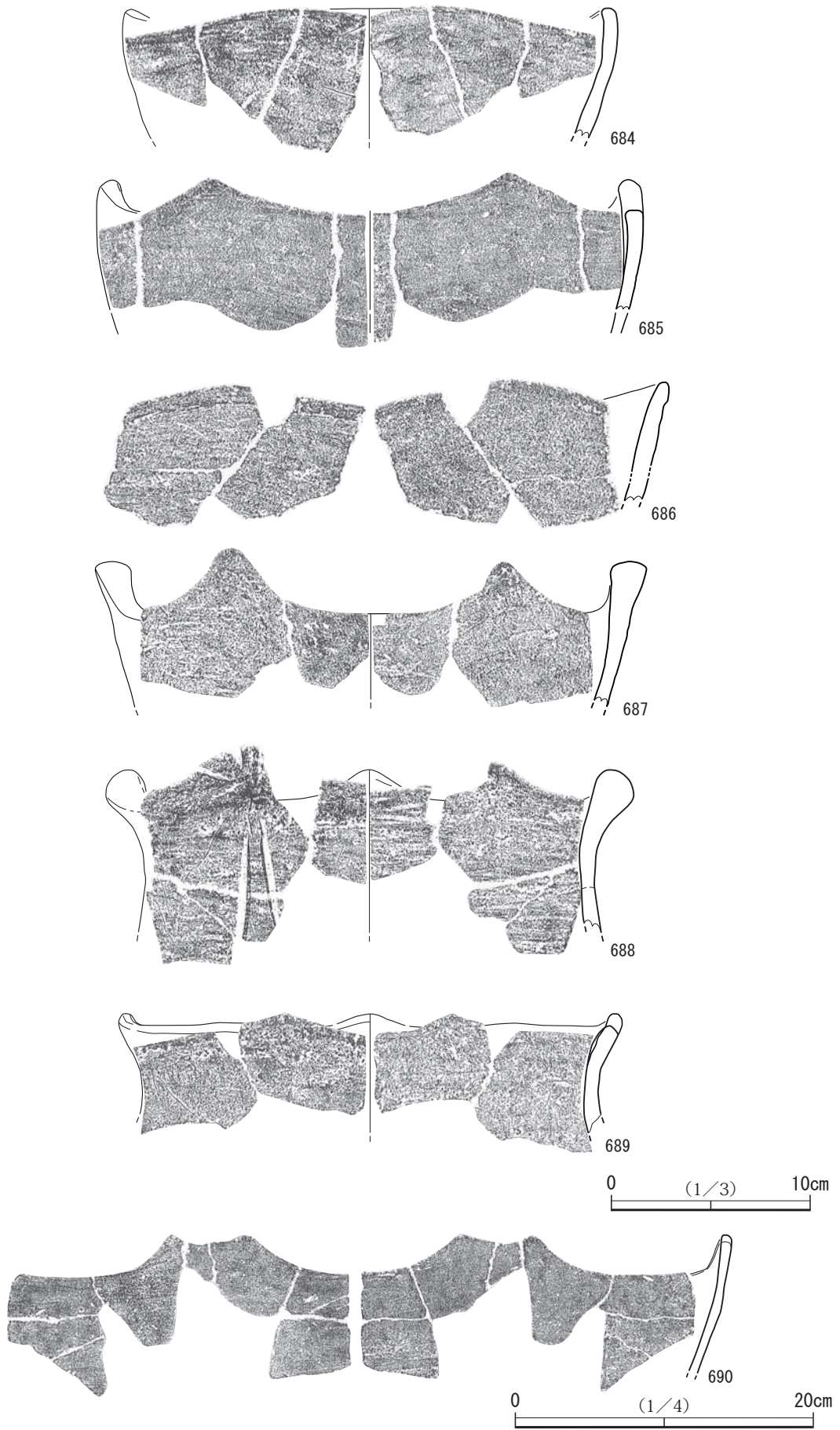
第96図 縄文土器実測図(62)

に肥厚する。671～673は口縁端部内面が肥厚する。672は口唇部が平坦面をなす。673は口縁端部内面が隆带状に肥厚する。674～689は波状口縁をなす深鉢。674～676は口縁部が内湾する。674は口縁端部外面に巻貝条痕、それ以下にナデを施す。678は口縁端部が肥厚し口唇部に浅いくぼみをもつ。681は波頂部が高く、口縁部が内湾する。波頂部は5単位あったと推定される。内外面巻貝条痕調整。683は口縁部が内湾し、内外面巻貝条痕調整。687は波頂部が高く、口縁端部内面が肥厚する。688は口縁部が外反し、口縁端部が肥厚する。690は山形口縁をなし、内外面ミガキ調整。

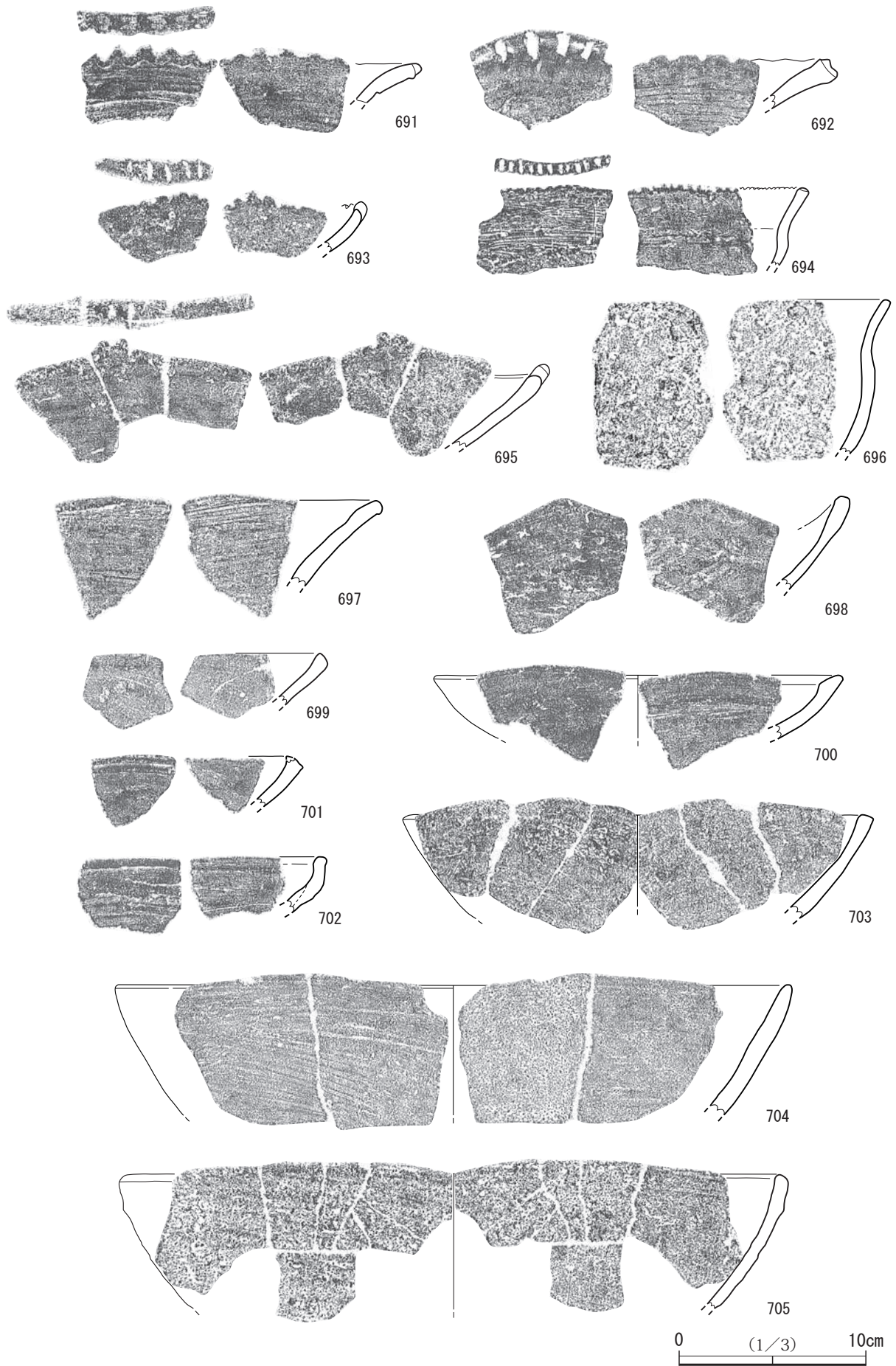
691～729は無文浅鉢、鉢。691は口縁部が外反し、口唇部に巻貝による刻みを施す。692は口縁部がやや外反し、大きく開く。口唇部が肥厚し刻みを施す。693、695は口縁部が内湾し、口唇部の一部に刻みを施す。694、696は頸部がくびれる器形で、694は口唇部に刻みを施す。697は口縁部が外反し、内外面二枚貝条痕調整。699、701、703は口唇部が平坦面をなす。700は口縁端部内面が段状に肥厚する。701、704は胎土中に角閃石を含む。706、707は体部が大きく開く。706は内面に炭が付着する。708、709は内面の屈曲部に稜を有する。709は内外面ミガキ調整で、口縁部外



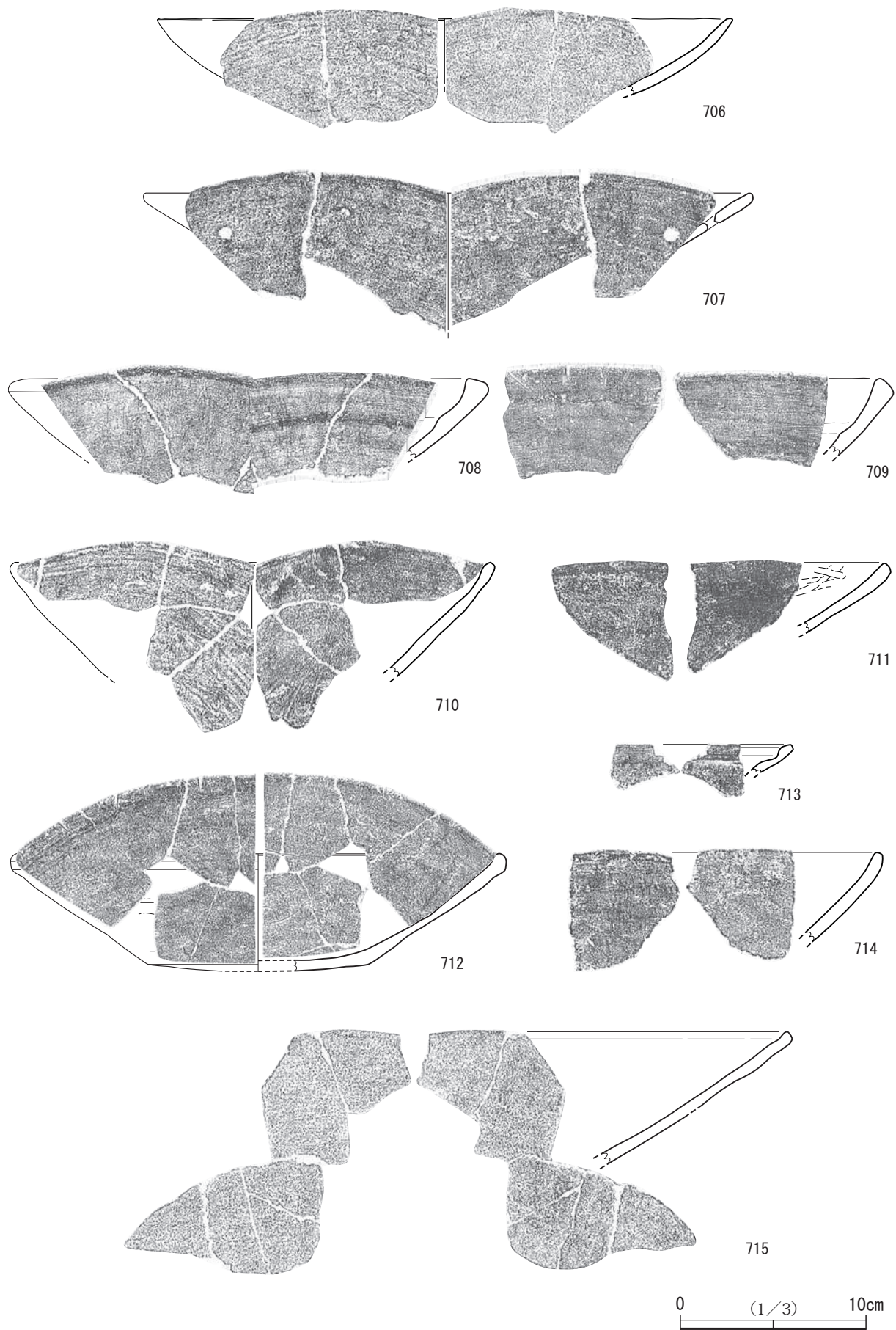
第97図 縄文土器実測図(63)



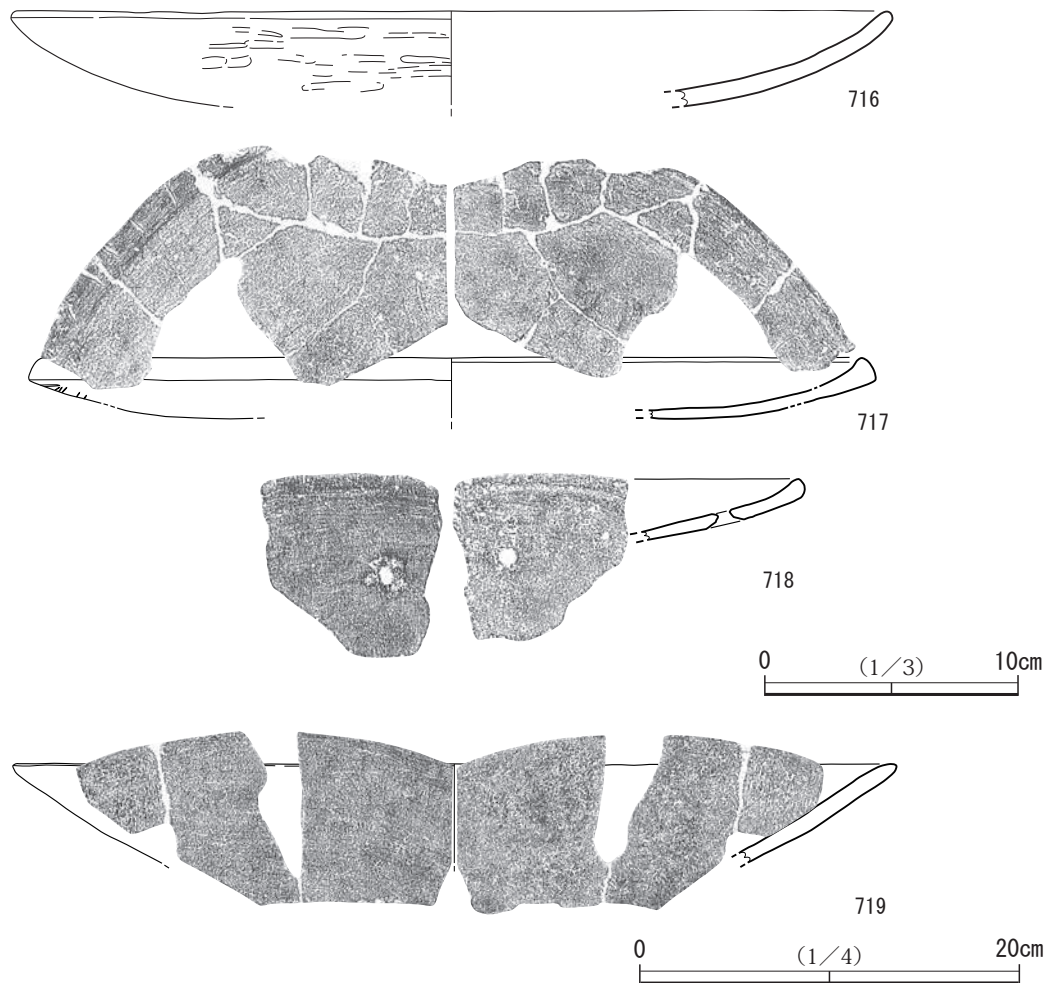
第98図 縄文土器実測図(64)



第99図 縄文土器実測図(65)



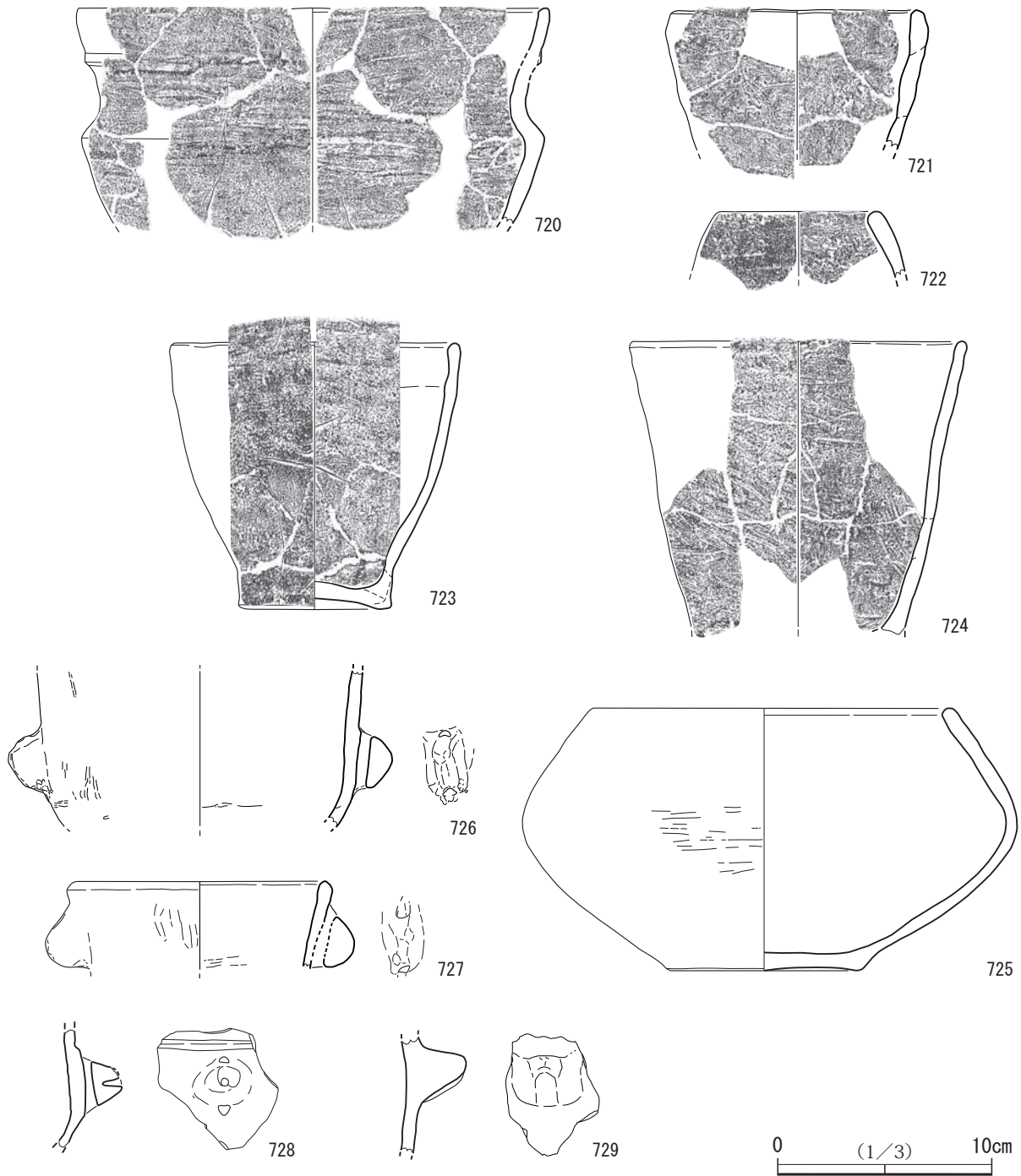
第100図 縄文土器実測図(66)



第101 縄文土器実測図(67)

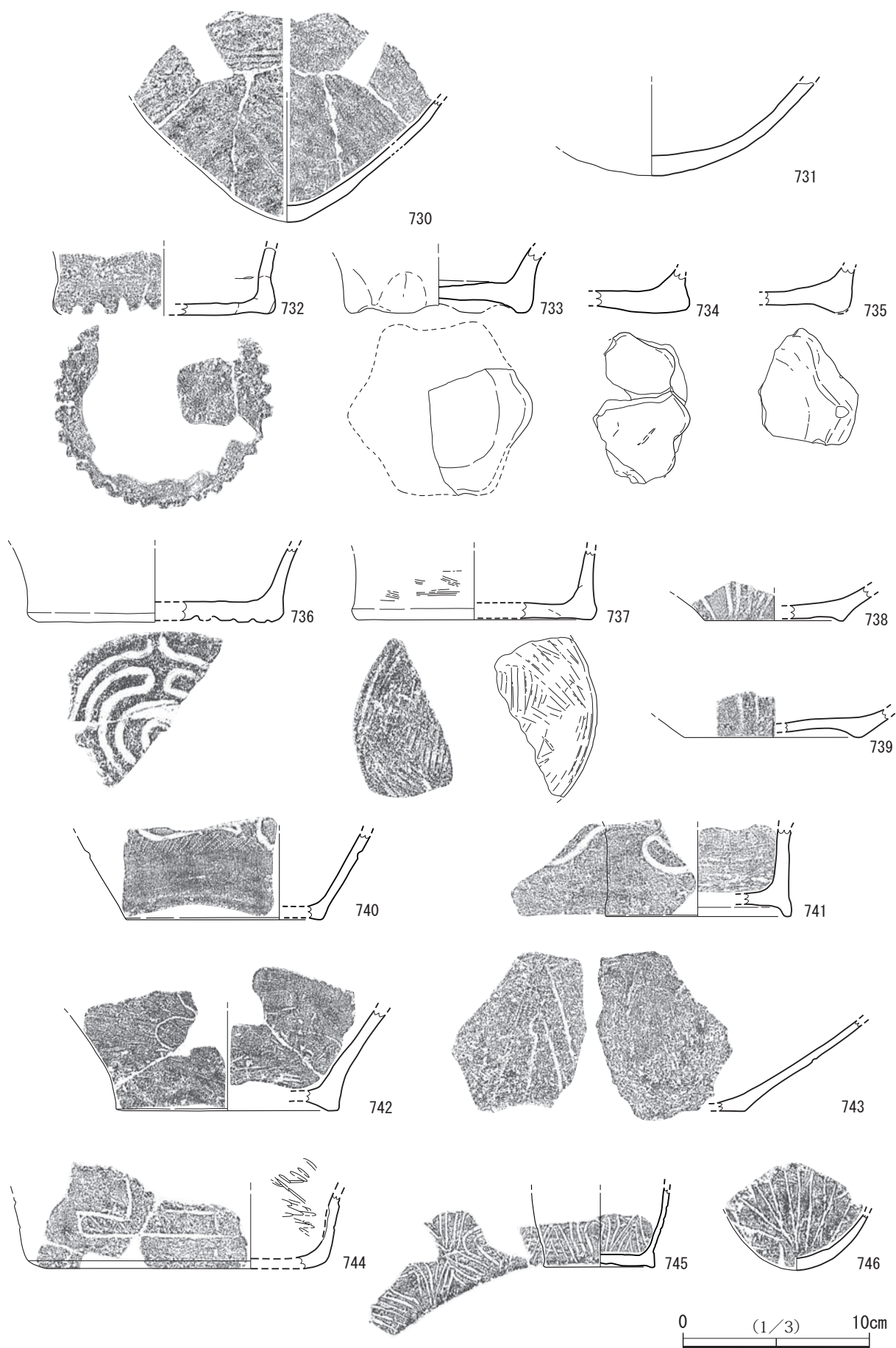
面、口唇部、内面に赤色顔料の痕跡が認められる。711は内面ミガキ調整。713は内面の屈曲部に稜を有し、内外面ミガキ調整。716～718は体部が皿状に開き、内外面にミガキあるいは丁寧なナデ調整。720は胴部が屈曲し、頸部がくびれる。内外面条痕、ナデ調整。721～724は鉢。722は口縁部が内傾する。723は内面の屈曲部に稜を有し、底部は上げ底をなす。内外面ナデ、ミガキ調整。724は外面に細密条痕を施す。725は胴部が丸く、口縁部が内傾する鉢。外面ミガキ、内面丁寧なナデ調整。726、727は把手付鉢。外面ミガキ調整で、内面にナデあるいはミガキ調整。把手には穿孔を有する。728、729は鉢の把手。728は把手に穿孔と円形刺突を有する。

730～796は底部片。730は尖底で外面ナデ、内面二枚貝条痕のちナデ調整。731は丸底で外面条痕のちナデ、内面ナデ調整。732は平底で、外面がくびれる。底部の縁に刻みを施し、内外面ナデ調整。733は六角形底をなす。734は八角形底、735は五角形底と推定される。736は平底で、底面に沈線で区画文や円文とみられる曲線的な文様を施す。内外面ナデ調整。737は平底で、底面に二枚貝条痕を施す。738は上げ底で外面に沈線文を施す。外面ナデ、内面ミガキ調整。739は上げ底で外面に磨消縄文を施す。740は平底で外面に沈線文と縄文を施す。外面ミガキ、内面ナデ調整。741は上げ底で胴部がほぼ垂直に立ち上がる。外面に沈線文を施す。内外面ナデ調整。742は上げ底で、外面にヘラ描き沈線を施す。外面条痕、ナデ、内面ナデ調整。743は平底で体部が直線的に立ち上がる浅鉢。外面に磨消縄文を施す。744は平底の鉢で、外面に磨消縄文を施す。外面ナデ、内面ミガキ調整。

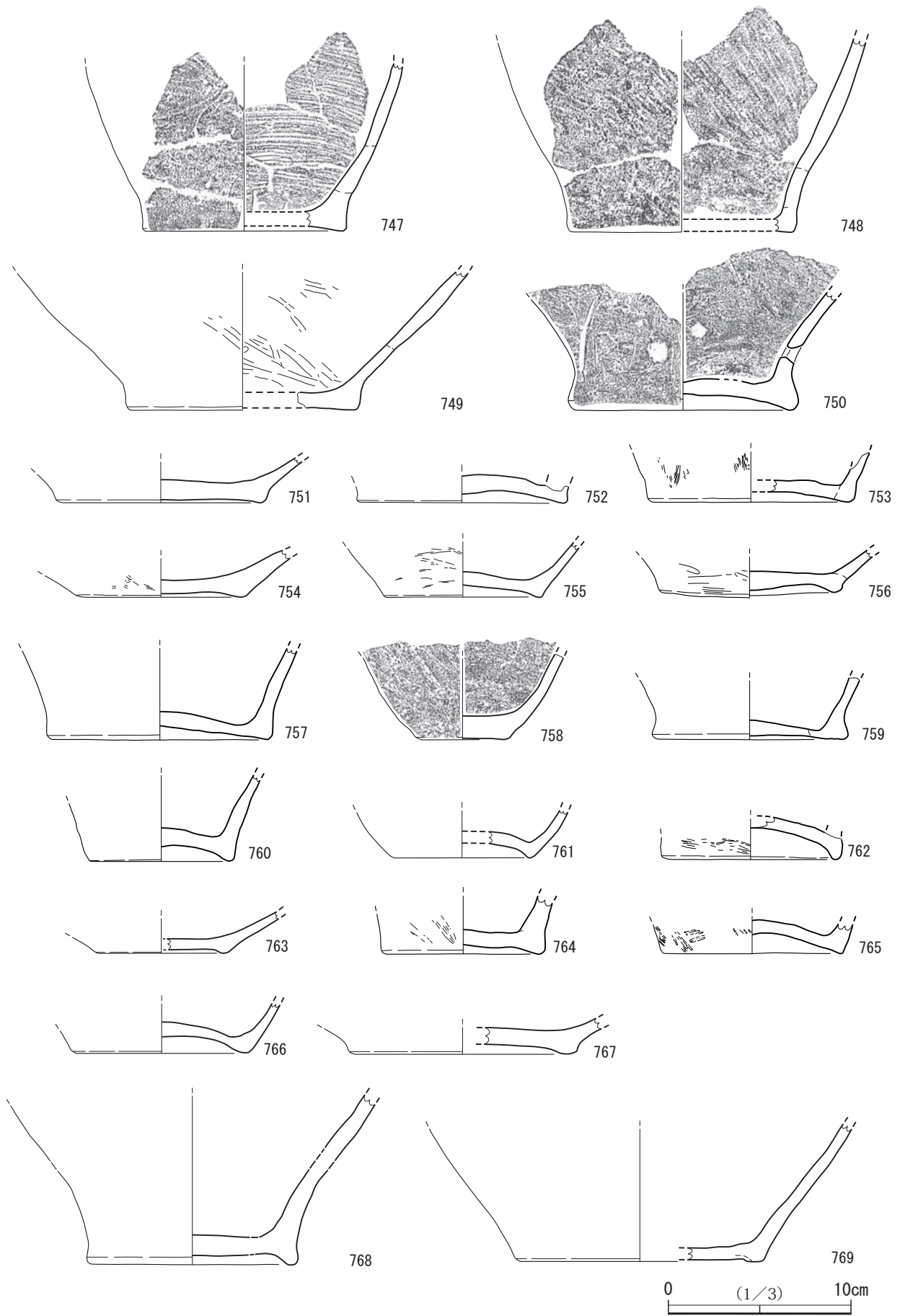


第102図 縄文土器実測図(68)

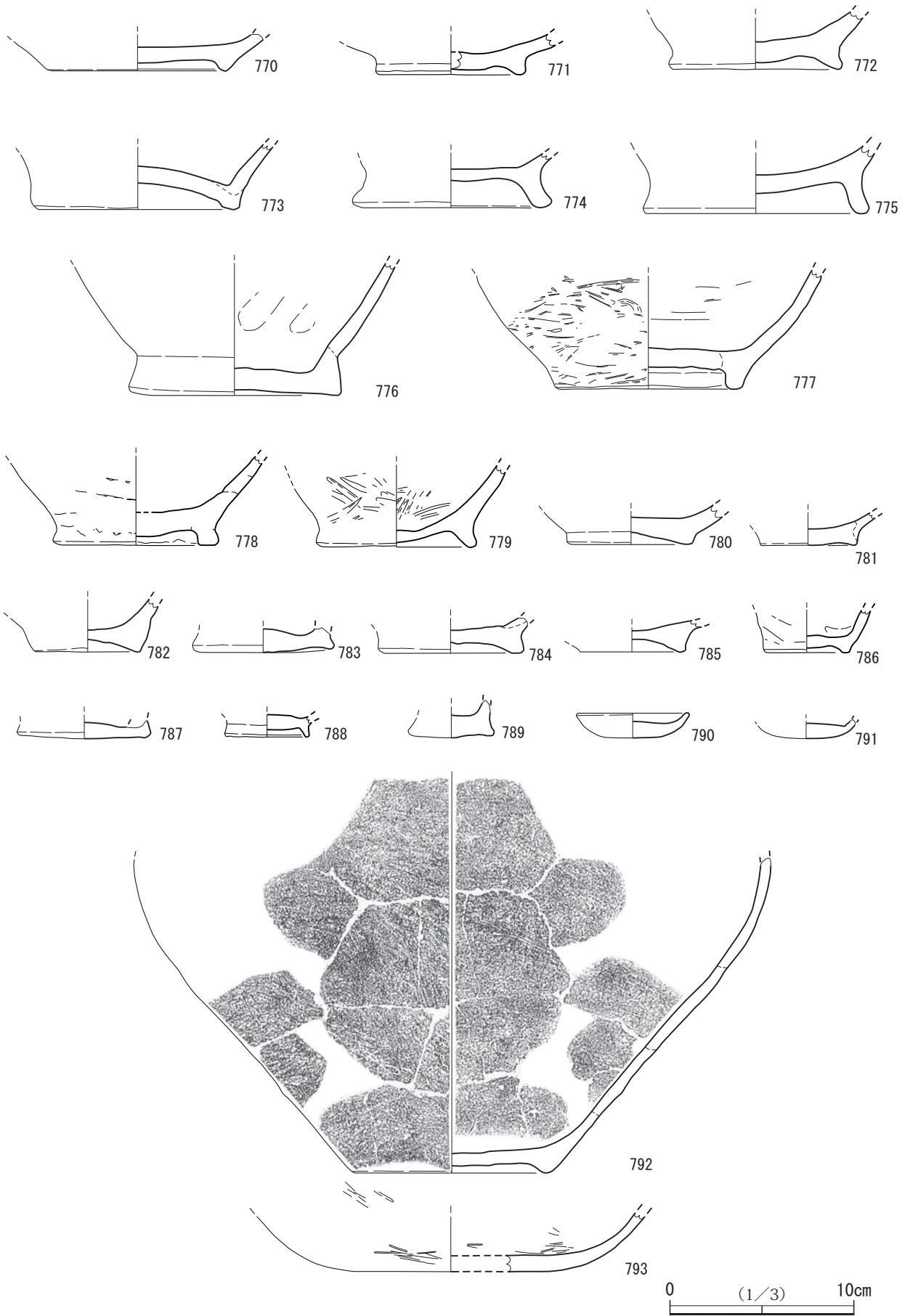
745は小型の鉢。底部がくびれ、外面に三角形の沈線文を集約施文する。746は小型の鉢で、丸底をなす。外面に沈線文を施す。外面ナデ、内面二枚貝条痕、ナデ調整。747は上げ底で、内外面二枚貝条痕調整。748は平底。749は平底で、内外面ミガキ調整。750は上げ底で、底部がくびれる。補修孔を有する。751～757、759～768は上げ底。758は平底で底面が厚く、内面に細密条痕を施す。770～775は上げ底で、774、775は高台状を呈する。776は底部でくびれる。777は上げ底で、高台状を呈する。外面条痕調整。782～789は小形の土器の底部。786は上げ底で、やや胴部が外傾する。790、791は皿状の小形土器。792は上げ底で胴部が張る。外面条痕のちナデ、内面ミガキ調整。793は精製浅鉢。内外面ミガキ調整で、外面黒褐色を呈する。794は上げ底の底部中央に焼成後



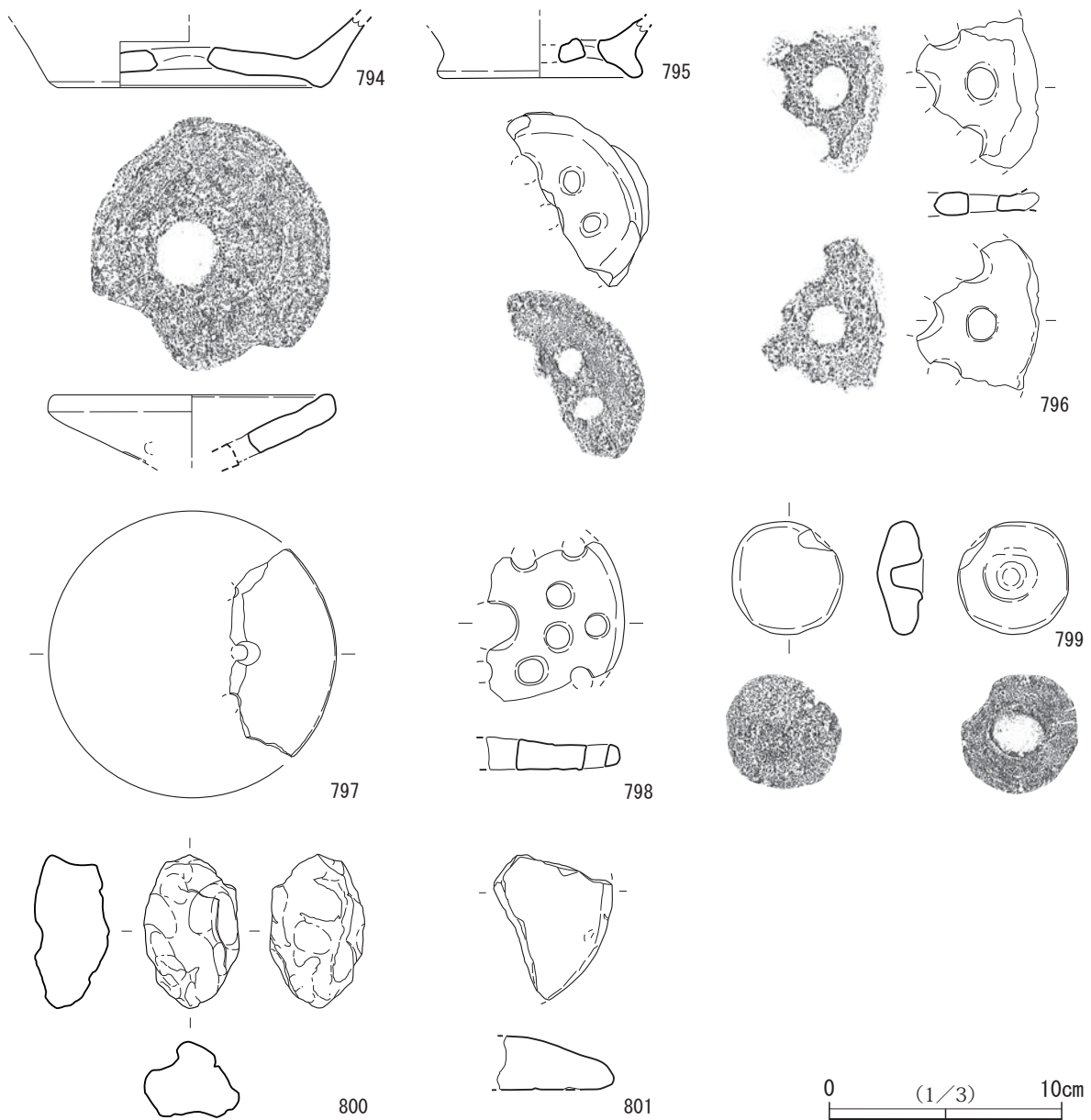
第103 縄文土器実測図(69)



第104図 縄文土器実測図(70)



第105図 縄文土器実測図(71)



第106図 縄文土器実測図(72)

穿孔を施す。底部内面に白色物質が付着する。795、796は多孔底土器。795は上げ底の底面に内外面両側から径0.7cm程度の穿孔を施す。孔数は7～8孔と推定される。796は底面に内外面両側から径1.3cm程度の穿孔を施す。

797～801は土製品。797はロート状の形態をなす土製品で、器面の内外面両側から径1cm程度の穿孔を施す。内外面ナデ調整。798は器面の内外面両側から穿孔を施す。中央には径2cmのやや大きな穿孔、その周囲に径1cm程度の穿孔を施す。箕子状土製品とみられる。復元径12.4cm。799は円盤状を呈する土製品で、中央にくぼみを有する。径約4.9cm、厚さ2.0cm。801は円盤状を呈する土製品で、外面ナデ調整。復元径10.8cm。800は焼成粘土塊で、外面に部分的に指押さえを施す。

第1表 縄文土器観察表

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
1	20・21-2		SK15	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面摩滅、縄文(RL?)、沈線文。内面ミガキ。
2	20・21-2		SK15	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
3	20・21-2		SK15	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 黄灰		外面摩滅、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
4	20・21-2		SK15	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	明赤褐 明赤褐		外面摩滅。内面摩滅。
5	20・21-2		SK15	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ。内面ナデ。
6	20・21-2		SK15	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面摩滅、口唇部刻み。内面ナデ。
7	20・21-2		SK15	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐	口径 (22.7)	外面摩滅。内面ナデ。
8	20・21-2		SK15	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ミガキ。内面ミガキ。
9	20・21-2		SK15	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	暗灰黄 黄灰	底径 (10.5)	外面ナデ。内面ナデ、押さえ。
10	20・21-2		SK15	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐	底径 (15.4)	外面摩滅。内面摩滅。
11	20・21-2		SK15	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	底径 (11.2)	外面ナデ。内面ナデ。
12	20・21-3		SK14	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	良	灰黄褐 赤褐		外面ミガキ。内面ミガキ。
13	20・21-3		SK14	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	やや良	暗灰黄 暗灰黄	底径 (10.6)	外面ナデ。内面摩滅。
14	20・21-2		SK23	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	黒褐 褐灰		外面ミガキ、沈線文。内面ナデ。
15	20・21-2		SK23	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ。内面ナデ。
16	20・21-2		SK24	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
17	20・21-2		SK16	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	褐灰 にぶい黄橙		外面摩滅、沈線文、刻み。内面ナデ。
18	20・21-2		SK16	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄褐	口径 (19.0)	外面ナデ。内面ナデ。
19	20・21-2		SK22	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 灰黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
20	20・21-2		SK22	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄 にぶい黄	底径 (12.7)	外面ナデ。内面ナデ。
21	20・21-2		SK25	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐	口径 (31.0)	外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
22	20・21-2		SK25	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰褐 にぶい黄褐		外面摩滅、沈線文。内面摩滅。
23	20・21-2		SK25	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、口唇部刻み。内面ナデ。
24	20・21-2		SK25	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
25	20・21-2		SK25	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面摩滅。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
26	20・21-2		SK25	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄橙 にぶい橙	口径 (34.0)	外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
27	20・21-2		SK25	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
28	20・21-2		SK25	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面沈線文、口唇部刻み。内面摩滅。
29	20・21-2		SK25	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 褐灰		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
30	20・21-2		SK25	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面条痕、ナデ。内面ナデ。
31	20・21-2		SK25	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄		外面ナデ、口唇部刻み。内面ナデ。
32	20・21-2		SK25	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	黄灰 黄灰	底径 10.0	外面ナデ。内面ナデ。
33	20・21-2		SK25	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	やや良	黒褐 黒褐	底径 (13.2)	外面ナデ、指押さえ。内面ナデ、指押さえ。
34	20・21-2		SK25	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰褐 灰褐	底径 9.4	外面ナデ。内面摩滅。
35	20・21-2		SK27	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面ナデ、ミガキ、縄文(LR)、沈線文。内面条痕(二枚貝)、ミガキ。
36	20・21-2		SK27	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、刻み。内面摩滅。
37	20・21-2		SK27	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐	口径 (24.4)	外面ミガキ。内面ミガキ。
38	20・21-2		SK27	縄文土器 注口土器	砂粒含 雲母	良	灰褐 灰褐		外面ナデ、縄文、沈線文。内面ナデ。
39	20・21-2		SK33	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	やや良	暗褐 黒褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
40	20・21-2		SK33内	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ、縄文(RL?)、沈線文。内面ナデ、指押さえ。外面煤付着。
41	20・21-2		SK33内	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ、指押さえ。
42	20・21-2		SK33	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	やや良	黄灰 黄灰		外面隆帯文。内面条痕(二枚貝)。
43	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	褐灰 褐灰		外面条痕(二枚貝)、隆帯文。内面条痕(二枚貝)、ナデ。
44	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 黒褐		外面条痕(二枚貝)、隆帯文。内面条痕(二枚貝)。
45	20・21-3	西半 海側	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、隆帯文。内面ナデ。
46	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、隆帯文。内面条痕(二枚貝)、ナデ。
47	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面条痕(二枚貝)、隆帯文。内面条痕(二枚貝)。
48	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、隆帯文。内面条痕(二枚貝)、ナデ。
49	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、隆帯文。内面ナデ。
50	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、隆帯文、隆帯上に刻み。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
51	20・21-3	中央TR土手	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい橙		外面ヘラのちナデ、隆帯文、隆帯上に刻み。内面ヘラのちナデ。
52	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒多含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕(二枚貝)のちナデ、隆帯文、隆帯上に刻み。内面ナデ。
53	20・21-3		縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面隆帯文、隆帯上に刻み。内面条痕(二枚貝)。
54	20・21-3	西半 海側	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	黄灰 浅黄		外面条痕(二枚貝)、隆帯文、隆帯上に刻み。内面条痕(二枚貝)。
55	20・21-3	西半		縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	黒褐 黒褐		外面条痕(二枚貝)、隆帯文、隆帯上に刻み。内面条痕(二枚貝)のちナデ。
56	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	浅黄 灰黄褐		外面ナデ、隆帯文。内面条痕(二枚貝)。
57	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕(二枚貝)のちナデ、隆帯文。内面条痕(二枚貝)。
58	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい橙 橙		外面条痕(二枚貝)、隆帯文。内面条痕(二枚貝)。
59	20・21-3	西半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	良	にぶい黄褐 灰黄褐	口径 (48.4)	外面条痕、ナデ、ミガキ、隆帯文。内面条痕(二枚貝)、ナデ。
60	20・21-3	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕(二枚貝)、ナデ、隆帯文。内面ナデ。
61	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕(二枚貝)、ナデ、隆帯文。内面条痕(二枚貝)、ナデ。
62	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 暗灰黄		外面隆帯文。内面条痕(二枚貝)。
63	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄 にぶい黄橙		外面条痕のちナデ、隆帯文。内面ナデ。
64	20・21-3	西半 海側	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	褐灰 浅黄	口径 (28.8)	外面条痕(二枚貝)、ナデ、隆帯文。内面条痕(二枚貝)。
65	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄 浅黄		外面条痕(二枚貝)、隆帯文。内面条痕(二枚貝)。
66	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	黒褐 にぶい赤褐		外面隆帯文。内面条痕(二枚貝)、ナデ。
67	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄 浅黄		外面条痕(二枚貝)、ナデ、隆帯文、口唇部刻み。内面条痕(二枚貝)。
68	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 浅黄		外面条痕、ナデ、隆帯文、口唇部刻み。内面条痕。
69	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母 角閃石	良	灰黄褐 にぶい褐		外面隆帯文。内面条痕(二枚貝)。
70	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	褐灰 褐灰		外面ナデ、隆帯文。内面条痕(二枚貝)。
71	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙		外面条痕(二枚貝)、隆帯文。内面条痕(二枚貝)。
72	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	良	黒褐 黒褐		外面ナデ、隆帯文。内面ナデ。
73	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒多含 雲母	良	にぶい黄橙 黄灰	口径 (37.0)	外面条痕(二枚貝)、ナデ、隆帯文。内面条痕(二枚貝)。
74	20・21-3	西半 山側	弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含	やや良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面爪形文、口唇部刻み。内面条痕(二枚貝?)。
75	20・21-3	西半	黒褐色土	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 暗灰黄		外面ナデ、爪形文。内面条痕。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
76	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	浅黄 浅黄		外面ナデ?、爪形文。内面条痕。
77	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 クサレ礫	良	暗灰黄 にぶい褐		外面ナデ、押引文、口唇部刻み。内面条痕(二枚貝)。
78	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面押引文。内面ナデ。
79	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母、黒粒	やや良	黒色 黒色		外面ナデ、爪形文。内面ナデ。
80	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ、爪形文。内面条痕(二枚貝)。
81	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄褐		外面刺突文。内面ナデ。
82	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	灰黄 灰黄		外面押引文。内面ナデ。
83	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	暗灰黄 にぶい黄褐		外面ナデ、押引文。内面条痕(二枚貝)。
84	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい褐		外面ナデ、刺突文、口唇部刻み。内面ナデ。
85	20・21-3	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい褐		外面ナデ、押引文。内面条痕(二枚貝)のちナデ。
86	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、押引文。内面ナデ。
87	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 にぶい黄褐		外面ナデ、押引文。内面ナデ。
88	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	暗灰黄 にぶい橙		外面ナデ、押引文。内面ナデ。
89	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、押引文。内面ナデ。
90	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面縄文(RL?)、押引文、口唇部刻み。内面ナデ。
91	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 暗灰黄		外面ナデ、押引文、口唇部刻み(二枚貝腹縁)。内面条痕(二枚貝)。
92	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、押引文、口唇部刻み(二枚貝腹縁)。内面条痕。
93	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2間	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	褐灰 褐灰		外面ナデ、押引文、口唇部刻み。内面ナデ。
94	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ミガキ、押引文。内面条痕、ナデ。
95	20・21-3	中央TR土手	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面条痕(二枚貝)のちナデ、沈線文、口唇部刻み。内面条痕(二枚貝)のちナデ。
96	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	にぶい橙 橙		外面縄文(RL)、口唇部に爪形文、突帯上に爪形文。内面縄文、ナデ。
97	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 黒褐		外面縄文(LR)、口唇部に縄文、突帯上に爪形文。内面ナデ。
98	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	褐灰 にぶい黄橙		外面縄文(RL)。内面ナデ。
99	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	褐灰 にぶい黄橙		外面縄文(RL)、突帯上に爪形文。内面ナデ。
100	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい橙 暗灰黄		外面ナデ、刺突文。内面ミガキ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
101	20・21-3	西半 海側	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、縄文(RL)。内面ミガキ、縄文(RL)。
102	20・21-3	西半 海側	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい橙 黒褐		外面縄文(RL)。内面ミガキ、条痕(二枚貝?)、縄文(RL)。
103	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面縄文(RL)、突帯上に刻み。内面ナデ。
104	20・21-3	西半 山側斜面	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	橙 橙	口径 (24.2)	外面縄文(RL)、突帯上に爪形文。内面ナデ。
105	20・21-2	湿地層内	遺構面より下 灰色粗砂層	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	黒 黒		外面縄文、押引文。内面ナデ。
106	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙		外面縄文(LR?)。内面ナデ。
107	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい橙 灰黄褐		外面縄文(LR)。内面ナデ。
108	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面縄文、爪形文。内面ナデ。
109	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐		外面縄文(LR)、口唇部刻み。内面ナデ。
110	20・21-3	西半 山側斜面	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面縄文。内面ナデ。
111	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面縄文(RL)。内面ナデ、縄文(RL)。
112	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、一部縄文、口唇部刻み。内面ナデ。
113	20・21-3	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐		外面縄文。内面ナデ。
114	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐	口径 (20.1)	外面ナデ、縄文、押引文、口唇部刻み。内面ナデ。
115	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい橙		外面縄文(LR)、沈線文、口唇部刻み(二枚貝腹縁)。内面条痕。
116	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面縄文(RL)、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
117	20・21-3	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	黄褐 にぶい黄	口径 (25.0)	外面ナデ、縄文(RL)、押引文、口唇部刻み。内面ナデ。
118	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐		外面縄文(RL)、押引文。内面ナデ。
119	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面縄文(LR)。内面条痕(巻貝?)。
120	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 クサレ礫	良	黄灰 灰黄褐		外面縄文、刺突文、口唇部刻み。内面条痕(巻貝?)、ナデ。
121	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面縄文、沈線文。内面ナデ、口縁端部内面刻み。
122	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい黄褐		外面撚糸文。内面ナデ。
123	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
124	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面撚糸文、沈線文。内面ナデ、ミガキ。
125	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面撚糸文、沈線文。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
126	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面撫糸文、沈線文。内面ナデ。
127	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄 暗灰黄		外面撫糸文、押引文。内面条痕(二枚貝)、ナデ。
128	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	暗灰黄 暗灰黄		外面撫糸文。内面ナデ。
129	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄 にぶい黄		外面撫糸文。内面ナデ。
130	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄橙	口径 (41.6)	外面縄文(RL)のちナデ、線刻。内面縄文(RL)、ナデ。
131	20・21-3	中央TR土手	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい褐		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
132	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 黄灰		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
133	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐 にぶい橙		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
134	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄 にぶい黄		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
135	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 浅黄		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面条痕、ナデ?。
136	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、ミガキ、沈線文。内面ナデ。
137	20・21-3	西半 海側	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
138	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 暗灰黄		外面ナデ、沈線文。内面条痕(二枚貝)、ナデ。
139	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐		外面沈線文。内面ナデ。
140	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文、口唇部縄文。内面ナデ。
141	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄褐		外面ナデ、口縁肥厚上に刻み。内面条痕(二枚貝)。
142	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄 暗灰黄		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
143	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄 灰黄		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
144	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい橙 浅黄		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
145	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい橙		外面沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
146	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄 にぶい黄橙		外面条痕(二枚貝)、刻み。内面ナデ。
147	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄		外面ナデ、沈線文、押引文。内面ナデ。
148	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	暗灰黄 暗灰黄		外面ナデ、ミガキ、沈線文、刺突文。内面条痕。
149	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面ナデ、沈線文。内面条痕、ナデ。
150	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄褐 にぶい褐		外面ナデ、沈線内刺突。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
151	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄		外面ナデ、沈線上に刺突文。内面条痕(二枚貝)。
152	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ、沈線上に刺突文。内面ミガキ。
153	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面条痕、沈線内刺突。内面ナデ。
154	20・21-1	海側～試掘TR間		縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい橙		外面ナデ、押引文、口唇部刺突文。内面ナデ。
155	20・21-3	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄褐 灰黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
156	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい黄橙		外面沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
157	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	褐 にぶい赤褐		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
158	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面条痕、沈線文。内面条痕、ナデ。
159	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
160	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文。内面ミガキ。
161	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄橙 灰黄		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
162	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄	口径 (25.8)	外面条痕(二枚貝)、ナデ、押引文(竹管)。内面押さえ、条痕(二枚貝)。
163	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文。内面条痕(二枚貝?)、ナデ。
164	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
165	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	褐 褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
166	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい橙 にぶい黄橙	口径 (39.4)	外面条痕のちナデ、沈線文。内面条痕(巻貝)。
167	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	橙 橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
168	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
169	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕のちナデ、沈線文、口唇部刻み(巻貝)。内面ナデ。
170	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 褐		外面条痕、ナデ、沈線文。内面ナデ。
171	20・21-2	西半 山側 土手2	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文。内面摩滅。
172	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
173	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 暗灰黄		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
174	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。焼成前穿孔。
175	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
176	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。補修孔。
177	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄 暗灰黄		外面条痕のちナデ、沈線文。内面条痕。
178	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面条痕、ナデ、沈線文。内面ナデ。
179	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄 灰黄		外面ナデ、沈線文。内面条痕、ナデ。
180	20・21-2	西半 山側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
181	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～ 2上面まで	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文。内面摩滅。
182	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母、ク サレ礫	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
183	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
184	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄橙 黄灰		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
185	20・21-3	東半	遺構面 およびそ の下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
186	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙		外面条痕?のちナデ、沈線文。内面ナデ。
187	20・21-2	土手4	遺構面	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
188	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
189	20・21-2	湿地層内	粘質シルト2下 腐葉土層上の粗砂	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	オリーブ黒 オリーブ黒		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
190	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
191	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
192	20・21-3	西半	遺構面 およびそ の下層	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
193	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕、ナデ、沈線文。内面ナデ。
194	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
195	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	浅黄 浅黄		外面条痕、ナデ、沈線文。内面ナデ。
196	20・21-3	東半	遺構面 およびそ の下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
197	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 浅黄		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
198	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	浅黄 浅黄		外面条痕、ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
199	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕、ナデ、沈線文。内面ナデ。
200	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面沈線文、口唇部刻み。内面摩滅。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
201	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面条痕、ナデ、沈線文。内面ナデ。
202	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
203	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
204	20・21-1	海側～試掘TR間		縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	浅黄 にぶい黄橙	口径 (25.4)	外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
205	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	やや良	にぶい褐 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面条痕(二枚貝)のちナデ。
206	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 灰黄褐		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
207	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒多含 雲母	やや良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
208	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	やや良	黒褐 灰黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
209	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄褐		外面摩滅、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ、ミガキ。
210	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
211	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
212	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
213	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	褐灰 にぶい赤褐	口径 (26.2)	外面条痕、沈線文。内面ナデ。
214	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
215	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 灰黄褐	口径 (25.0)	外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
216	20・21-2	湿地層内	粘質シルト2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 暗灰黄		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
217	20・21-3	西半 山側	弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
218	20・21-2	湿地層内	粘質シルト2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	黒褐 黒褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。焼成前穿孔。
219	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
220	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰褐 灰褐		外面ナデ、沈線文、刻み。内面ナデ。
221	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい橙	口径 (15.4)	外面ミガキ、沈線文。内面ナデ。
222	20・21-1	試掘TR～中央TR間 西半	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐		外面ナデ、縄文?、沈線文、内面ミガキ。
223	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面摩滅、沈線文、沈線内刺突。内面ナデ。
224	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 暗灰黄		外面ナデ、沈線文、波頂部に口唇部刻み。内面ナデ。
225	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 にぶい黄褐	口径 (30.2)	外面ミガキ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
226	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	褐灰 黒褐		外面条痕(二枚貝)、沈線文、口唇部刻み。内面 条痕(二枚貝)。
227	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
228	20・21-2	西半 土手1	縄文～縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ミガキ。
229	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	浅黄 浅黄		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
230	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	不良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面摩滅、沈線文。内面摩滅。焼成前穿孔。
231	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕のちナデ、沈線文、口唇部刻み。内面 ナデ。
232	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい褐 にぶい褐		外面条痕、ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
233	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面条痕、ナデ。 焼成前穿孔。
234	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ、沈線文。内面条痕(二枚貝)のちナデ。
235	20・21-3	海側	弥生～古代	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰褐 灰褐		外面ナデ、沈線文、刻み。内面縄文(RL?)、渦 巻状の突帯上に沈線、刻み。
236	20・21-2	西半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
237	20・21-2		縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい赤褐	口径 (47.9)	外面ナデ、刻み、沈線文。内面ナデ。
238	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	褐 褐	口径 (34.9)	外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
239	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
240	20・21-3		縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面条痕、ナデ、沈線文。内面ナデ。
241	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
242	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい橙		外面ナデ、凹線文、口唇部刻み。内面ナデ。
243	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰褐		外面ミガキ、条痕、凹線文、口唇部刻み。内面 条痕、ナデ。
244	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄 黄灰		外面ナデ、凹線文。内面ナデ。
245	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面条痕、凹線文、刻み。内面条痕(巻貝?)。
246	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 鉢	砂粒含	やや良	明赤褐 にぶい橙	口径 (19.1)	外面ナデ、凹線文。内面ナデ。
247	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面ナデ、凹線文、刺突文。内面ナデ。
248	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 黒褐	口径 (39.8)	外面条痕(二枚貝)のちナデ、凹線文、口唇部刻 み、口唇部圧痕(二枚貝)。内面ナデ。
249	20・21-2	西半 山側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄 にぶい黄橙		外面摩滅、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
250	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	良	にぶい褐 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
251	20・21-2	山側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	不良	黄灰 暗灰黄		外面ミガキ、沈線文。内面ミガキ。
252	20・21-2	東半 海側	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄褐		外面摩滅、口唇部沈線文。内面摩滅。
253	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
254	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕、ナデ、沈線文。内面ナデ。
255	20・21-1	試掘TR～中央TR間 西半	縄文2	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	やや良	灰黄褐 にぶい橙		外面摩滅、沈線文。内面ミガキ。
256	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～ 2上面まで	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい黄橙	口径 (31.0)	外面条痕、ナデ、沈線文、刻み。内面摩滅。
257	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (14.2)	外面ナデ、ミガキ、沈線文。内面ナデ、ミガキ。
258	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい橙	口径 (15.4)	外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
259	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
260	20・21-3	西半 海側	遺構面 およびそ の下層	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
261	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 鉢	砂粒含 金雲母	やや良	にぶい橙 にぶい橙	口径 (25.2)	外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
262	20・21-2	山側	縄文3	縄文土器 浅鉢	砂粒含	不良	灰黄 灰黄	口径 (32.4)	外面摩滅、沈線文。内面摩滅。
263	20・21-2	土手4	縄文3	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄褐 にぶい黄褐	口径 (31.4)	外面沈線文、マンガン付着のため調整不明。内面ミガキ。補修孔。
264	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい橙		外面ナデ、縄文(LR?)、沈線文、刺突文、口唇部刻み。内面ナデ。
265	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
266	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文、沈線文、沈線内刺突。内面条痕(二枚貝)。
267	20・21-2	山側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文、沈線文。内面条痕。
268	20・21-3	西半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、ミガキ、縄文、沈線文。内面ナデ。縄文部に赤色顔料付着。
269	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
270	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ、縄文、沈線文。内面ナデ。
271	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
272	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	良	浅黄橙 にぶい橙	口径 (37.0)	外面縄文(LR)、沈線文。内面ミガキ。
273	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	良	にぶい黄褐 明赤褐	口径 (29.0)	外面ナデ、縄文、沈線文。内面ナデ。
274	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ミガキ、縄文(LR?)、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ、ミガキ。
275	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐	口径 (20.8)	外面ミガキ、縄文(LR)、沈線文、口唇部刺突文(巻貝)。内面ミガキ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
276	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕、縄文(LR)、沈線文。内面条痕。
277	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (28.6)	外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
278	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄	口径 (30.2)	外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
279	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	灰黄褐 灰黄褐	口径 (23.6)	外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ミガキ。
280	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐 にぶい褐	口径 (24.6)	外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
281	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
282	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母 角閃石	良	にぶい褐 橙		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
283	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
284	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい橙 灰黄褐		外面ナデ、縄文(RL?)、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
285	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	明褐 明褐		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
286	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	橙 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文、口唇部刺突文。内面ナデ。
287	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。補修孔。
288	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面条痕(巻貝)。
289	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
290	20・21-1	海側～試掘TR間		縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (42.4)	外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
291	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒多含 雲母	やや良	灰黄 灰黄	口径 (30.6)	外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
292	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい黄橙		外面条痕(二枚貝)のちナデ、縄文(LR?)、沈線文。内面条痕(二枚貝)。
293	20・21-2	東半 土手1以南	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい橙		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
294	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄 にぶい黄橙		外面条痕、ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
295	20・21-3	西半 山側斜面	黒褐色土	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰褐 灰褐		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ、突帯上に刻み。
296	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい褐	口径 (30.0)	外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
297	20・21-2	湿地層内	粘質シルト2	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	黒 黒		外面縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
298	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい黄褐		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文、刻み。内面ナデ。
299	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙	口径 (29.5)	外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面摩滅。
300	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい橙 にぶい橙		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
301	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
302	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	褐 にぶい褐		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
303	20・21-2	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 褐灰		外面摩滅、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
304	20・21-2	西半 海側	縄文～縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (40.4)	外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面摩滅。
305	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ミガキ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ、ミガキ。補修孔。
306	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面まで	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
307	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	黒褐 黒褐	口径 (23.2)	外面ナデ、縄文(LR)、沈線文、波頂部刻み。内面ナデ。
308	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 褐灰		外面ナデ、縄文(LR)、突帯上に刻み、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。補修孔。
309	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 灰黄褐		外面条痕のちナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
310	20・21-1	海側～試掘TR間		縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 褐灰		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
311	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
312	20・21-2	西半 山側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	褐 にぶい橙		外面摩滅、縄文(RL?)、沈線文。内面摩滅。
313	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母 角閃石	良	にぶい黄褐 にぶい褐	口径 (26.8)	外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
314	20・21-2	土手4	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	黒褐 にぶい黄褐		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
315	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐	口径 (34.1)	外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ミガキ。
316	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面まで	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母 角閃石	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐	口径 (32.2)	外面ナデ、縄文(RL)、沈線文、口唇部刻み。内面条痕(二枚貝?)。
317	20・21-2	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙		外面摩滅、縄文(LR)、沈線文。内面摩滅。補修孔。
318	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面まで	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 暗灰黄		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
319	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	黄灰 褐灰		外面縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
320	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	不良	にぶい黄褐 にぶい黄褐	口径 (17.6)	外面摩滅、沈線文、口唇部付近刻み。内面摩滅。
321	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	不良	暗灰黄 灰黄		外面摩滅、沈線文、口唇部付近刻み。内面摩滅。
322	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面条痕(二枚貝)。
323	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	にぶい橙 灰黄		外面ナデ、縄文(LR?)、沈線文。内面ナデ。
324	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
325	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 暗灰黄		外面ナデ、擬縄文、沈線文。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
326	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
327	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄 暗灰黄		外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文、口唇部沈線文。内面ミガキ。
328	20・21-2	土手1	縄文～縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 暗灰黄		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
329	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 灰黄褐		外面ミガキ、縄文(RL?)、沈線文。内面ミガキ。
330	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ、擬縄文、沈線文。内面ナデ。
331	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	浅黄 浅黄		外面ナデ、擬縄文、沈線文。内面ナデ。
332	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ、擬縄文、沈線文。内面ナデ。
333	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい黄橙		外面ナデ、擬縄文、沈線文。内面ミガキ。
334	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄	口径 (30.6)	外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ、ミガキ。
335	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙		外面ミガキ、縄文、沈線文。内面ナデ。
336	20・21-2	山側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面摩滅、沈線文、口唇部刺突文。内面摩滅。
337	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄	口径 (42.0)	外面ナデ、縄文(RL)、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
338	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい橙	口径 (32.7)	外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。焼成前穿孔。図版29右2
339	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい黄褐	口径 (20.7)	外面ナデ、縄文(RL)、沈線文、刻み。内面ナデ。
340	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2 上面まで	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面ナデ、縄文、沈線文、沈線内刺突。内面ナデ。
341	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ミガキ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ、ミガキ。補修孔。
342	20・21-1	海側～試掘TR間		縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	暗灰黄 灰黄		外面ミガキ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
343	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文、刺突文、口唇部刺突文。内面ミガキ。
344	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 にぶい黄	口径 (23.0)	外面ミガキ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
345	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 暗灰黄		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
346	20・21-3	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 金雲母	良	明赤褐 明赤褐		外面ナデ、縄文(RL?)、沈線文。内面条痕、ナデ。
347	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 クサレ礫	良	暗灰黄 にぶい黄橙		外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文。内面ミガキ。
348	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	やや良	浅黄 灰黄	口径 (33.4)	外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
349	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい黄橙		外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。平面楕円形。
350	20・21-2	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい黄橙		外面マンガン付着のため調整不明、縄文(LR)、沈線文。内面摩滅。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
351	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ、縄文(LR?)、沈線文。内面ナデ。
352	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄 黄灰		外面ナデ、縄文、沈線文。内面ナデ。
353	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄 黒		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面条痕、ナデ。 縄文部に赤色顔料塗布。
354	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (26.4)	外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面条痕のちナデ。
355	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ミガキ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
356	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 灰黄褐		外面ナデ、縄文(LR?)、沈線文。内面ミガキ。
357	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 金雲母	良	褐 褐	口径 (19.0)	外面ナデ、縄文(LR?)、沈線文。内面ナデ。
358	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
359	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい橙		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
360	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄橙	口径 (21.3)	外面ミガキ、縄文、沈線文。内面ナデ。
361	20・21-2	西半 海側	縄文～縄文3	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
362	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (23.2)	外面ナデ、縄文、沈線文。内面ミガキ。
363	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1	縄文土器 浅鉢	砂粒含	不良	暗灰黄 にぶい黄橙		外面摩滅、縄文、沈線文。内面摩滅。
364	20・21-2	湿地層内	粘質シルト2	縄文土器 浅鉢	砂粒含 金雲母	良	黒褐 黒褐		外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文。内面ミガキ。
365	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 浅鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい橙 にぶい黄褐		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
366	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面まで	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面ナデ、縄文(RL?)、沈線文。内面ナデ。
367	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄褐		外面ミガキ、縄文(RL?)、沈線文。内面摩滅。
368	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙	口径 (13.6)	外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
369	20・21-2	西半 海側	縄文～縄文3	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 灰黄褐		外面縄文、沈線文、沈線内刺突。内面摩滅。
370	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1の下	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 褐灰		外面ナデ。内面ナデ、縄文(RL)、沈線文、沈線内刺突。
371	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 暗灰黄		外面ミガキ、縄文(LR)、沈線文、沈線内刺突。 内面ナデ。
372	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 鉢	砂粒含	良	にぶい赤褐 にぶい赤褐		外面ナデ、縄文(LR)、沈線内刺突。内面ナデ。
373	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 鉢	砂粒含	良	褐灰 黒褐		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ、縄文(RL)。外面に赤色顔料塗布。
374	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 鉢	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい橙		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
375	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 鉢	砂粒含	良	黒褐 灰黄褐		外面ナデ、沈線文、刺突文、二枚貝腹縁文。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
376	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面ミガキ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
377	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 鉢	砂粒含	良	にぶい橙 灰白		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
378	20・21-3	海側	弥生～古代	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	灰黄褐 黄褐		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
379	20・21-2	東半 海側	縄文～弥生	縄文土器 鉢	砂粒含 金雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
380	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 鉢	砂粒含	やや良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ、縄文(RL?)、沈線文。内面ナデ。
381	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい橙 橙		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ミガキ。
382	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい黄褐		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
383	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	灰黄褐 黄灰		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ミガキ。
384	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (32.4)	外面ナデ、縄文(RL)、沈線文、口唇部沈線文。内面ナデ。
385	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい橙 橙		外面ミガキ、縄文(LR)、沈線文、。内面ミガキ。
386	20・21-2	西半 海側	縄文～縄文3	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ、縄文(RL?)、沈線文。内面摩滅。
387	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 暗灰黄	口径 (26.4)	外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文、口唇部沈線文。内面ミガキ。
388	20・21-2	西半 山側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	不良	灰黄 灰黄		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
389	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面まで	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 暗灰黄	口径 (29.2)	外面ナデ、縄文、沈線文。内面ナデ。
390	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	灰黄褐 褐		外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文、口唇部沈線文。内面ミガキ。
391	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 黄灰		外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文。内面ミガキ。
392	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	やや良	暗灰黄 灰黄褐	口径 (20.6)	外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文。内面ミガキ。
393	20・21-3	西半 山側	弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄褐 灰黄褐		外面ナデ、縄文、沈線文。内面ナデ。焼成前穿孔。
394	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 浅鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ミガキ、縄文、沈線文。内面ナデ、ミガキ。
395	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい褐		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。補修孔。
396	20・21-2	西半 土手1	縄文～縄文3	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい黄橙	口径 (34.8)	外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文、口唇部刺突文・刻み。内面ナデ。
397	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (48.6)	外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ、ミガキ。
398	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい橙		外面ナデ、沈線文、口唇部に縄文(RL)。内面ナデ。
399	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (36.2)	外面ミガキ、沈線文、口唇部沈線文・縄文(RL)、沈線内刺突。内面ミガキ。焼成前穿孔。
400	20・21-3	西半	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 橙		外面ナデ、縄文、沈線文。内面ミガキ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
401	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面まで	縄文土器 双耳壺	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		把手部分。外面ナデ、縄文(RL)、沈線文、沈線内刺突、穿孔。内面ナデ。
402	20・21-2	西半 土手1	縄文～縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		把手部分か。外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面摩滅。
403	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 壺	砂粒含	やや良	灰黄褐 暗灰黄		把手部分。外面縄文(RL)、沈線文、沈線内刺突。内面ナデ。
404	20・21-2	西半 海側	縄文～縄文3	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい黄褐	口径 (31.7)	外面摩滅、縄文(RL?)、沈線文。内面摩滅。
405	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ミガキ。平面楕円形。
406	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 双耳壺	砂粒含 雲母	やや良	浅黄 浅黄		外面摩滅、縄文、沈線文、穿孔。内面ナデ。
407	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 双耳壺	砂粒含	良	浅黄橙 にぶい黄橙		把手部分。外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文、穿孔。内面ミガキ。
408	20・21-2	西半 土手1	縄文～縄文3	縄文土器 壺	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	底径 (4.9)	外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文。内面ミガキ。
409	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面まで	縄文土器 深鉢突起	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線内刺突。内面ナデ。
410	20・21-1	試掘TR～中央TR間 西半	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面摩滅、沈線文(渦巻文)。内面摩滅。
411	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 双耳壺	砂粒含	やや良	浅黄 浅黄	口径 (4.8)	外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文、穿孔。内面ナデ。
412	20・21-2	西半 土手1	縄文～縄文3	縄文土器 壺	砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面ミガキ、縄文、沈線文。内面摩滅。
413	20・21-1	中央TR内	縄文～弥生	縄文土器 壺	砂粒含 雲母	不良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
414	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 壺	砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ、縄文(RL?)、沈線文。内面ナデ。
415	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 双耳壺	砂粒含 雲母	良	褐 にぶい黄橙		把手部分。外面摩滅、沈線文、穿孔。内面摩滅。
416	20・21-2	西半 山側	縄文～弥生	縄文土器 注口土器	砂粒含	不良	暗灰黄 黒褐		外面摩滅、沈線文。内面マンガン付着のため調整不明。
417	20・21-1	湿地層内	黒灰色粘質シルト	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	不良	灰白 灰		把手部分か。ナデ、沈線文。
418	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面まで	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ、隆帯上に刻み。内面条痕、ナデ。
419	20・21-3	中央土手	弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 オリーブ黒		外面条痕、ナデ、隆帯上に刻み。内面ナデ。
420	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、隆帯上に刺突文。内面ナデ。
421	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ、沈線文、刻み。内面条痕(二枚具)。
422	20・21-1	試掘TR～中央TR間 西半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙		外面条痕のちナデ、刻み。内面条痕、ナデ。
423	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ、刻み。内面ナデ。
424	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 灰黄		外面条痕、ナデ、刻み(巻貝)。内面ナデ。
425	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐 にぶい褐		外面ナデ、刺突文(巻貝)。内面条痕。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
426	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい黄褐		外面ナデ、刻み。内面ナデ。
427	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～ 2上面まで	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、刻み(巻貝)。内面ナデ。
428	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	明褐 橙		外面条痕、刻み(巻貝)。内面ナデ。
429	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 クサレ礫	やや良	黄灰 褐灰		外面条痕、条痕のちナデ、刻み(巻貝)、口唇部 刻み(巻貝)。内面ナデ。
430	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐 にぶい赤褐		外面ナデ、刺突文(巻貝)、口唇部刻み(巻貝)。 内面ナデ。
431	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	黒褐 にぶい黄褐		外面ナデ、刺突文(竹管?)。内面ナデ。
432	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい赤褐 にぶい赤褐		外面ナデ、刺突文(巻貝)。内面ナデ。
433	20・21-1	試掘TR～中央TR 間 西半	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文、隆帯上に刺突文(巻貝)。内 面ナデ。
434	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 にぶい黄	口径 (36.1)	外面条痕(巻貝)、刺突文(巻貝)、口唇部刻み。 内面ナデ。
435	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面摩滅、刺突文(巻貝)、口唇部刻み。内面ナデ。
436	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐	口径 (36.4)	外面条痕、刺突文(巻貝)。内面ナデ。
437	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	にぶい橙 にぶい褐		外面条痕(巻貝)、ナデ、沈線文、隆帯上に刻み。 内面条痕(巻貝)、ナデ。
438	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 灰褐		外面条痕のちナデ、刻み、隆帯上に刻み。内面 ナデ。
439	20・21-2		縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい橙	口径 (32.3)	外面ナデ、口唇部刻み。内面ナデ。
440	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい黄橙	口径 (27.0)	外面条痕、口唇部刻み。内面ミガキ。
441	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙		外面条痕(二枚貝)、ナデ、口唇部刻み。内面条 痕(二枚貝)のちナデ。
442	20・21-3	西半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、刻み。内面ナデ。
443	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕、刻み、口唇部刻み。内面ナデ。
444	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文、隆帯上に刻み。内面ナデ。
445	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文、刺突文(巻貝)。内面ナデ。
446	20・21-2	西半 海側	縄文～縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐	口径 (29.2)	外面条痕、隆帯上に刻み、沈線文。内面ナデ。
447	20・21-3	東半	遺構面およびそ の下層	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	にぶい赤褐 にぶい赤褐		外面ナデ、沈線文、刺突文。内面ナデ。
448	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい橙		外面ナデ、ミガキ、沈線文、刻み。内面ミガキ。
449	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 不明	口径 (21.6)	外面摩滅、沈線文、口唇部刻み。内面摩滅。内 面マンガン付着
450	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 クサレ礫	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕のちナデ、沈線文、口唇部刻み。内面 ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
451	20・21-2	西半 土手1	弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
452	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい橙		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面条痕のち ナデ。
453	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 灰黄褐		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
454	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
455	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～ 2上面まで	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面条痕(二枚 貝?)。
456	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 黒褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
457	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線、口唇部刻み。内面条痕、ナデ。
458	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～ 2上面まで	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	暗灰黄 暗灰黄		外面ナデ、刺突文。内面ナデ。
459	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 黒褐	口径 (24.6)	外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
460	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕?のちナデ、沈線文、口唇部刻み、刺 突文。内面ナデ。
461	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい橙	口径 (31.4)	外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
462	20・21-1	試掘TR2周辺	縄文2～縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、沈線文、口唇部刻み。内面ナデ。
463	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰黄褐 褐灰		外面条痕、ナデ、沈線文、刻み、刺突文。内面条痕、 ナデ。
464	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい赤褐		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文、刻み。内面ナデ。 焼成前穿孔。
465	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	灰黄褐 灰黄褐		外面条痕、ナデ、沈線文、刺突文、口唇部刻み。 内面ナデ。
466	20・21-3	西半	弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰褐 灰褐		外面ナデ、沈線文、刻み。内面ミガキ。
467	20・21-3	西半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい橙		外面ナデ?、沈線文、刺突文、口唇部刻み。内 面条痕のちナデ。
468	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文、刺突文、口唇部刻み。内面 ナデ。
469	20・21-3	海側	弥生～古代	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰褐 灰褐		外面ナデ、口唇部刻み。内面ナデ。
470	20・21-3	海側	弥生～古代	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰褐 灰褐		外面ナデ、口唇部刻み。内面ナデ。
471	20・21-3	西半 山側	弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	橙 橙		外面ナデ、沈線文。内面摩滅。
472	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	不良	にぶい黄橙 橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
473	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	黄褐 にぶい黄橙		外面細密条痕?、口唇部刻み。内面ナデ。
474	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
475	20・21-2	西半 海側	縄文～縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	褐 にぶい黄褐		外面摩滅、沈線文。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
476	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい黄褐		外面ナデ、ミガキ、口唇部刻み。内面ナデ。
477	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ、口唇部沈線文、刻み。内面条痕(二枚貝?)のちナデ。
478	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ。内面ナデ。
479	20・21-3	西半	遺構面およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ、口唇部刻み。内面ナデ。
480	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢突起	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい橙		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
481	20・21-1	試掘TR～中央TR間 西半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢突起	砂粒含	やや良	明赤褐 明赤褐		外面ナデ、沈線文、突帯上に刻み。内面ナデ。
482	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 深鉢突起	砂粒含	やや良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文、刺突文。内面ナデ。
483	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢突起	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ、口唇部刻み。内面ナデ。
484	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、暗孔、口唇部刻み。内面ナデ。
485	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい橙	口径 (23.6)	外面条痕のちナデ、沈線文、刻み。内面条痕のちナデ。
486	20・21-3	西半	弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	褐 にぶい褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
487	20・21-2	東半 海側	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい黄褐	口径 (18.7)	外面ナデ、沈線文、刺突文、口唇部刻み。内面ナデ。
488	20・21-3	西半	遺構面およびその下層	縄文土器 浅鉢	砂粒含 金雲母	良	灰黄褐 黒褐		外面ナデ、刺突文。内面ナデ。
489	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい褐		外面突帯。内面ナデ。
490	20・21-3	西半 海側	遺構面およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	橙 にぶい黄褐		外面ナデ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
491	20・21-3	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	黒 黒褐		外面ナデ、ミガキ、口唇部沈線文・刻み。内面ミガキ。
492	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	褐灰 にぶい黄橙		外面条痕のちナデ。内面ナデ、沈線文、刻み。
493	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙	口径 (36.4)	外面条痕のちナデ、沈線文。内面ナデ。
494	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面条痕、沈線文。内面条痕(巻貝?)、ナデ。
495	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (25.8)	外面ナデ、沈線文、暗孔。内面条痕(二枚貝?)。
496	20・21-2	西半 山側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	褐 褐		外面摩滅、沈線文、刺突文。内面摩滅。
497	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	良	褐灰 褐灰		外面ナデ、ミガキ、縄文(RL?)、沈線文。内面ナデ、ミガキ。
498	20・21-2	西半 土手1	弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 にぶい黄		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
499	20・21-2	西半 海側	縄文～縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ、沈線文、刻み。内面ナデ。焼成前穿孔。
500	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
501	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面条痕?、沈線文、刺突文(竹管)。内面条痕?。
502	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、刺突文(巻貝)。内面ナデ。
503	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 浅黄		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
504	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。焼成前穿孔。
505	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐 にぶい黄褐		外面ナデ。内面ミガキ、沈線文。
506	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ。内面ナデ、沈線文。
507	20・21-3	中央土手	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい黄橙	口径 (39.4)	外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
508	20・21-1	試掘TR～中央TR間 西半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	灰黄褐 暗灰黄	口径 (23.0)	外面ミガキ、縄文(RL)。内面ナデ。
509	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐 にぶい褐	口(18.8) 高9.8 底(10.1)	外面ナデ、縄文(RL)。内面ナデ。
510	20・21-3	西半 山側斜面	黒褐色土	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄褐 灰黄褐		外面ナデ、縄文(RL)。内面ナデ。
511	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	褐 黒褐		外面ミガキ、縄文(RL?)。内面ミガキ、刺突文(巻貝)。
512	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	やや良	灰黄 灰白		外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
513	20・21-3	中央土手	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
514	20・21-3	中央土手	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
515	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐		外面条痕(巻貝)、擬縄文、沈線文。内面ナデ。
516	20・21-3	海側	弥生～古代	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母、黒粒 角閃石	良	灰黄褐 灰黄褐		外面条痕、擬縄文。内面条痕のちナデ。
517	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 角閃石	良	にぶい赤褐 にぶい赤褐		外面ナデ、縄文(RL?)、沈線文。内面ナデ。
518	20・21-3	海側	弥生～古代	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母、角閃	良	にぶい褐 にぶい黄褐	口径 (18.2)	外面ナデ、ミガキ、縄文、沈線文。内面ミガキ。
519	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	良	灰黄褐 灰黄褐	口径 (27.4)	外面条痕、擬縄文、沈線文。内面ナデ。
520	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 暗灰黄		外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文、刺突文(巻貝)。内面ミガキ。
521	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～ 2間 腐葉土層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	黄灰 黄灰		外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
522	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 灰黄褐		外面ナデ、刺突文(二枚貝腹縁?)、沈線文。内面ナデ。
523	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ、沈線文、刺突文(二枚貝腹縁?)。内面ナデ、ミガキ。
524	20・21-3	海側	弥生～古代	縄文土器 浅鉢	砂粒含 金雲母	良	暗赤褐 暗赤褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
525	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい橙		外面条痕、縄文(LR)。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
526	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 灰黄褐		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
527	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐	口径 (20.4)	外面ナデ、縄文(RL?)、沈線文。内面ナデ、ミガキ。
528	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～縄文2	縄文土器 浅鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄褐 にぶい橙		外面ミガキ、沈線文。内面ミガキ。
529	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい橙 橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
530	20・21-3	西半	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙		外面ミガキ、沈線文。内面ミガキ。
531	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい赤褐 赤褐		外面ナデ、縄文、沈線文。内面ナデ。
532	20・21-3	遺構検出		縄文土器 深鉢	砂粒含	良	褐 にぶい黄橙		外面ナデ、縄文(RL)、沈線文、穿孔。内面ナデ。
533	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい橙		外面ナデ、沈線文。内面条痕。
534	20・21-3	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面ナデ、ミガキ、沈線文、隆帯文。内面ミガキ。
535	20・21-2	西半 海側 土手 1以南	縄文～縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	黒褐(マンガ ン付着) にぶい黄橙		外面摩滅、縄文(RL?)、沈線文。内面摩滅。
536	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	黄灰 黄灰	口径 (17.4)	外面ナデ、凹線文。内面ミガキ。
537	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄 灰黄		外面ミガキ、縄文(RL)、沈線文。内面ナデ。
538	20・21-3	中央土手	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	明赤褐 明赤褐		外面ナデ、指押さえ、縄文。内面ナデ、指押さえ。
539	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ミガキ、縄文、沈線文。内面ミガキ。
540	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰黄褐 灰黄褐	口径 (25.8)	外面ヘラ削り?、凹線文。内面ヘラ削り?
541	20・21-3	海側	弥生～古代	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ。内面ナデ。
542	20・21-2	東半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。
543	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい褐		外面条痕、ナデ、沈線文。内面条痕、ナデ。
544	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 黒褐		外面条痕のちナデ、凹線文、内面ミガキ。
545	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄		外面条痕、ナデ、凹線文。内面ナデ。
546	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい橙		外面ナデ、沈線文。内面ナデ、ミガキ。
547	20・21-3	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 褐灰		外面ミガキ、凹線文。内面ミガキ。
548	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	黒褐 黒褐		外面ナデ。内面ミガキ、凹線文。
549	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐 黒		外面条痕(ヘラ?)。内面ナデ。
550	20・21-3	海側	弥生～古代	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	褐灰 褐灰	口径 (33.6)	外面条痕(二枚貝)、ナデ。内面ミガキ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
551	20・21-3	西半	黒褐色土	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 にぶい黄橙	口径 (31.8)	外面条痕(二枚貝)、ナデ。内面条痕(二枚貝)、 ナデ。
552	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	褐 黒		外面ミガキ。内面ミガキ。上層からの混入か。
553	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい褐 黒褐		外面ミガキ。内面ミガキ。
554	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	灰褐 黒褐		外面ミガキ。内面ミガキ。
555	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 褐灰		外面ナデ。内面ナデ。
556	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい橙		外面ナデ、凹線文。内面ナデ。
557	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 黒褐		外面ミガキ。内面ミガキ。
558	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 黄灰		外面ナデ、ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
559	20・21-3	海側	弥生～古代	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 黒褐		外面ミガキ、凹線文。内面ミガキ。
560	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	暗灰黄 黒		外面ミガキ。内面ミガキ。
561	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面条痕、ナデ、沈線文。内面ナデ。
562	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口(14.6) 底5.4	外面ナデ。内面ナデ。
563	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1の下	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐	底径 (14.6)	外面ミガキ。内面ナデ。
564	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙	口(20.4) 高8.0	外面ミガキ。内面条痕、ナデ、ミガキ、押さえ。
565	20・21-3	西半	黒褐色土	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	橙 橙	口径 (19.8)	外面ナデ、ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
566	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 鉢	砂粒含 角閃石	良	にぶい橙 にぶい橙	口径 (29.0)	外面条痕(二枚貝)内面条痕(二枚貝)のちナデ。 穿孔。
567	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	橙 橙	口径 (24.6)	外面ミガキ。内面ミガキ。
568	20・21-2	東半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐 褐	口(33.3) 底(21.8)	外面条痕、ナデ。内面条痕、ナデ。
569	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄	口径 (30.2)	外面ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
570	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい赤褐 にぶい橙		外面ナデ、ミガキ。内面摩滅。
571	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	黄灰 灰黄	口径 (40.6)	外面ミガキ。内面ナデ、ミガキ。 図版30左1
572	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	黄灰 黄灰	口径 29.4	外面ナデ、ミガキ。内面ナデ、ミガキ。 図版30左1
573	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい黄橙	口径 (34.2)	外面ナデ、ミガキ。内面ナデ。
574	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 壺	砂粒含 金雲母	良	暗赤 暗赤	口径 (16.8)	外面ミガキ。内面ミガキ。
575	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 壺	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 暗灰黄	口径 (22.2)	外面条痕。内面条痕、ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
576	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙	口径 (30.9)	外面ナデ、突帯上に刻み。内面条痕のちナデ。
577	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい橙		外面ナデ、突帯上に刻み。内面条痕、ナデ、押 さえ。
578	20・21-2	西半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、突帯上に刻み。内面ナデ。
579	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい橙		外面ナデ、突帯上に刻み。内面ナデ。焼成後穿孔。
580	20・21-2	西半 海側	弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐	口径 (26.3)	外面ナデ、突帯上に刻み。内面ナデ。
581	20・21-2	西半 山側 土手 1～2間	弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	灰黄褐 にぶい黄橙	口径 (27.4)	外面ナデ、沈線文、刻み。内面ナデ。
582	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面ナデ、沈線文、刻み。内面ナデ。
583	20・21-3	東半	弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい褐 褐灰		外面ナデ、ミガキ、沈線文、突帯上に刻み。内 面ナデ。
584	20・21-2	西半	弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	黒褐 黒褐	口径 (20.8)	外面ナデ、突帯上に刻み。内面ミガキ。
585	20・21-3	海側	弥生～古代	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰褐 黒褐		外面ナデ、隆帯文、刻み。内面ナデ、沈線文。
586	20・21-1	西半 土手1内	弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	黄灰 にぶい褐		外面ナデ、突帯上に刻み、沈線文。内面ナデ。
587	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、口唇部刻み。内面ナデ。
588	20・21-2	湿地層内	粘質シルト2	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐	口径 (19.7)	外面ナデ、口唇部刻み。内面ナデ。
589	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐	口径 (23.8)	外面摩滅、口唇部刻み。内面摩滅。
590	20・21-3	東半	遺構面およびそ の下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	褐灰 灰黄褐		外面条痕(二枚貝)、口唇部刻み(二枚貝腹縁)。 内面条痕(二枚貝)。
591	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ナデ、口唇部刻み。内面ナデ。
592	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (25.0)	外面条痕、口唇部刻み。内面ナデ。
593	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	不良	にぶい赤褐 にぶい橙	口径 (26.3)	外面摩滅、口唇部刻み。内面ナデ。
594	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 にぶい褐		外面条痕、口唇部刻み。内面ナデ。
595	20・21-1	海側～試掘TR間		縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐 にぶい褐	口径 (33.2)	外面条痕、ナデ、口唇部刻み。内面条痕、ナデ。
596	20・21-2	西半 土手1	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい橙		外面条痕のちナデ、口唇部刻み。内面ナデ。
597	20・21-1	海側～試掘TR間		縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、口唇部刻み(巻貝)。内面ミガキ。
598	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄		外面条痕のちナデ、口唇部刻み(巻貝)。内面ナデ。
599	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄 灰黄		外面ナデ、口唇部刻み(巻貝)。内面ナデ。
600	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい橙		外面条痕(二枚貝?)、口唇部刻み。内面条痕(二 枚貝?)。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
601	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐 にぶい赤褐		外面条痕(二枚貝)のちナデ。内面条痕(二枚貝)。
602	20・21-2	西半 海側	縄文～縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面摩滅、口唇部刻み。内面摩滅。
603	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕(巻貝?)、口唇部刻み。内面ナデ、条痕(巻貝?)のちナデ。
604	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 灰褐		外面条痕のちナデ、口唇部刻み。内面条痕のちナデ。
605	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (22.2)	外面条痕のちナデ、口唇部刻み。内面条痕、ナデ。
606	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕、口唇部刻み。内面条痕。
607	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄 暗灰黄		外面ナデ、口唇部刻み。内面ナデ。
608	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面条痕、ナデ、口唇部刻み。内面条痕。
609	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面条痕(二枚貝?)のちナデ、口唇部刻み。内面条痕(二枚貝)。
610	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ、口唇部刻み。内面ナデ。
611	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 灰黄褐	口径 (28.0)	外面条痕。内面ナデ。
612	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄 にぶい黄橙	口径 (35.4)	外面条痕。内面ナデ。
613	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 黒褐	口径 (31.0)	外面条痕のちナデ。内面条痕、ナデ。
614	20・21-3	西半 海側	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (28.9)	外面条痕(二枚貝)。内面ナデ。
615	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐	口径 (36.6)	外面条痕(二枚貝)、ナデ。内面条痕(二枚貝)、ナデ。
616	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 暗灰黄	口径 24.8	外面押さえ、細密条痕?。内面細密条痕?。
617	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (25.3)	外面条痕。内面ナデ。
618	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい赤褐	口径 (26.6)	外面条痕、ナデ(二枚貝)。内面条痕(二枚貝)のちナデ。
619	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕。内面条痕。
620	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい赤褐	口径 (26.2)	外面条痕(二枚貝)。内面条痕(二枚貝)のちナデ。
621	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕(二枚貝)。内面条痕(二枚貝)のちナデ。
622	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい橙	口径 (24.0)	外面条痕のちナデ。内面ナデ。
623	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母、角閃石	良	橙 橙		外面条痕(二枚貝)。内面条痕(二枚貝)のちナデ。
624	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄橙 灰黄		外面条痕のちナデ。内面条痕のちナデ、ミガキ。
625	20・21-2	湿地層内	(粘質シルト2の下)腐葉土層の下	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	やや良	褐灰 灰黄褐	口径 (23.3)	外面条痕(二枚貝)。内面条痕(二枚貝)。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
626	20・21-2	東半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄褐	口径 (28.9)	外面条痕。内面条痕。
627	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 暗灰黄	口径 (30.0)	外面条痕(二枚貝?)。内面条痕(二枚貝?)。補修孔。
628	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄褐	口径 (30.0)	外面条痕のちナデ。内面ナデ。
629	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄 にぶい黄橙		外面ナデ。内面ナデ。
630	20・21-3	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	褐灰 褐灰		外面ナデ。内面ナデ。
631	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄 暗灰黄	口径 (20.8)	外面ナデ。内面条痕のちナデ。
632	20・21-2	山側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、口唇部刻み。内面摩滅。
633	20・21-2	西半 土手1	縄文～縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (35.3)	外面ナデ。内面ナデ。
634	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい褐		外面ナデ。内面ナデ。
635	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕(二枚貝?)、ナデ。内面条痕(二枚貝)、ナデ。
636	20・21-2	土手4	遺構面	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	黒褐 黒褐		外面ナデ。内面ナデ。
637	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ、条痕(巻貝)。内面ナデ。
638	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面ナデ。内面ナデ。
639	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐		外面条痕(二枚貝)。内面条痕(二枚貝)。
640	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	黒 にぶい黄橙		外面マンガン付着のため調整不明。内面ナデ。
641	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ。内面ナデ。
642	20・21-3	東半	遺構面 およびその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	褐灰 灰黄褐		外面条痕、ナデ。内面条痕、押さえ。
643	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	褐灰 褐灰		外面条痕。内面ナデ。
644	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄		外面ナデ、口唇部刻み。内面条痕。
645	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい褐 暗灰黄	口径 (20.2)	外面条痕。内面条痕。
646	20・21-3	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐		外面条痕(二枚貝)、ナデ。内面条痕(二枚貝)。
647	20・21-1	試掘TR2周辺	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐		外面ナデ、口唇部刺突。内面条痕、ナデ。
648	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい赤褐 橙		外面条痕。内面条痕。
649	20・21-2	東半 海側	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰褐 灰褐		外面ナデ、ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
650	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	灰黄 褐灰		外面ナデ、沈線文。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
651	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕(二枚貝)のちナデ。内面条痕(二枚貝)のちナデ。
652	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい橙	口径 (28.8)	外面条痕(二枚貝)。内面条痕(二枚貝)。
653	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	明赤褐 明赤褐		外面ナデ。内面ナデ。
654	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	良	にぶい赤褐 褐		外面条痕のちナデ。内面ナデ。
655	20・21-2	西半 土手1	縄文～縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい赤褐 にぶい赤褐	口径 (14.8)	外面条痕。内面条痕。
656	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 黄灰	口径 (25.0)	外面条痕(巻貝?)。内面ナデ。
657	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 黒		外面ナデ。内面ナデ。
658	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	浅黄 にぶい黄橙	口径 (27.0)	外面条痕、ナデ。内面ナデ。
659	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰黄 暗灰黄	口径 (28.8)	外面条痕、ナデ。内面条痕。
660	20・21-3		縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰 灰	口径 (35.8)	外面条痕(二枚貝?)。内面条痕(二枚貝?)。
661	20・21-3	西半	黒褐色土	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (31.8)	外面ナデ、縄文。内面条痕(二枚貝)、ナデ。
662	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢か	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、ミガキ。内面ナデ。
663	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ。内面ナデ。
664	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい橙 灰黄褐		外面ナデ。内面ナデ。
665	20・21-2	西半 山側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面ナデ。内面ナデ。
666	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	暗灰黄 暗灰黄		外面ナデ。内面ナデ。
667	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい赤褐 にぶい黄褐		外面ナデ。内面条痕、ナデ。
668	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	褐 褐		外面摩滅。内面指押さえ。
669	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (22.4)	外面ナデ。内面ナデ。
670	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 灰黄褐		外面ナデ。内面ナデ。
671	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄褐 にぶい橙	口径 (26.8)	外面ナデ。内面ナデ。
672	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	明褐 明褐		外面ナデ。内面ナデ。
673	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	灰褐 灰褐		外面ナデ。内面ナデ、指押さえ。
674	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 灰黄		外面条痕(巻貝)、ナデ。内面条痕、ナデ。
675	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐		外面摩滅。内面摩滅。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
676	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ、ミガキ。内面ナデ。
677	20・21-2	湿地層内	粘質シルト2	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	やや良	黒褐 黒褐		外面条痕。内面ナデ。
678	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ。内面ナデ。
679	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ。内面ナデ。穿孔。
680	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐 明赤褐		外面条痕、ナデ。内面条痕、ナデ。
681	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐 にぶい赤褐	口径 (19.0)	外面条痕(巻貝)。内面条痕(巻貝)。
682	20・21-2	西半 山側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面摩滅。内面摩滅。
683	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕(巻貝)のちナデ。内面条痕(巻貝)。
684	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい橙	口径 (24.8)	外面ナデ、ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
685	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい黄褐	口径 (27.6)	外面ナデ、ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
686	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 褐灰		外面ナデ。内面ナデ。
687	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐	口径 (27.8)	外面ナデ。内面ナデ。
688	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 角閃石	良	灰褐 褐	口径 (26.7)	外面条痕、ナデ。内面条痕。
689	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 褐灰	口径 (25.4)	外面ナデ。内面ナデ。
690	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐		外面ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
691	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい黄褐		外面条痕、口唇部刻み(巻貝)。内面ナデ。
692	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	褐 にぶい褐		外面ナデ、口唇部刻み。内面条痕(巻貝)。
693	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい橙		外面ナデ、口唇部刻み。内面ナデ。
694	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面条痕、ナデ、口唇部刻み。内面ナデ。
695	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	やや良	浅黄 にぶい黄橙		外面ナデ、ミガキ、口唇部刻み。内面ミガキ。
696	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐		外面ナデ。内面ナデ。
697	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい褐		外面条痕(二枚貝)のちナデ。内面条痕(二枚貝)。
698	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙		外面ナデ。内面ナデ。
699	20・21-2	湿地層内	粘質シルト2より下 腐葉土層	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰 灰		外面ナデ。内面ナデ。
700	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄 にぶい黄橙	口径 (22.0)	外面ナデ。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
701	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 角閃石	良	黄灰 にぶい黄橙		外面ナデ。内面ミガキ。
702	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 黄灰		外面ナデ。内面ナデ。
703	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐 にぶい褐	口径 (25.4)	外面ナデ。内面ナデ。
704	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 角閃石	やや良	にぶい黄橙 黒褐	口径 (36.4)	外面条痕、ナデ。内面ナデ。
705	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (36.0)	外面ナデ。内面ナデ。
706	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～ 2間	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 黒褐	口径 (31.2)	外面ナデ。内面炭付着。
707	20・21-2		縄文3	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙	口径 (33.0)	外面ナデ。内面ナデ。補修孔。
708	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐	口径 (26.0)	外面ミガキ。内面ミガキ。
709	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい黄橙		外面ミガキ。内面ミガキ。内面・口唇部・口縁 部外面に赤色顔料の痕跡。
710	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐 にぶい黄褐	口径 (26.2)	外面条痕、ナデ。内面ナデ、ミガキ。
711	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ。内面ミガキ。
712	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口(26.8) 高(6.4) 底(11.9)	外面ナデ、ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
713	20・21-3	東半	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	黒 黒		外面ミガキ。内面ミガキ。
714	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい黄褐		外面ミガキ。内面ナデ。
715	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	暗灰黄 暗灰黄		外面ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
716	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい褐	口径 (35.0)	外面ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
717	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～ 2上面まで	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	褐灰 灰黄褐	口径 (33.6)	外面ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
718	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	暗灰 暗灰		外面ミガキ。内面ナデ。穿孔(打ち欠き)。
719	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	灰褐 にぶい褐	口径 (46.8)	外面ミガキ。内面ナデ。
720	20・21-1	湿地層内	灰黒色粘質シル ト層	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	黄灰 灰黄	口径 (22.0)	外面条痕、ナデ。内面条痕、ナデ。
721	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (11.9)	外面ナデ。内面ナデ。
722	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 橙	口径 (7.6)	外面ナデ。内面ナデ。
723	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口(13.5) 高12.6 底(7.2)	外面条痕のちナデ、ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
724	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐	口径 (15.8)	外面細密条痕。内面条痕、ナデ。
725	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい橙	口(17.0) 高(12.3) 底(9.2)	外面ミガキ。内面ナデ。図版29右1

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
726	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	縄文土器鉢	砂粒含雲母	良	にぶい黄褐 暗灰黄		外面ナデ、ミガキ、穿孔。内面ナデ。
727	20・21-3	東半	縄文	縄文土器鉢	砂粒含雲母	良	にぶい橙 にぶい黄橙	口径 (12.4)	外面ナデ、ミガキ、穿孔。内面ナデ、ミガキ。
728	20・21-2	西半 海側	縄文～縄文3	縄文土器壺・把手	砂粒含	不良	暗灰黄 にぶい黄褐		外面ナデ、沈線文、穿孔。内面マンガン付着のため調整不明。
729	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器深鉢把手か	砂粒含	良	にぶい赤褐 橙		外面ナデ。内面ナデ。
730	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	縄文土器深鉢	砂粒含雲母	良	灰黄褐 にぶい橙		外面ナデ。内面条痕(二枚貝)のちナデ。尖底。
731	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	縄文土器深鉢	砂粒含雲母	良	にぶい橙 にぶい黄橙		外面条痕のちナデ。内面ナデ。
732	20・21-2	西半 山側	縄文3	縄文土器深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	底部径 12.0	外面ナデ、底部の縁に刻み。内面ナデ。
733	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器深鉢底部	砂粒含	良	にぶい赤褐 にぶい赤褐	底径 (10.0)	外面ナデ、指押さえ。内面ナデ。六角形底か。
734	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	縄文土器深鉢	砂粒含雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄		外面ナデ。内面条痕(二枚貝?)。多角形底。
735	20・21-3	西半 海側	遺構面およびその下層	縄文土器深鉢	砂粒含雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙		外面ナデ。内面条痕、ナデ。多角形底。
736	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器深鉢	砂粒含	良	褐灰 にぶい黄橙	底径 (13.8)	外面ナデ、底面に沈線文。内面ナデ。
737	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	底径 (13.2)	外面ナデ、細密条痕、底面に条痕(二枚貝)。内面ナデ、ミガキ。
738	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器浅鉢	砂粒含金雲母	良	灰黄褐 灰黄褐	底径 (7.4)	外面ナデ、沈線文。内面ミガキ。
739	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面まで	縄文土器浅鉢	砂粒含雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐	底径 (9.6)	外面ナデ、沈線文、縄文。内面ナデ。
740	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器深鉢	砂粒含雲母	良	にぶい黄褐 暗灰黄	底径 (10.7)	外面ミガキ、縄文(LR)、沈線文。内面ナデ。
741	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器深鉢	砂粒含金雲母	良	黒褐 黒褐	底径 (10.0)	外面ナデ、ミガキ、沈線文。内面ナデ。
742	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器深鉢	砂粒含雲母	良	にぶい橙 にぶい橙	底径 (12.0)	外面条痕、ナデ、沈線文。内面ナデ。
743	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器浅鉢	砂粒含	やや良	浅黄 灰黄		外面縄文、沈線文。内面ナデ。
744	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面まで	縄文土器鉢	砂粒含雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙	底径 (16.0)	外面ナデ?、縄文(RL?)、沈線文。内面ミガキ。
745	20・21-3	東半	縄文	縄文土器鉢	砂粒含雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	底径 (6.0)	外面ナデ、押さえ、沈線文。内面ナデ。
746	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄		外面ナデ、沈線文。内面条痕(二枚貝)、ナデ。
747	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器深鉢	砂粒含金雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄	底径 (11.2)	外面条痕(二枚貝)のちナデ。内面条痕(二枚貝)、ナデ。
748	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器深鉢	砂粒含	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	底径 (12.3)	外面ナデ。内面ナデ。
749	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器深鉢	砂粒含雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	底径 (12.9)	外面ミガキ。内面ミガキ。
750	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文～弥生	縄文土器深鉢	砂粒含雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	底径 12.7	外面ナデ。内面ナデ。穿孔。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
751	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい褐	底径 11.5	外面ナデ。内面摩滅。
752	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい橙	底径 (11.6)	外面ナデ、ミガキ。内面押さえ。
753	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	底径 (11.4)	外面条痕、ナデ。内面ナデ、押さえ。
754	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい黄橙	底径 9.4	外面ナデ。内面ミガキ。
755	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	底径 8.8	外面条痕、ナデ。内面ナデ。
756	20・21-1	海側～試掘TR間		縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	底径 10.0	外面条痕、ナデ。内面ナデ。
757	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	にぶい橙 にぶい褐	底径 12.4	外面摩滅。内面摩滅。
758	20・21-2	土手4	粘質シルト1～ 2間 腐葉土層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	黄灰 黄灰	底径 5.2	外面条痕、ナデ。内面細密条痕。
759	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい褐	底径 (10.8)	外面ナデ、ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
760	20・21-2	西半 土手1	縄文～縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 明褐	底径 8.0	外面ナデ。内面マンガン付着のため調整不明。
761	20・21-3	東半	縄文遺構面およ びその下層	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい黄橙	底径 (7.4)	外面ナデ。内面ナデ。
762	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 黄灰	底径 9.8	外面条痕、ナデ。内面ミガキ。
763	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	底径 7.2	外面ミガキ。内面ミガキ。
764	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	橙 灰黄褐	底径 9.0	外面条痕、ナデ。内面ナデ。
765	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙	底径 9.8	外面ナデ、ミガキ、押さえ。内面ナデ。
766	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 灰褐	底径 9.6	外面ナデ。内面ナデ。
767	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1	縄文土器 浅鉢	砂粒含 金雲母	良	暗灰黄 暗灰	底径 (12.6)	外面ナデ。内面ミガキ。
768	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい褐	底径 11.2	外面ナデ。内面摩滅。
769	20・21-2	湿地層内	粘質シルト2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	褐灰 褐灰	底径 (13.8)	外面条痕?のちナデ。内面ナデ、押さえ。
770	20・21-2	海側	縄文3	縄文土器 浅鉢	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄褐	底径 9.9	外面ミガキ。内面ミガキ。
771	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 灰黄褐	底径 (8.2)	外面ナデ、押さえ。内面ナデ。
772	20・21-3	西半 山側	弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	にぶい黄褐 灰黄褐	底径 9.5	外面ナデ。内面ナデ。
773	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	黄灰 黄灰	底径 (11.2)	外面条痕のちナデ。内面ナデ。
774	20・21-2	山側	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙	底径 10.9	外面ナデ。内面条痕、ナデ。
775	20・21-2	西半 山側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	やや良	暗灰黄 暗灰黄	底径 (12.4)	外面ナデ。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	調整(外面・内面)・備考
776	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい橙 にぶい黄褐	底径 11.35	外面ナデ。内面ナデ、押さえ。
777	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい黄橙	底径 10.2	外面条痕、ナデ、押さえ。内面ナデ。
778	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	やや良	にぶい褐 にぶい褐	底径 (9.0)	外面ナデ、押さえ。内面ナデ。
779	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 黄灰	底径 8.7	外面条痕(巻貝)、ナデ。内面条痕、ナデ。
780	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	暗赤褐 暗赤褐	底径 6.9	外面ナデ。内面ナデ。
781	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	黄灰 黄灰	底径 5.1	外面ミガキ。内面ナデ。
782	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	やや良	にぶい黄 にぶい黄橙	底径 (5.8)	外面ナデ。内面摩滅。
783	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 にぶい橙	底径 7.7	外面ナデ。内面ナデ。
784	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	明赤褐 にぶい褐	底径 7.9	外面ナデ、押さえ。内面ナデ。
785	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含 金雲母	良	褐 褐	底径 5.7	外面ナデ。内面ナデ、ミガキ。
786	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 明赤褐	底径 4.5	外面ミガキ、押さえ。内面ナデ、押さえ。
787	20・21-1	海側～試掘TR間		縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	やや良	にぶい橙 にぶい橙	底径 7.3	外面ナデ。内面ナデ。
788	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	縄文土器 深鉢	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい黄橙	底径 4.6	外面ナデ。内面ナデ。
789	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい橙	底径 4.7	外面ナデ、押さえ。内面ナデ。
790	20・21-3	西半 海側	縄文～弥生	縄文土器 皿形	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 明褐	口(6.2) 高1.4	外面ナデ。内面ナデ。
791	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縄文土器 皿形	砂粒含	良	黒褐 黄灰		外面ナデ。内面ナデ。
792	20・21-2	西半 海側	縄文	縄文土器 鉢か	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 黒褐	底径 10.6	外面条痕のちナデ。内面ミガキ。
793	20・21-2	湿地層内	粘質シルト2	縄文土器 浅鉢	砂粒含 雲母	良	黒褐 褐灰	底径 10.5	外面ミガキ。内面ミガキ。
794	20・21-2	西半 海側	縄文～縄文3	縄文土器 深鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 褐	底部 (12.2)	外面摩滅。内面磨滅。焼成後穿孔。白色物質付着。
795	20・21-2	西半 山側	縄文～弥生	縄文土器 多孔底土器	砂粒含	やや良	にぶい橙 浅黄	底径 (8.8)	外面ナデ。内面摩滅。
796	20・21-3	東半	縄文～弥生	縄文土器 多孔底土器	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい橙		外面ナデ。内面ナデ。
797	20・21-3	東半	縄文～弥生	土製品	砂粒含 金雲母	良	灰黄褐 にぶい黄橙	径 (12.4)	外面ナデ。内面ナデ。
798	20・21-3	海側 西半	弥生～古代	土製品	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐	径 (11.2)	外面ナデ。内面ナデ。
799	20・21-3	海側	縄文3	土製品	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐	径4.9 厚2.0	外面マンガン付着のため調整不明。
800	20・21-2	西半 海側	縄文	焼成粘土塊	砂粒含	良	にぶい褐	長6.6	外面押さえ。幅4.0、厚3.2
801	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	土製品	砂粒含 雲母	やや良	灰黄褐	径 (10.8)	外面ナデ。

弥生土器 (第107～116図 図版81～88)

出土した弥生土器の多くは弥生時代前期から中期初頭に属するものである。これらは、SK12出土の弥生土器細片以外は、遺物包含層から出土した。弥生時代の遺物包含層は基本的に1層であるが、一部取り上げの際に帰属する包含層が明確でないもの、また出土遺物に時期差がある包含層については、弥生～古代、縄文～弥生という表記で遺物観察表に掲載している。

遺物の分布は、旧浜堤の高位にあたる範囲、つまり1区中央部から3区にかけて、さらに2区の南側(海岸側)に中心がある。これらは礫群との分布に一致することから、弥生時代包含層の形成は高潮等の影響が関与しているとみられる。時期の中心をなす前期土器は、先に示した範囲に認められ、それ以外については、前回調査の17-1区に隣接する2区の東端に出土する傾向がある。

802～959は弥生土器および弥生時代土製品である。

802～863は壺。802～805は頸部から短く外湾して立ち上がる口縁部を有する壺で、端部は丸くおさめる。802以外は頸部に沈線を有し、804は沈線下に段を設けている。806、807は短く内傾または外傾して立ち上がる頸部から、口縁部は短く外湾する。頸部に複数条の沈線がある。806は口縁内面に貼付突帯を有し、紐通しの孔を穿っている。808は小型の壺口縁部。809、810は大きく開く口縁部で、頸部に薄い突帯を貼り付ける。811は頸部に4条の沈線を巡らし、ゆるく外反する口縁部で、端部は丸くおさめる。812は大きく開く口縁部で、端部は面を持ち沈線と刻み目による格子状の施文がある。頸部にはシャープな沈線が3条以上巡る。813は朝顔形に開く口縁部で、内面には3列の列点文が施される。頸部には多条沈線がめぐる。

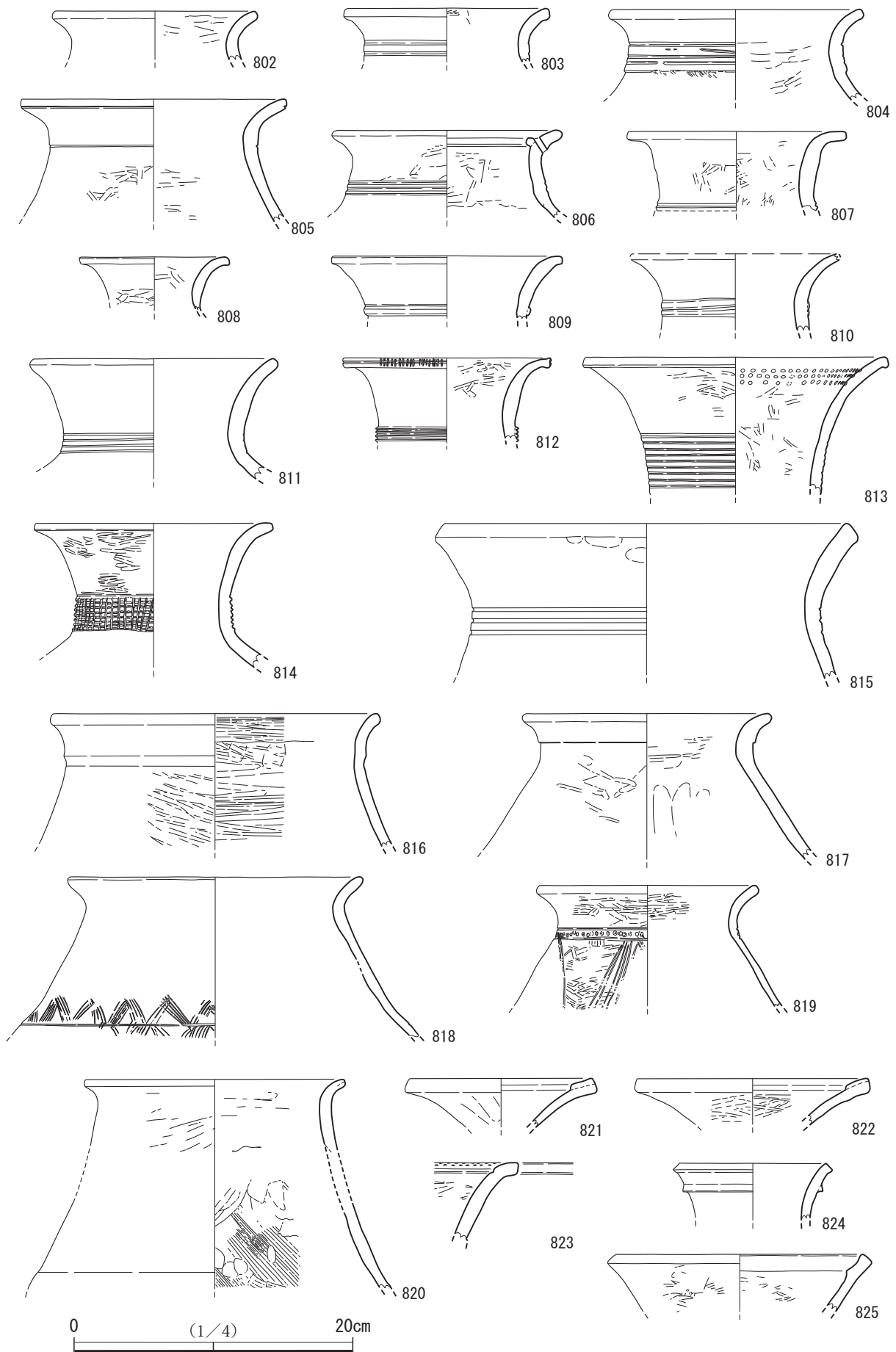
814は外反する口縁部で、頸部に沈線によって作りだした7条の突帯にタテに刻みを入れて格子状の施文をしている。815は大型で厚手の壺。頸部に3条沈線を有し、そこから口縁部は外傾する。816は内湾して立ち上がる頸部から、ゆるく外反する口縁部となり端部は丸くおさまる。屈曲部にあいまいな段を有する。817～820は内傾する頸部から口縁部は短く外反し、端部は丸くおさまる。817は頸部屈曲部には段を有し、818は肩部に沈線と鋸歯文を描く。819は頸部に描いた沈線間に刺突文を施し、その下に鋸歯文を描く。820は長い頸部を有し、肩部には段を設ける。

821～823は朝顔形に開く壺口縁部で、内面に肥厚帯を有する。このうち823の肥厚帯面には刺突文がある。824は外反する長頸壺の口縁で、端部は面を持ち外面に突帯を有する。825は外傾して立ち上がる口縁部で、内面に三角形の突帯を有する。

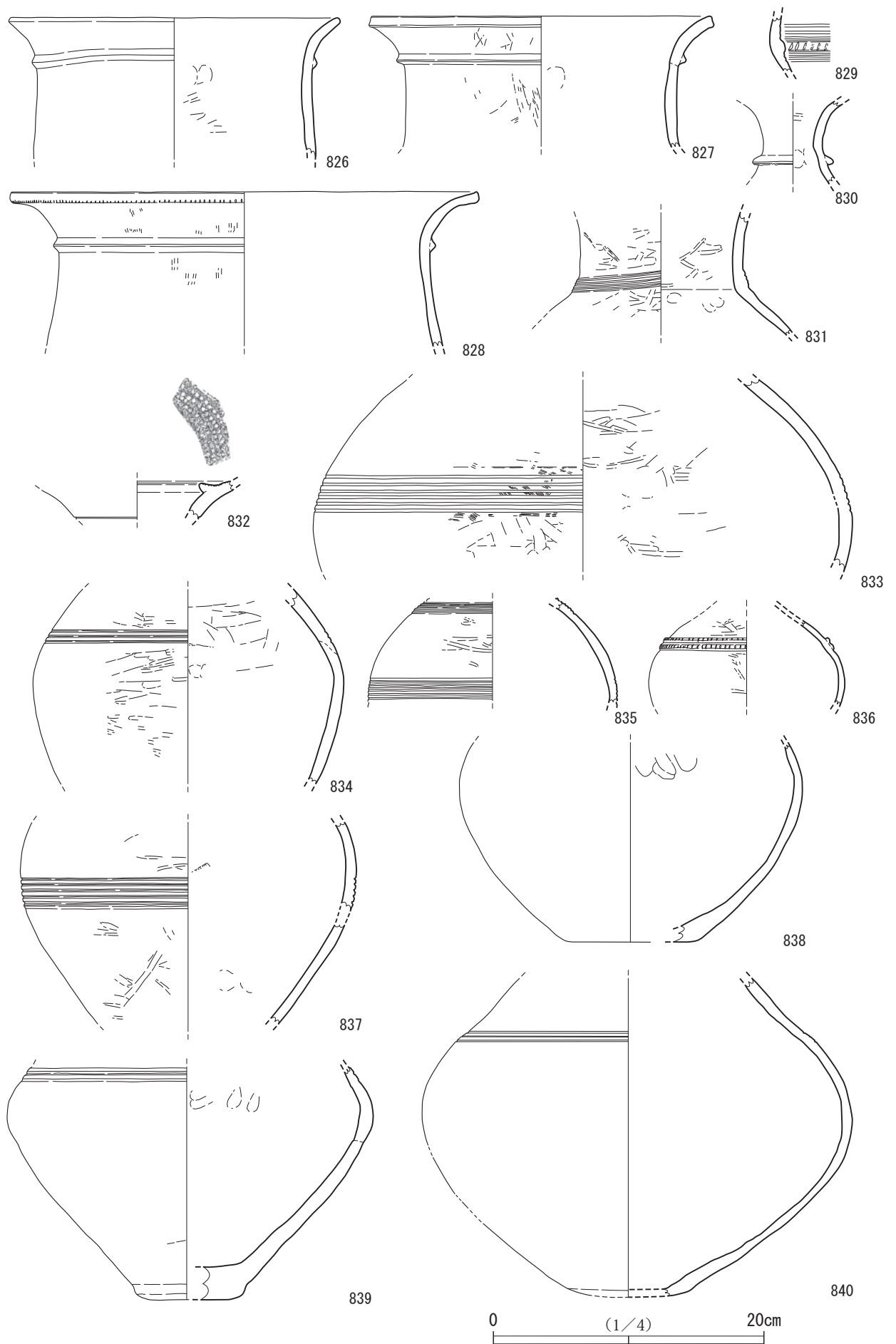
826～828は直立する頸部から口縁部は外反し、屈曲部に三角突帯を1条貼り付ける。このうち828は口縁端部に刻み目を施す。

829は頸部突帯片。突帯には刻み目があり、その上下にそれぞれ2条の沈線がある。830はくびれた頸部で、1条の突帯を貼り付ける。831は球形の胴部から立ち上がる頸部で、屈曲部の突帯には沈線が3条ある。832は外反する口縁部片で、外面に沈線、内面に蓋受けの突帯が巡る。

833～840は球形の胴部である。833は最大径が胴部中位にあり、沈線6条を施す。834、837は最大径が胴部上位にあり、上半に3条、下半に6条の沈線が巡る。835、836は小型の壺胴部で、835は上下2段の多条沈線を巡らす。836は肩部に刻み目のある突帯2条を貼り付ける。838は球形の胴部で平底である。839は最大径が上位にある胴部で、肩部には沈線を施文し、底部は厚手で丸み



第107图 弥生土器实测图(1)



第108图 弥生土器实测图(2)

がある。840は最大径が中位にある胴部で、肩部に3条沈線があり、底部は薄手の丸みのある平底である。

841～857は肩部に施文帯、または施文部分を有する壺である。肩部には、段を有するもの(842、844、845)、直線的に内傾して立ち上がるもの(841、853、856)、丸みのあるもの(843、846、849～852、854、855、857など)の形態に分けられる。

841はヨコの沈線にタテ区画の沈線、さらに重弧文を描く。842はヨコ沈線の上に山形文、下に重弧文を配する。843は上下の2条沈線間に重弧文を描く。844は4条沈線による山形文か。845は沈線間に刺突文を配し、その上に重弧文などを描く。846は貝殻施文による沈線、羽状文を描く。847、848はヘラ描きによる沈線と木葉文を施す。849は貝殻沈線で区画した中に同じく貝殻で施文した木葉文を描く。850、851は複数条の沈線で上下区画された中に斜格子文を描く。852は櫛状施文具による沈線、波状文を描き、その下に刺突文を配置する。

853は貝殻施文による羽状文、沈線による施文帯を有する。854は施文具を押圧することにより、3条の沈線と弧状線を上下組み合わせるレンズ状の文様を描いている。855は鋸歯文と沈線を組み合わせている。856は2条沈線の下に羽状文を描く。857は断面M字状の突帯を巡らし、その上に貝殻施文による沈線で区画された中に木葉文を描く。

858～863は壺底部である。858は厚手の平底で、外面に2～3条の沈線が巡る。859は球形の胴部にやや上げ底の底部である。860～863は平底の底部。

864は外傾する胴部から短く折れる口縁部である。865は丸みのある胴部から口縁部は短く折れ、端部に刻み目を有する。866は平底の底部から外傾して胴部が立ち上がり、口縁部は短く折れる小型の甕である。867は短く折れる口縁部である。

868、869は外反する口縁部で、それぞれ1条沈線、端部の刻み目を有する。870～875は外反する口縁部で、端部に刻み目、口縁下に1条沈線を有する。874は端部に刻み目に加えて沈線を施し、格子状の文様としている。

876～886は口縁下に2～3条沈線を有する甕である。このうち端部は、無文のもの(876、878、880)、刻み目を施すもの(877、879、881、882、886)、沈線と刻み目を施すもの(885)、ヨコ沈線にタテの刻み目を加え格子状としているもの(883、884)がある。883はこれに加えて胴部沈線下に山形文とみられる文様が認められる。885は沈線下に段をつくり出している。

887～895は、口縁下に5～11条の多条沈線を有する甕である。胴部径が口径より張る895以外は、889のように平底の底部で、胴部最大径が上位にあり、短く外反する口縁を持つ。これらの端部には、無文のもの(887、888)、刻み目を施すもの(889、891～895)、ヨコ沈線とタテに刻み目を加え格子状の文様としているもの(890)があり、さらに892、893は多条沈線下に刺突文を巡らしている。

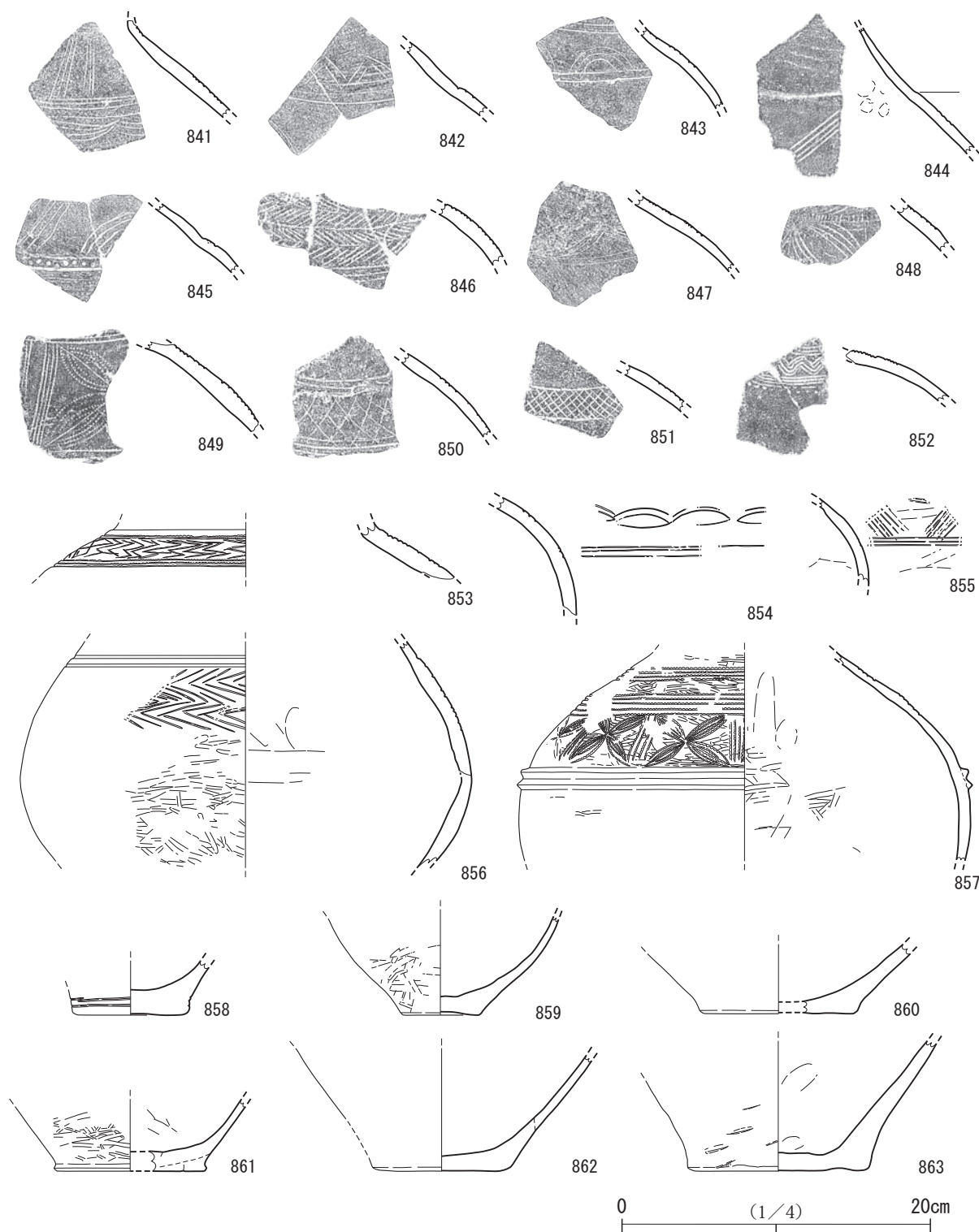
896～902は、口縁端部に刻み目と、口縁下に沈線のみでなく他の要素を加えて施文した甕である。896は5条沈線にタテの短い沈線を入れて格子文としている。類似した施文に899、902がある。また899は最下の沈線部分が段状となっている。898、900、901は沈線間に刺突文を入れるもので、その配置にバラエティがある。

903～908は口縁下や胴部中位に段を有する甕である。両方にあるもの(903、904、908)と口縁下のみにあるもの(905、906)があり、いずれも口縁端部に刻み目を有する。口縁下の段に施文する

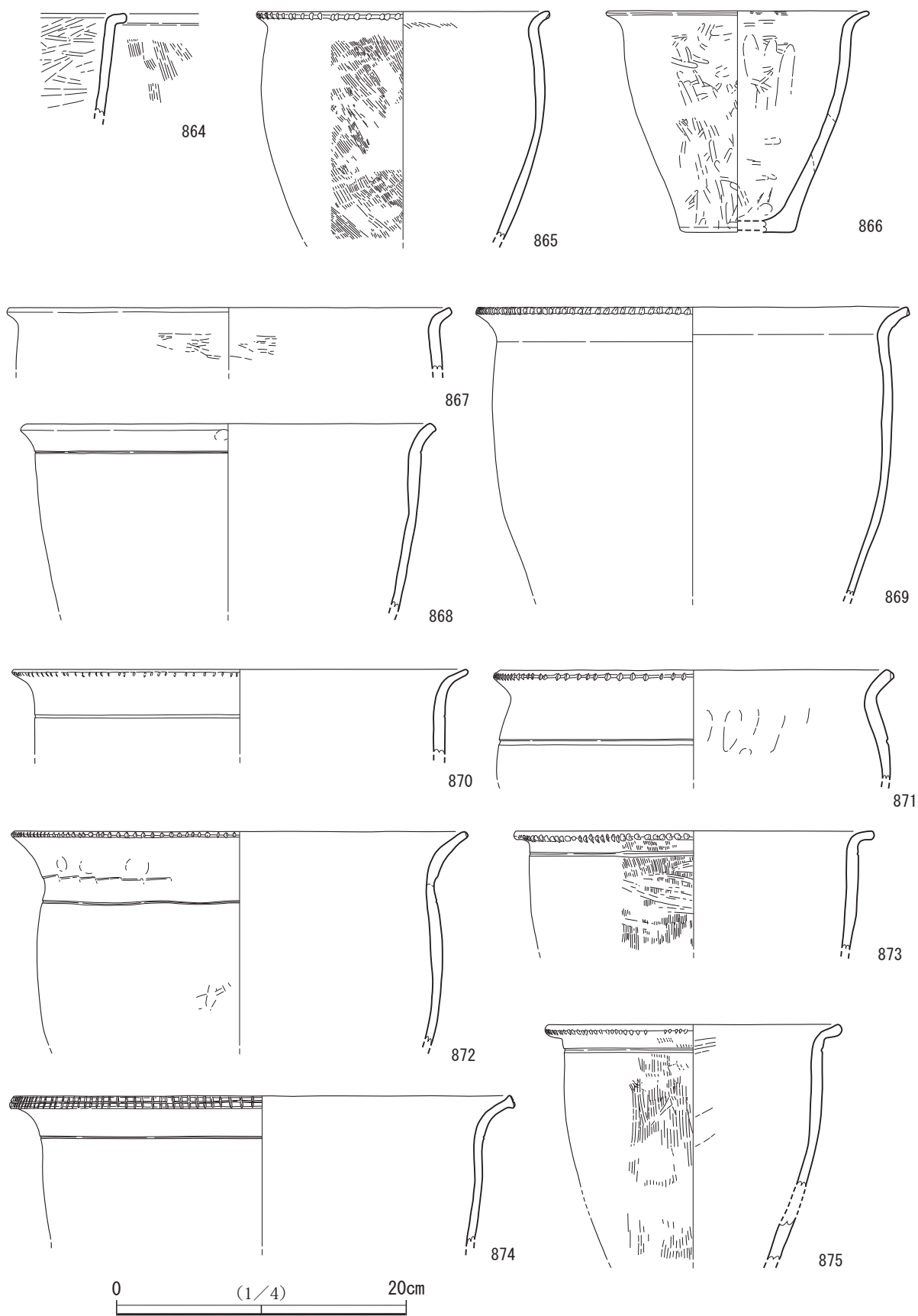
場合、903では低い突帯状としてそこに刻み目を施し、905では方形の刺突文を施文している。胴部の段には907、908のように刻み目を施す場合がある。

909は口縁下に2条の沈線を引き、その間に山形文を施文している。

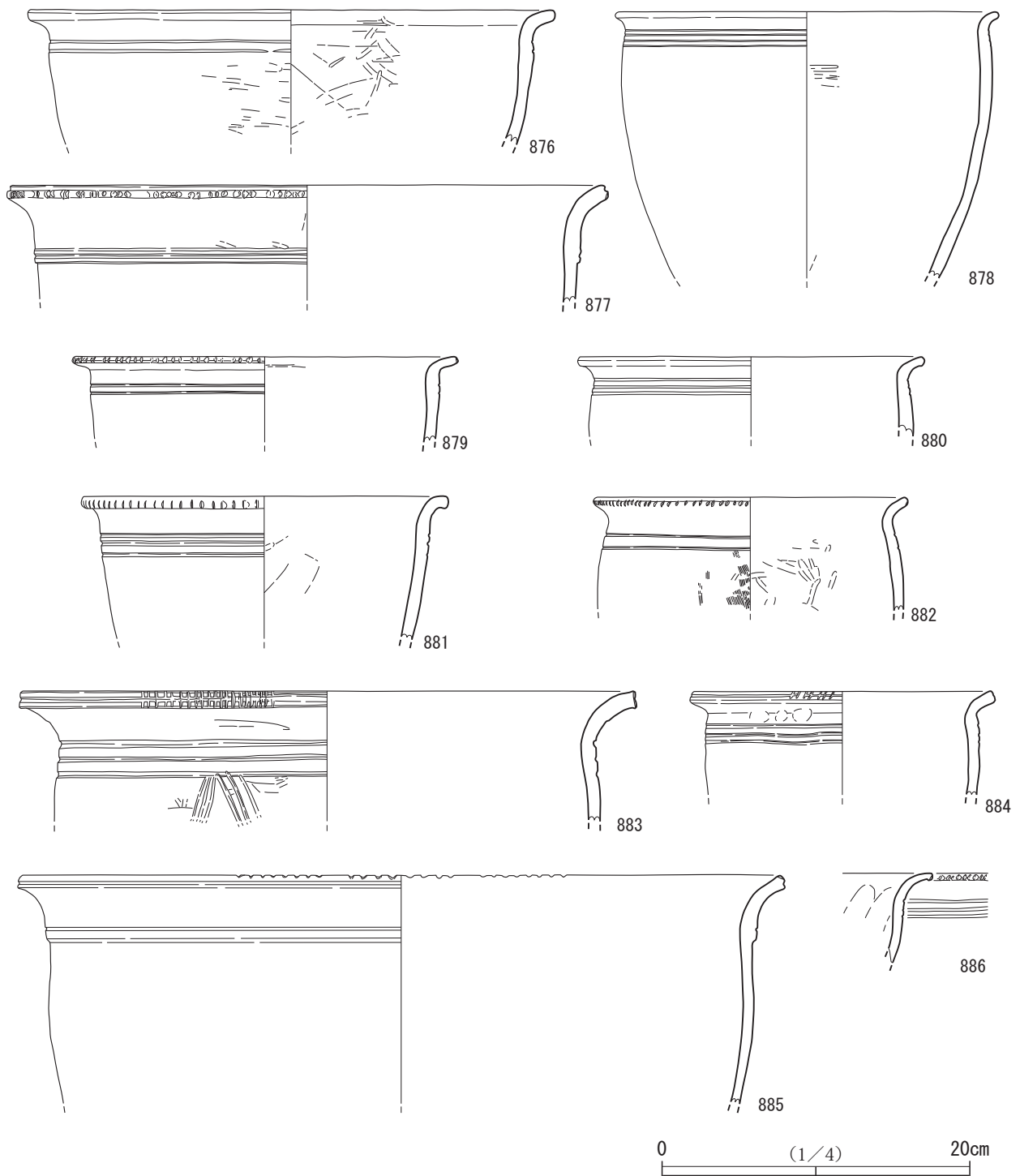
910～915は、内湾気味に立ち上がる胴部から、屈曲せずにそのまま口縁部となる甕で、特徴として口縁下に貼付突帯を有する。口縁端部は丸く納めるものと面を持つものがある。910は端部と突帯に刻み目をいれ、突帯下に10、11条の沈線を巡らす。914、915は2条の連鎖状突帯を口縁直下に



第109図 弥生土器実測図(3)



第110图 弥生土器实测图(4)



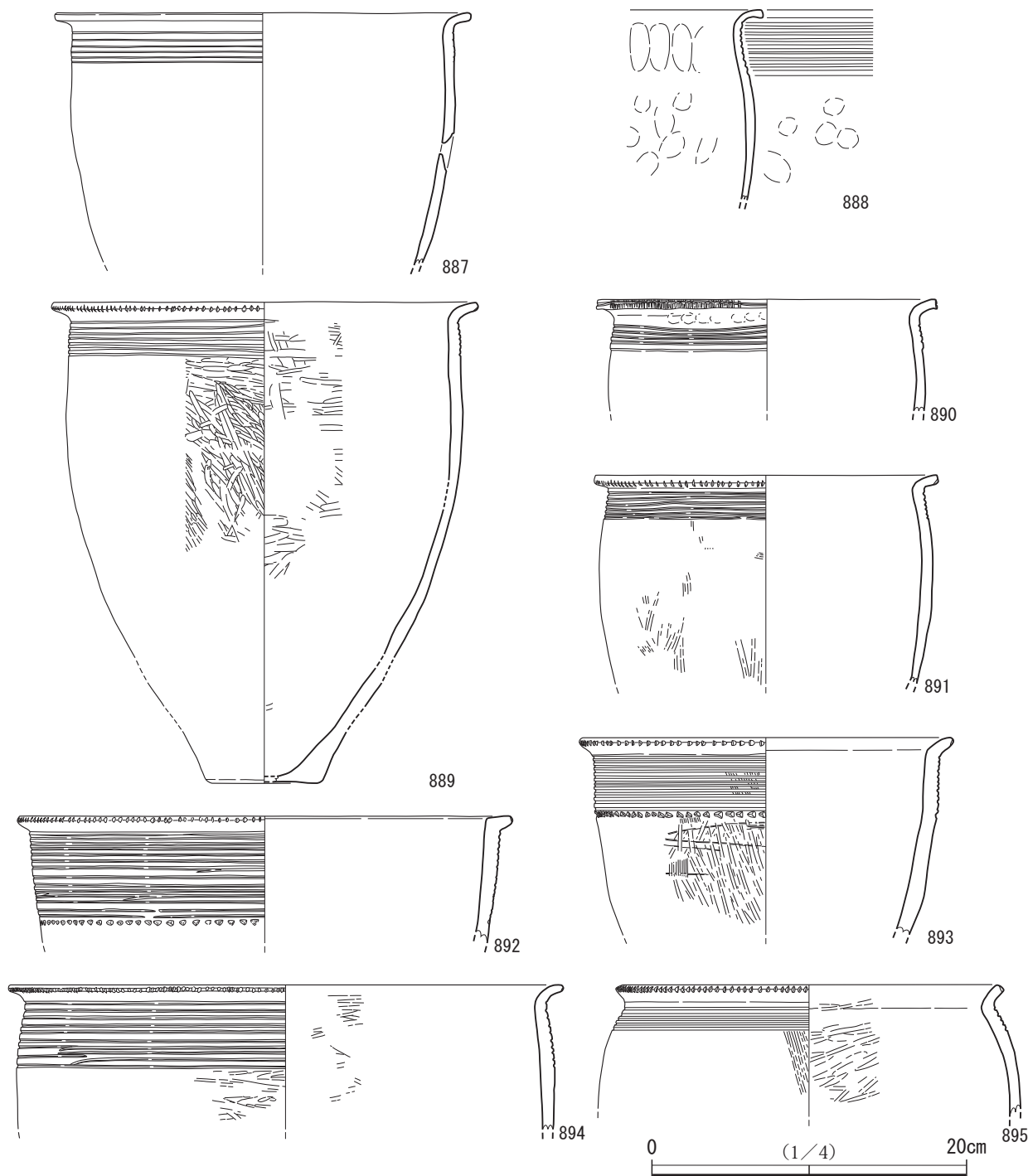
第111図 弥生土器実測図(5)

貼り付け、その下に多条の沈線を有する。911、912は端部と突帯に細かな刻み目を有する。これらに対して、913は端部、突帯とも無文である。

916は直立気味に立ち上がる胴部から、口縁は逆L字状に肥厚させる甕である。口縁下には低い突帯を貼り付け、刻み目を施す。

917は屈曲する厚手の甕口縁部で、口縁下に断面三角形の貼付突帯を持ち、端部、突帯に刻み目を施す。端部は細かな刻み目であるが、突帯のそれは不明瞭で間隔が広い。

918は同一個体とみられる甕の口縁部から胴、底部である。上げ底の底部から立ち上がる胴部は最



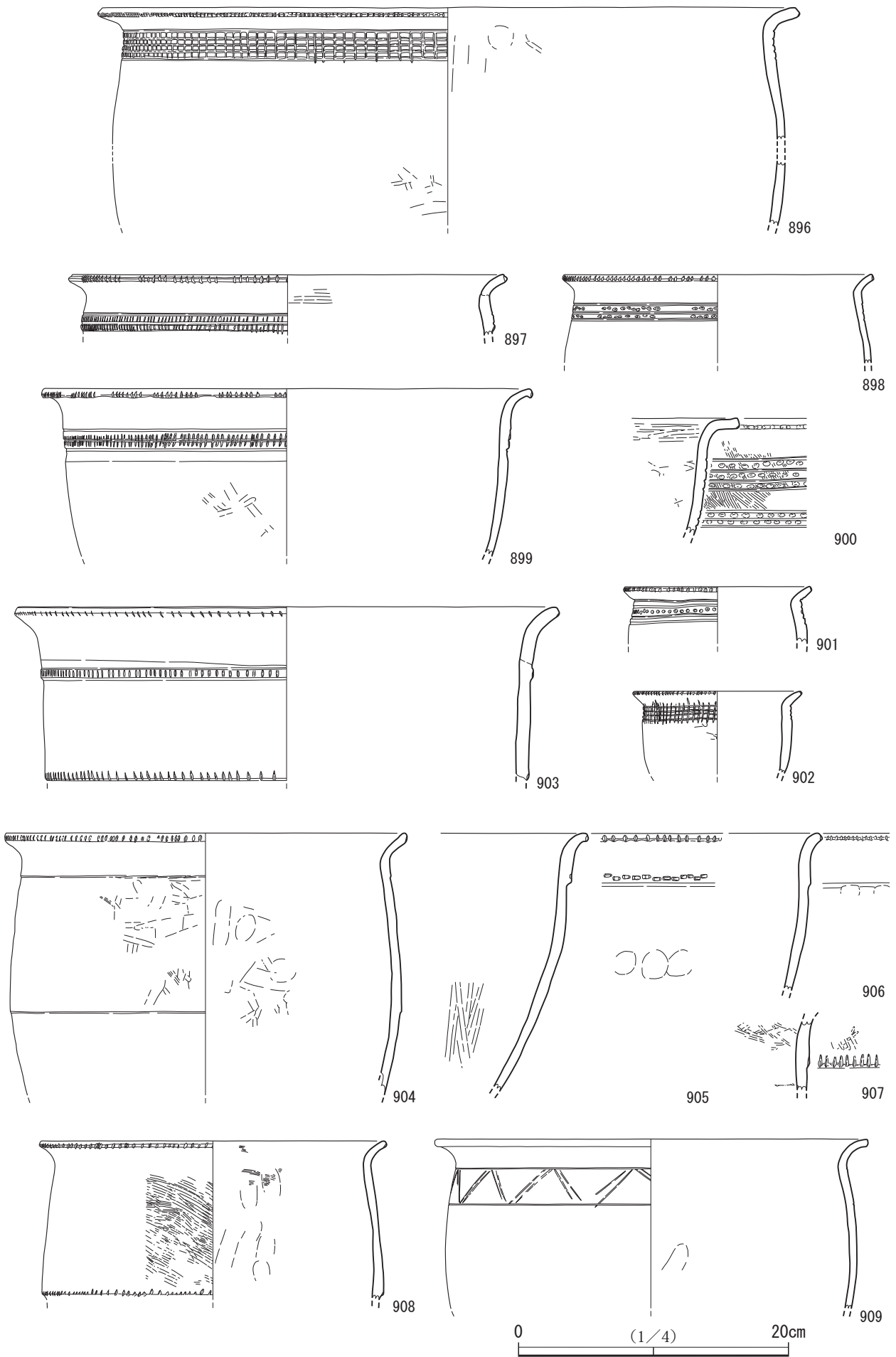
第112図 弥生土器実測図(6)

大径は上位にあり、口縁部は横方向に屈曲する中期の甕である。

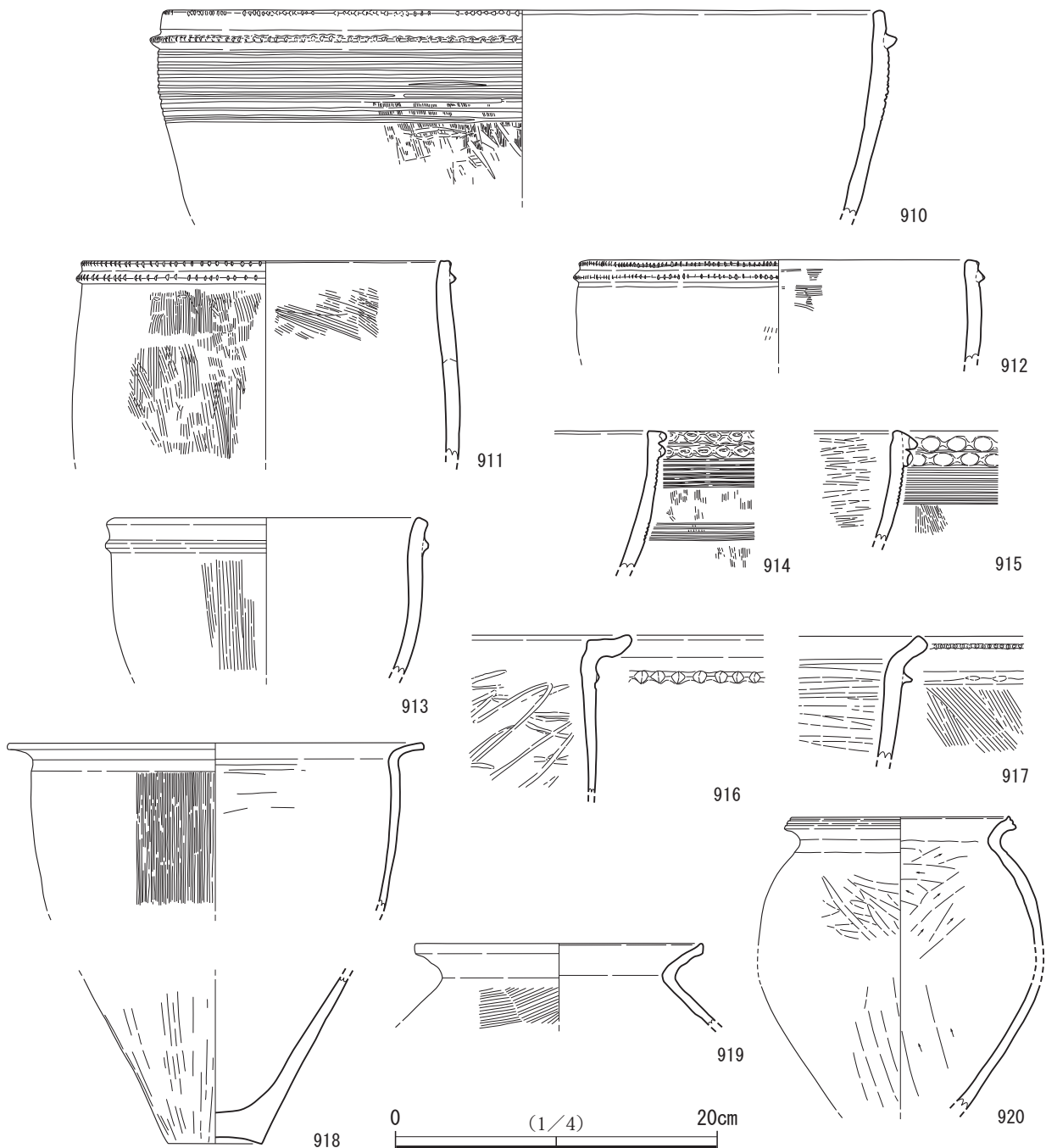
919はくの字状に屈曲する甕口縁部で、端部は面を持つ。胴部径は口径より大きいことから、壺の可能性もある。内面はケズリ調整を行う。

920は後期の東部瀬戸内系甕である。胴部径は上位にあり、頸部から短く屈曲した口縁部は、端部を上下に拡張して、2条の凹線が認められる。外面は上半がミガキ調整、下半が粗いミガキ調整。内面は全体的にケズリ調整を行う。

921～936は甕底部である。921～923は小型の甕底部である。921は平底、922は平底でやや丸



第113图 弥生土器实测图(7)

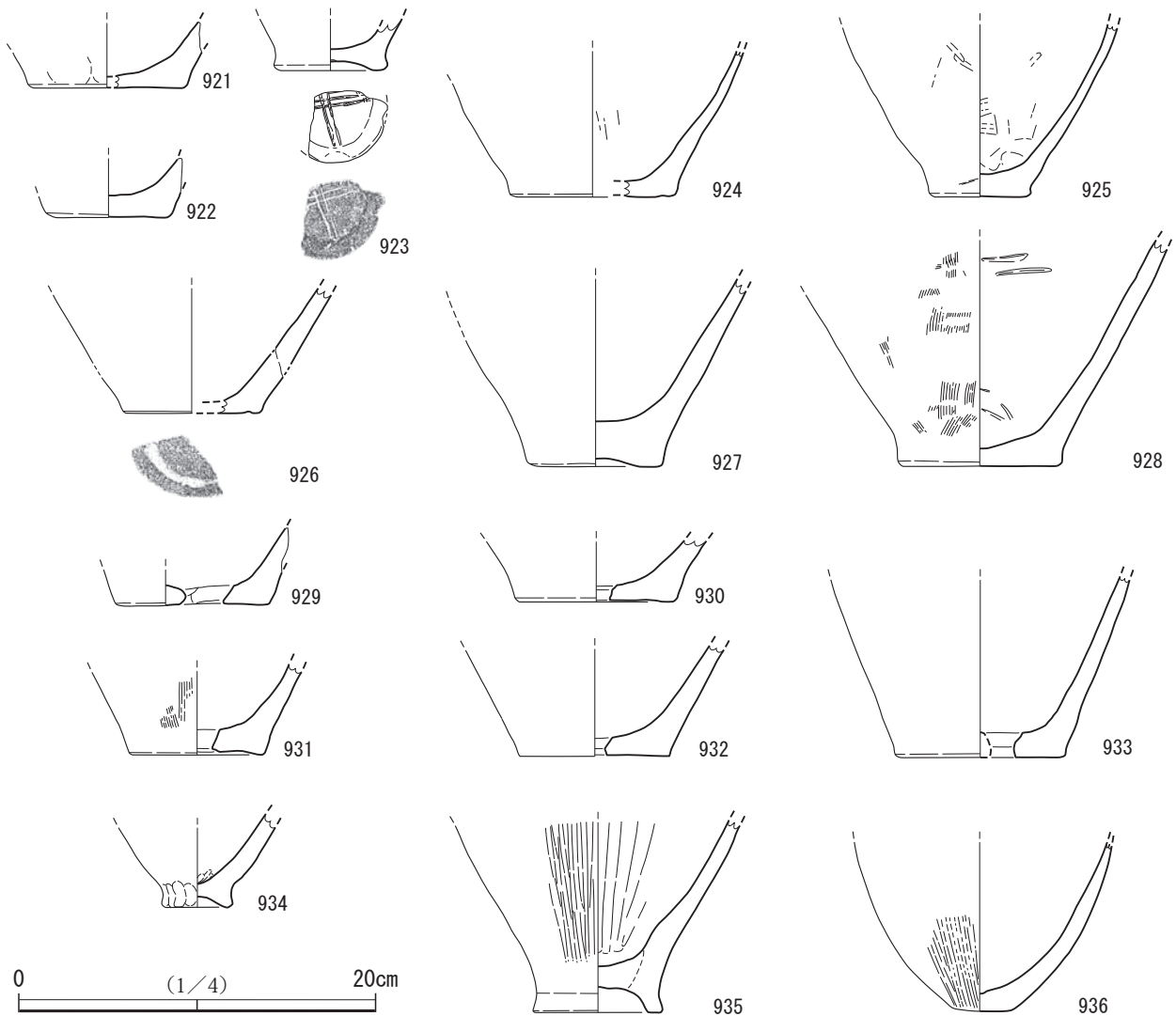


第114図 弥生土器実測図(8)

みを持つ。923は上げ底の底部で、底面にヘラ描き沈線2条を単位とした文様(「×」か)を線刻している。924~926、928は平底の底部。925は胴径に対して底径が小さい。926は底面に凹線による円が描かれている。927はやや上げ底の底部。

929~933は平底の底部で、いずれも底面に焼成後の径1~2cmの穿孔を施している。934は小型の底部で、上げ底である。外面に指押さえの痕跡が明瞭である。935はハの字に広がる上げ底の底部で、内外面ミガキ調整。936は丸底に近い径3cmの平底で、胴部は内湾して立ち上がる。後期と見られる甕である。

937、938は無頸壺である。937は胴部からわずかに内湾して立ち上がり、端部は丸くおさめる口



第115図 弥生土器実測図(9)

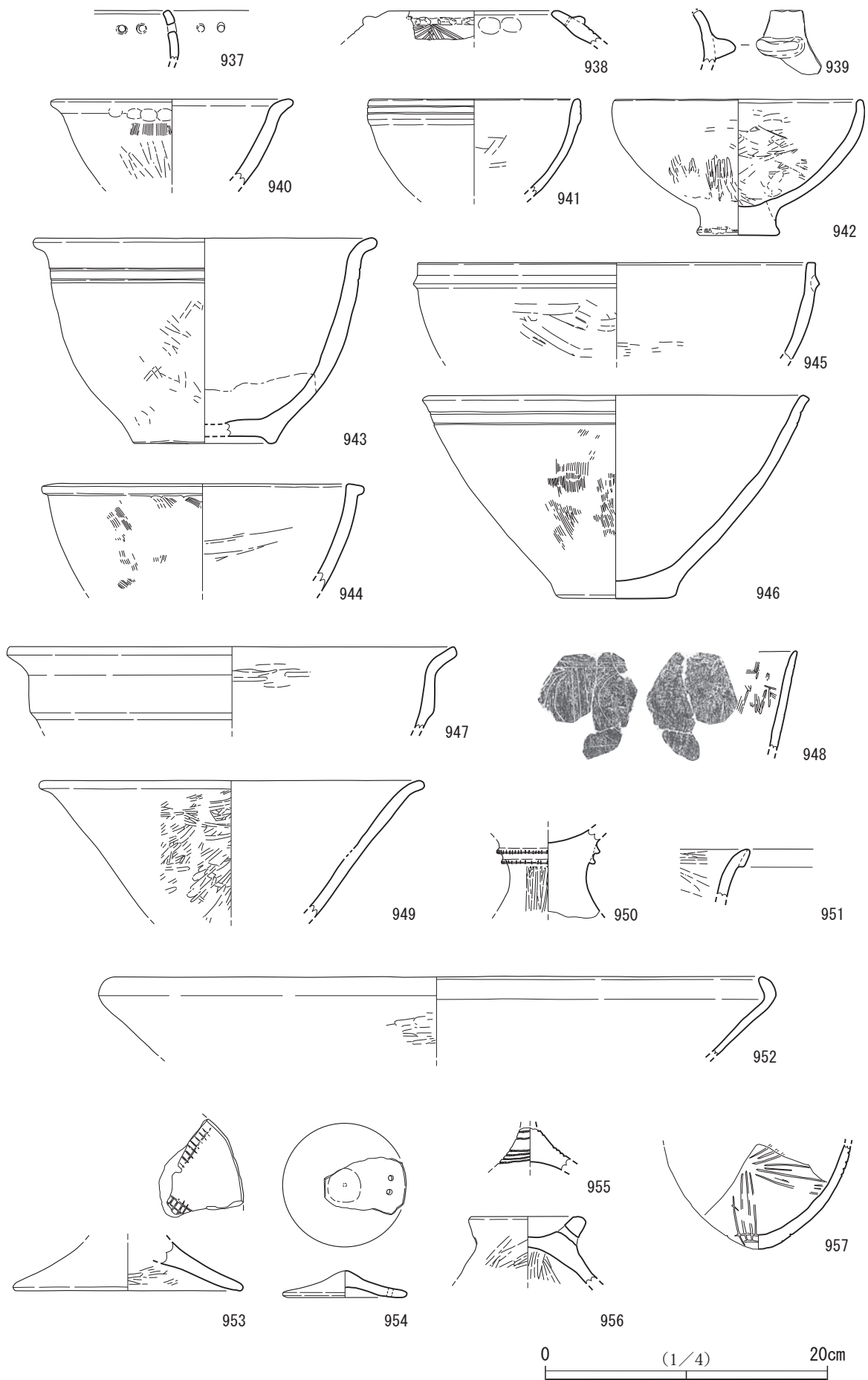
縁部で、紐通しの孔が2個穿ってある。938は張り出した胴部から大きく内湾して口縁部に至り、端部は丸くおさめる。口縁下に刻み目を有する突帯を貼り付け、その下にヘラ描きによる山形文を施している。

939は鉢とみられ、口縁は内湾して立ち上がる。外面に粘土塊を貼り付け、幅約4cmのつまみを成形している。

940～948は鉢である。940は外傾して立ち上がり、口縁部は外方へ短く折れる。941は内湾して立ち上がって口縁部に至り、端部は丸みを持つ。口縁外面を肥厚させ、そこに2条の沈線を施す。942は径6cmの柱状の高台が付き、その上に半球形の胴部がつく。口縁端部は丸くおさめ、内面にわずかに肥厚させる。

943は上げ底の底部から内湾気味に立ち上がり、口縁部は外方へ短く折れて、端部は丸める。口縁下に2条の沈線を巡らす。944は端部を外方へ肥厚させている。945は内湾して口縁に至り、端部は平坦面を持つ。口縁下に断面三角形の突帯を有する。946は丸みのある平底から外傾して立ち上がり、端部は平坦である。口縁下に2条の沈線を有する。

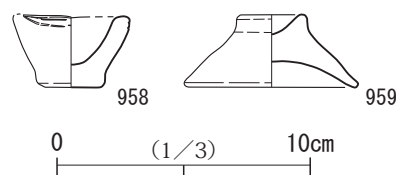
947は口縁部が屈曲し、胴部で段を有する。948は外傾して直線的に立ち上がり、口縁端部は尖り



第116图 弥生土器实测图(10)

気味におわる。外面に沈線による方形区画をつくり、その中に重弧文を描く。

949は外傾して立ち上がり、口縁部は短く折れ、端部は丸くおわる。高環の坏部とみられる。



950は台坏鉢の脚部である。円柱状をなす充填した脚柱部で、第117図 ミニチュア土器実測図 裾部は小さく開くとみられる。外面には2条の刻み目突帯を有する。なお坏部は949と同様な形状である可能性がある。前期末の東九州系の土器と見られる。

951は口縁部外面に粘土を貼り付けて肥厚させた甕である。

952は大きく開いて口縁部は内面に丸みを持って屈曲する高環の坏部である。

953～956は蓋である。953、954は器径に対して器高が低く裾が広がる蓋で、953は外面に中央から放射状に格子状の線刻を施す。954は紐通しの孔が2個存在する。955は蓋のつまみ部分とみられる。外面に貝殻施文による沈線が5条確認できる。956は上げ底の底部を反転したような形状で、紐通しの孔が一对穿ってある。

957は破片資料であり正確な器形は明らかでないが、丸底の底部に胴部は卵形をした土製品で、外面には放射状にのびる木葉文状のへら描き文様が施されている。

958、959はミニチュア土器である。形状から958は鉢、959は蓋を模したものと考えられる。

第4表 弥生土器観察表

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種 器形	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	特徴・調整(外面・内面)・備考
802	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	弥生土器 壺	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい褐	口径 (14.8)	外面ナデ。内面ミガキ
803	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	弥生土器 壺	砂粒含	不良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (14.8)	頸部沈線2条。外面ヨコナデ。内面ナデ、ミガキ。
804	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器 壺	砂粒多含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (18.4)	頸部に沈線3～4条。その下に工具押さえによる段あり。外面ミガキ? 内面ミガキ。
805	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器 壺	砂粒含	良	にぶい黄橙 暗灰黄	口径 (19.1)	口縁端、頸部に沈線。外面ナデ、ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
806	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器 壺	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい黄橙	口径 (16.6)	口縁内面に貼付突帯、頸部沈線2条、穿孔あり。外面ミガキ。内面ナデのちミガキ。
807	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器 壺	砂粒含	良	にぶい黄褐 暗灰褐	口径 (15.8)	頸部に沈線2条。外面ミガキ、ナデ。内面ミガキ。
808	20・21-1	中央TR～東TR間 東半	弥生	弥生土器 壺	砂粒含 赤色粒	やや良	浅黄橙 浅黄橙	口径 (10.8)	外面ミガキ、ナデ。内面ミガキ
809	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器 壺	砂粒含	良	明赤褐 橙	口径 (16.6)	頸部に貼付突帯。外面ミガキ、ヨコナデ。内面ミガキ、ヨコナデ。
810	20・21-1	中央TR内南半	弥生	弥生土器 壺	砂粒含	不良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	—	頸部に突帯2条。外面ヨコナデ、ミガキか。内面ナデか。外面に煤付着。
811	20・21-1	中央TR内南半	弥生	弥生土器 壺	砂粒含	やや良	橙 橙	口径 (17.2)	頸部に沈線4条。外面ミガキか。内面摩滅。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器器 器形	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	特徴・調整(外面・内面)・備考
812	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	弥生土器壺	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい橙	口径 (15.0)	口縁端に沈線と刻み目による格子状施文、頸部に4条沈線のある突帯。外面ヨコナデ。内面ミガキ。
813	20・21-1	中央TR内	弥生	弥生土器壺	砂粒含	やや良	にぶい橙 にぶい橙	口径 (22.0)	口縁内面に3列の刺突文、頸部に沈線9条。外面ミガキ。内面ミガキ。
814	20・21-1	中央TR～東TR間 西半	弥生	弥生土器壺	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (17.2)	頸部に格子目文。外面ミガキ、ナデ。内面ナデ。
815	20・21-2	西半 山側 土手2	弥生	弥生土器壺	砂粒多含	良	明褐 明褐	口径 (30.4)	頸部に沈線3条。外面ミガキ、ヨコナデ。内面摩滅による調整不明。
816	20・21-3	西半	弥生	弥生土器壺	砂粒含	良	明赤褐 明赤褐	口径 (23.8)	口縁下に不明瞭な段あり。外面ヨコナデ、ミガキ。内面ミガキ、一部指押さえ痕。
817	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	弥生土器壺	砂粒含 金雲母	良	にぶい橙 橙	口径 (17.9)	頸部に段あり。外面ミガキ。内面ミガキ、押さえ痕あり。
818	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器壺	砂粒含 雲母	やや良	浅黄橙 浅黄	口径 (21.3)	胴部にヘラ描きによる沈線と鋸歯文。外面ミガキ。内面調整不明。
819	20・21-1	中央TR付近	弥生	弥生土器壺	砂粒含	やや良	浅黄橙 浅黄橙	口径 (16.0)	2条沈線間に刺突文を施し、その下にヘラ描き鋸歯文。外面ミガキ、一部に粗いハケ。内面ミガキ。
820	20・21-2		弥生	弥生土器壺	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (17.7)	肩部に段あり。外面ナデ、内面ハケ→ナデ、図版29左1
821	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器壺	砂粒含	良	にぶい黄褐 にぶい黄褐	口径 (13.8)	口縁肥厚帯あり。外面ミガキ。内面ミガキ、ヨコナデ。
822	20・21-2	西半	表面採集	弥生土器壺	砂粒含	良	にぶい黄橙 灰黄褐	口径 (17.0)	口縁内肥厚帯あり。外面ミガキ。内面ミガキ。
823	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	弥生土器壺	砂粒含	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	—	口縁内面に段による施文帯をつくり、刺突文を2列施す。頸部に沈線。外面ナデ。内面ミガキ、ナデ。
824	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器壺	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 灰黄褐	口径 (11.4)	口縁下に貼付突帯。外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。
825	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	弥生土器壺	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい橙	口径 (19.0)	内面に突帯。外面ミガキ。内面ミガキ。
826	20・21-1	中央TR～東TR間 東半	弥生	弥生土器壺	砂粒含 角閃石	やや良	浅黄橙 にぶい黄橙	口径 (24.6)	貼付突帯1条。外面摩滅。内面ナデ、押さえ 図版28左2
827	20・21-1	試掘TR～中央TR間 西半	弥生	弥生土器壺	砂粒含 雲母	やや良	橙 にぶい黄橙	口径 (25.6)	頸部に貼付突帯。外面ナデ、ミガキ。内面ナデか。
828	20・21-1	中央TR～東TR間 東半	弥生	弥生土器壺	砂粒含	やや良	浅黄橙 浅黄橙	口径 (34.4)	口縁端に刻み目、頸部に貼付突帯。外面タテハケ。内面摩滅。
829	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器壺	砂粒含	不良	にぶい黄橙 浅黄橙	—	頸部に刻み目を有する突帯と、その上下に沈線2条。摩滅により調整不明。
830	20・21-3	東半	縄文～弥生	弥生土器壺	砂粒含	不良	浅黄橙 黄灰	—	頸部に貼付突帯。外面ナデか。内面ミガキ、ナデ、押さえ。
831	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	弥生土器壺	砂粒含	やや良	橙 にぶい黄橙	—	頸部に沈線3条を有する突帯。外面ミガキ。内面ミガキ、押さえ、ナデ。
832	20・21-2	西半土手2より北側	縄文～弥生	弥生土器壺	砂粒含	不良	にぶい橙 にぶい黄橙	—	管状施文具による列点文施文の内面突帯を有する。外面不明。内面ナデか。
833	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	弥生土器壺	砂粒含	良	橙 にぶい黄橙	—	胴部に沈線6条。外面ミガキ、ハケ。内面ミガキ。
834	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器壺	砂粒含	良	黄灰 にぶい橙	—	肩部に沈線3条。外面ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
835	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器壺	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	—	頸部、胴部に沈線7条以上を施す。外面ミガキ。内面ナデ。
836	20・21-1	中央TR内南半	弥生	弥生土器壺	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 にぶい橙	—	肩部に刻み目を施す断面M字状の突帯。外面ミガキ。内面押さえ、ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器 種 形	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	特徴・調整(外面・内面)・備考
837	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器 壺	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい黄橙	胴部径 (25.0)	胴部沈線5条。外面ミガキ。内面ナデ(一部工具によるナデ痕あり)。
838	20・21-3	西半	縄文～弥生	弥生土器 壺	砂粒含	良	褐 黒褐	底径 (9.6)	外面ミガキ。内面押さえ痕、ミガキ。外面に黒斑。
839	20・21-3	東半	弥生～古代	弥生土器 壺	砂粒含 赤色粒	やや良	にぶい黄 浅黄	底径 (7.8)	肩部に沈線3条。外面ミガキ。内面ナデ、押さえ痕。
840	20・21-2	西半 山側 土手 2	縄文～弥生	弥生土器 壺	砂粒含	良	にぶい赤褐 にぶい橙	底径 9.1	肩部に沈線3条。外面ミガキか。内面摩滅。黒斑あり。図版29左3
841	20・21-3	東半	表面採集	弥生土器 壺	砂粒含	良	明赤褐 明赤褐	—	ヘラ描きによる沈線、重弧文。外面ミガキ。内面摩滅。
842	20・21-2		弥生	弥生土器 壺	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	—	肩部に沈線、山形文、重弧文。外面ミガキ。内面指押さえ。
843	20・21-2	西半 土手1	弥生	弥生土器 壺	砂粒含 金雲母	良	灰褐 灰褐	—	沈線2条+重弧文+沈線2条。外面ミガキ。内面ミガキ。
844	20・21-3	中央TR土手	縄文1	弥生土器 壺	砂粒含 雲母	良	黒褐 橙	—	肩部に沈線4条による山形文か。外面ナデ、ミガキか。内面ナデ、押さえ。
845	20・21-2	西半 土手1～2 間	弥生	弥生土器 壺	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	—	肩部にヘラ描き重弧文・山形文(?)、沈線間に刺突文。外面ミガキ。内面ミガキ。
846	20・21-1	試掘TR～中央TR 間	弥生	弥生土器 壺	砂粒含	良	灰黄褐 明赤褐	—	貝殻による沈線、有軸羽状文。内面ミガキ。
847	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	弥生土器 壺	砂粒含	良	褐灰 にぶい褐	—	肩部に沈線、木葉文。外面ミガキ。内面ミガキ。
848	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器 壺	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	—	ヘラ描き木葉文と沈線。外面ミガキ。内面ヨコナデ。
849	20・21-1	海側～試掘TR間	遺構検出	弥生土器 壺	砂粒含	良	明赤褐 にぶい黄橙	—	貝殻による木葉文、沈線。外面ミガキ。内面不明。
850	20・21-1	試掘TR～中央TR 間	弥生	弥生土器 壺	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい褐	—	上下の沈線3条間に斜格子文。外面ミガキ。内面ナデ、指押さえ痕。
851	20・21-2	西半 山側	弥生	弥生土器 壺	砂粒含	良	明赤褐 明赤褐	—	肩部に沈線2条と斜格子文。外面ミガキ。内面ミガキ。
852	20・21-3	海側	弥生～古代	弥生土器 壺	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	—	肩部に櫛描きによる沈線文、波状文、刺突文。外面ミガキ。内面ナデ。
853	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器 壺	砂粒含	やや良	浅黄橙 浅黄	—	肩部に貝殻施文による沈線、羽状文。外面調整不明。内面ナデ。
854	20・21-1	中央TR～東TR 間 東半	弥生	弥生土器 壺	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄橙	—	工具押圧による沈線3条と、弧状線によるレゾ状文様。外面ミガキ。内面マメツ。
855	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器 壺	砂粒含 雲母	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	—	肩部に沈線3条とヘラ描き文鋸歯文。外面ミガキ。内面ナデ。
856	20・21-2	西半	縄文～弥生	弥生土器 壺	砂粒含 雲母、橙色粒	良	にぶい褐 橙	—	肩部に沈線2条、羽状文。外面ミガキ。内面ナデ。
857	20・21-1	試掘TR～中央TR 間	弥生	弥生土器 壺	砂粒含 雲母	良	明赤褐 明赤褐	—	肩部に貝殻沈線と木葉文。胴部に断面M字状の貼付突帯。外面ミガキ。内面ミガキ、ナデ。煤付着。
858	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器 壺	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙	底径 7.6	底部外面に沈線2～3条。外面ナデ。内面ナデ。
859	20・21-1	中央TR～東TR 間東半	弥生	弥生土器 壺	砂粒含	やや良	にぶい黄橙 浅黄	底径 4.9	外面ミガキ、黒斑あり。内面不明。わずかに上げ底。
860	20・21-1	試掘TR～中央TR 間	弥生	弥生土器 壺	砂粒含	やや良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	底径 10.3	外面ナデか。内面ミガキ。
861	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器 壺	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい黄橙	底径 (9.9)	外面ミガキ。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器器種形	胎土	焼成	色調(外/内)	法量	特徴・調整(外面・内面)・備考
862	20・21-1	中央TR内	弥生	弥生土器壺	砂粒含	不良	にぶい橙橙	底径9.0	摩滅による調整不明。内面に被熱痕。
863	20・21-2	西半海側	縄文～弥生	弥生土器壺	砂粒含	良	にぶい黄橙にぶい黄橙	底径11.8	外面ハケのちミガキか。内面摩滅、一部ナデ。
864	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	弥生土器甗	砂粒含金雲母少	良	にぶい黄褐にぶい黄褐	—	外面タテハケ目のちナデ。内面ミガキ。
865	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器甗	砂粒含雲母	良	にぶい褐にぶい黄褐	口径(20.4)	口縁端に刻み目。外面ヨコナデ、ナナメハケ。内面ナデ。
866	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器甗	砂粒含雲母	良	灰黄褐にぶい黄橙	口(18.2)器(15.4)底(8.0)	外面ミガキ、ヨコナデ。内面ミガキ、一部ナデ。外面に煤付着。
867	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器甗	砂粒含	やや良	にぶい黄橙にぶい黄橙	口径(30.8)	外面ヨコナデ、ミガキ。内面ヨコナデ、ミガキ。
868	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器甗	砂粒含雲母	良	にぶい橙にぶい橙	口径(28.8)	口縁下に沈線1条。外面ミガキか。内面ナデ。
869	20・21-2	西半土手1～2間	弥生	弥生土器甗	砂粒含	良	にぶい褐にぶい褐	口径(30.0)	口縁端に刻み目。外面ミガキか、一部に煤付着。内面摩滅。
870	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器甗	砂粒含	不良	にぶい黄橙にぶい黄橙	口径(31.6)	口縁刻み目、胴部に沈線1条。摩滅により調整不明。
871	20・21-2	西半海側	縄文～弥生	弥生土器甗	砂粒含雲母	良	にぶい黄にぶい黄	口径(27.7)	口縁端に刻み目、胴部に1条沈線。外面ナデ。内面ナデ。
872	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器甗	砂粒含	やや良	にぶい橙にぶい黄橙	口径(31.7)	口縁端に刻み目、胴部に沈線1条。外面工具による押さえ痕あり、ミガキ。内面不明。外面に被熱痕。
873	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器甗	砂粒多含	良	にぶい橙にぶい褐	口径(25.0)	口縁端に刻み目、胴部に沈線1条。外面ハケのちナデ(ハケ状工具か)。内面ミガキ。
874	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器甗	砂粒含	やや良	にぶい橙橙	口径(34.3)	口縁端に刻み目と沈線による格子状の施文、胴部に沈線1条。外面ヨコナデ。内面不明。外面煤付着。
875	20・21-3	海側	弥生～古代	弥生土器甗	砂粒多含	良	にぶい黄橙灰黄褐	口径(20.6)	口縁端に刻み目、胴部に沈線1条。外面ハケ、ナデ。内面ミガキか。
876	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器甗	砂粒含	良	にぶい橙浅黄橙	口径(34.2)	胴部に沈線2条。外面ヨコナデ、ミガキ。内面ミガキ。
877	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器甗	砂粒含	良	にぶい黄暗灰黄	口径(38.4)	口縁端に刻み目、沈線、胴部に不明瞭な段の文様帯に沈線。外面ナデ、ミガキ。内面ナデ。
878	20・21-1	中央TR内	弥生	弥生土器甗	砂粒含	不良	橙にぶい橙	口径(25.0)	胴部に沈線4条。外面調整不明。内面ナデ、一部ミガキ。
879	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器甗	砂粒含	やや良	にぶい褐橙	口径(25.2)	口縁端に刻み目、胴部に沈線2条。外面ナデ、ミガキ。内面ナデ。
880	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器甗	砂粒含	やや良	にぶい黄橙にぶい橙	口径(22.6)	胴部に沈線3条。外面ナデ。内面ナデ。
881	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器甗	砂粒含	やや良	にぶい黄浅黄	口径(23.9)	口縁端に刻み目、胴部に沈線3条。外面ナデ、ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
882	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器甗	砂粒含雲母	良	にぶい黄橙にぶい黄橙	口径20.5	口縁端に刻み目、胴部に沈線2条。外面ナデ、ハケ。内面ナデ、ミガキ。
883	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器甗	砂粒含	良	にぶい黄橙にぶい黄橙	口径(40.0)	口縁端に刻み目と沈線による格子状施文、胴部に沈線3条と鋸歯文か。外面ナデ、ミガキ。内面ナデ。
884	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器甗	砂粒含	やや良	灰黄褐にぶい橙	口径(9.95)	口縁端に刻み目と沈線による格子状施文、胴部に沈線3条。外面ヨコナデ、ミガキか。内面ヨコナデ。
885	20・21-2	西半山側土手1～2間	弥生	弥生土器甗	砂粒含	良	にぶい褐明赤褐	口径(50.0)	口縁端に刻み目、凹線。胴部に沈線1条と段あり。外面ミガキ。外面煤付着。図版29左2
886	20・21-1	試掘TR周辺	弥生	弥生土器甗	砂粒含	良	にぶい黄橙にぶい黄橙	—	口縁端に刻み目、胴部に沈線3条。外面ヨコナデ。内面押さえのちヨコナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種 器形	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	特徴・調整(外面・内面)・備考
887	20・21-1	中央TR内	弥生	弥生土器 甕	砂粒多含	不良	橙 浅黄橙	口径 (26.6)	胴部に6条沈線、焼成後穿孔あり。内外面調整不明。外面に被熱の痕跡。
888	20・21-3	西半	S P 2 0 7	弥生土器 甕	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい黄橙	—	胴部に沈線9条。外面ミガキ、指押さえ痕あり。内面ミガキ、指ナデ痕あり。外面に煤付着。
889	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	橙 橙	口(27.3) 器30.7 底7.5	口縁端に刻み目、胴部に沈線7条。外面ミガキ、ナデ。内面ミガキ、一部押さえ、ナデ。
890	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器 甕	砂粒含 雲母	良	灰黄褐 にぶい橙	口径 (21.8)	口縁端に刻み目と沈線、胴部に沈線4条。外面ヨコナデ、ミガキ。内面ミガキか。外面に被熱痕跡
891	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器 甕	砂粒多含	良	灰黄褐 にぶい褐	口径 (22.0)	口縁端に刻み目、胴部沈線6条。外面ハケのちナデ、内面ミガキ。
892	20・21-3	東半	弥生～古代	弥生土器 甕	砂粒多含 雲母	良	にぶい黄褐 にぶい黄橙	口径 (31.6)	口縁端に刻み目、胴部に沈線14条、刻み目。外面ナデ。内面ナデ。
893	20・21-2	西半 土手1	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	明赤褐 にぶい赤褐	口径 (23.8)	口縁端に刻み目、胴部に11条沈線、刺突文。外面ハケ目のちミガキ。内面ミガキ。
894	20・21-2		縄文～弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	にぶい黄橙 橙	口径 (35.4)	口縁端に刻み目、胴部に沈線10条。外面ヨコナデ、ミガキ。一部ヨコハケ、内面ミガキ。
895	20・21-3	海側	弥生～古代	弥生土器 甕	砂粒含	良	褐灰 にぶい褐	口径 (24.8)	口縁端に刻み目、胴部に沈線5条。外面ハケ目のちナデ消し。内面ヨコミガキ。外面被熱の痕跡有り。
896	20・21-1	試掘TR土手(西半)	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	やや良	橙 橙	口径 (51.6)	口縁端に刻み目、胴部に格子文。外面ナデ、ミガキ。内面押さえ、ナデ、一部ミガキ。
897	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	弥生土器 甕	砂粒含 雲母	良	浅黄 浅黄	口径 (32.6)	口縁端に刻み目、胴部の沈線間に刻み目を2列。外面ナデ。内面ナデ、ハケ。
898	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器 甕	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐	口径 (23.2)	口縁端に刻み目、胴部の沈線間に刺突文を2列。外面ナデ。内面ナデ。
899	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (36.2)	口縁端に刻み目、胴部の沈線間に格子状施文。外面ミガキのちナデ。内面ナデか。
900	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐	—	口縁端に刻み目、胴部に沈線・刺突文を4列施文。外面ハケ、ナデ。内面ミガキ。
901	20・21-3	海側	弥生～古代	弥生土器 甕	砂粒多含	良	灰黄褐 にぶい橙	口径 (14.0)	口縁端に刻み目、胴部に沈線4条と、刺突文を施す。外面ナデ。内面ナデ。
902	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器 甕	砂粒含	良	にぶい褐 橙	口径 (12.6)	口縁端に刻み目、胴部に格子文。外面ヨコナデ、ミガキ。内面ナデ。
903	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器 甕	砂粒含 雲母	やや良	橙 橙	口径 (20.5)	口縁端に刻み目、不明瞭な段を2段設け、刻み目を施す。外面ヨコナデ。内面調整不明。
904	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	弥生土器 甕	砂粒含	やや良	橙 にぶい黄橙	口径 (29.9)	口縁端に刻み目、胴部に工具押さえの段が2段。外面ミガキ、一部にハケ目。内面、押さえ、ミガキ。
905	20・21-3	東半	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	黒褐 明褐	—	口縁端に刻み目、胴部に方形刺突文を有する段あり。外面ミガキ、押さえ痕。内面ミガキ、ヨコナデ。
906	20・21-2	西半 山側 土手2	縄文～弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	灰黄 にぶい黄橙	—	口縁端に刻み目、口縁下に段(一部指ナデで成形)あり。外面ミガキか。内面ミガキか。
907	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	—	胴部に段を有し刻み目を施す。外面ナデ、一部ミガキ。内面ミガキ。
908	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい褐	口径 (25.6)	口縁に刻み目、胴部に刻み目を有する段。外面ヨコナデ、ハケ。内面ハケ、押さえ。外面黒斑。
909	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	不良	にぶい橙 橙	口径 (32.2)	口縁端の刻み目は不明。胴部に2条沈線と山形文。摩滅により調整不明。
910	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	浅黄橙 浅黄橙	口径 (45.0)	口縁下に刻み目突帯と10～11条の沈線。外面タテハケ、ミガキ。内面摩滅。
911	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	褐灰 にぶい黄橙	口径 (23.1)	口縁端に刻み目、口縁下に刻み目のある突帯。外面タテハケ、ナデ。内面ハケ、ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器器形	胎土	焼成	色調(外/内)	法量	特徴・調整(外面・内面)・備考
912	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器 甕	砂粒含	良	暗灰黄 にぶい黄橙	口径 (25.0)	口縁端に刻み目と刻み目を有する貼付突帯あり。 外面一部にタテハケ。内面ヨコハケ、ナデ。
913	20・21-3	西半 山側斜面	弥生～古代	弥生土器 甕	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (20.0)	口縁外面に突帯。外面ハケ目。内面ミガキ。
914	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	やや良	黄灰 にぶい黄橙	—	連鎖状押圧突帯2条とその下に沈線7条、沈線5条を施す。外面タテハケのちミガキか、内面不明。
915	20・21-3	海側	弥生～古代	弥生土器 甕	砂粒含 金雲母少	良	明赤褐 明赤褐	—	連鎖状突帯2条下に沈線9条。外面ハケ目のちナデ。内面ミガキ。
916	20・21-2		弥生～古代	弥生土器 甕	砂粒含 黒色細粒	良	にぶい褐 灰黄褐	—	口縁下に連鎖状突帯。外面ミガキ。内面ミガキ、ヨコナデ。
917	20・21-2		弥生	弥生土器 甕	砂粒含 金雲母	良	黒褐 黒褐	—	口縁端に刻み目、口縁下に突帯。外面ハケ目。内面ヨコミガキ。
918	20・21-2	西半 海側	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口25.8 底径5.9	外面上半ハケ、下半ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
919	20・21-2	西半	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	褐灰 褐灰	口径 (14.0)	外面ヨコナデ、ヨコハケ目。口縁内面ヨコハケのちナデ、体部内面ケズリのちナデ。
920	20・21-2		遺構検出	弥生土器 甕	砂粒含 金雲母	良	にぶい赤褐 ～黒褐	口径 (14.4)	口縁端凹線2条。外面上半ヨコナデ、ミガキ、下半粗いタテミガキ。内面ヘラケズリ。
921	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	やや良	にぶい黄橙 灰黄褐	底径 (9.0)	外面ナデ、押さえ。内面被熱の痕跡。
922	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器 甕	砂粒含	やや良	橙 にぶい黄橙	口径 7.0	摩滅により調整不明。
923	20・21-3	海側	弥生～古代	弥生土器 甕	砂粒含	良	にぶい赤褐 明赤褐	底径 (6.4)	底面に沈線文。外面ナデ。内面ナデ。
924	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	やや良	橙 浅黄橙	底径 9.3	外面調整不明。内面一部にミガキ、ナデ。
925	20・21-1	中央TR内	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	やや良	灰褐 黒褐	底径 5.7	外面ナデ、ミガキ、押さえ。内面板状工具ナデ、ミガキか。外面に被熱の痕跡。
926	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	やや良	にぶい橙 灰黄褐	底径 (7.8)	底面に凹線がめぐる。外面ナデ。内面ナデ。
927	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	やや良	橙 橙	底径 7.4	摩滅による調整不明。わずかに上げ底。
928	20・21-1	中央TR～東TR間 東半	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	やや良	浅黄橙 浅黄	底径 9.25	外面ハケ、ナデ。内面ナデ、ミガキか。 図版28左2
929	20・21-2	西半 土手1～2間	弥生	弥生土器	砂粒含	やや良	橙 橙	底径 8.7	底面に焼成後穿孔。摩滅による調整調整。
930	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい赤褐	底径 (9.2)	底面に焼成後穿孔。外面ミガキ。内面ミガキ。
931	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	にぶい褐 褐灰	底径 (7.6)	底面に焼成後穿孔。外面ハケ目のちナデ消し。内面ナデ。
932	20・21-2	西半 山側	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	明赤褐 褐灰	底径 (8.4)	底面に焼成後穿孔。外面ミガキ、ナデ。内面ナデか。
933	20・21-2	西半 土手1～2間	弥生	弥生土器 甕	砂粒含 金雲母	良	橙 にぶい黄橙	底径 (9.6)	底面に焼成後穿孔(両側から穿孔)。外面ミガキ、ヨコナデ、ナデ。内面摩滅。
934	20・21-2	西半 山側	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	にぶい赤褐 にぶい赤褐	底径 4.0	ミニチュア土器か。外面ミガキ、指押さえ、ヨコナデ。内面ナデ、指押さえ。
935	20・21-2	西半 土手1～2間	弥生	弥生土器 甕	砂粒含	良	にぶい褐 黒褐	底径 (7.2)	上げ底の底部。外面ミガキ、ヨコナデ。内面ミガキ、指ナデ。
936	20・21-2	東半 山側		弥生土器 甕	砂粒含	良	にぶい橙に ぶい黄橙	—	外面ハケ。内面ナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種 器形	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	特徴・調整(外面・内面)・備考
937	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文～弥生	弥生土器 無頸壺	砂粒含	やや良	浅黄橙 灰白	—	口縁に穿孔を2ヶ所。外面不明、一部ナデ。内面不明。
938	20・21-2	西半 海側	弥生	弥生土器 鉢	砂粒含	良	褐灰 灰黄褐	—	口縁に刻みのある突帯あり。穿孔。外面ミガキ。内面ヨコナデ。
939	20・21-2	西半 土手1～2 間	縄文～弥生	弥生土器 鉢か	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい褐	—	貼付把手を有する。外面ヨコナデ、ナデ。内面指押さえ、ナデ。
940	20・21-2	西半 土手1～2 間	弥生	弥生土器 鉢	砂粒含	良	灰黄褐 黄灰	口径 (17.2)	外面ハケ目、ミガキ。内面ミガキ
941	20・21-1	中央TR～東TR間 東半	弥生	弥生土器 鉢	砂粒含 赤色粒	不良	浅黄橙 黄橙	口径 (15.0)	口縁外面に段をつくり沈線2条を施す。外面調整不明。内面一部ミガキ。
942	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	弥生土器 鉢	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 黄灰	口(17.7) 器9.7 底(5.9)	外面ミガキ、ナデ。内面ミガキ。
943	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	弥生土器 鉢	砂粒含	やや良	にぶい橙 橙	口(24.5) 底(10.2)	胴部に沈線2条。外面ナデ、ミガキ。内面ナデ。底部上げ底。
944	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	弥生土器 鉢	砂粒含 雲母	良	黒褐 にぶい黄橙	口径 (23.0)	外面ハケのちナデ。内面ミガキ、ナデ。
945	20・21-1	中央TR内	弥生	弥生土器 鉢	砂粒含	やや良	橙～褐灰 にぶい黄橙	口径 (28.3)	口縁下に貼付突帯。外面ナデ、ミガキ。内面ナデ、ミガキ。
946	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	弥生土器 鉢	砂粒含	やや良	にぶい赤褐 にぶい黄橙	口(27.5) 器14.5 底8.5	口縁下に沈線2条。外面ハケのちナデ。内面ミガキ。被熱痕あり。
947	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器 鉢	砂粒含	やや良	黒褐 にぶい黄橙	口径 (32.0)	胴部に段あり。外面ミガキか。内面ミガキ。
948	20・21-2	東半	縄文1 湿地層の上	弥生土器 鉢	砂粒含	良	褐灰 褐灰	—	ヘラによる沈線、方形区画、重弧文を描く。外面ミガキ。内面ミガキ。
949	20・21-3	東半	縄文～弥生	弥生土器 高環	砂粒含	良	にぶい黄 暗灰黄	口径 (27.4)	外面ミガキ。内面ナデ。
950	20・21-2	西半 山側	弥生	弥生土器 台付鉢	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい橙	脚柱径 5.4	2条の刻み目突帯を有する。外面タテハケ目のちミガキ。内面ミガキ。
951	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	弥生土器 甕	砂粒含 金雲母	良	暗灰黄 黄灰	—	口縁外面に肥厚帯。外面ヨコナデ。内面ミガキ。
952	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	弥生土器 高環	砂粒含	やや良	にぶい橙 にぶい黄橙	口径 (46.0)	外面ヨコナデ、ミガキ。内面調整不明。
953	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	弥生土器 蓋	砂粒含 雲母	良	浅黄 オリーブ黒	口径 (16.3)	上面にヘラ描き格子状の施文あり。外面ミガキか。内面ミガキ。
954	20・21-2	西半 土手1～2 間	縄文～弥生	弥生土器 蓋	砂粒含	良	黒褐 黒褐	径(8.8) 器高1.9	2個の穿孔あり。外面ナデ。内面ナデ、指押さえ。
955	20・21-2	西半	弥生	弥生土器 蓋	砂粒含	良	にぶい赤褐 にぶい赤褐	—	貝殻施文による沈線を施す。外面ミガキ。内面指押さえのちミガキ。
956	20・21-2	西半 土手1	弥生	弥生土器 蓋	砂粒含	良	にぶい褐 灰褐	つまみ径 8.3	2ヶ所に焼成前穿孔。外面ナデ、ミガキ。内面ミガキ。
957	20・21-2	西半山側 土手2	縄文～弥生	弥生土器 土製品か	砂粒多含	不良	橙	—	沈線による紋様を施す。摩滅により調整不明。
958	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	ミニチュア 鉢	砂粒含	良	にぶい橙 にぶい黄橙	口(4.6) 器(2.9) 底(2.7)	口縁に沈線1～2条。内外面ナデ。
959	20・21-2	西半 土手1	弥生	ミニチュア 蓋	砂粒含	良	にぶい黄褐 褐灰	器(7.0) 器高2.9	外面ナデ。内面ナデ。

須恵器(第118図 図版89、90)

須恵器は、古墳時代のものと古代に属するものがある。古代のものは、古代遺構面上やその上層の古代遺物包含層内から出土する。また古代遺構面からつながる湿地跡およびその相当層から出土したことから、古代湿地跡の時期決定資料となっている。ここでは形態の判断できる資料を掲載したが、細片も多く出土している。古墳時代の須恵器は、海岸側の礫層上面で弥生時代遺物とともに出土しているが点数は少ない。

960～962は坏蓋である。960は肩部に沈線と段が明瞭にあるが、961、962は沈線の凹線化や不明瞭な段になっている。また961、962は端部内面に凹線がみられる。963、964は坏身である。立ち上がり部が直立気味に外傾する。

965、966は坏蓋である。それぞれ擬宝珠状やボタン状のつまみがつく蓋で、965は内面に返りがつく。967～975は坏身で、このうち971～973はハの字状の高台がつく。974、975は平底のベタ高台である。976は皿と判断されるが、つまみのない蓋の可能性もある。977は高坏脚部で、三角透かし穴がある。978は壺または瓶の口縁部とみられる。

土師器(第119・121図 図版89～91)

土師器は、古墳時代、古代、中世のものに分けられるが、須恵器と同様の出土状態である。古代については掲載資料以外に細片が多く出土している。

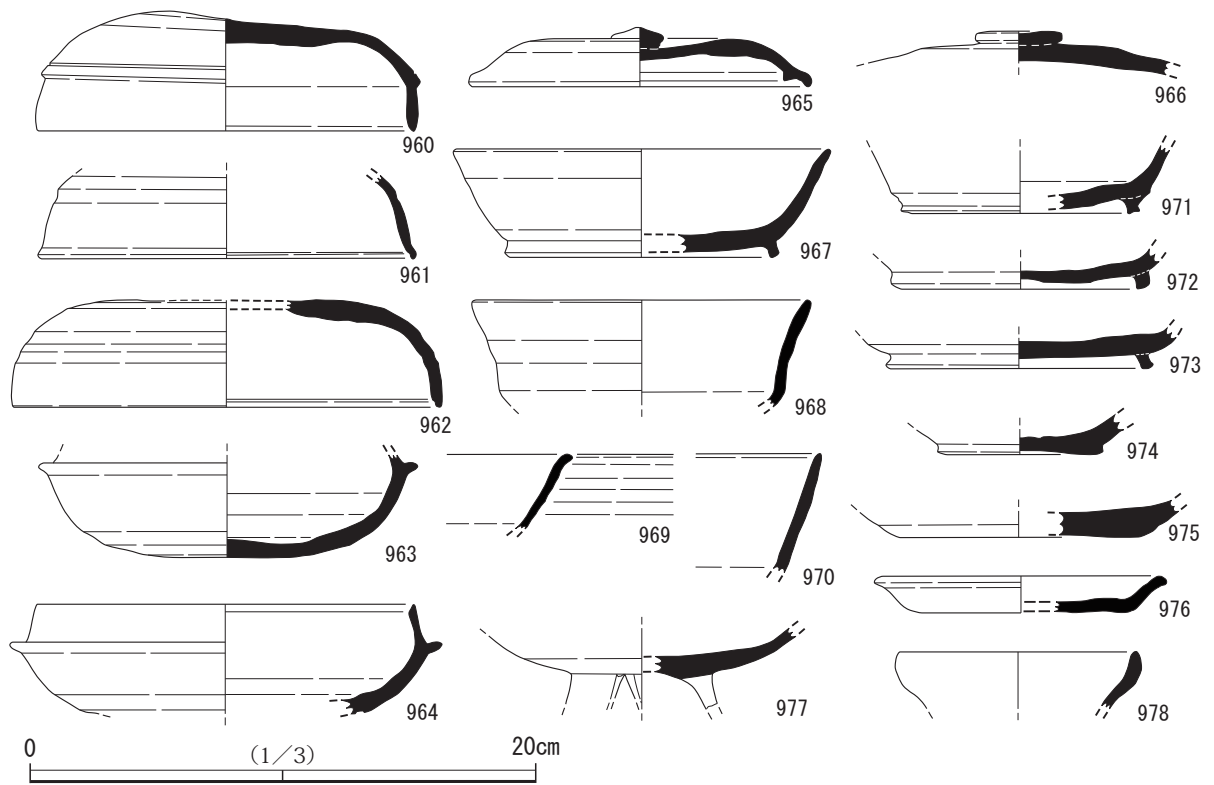
979～990は古墳時代の土師器である。979、980は丸底壺である。979は外面ナデの痕跡が残り、内面はケズリ調整。980は球形の胴部に内湾して立ち上がる口縁部で、端部は内側にわずかに肥厚する。982は丸底壺の口縁部で、外傾して立ち上がり、端部はまるい。981はくの字状口縁の甕で、端部をわずかにつまみ上げる。983は底部で外面に指押さえ痕、内面に明瞭にハケメが残る。984、986は半球状の椀で、984は端部が短く内傾し、986は胴部が内湾する。985は高坏で口縁部と脚部を欠損。外面に段を有する。987～990は甕である。987～989は頸部の屈曲が緩やかであり、990は胴径が口径を上回り、すばまった頸部から口縁部は外反する。外面ハケメ調整、内面ケズリ調整で、粘土紐の痕跡が明瞭に残る。外面煤付着。

995～1015は古代以降の皿、坏、椀、甕である。995、996は都城系土器の蓋、皿である。995は端部を下方へつまみ出し、996は口縁部が短く折れる。997は皿である。998、999は坏で、平底の底部から口縁部は直線的に開き、端部は尖り気味である。1000～1007は高台を持つ椀である。1002のベタ高台以外は、直立またはハの字状の高台である。1007は底面にヘラ切りの痕跡がある。1008～1011は椀の口縁部で、先端でわずかに屈曲する。1012、1013は甕である。このうち頸部から口縁部が内湾して立ち上がって、端部が平坦なもの(1012)と上方につまみ上げるもの(1013)がある。1014、1015は鍋の口縁部で、内面に凹線がある。煤付着。

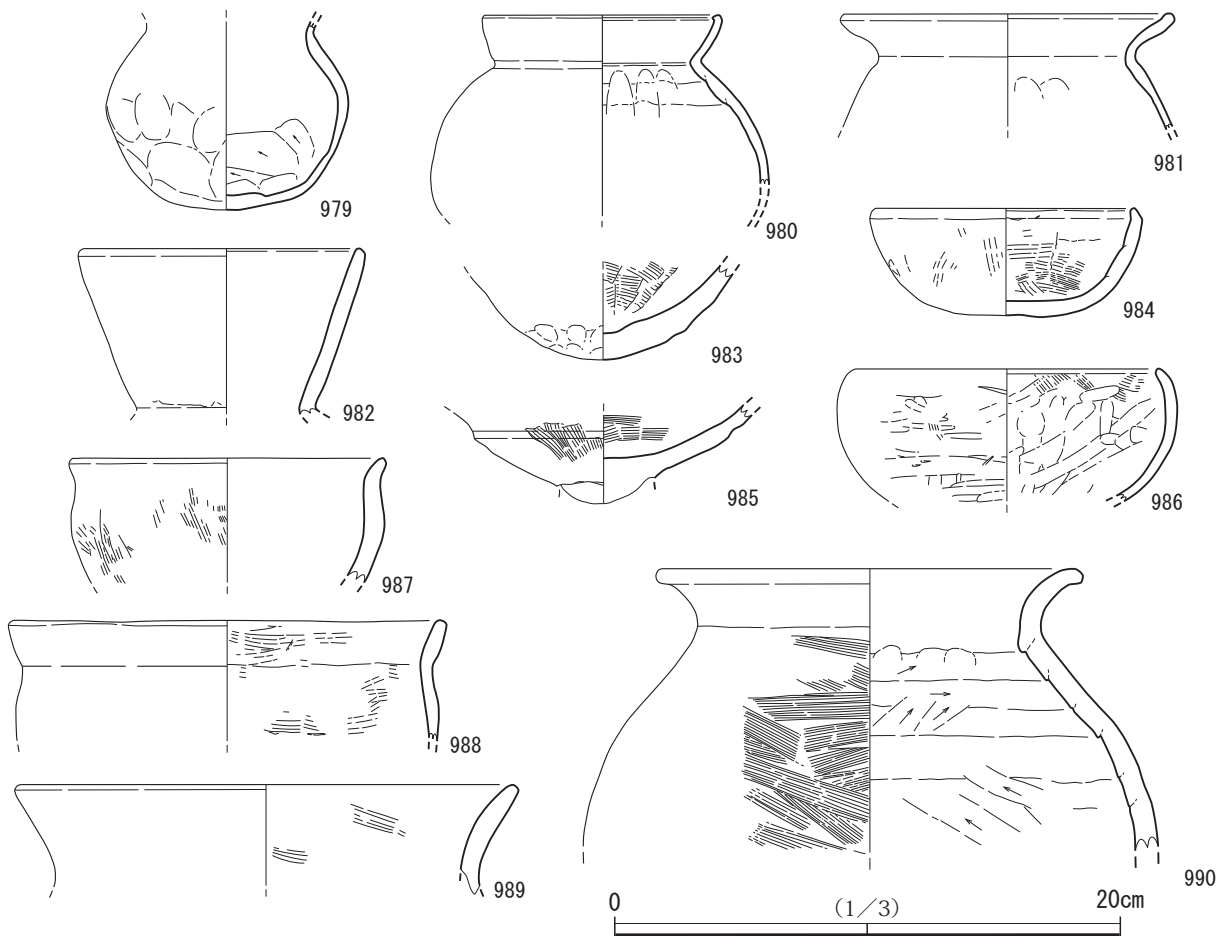
柱穴(SP)出土の須恵器、土師器(第120図 図版90)

遺構面において須恵器、土師器が出土した遺構は柱穴(SP)のみであり、第120図に掲げたとおりである。991は土師器坏の口縁部である。992は高台が剥落した土師器椀とみられる。993は須恵器坏の口縁部である。994は須恵器坏の高台片である。

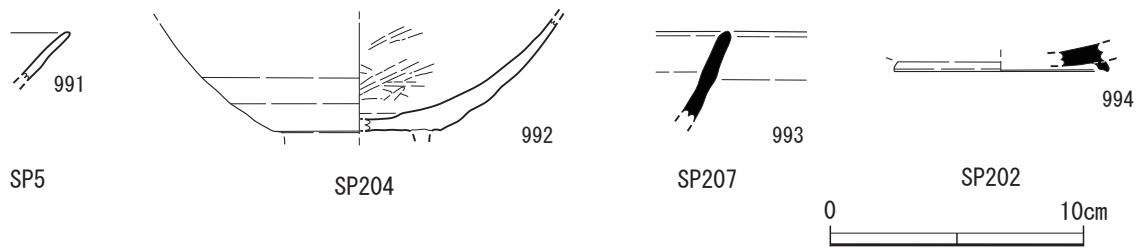
土師器カマド(第122図 図版91)



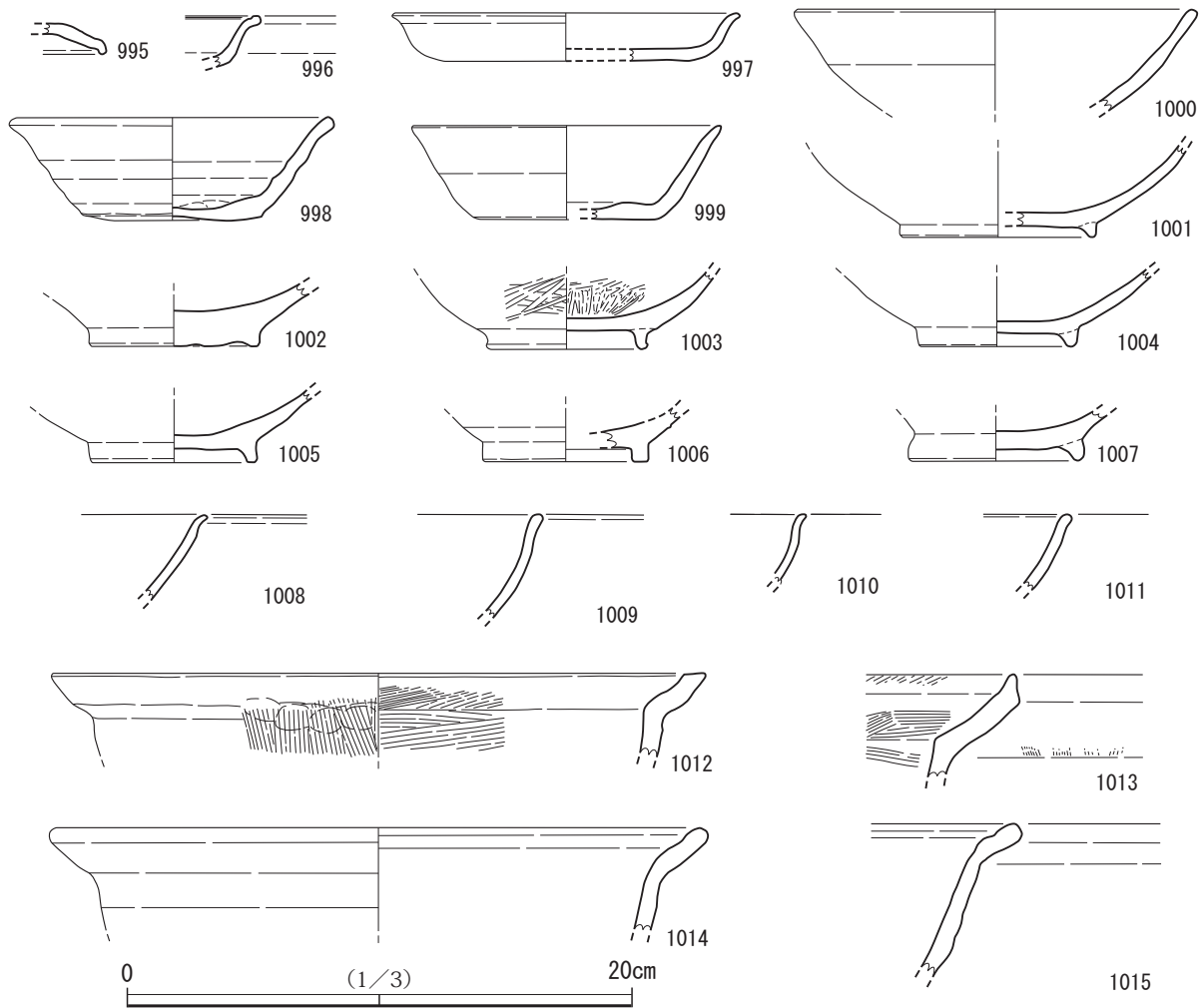
第118図 須恵器実測図



第119図 土師器実測図(1)



第120図 遺構出土 (SP) の須恵器・土師器実測図

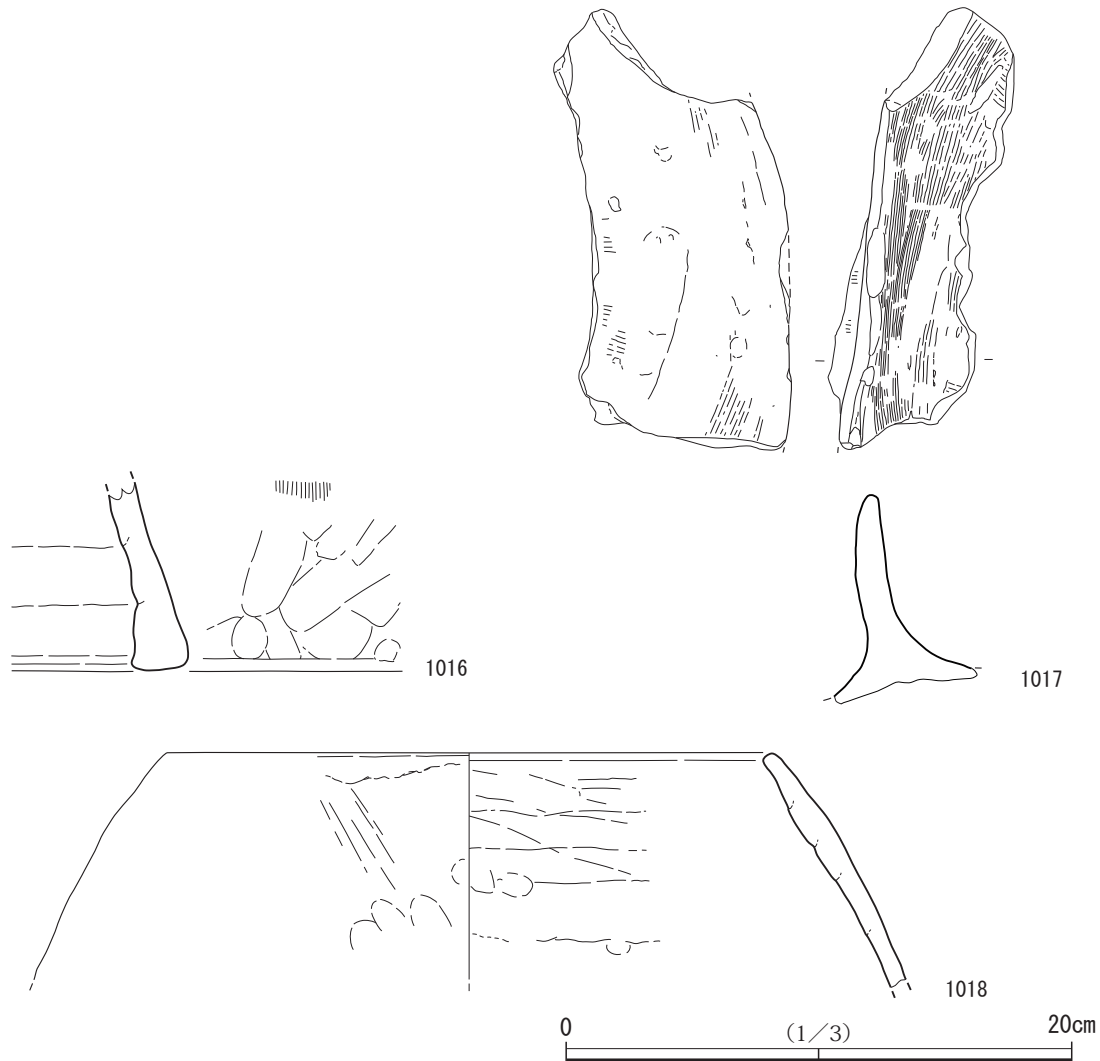


第121図 土師器実測図(2)

1016～1018は移動式カマドである。ここで掲載する3点以外にも小破片が多く出土している。これらは、海岸側の礫群上面から古代の土師器や製塩土器片とともに出土した。1016はカマドの裾部にあたる。外面には指ナデ調整痕が残り、内面には粘土紐の痕跡が明瞭にみられる。1017は剥落したカマドの底片で、焼き口左側にあたる部分である。タテへの粗いハケメ調整やナデ調整が認められる。1018はカマドの釜口にあたり、復元径は24cmである。体部から内傾して口縁部は丸みを持つ。外面粗いナデや指押さえ痕があり、内面には粘土紐の痕跡が明瞭に残る。

製塩土器 (第123、124図 図版92)

調査区の海岸側、特に礫群上面から古代の遺物とともに出土した。胴部破片が多くみられ、全体の形状が判断できる資料は少ないものの、多くは砲弾型を呈するものとみられる。特徴として外面は指



第122図 カマド実測図

押さえ痕や粘土継ぎ目が明瞭に残る。内面はハケメ調整が主流で、布目痕は少ない。胎土に赤色粒を含む。

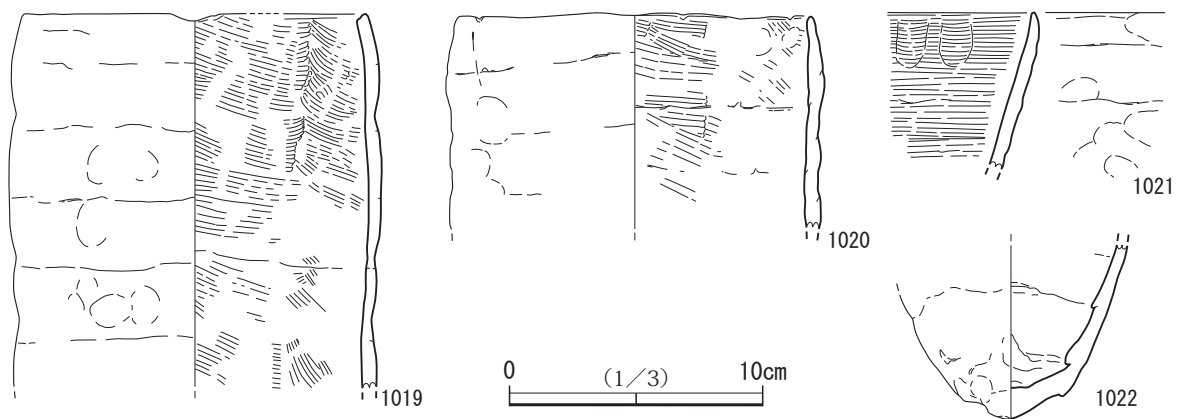
1019～1022 (第123図 図版92) は、SK10出土の製塩土器である。砲弾型を呈し、径は13～14cmである。口縁端部は尖り気味である。外面は指押さえ痕や粘土紐の痕跡が残り、内面はヨコへのハケメ調整である。

1023～1034は包含層出土の製塩土器である。1023は内面ナデ調整。1024、1025は内面ハケメ調整で、1025は口縁端部が平坦である。1026は体部が内傾するもので、他と器形が異なるため製塩土器ではない可能性があるが、胎土や内面ハケメ調整(1026は二枚貝によるものか)が似通っていることから、ここでは製塩土器として取り扱う。1027は外面ケズリ調整。1028、1029は砲弾型で、径は9cmである。内外面にナデ調整や指押さえ痕残る。

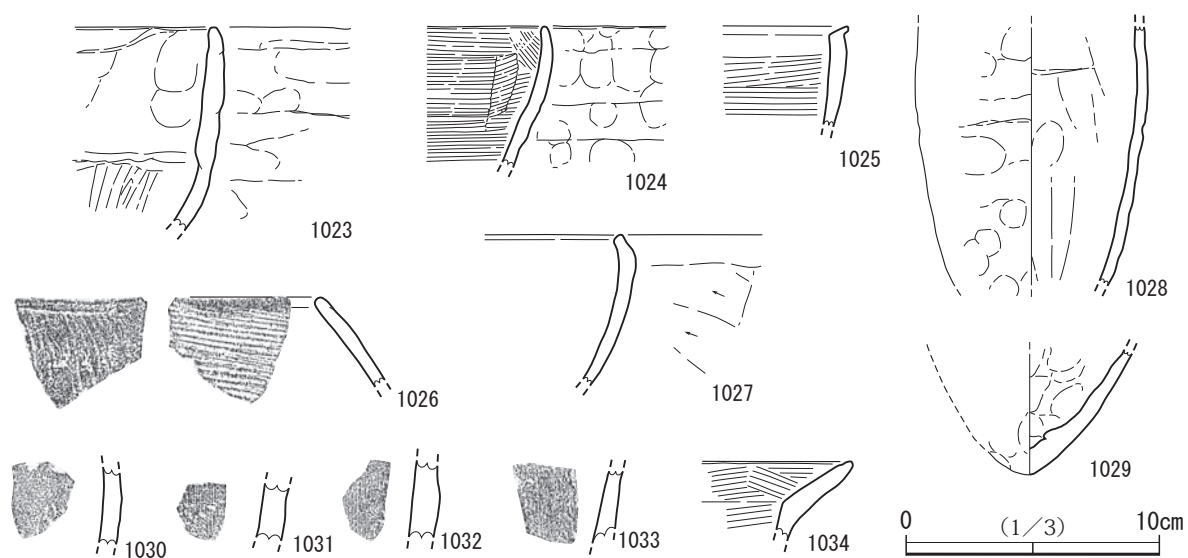
1116～1118は内面に布目痕のある製塩土器で、1118が最も目が細かい。1034は甕型であるが、内面のハケメが他の同様であることから、製塩土器と判断した。

黒色土器・陶磁器 (第125図 図版93)

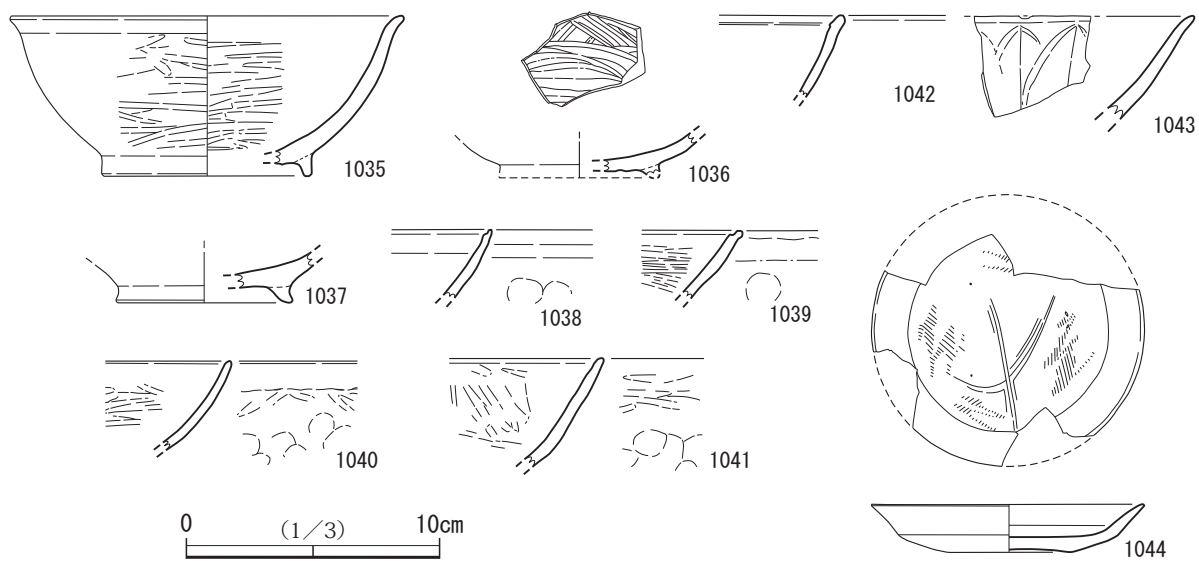
1035～1041は黒色土器の椀である。いずれも口縁外面と内面全体に炭素を吸着させている、いわ



第123図 製塩土器実測図(1)



第124図 製塩土器実測図(2)



第125図 黒色土器・陶磁器実測図

ゆる内黒である。1035は直立した高台から内湾した体部で、口縁部は短く屈曲して尖り気味に終わる。ロクロ成形で内外面ミガキ調整。1036、1037は高台片。ロクロ成形。1038～1041は体部外面に指押さえ痕が見られ、口縁端部内面に段を有するものもある。ミガキ調整。

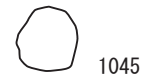
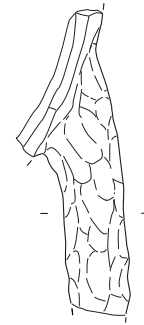
1042は陶器口縁部である。内面に細い突帯を有する。素地は焼成良好の土師質で、施釉部分は剥落している。緑釉陶器の可能性はある。

1043は龍泉窯系の青磁碗である。外面に鎬蓮弁がある。

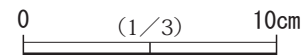
1044は同安窯系の青磁皿である。腰折れの皿で見込みに櫛書きによる施文があり、上げ底の底部は露胎している。

瓦質土器 (第126図 図版93)

1042は瓦質土器足鍋の脚部である。直立する脚部で、先端部を欠損する。全体的に指押さえ痕やナデ調整が明瞭に残っている。



1045



第126図 瓦質土器実測図

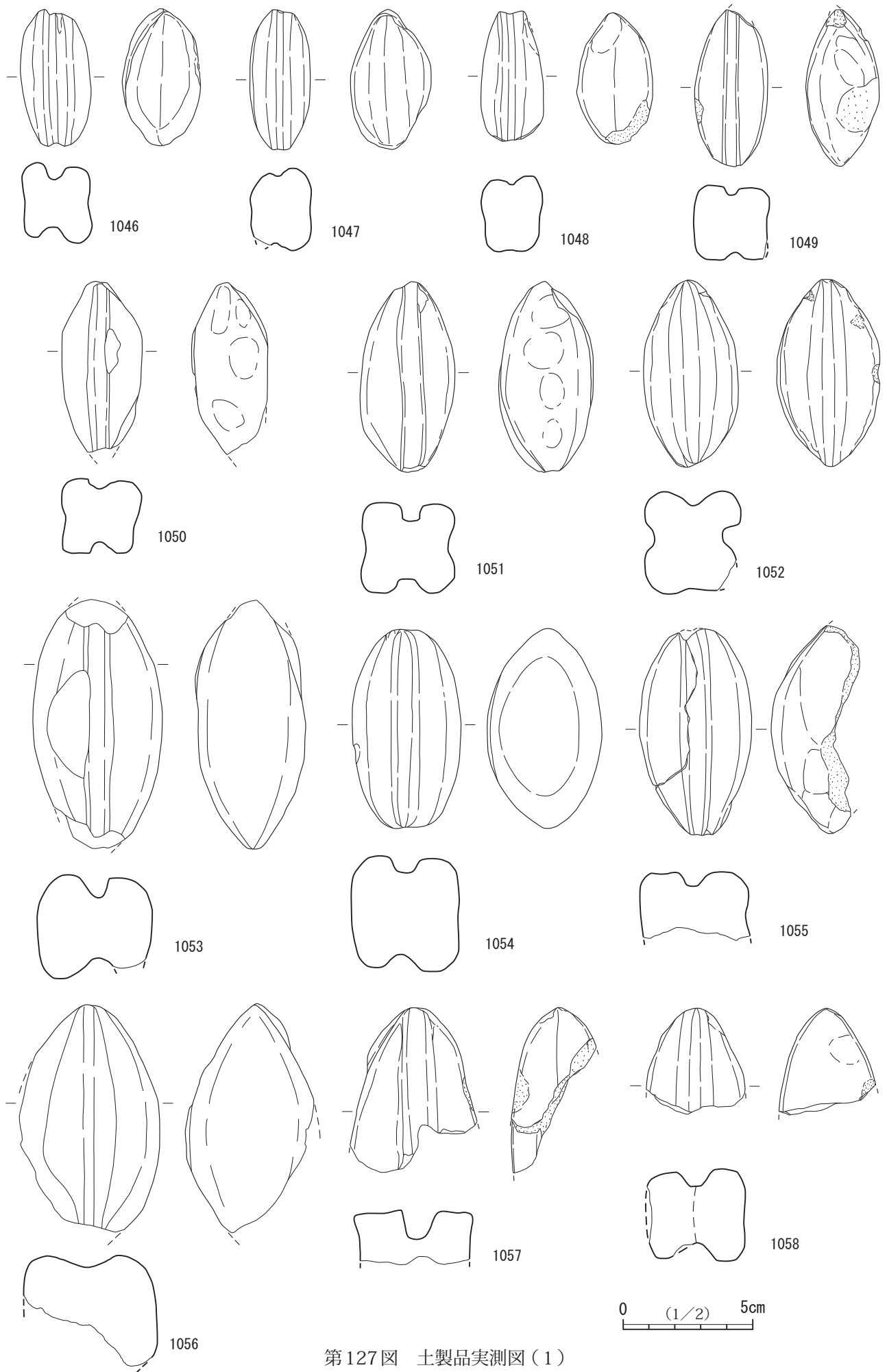
第5表 須恵器・土師器ほか観察表

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種 器形	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	特徴・調整(外面・内面)・備考
960	20・21-3	東半	弥生～古代	須恵器 坏蓋	砂粒含	良	灰 灰	口(15.0) 高4.8	天井部外面に回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。他は回転ナデ。段と沈線あり。図版29左4
961	20・21-2	湿地層跡	古代湿地層 黒褐色 粘質シルト	須恵器 坏蓋	砂粒少含	良	灰 灰	口径 (15.0)	口縁端に段あり。外面回転ケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ。
962	20・21-3	海側	弥生～古代	須恵器 坏蓋	砂粒含	良	灰 灰	口径 (17.0)	天井部外面回転ヘラケズリ(ロクロ左回転)、他は回転ナデ。外面に凹線、口縁内面に段あり。
963		表面採集		須恵器 坏身	砂粒含	良	灰黄 灰黄	—	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、静止ナデ。ロクロ右回転。
964		表面採集		須恵器 坏身	砂粒含	良	灰黄 灰黄	口径 (14.8)	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。
965	20・21-3	海側	弥生～古代	須恵器 坏蓋	砂粒含	良	灰黄 灰	口(13.6) 器2.4	擬宝珠つまみを有する。天井部回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)、他は回転ナデ。口縁内面に返しあり。
966	20・21-2	西半	遺構検出	須恵器 坏蓋	砂粒含	良	灰 灰	つまみ径 (3.4)	つまみを有する。外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面静止ナデ。ロクロ右回転。
967	20・21-3	東半	弥生～古代	須恵器 坏身	砂粒含	良	灰 灰	口(15.0) 底(10.9)	高台あり。底面回転ケズリ(ロクロ右回転)。他は回転ナデ。
968	20・21-2	西半	遺構検出	須恵器 坏身	砂粒含	やや良	灰白 灰白	口径 (13.4)	外面回転ナデ。内面回転ナデ。ロクロ右回転。
969	20・21-2	湿地層跡	古代湿地層 黒褐色 粘質シルト	須恵器 坏身	砂粒少含	良	灰 灰	—	外面回転ナデ。内面回転ナデ。
970	20・21-1	試掘TR～中央TR間	古代	須恵器 坏	砂粒少含	良	灰 灰	—	外面回転ナデ。内面回転ナデ。ロクロ右回転か。
971	20・21-2	西半	古代	須恵器 坏身	砂粒少含	良	灰 灰	底径 (9.4)	高台あり。外面回転ナデ。底面静止ナデ。内面回転ナデ、静止ナデ。ロクロ右回転。
972	20・21-3		古代	須恵器 坏身	砂粒含	やや良	灰 灰	高台径 (10.2)	高台あり。外面回転ナデ。内面回転ナデ、ナデ。
973	20・21-2	西半	古代	須恵器 坏	砂粒少含	良	灰黄 灰黄	底径 (10.6)	高台あり。外面ヨコナデ。底面回転ケズリ(ロクロ右回転)。内面ヨコナデ。

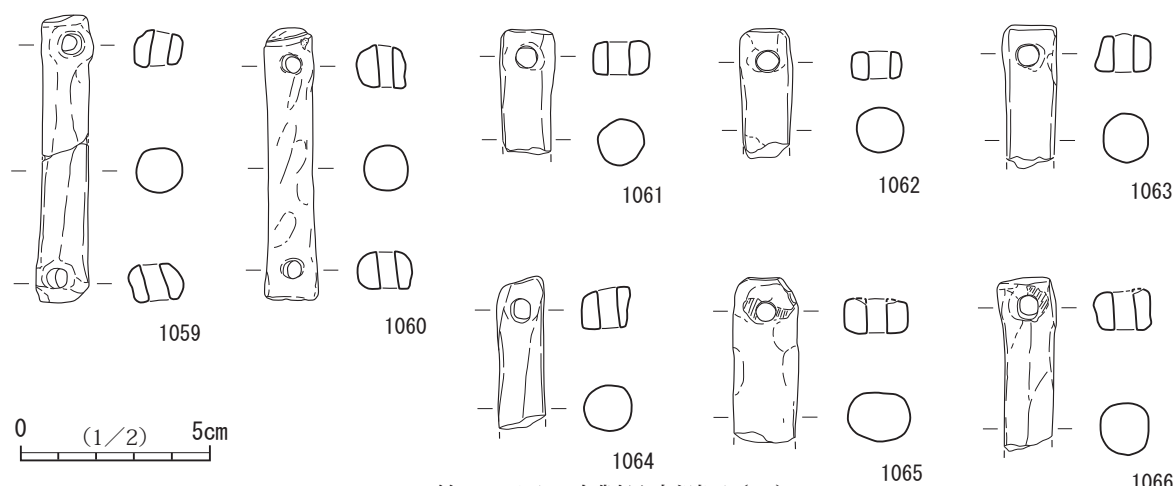
番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種 器形	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	特徴・調整(外面・内面)・備考
974	20・21-2	西半	古代相当層上面	須恵器 坏身	砂粒少含	良	灰白 灰白	底部径 (6.6)	ベタ高台。外面回転ナデ。底面ヘラ切りのちナデ。 内面回転ナデ。
975	20・21-2	西半	遺構検出	須恵器 坏か	砂粒含	良	灰 灰	底部径 (9.4)	底面ケズリか。内面ナデ
976	20・21-2	西半	古代	須恵器 坏身	砂粒少含	良	灰 灰	口(10.4) 器1.5 底(8.0)	外面回転ナデ。底面回転ケズリ。内面回転ナデ、 静止ナデ。ロクロ右回転。蓋の可能性あり。
977	20・21-2	西半	古代～中世	須恵器 高坏	砂粒含	良	灰白 灰白	—	脚部に透し孔。坏部外面回転ナデ、回転ケズリ、 ロクロ左回転。内面回転ナデ。
978	20・21-1	試掘TR周辺	古代	須恵器 瓶	砂粒含	良	灰白 灰	口径 (9.4)	外面回転ナデ。内面回転ナデ。
979	20・21-2	西半	古代	土師器 壺	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい黄橙	—	外面ナデ。内面ケズリ、ナデ。 図版28右3
980	20・21-2	湿地層跡	古代～弥生湿地 層	土師器 壺	砂粒含 金雲母	良	暗灰黄 暗灰黄	口9.6胴 13.4	口縁端わずかに肥厚。外面ヨコナデ、ヨコミガキ。 内面ヨコナデ、押さえ痕。
981	20・21-2	湿地層跡	古代～弥生湿地 層	土師器 甕	砂粒含	良	褐灰 褐灰	口径 13.2	口縁端わずかに肥厚。外面ヨコナデ。内面ヨコ ナデ、押さえ痕。口縁内外面に煤付着。
982	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	土師器 壺	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (11.4)	外面ヨコナデ。内面ヨコハケのちヨコナデ。
983	20・21-2	湿地層跡	古代～弥生湿地 層	土師器 甕	砂粒含	良	黒褐 黒褐	—	外面ナデ、指押さえ痕。内面ナデ、ヨコハケ目。
984	20・21-3	東半	弥生～古代	土師器 椀	砂粒含	良	暗灰黄 にぶい黄褐	口10.3 器4.3	外面ハケのちナデ。内面ハケ。
985	20・21-2	西半 山側	古代整地土層	土師器 高坏	砂粒含	良	明赤褐 明赤褐	—	坏部に段を有する。外面タテハケ目のちナデ、 指押さえ。内面ハケ目のちナデ。図版28右4
986	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	土師器 椀	砂粒含 雲母	良	黒 黒	口径 (12.0)	外面ミガキ、ケズリ。内面ハケ、ミガキ。
987	20・21-3	東半	弥生～古代	土師器 甕	砂粒含 雲母	良	橙 にぶい橙	口径 (12.6)	外面ヨコナデ、ハケ。内面ヨコナデ
988	20・21-3	東半	弥生～古代	土師器 甕	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 灰黄褐	口径 (17.4)	外面ナデ。内面ハケ。
989	20・21-1	海側～試掘TR間	古代	土師器 甕	砂粒含 赤色粒	良	浅黄橙 浅黄橙	口径 (20.0)	外面ナデ。内面ナデ。
990	20・21-2	西半	古代上面	土師器 甕	砂粒含 金雲母	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口径 (16.8)	内面に粘土紐の単位明瞭に残る。外面細かいハ ケ目。内面ヨコナデ、ケズリのちナデ。外面に 煤付着。
991	20・21-1		S P 5	土師器 坏か	砂粒含	良	橙 橙	—	外面回転ナデ。内面摩滅。
992	20・21-2	西半 山側	S P 204	土師器 椀	砂粒少含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	高台径 (5.6)	高台部剥離。ロクロ成形で、外面ミガキ、底面 糸切りのちナデ。内面ミガキ。口縁外縁のみ炭素 吸着。
993	20・21-2	西半 山側	S P 207	須恵器 坏	砂粒少含	良	灰 灰	—	外面回転ナデ。内面回転ナデ。ロクロ回転不明。
994	20・21-2	西半 山側	S P 202	須恵器 坏身	砂粒少含	やや良	灰 灰	高台径 (8.6)	高台あり。外面回転ナデ。内面静止ナデ。
995	20・21-3		弥生～古代	土師器 蓋	緻密	良	明赤褐 明赤褐	—	都城系土師器。外面ミガキ、ナデ。内面ナデ。
996	20・21-3		弥生～古代	土師器 皿	緻密	良	明赤褐 明赤褐	—	都城系土師器。外面ヨコナデ。内面ヨコナデ、 一部ミガキ。
997	20・21-3	西半	弥生～古代	土師器 皿	砂粒含 雲母	やや良	灰黄褐～黒 灰黄褐～黒	口(13.8) 高1.9 底(9.6)	外面ヨコナデ。底面ヘラ切りのちナデ。内面ヨ コナデ。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器 種 形	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	特徴・調整(外面・内面)・備考
998	20・21-2	湿地層跡	古代湿地層 黒褐色粘質シルト	土師器 杯	砂粒少含	良	暗灰～灰黄	口(12.8) 高4.1 底(7.0)	口縁内外面に炭素吸着。外面回転ナデ。内面回転ナデ、指押さえ。底面ナデ。ロク右回転。
999	20・21-2	湿地層跡	古代湿地層 黒褐色粘質シルト	土師器 杯	砂粒少含	良	灰白 灰白	口(12.2) 高3.7 底(7.4)	白色系胎土。外面回転ナデ、下半はヘラによるものか。内面回転ナデ。
1000	20・21-3	東半	弥生～古代	土師器 椀	砂粒含	やや良	橙 にぶい黄橙	口径 (16.0)	内外面回転ナデ。内外面煤付着。
1001	20・21-2	湿地層跡	古代湿地層 黒褐色粘質シルト	土師器 椀	砂粒少含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	底径 (7.8)	貼り付け高台。外面摩滅。内面丁寧なミガキ。
1002	20・21-2	西半	遺構検出	土師器 椀	砂粒含	良	褐灰 灰黄褐	底径 6.8	ベタ高台。外面ヨコナデ。内面ナデまたはミガキか。
1003	20・21-3		遺構検出	土師器 椀	緻密	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	高台径 6.4	貼り付け高台。底面は糸切り痕あり。外面ミガキ。内面ミガキ。
1004	20・21-2	西半 山側	古代湿地層の上 褐灰色土	土師器 椀	砂粒含	良	浅黄 浅黄	底径 (6.2)	高台あり。底面摩滅。外面ミガキ。内面ミガキ。
1005	20・21-2	湿地層跡	古代湿地層 黒褐色粘質シルト	土師器 椀	砂粒少含	良	浅黄 浅黄	底径 6.6	高台あり。底面糸切りのちナデ。内面丁寧なミガキ。
1006	20・21-2	西半	古代～中世	土師器 椀	砂粒含 雲母	良	にぶい橙 にぶい橙	—	底面糸切り痕。外面回転ナデ。内面ミガキ。
1007	20・21-3	西半	弥生～古代	土師器 椀	砂粒多含 チャート	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	高台径 7.0	貼り付け高台。外面回転ナデ。高台内ヘラ切りのちナデ。内面摩滅。白色系の胎土。
1008	20・21-2	西半	古代～中世	土師器 椀	緻密	堅緻	にぶい黄橙 にぶい黄橙	—	外面ミガキ、回転ナデ。内面ミガキ、回転ナデ。
1009	20・21-2	西半	古代～中世	土師器 椀	砂粒少含	やや良	浅黄橙 浅黄橙	—	外面回転ナデ。内面回転ナデ。
1010	20・21-2	西半	古代(古代湿地層の上)	土師器 杯	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	—	外面回転ナデ。内面回転ナデ。
1011	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生～古代	土師器 椀	緻密	良	浅黄橙 浅黄橙	—	外面回転ナデ。内面回転ナデ。
1012	20・21-1	海側～試掘TR間	遺構検出	土師器 甕	砂粒含	良	黒褐 にぶい黄橙	口径 (26.0)	外面ハケ目、ヨコナデ、指押さえ痕。内面ハケ目、ヨコナデ。外面の一部に煤付着。
1013	20・21-2	湿地層跡	古代湿地層 黒褐色粘質シルト	土師器 甕	砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐	—	外面ハケのちヨコナデ。内面ハケのちヨコナデ。
1014	20・21-2	西半	遺構検出	土師器 鍋	砂粒含 雲母多含	良	褐 褐	口径 (26.2)	外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。
1015	20・21-2	西半	遺構検出	土師器 鍋	砂粒含	良	黒褐 にぶい褐	—	口縁内側に凹線。外面粗いヨコナデ。内面ヨコナデ、ミガキか。煤付着。
1016	20・21-2	西半	遺構検出	土師器 カマド	砂粒含	良	灰黄褐 にぶい褐	—	外面ヨコナデ、粗いナデ、指押さえ痕、タテハケ目。内面ヨコナデ、粘土紐痕あり。
1017	20・21-3	東半	弥生～古代	土師器 カマド	砂粒含 雲母	良	にぶい黄橙 黄褐	—	外面ハケ、ナデ。内面ハケ、ナデ。
1018	20・21-2	西半	遺構検出	土師器 カマド	砂粒含	良	暗灰黄 暗灰黄	口径 (24.0)	外面タテへの粗いナデ、指押さえ痕。内面ヨコナデ、粘土紐痕明瞭に残る。
1019	20・21-1	海側～試掘TR間	SK10	製塩土器	砂粒含	良	明黄褐 にぶい黄橙	口径 (13.5)	外面ナデ、押さえ。内面ハケ、ナデ。
1020	20・21-1	海側～試掘TR間	SK10	製塩土器	砂粒含	やや良	にぶい褐 灰黄褐	口径 (14.0)	外面粗いナデ、押さえ痕。内面ハケ、ナデ、押さえ痕。粘土継ぎ目痕明瞭にあり。
1021	20・21-1	海側～試掘TR間	SK10	製塩土器	砂粒含	良	灰黄褐 灰黄褐	—	砲弾形。外面ナデ、指押さえ痕。内面指ナデ、ハケ目。

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種 器形	胎土	焼成	色調 (外/内)	法量	特徴・調整(外面・内面)・備考
1022	20・21-1	海側～試掘TR間	SK10	製塩土器	砂粒含	やや良	灰黄褐 灰黄褐	—	外面ナデ、押さえ。内面ナデ、押さえ。らせん状に粘土紐を巻き上げて成形。
1023	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	製塩土器	砂粒含	良	にぶい褐 にぶい褐	—	外面粗いナデ。内面ナデ、指押さえ、一部ヘラによるヨコナデ、ミガキ。粘土紐痕残る。
1024	20・21-1	海側～試掘TR間	SK10周辺	製塩土器	砂粒含 金雲母	良	灰黄褐 灰黄褐	—	砲弾形。外面指ナデ、指押さえ。内面ハケ目。
1025	20・21-2	西半	遺構検出	製塩土器	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	—	外面ナデ、ヨコナデ。内面ハケ。
1026	20・21-2	西半	古代相当層上面	製塩土器 か	砂粒少含 雲母	良	灰褐 灰褐	—	外面二枚貝条痕のちナデ。内面二枚貝条痕。
1027	20・21-2	西半	古代相当層上面	製塩土器 鉢	砂粒多含	やや良	明赤褐 明赤褐	—	外面ケズリか。内面ヨコナデ。
1028	20・21-3	東半	弥生～古代	製塩土器	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	胴部径 (9.2)	砲弾形。外面ナデ、指押さえ痕。内面ナデ、指押さえ痕。
1029	20・21-2	西半	古代相当層上面	製塩土器	砂粒含	やや良	明褐 明褐	—	尖底。外面指ナデ。内面指押さえ、指ナデ。
1030	20・21-2	西半	古代上面	製塩土器	砂粒含 金雲母	良	明赤褐 明赤褐	—	外面指ナデ押さえ痕。内面布目痕
1031	20・21-2	西半	古代上面	製塩土器	砂粒含 金雲母	良	明赤褐 明赤褐	—	外面指押さえ痕。内面布目痕。
1032	20・21-2	湿地層跡	古代湿地層 黒褐色粘質シルト	製塩土器	砂粒含	良	にぶい黄橙 にぶい黄橙	—	外面ナデ、指押さえ痕。内面布目痕。
1033	20・21-2	湿地層跡	古代湿地層 黒褐色粘質シルト	製塩土器	砂粒含	良	にぶい赤褐 にぶい黄橙	—	外面ナデ、指押さえ痕。内面目の細かい布目痕。
1034	20・21-2	西半	古代上面	製塩土器 甕	砂粒含 金雲母	良	にぶい褐 にぶい褐	—	外面粗いナデ。内面粗いハケ。
1035	20・21-3		遺構検出	黒色土器 椀	砂粒含 雲母	良	にぶい褐 黒	口(15.6) 高6.4 底(8.4)	口縁外面から内面にかけて炭素吸着する内黒。貼り付け高台あり。ロクロ成形。外面ミガキ。内面ミガキ。
1036	20・21-3	東半	弥生～古代	黒色土器 椀	砂粒少含 金雲母	良	灰黄褐 黒	高台径 (6.4)	内黒。貼り付け高台。外面回転ナデ。内面ミガキ。
1037	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	土師器 椀	緻密	良	浅黄橙 黒	高台径 (7.0)	内黒。外面回転ナデ。内面ミガキか。貼付高台で底面糸切り痕か。
1038	20・21-3	西半	弥生～古代	黒色土器 椀	砂粒少含 金雲母	良	にぶい褐 黒	—	口縁外面から内面に炭素吸着する内黒。外面ヨコナデ、指押さえ痕。内面ヨコナデ。
1039	20・21-2	湿地層跡	古代湿地層 黒褐色粘質シルト	黒色土器 椀	緻密	良	黒～暗灰黄 黒	—	口縁外面から内面にかけて炭素吸着する内黒。口縁段あり。外面ヨコナデ、指押さえ痕。内面ミガキ。
1040	20・21-3		遺構検出	黒色土器 椀	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 黒	—	口縁外面から内面にかけて炭素吸着する内黒。外面ミガキ、指押さえ痕。内面ミガキ。
1041	20・21-3		弥生～古代	黒色土器 椀	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐 黒	—	口縁外面から内面にかけて炭素吸着する内黒。外面ミガキ、ヨコナデ、指押さえ痕。内面ミガキ、ヨコナデ。
1042	20・21-2	西半	古代～中世	施釉陶器 碗か	緻密	良	浅黄 浅黄	—	内面に細い突帯。外面回転ナデ。内面ミガキ、回転ナデ。素地は土師質で施釉は残っていない。
1043	20・21-2	西半	古代相当層上層	青磁 碗	緻密	良	青磁 明緑灰 素地 灰白	—	龍泉窯系。鎗蓮弁。内外面施釉。
1044	20・21-2	西半	古代～中世	青磁 碗	緻密	良	灰オリーブ 灰オリーブ	口10.9 高1.9 底4.3	上げ底の底部露胎。見込みに櫛描きによる施文。ロクロ左回転。
1045	20・21-2	西半	遺構検出	瓦質土器 足鍋	砂粒含	良	黄灰 黄灰	—	脚部。外面ナデ、指押さえ痕。内面ヨコハケ、一部ナデ。外面煤付着



第127図 土製品実測図(1)



第128図 土製品実測図(2)

土製品(第127～129 図 図版)

1046～1080は土錘である。これらのうち遺構に伴うものは1059で、SK13から出土した。他は包含層出土のもので、調査区全域に分布する。包含層の時期から判断すると、中心は古代とみられるが、一部に弥生時代も含まれる。

1046～1058は有溝土錘である。長さは大きく分けて5～7cm、7～9cmの2種類があり、重量はそれぞれ30～60g、80g以上を測る。最大は200gちかいものもある。形態は紡錘形で、方形の断面に4方向に溝を有するもの(1052)以外は2方向の溝を持つ。いずれも堅く焼けしまっているものが多い。

1059～1066は棒状土錘である。長さは7.2～7.6cm、重さは14.7～15.3gで、両端に孔を有する。

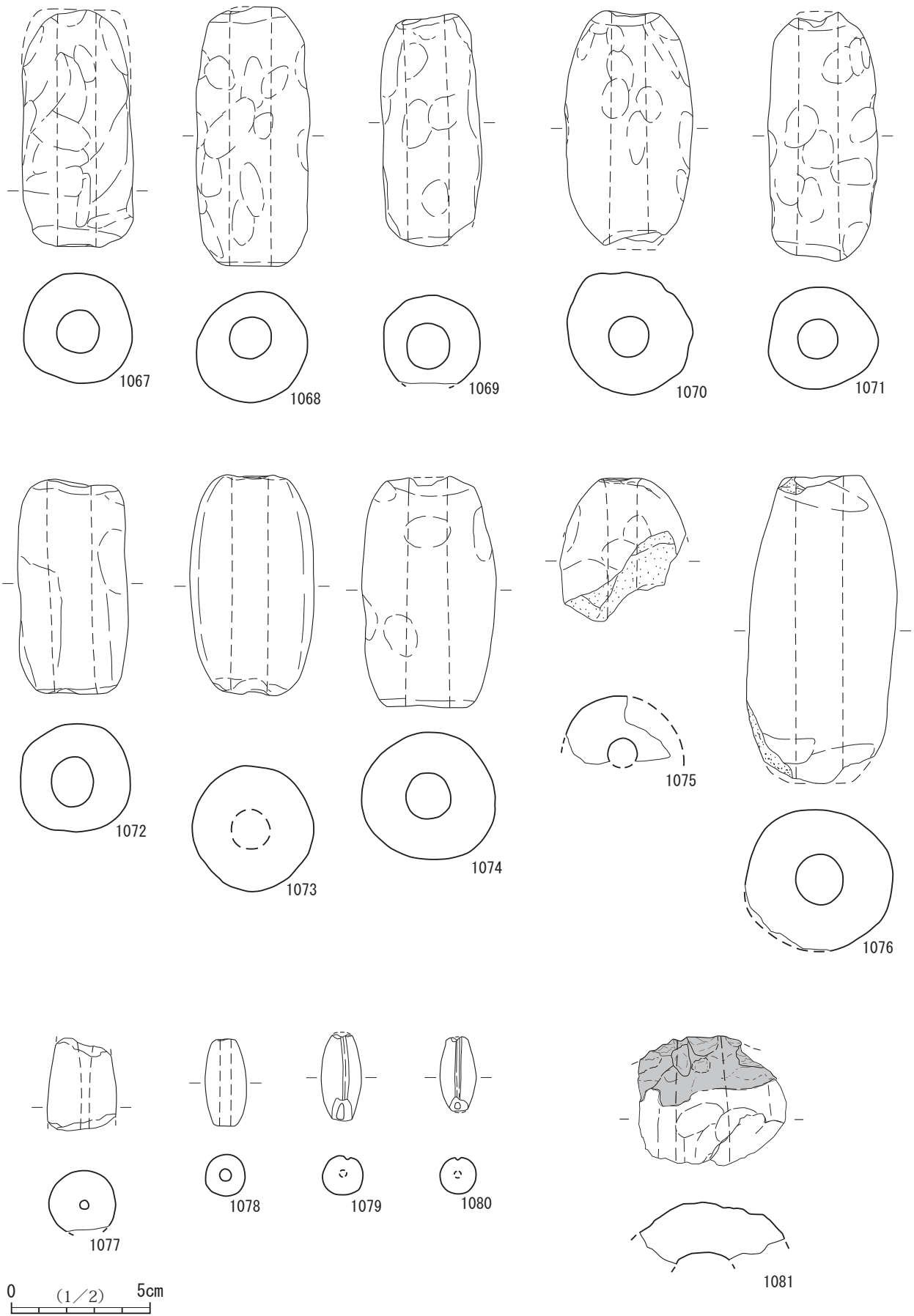
1067～1080は管状土錘である。このうち1067～1076は大型の管状土錘で、長さ7.7～11.1cm、厚さ3.6～5.3cm、重さ111～280g、孔径1～1.7cmを測り、外面は指押さえ痕、ナデ調整の痕跡が良く残っている。1077、1078は小型で細身の管状土錘である。1077は土錘の幅に対して孔径が狭いのが特徴で、長さは1078が3.3cm、孔径0.3～0.4cmである。

1079、1080は外面の長軸方向に溝を有する有溝管状土錘である。復元される長さは3cmほどで、重さは3～5gである。

1081は鞆羽口の火口部片である。古代～中世の遺物包含層から出土した。復元される風孔径は約2cmで、先端部から2cmほどは黒色で、被熱によりガラス状に溶けている。胎土中に砂礫を多く含む。この鞆に伴う炉跡は確認されていないが、包含層中からはわずかにスラグ片が出土している。

(2) 石器・石製品

石器・石製品については縄文時代包含層を中心に大量に出土した。製品のみならず、サヌカイト、姫島産黒曜石などの石材や製作時の剝片も多く出土していることから、この地で石材の搬入および石器製作が行われたことを物語るものである。本報告では出土石器のうち777点について掲載することとし、これらの実測、遺物観察を株式会社アルカに委託した。以下に掲載する石器観察表も株式会社アルカ作成によるもので、石器についての記述もこれを参考としている。なお観察表の表記については以下のとおりであり、石材は肉眼観察による。また同社による使用痕分析もあわせて実施し、その結果を付編に掲載している。



第129図 土製品実測図(3)

第6表 土製品観察表

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重さ(g)	特徴・調整
1046	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	有溝土鍾	砂粒含	良	褐	5.3	3.0	2.7	40.0	ナデ調整。溝2条
1047	20・21-2	東半 山側	古代	有溝土鍾	砂粒含	良	にぶい黄褐	5.4	3.1	2.4	32.8	全体的に摩滅、ナデ調整。溝2条。
1048	20・21-2	東半 山側	弥生	有溝土鍾	砂粒含	良	にぶい黄褐	5.0	2.9	2.4	30.5	全体的に摩滅、ナデ調整。溝2条。
1049	20・21-2		古代～中世	有溝土鍾	砂粒含	堅緻	褐	6.0+ α	2.8	2.8	48.2	ナデ調整。溝2条
1050	20・21-2		古代～中世	有溝土鍾	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐	6.6	3.1	2.9	56.3	ナデ調整。溝2条
1051	20・21-3	海側	弥生	有溝土鍾	砂粒含 雲母	良	にぶい黄褐	7.3	3.6	3.6	87.1	ナデ調整。溝2条
1052	20・21-1	試掘TR2内		有溝土鍾	砂粒含	良	暗灰	7.2	3.9	3.6	92.1	ナデ調整。溝4条
1053	20・21-2	海側	古代	有溝土鍾	砂粒含	良	にぶい黄褐	9.6+ α	4.4	4.0	191.6	摩滅。溝2条。
1054	20・21-2	西半 山側	古代遺構面	有溝土鍾	砂粒含 雲母	良	にぶい赤褐	7.7	4.2	4.4	144.7	ナデ調整。溝2条。 図版28左4
1055	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生～古代	有溝土鍾	砂粒含	良	にぶい褐	8.0+ α	4.3	2.5+ α	90.7	ナデ調整。残存する溝は1条。
1056	20・21-2	東半 山側		有溝土鍾	砂粒含	良	浅黄	8.8+ α	5.1+ α	4.0+ α	142.3	ナデ調整。残存する溝は1条。
1057	20・21-2		古代～中世	有溝土鍾	砂粒含	良	にぶい赤褐	6.4+ α	4.5+ α	2.0+ α	62.1	ナデ調整で丁寧な作り。残存する溝は1条。
1058	20・21-2		古代～中世	有溝土鍾	砂粒含	堅緻	にぶい赤褐	4.1+ α	3.9	3.8	44.4	ナデ調整で丁寧な作り。溝2条。
1059	20・21-2	西半 山側	SK13	棒状土鍾	砂粒含	良	にぶい黄橙	7.6	1.2-1.4	1.0-1.2	15.3	ナデ調整。孔2。
1060	20・21-2	海側	古代	棒状土鍾	砂粒含	良	灰褐	7.2	1.2-1.5	1.0-1.2	14.7	棒状のものを切断して成形、ナデ調整。孔2
1061	20・21-2	東半 山側 土手2より北	褐灰色土（古代湿地層の上）	棒状土鍾	砂粒含	良	灰黄褐	3.3+ α	1.2-1.4	0.9-1.2	5.3	1/2残。
1062	20・21-2	東半 山側 土手2より北	褐灰色土（古代湿地層の上）	棒状土鍾	砂粒含	良	褐	3.4+ α	1.2-1.4	0.7-1.2	6.2	1/2残。
1063	20・21-2	海側	古代	棒状土鍾	砂粒含	良	灰黄褐	3.7+ α	1.4	1.0-1.3	7.1	ナデ調整。1/2残。
1064	20・21-2	海側	古代	棒状土鍾	砂粒含 金雲母	良	にぶい褐	4.0+ α	1.2	1.1-1.2	7.4	ナデ調整。1/2残。
1065	20・21-2		古代	棒状土鍾	砂粒含	良	にぶい黄褐	4.4+ α	1.7	0.9-1.3	11.5	ナデ調整。1/2残。
1066	20・21-2		古代	棒状土鍾	砂粒含	良	にぶい黄褐	4.6+ α	1.2-1.4	1.1-1.4	9.8	ナデ調整。1/2残。
1067	20・21-2	海側	古代	管状土鍾	砂粒含	良	にぶい黄褐	8.5	3.9	4.0	111.2	指押さえ痕あり。
1068	20・21-2	海側	古代	管状土鍾	砂粒含	良	にぶい黄褐	9.4	4.0	4.0	143.2	指押さえ痕あり
1069	20・21-2	湿地層内	古代湿地層 黒褐色粘質シルト	管状土鍾	砂粒含 雲母	良	灰黄褐	8.4	3.6	3.2+ α	85.8	ナデ調整、指押さえ痕残る

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	胎土	焼成	色調	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重さ(g)	特徴・調整
1070	20・21-2	海側	古代	管状土錘	砂粒含	良	にぶい黄橙	8.4	4.5	4.4	148.0	指押さえ痕あり
1071	20・21-3		弥生～古代	管状土錘	砂粒含	良	灰黄褐	9.0	3.9	3.6	120.8	指押さえ痕あり
1072	20・21-2	湿地層内	古代湿地層 黒褐色粘質シルト	管状土錘	砂粒含	良	にぶい黄橙	7.7	3.9	3.9	116.1	指押さえ痕あり
1073	20・21-2	東半	古代	管状土錘	砂粒多含	良	黒褐～黒	7.9	4.4	4.6	158.7	指押さえ痕あり
1074	20・21-2	海側	古代	管状土錘	砂粒含	良	にぶい褐	8.4	4.8	4.6	174.4	指押さえ痕あり
1075	20・21-3		弥生～古代	管状土錘	砂粒含	堅緻	にぶい赤褐	5.2+ α	4.6+ α	2.4+ α	52.9	ナデ調整、指押さえ痕あり。 1/2残。
1076	20・21-3		弥生～古代	管状土錘	砂粒含	良	にぶい黄橙	11.1	5.3	(5.1)	280.1	ナデ調整。
1077	20・21-2	湿地層内	古代湿地層 黒褐色粘質シルト	管状土錘	砂粒含	良	にぶい赤褐	3.4+ α	2.5	2.1+ α	19.3	摩滅。1/2残。
1078	20・21-2			管状土錘	緻密	良	にぶい黄褐	3.3	1.4	1.5	6.3	ナデ調整。
1079	20・21-1	中央TR内	弥生	有溝管状土錘	砂粒含	やや良	にぶい橙	3.1+ α	1.45	1.4	5.3	溝1条あり。
1080	20・21-1	中央TR内	弥生	有溝管状土錘	砂粒含	やや良	にぶい橙	2.7+ α	1.3	1.3	3.7	溝1条あり。
1081	20・21-2		古代～中世	鞆羽口	砂粒含	良	(外) 黒～褐灰 (内) 灰赤	4.7+ α	—	—	43.4	指押さえ痕あり。被熱。先端部残。風孔径2cm+ α

石器観察表の記号について

石器の「技術」とは、石を剥ぐ、剥離技術の意味である。そして剥離技術とは「工具（ハンマーの種類）とその身振り」と定義できる。ハンマーの種類は、「圧縮力」と「変形の有無」による組合せから、4種類に整理される。

「H」：「高い圧縮力」と「変形無」の真正ハードハンマーである。この材質はチャートなどの硬度のある石が該当する。こうしたハンマーの場合は、コーンタイプの剥離の開始部をもつ剥片が生じる。

非常に強い垂直打撃を与えると、剥離の開始部は楔タイプとなる。この場合小文字で「v」とする。(例 HvD)

「H」：「低い圧縮力」で「変形無」のハードハンマーがある。ハードハンマーでありながらソフトハンマーのような身振りでは剥離面が形成できないハンマーで、その材質は柔らかい石などである。このハンマーは引張応力で剥片を剥がすが、その剥離の開始部に明瞭なコーンが形成されるのが特徴である。

「S」：「低い圧縮力」と「変形有」の真正のソフトハンマーである。材質は木などが考えられる。このハンマーの場合、ハンマーを相当に寝かせて振り抜かないと剥離できない。主に引張応力で剥片は剥がれるので、剥離の開始部は曲げタイプである。

「S」：「高い圧縮力」をもちながら「変形有」のハンマーは、ソフトハンマーでありながらハードハンマーに極めて近い剥離面を産み出すハンマーもある。材質は鹿角などが考えられる。ハンマー接触部が変形するのでコーンが歪むのが、このハンマーの特徴である。

ハードハンマーとソフトハンマーは、従来はその材質によって理解されてきているが、物理的な属性としてハンマーを考えると、上記のように対象物に当たった瞬間に変形するか、変形しないかという理解のほうが適切である。

変形の有無や程度は、コーンに表現され、圧縮力の高さはコーンの面積やバルブの面積に対応する。圧縮力のない場合は、主に引張応力によって剥片剥離が生ずるので、ソフトハンマーの場合は、ハンマーを寝かせた状態（石核を立てた状態）で剥離作業が行われないと剥片は剥がれない。したがって、圧縮力の属性は、ハンマーの振り（もしくは石核の持ち方）に大きな影響を与える（角張 1998、00、02、03、07ab）。

ハンマーの身振りは、直接打撃（D）、間接打撃（I）、押圧剥離（P）とする。

身振りとハンマーを、HD、S'Pなどのように組合せて表記する。

剥離方向を示す正反、稜上正反の用語は竹岡（1989、p104）によっている。

剥離の用途をしめす場合、剥離記号の後ろに記載する。（例 HP/鋸歯など）

またどの辺かを明記したい場合は、辺の場所を併記する。（例 HP/鋸歯/下辺など）

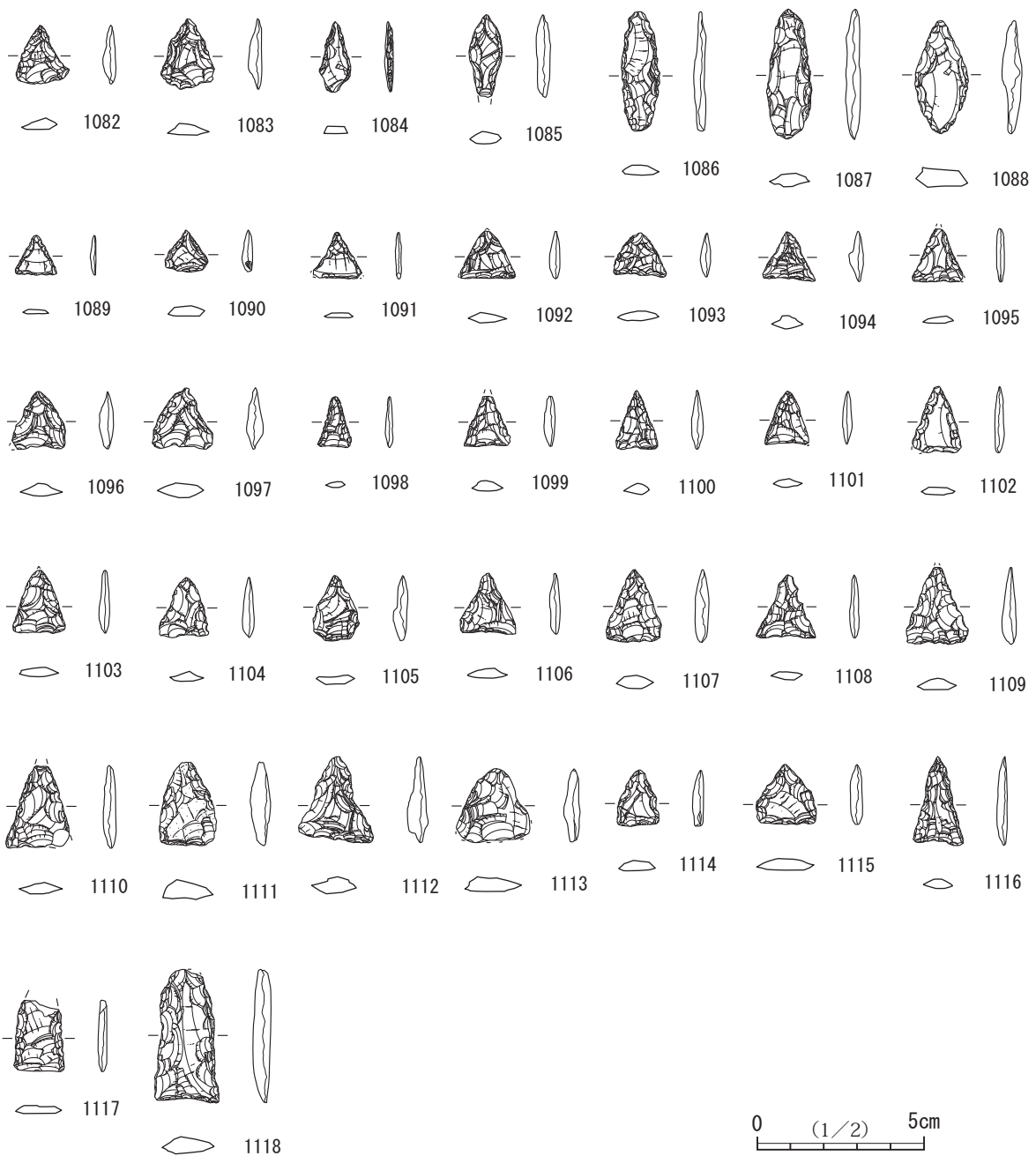
上記以外に： Pe：敲打整形 Po：研磨整形

石鏃 (第130～135図 図版96～101)

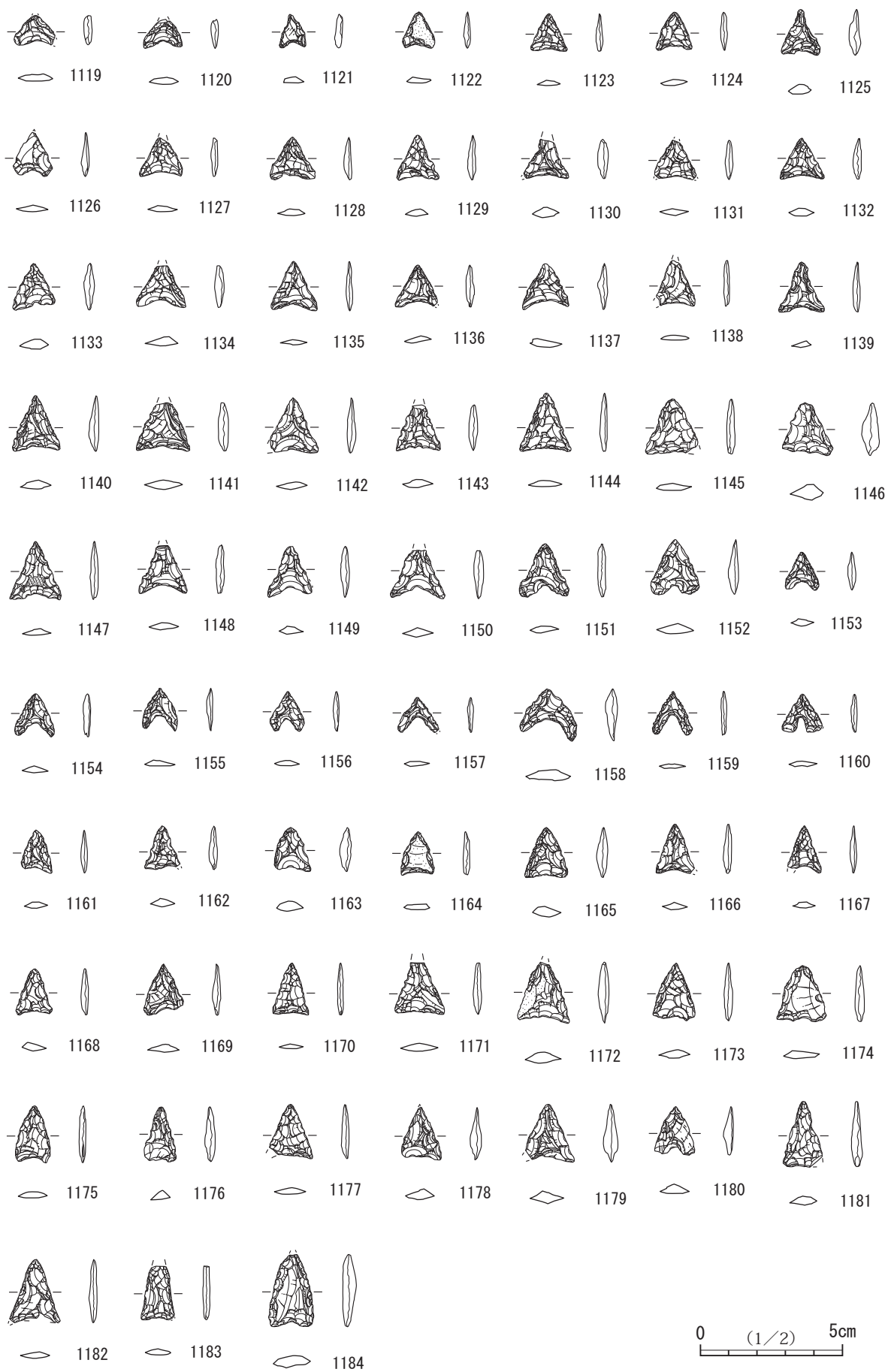
今回の調査では破片を含む約500点の石鏃が出土している。ここでは形態が明らかな300点について掲載した。観察表では石鏃の基部形態により凹基・円基・尖基・有茎鏃に区分し(不明は石鏃とした)、全体の形態が不明瞭な場合は、石鏃未製品とした。また基部の抉りが浅いため凹基鏃と平基鏃の区別がつかない場合は、凹基鏃とした。平面形態では五角形と三角形に分けられ、縁辺が鋸歯状に加工されている鏃もみられる(形態の後に「/鋸歯縁」と記載)。

1082～1243はサヌカイト製、1244～1380は黒曜石製、1381はチャート製の石鏃である。これらの多くは凹基・平基鏃であるが、形態によって使用する石材の違いは認められない。

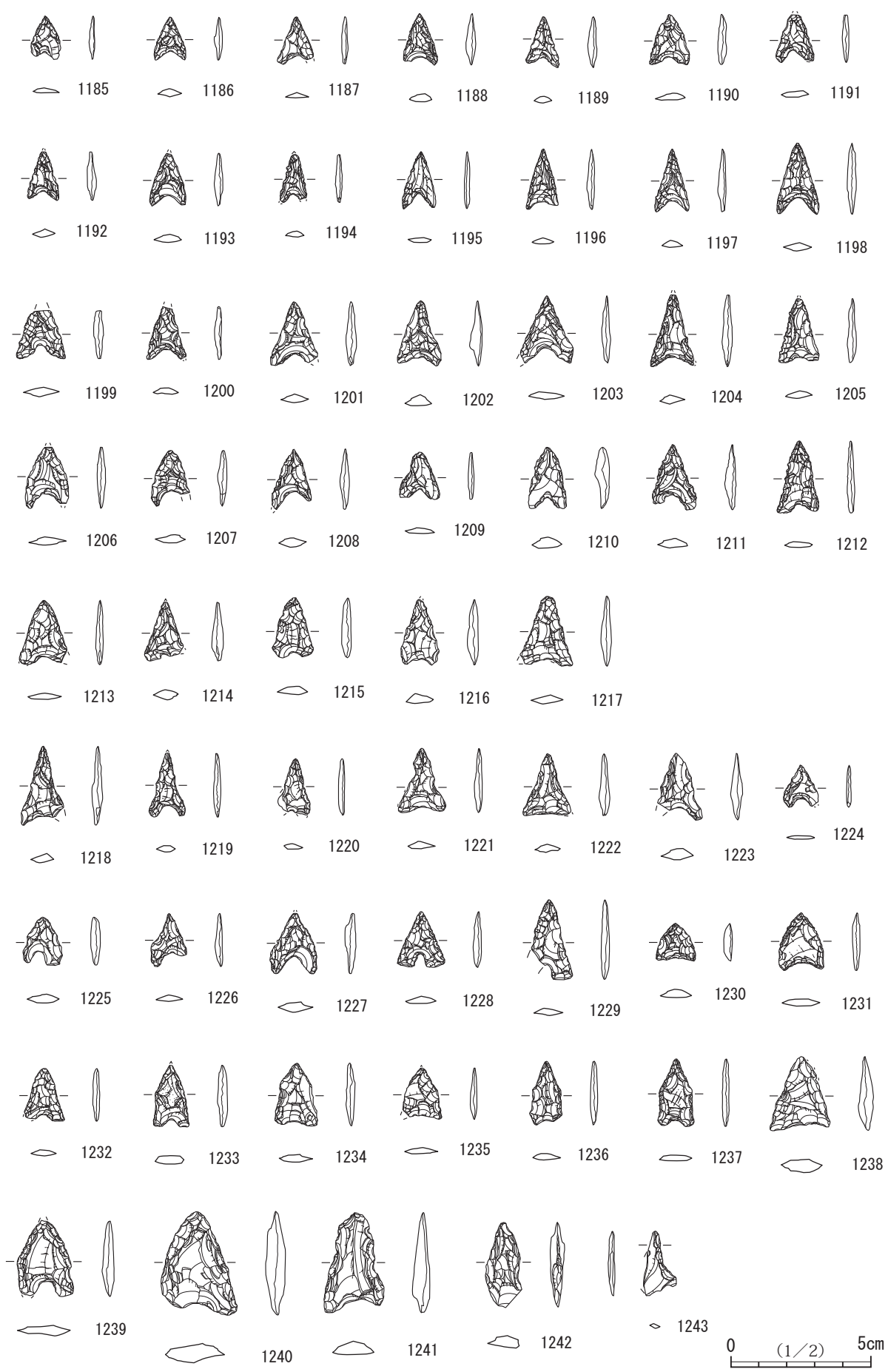
サヌカイト製のみみられる石鏃は、有茎鏃(1084、1085)、尖基鏃(1086～1088)、長脚でブーメラン状をなす鏃(1157～1159)、大型石鏃(1112、1118、1240、1241)である。なお1085



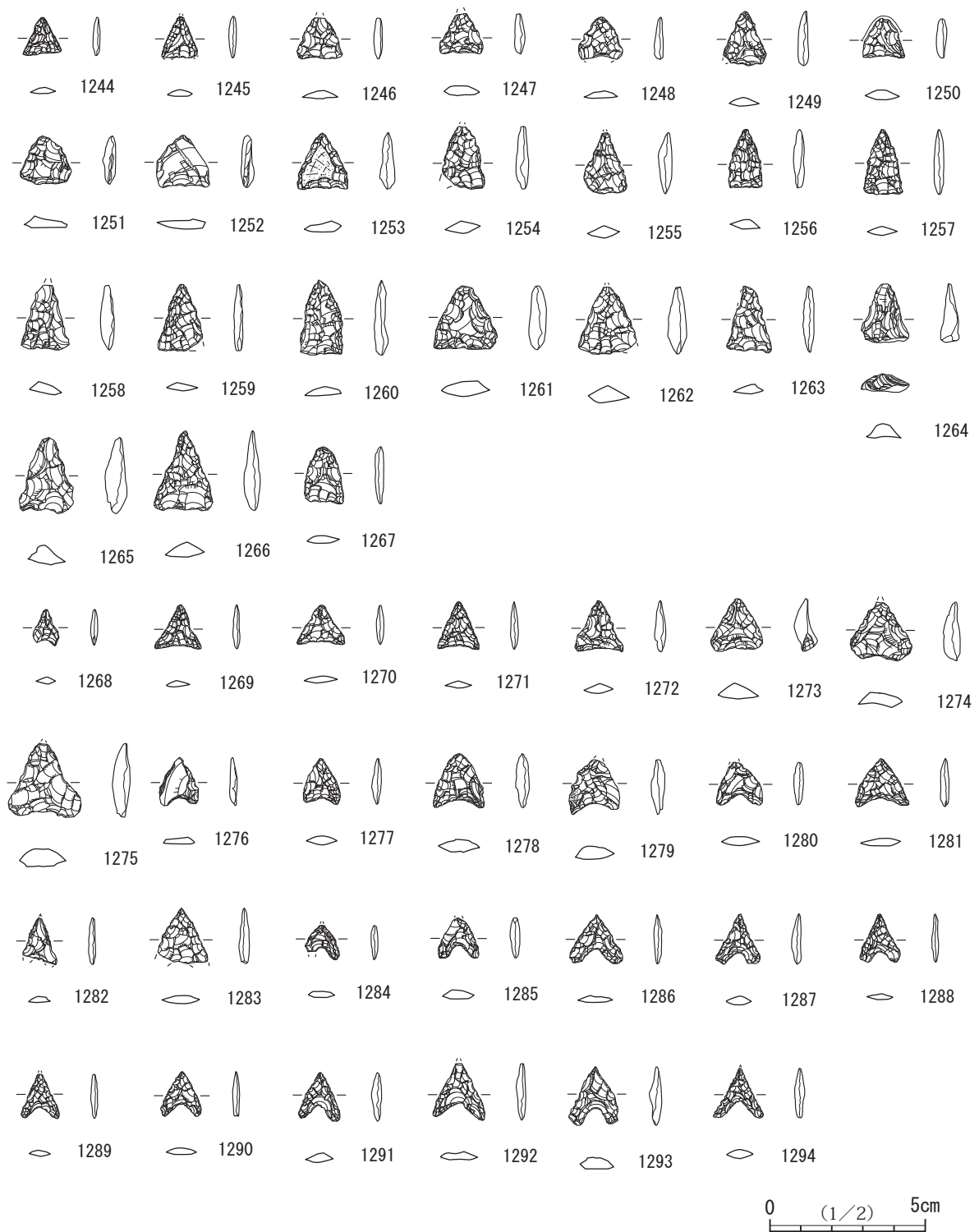
第130図 石器・石製品実測図(1)



第131图 石器・石製品実測図(2)



第 132 图 石器・石製品実測図(3)

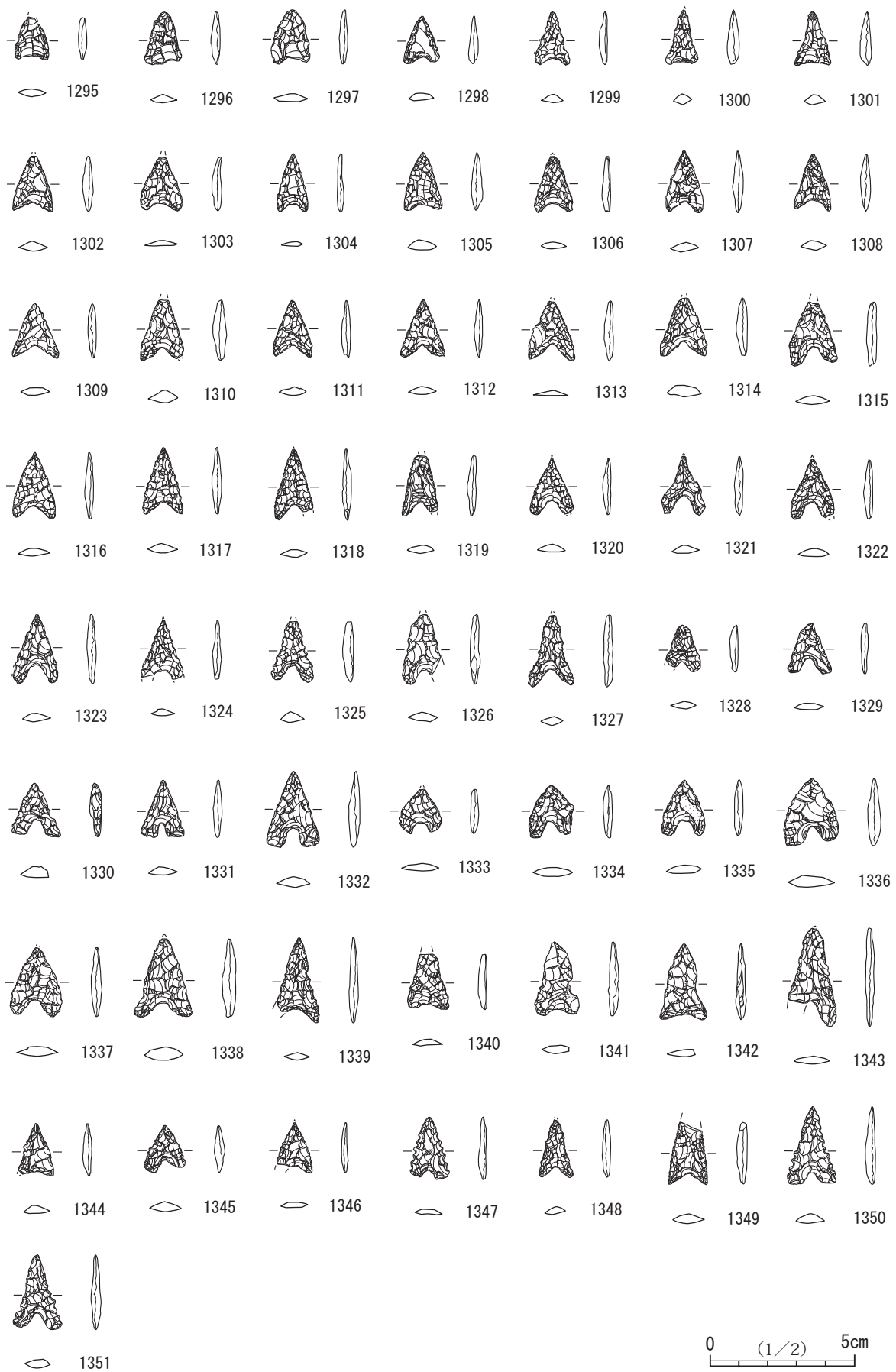


第133図 石器・石製品実測図(4)

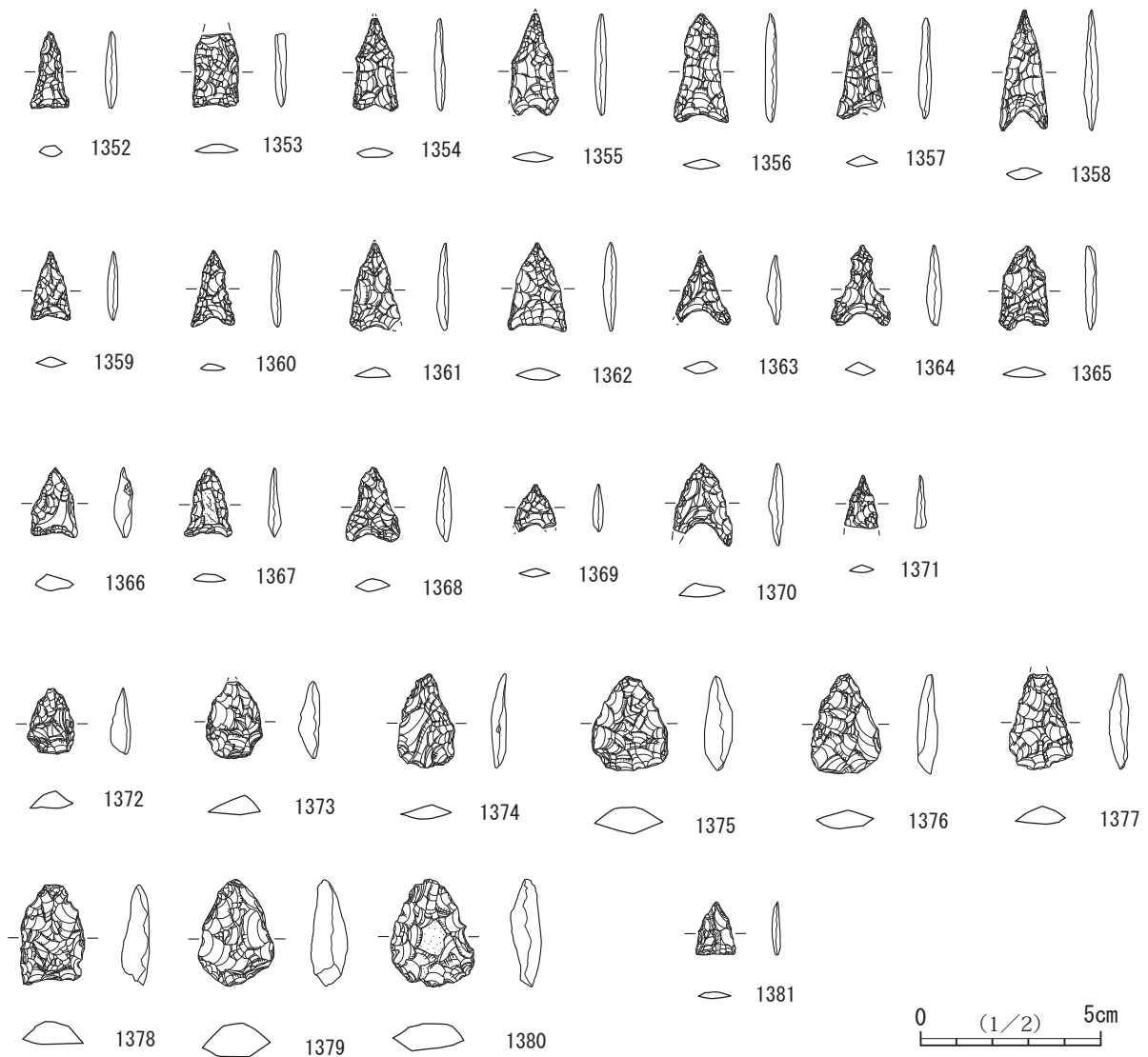
は形態から磨製石鏃の模倣品である可能性がある。

黒曜石製では、側辺が緩やかに内湾する(1226、1364)や、脚部と体部の間に突起を有する鏃(1354、1364)が認められた。また平面三角形で鋸歯縁を有するもの(1344～1351)は黒曜石製に限られる。

石鏃の大きさは、長さ3 cm、重さ1 g以下のものがほとんどで、最小のものは0.2 gである。最大のものは長さ4 cm、重さ5.6 gである。



第134图 石器·石器实测图(5)



第135図 石器・石製品実測図(6)

第7表 石器・石製品観察表(1) - 1

番号	地区	出土場所	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1082	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	円基鏃	三角形	サヌカイト	17.7	16.0	4.1	0.8	
1083	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	円基鏃	五角形	サヌカイト	21.3	16.1	4.3	1.0	
1084	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	有茎鏃	三角形	サヌカイト	21.3	9.6	2.8	0.6	
1085	20・21-2	西半 海側	弥生	有茎鏃	三角形	サヌカイト	24.9	10.2	4.4	1.1	磨製石鏃の模倣品
1086	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	尖基鏃	棒状	サヌカイト	36.0	11.7	3.8	1.6	
1087	20・21-2	土手1～2間	弥生	尖基鏃	三角形	サヌカイト	39.1	13.7	4.5	2.5	
1088	20・21-2		縄文3	尖基鏃	三角形	サヌカイト	34.0	16.2	6.1	2.7	
1089	20・21-2	土手1～2間	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	12.0	12.5	1.8	0.2	
1090	20・21-1	中央TR～東TR間 東半	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	12.7	13.0	3.3	0.5	
1091	20・21-2	西半 山側	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	14.1	14.7	1.9	0.3	
1092	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	14.3	16.6	3.4	0.6	
1093	20・21-1	中央TR～東TR間 西半	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	13.4	15.9	3.3	0.5	
1094	20・21-2	土手1	縄文	平基鏃	三角形	サヌカイト	15.1	15.8	4.5	0.6	
1095	20・21-2	西半 山側	古代	平基鏃	三角形	サヌカイト	16.1	15.2	2.5	0.5	
1096	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文～弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	17.3	16.1	4.4	0.9	

第7表 石器・石製品観察表(1) - 2

番号	地区	出土場所	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1097	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	18.5	18.2	5.2	1.2	
1098	20・21-2	土手1～2間	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	15.4	10.2	2.5	0.3	
1099	20・21-2	土手1～2間	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	15.2	13.9	3.6	0.6	
1100	20・21-2	土手1	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	17.8	12.7	3.7	0.6	
1101	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	16.2	13.3	3.0	0.5	
1102	20・21-2	土手2	縄文～弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	20.0	14.7	3.0	0.8	
1103	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	19.0	15.7	3.3	0.8	
1104	20・21-2	土手1～2間	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	18.2	14.9	3.7	0.8	
1105	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	19.7	14.0	4.5	0.9	
1106	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	18.4	16.8	3.4	0.8	
1107	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	平基鏃	三角形	サヌカイト	21.8	16.7	4.4	1.4	
1108	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	19.0	17.9	3.0	0.6	
1109	20・21-2	土手1～2間	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	23.2	18.6	4.4	1.5	
1110	20・21-3		縄文	平基鏃	三角形	サヌカイト	25.0	19.2	4.0	1.7	
1111	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	25.2	17.3	6.3	2.3	
1112	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	26.0	22.5	6.5	2.1	大型石鏃
1113	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文3	平基鏃	三角形	サヌカイト	22.2	22.1	5.2	1.9	
1114	20・21-2	西半 山側	弥生	平基鏃	五角形	サヌカイト	17.0	12.6	3.4	0.8	
1115	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	平基鏃	五角形	サヌカイト	18.1	18.1	3.9	1.3	
1116	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	平基鏃	五角形	サヌカイト	26.7	15.0	3.3	1.0	
1117	20・21-1	中央TR～東TR間 西半	弥生	平基鏃	不明	サヌカイト	21.6	15.2	2.8	1.2	
1118	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	平基鏃	三角形	サヌカイト	40.1	19.4	5.7	4.6	大型石鏃
1119	20・21-2	土手1	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	10.5	14.4	3.0	0.4	
1120	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	10.3	13.7	2.8	0.3	ブーメラン形
1121	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2～縄文3	凹基鏃	三角形	サヌカイト	11.9	9.4	3.0	0.3	
1122	20・21-3	東半	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	12.9	11.5	2.6	0.3	
1123	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	13.4	12.9	2.5	0.3	
1124	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	13.5	12.7	2.5	0.4	
1125	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	16.3	13.8	4.4	0.6	
1126	20・21-2	東半 海側	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	15.6	13.9	2.9	0.4	
1127	20・21-2	土手2周辺	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	13.7	15.2	2.5	0.4	
1128	20・21-3	中央土手	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	15.2	16.0	3.0	0.4	
1129	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	15.9	14.9	3.0	0.4	
1130	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生～古代	凹基鏃	三角形	サヌカイト	13.9	15.9	3.9	0.5	
1131	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	14.1	14.8	2.9	0.4	
1132	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	14.5	15.6	3.1	0.5	
1133	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	凹基鏃	三角形	サヌカイト	16.5	14.9	4.0	0.6	
1134	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	14.9	17.5	3.6	0.6	
1135	20・21-3	西半	弥生～古代	凹基鏃	三角形	サヌカイト	17.5	16.3	2.5	0.4	
1136	20・21-1	試掘TR周辺	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	14.9	14.9	3.0	0.5	
1137	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	16.3	16.5	3.6	0.5	

第7表 石器・石製品観察表(1) - 3

番号	地区	出土場所	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1138	20・21-1	試掘TR周辺	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	16.3	13.7	2.1	0.4	
1139	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	17.8	16.2	2.6	0.4	
1140	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	19.7	16.8	3.6	0.7	
1141	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	凹基鏃	三角形	サヌカイト	17.1	18.9	3.6	1.0	
1142	20・21-3	東半	弥生～古代	凹基鏃	三角形	サヌカイト	19.5	17.0	3.3	0.7	
1143	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	16.3	15.5	3.3	0.6	
1144	20・21-2	土手1～2間	弥生～古代	凹基鏃	三角形	サヌカイト	20.7	18.2	2.7	0.8	
1145	20・21-2	土手1～2間	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	19.4	18.6	3.0	0.8	
1146	20・21-2	土手1～2間	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	18.7	17.9	6.3	1.3	
1147	20・21-2	土手2周辺	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	20.5	18.2	3.0	0.7	
1148	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	17.2	17.1	3.2	0.6	
1149	20・21-1	中央TR内	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	18.0	15.7	3.3	0.5	
1150	20・21-1	中央TR付近	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	17.1	19.3	3.6	0.7	
1151	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	18.9	17.6	3.0	0.7	
1152	20・21-3	西半	遺構面およびその下層	凹基鏃	三角形	サヌカイト	19.4	17.2	3.8	0.9	
1153	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	13.5	12.0	3.0	0.3	
1154	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	15.3	14.1	2.8	0.4	
1155	20・21-2	東半 海側	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	15.1	12.5	2.5	0.3	
1156	20・21-2	西半 山側	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	14.2	12.2	2.2	0.3	
1157	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	凹基鏃	三角形	サヌカイト	12.5	14.4	2.2	0.2	ブーメラン形、長脚
1158	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	18.4	20.2	4.4	0.8	ブーメラン形、長脚
1159	20・21-2	西半 山側	縄文3	凹基鏃	三角形	サヌカイト	15.5	14.2	2.1	0.3	ブーメラン形、長脚
1160	20・21-3	西半	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	13.5	14.2	2.3	0.3	
1161	20・21-3	西半 山側	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	15.2	11.0	2.5	0.3	
1162	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	15.4	12.6	3.3	0.4	
1163	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	15.7	13.0	4.3	0.7	
1164	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	五角形	サヌカイト	15.5	11.8	2.5	0.4	
1165	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	17.7	15.2	4.1	0.7	
1166	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	17.4	13.7	3.0	0.5	
1167	20・21-3	西半	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	16.8	11.9	2.5	0.3	
1168	20・21-2	土手2周辺	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	16.4	12.9	2.8	0.4	
1169	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	18.1	14.1	3.2	0.5	
1170	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	18.4	12.7	2.2	0.4	
1171	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	18.3	17.6	3.1	0.8	
1172	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	21.6	18.4	4.1	1.1	
1173	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	20.4	14.9	3.3	0.8	
1174	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	19.9	17.4	3.4	1.1	
1175	20・21-2	西半 海側	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	20.2	12.3	2.5	0.6	
1176	20・21-2	海側～試掘TR間	縄文3	凹基鏃	三角形	サヌカイト	19.4	11.3	3.8	0.5	
1177	20・21-1	中央TR内	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	19.2	15.3	2.8	0.6	
1178	20・21-3	西半	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	18.7	14.1	4.2	0.7	

第7表 石器・石製品観察表(1) - 4

番号	地区	出土場所	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1179	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	20.5	17.3	5.4	1.0	
1180	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	凹基鏃	三角形	サヌカイト	17.2	14.2	3.6	0.5	
1181	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	凹基鏃	三角形	サヌカイト	23.2	14.0	4.1	0.9	
1182	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	凹基鏃	五角形	サヌカイト	22.4	17.8	3.0	0.7	
1183	20・21-2	土手1～2間	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	19.0	11.7	2.6	0.6	
1184	20・21-2	海側	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	25.5	16.0	5.1	1.6	
1185	20・21-3	東半	弥生～古代	凹基鏃	三角形	サヌカイト	15.5	10.7	2.2	0.3	
1186	20・21-3	東半	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	15.5	11.5	3.1	0.3	
1187	20・21-2	西半 海側	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	16.9	12.9	2.5	0.4	
1188	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	18.6	12.3	3.7	0.5	
1189	20・21-3	東半	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	18.2	12.0	3.5	0.4	
1190	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	18.1	14.3	3.3	0.7	
1191	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	17.1	13.7	2.5	0.5	
1192	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	17.5	11.3	3.4	0.4	
1193	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	19.0	13.1	3.3	0.5	
1194	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	凹基鏃	三角形	サヌカイト	17.3	9.7	2.6	0.3	
1195	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	20.6	12.0	2.2	0.4	
1196	20・21-3	西半	黒褐色土	凹基鏃	三角形	サヌカイト	21.7	11.6	3.0	0.5	
1997	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	22.6	12.4	3.2	0.5	
1198	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	凹基鏃	三角形	サヌカイト	25.5	15.1	3.5	0.7	
1199	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	凹基鏃	三角形	サヌカイト	17.3	17.6	3.6	0.7	
1200	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	18.9	14.2	2.6	0.4	
1201	20・21-1	中央TR内	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	22.9	17.0	3.8	0.8	
1202	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	凹基鏃	三角形	サヌカイト	23.4	15.8	4.7	0.9	正面に瘤
1203	20・21-2	東半 海側	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	24.1	19.0	3.3	0.9	
1204	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	25.8	15.5	3.8	0.9	
1205	20・21-3	東半	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	23.0	14.5	3.3	0.8	
1206	20・21-2	西半 海側	縄文～縄文3	凹基鏃	三角形	サヌカイト	22.0	15.6	3.3	0.8	
1207	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	凹基鏃	三角形	サヌカイト	20.0	13.8	3.4	0.6	
1208	20・21-2	西半 海側	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	21.8	14.2	3.6	0.6	
1209	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	17.0	14.5	2.2	0.4	
1210	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	22.1	13.7	5.4	1.1	
1211	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	凹基鏃	三角形	サヌカイト	23.5	15.8	4.1	0.9	
1212	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	凹基鏃	五角形/ 鋸歯縁	サヌカイト	25.9	15.0	2.8	0.8	
1213	20・21-3	東半	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	23.1	17.3	2.9	0.8	
1214	20・21-3	西半	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	21.2	14.0	4.4	0.8	
1215	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	21.5	14.7	3.6	0.9	
1216	20・21-2	土手2周辺	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	23.6	13.7	4.1	1.0	
1217	20・21-2	西半 海側	古代	凹基鏃	三角形	サヌカイト	25.0	18.8	3.9	1.1	
1218	20・21-2	西半 海側	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	28.3	15.3	3.9	0.9	
1219	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	凹基鏃	三角形	サヌカイト	22.9	13.1	2.8	0.5	

第7表 石器・石製品観察表(1) - 5

番号	地区	出土場所	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1220	20・21-2	海側～試掘TR間	縄文3	凹基鏃	三角形	サヌカイト	20.3	11.5	2.4	0.5	
1221	20・21-3	西半 山側	弥生～古代	凹基鏃	三角形	サヌカイト	23.1	17.1	3.0	0.7	
1222	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	22.2	17.2	4.0	0.9	
1223	20・21-3	東半	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	23.9	16.1	4.4	0.9	
1224	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	15.2	12.6	1.8	0.3	
1225	20・21-2	西半 海側	縄文	凹基鏃	三角形	サヌカイト	17.3	14.2	3.6	0.7	
1226	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	19.0	12.8	2.9	0.4	側辺緩やかに内湾
1227	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	21.6	16.8	4.1	0.9	
1228	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2～縄文3	凹基鏃	三角形	サヌカイト	20.2	17.0	3.1	0.7	
1229	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	凹基鏃	三角形	サヌカイト	28.6	14.8	3.2	0.9	
1230	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	五角形	サヌカイト	13.5	14.2	3.3	0.6	
1231	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	20.7	16.2	3.0	0.9	
1232	20・21-2	西半 山側	古代	凹基鏃	五角形	サヌカイト	18.9	14.4	2.6	0.6	
1233	20・21-2	西半 海側	縄文	凹基鏃	五角形	サヌカイト	22.2	12.9	3.7	1.0	
1234	20・21-2	土手1～2間	縄文～弥生	凹基鏃	五角形	サヌカイト	22.6	15.3	3.4	0.9	
1235	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	五角形	サヌカイト	18.5	14.1	2.5	0.6	
1236	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	凹基鏃	五角形	サヌカイト	22.9	11.8	2.8	0.6	
1237	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	凹基鏃	五角形	サヌカイト	24.2	13.0	2.5	0.8	
1238	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	26.5	21.5	5.6	2.1	
1239	20・21-3	西半	縄文～弥生	凹基鏃	五角形	サヌカイト	27.3	20.4	4.5	2.1	
1240	20・21-2	土手1～2間	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	サヌカイト	37.1	27.3	7.3	5.6	大型石鏃
1241	20・21-2	海側	縄文3	凹基鏃	五角形	サヌカイト	35.8	21.6	6.4	3.6	大型石鏃
1242	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	石鏃未製品	三角形	サヌカイト	30.5	13.1	5.2	1.7	
1243	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文～弥生	石鏃未製品	-	サヌカイト	23.2	11.8	2.5	0.4	平坦な押圧剥離で、石鏃の加工に近い。
1244	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	平基鏃	三角形	黒曜石	12.4	12.4	2.5	0.3	
1245	20・21-2	西半 海側	弥生	平基鏃	三角形	黒曜石	13.5	11.6	2.6	0.3	
1246	20・21-3	東半	縄文	平基鏃	三角形	黒曜石	13.4	14.7	3.0	0.5	
1247	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文2～弥生	平基鏃	三角形	黒曜石	13.1	14.2	3.6	0.6	
1248	20・21-2	西半 山側	古代	石鏃	三角形	黒曜石	13.7	14.3	3.0	0.5	
1249	20・21-2	西半 山側	縄文3	石鏃	三角形	黒曜石	17.6	13.9	3.6	0.7	
1250	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	平基鏃	三角形	黒曜石	12.9	13.6	3.6	0.5	先端部摩耗。
1251	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	平基鏃	三角形	黒曜石	15.7	16.5	4.3	0.9	
1252	20・21-1	中央TR～東TR間 東半	弥生	平基鏃	三角形	黒曜石	17.0	17.1	4.7	1.1	素材打面側を基部。
1253	20・21-1	中央TR～東TR間 東半	弥生	平基鏃	三角形	黒曜石	18.3	16.5	5.2	1.1	
1254	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	平基鏃	三角形	黒曜石	20.0	14.0	4.2	0.9	
1255	20・21-2	土手1～2間	縄文～弥生	平基鏃	三角形	黒曜石	19.8	14.0	4.5	0.8	
1256	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	平基鏃	三角形	黒曜石	18.9	10.8	3.6	0.6	
1257	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	平基鏃	三角形	黒曜石	21.1	12.6	3.3	0.7	
1258	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	平基鏃	三角形	黒曜石	21.0	15.5	4.7	1.0	
1259	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	平基鏃	三角形	黒曜石	21.6	14.4	3.0	0.7	
1260	20・21-2		縄文3より下層	平基鏃	三角形	黒曜石	24.2	13.9	4.6	1.2	

第7表 石器・石製品観察表(1) - 6

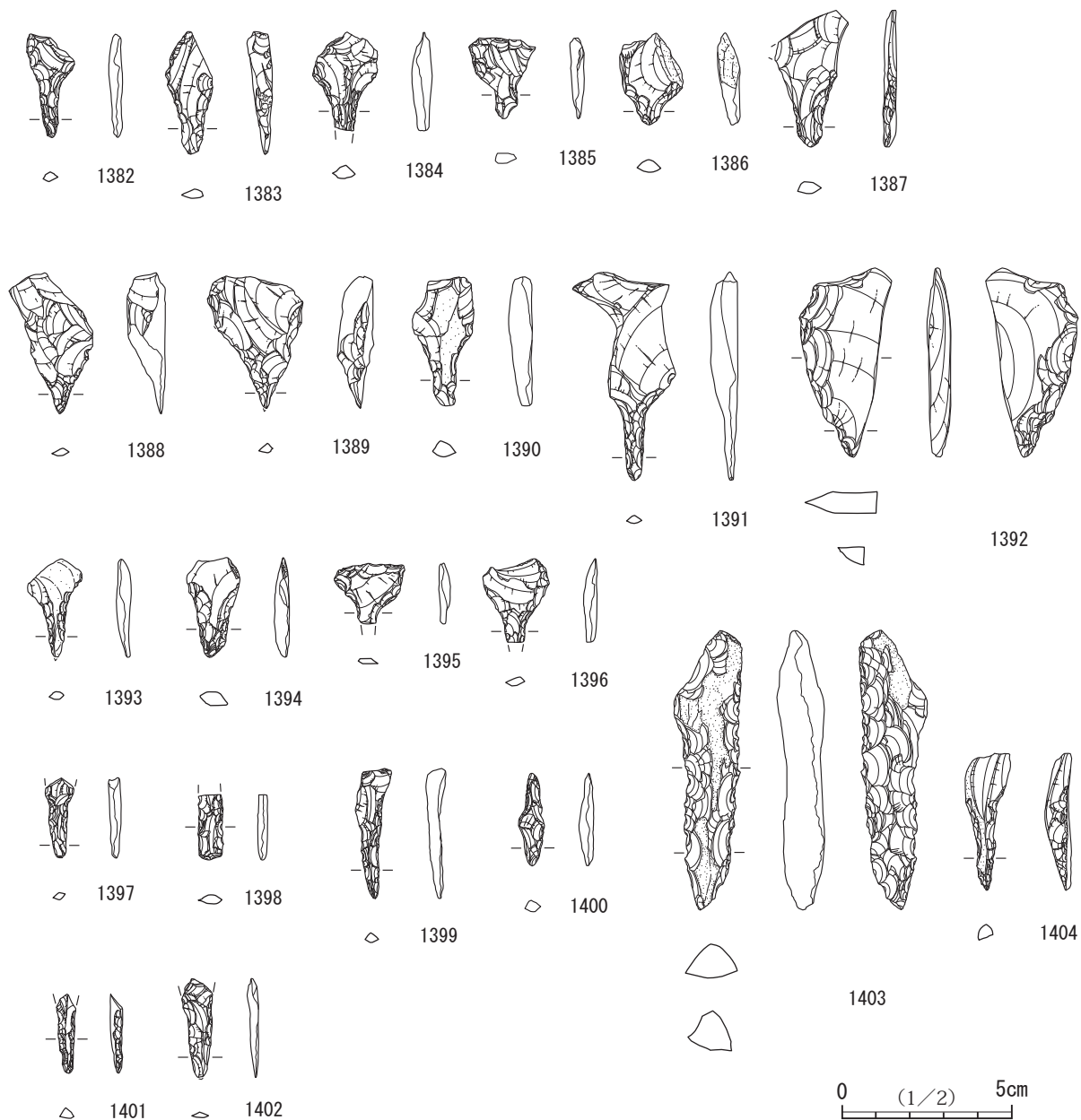
番号	地区	出土場所	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1261	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	平基鏃	三角形	黒曜石	20.5	20.5	5.9	2.1	
1262	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	平基鏃	三角形	黒曜石	21.7	18.7	6.2	1.8	
1263	20・21-3	東半	縄文	凹基鏃	三角形	黒曜石	21.5	14.4	3.8	0.8	
1264	20・21-1	中央TR内	弥生	平基鏃	三角形	黒曜石	19.0	15.5	6.0	1.2	基部平坦面形成
1265	20・21-2	土手1～2間	弥生	石鏃未製品	三角形	黒曜石	24.5	17.6	7.3	1.9	
1266	20・21-2	西半 海側	縄文	平基鏃	三角形	黒曜石	25.8	18.9	5.3	1.6	
1267	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	18.5	12.7	2.9	0.7	
1268	20・21-2	土手3	縄文3	凹基鏃	三角形	黒曜石	11.7	8.6	2.5	0.2	
1269	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	14.3	15.2	2.4	0.3	
1270	20・21-3	西半 山側	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	12.8	15.5	2.5	0.4	
1271	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	15.4	13.5	2.6	0.3	
1272	20・21-1	中央TR内	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	16.6	15.7	3.8	0.5	
1273	20・21-3	西半	遺構面およびその下層	凹基鏃	三角形	黒曜石	17.1	16.8	7.8	1.1	
1274	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面	凹基鏃	三角形	黒曜石	19.0	20.0	5.5	1.6	
1275	20・21-3	東半	縄文	凹基鏃	三角形	黒曜石	23.9	23.6	5.9	2.2	
1276	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	凹基鏃	三角形	黒曜石	15.6	12.8	2.5	0.4	
1277	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	凹基鏃	三角形	黒曜石	14.9	12.0	3.2	0.4	
1278	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	凹基鏃	三角形	黒曜石	17.6	16.5	4.5	0.9	
1279	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	17.8	16.5	4.5	0.9	
1280	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	凹基鏃	三角形	黒曜石	13.9	14.9	3.2	0.5	
1281	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	15.6	17.3	3.0	0.6	
1282	20・21-1	中央TR 南半	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	15.2	11.1	2.5	0.3	
1283	20・21-2	海側	縄文3	凹基鏃	三角形	黒曜石	17.9	16.1	3.5	0.8	
1284	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	11.2	11.2	2.3	0.2	
1285	20・21-2	湿地層内	縄文遺構面	凹基鏃	三角形	黒曜石	13.1	13.1	3.3	0.4	
1286	20・21-2	東半 海側	縄文	凹基鏃	三角形	黒曜石	16.0	17.1	2.7	0.4	
1287	20・21-2	海側	縄文3	凹基鏃	三角形	黒曜石	16.3	14.4	3.2	0.4	
1288	20・21-2	土手1～2間	縄文	凹基鏃	三角形	黒曜石	15.6	13.1	2.4	0.3	
1289	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	14.4	12.3	2.4	0.2	
1290	20・21-3	西半 海側	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	14.5	13.1	2.5	0.3	
1291	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	凹基鏃	三角形	黒曜石	15.7	13.4	3.4	0.4	
1292	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	凹基鏃	三角形	黒曜石	18.4	16.8	3.3	0.5	
1293	20・21-2		SK25	凹基鏃	三角形	黒曜石	18.9	16.0	4.1	0.7	
1294	20・21-3	西半	遺構面およびその下層	凹基鏃	三角形	黒曜石	16.1	16.1	3.4	0.4	
1295	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	14.9	11.9	3.0	0.4	
1296	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	18.4	13.0	3.3	0.6	
1297	20・21-2	海側	縄文3	凹基鏃	三角形	黒曜石	18.9	13.4	3.1	0.6	
1298	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	16.6	12.4	3.5	0.5	
1299	20・21-2	東半 海側	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	18.4	12.1	3.1	0.5	
1300	20・21-2	西半 海側	縄文	凹基鏃	三角形	黒曜石	18.9	11.2	4.4	0.6	
1301	20・21-2	土手2以北	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	18.7	12.6	4.1	0.7	

第7表 石器・石製品観察表(1) - 7

番号	地区	出土場所	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1302	20・21-3	東半	縄文	凹基鏃	三角形	黒曜石	19.3	14.1	3.9	0.7	
1303	20・21-2	土手3	SK15	凹基鏃	三角形	黒曜石	18.8	14.7	3.6	0.6	
1304	20・21-2	海側	縄文3	凹基鏃	三角形	黒曜石	20.3	10.7	2.5	0.4	
1305	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	凹基鏃	三角形	黒曜石	20.2	13.2	4.1	0.8	
1306	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	19.5	13.4	3.2	0.5	
1307	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	凹基鏃	三角形	黒曜石	21.6	13.0	3.8	0.6	
1308	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	19.9	12.8	3.8	0.5	
1309	20・21-3	西半 山側	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	18.9	16.2	3.0	0.7	
1310	20・21-2	西半 山側	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	21.0	15.0	4.9	1.0	
1311	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文	凹基鏃	三角形	黒曜石	19.9	13.6	3.3	0.6	
1312	20・21-3	西半	黒褐色土	凹基鏃	三角形	黒曜石	20.1	15.5	3.1	0.6	
1313	20・21-2	土手3	粘質シルト1	凹基鏃	三角形	黒曜石	20.8	16.2	3.3	0.7	
1314	20・21-1	試掘TR～中央TR間 西半	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	20.1	16.3	4.1	0.9	
1315	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	22.4	16.8	3.7	1.0	
1316	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	凹基鏃	三角形	黒曜石	23.2	14.9	3.3	0.7	
1317	20・21-3	中央土手	縄文2	凹基鏃	三角形	黒曜石	23.2	14.0	3.6	0.7	
1318	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	24.7	13.4	3.3	0.6	
1319	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	21.0	12.6	3.3	0.6	
1320	20・21-2	西半 海側	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	19.8	15.0	3.0	0.5	
1321	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	20.7	15.2	3.2	0.5	側辺緩やかに内湾
1322	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	凹基鏃	三角形	黒曜石	20.8	15.1	3.3	0.6	
1323	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	凹基鏃	三角形	黒曜石	24.1	15.5	3.3	0.7	
1324	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2 上面	凹基鏃	三角形	黒曜石	20.6	14.7	3.3	0.5	
1325	20・21-3	西半 山側	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	21.3	14.7	4.0	0.8	
1326	20・21-2	土手3	縄文3	凹基鏃	三角形	黒曜石	24.3	13.4	3.6	0.8	
1327	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	25.0	16.0	3.6	0.8	
1328	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	凹基鏃	三角形	黒曜石	16.3	12.1	3.0	0.5	
1329	20・21-3	東半	縄文	凹基鏃	三角形	黒曜石	17.7	15.3	2.7	0.5	
1330	20・21-2	土手2以北	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	18.7	16.8	4.3	0.7	
1331	20・21-2	土手2以北	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	20.0	14.9	3.3	0.6	
1332	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	26.5	18.4	4.1	1.1	
1333	20・21-2	海側	縄文3	凹基鏃	三角形	黒曜石	15.5	14.4	3.0	0.5	
1334	20・21-2	土手2	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	18.3	15.6	3.4	0.7	
1335	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	凹基鏃	三角形	黒曜石	19.4	15.2	3.2	0.7	
1336	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文	凹基鏃	三角形	黒曜石	23.4	19.0	4.7	1.5	
1337	20・21-2	土手3	縄文3	凹基鏃	三角形	黒曜石	24.1	18.0	3.8	1.0	
1338	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	凹基鏃	三角形	黒曜石	27.4	20.2	4.9	1.7	
1339	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	29.6	14.5	3.4	0.8	
1340	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	19.3	14.4	3.1	0.7	
1341	20・21-2	西半 山側	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	25.7	15.5	3.8	1.0	
1342	20・21-3	東半 海側	弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	26.4	16.3	3.8	1.0	

第7表 石器・石製品観察表(1) - 8

番号	地区	出土場所	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1343	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	34.2	16.6	3.3	1.2	
1344	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	三角形/鋸歯縁	黒曜石	18.3	12.3	3.2	0.5	
1345	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形/鋸歯縁	黒曜石	16.3	14.2	3.8	0.4	
1346	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形/鋸歯縁	黒曜石	17.4	12.3	2.5	0.4	
1347	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	凹基鏃	三角形/鋸歯縁	黒曜石	21.8	13.6	2.8	0.6	
1348	20・21-2	西半 海側	縄文	凹基鏃	三角形/鋸歯縁	黒曜石	20.0	11.8	3.0	0.4	
1349	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	三角形/鋸歯縁	黒曜石	21.6	13.6	3.8	0.9	
1350	20・21-1	試掘TR～中央TR間 西半	弥生	凹基鏃	三角形/鋸歯縁	黒曜石	27.0	17.0	3.7	1.1	
1351	20・21-2	土手1～2間	弥生	凹基鏃	三角形/鋸歯縁	黒曜石	26.0	16.9	3.6	0.8	
1352	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	平基鏃	五角形	黒曜石	21.6	10.8	3.4	0.6	
1353	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	凹基鏃	五角形	黒曜石	20.6	12.8	3.4	1.0	
1354	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生～古代	凹基鏃	五角形	黒曜石	25.8	12.5	3.1	0.8	脚部と体部の屈曲点が突起状をなす。
1355	20・21-2	西半 山側	弥生	凹基鏃	五角形	黒曜石	28.4	13.6	3.3	1.0	
1356	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	五角形	黒曜石	30.3	15.2	3.5	1.1	
1357	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	凹基鏃	五角形	黒曜石	28.2	12.7	3.6	0.8	
1358	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	凹基鏃	五角形	黒曜石	33.7	13.4	4.1	1.1	
1359	20・21-2	東半 海側	弥生	凹基鏃	五角形	黒曜石	19.2	11.2	3.1	0.5	
1360	20・21-2	西半 海側	縄文	凹基鏃	五角形	黒曜石	21.4	12.1	2.9	0.5	
1361	20・21-3	西半 山側	縄文～弥生	凹基鏃	五角形	黒曜石	24.4	14.1	3.5	0.8	
1362	20・21-3	西半	縄文～弥生	凹基鏃	五角形	黒曜石	24.7	16.5	3.9	1.1	
1363	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	凹基鏃	五角形	黒曜石	19.4	15.2	4.0	0.6	
1364	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	凹基鏃	五角形	黒曜石	22.4	16.4	4.2	0.8	側辺緩やかに内湾。脚部と体部の屈曲点が突起状をなす。
1365	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	凹基鏃	五角形	黒曜石	23.5	13.9	3.3	0.9	
1366	20・21-2	土手2周辺	縄文～弥生	凹基鏃	三角形	黒曜石	19.5	12.9	5.4	0.9	
1367	20・21-2	土手2周辺	縄文～弥生	凹基鏃	五角形	黒曜石	19.3	13.3	3.7	0.6	
1368	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	凹基鏃	五角形	黒曜石	20.9	15.2	4.4	0.9	
1369	20・21-2	海側	縄文3	凹基鏃	五角形	黒曜石	13.2	11.8	3.0	0.3	
1370	20・21-2	海側	縄文3	凹基鏃	五角形	黒曜石	23.2	16.5	4.3	1.0	
1371	20・21-2	西半 海側	縄文	石鏃	五角形	黒曜石	14.9	9.4	3.3	0.3	
1372	20・21-2	土手1以南	縄文～縄文3	円基鏃	三角形	黒曜石	18.4	13.1	5.6	1.1	
1373	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	円基鏃	三角形	黒曜石	21.5	15.7	6.0	1.6	
1374	20・21-1	試掘TR～中央TR間	縄文2	円基鏃	三角形	黒曜石	26.3	16.0	4.3	1.5	
1375	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	円基鏃	三角形	黒曜石	26.3	21.2	8.0	3.6	
1376	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	円基鏃	三角形	黒曜石	27.7	19.4	5.8	2.4	
1377	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	円基鏃	三角形	黒曜石	26.6	17.6	5.6	1.8	
1378	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	石鏃未製品	三角形	黒曜石	27.9	17.9	7.9	3.2	
1379	20・21-3	東半	縄文	石鏃未製品	三角形	黒曜石	29.8	21.2	10.4	5.2	
1380	20・21-2	土手1～2間	弥生	石鏃未製品	三角形	黒曜石	30.0	23.2	8.6	4.3	
1381	20・21-2	海側	縄文3	平基鏃	五角形	赤チャート	14.9	11.0	2.4	0.4	



第136図 石器・石製品実測図(7)

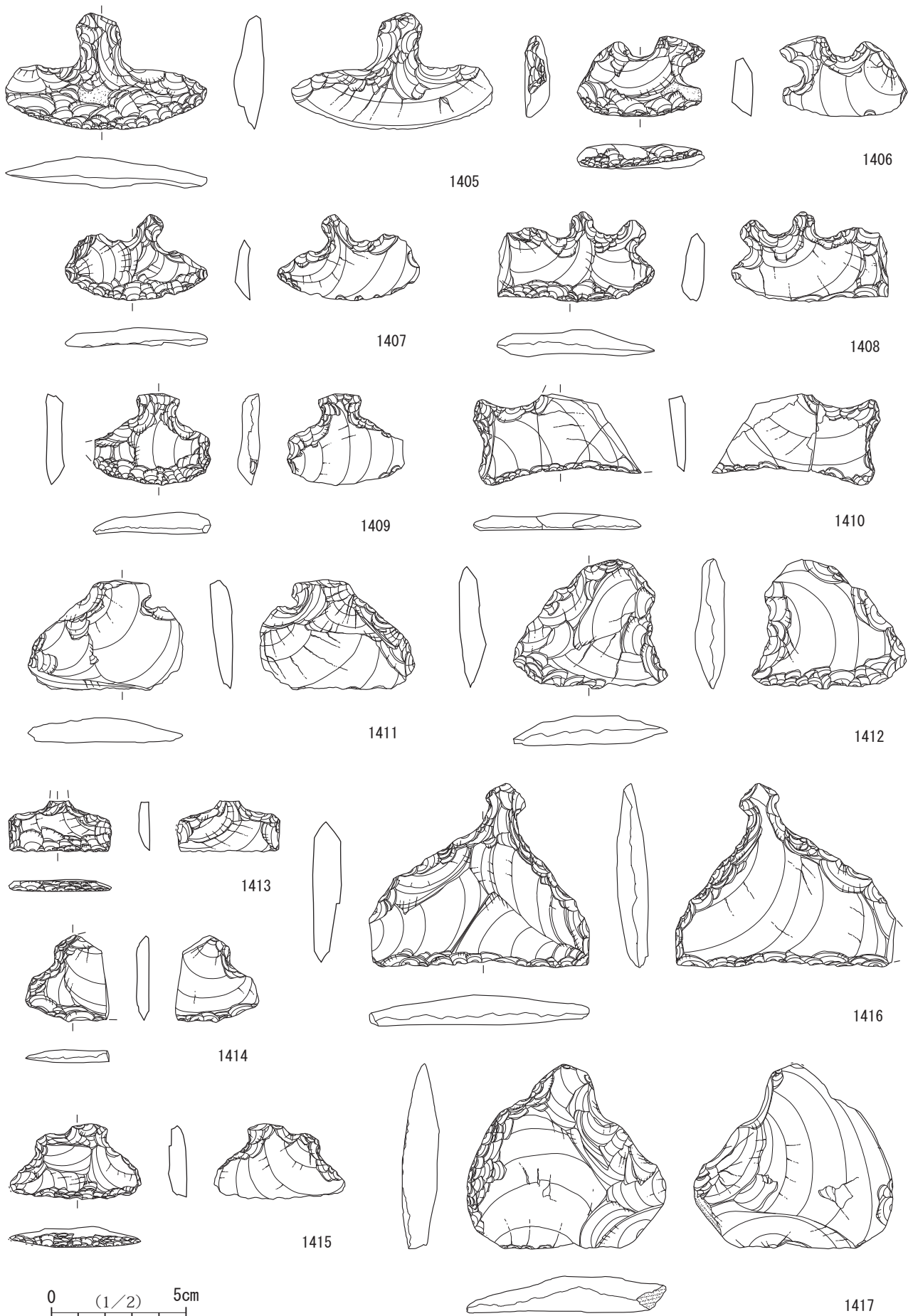
石錐(第136図 図版101)

1382～1404は石錐である。形態は上部につまみ部をもつものと、つまみ部はなく棒状のものに分けることができる。使用する石材は、1403、1404が黒曜石製で、他はサヌカイト製であることから、典型的な石錐はサヌカイトを石材として選択していることがうかがえる。

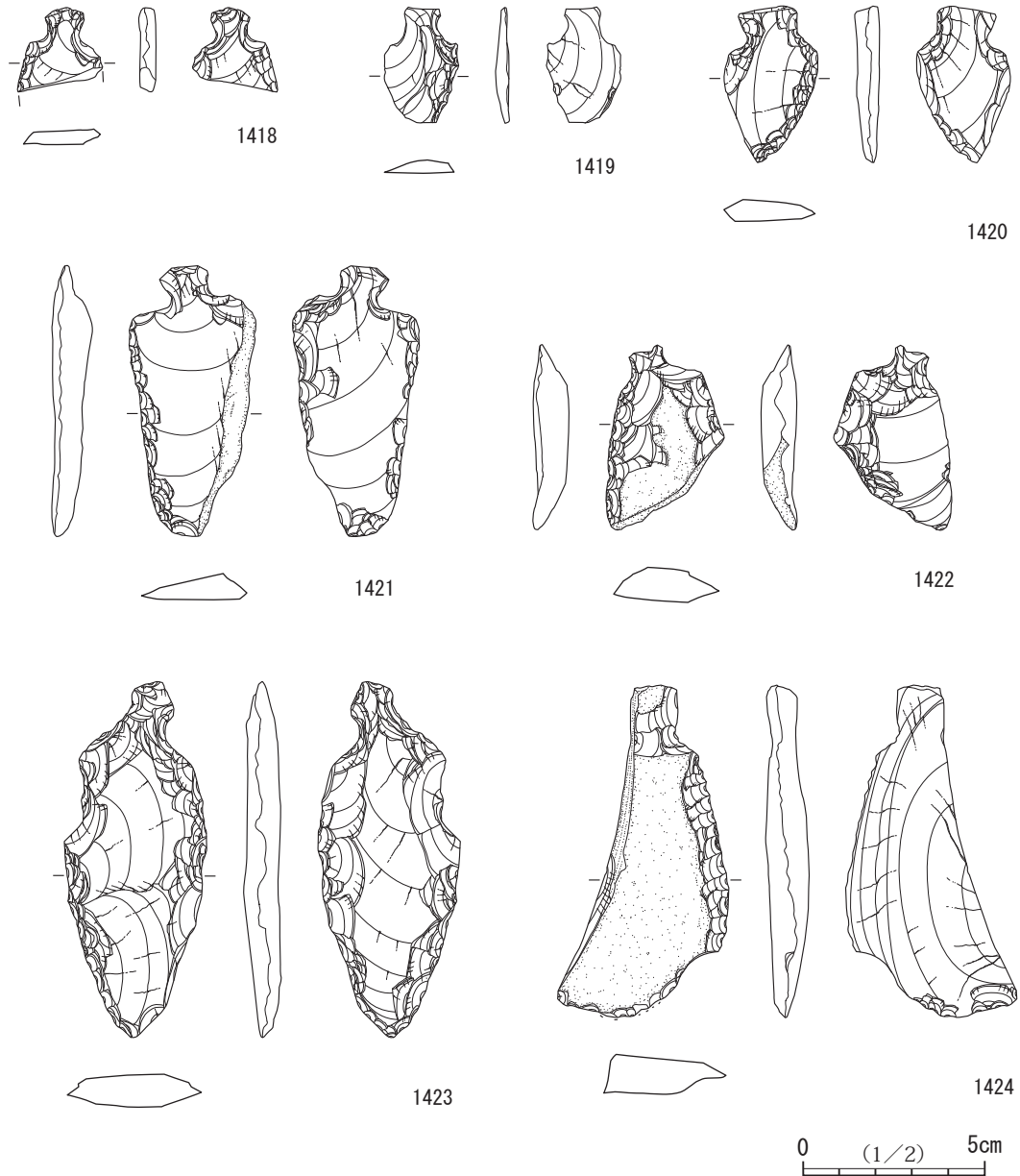
サヌカイト製の石錐は、両面加工により錐部をつくり出しているのに対して、黒曜石製は片面加工であることが特徴としてあげられる。

また黒曜石製1403は、上部にこぶ状の形をつくり出している。

なおこれらの石錐の錐部には、使用による摩滅はみられない。



第137图 石器・石製品実測図(8)



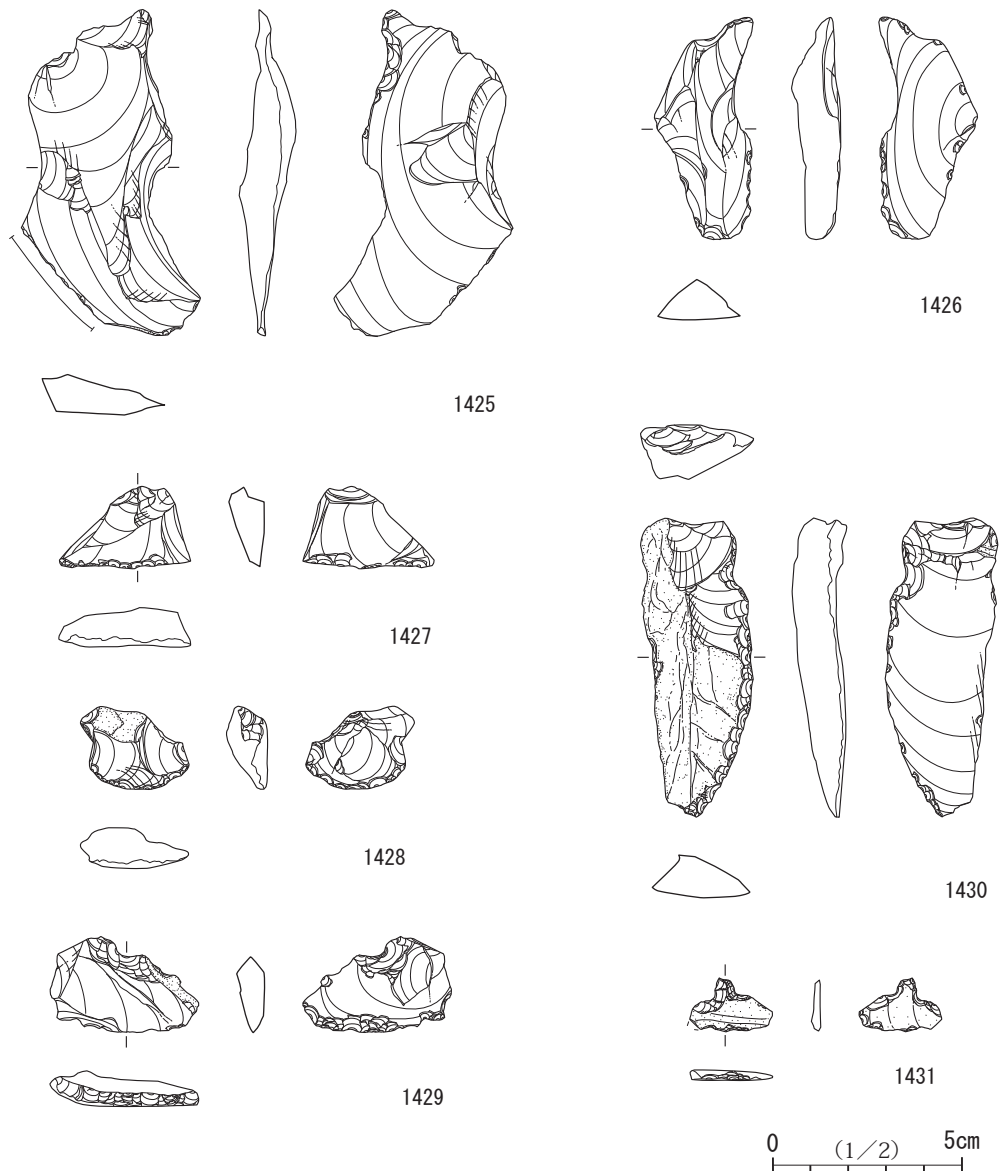
第138図 石器・石製品実測図(9)

石匙(第137～139図 図版102、103)

1405～1424は石匙で、石材は1420が安山岩製である以外は、他はサヌカイト製である。石匙は縦型(1405～1417)と、横型(1418～1424)に分けることができる。これらの刃部は片面加工と両面加工がほぼ同じ割合で存在する。横型石匙は刃部が急角度のものが多いことが特徴である。横型石匙のうち、1408はつまみ部を2つ持つ形態で、注目される。

1425～1431は黒曜石製である。これらのうち1425～1429は形態や刃部から石匙とみられるが、つまみ部など典型的な形態ではないことから、粗製石匙?としている。1430は縦型石匙である。1431は小型で実用ではないと判断し、ミニチュア石匙とした。

使用石材からみると、典型的な石匙はサヌカイト製であり、黒曜石製はみあたらない。石匙製作にはサヌカイトが優先されたことがうかがえる。



第139図 石器・石製品実測図(10)

第8表 石器・石製品観察表(2) - 1

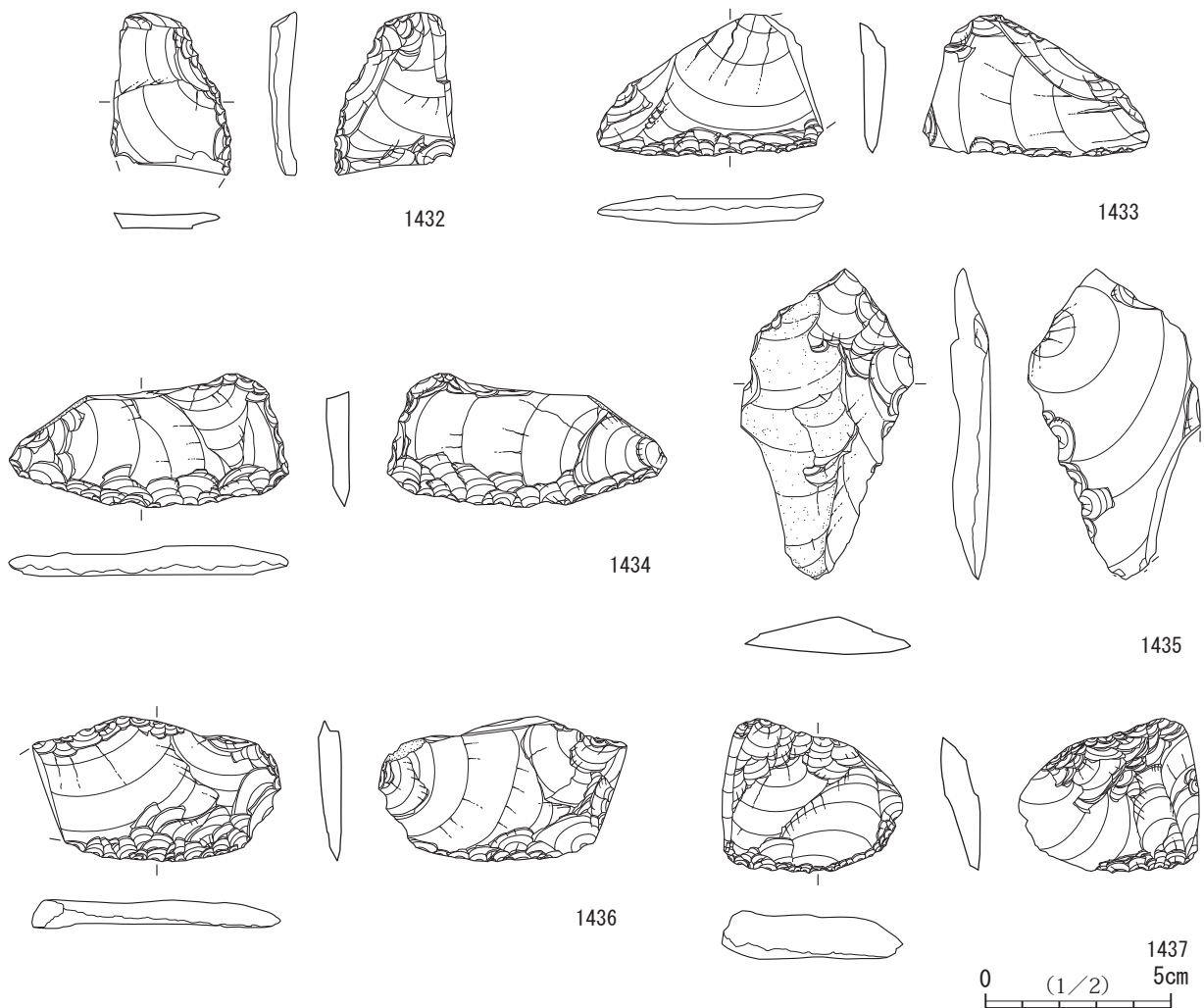
番号	地区	出土場所	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1382	20・21-1	中央TR内	弥生	石錐	摘み	サヌカイト	30.6	14.2	4.2	1.2	
1383	20・21-1	試掘TR~中央TR間 東半	弥生	石錐	摘み	サヌカイト	36.3	14.0	7.6	2.9	
1384	20・21-1	海側~試掘TR間		石錐	摘み	サヌカイト	29.2	19.2	6.1	2.6	錐部欠損
1385	20・21-1	試掘TR~中央TR間	弥生	石錐	摘み	サヌカイト	23.9	19.7	4.4	1.5	
1386	20・21-1	中央TR内	弥生	石錐	摘み	サヌカイト	27.2	18.9	6.8	3.0	
1387	20・21-1	中央TR~東TR間 東半	弥生	石錐	摘み	サヌカイト	40.4	21.7	4.2	3.1	
1388	20・21-1	海側~試掘TR間	縄文~弥生	石錐	摘み	サヌカイト	41.7	24.8	11.5	8.2	
1389	20・21-2	土手3	粘質シルト1	石錐	摘み	サヌカイト	39.1	28.3	10.8	7.7	
1390	20・21-2	土手3	弥生	石錐	摘み	サヌカイト	38.1	18.3	7.3	3.7	
1391	20・21-2	西半 海側	縄文	石錐	摘み	サヌカイト	61.5	30.5	8.4	8.2	図版28左3
1392	20・21-2	湿地層内	弥生	石錐	摘み	サヌカイト	56	27.6	7.3	10.7	右側叩折りで成形
1393	20・21-1	海側~試掘TR間	縄文~弥生	石錐	摘み	サヌカイト	29.0	16.2	4.5	1.4	
1394	20・21-1	試掘TR~中央TR間	縄文2	石錐	摘み	サヌカイト	29.5	15.8	4.6	2.0	
1395	20・21-2	土手3	縄文3	石錐	摘み	サヌカイト	18.1	20.9	3.6	1.1	錐部欠損
1396	20・21-3	東半	縄文	石錐	摘み	サヌカイト	24.7	19.7	4.1	1.6	錐部欠損

第8表 石器・石製品観察表(2) - 2

番号	地区	出土場所	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1397	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	石錐	摘み	サヌカイト	23.7	8.6	3.9	0.6	
1398	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1	石錐	錐部断片	サヌカイト	19.4	7.6	3.0	0.6	
1399	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	石錐	棒状	サヌカイト	38.4	10.7	6.0	1.2	
1400	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	石錐	棒状	サヌカイト	27.4	7.8	4.4	0.8	中央が瘤状に突出。
1401	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	石錐	錐部断片	サヌカイト	23.4	5.7	3.8	0.4	
1402	20・21-2	西半 山側	弥生	石錐	錐部断片	サヌカイト	29.3	9.2	3.6	0.7	
1403	20・21-2	海側	縄文3	石錐	棒状	黒曜石	82.7	20.3	14.3	18.8	瘤を持つ形状
1404	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	石錐	摘み	黒曜石	40.3	13.4	8.0	2.7	片面急角度加工で錐部作出

第9表 石器・石製品観察表(3)

番号	地区	出土場所	層位・遺構	器種	石材	素材	整形加工	刃部加工	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1405	20・21-1	東TR内 山側斜面	地山面上	横型石匙	サヌカイト	横長剥片/平坦打面	S'D	S'D+S'P	43.4	75.0	11.8	21.4	
1406	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	横型石匙	サヌカイト	縦長剥片	S'D	S'D+S'P	30.0	47.5	9.5	13.4	
1407	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	横型石匙	サヌカイト	縦長剥片	S'D	正反S'P	32.1	53.0	7.3	8.2	
1408	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面	横型石匙	サヌカイト	横長剥片	S'D	S'D+S'P/急角度	34.0	58.5	10.2	16.8	摘み2つ持つ形態。
1409	20・21-3	西半	縄文	横型石匙	サヌカイト	縦長剥片	S'D	S'P	34.2	43.7	8.3	10.0	図版30左4
1410	20・21-1	西半 山側	縄文	横型石匙	サヌカイト	横長剥片	S'D	S'P	34.3	62.5	6.7	12	
1411	20・21-2	西半 山側	縄文3	横型石匙	サヌカイト	剥片	S'D+S'p	mf	41.1	57.7	9.6	18.8	
1412	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	横型石匙	サヌカイト	剥片	S'D	反S'D	48.4	57.5	11.2	28.7	
1413	20・21-3	中央土手	縄文	横型石匙	サヌカイト	剥片	S'P	S'P	19.1	38.3	4.6	3.8	
1414	20・21-2	土手1～2間	縄文～弥生	横型石匙	サヌカイト	剥片/線打面	S'D+S'P	正反S'D+S'P	31.2	32.6	5	5.4	
1415	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	横型石匙	サヌカイト	縦長剥片	S'D	S'P/急角度	28.2	48.7	7.8	8.7	
1416	20・21-3	東半	縄文	横型石匙	サヌカイト	縦長剥片	S'D	正反S'P	68.6	81.9	11.8	55.5	
1417	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	横型石匙	サヌカイト	剥片	S'D	S'P/左辺	68.9	74.2	13.9	60.3	
1418	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	縦型石匙	サヌカイト	剥片	S'D	正反S'P	23.3	23.6	4.7	2.4	断片
1419	20・21-2	海側	縄文3	縦型石匙	サヌカイト	剥片	S'P	S'P	31.9	20.7	3.9	2.1	
1420	20・21-3	西半 山側	弥生	縦型石匙	安山岩	剥片	S'D	正反S'P	43.2	26.1	7.0	7.6	
1421	20・21-3	西半	縄文	縦型石匙	サヌカイト	縦長剥片	S'D	S'P/平坦	74.7	35.1	11.4	21.4	図版30右3
1422	20・21-3	西半	縄文	縦型石匙	サヌカイト	縦長剥片	S'D/右辺	S'P/左辺	51.2	32.6	10.2	15.1	
1423	20・21-3	西半	縄文	縦型石匙	サヌカイト	縦長剥片	S'D	S'D	98.0	39.3	10.5	39.3	両面加工石匙
1424	20・21-2	砂堆と湿地の境	粘質シルト2より下 黄色粗砂	縦型石匙	サヌカイト	横長剥片	S'P	S'P	91.7	47.1	12.1	35.2	
1425	20・21-3	西半	黒褐色土	粗製石匙?	黒曜石	横長剥片	反S'D+S'P	mf/左辺	86.4	47.5	15.2	25.1	
1426	20・21-2		縄文～弥生	粗製石匙?	黒曜石	横長剥片	S'D	mf/右辺	58.9	26.3	13.2	11.5	
1427	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	粗製石匙?	黒曜石	剥片	S'D+S'P	S'P	22.1	34.8	10.6	6.3	
1428	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	粗製石匙?	黒曜石	横長剥片/切り打面 HD	S'D+S'P	S'P	22.1	28.7	10.9	5.3	
1429	20・21-1	湿地層内	灰黒色粘質シルト	粗製石匙?	黒曜石	横長剥片/平坦打面 HD	HD	反S'P	25.5	39.5	9.6	7.1	
1430	20・21-1	湿地層内	青灰色粘質シルト	縦型石匙	黒曜石	縦長剥片	なし	S'P	79.1	30	14.7	25.5	
1431	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	ミニチュア石匙	黒曜石	剥片	S'P	mf	14.4	22.1	3.0	0.8	



第140図 石器・石製品実測図(11)

削器(第140～146図 図版103～105)

1432～1492は削器である。1432～1463はサヌカイト製削器で、このうち1432～1435が縦長剥片、1436、1437は両極剥片、1438～1446は横長剥片、1447～1463は剥片を素材としている。1445は抉入りの削器で特徴的な形態を呈する。両端に抉りをもつもので、西日本では縄文時代後期以降に増加する器種である。

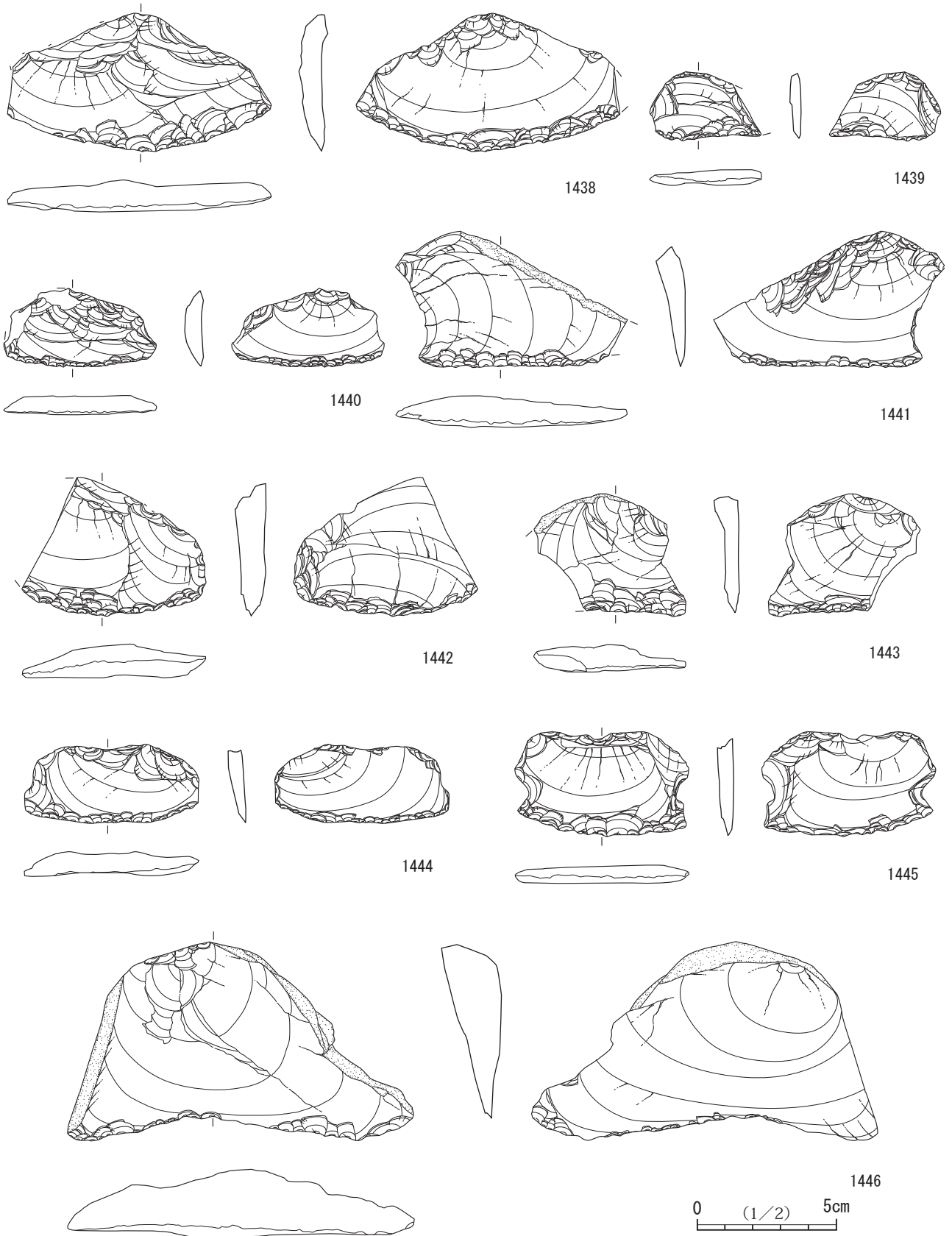
1464は安山岩製で、横長剥片を素材としている。

1465～1492は黒曜石製削器で、1465～1476は縦長剥片、1477～1479は横長剥片、1480～1492は剥片を素材として使用している。

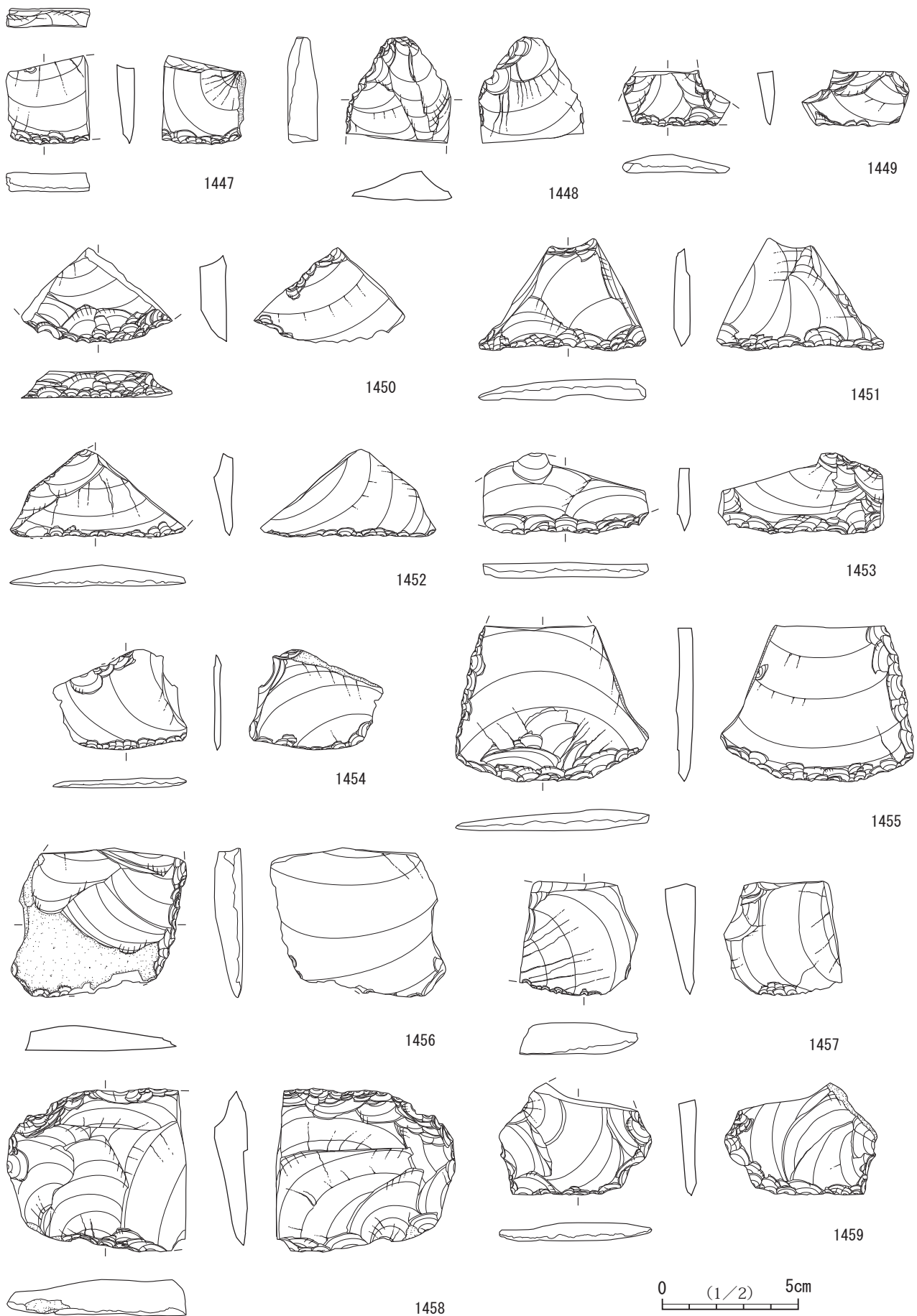
削器における石材は、サヌカイト、黒曜石とも石材として使用されていることがうかがえる。

また、刃部加工においては、サヌカイトが両面からの押圧剥離によって作り出しているのに対し、黒曜石は片面のみの押圧剥離を基本としており、1468、1481のように鋸歯状の刃部としている例もある。

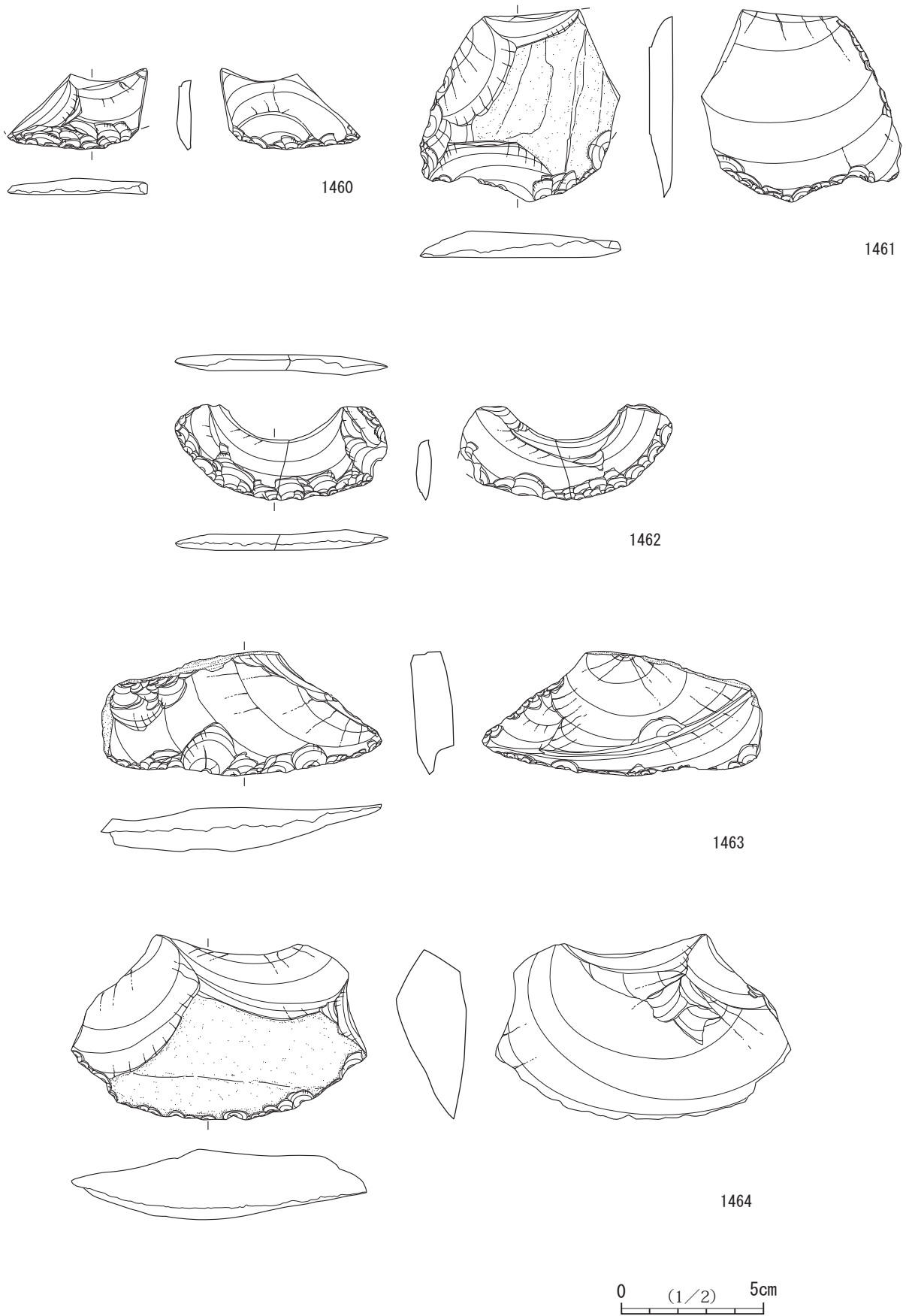
なお1487は形態から尖頭器の断片である可能性もある。1435の石材は、後述する打製石斧(1839)と同一母岩である可能性が高い。



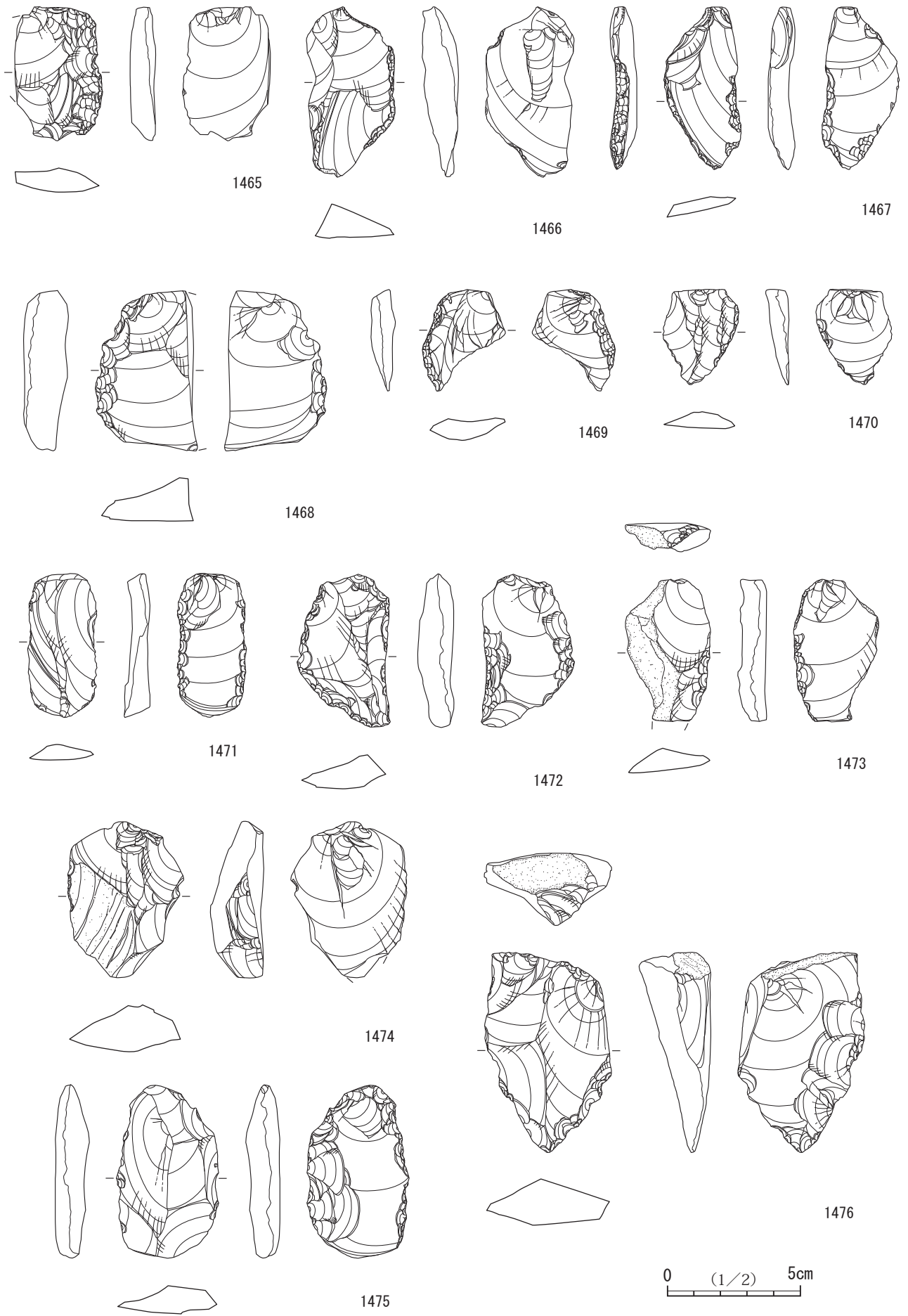
第141図 石器・石製品実測図(12)



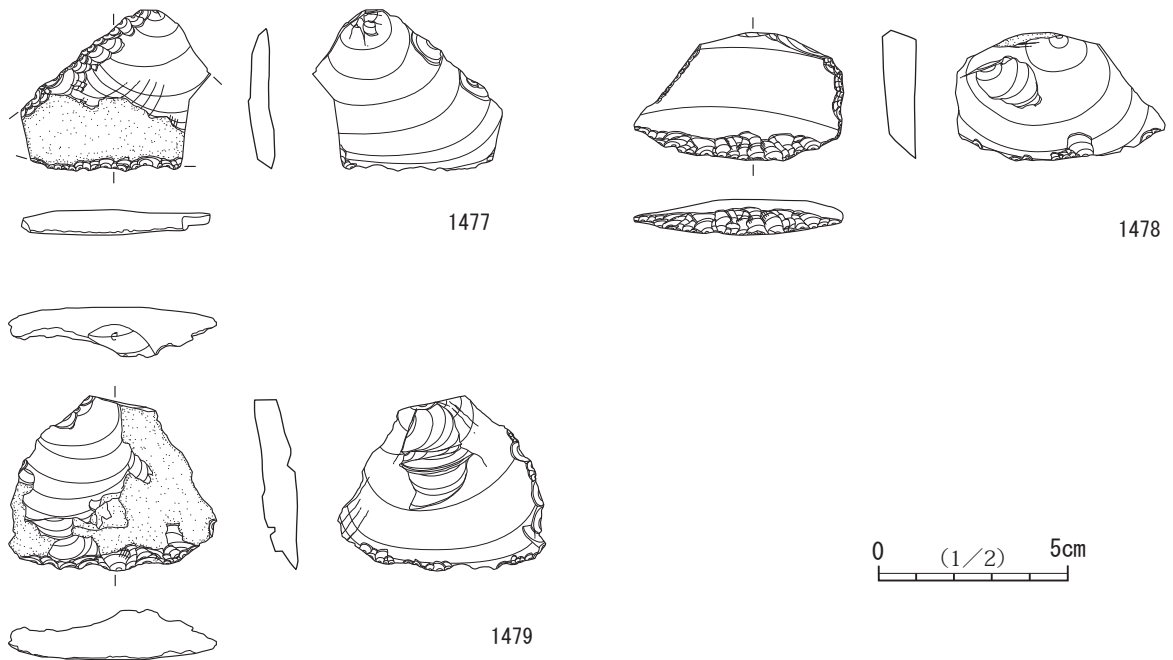
第142図 石器・石製品実測図(13)



第143図 石器・石製品実測図(14)



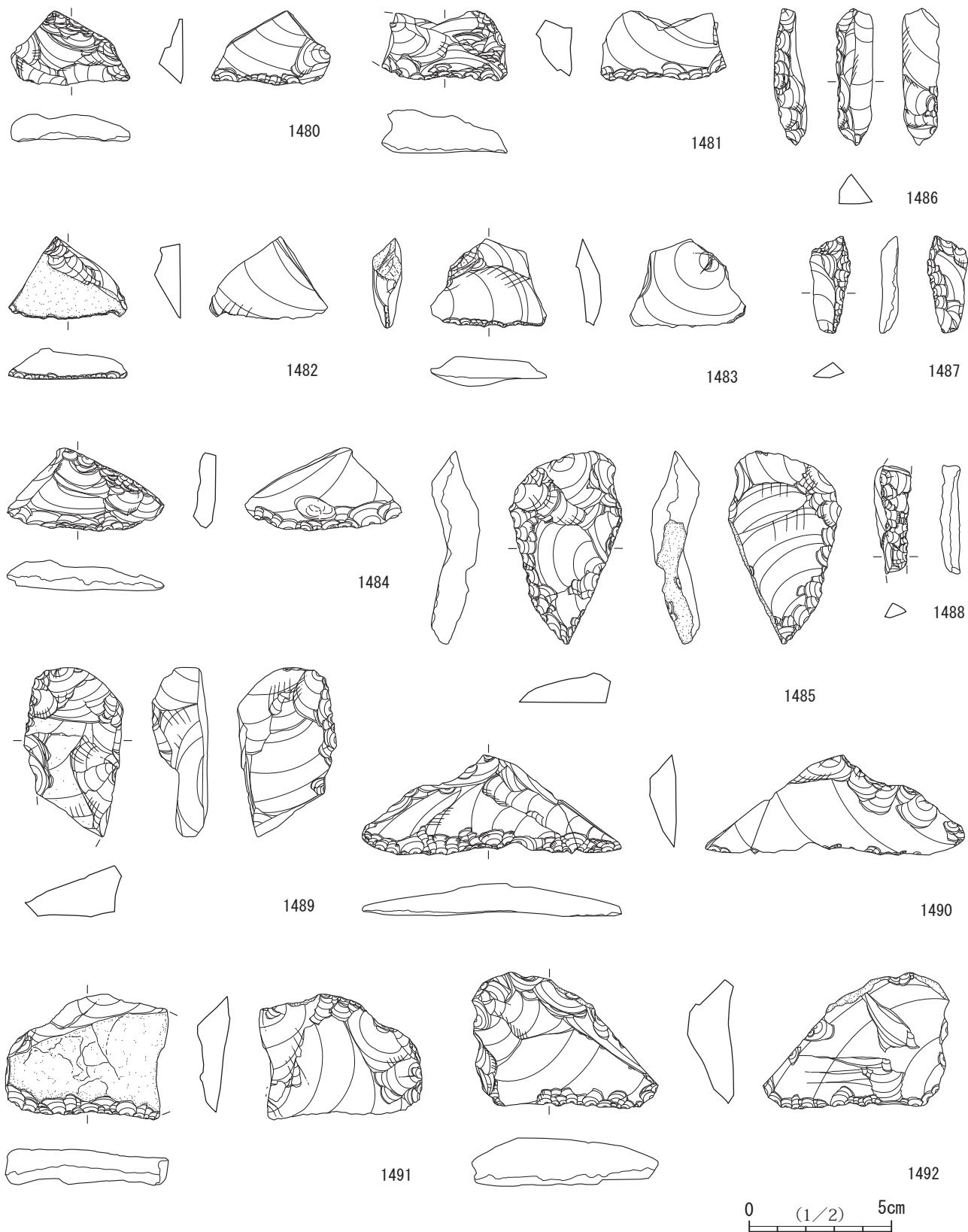
第144图 石器・石製品実測図(15)



第145図 石器・石製品実測図(16)

第10表 石器・石製品観察表(4)

報番	地区	出土場所	層位・遺構	器種	石材	素材	整形加工	刃部加工	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1432	20・21-1	試掘～中央TR間	弥生	削器	サヌカイト	縦長剥片	叩折/両側面	正反S'P	44.1	32.7	7.7	8.6	
1433	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	削器	サヌカイト	縦長剥片	S'D+S'P	正反S'P	38.6	61.1	8.1	16.5	
1434	20・21-3	東半	縄文	削器	サヌカイト	縦長剥片	S'D	正反S'D+S'P	36.4	75.4	8.4	22.8	
1435	20・21-2	土手1	縄文	削器	サヌカイト	縦長剥片/平坦 HD	S'D	S'D	84	46.7	10.9	32.2	1839と同一母岩 安山岩か
1436	20・21-2	土手2以北	縄文～弥生	削器	サヌカイト	両極剥片	S'D+S'P	正反S'D+S'P	39.4	67.2	8	20.9	
1437	20・21-2	海側	縄文3	削器	サヌカイト	両極剥片	なし	正反S'P	41.9	49	13.4	25.6	
1438	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	削器	サヌカイト	横長剥片	S'D+S'P	正反S'D+S'P	49.9	95	11.7	40.2	
1439	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	削器	サヌカイト	横長剥片	S'D+S'P	正反S'P	25	40.3	6	5.2	
1440	20・21-2	土手1～2間	弥生	削器	サヌカイト	横長剥片	S'D	正反S'P	28.6	55.1	7.2	10.7	
1441	20・21-2	土手2周辺	縄文～弥生	削器	サヌカイト	横長剥片	S'D	正反S'P	49.3	83.5	11.6	30.8	
1442	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	削器	サヌカイト	横長剥片	S'D+S'P	正反S'D+S'P	50.2	66.3	12.1	35	
1443	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文2～弥生	削器	サヌカイト	横長剥片	なし	正反S'D+S'P	44.3	54.9	9.9	17.6	
1444	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	削器	サヌカイト	横長剥片	なし	正反S'P	28.5	63	9	11.5	
1445	20・21-3	東半	弥生～古代	削器	サヌカイト	横長剥片	S'D	正反S'D+S'P	38	62.6	6.9	20.1	挟りを有する
1446	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	削器	サヌカイト	横長剥片/自然面打面 HD	なし	S'P+mf	71.8	124.8	24.5	133.1	
1447	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	削器	サヌカイト	剥片/自然面 HD	なし	正反S'P	33.1	30.8	7.2	9.1	上面に素材縦折れ痕跡
1448	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	削器	サヌカイト	剥片	反HD	HP/鋸歯	39.1	38.9	11.3	17.2	
1449	20・21-2	土手1～2間	弥生	削器	サヌカイト	剥片	S'D	S'P	21	39.6	7	5.6	
1450	20・21-2	海側	縄文3	削器	サヌカイト	剥片	なし	S'P/鋸歯	35.1	55.7	10.2	17.9	
1451	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	削器	サヌカイト	剥片	叩折+HD	正反S'D+S'P	41.7	61.5	8.1	15.5	
1452	20・21-3	西半 山側	弥生～古代	削器	サヌカイト	剥片	なし	正反S'P	32.5	65	8.3	12.2	
1453	20・21-2	土手2以北	弥生	削器	サヌカイト	剥片	なし	正反S'D+S'P	30.2	61.1	6	11.6	
1454	20・21-3		弥生～古代	削器	サヌカイト	剥片	なし	正反S'P	37.2	49.3	3.9	5.7	
1455	20・21-3		弥生	削器	サヌカイト	剥片	正反S'D+S'P	正反S'D+S'P	57.8	71.3	8	35.3	
1456	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	削器	サヌカイト	剥片	なし	S'P	55.2	64.7	10.6	42.3	



第146図 石器・石製品実測図(17)

第11表 石器・石製品観察表(5)

番号	地区	出土場所	層位・遺構	器種	石材	素材	整形加工	刃部加工	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1457	20・21-3	東半	縄文	削器	サヌカイト	剥片	なし	S' P	42.3	43.8	11.9	23.7	
1458	20・21-2	土手4内	粘質シルト1	削器	サヌカイト	剥片	S' D+S' P	正反S' D+S' P	60.5	66.2	13.6	52.9	
1459	20・21-3		弥生～古代	削器	サヌカイト	剥片	S' D	正反S' P	41.4	56.3	7	15.2	
1460	20・21-3		弥生～古代	削器	サヌカイト	剥片	なし	正反S' D+S' P	28.6	49.6	5.9	7.7	
1461	20・21-3	西半	縄文	削器	サヌカイト	剥片	S' D	S' D	67.7	70.6	9.7	47.8	
1462	20・21-3	西半	縄文～弥生	削器	サヌカイト	剥片	なし	正反S' D+S' P	34	74.8	7.5	15.9	
1463	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	削器	サヌカイト	剥片/自然面 HD	S' D+S' P	S' D+S' P	44.1	98.8	16.4	50.1	
1464	20・21-3		弥生～古代	削器	安山岩	縦長剥片/切子打面 HD	なし	S' P	65.5	104.4	25	139.3	
1465	20・21-1	湿地層内	青灰色粘質シルト	削器	黒曜石	縦長剥片/平坦 HD	なし	S' D+S' P	50.5	33.4	9.9	17.3	
1466	20・21-3	東半	遺構面とその下層	削器	黒曜石	縦長剥片/平坦 HD	なし	S' P	64.2	33.5	13.9	19.3	
1467	20・21-3	東半	遺構面とその下層	削器	黒曜石	縦長剥片/自然面 S' D	S' P/急角度/左辺	正反S' P/右辺	61.4	29.2	10.2	13	
1468	20・21-2	土手1以南	縄文	削器	黒曜石	縦長剥片/平坦 HD	なし	HP/鋸歯	60.4	38.5	17.1	34	鋸歯状刃部
1469	20・21-3	東半	遺構面とその下層	削器	黒曜石	縦長剥片/平坦 HD	なし	正反S' P/左辺	38.3	31.4	9.3	6.6	
1470	20・21-3	中央土手	縄文	削器	黒曜石	縦長剥片/平坦 HD	なし	S' P	36.1	28.8	8.8	6	
1471	20・21-1	湿地層内	青灰色シルト	削器	黒曜石	縦長剥片/平坦 曲げ	反S' P	反S' P	54.4	26.3	9.9	11.6	
1472	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文2	削器	黒曜石	縦長剥片/平坦 HD	反S' D+S' P	S' P/下辺	57.6	35	14.3	22.8	
1473	20・21-1	湿地層内	灰黒色粘質シルト	削器	黒曜石	縦長剥片/調整打面 HD	なし	正反S' P	53.8	32.1	11	15.2	
1474	20・21-1	湿地層内	灰黒色粘質シルト	素刃削器	黒曜石	縦長剥片/平坦 HD	HD/右辺 曲折	mf/左辺	58.9	43.8	20.2	36.8	
1475	20・21-3	西半 山側斜面	黒褐色土	削器	黒曜石	縦長剥片/平坦 曲げ	反S' D/右辺	反S' P/左辺	65.3	38.7	13	29	
1476	20・21-2	土手1	縄文	削器	黒曜石	縦長剥片/自然面 HD	反HD/鋸歯/左辺	HP/鋸歯/右辺	75.4	48	27.3	63.6	
1477	20・21-1	湿地層内	灰黒色粘質シルト	削器	黒曜石	横長剥片/切子打面 HD	S' P/急角度	S' P/下辺	42.9	50.2	7	11.2	
1478	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	削器	黒曜石	横長剥片/平坦打面 HD	S' P/擦り/右辺	S' P	34.2	55.5	9.6	16.6	
1479	20・21-2	土手1～2間	弥生	削器	黒曜石	横長剥片/平坦打面 HD	なし	S' P	46.5	55.2	13.5	23.9	打面にコーンクラック
1480	20・21-3		弥生～古代	削器	黒曜石	剥片	HD	反S' P	26.3	42	9.8	7.3	
1481	20・21-2	海側	縄文3	削器	黒曜石	剥片	S' P	HP/鋸歯	24.7	44.3	15.4	12.8	鋸歯状刃部
1482	20・21-2	土手1～2間	弥生	削器	黒曜石	剥片	なし	S' P	29.2	41.8	11	8	
1483	20・21-1	湿地層内	黒灰色シルト層～青灰色シルト層	削器	黒曜石	剥片/自然面打面 HD	S' D	S' P	31.3	40.9	10.6	7.9	
1484	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～粘質シルト2上面	削器	黒曜石	剥片	HD	S' D+S' P	29.3	55.4	10.9	11.7	
1485	20・21-3	中央土手	縄文	削器	黒曜石	剥片	なし	正反S' D+S' P	68	39.9	17.3	28.7	
1486	20・21-1	湿地層内	青灰色シルト層	削器	黒曜石	剥片	なし	S' D+S' P	48.3	13.3	11.8	5.6	
1487	20・21-3	東半	縄文	削器	黒曜石	剥片	S' P	S' P	34.3	14.4	6.8	2.4	尖頭器断片?
1488	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	削器	黒曜石	剥片	反、稜上正 S' P	S' P	38.3	13.1	7.3	2.8	
1489	20・21-2	西半 海側	縄文	削器	黒曜石	剥片	HD	S' D+S' P	59.8	35.1	19.9	30.9	
1490	20・21-1	湿地層内	黒灰色シルト層	削器	黒曜石	剥片	反S' D	S' P	35.3	91	11.6	21	
1491	20・21-3	西半	黒褐色土	削器	黒曜石	剥片	反S' D	S' P	44.4	57.5	13	29	
1492	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	削器	黒曜石	剥片	S' D	正反S' P	48.1	65.6	17.3	40.7	

搔器 (第147図 図版106)

1493はサヌカイト製の搔器で、縦長剥片を素材としており、刃部は片面加工によって作り出している。

両極石器 (第148図 図版106)

1494～1501は両極石器である。楔形をなし、1494～1496はサヌカイト製、1497～1500は黒曜石製である。1501は砂岩の扁平礫を素材としている。

両面加工石器 (第149図 図版106)

1502、1503は両面に直接打撃を加えて成形した両面加工の石器で、いずれもサヌカイト製である。1502は尖頭状の基部をつくり出し、1503は形態から石槍の可能性もある。

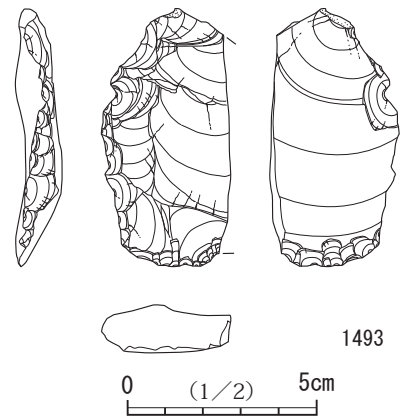
不明石器 (第149図 図版106)

1504～1507は石器断片とみられるもので、黒曜石、サヌカイトの剥片を素材としている。

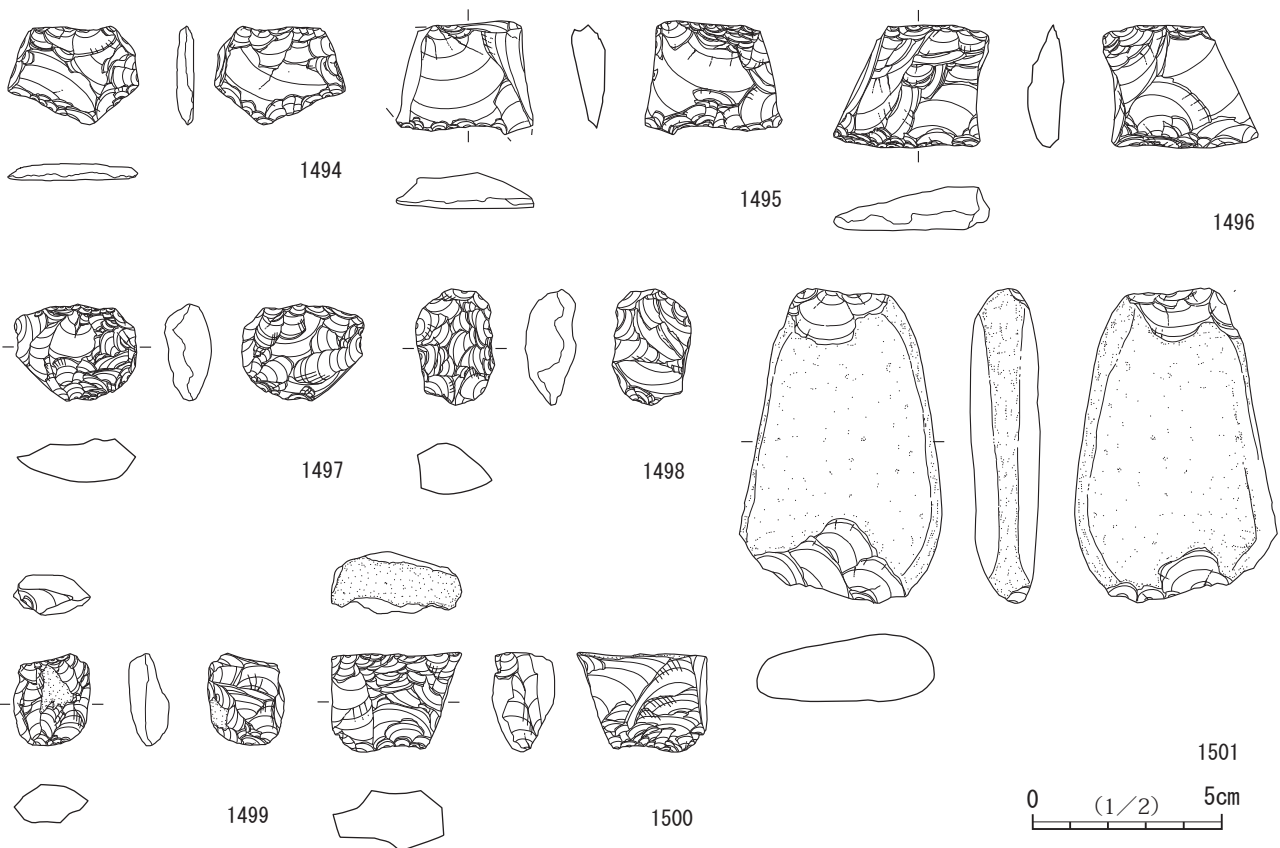
1508は黒曜石剥片を素材とし、整形、刃部加工とも直接打撃を加えており、未製品とみられる。石槍未製品か。

剥片 (第150、151図 図版106、107)

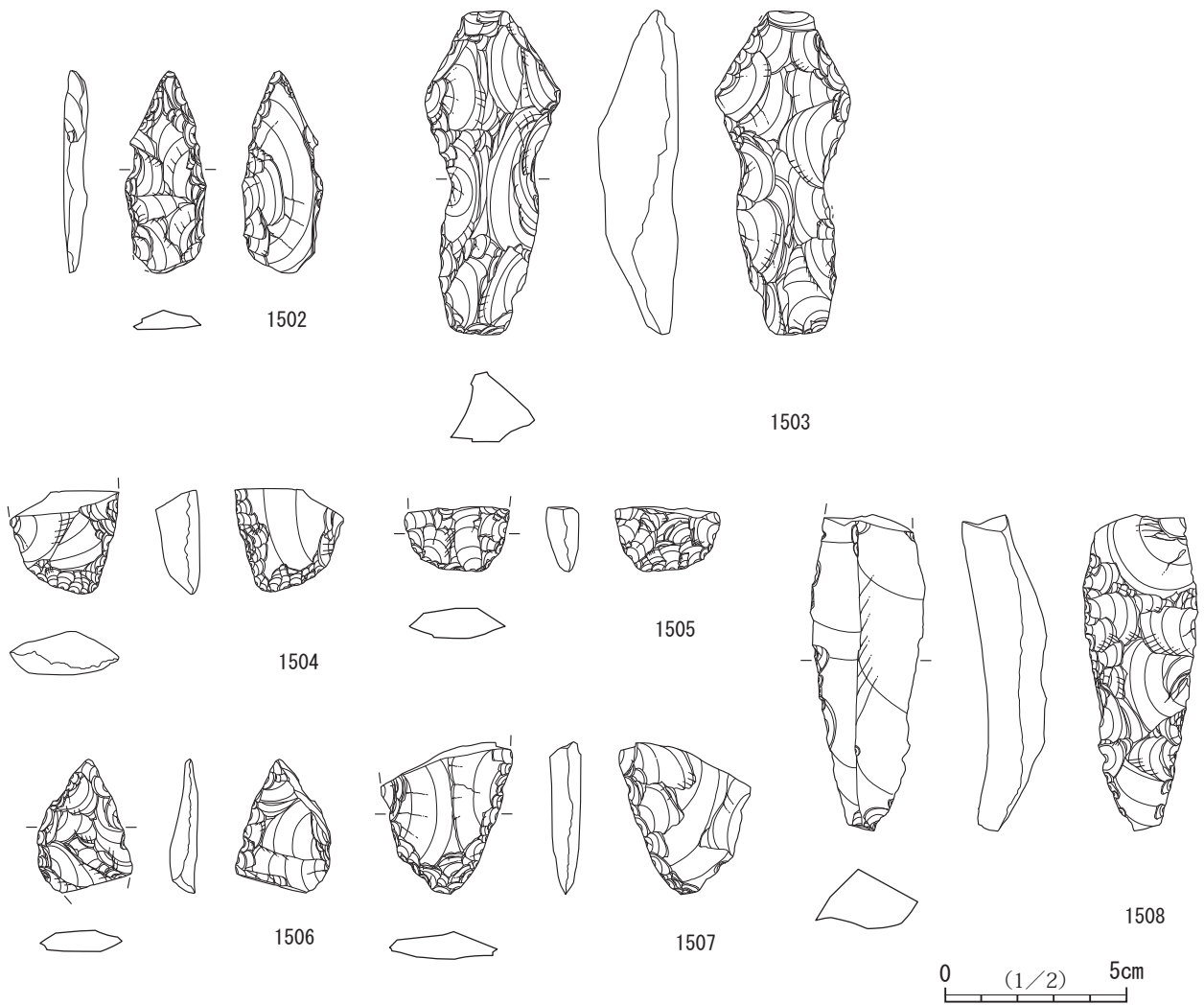
1509～1516は使用痕のある剥片である。1509～1514は黒曜石で、他はサヌカイトの剥片を使用している。



第147図 石器・石製品実測図 (18)



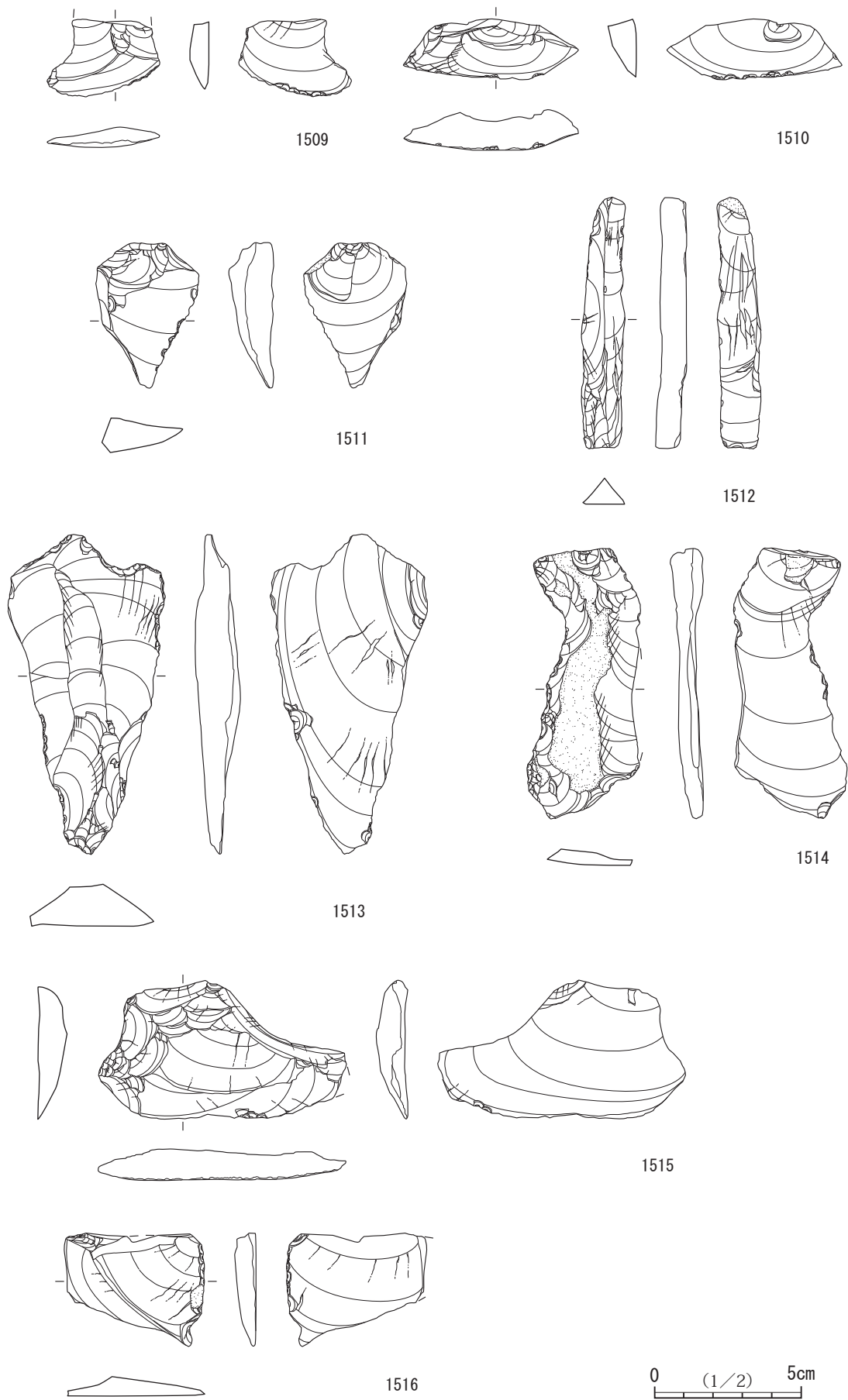
第148図 石器・石製品実測図 (19)



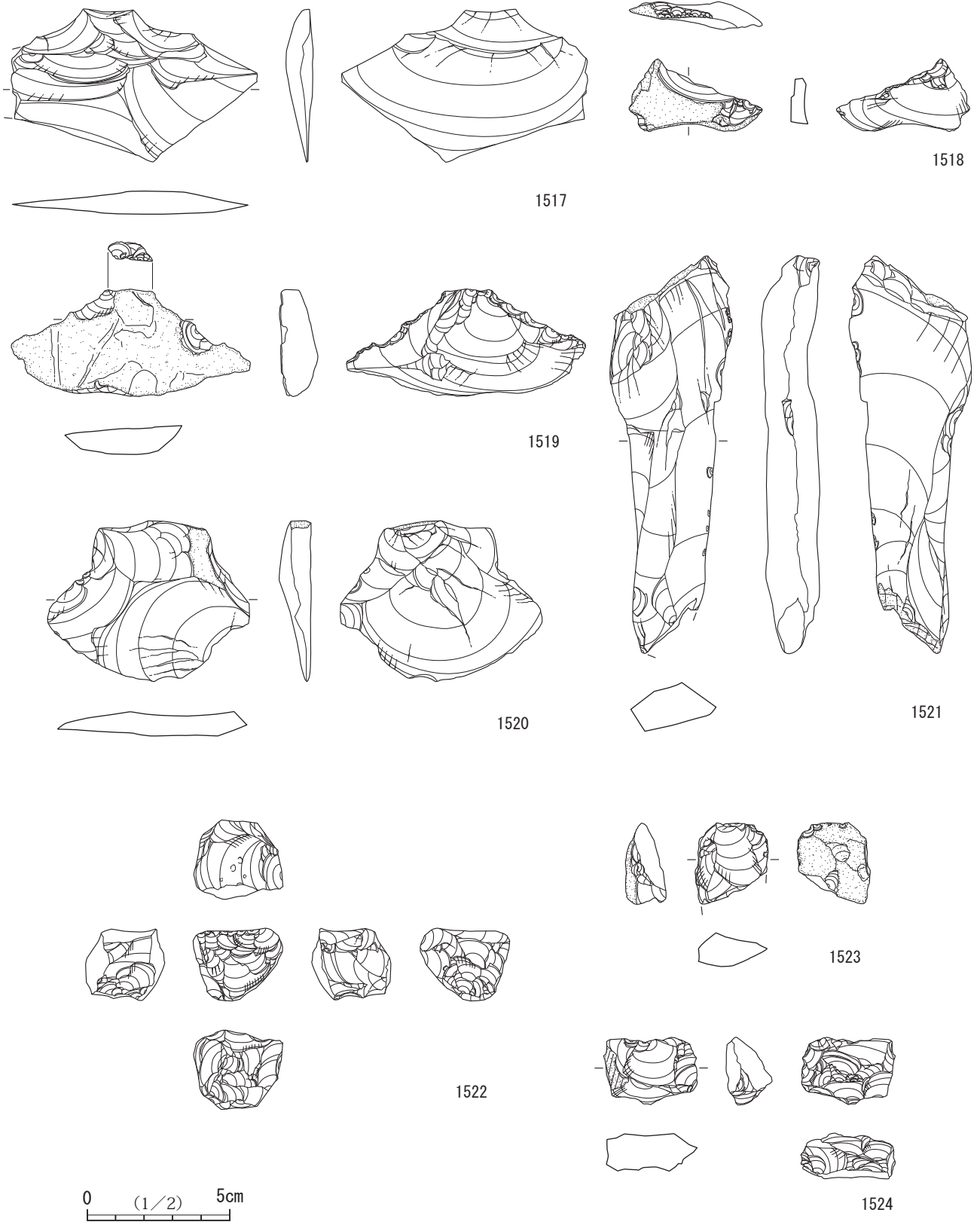
第149図 石器・石製品実測図(20)

第12表 石器・石製品観察表(6)

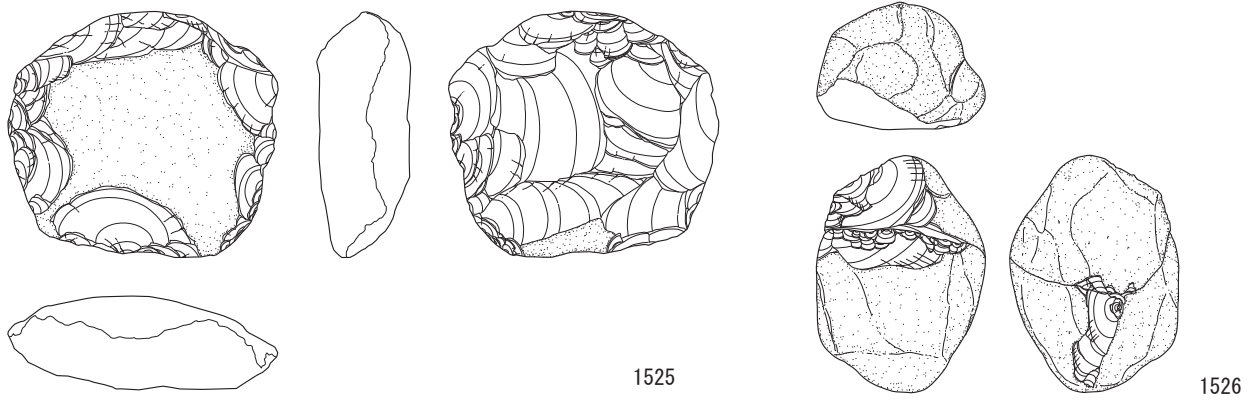
番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	石材	素材	整形加工	刃部加工	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1493	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	搔器	サヌカイト	縦長剥片/自然面 S'D	HD/鋸歯/左辺	S'P/下辺	68.4	34.5	12.8	29.1	素材剥離開始部曲げ
1494	20・21-3	西半 山側	弥生～古代	両極石器	サヌカイト	剥片	HvD	HvD	26.3	34.6	4.8	5.4	
1495	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1	両極石器	サヌカイト	剥片	HvD	HvD	30.1	36.5	9.8	10.3	
1496	20・21-2	土手3	縄文3	両極石器	サヌカイト	剥片	HvD	HvD	32.8	41.3	11.8	15.9	
1497	20・21-3	東半	縄文	両極石器	黒曜石	剥片	HvD	HvD	25.7	32.5	12.6	9.2	
1498	20・21-2	海側	縄文3	両極石器	黒曜石	剥片	HvD	HvD	30.8	21.2	13.6	8.3	
1499	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	両極石器	黒曜石	剥片	HvD	HvD	24.6	20.5	10.7	5	
1500	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	両極石器	黒曜石	剥片	HvD	HvD	26.6	34.6	16.6	14.9	
1501	20・21-2		弥生	両極石器	砂岩	扁平礫	HvD	HvD	83.1	53.4	18.7	111.2	
1502	20・21-2	東半 海側	縄文	両面加工石器	サヌカイト	横長剥片	S'D	S'D	55.9	22.4	7	8.2	基部尖頭状
1503	20・21-3	東半	遺構面とその下層	両面加工石器	サヌカイト	剥片	S'D	S'D	89.6	37.5	22.4	52.4	石槍?
1504	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	石器断片	黒曜石	剥片	S'D	S'P	28.8	30.2	12.4	8.6	
1505	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文～弥生	石器断片	黒曜石	剥片	S'D	S'D	18.1	29	9	4.7	
1506	20・21-3		縄文	石器断片	サヌカイト	剥片	S'D	S'D	37.1	26.6	8	5.5	石槍?
1507	20・21-3		弥生～古代	石器断片	サヌカイト	剥片	S'D	S'D	42.1	36.6	9	12	石槍?
1508	20・21-3	西半 山側斜面	黒褐色土	石器未製品	黒曜石	剥片	反S'D	反S'D	87.4	31.9	23.5	39.2	石槍未製品?



第150図 石器・石製品実測図(21)

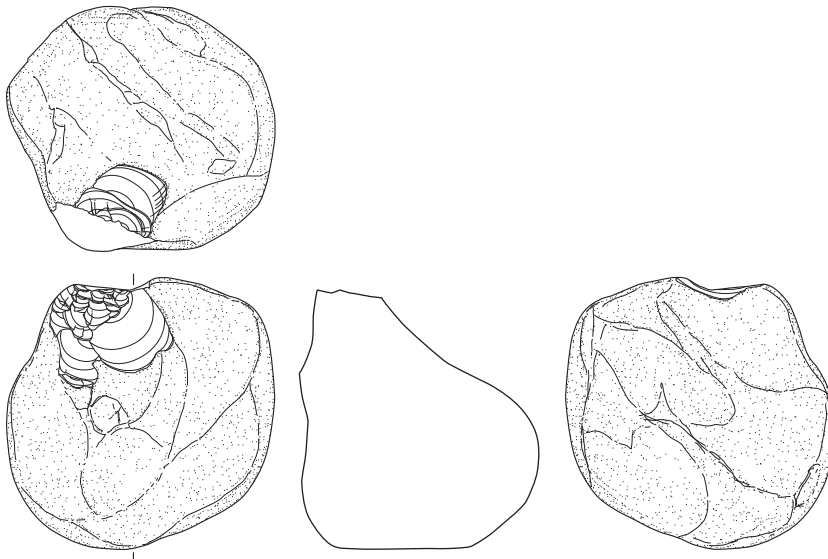


第151図 石器・石製品実測図(22)

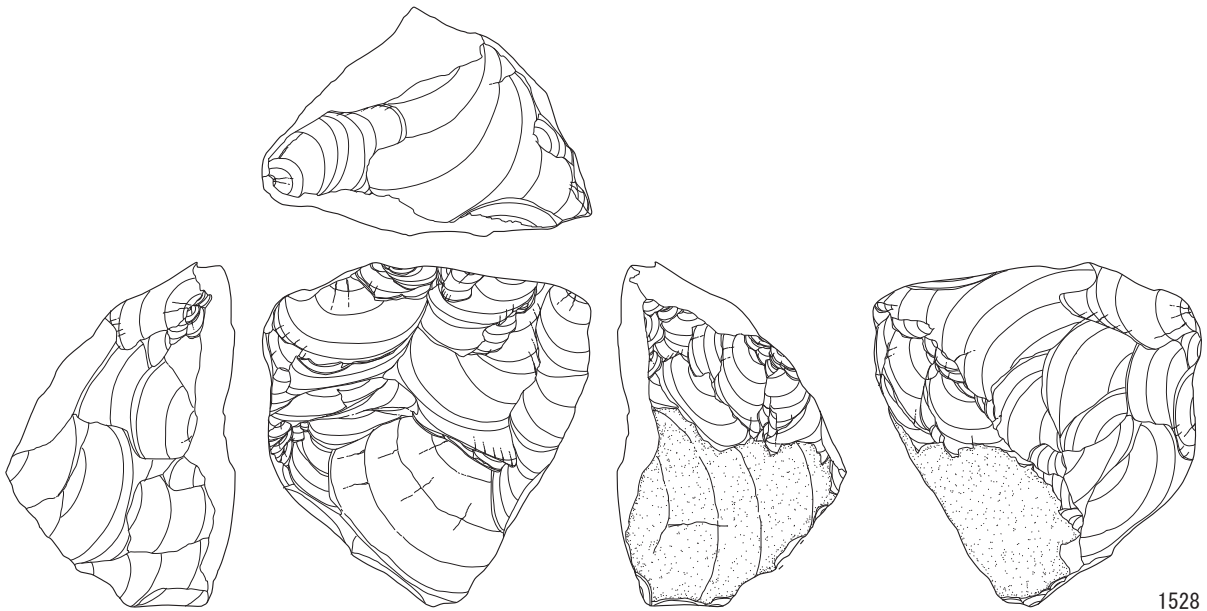


1525

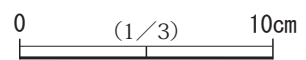
1526



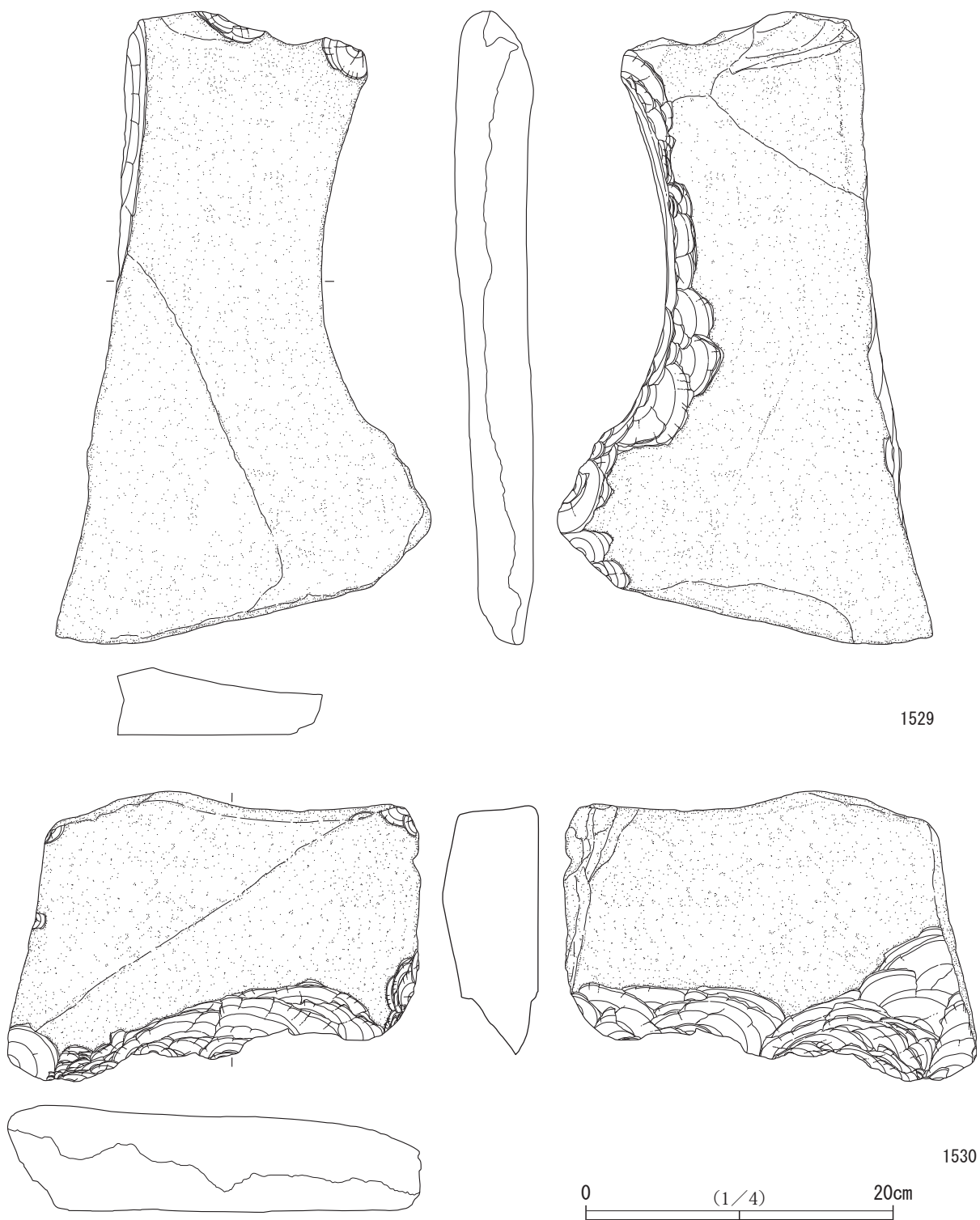
1527



1528



第152図 石器・石製品実測図(23)



第153図 石器・石製品実測図(24)

1517～1519は二次加工剥片で、1517はサヌカイト製、1518、1519は黒曜石製の横長剥片を素材としている。

1520はサヌカイトの剥片で、1521は黒曜石の剥片である。これらの剥片は大小あわせて、縄文時代包含層を中心に、多数出土していることから、石器製作をうかがわせる資料である。

第13表 石器・石製品観察表(7)

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	石材	素材	整形加工	刃部加工	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1509	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文～弥生	使用痕剥片	黒曜石	剥片	なし	mf/下辺	26.7	38.7	7.2	5.2	
1510	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	使用痕剥片	黒曜石	横長剥片	なし	mf	21	59.7	14	12	
1511	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文～弥生	使用痕剥片	黒曜石	縦長剥片/平坦打面 HD	なし	mf/右辺	49.8	35.3	15.5	18.3	
1512	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2間 腐葉土層	使用痕剥片	黒曜石	縦長剥片	なし	mf	85.9	15.2	10.9	12	
1513	20・21-2	西半 山側斜面	縄文3	使用痕剥片	黒曜石	横長剥片	なし	mf	109.5	53.8	15.6	56.3	
1514	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文	使用痕剥片	黒曜石	縦長剥片/平坦 曲げ	なし	mf/左辺	92.5	39	11.4	26.5	
1515	20・21-3	攪乱坑内		使用痕剥片	サヌカイト	横長剥片	HD/上辺	mf/下辺	47.5	84.7	10.9	36.1	
1516	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	使用痕剥片	サヌカイト	剥片	なし	mf	38.8	48.2	7.5	13.2	
1517	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	二次加工剥片	サヌカイト	横長剥片	HD/上辺 曲折	なし	53.8	86.4	9.8	31.7	
1518	20・21-3	東半	縄文	二次加工剥片	黒曜石	横長剥片	反S'P	なし	25.6	46.9	9.9	5.8	腰岳産
1519	20・21-1	湿地層内	灰黒色粘質シルト	二次加工剥片	黒曜石	横長剥片/調整打面 HD	反S'D	なし	37.7	84.1	13.6	28.9	
1520	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	剥片	サヌカイト				56.6	71.1	11.6	31.9	
1521	20・21-1	試掘TR～中央TR間	縄文～弥生	縦長剥片	黒曜石				139.8	43.3	20.7	86.1	
1522	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2～弥生	石核	黒曜石	剥片			25.7	31.6	28	24.1	
1523	20・21-3	西半	縄文	石核	黒曜石	剥片			28.7	25.8	14.4	8.7	裏面自然面
1524	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	石核	黒曜石	剥片			23.9	33.1	16.4	11.9	
1525	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	石核	砂岩	礫			97.5	107.0	37.2	472.1	
1526	20・21-3	西半	縄文～弥生	石核	黒曜石	円礫			93.9	66.9	50.5	308.6	
1527	20・21-2	土手4	遺構面	石核	黒曜石	円礫			108.1	106.4	96.7	1155.7	一端に作業面 図版29右3
1528	20・21-3	西半	遺構面およびその下	石核	凝灰岩	礫			136.3	130.3	90.7	1397.9	多面体石核。
1529	20・21-1	中央TR～東TR間 西半	弥生	板状剥片	サヌカイト	扁平礫			412.2	244.7	51.8	4914.0	
1530	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	石核	安山岩	扁平礫			189.7	269.2	70.0	4738.1	

石核(第151～153図 図版107、108)

1522～1524は黒曜石剥片を素材とした石核である。1523は裏面に自然面が残る。

1525は砂岩礫を素材とした石核である。

1526、1527は姫島産黒曜石の円礫である。1526は308g、1527は1155gで作業面を確認できる。1527は20・21-2区の貯蔵穴を検出した遺構面上から出土したもので、縄文時代後期に属するであろう。一部に作業面があるもののほぼ円礫の状態であることから、原石の状態で姫島からそのまま搬入されたことを示している。

1528は凝灰岩の石核で、重さ1,398gを測る。凝灰岩は後述する礫器の素材の一つでもあることから、礫器加工などに使用されたものとみられる。

1529は長さ41cm、厚さ5.2cm、重さ4,914gを測る。サヌカイトの扁平礫を用いた板状剥片(石核)

である。1530は長さ19cm、幅27cm、厚み7cm、重さ4,738gを測る安山岩の石核である。

前回の調査でも、姫島産黒曜石の円礫のまとまった出土やサヌカイトの板状石核の報告があることから、これらの石核は、田ノ浦遺跡におけるさまざまな石材の搬入および搬入石材の形態（円礫、石核など）の様相を示している。

礫器（第154～168図 図版109～117）

ここでいう礫器とは、礫に打ち欠きによる粗い抉りを入れて、尖った端部を作りだした礫石器をいう。尖頭状礫石器・双角状礫石器または双・単頭形石器とも呼ばれるもので、海岸部の遺跡から出土し、特に天草地域の沿岸遺跡がよく知られている。用途は不明であるが、貝の採取や調理の道具などが想定されている。今回の調査では200点を超える出土数が確認されており、ここでは形態が明瞭な129点について報告する。

これらの礫器を観察表では、以下の通り5つの形態に分類している。

- a：内湾した加工の両端に尖頭状加工
- b：内湾した加工の片端に尖頭状加工
- ab：aもしくはbと判断つかないもの
- c：内湾した加工にさらに尖頭状加工をもつ3叉
- d：内湾した加工意外の部位に尖頭状加工
- e：尖頭状に加工
- f：その他どれにも該当しない

これらの点数および使用された石材を組成表としてまとめたのが第14表である。これによると、bタイプが最も多く、次いでaタイプが続く。aもしくはbが判断できないabタイプをあわせると全体の8割以上となる。次に使用された石材

第14表 礫器組成表

であるが、安山岩が最も多く60%を占める。続いて流紋岩の30%、凝灰岩の8%であり、結晶片岩は2例のみである。これからすると使用石材の選定には、遺跡周辺で確保できるもの、加工のしやすさ、耐久性などを考慮したことによるとみられる。

礫器の用途であるが、作りだした尖頭状部分が使用により摩滅している場合が多い。当遺跡を含めて海岸部の遺

形態 \ 石材	安山岩	流紋岩	凝灰岩	結晶片岩	計
a	19	11	2		32 (25%)
b	26	18	4	1	49 (38%)
ab	18	9		1	28 (22%)
c	2	1	1		4 (3%)
d	4		1		5 (4%)
e	6		1		7 (5%)
f	3		1		4 (3%)
計	78 (60%)	39 (30%)	10 (8%)	2 (2%)	129 (100%)

跡での出土例が多いことは、漁労にかかわる道具であることは明らかと見られるが、先述したような想定される使用方法であったことを、明らかにするまでの資料は得られていない。

なお、これらの礫器は前回の調査において報告されていない。そのため分布の中心が今回の調査区のある浜堤北側に集中することが、大きな特徴となっている。

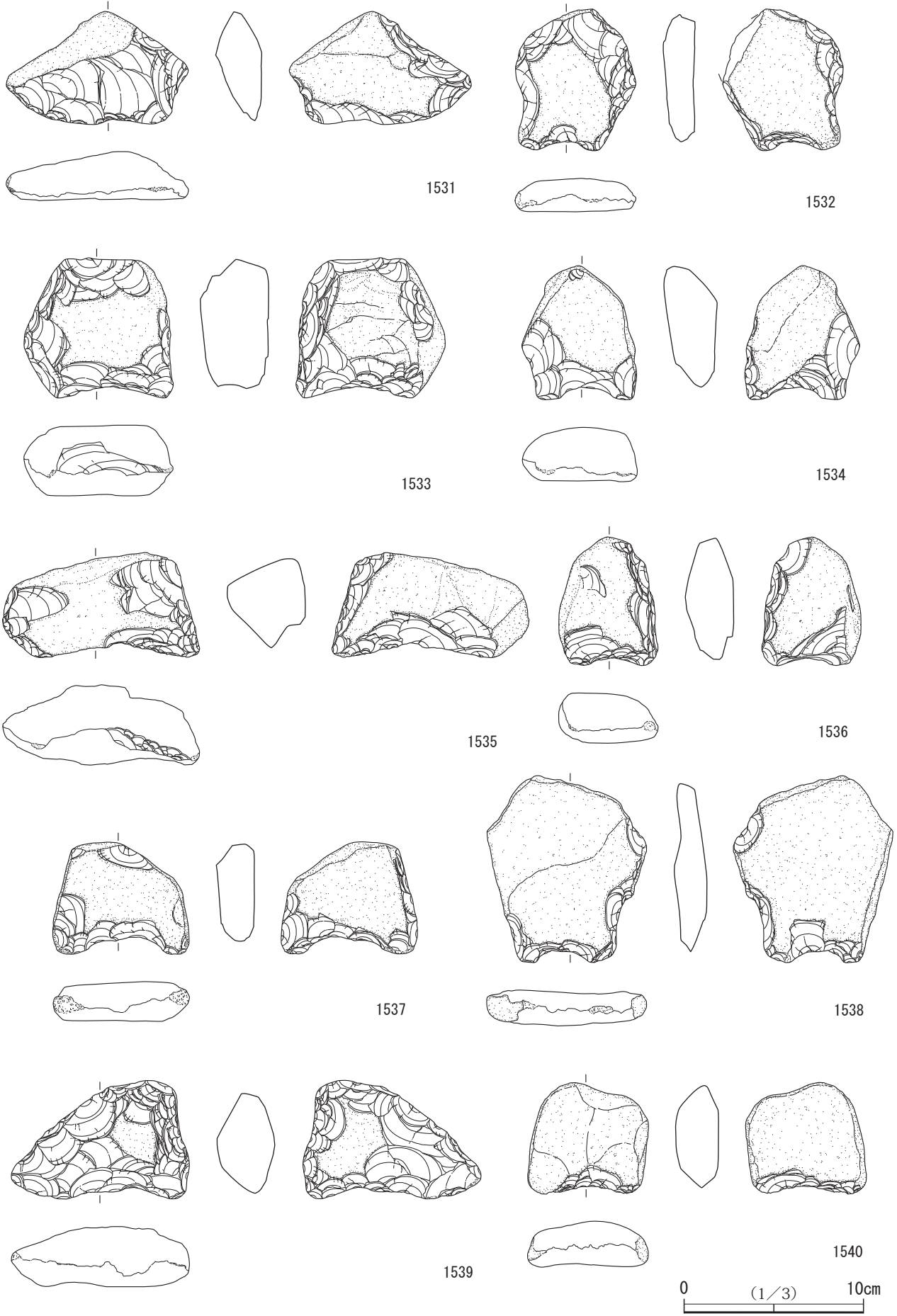
参考文献 九州縄文研究会『九州における縄文時代の漁撈具』 2009。

第15表 石器・石製品観察表(8) - 1

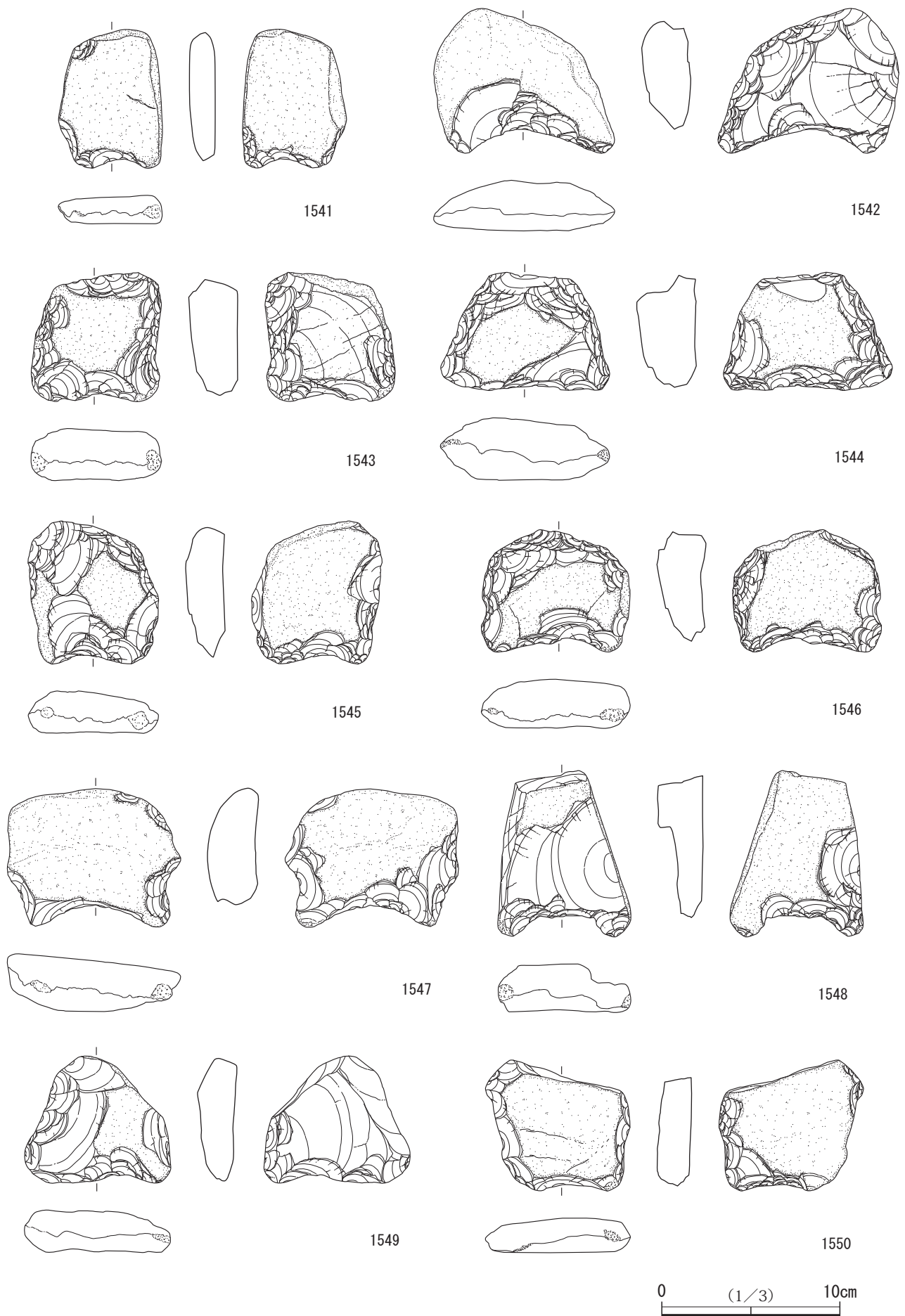
番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1531	20・21-2		SK15	礫器	a	安山岩	63.1	101.7	27.9	142.3	
1532	20・21-2	土手3	縄文3	礫器	a	安山岩	79.2	67.6	19.0	123.8	
1533	20・21-2	土手1以南	縄文	礫器	a	安山岩	78.4	83.4	39.7	407.8	
1534	20・21-2	海側	縄文3	礫器	a	安山岩	75.1	64.2	30.7	181.4	
1535	20・21-3	東半 海側	縄文	礫器	a	安山岩	58.7	110.0	44.8	315.0	
1536	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	礫器	a	安山岩	72.1	55.6	28.1	152.1	
1537	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文～弥生	礫器	a	安山岩	62.7	76.2	22.5	155.5	
1538	20・21-2	西半 山側	縄文3	礫器	a	安山岩	104.6	89.2	20.3	216.0	
1539	20・21-2	西半 山側	縄文3	礫器	a	安山岩	66.4	99.6	33.9	266.0	
1540	20・21-2	湿地層内	粘質シルト2	礫器	a	流紋岩	62.6	67.6	25.5	135.3	
1541	20・21-2		縄文3	礫器	a	安山岩	78.4	58.6	16.1	118.0	
1542	20・21-3		縄文～弥生	礫器	a	安山岩	81.6	101.8	28.7	265.5	
1543	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	礫器	a	安山岩	72.7	73.4	29.4	235.8	
1544	20・21-2	土手1～2間	弥生	礫器	a	安山岩	66.9	95.1	35.4	287.9	
1545	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	礫器	a	安山岩	80.5	73.6	23.9	194.8	
1546	20・21-3	西半	縄文～弥生	礫器	a	安山岩	68.7	83.9	28.1	220.9	
1547	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	礫器	a	安山岩	77.9	97.5	32.7	294.1	
1548	20・21-2	西半 海側	縄文	礫器	a	安山岩	93.5	74.9	27.6	207.2	
1549	20・21-2	土手1以南	縄文	礫器	a	流紋岩	71.7	82.3	23.9	169.1	
1550	20・21-2	土手1	弥生	礫器	a	安山岩	73.7	81.4	19.7	179.2	
1551	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文	礫器	a	安山岩	76.6	96.7	38.0	287.4	
1552	20・21-1	試掘TR～中央TR間	縄文～弥生	礫器	a	流紋岩	62.7	79.2	31.1	147.8	
1553	20・21-2	西半 山側	縄文3	礫器	a	凝灰岩	75.1	99.2	22.8	155.4	
1554	20・21-2		縄文3	礫器	a	流紋岩	83.2	64.1	24.6	172.3	
1555	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	礫器	a	流紋岩	82.2	60.2	26.1	172.9	
1556	20・21-2	湿地層内	縄文遺構面	礫器	a	流紋岩	74.9	97.5	32.1	269.7	
1557	20・21-2	西半 山側	縄文3	礫器	a	流紋岩	91.1	92.5	23.7	189.6	
1558	20・21-2	湿地層内	粘質シルト2	礫器	a	流紋岩	71.1	62.6	29.2	113.4	
1559	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2間 暗灰色粗砂	礫器	a	凝灰岩	74.6	84.8	41.1	245.8	
1560	20・21-2	西半 山側	縄文3	礫器	a	流紋岩	86.9	72.4	20.5	187.9	
1561	20・21-2	西半 山側	縄文3	礫器	a	流紋岩	84.6	63.8	22.6	125.0	
1562	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1	礫器	a	流紋岩	55.7	98.7	45.4	263.7	
1563	20・21-3	西半	遺構面およびその下層	礫器	b	安山岩	77.9	75.3	20.0	121.1	
1564	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	礫器	b	安山岩	70.5	111.4	29.8	309.6	
1565	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	礫器	b	安山岩	77.1	89.0	32.2	201.6	
1566	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	礫器	b	安山岩	60.7	90.1	36.2	214.2	
1567	20・21-3	西半	遺構面およびその下層	礫器	b	安山岩	92.5	99.8	29.5	266.4	
1568	20・21-3		遺構面およびその下層	礫器	b	安山岩	79.1	87.3	19.0	174.8	
1569	20・21-3		縄文～弥生	礫器	b	安山岩	60.4	110.5	39.6	270.7	右側面潰れ
1570	20・21-2	西半 海側	縄文	礫器	b	安山岩	76.0	55.9	25.6	141.5	
1571	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	礫器	b	安山岩	81.8	118.4	40.9	388.4	

第15表 石器・石製品観察表(8) - 2

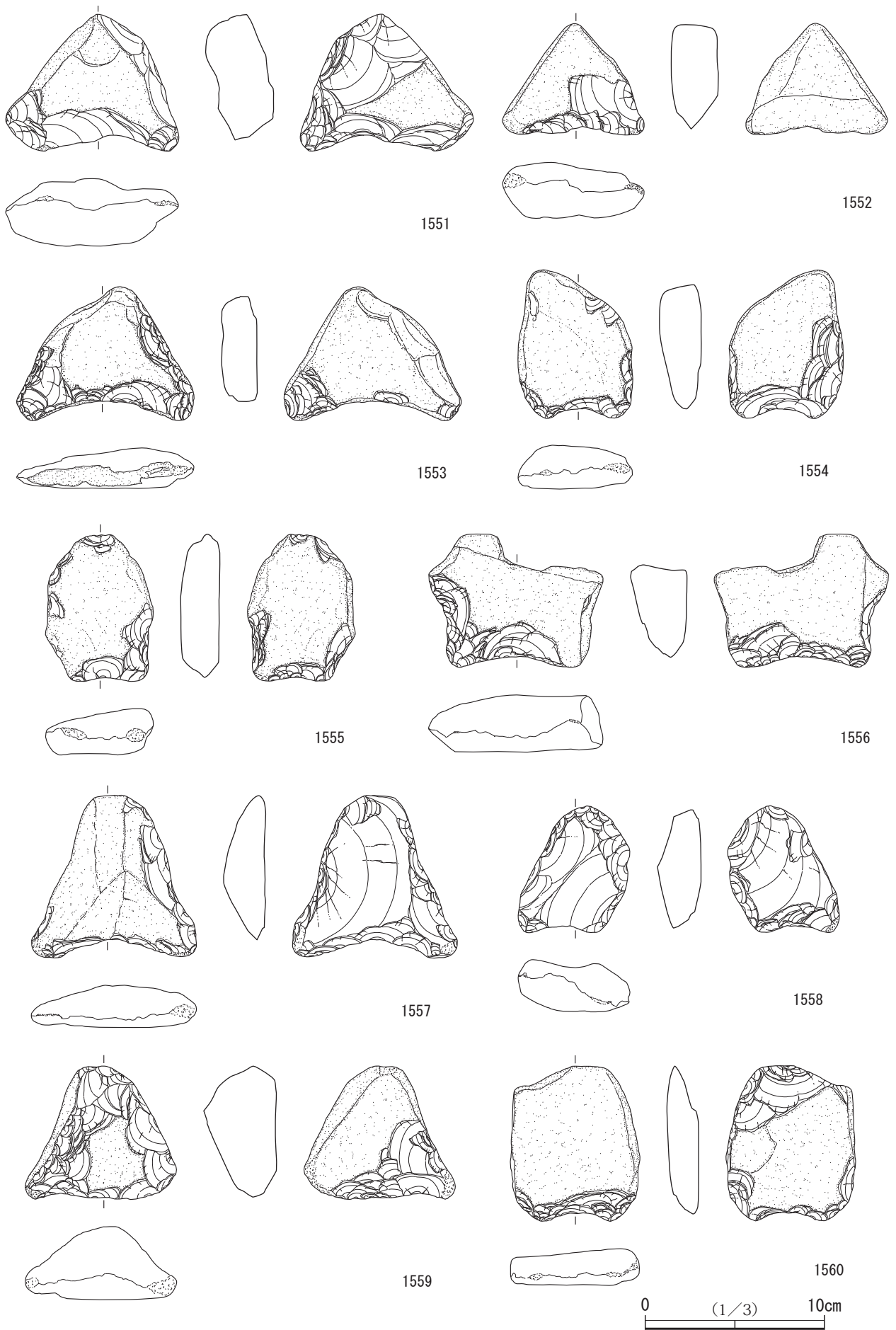
番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1572	20・21-2	西半 山側	縄文3より下層	礫器	b	安山岩	79.6	63.9	29.2	187.2	
1573	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	礫器	b	安山岩	53.8	92.7	24.6	121.5	
1574	20・21-3	西半	黒褐色土	礫器	b	安山岩	84.4	80.3	20.2	171.2	
1575	20・21-2	西半 海側	縄文	礫器	b	安山岩	68.2	111.6	25.6	204.7	
1576	20・21-3	西半	黒褐色土	礫器	b	安山岩	96.8	75.5	23.3	229.3	
1677	20・21-2	西半 海側	縄文	礫器	b	安山岩	70.4	93.6	29.5	255.8	
1578	20・21-2	土手1以南	縄文	礫器	b	安山岩	77.2	75.3	33.2	252.4	
1579	20・21-2	西半 海側	縄文	礫器	b	安山岩	82.3	134.3	25.5	303.8	
1580	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	礫器	b	安山岩	72.3	86.5	31.1	272.2	
1581	20・21-2	土手1	縄文	礫器	b	安山岩	88.8	83.0	22.9	194.2	
1582	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	礫器	b	安山岩	69.5	99.1	22.8	205.7	
1583	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文	礫器	b	安山岩	58.9	78.8	37.4	235.0	
1584	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	礫器	b	安山岩	88.2	87.2	29.6	286.3	
1585	20・21-2	西半 海側	縄文	礫器	b	安山岩	77.2	81.2	27.1	184.9	
1586	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	礫器	b	安山岩	102.8	61.6	36.3	234.3	
1587	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	礫器	b	安山岩	101.5	68.0	47.5	378.2	
1588	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	礫器	b	安山岩	89.0	72.5	30.3	235.6	
1589	20・21-2	西半 山側	縄文	礫器	b	結晶片岩	71.3	85.9	26.5	244.1	
1590	20・21-2	西半 山側	縄文3	礫器	b	流紋岩	79.1	95.1	28.4	250.9	
1591	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	礫器	b	流紋岩	76.1	58.3	27.5	111.6	素材縦折れ
1592	20・21-2	西半 山側	縄文3	礫器	b	流紋岩	76.0	101.4	30.3	242.4	
1593	20・21-2	西半 山側	縄文3	礫器	b	流紋岩	60.1	63.0	29.6	135.9	
1594	20・21-2	西半 山側	縄文3	礫器	b	流紋岩	77.0	95.5	40.3	214.9	
1595	20・21-2	西半 山側	縄文3	礫器	b	流紋岩	65.2	89.7	32.9	175.1	
1596	20・21-2	土手1	縄文	礫器	b	流紋岩	88.8	89.6	27.3	256.4	
1597	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	礫器	b	流紋岩	67.9	96.2	26.1	189.0	
1598	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面 暗灰色粗砂	礫器	b	流紋岩	59.9	89.0	28.7	153.3	
1599	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文～弥生	礫器	b	流紋岩	66.3	76.1	30.0	184.0	
1600	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	礫器	b	流紋岩	79.1	76.6	32.5	210.3	
1601	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	礫器	b	流紋岩	84.5	67.0	31.4	200.0	
1602	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	礫器	b	流紋岩	80.8	66.3	40.5	214.4	
1603	20・21-3	西半	縄文～弥生	礫器	b	流紋岩	70.2	78.7	33.7	206.2	右側面潰れ
1604	20・21-3		縄文～弥生	礫器	b	流紋岩	63.0	73.7	25.8	159.8	
1605	20・21-3	東半	縄文	礫器	b	流紋岩	63.2	94.4	36.9	259.1	
1606	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面 暗灰色粗砂	礫器	b	流紋岩	83.7	70.9	37.8	252.7	
1607	20・21-2	土手1～2間	縄文～弥生	礫器	b	凝灰岩	68.7	76.9	32.0	163.5	
1608	20・21-2	西半 山側	縄文3	礫器	b	凝灰岩	68.5	80.8	17.1	136.8	
1609	20・21-2	土手1以南	縄文	礫器	b	流紋岩	55.5	106.7	30.1	217.2	
1610	20・21-2	土手3 砂堆と湿地の境	縄文3	礫器	b	凝灰岩	88.2	97.5	32.4	291.2	
1611	20・21-2	土手1～2間	縄文	礫器	b	凝灰岩	85.0	68.1	19.1	118.6	



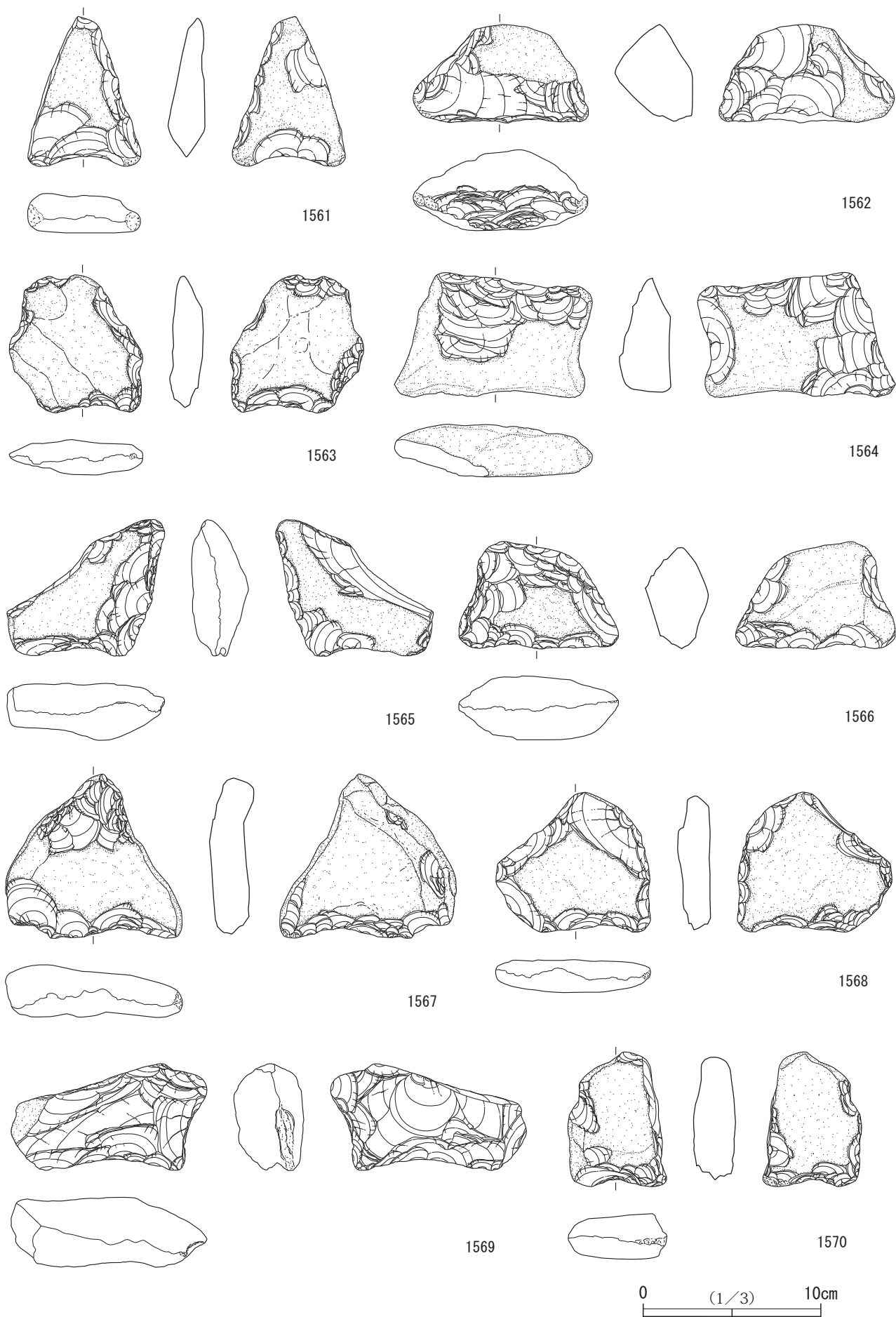
第154図 石器・石製品実測図(25)



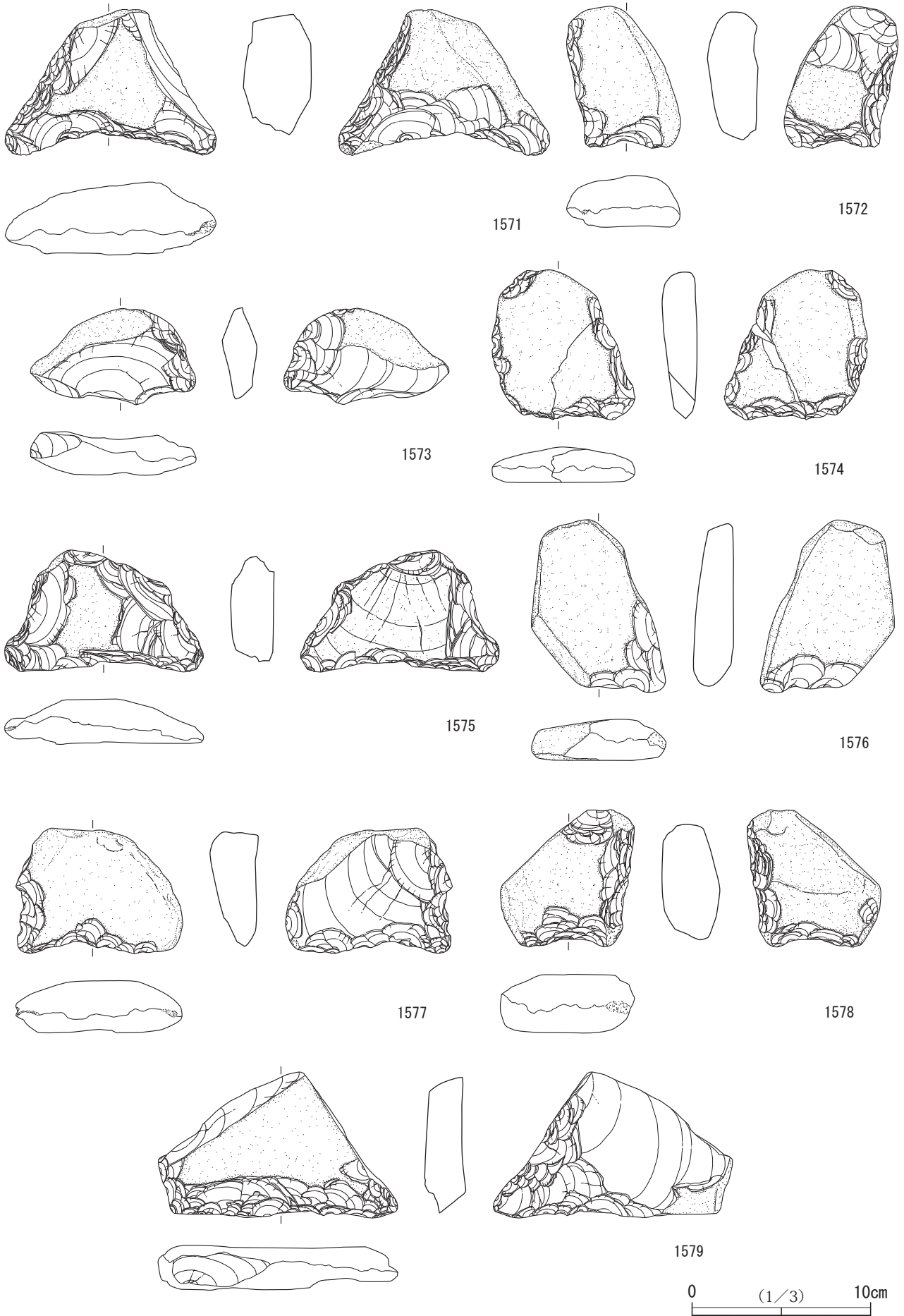
第155図 石器・石製品実測図(26)



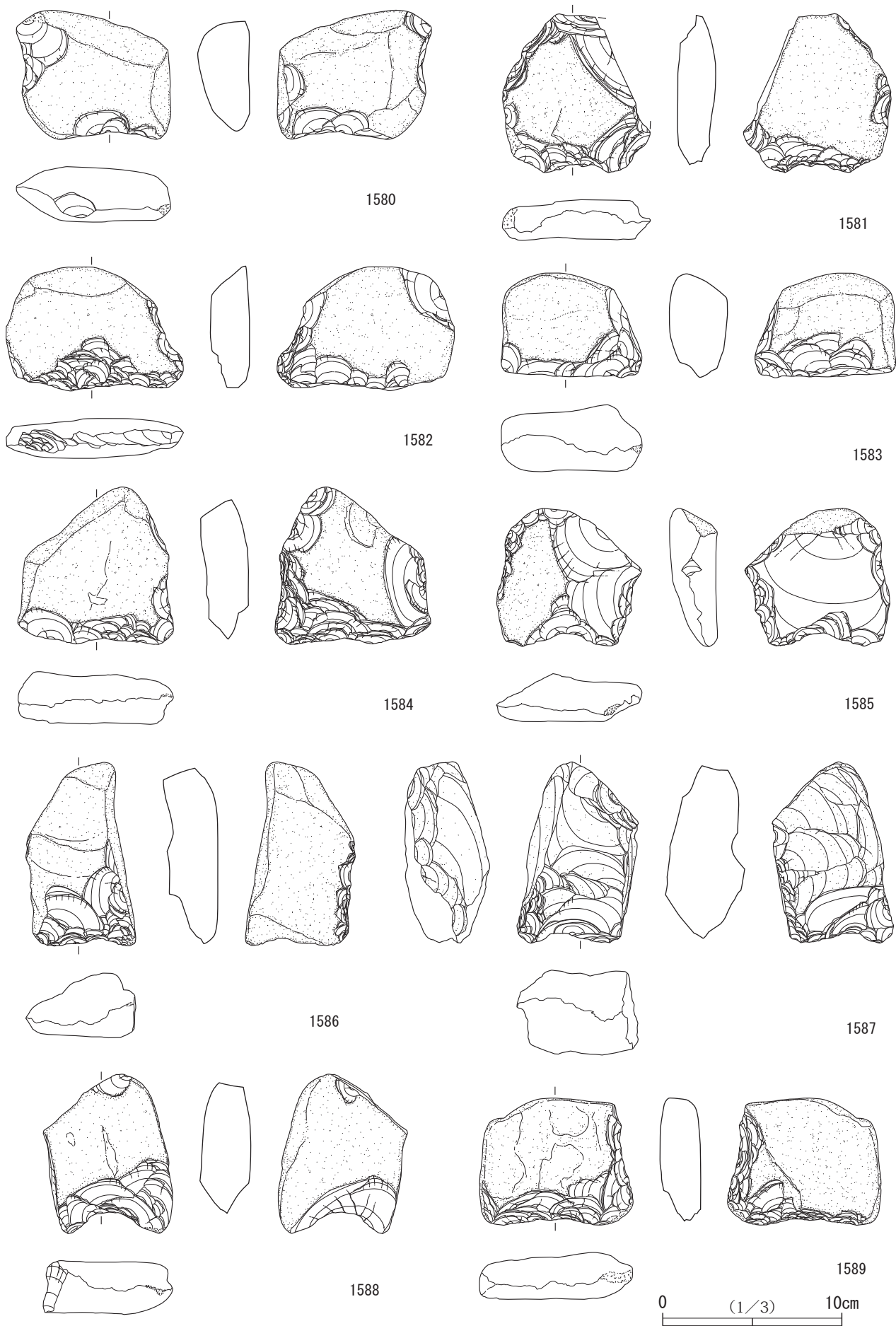
第156図 石器・石製品実測図(27)



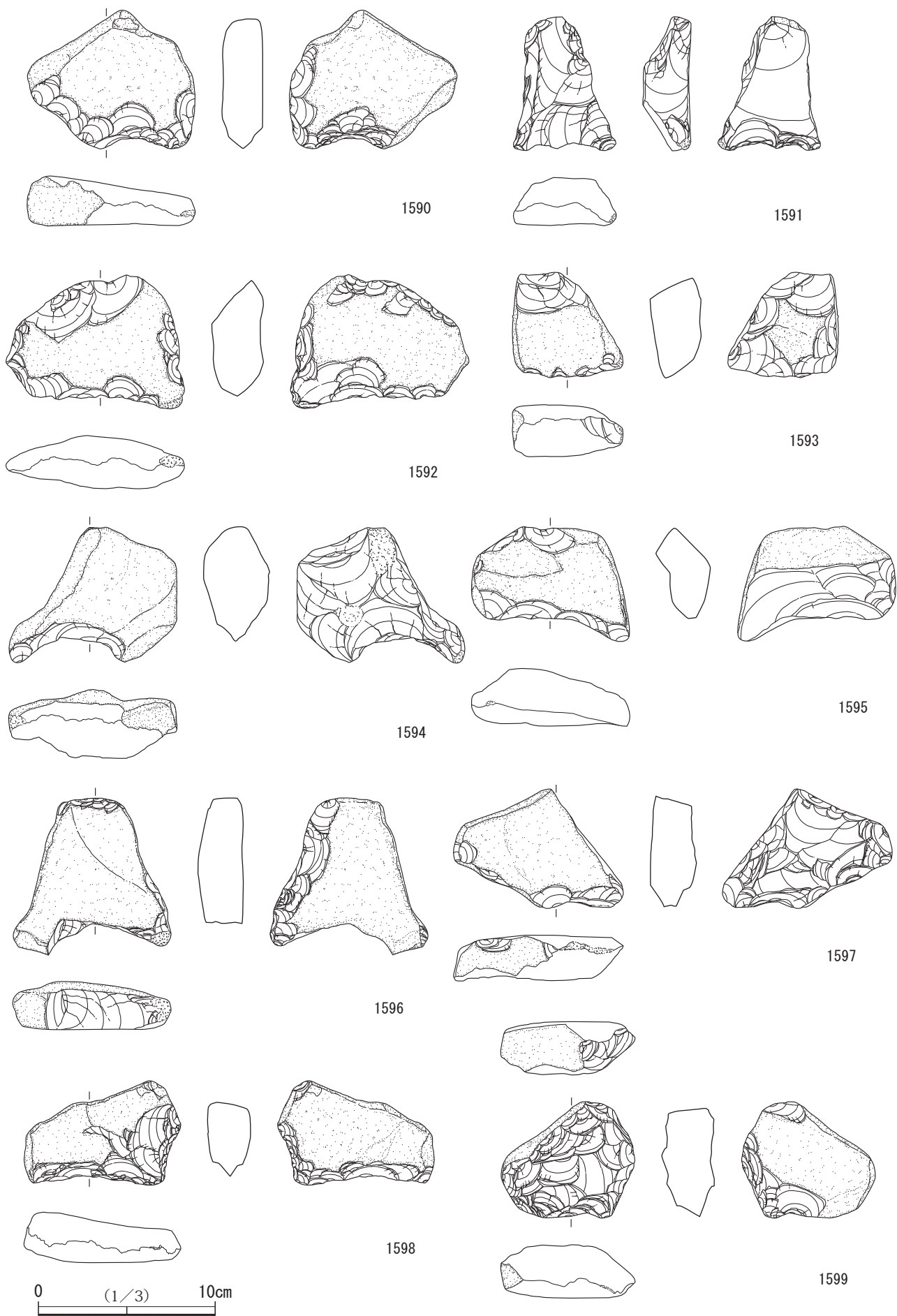
第157図 石器・石製品実測図(28)



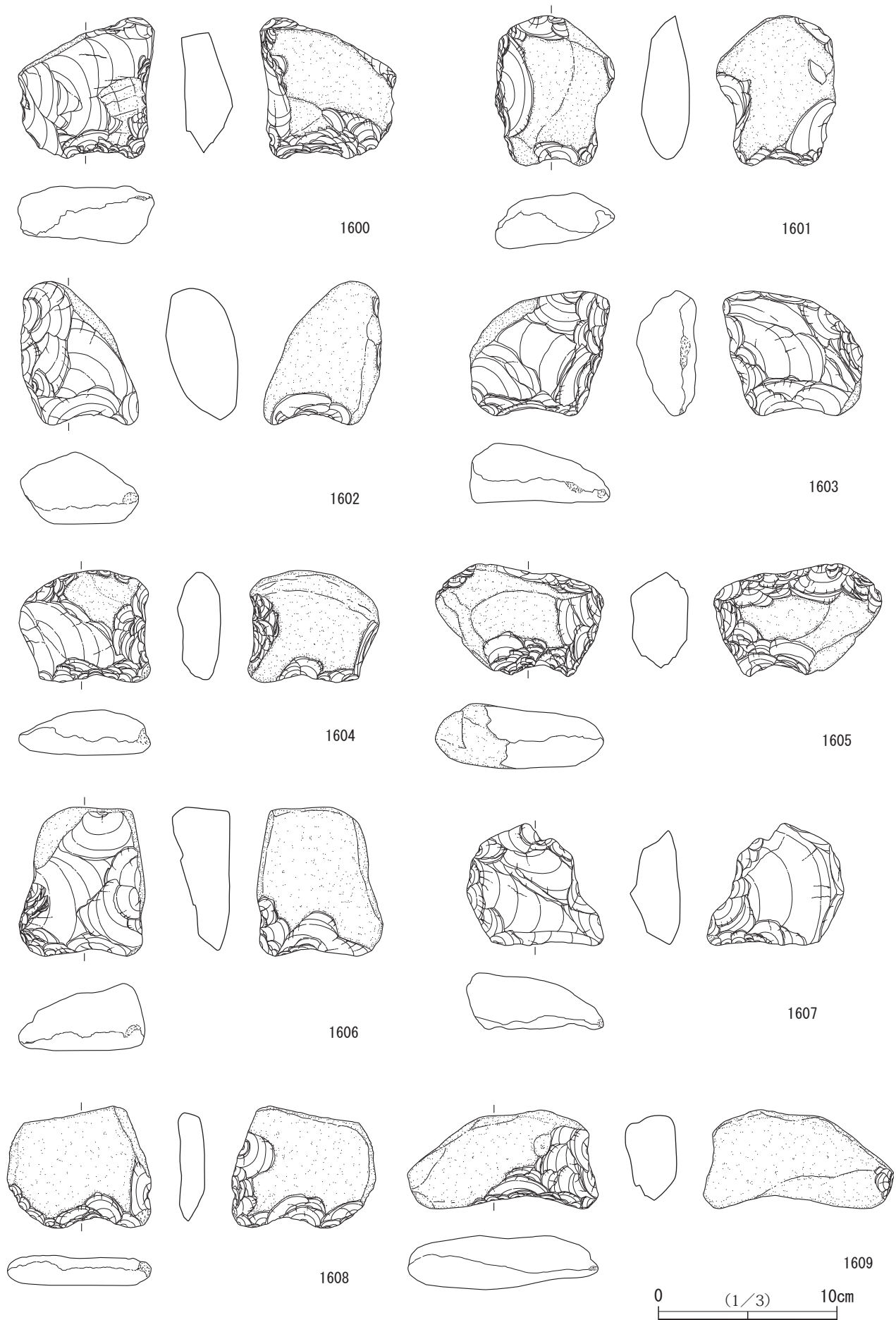
第158図 石器・石製品実測図(29)



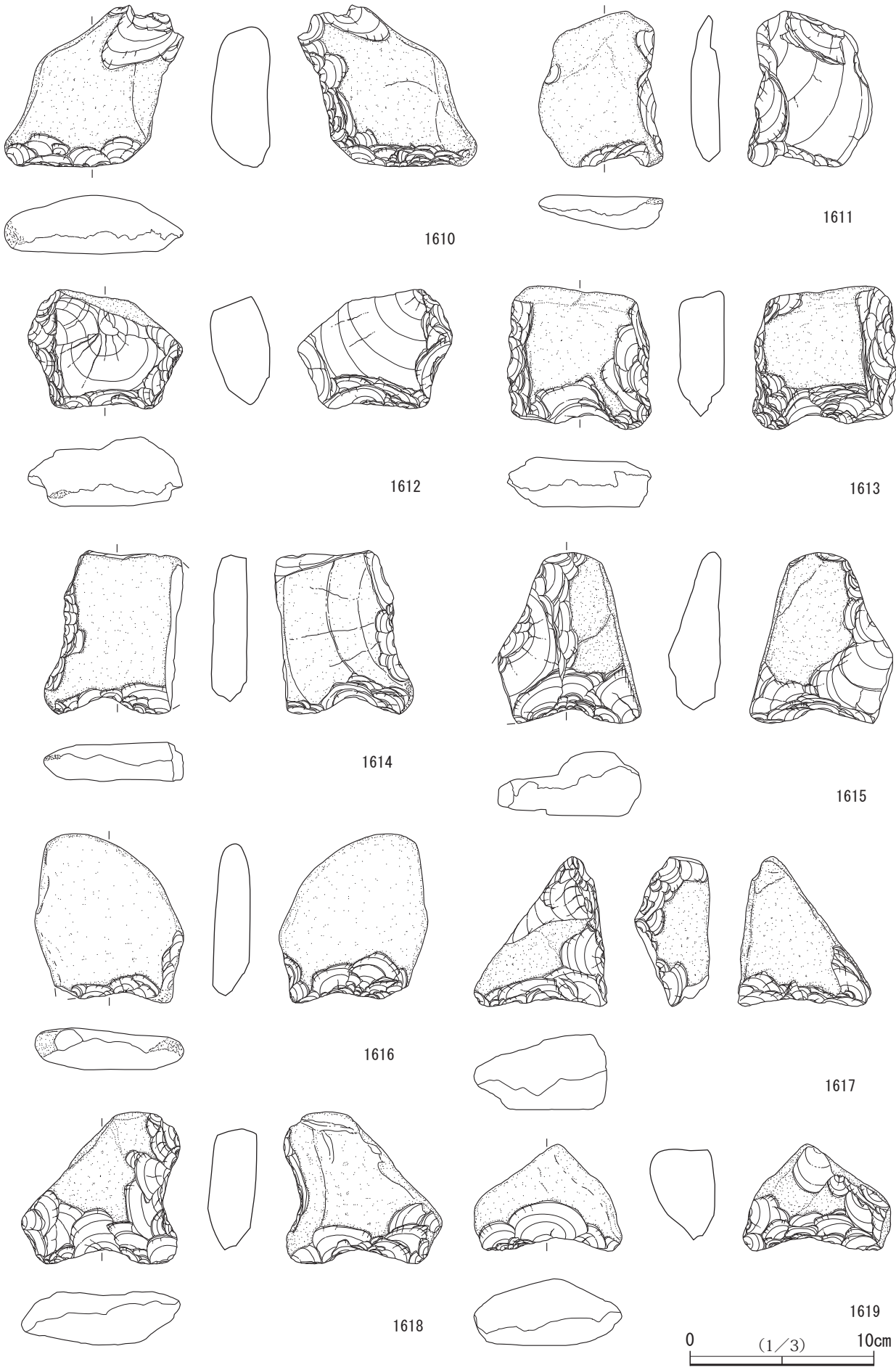
第159図 石器・石製品実測図(30)



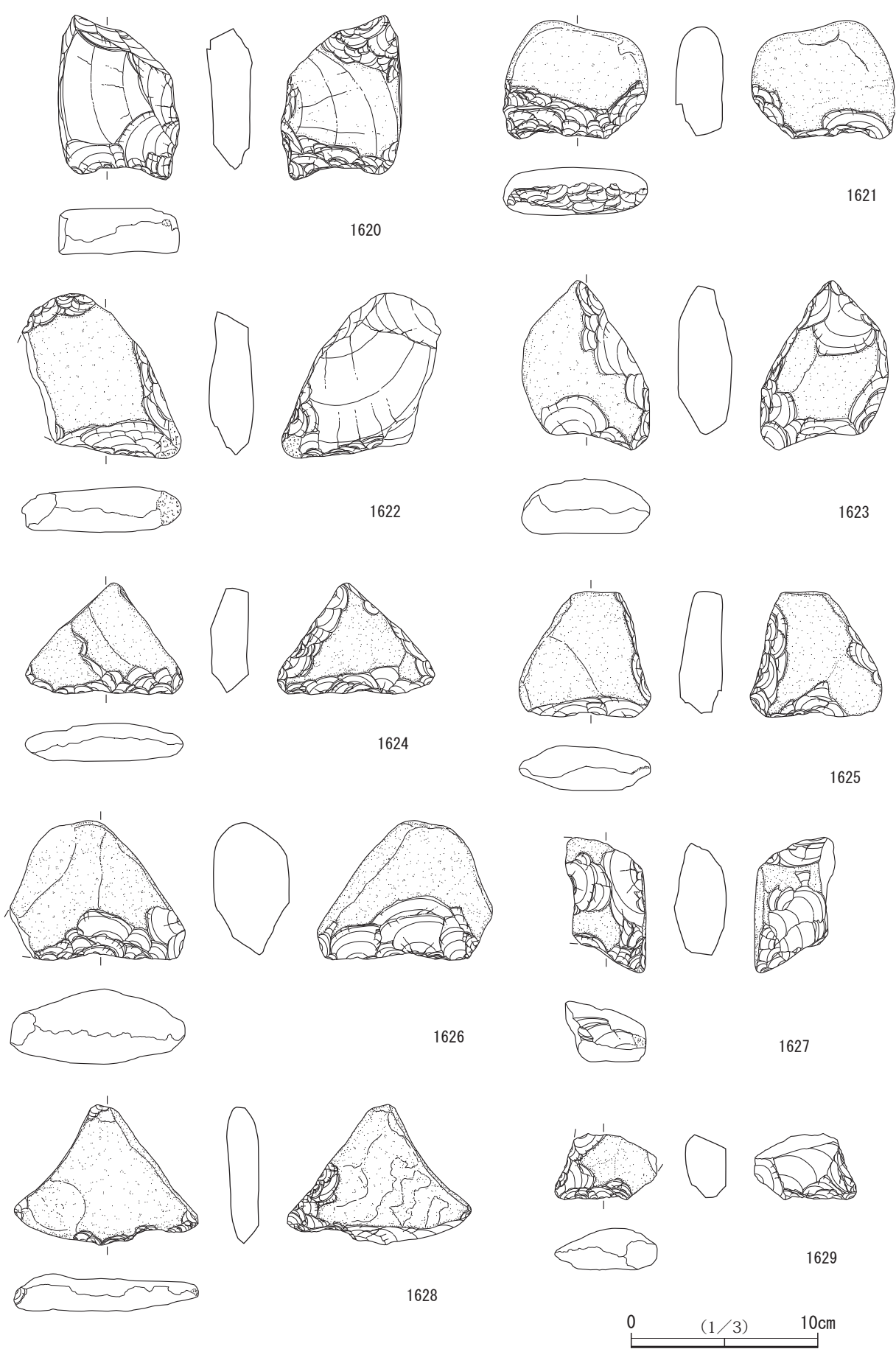
第160図 石器・石製品実測図(31)



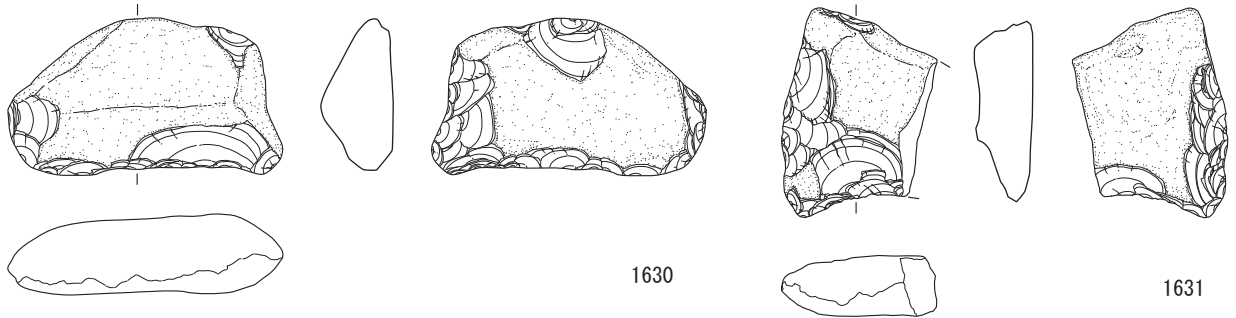
第161図 石器・石製品実測図(32)



第162図 石器・石製品実測図(33)

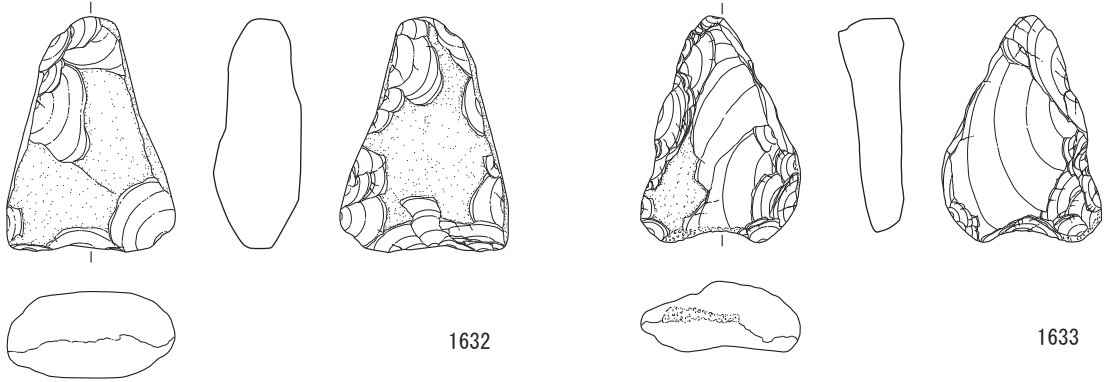


第163図 石器・石製品実測図(34)



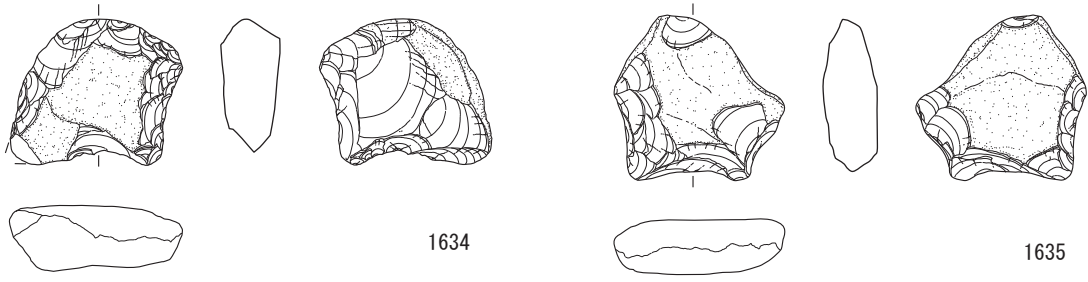
1630

1631



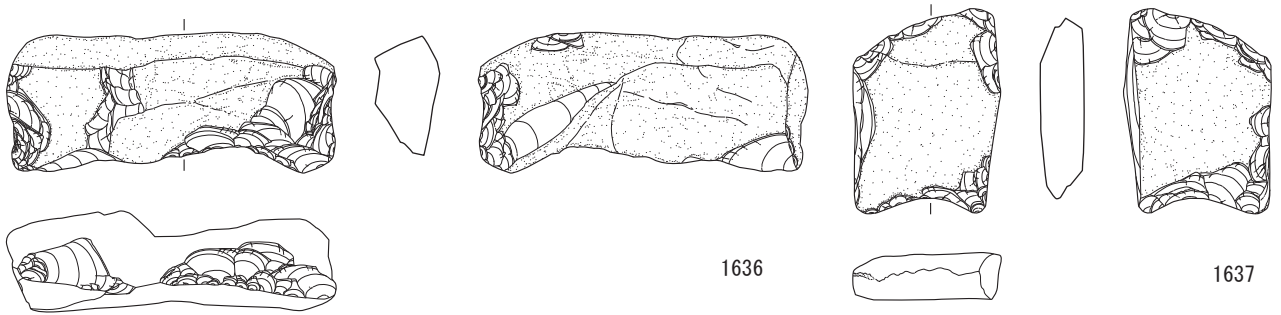
1632

1633



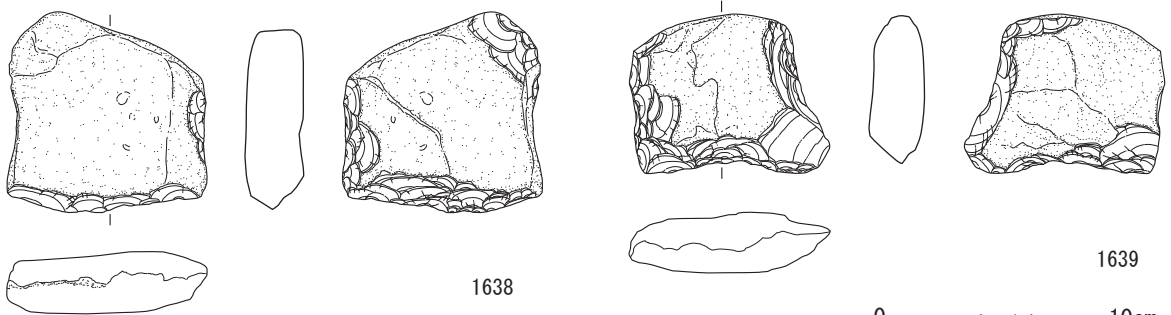
1634

1635



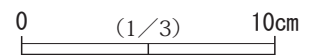
1636

1637

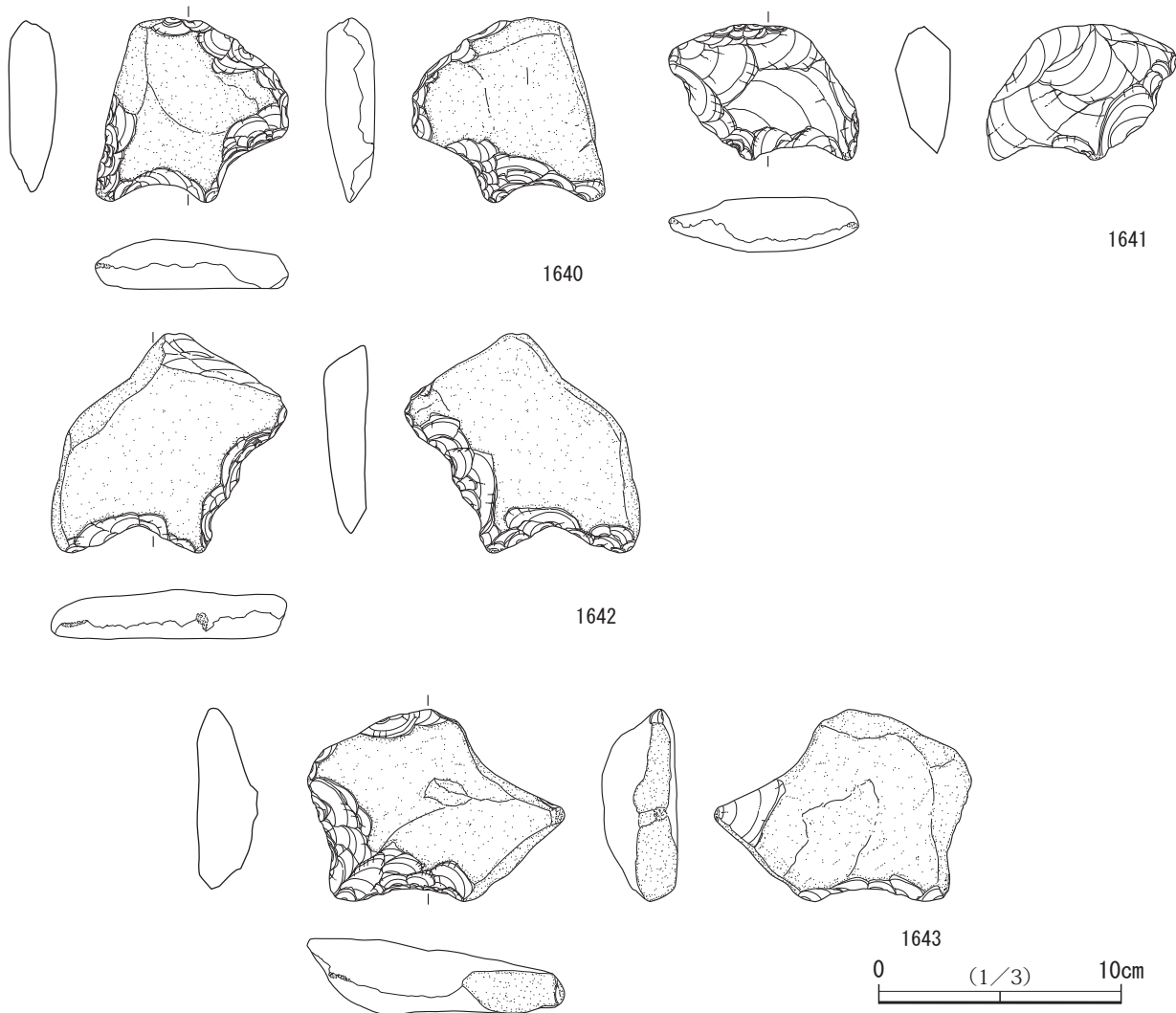


1638

1639



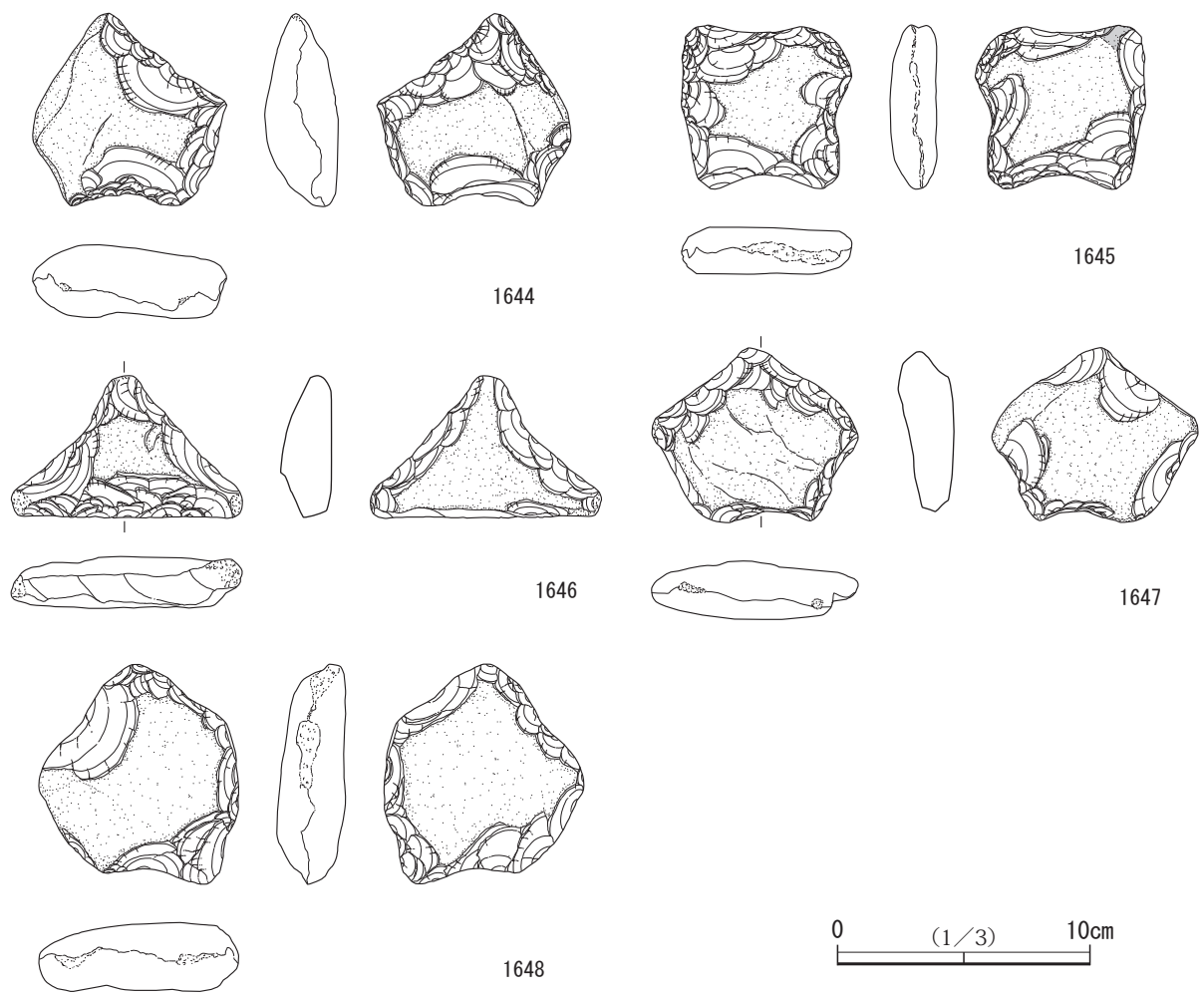
第164図 石器・石製品実測図(35)



第165図 石器・石製品実測図(36)

第16表 石器・石製品観察表(9)

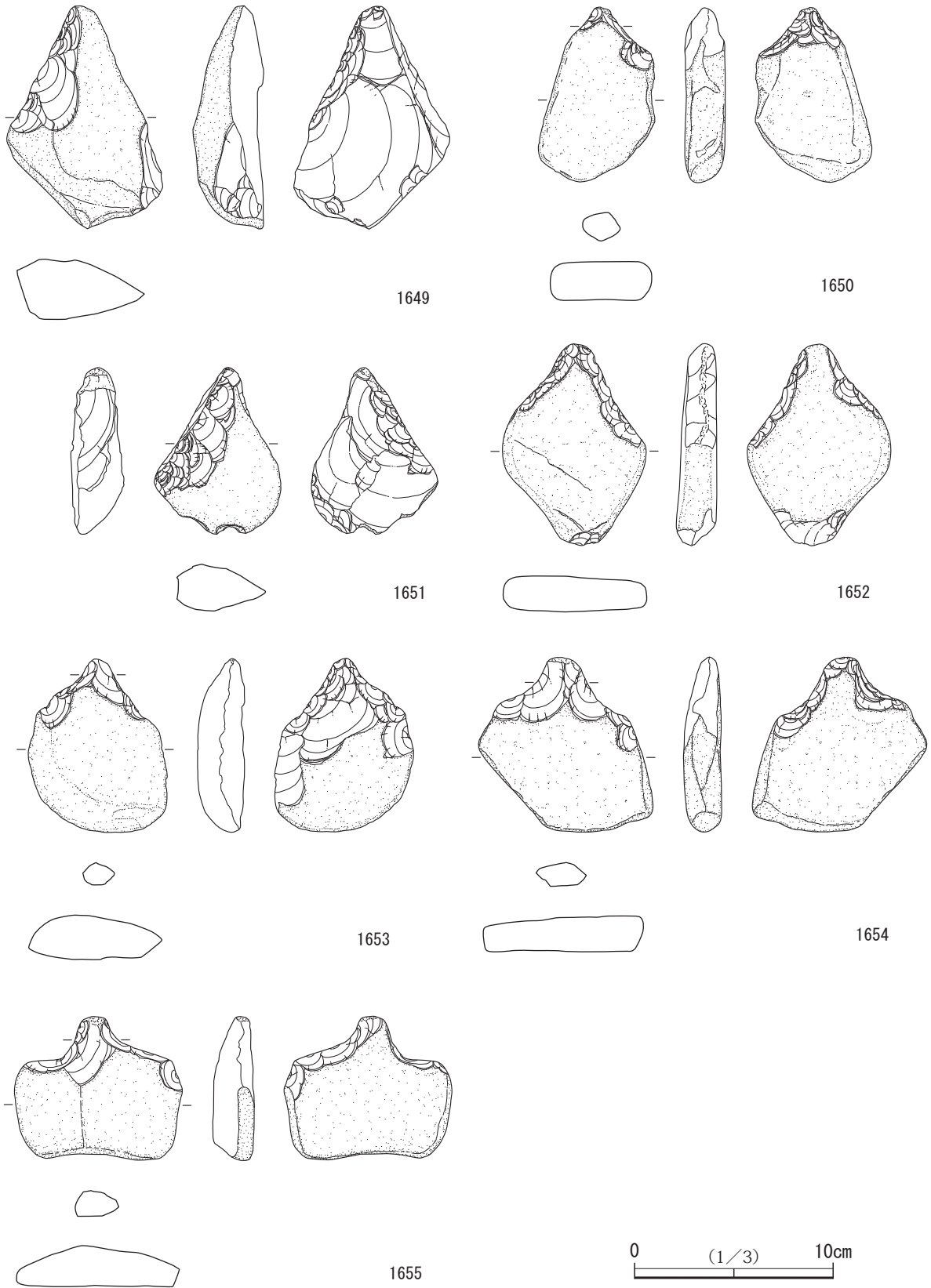
番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1612	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	礫器	ab	安山岩	65.2	84.3	38.2	227.7	
1613	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	礫器	ab	安山岩	78.4	78.4	27.3	245.9	
1614	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文～弥生	礫器	ab	安山岩	89.4	76.1	21.4	203.3	
1615	20・21-3	西半	縄文～弥生	礫器	ab	安山岩	93.3	78.2	35.5	231.8	
1616	20・21-3	東半 海側	縄文	礫器	ab	安山岩	89.8	81.7	22.9	229.5	
1617	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	礫器	ab	安山岩	81.9	72.6	41.1	242.3	
1618	20・21-3		弥生～古代	礫器	ab	安山岩	83.2	86.7	29.1	246.0	
1619	20・21-3		弥生～古代	礫器	ab	安山岩	58.3	80.7	36.4	167.6	
1620	20・21-3	東半	縄文～弥生	礫器	ab	安山岩	88.2	65.0	25.1	194.5	
1621	20・21-3	東半	縄文～弥生	礫器	ab	安山岩	63.6	77.9	26.0	180.7	
1622	20・21-3	西半	黒褐色土	礫器	ab	安山岩	88.8	85.3	24.5	220.9	
1623	20・21-2	海側	縄文3	礫器	ab	安山岩	91.0	68.8	30.1	214.5	
1624	20・21-2	西半 海側	縄文	礫器	ab	安山岩	59.9	84.6	20.7	109.4	
1625	20・21-2	西半 海側	縄文	礫器	ab	安山岩	67.9	70.8	24.2	146.2	



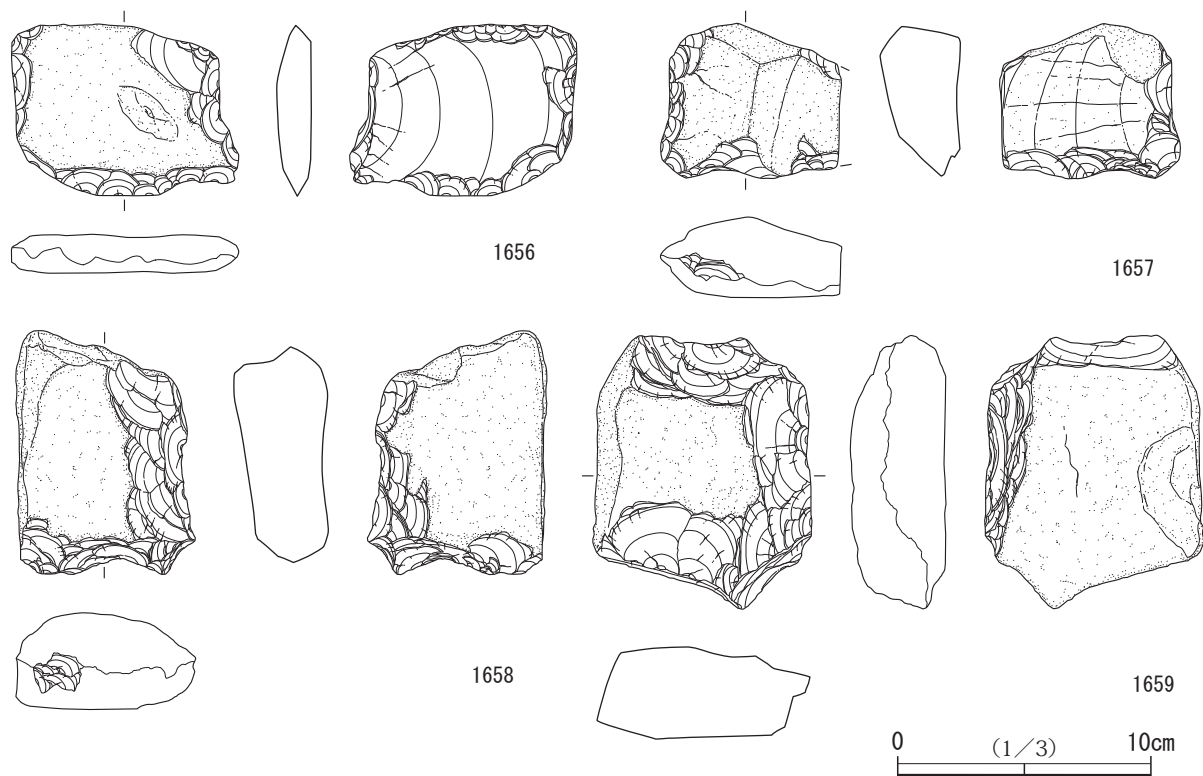
第166図 石器・石製品実測図(37)

第17表 石器・石製品観察表(10)

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1626	20・21-2	東半 海側	縄文	礫器	ab	安山岩	75.0	94.1	40.7	330.2	
1627	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	礫器	ab	安山岩	73.1	43.5	32.7	101.5	
1628	20・21-2		縄文3	礫器	ab	安山岩	75.5	98.9	20.4	127.1	全面摩耗している。
1629	20・21-2	山側	縄文3より下層	礫器	ab	安山岩	36.0	55.0	22.6	48.9	
1630	20・21-3	西半	黒褐色土	礫器	ab	流紋岩	62.8	108.8	32.1	267.1	
1631	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	礫器	ab	流紋岩	82.9	61.5	24.1	160.3	
1632	20・21-2	西半 山側	縄文	礫器	ab	流紋岩	93.3	66.8	34.7	269.4	
1633	20・21-2	西半 山側	縄文3	礫器	ab	流紋岩	89.9	63.3	27.9	151.8	下辺潰れ
1634	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	礫器	ab	流紋岩	57.7	68.4	26.1	128.0	
1635	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文	礫器	ab	流紋岩	65.5	67.9	22.1	127.4	
1636	20・21-1	中央TR周辺	縄文	礫器	ab	流紋岩	56.0	130.4	39.8	328.3	
1637	20・21-3	東半	縄文	礫器	ab	流紋岩	81.3	58.9	19.0	138.6	
1638	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～粘質シルト2上面 暗灰色粗砂	礫器	ab	流紋岩	80.0	79.2	24.7	237.3	下辺潰れ
1639	20・21-2	海側	縄文	礫器	ab	結晶片岩	63.1	79.6	24.2	152.5	



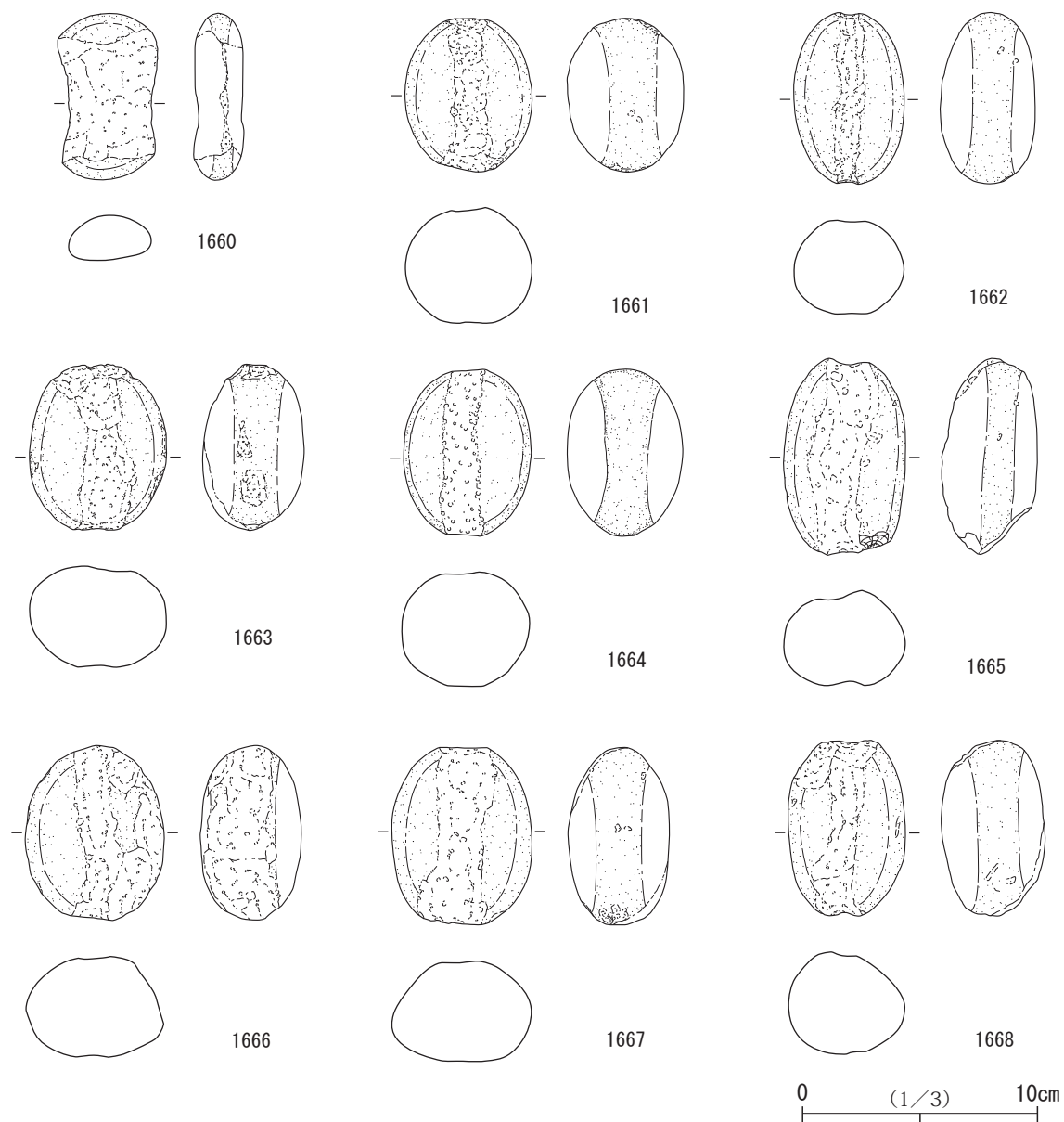
第167図 石器・石製品実測図(38)



第168図 石器・石製品実測図(39)

第18表 石器・石製品観察表(11)

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1640	20・21-2	西半 海側	縄文	礫器	c	安山岩	76.3	79.8	21.0	167.3	
1641	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1	礫器	c	流紋岩	56.6	78.5	22.8	97.3	
1642	20・21-2	西半 海側	縄文	礫器	c	安山岩	90.8	97.4	20.7	191.0	
1643	20・21-2	西半 海側	縄文	礫器	c	凝灰岩	79.5	106.4	31.6	269.1	
1644	20・21-3	西半	縄文	礫器	d	安山岩	76.6	77.1	29.4	187.2	
1645	20・21-3	東半	縄文	礫器	d	安山岩	65.3	67.9	18.8	121.4	下と右側面潰れ
1646	20・21-2	海側	縄文3	礫器	d	安山岩	56.7	91.7	20.8	108.5	
1647	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	礫器	d	安山岩	69.4	82.0	23.5	137.3	
1648	20・21-2	西半 山側	縄文3	礫器	d	凝灰岩	87.4	79.4	27.6	239.3	
1649	20・21-3	西半	縄文	礫器	e	安山岩	112.6	78.7	35.8	287.8	
1650	20・21-3		弥生～古代	礫器	e	安山岩	88.4	58.9	20.5	154.5	
1651	20・21-3	東半 海側	弥生	礫器	e	安山岩	84.3	63.9	26.9	130.3	
1652	20・21-3	中央土手	縄文	礫器	e	安山岩	101.9	72.6	20.8	172.4	
1653	20・21-2	土手1～2間	縄文	礫器	e	凝灰岩	87.9	70.2	24.1	182.2	
1654	20・21-2	海側	縄文3	礫器	e	安山岩	88.5	88.3	19.4	186.4	
1655	20・21-2	土手1以南	縄文～縄文3	礫器	e	安山岩	72.8	84.8	21.2	160.3	
1656	20・21-2	西半 海側	縄文	礫器	f	安山岩	68.2	90.1	15.7	131.6	剥片素材
1657	20・21-2	西半 海側	縄文	礫器	f	安山岩	61.5	71.8	32.1	176.8	
1658	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	礫器	f	安山岩	96.7	71.1	38.2	376.4	
1659	20・21-1	湿地層内	青灰色粘質シルト層	礫器	f	凝灰岩	108.1	86.8	38.0	493.3	



第169図 石器・石製品実測図(40)

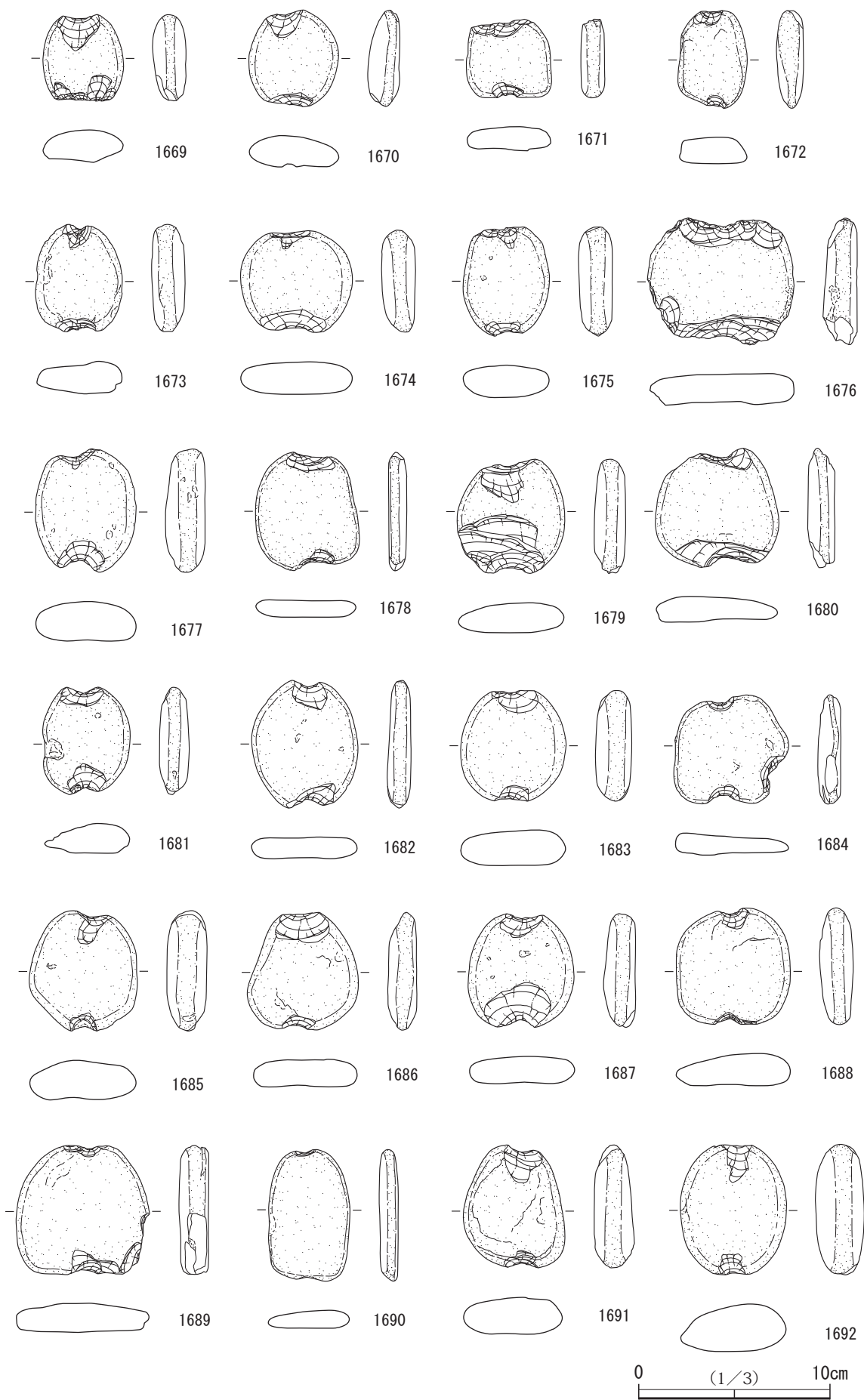
石錘(第169～177図 図版117～125)

石錘は前回の調査で約400点、今回の調査では約280点が出土している。ここではその中から122点を掲載した。石錘には有溝石錘と打欠石錘があり、後者が多数を占める。

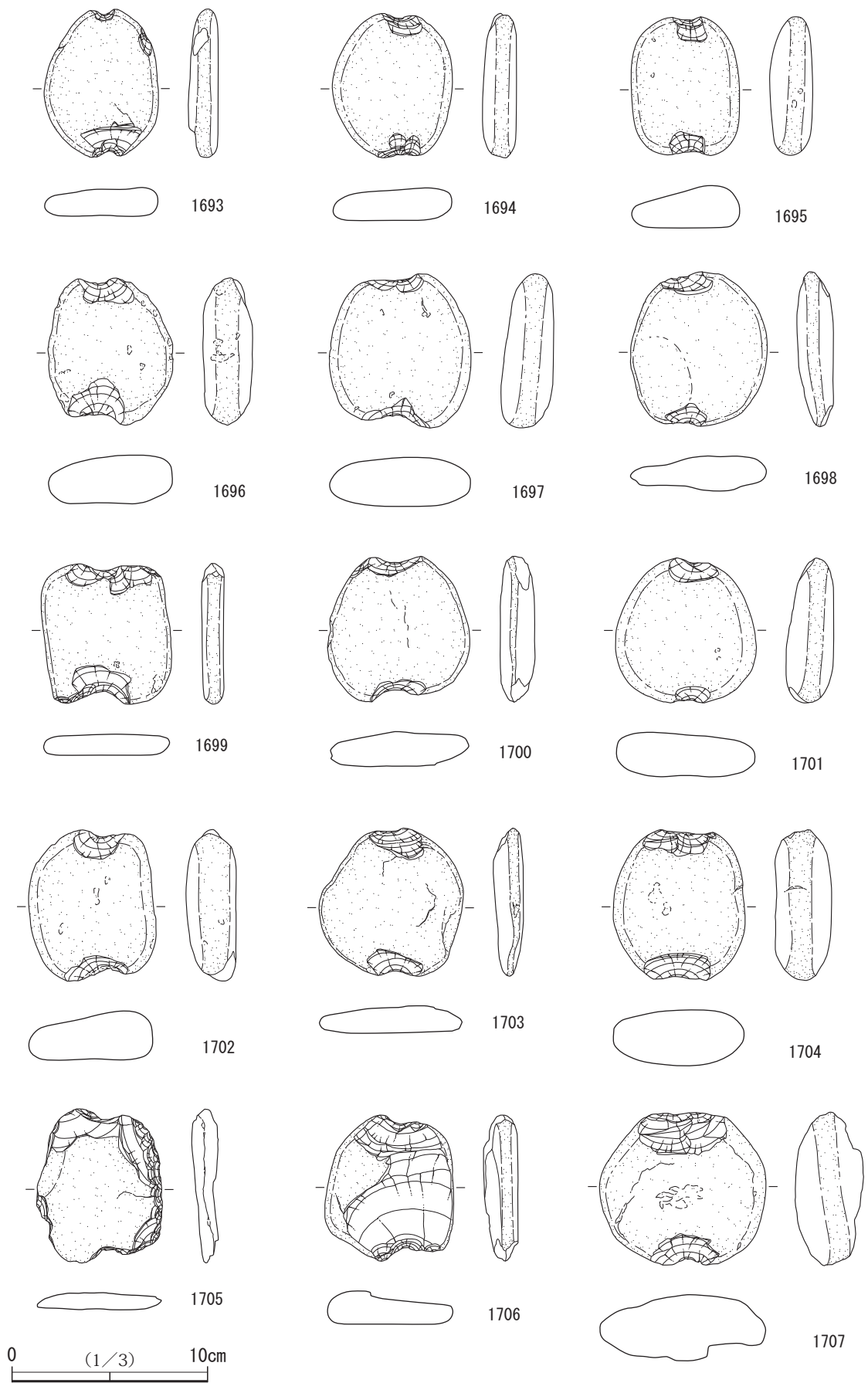
1660～1668は有溝石錘である。扁平礫を使用し、短軸方向に幅広の溝を設ける1660以外は、7cm前後の円礫に長軸方向に沿った溝をつくる。石材は安山岩、花崗岩を使用する。

1669～1781は打欠石錘である。ほとんどが扁平な礫の長軸方向の両端を打ち欠き、抉りをつけている。1777、1778は中央に敲打による凹みがあることから、敲石を転用したものとみられる。また1721は短軸方向に貝殻状の剝離がみられ、他の石錘とは加工が異なることが指摘される。1781は打欠の加工が長軸ではなく短軸の両端になされている。重さも最も重い4,933gで、大型の石錘である。出土層位も古代以降に相当することから、他の打欠石錘とは用途が異なるのであろう。

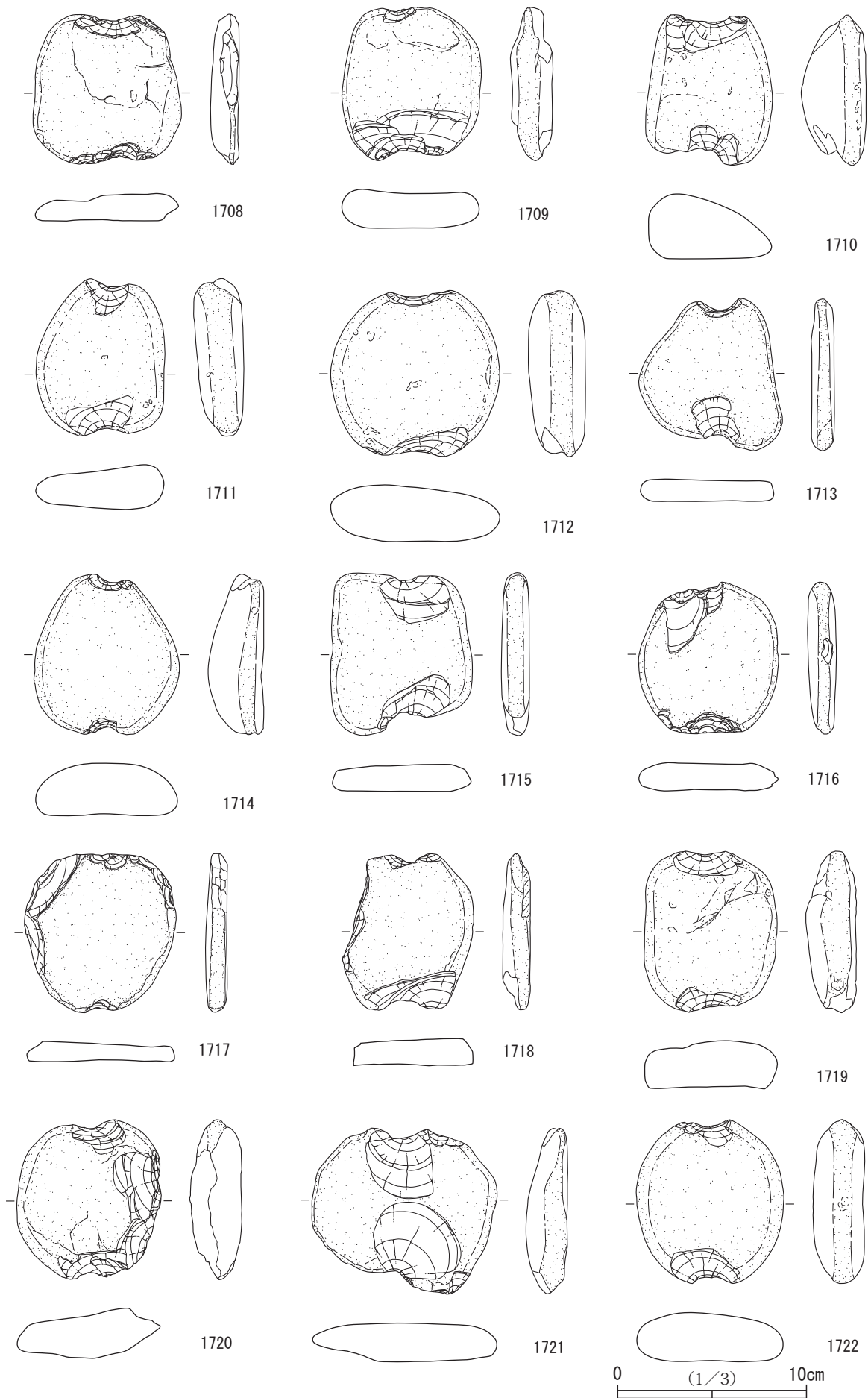
使用された石材は安山岩が最も多く、次いで結晶片岩、流紋岩が続く。石材も多岐にわたり、海岸の転礫をそのまま素材として加工したものが多い。



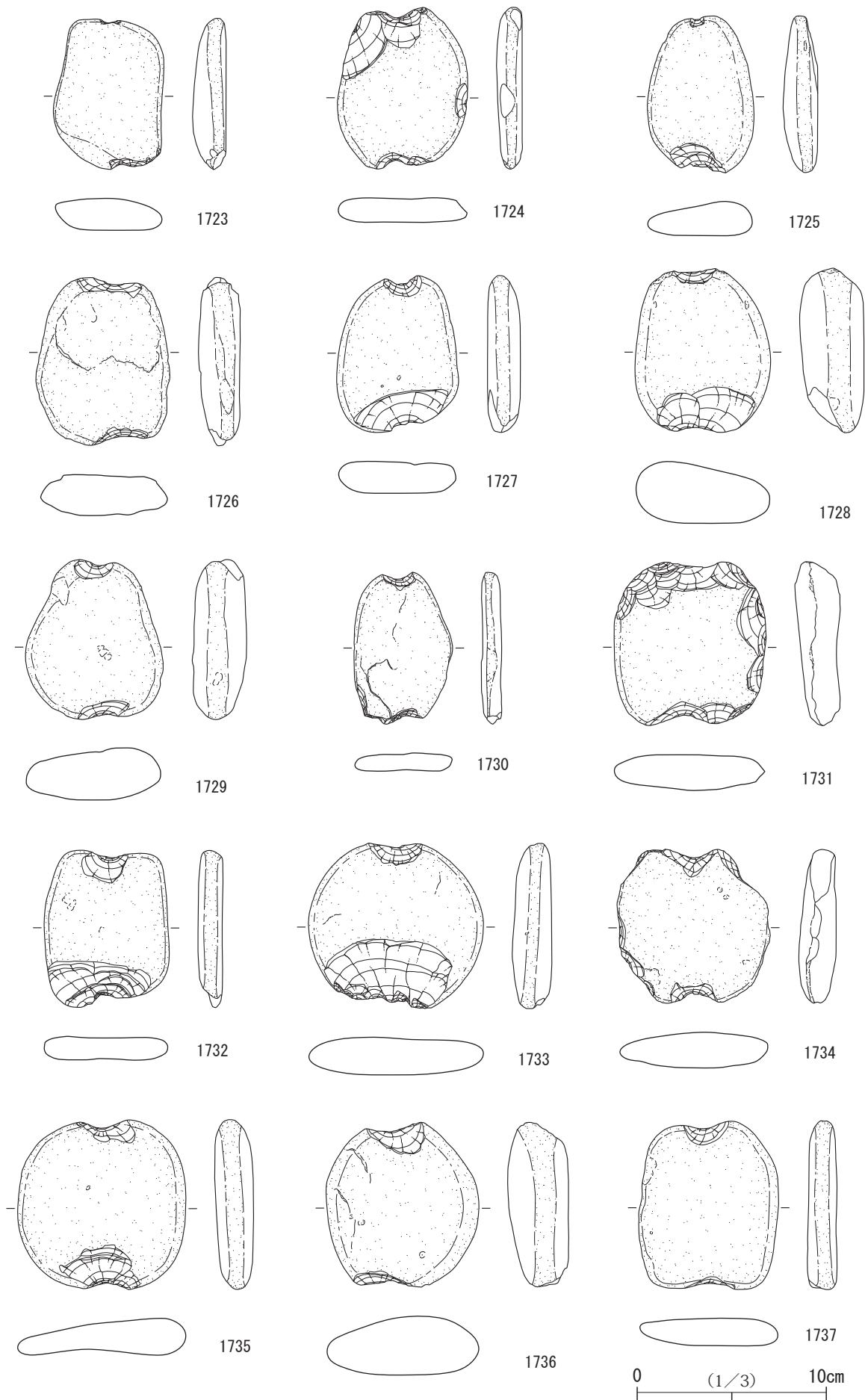
第170图 石器・石製品実測図(41)



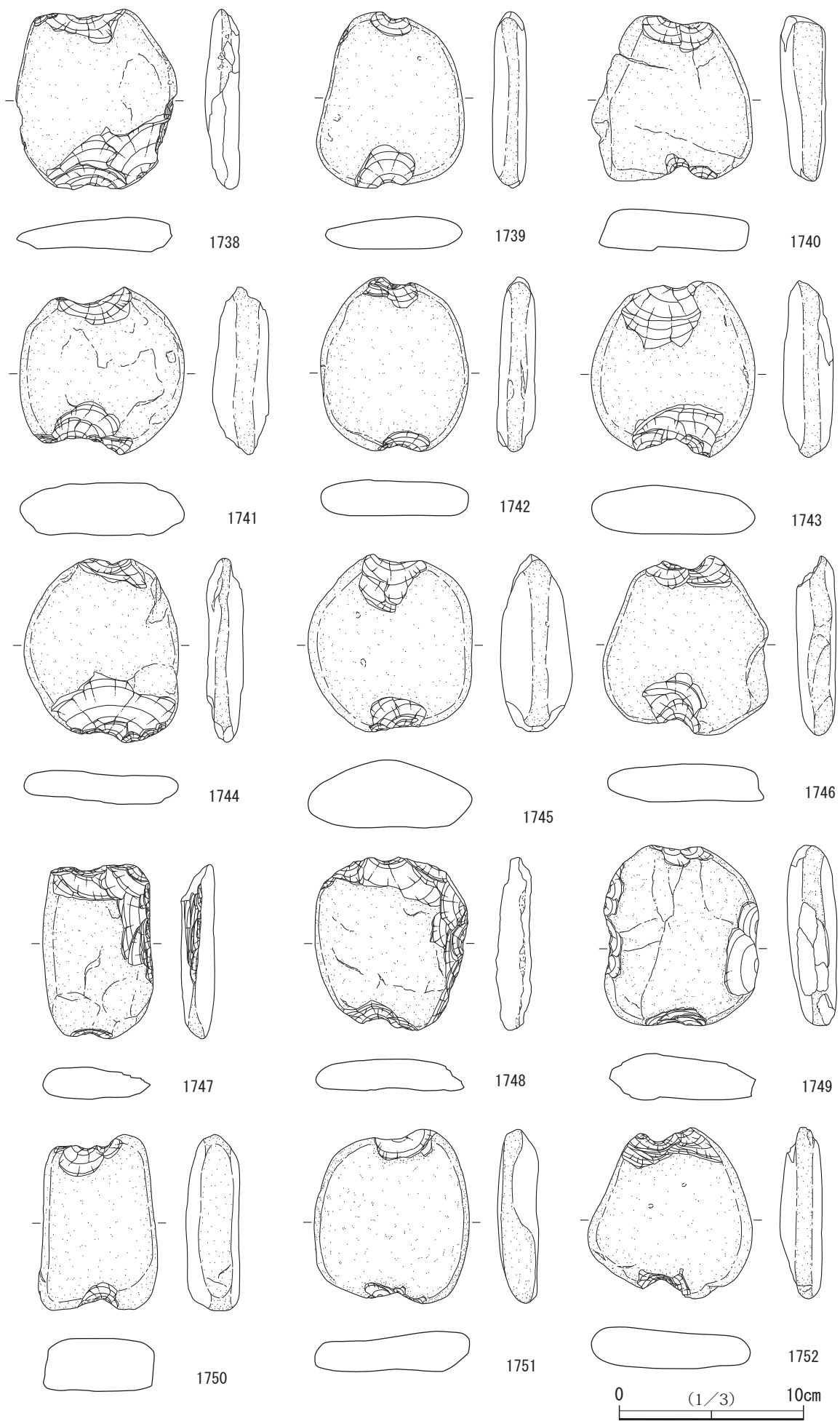
第171図 石器・石製品実測図(42)



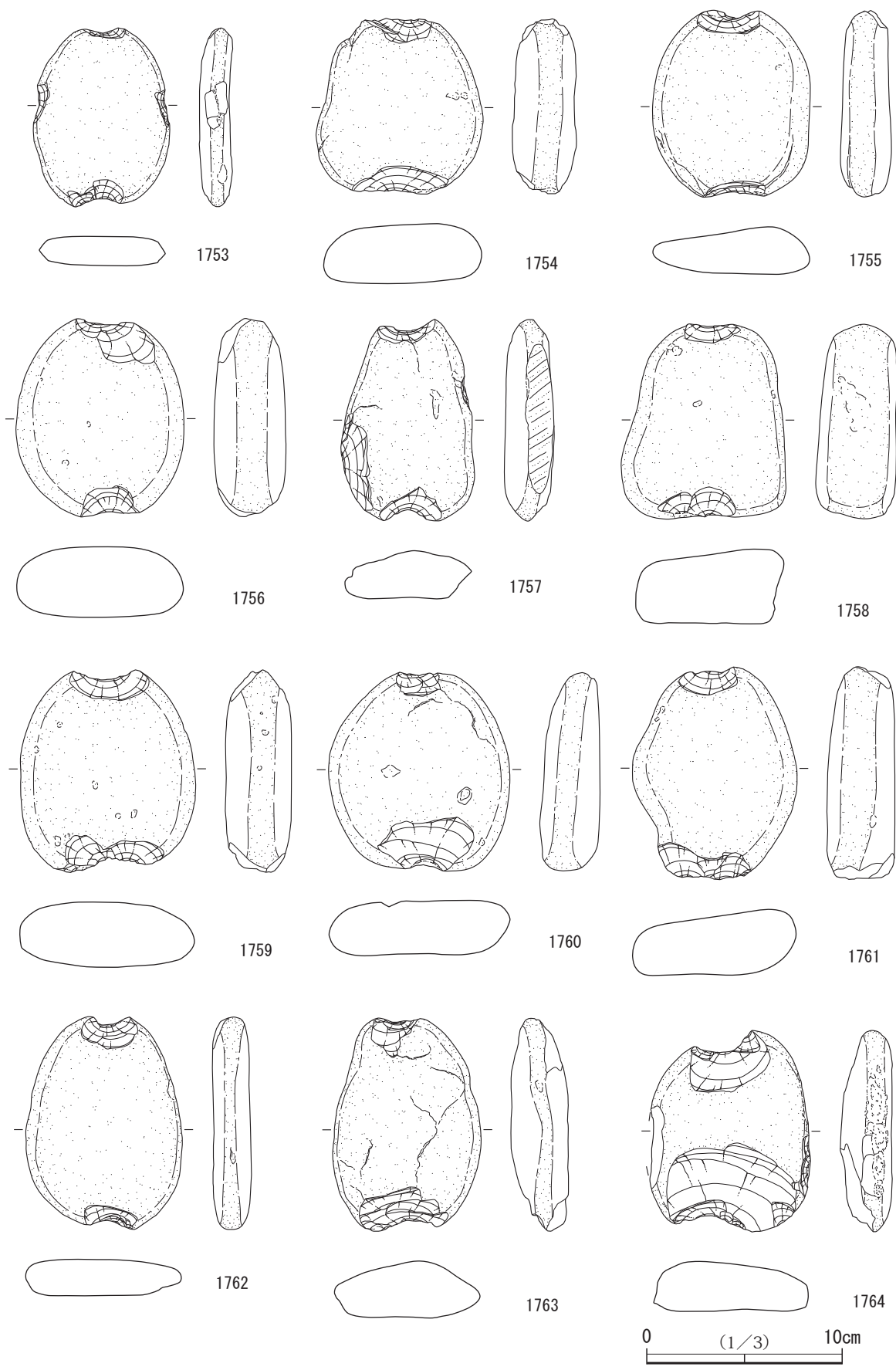
第172図 石器・石製品実測図(43)



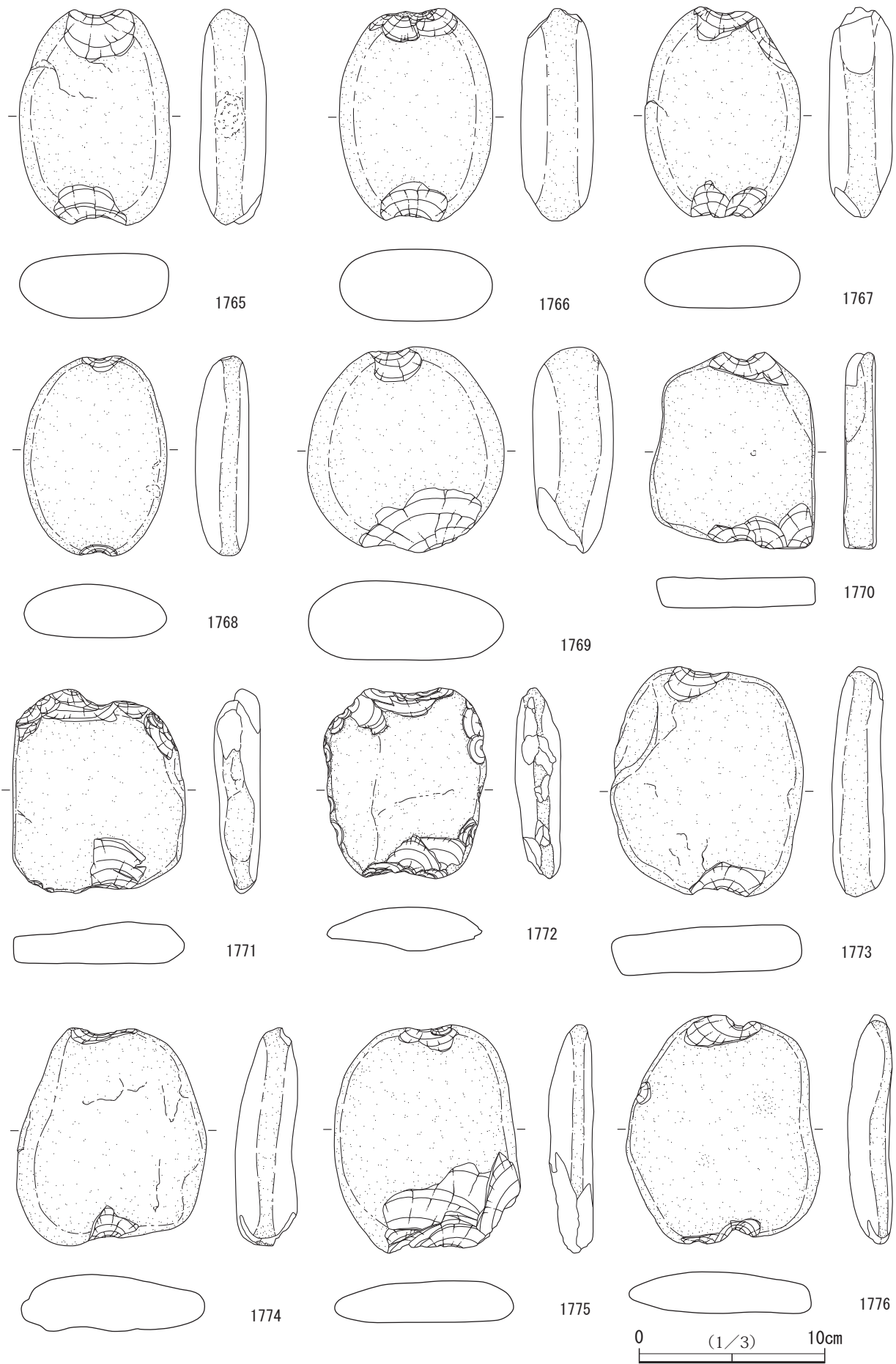
第173図 石器・石製品実測図(44)



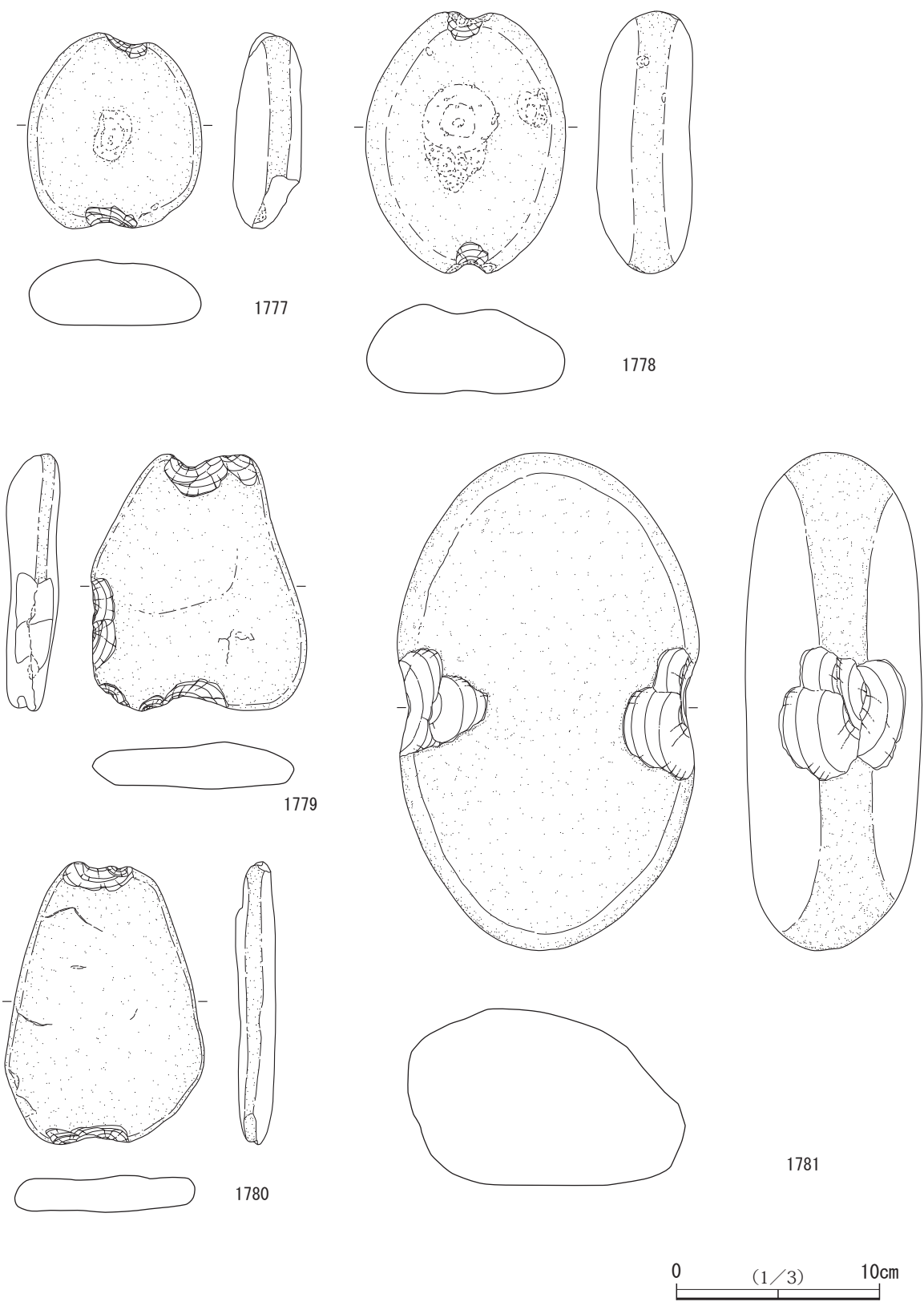
第174図 石器・石製品実測図(45)



第175図 石器・石製品実測図(46)



第176図 石器・石製品実測図(47)



第177図 石器・石製品実測図(48)

第19表 石器・石製品観察表(12) - 1

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1660	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	有溝石錘	扁平礫	安山岩	71.0	42.9	21.7	91.9	
1661	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	有溝石錘	円礫	花崗岩	65.5	54.5	49.8	238.3	
1662	20・21-1	試掘TR～中央TR間	縄文	有溝石錘	円礫	安山岩	73.3	47.3	40.8	123.2	
1663	20・21-1	試掘TR～中央TR間 南半	縄文～弥生	有溝石錘	円礫	花崗岩	70.9	58.8	43.7	248.8	
1664	20・21-3	東半	縄文	有溝石錘	円礫	安山岩	71.6	54.7	49.6	270.8	
1665	20・21-2	西半 海側	縄文	有溝石錘	円礫	流紋岩	84.0	52.3	41.0	186.2	
1666	20・21-2	西半 山側	縄文3	有溝石錘	円礫	砂岩	74.7	59.6	43.3	262.6	表面敲打?
1667	20・21-2		縄文3	有溝石錘	円礫	安山岩	76.0	60.2	43.5	280.6	
1668	20・21-2	土手3	SK15	有溝石錘	円礫	花崗岩	75.0	50.1	44.8	229.1	
1669	20・21-2		縄文～縄文3	打欠石錘	扁平礫	安山岩	45.4	42.5	17.6	49.9	
1670	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1	打欠石錘	扁平礫	流紋岩	50.8	47.2	17.1	50.7	
1671	20・21-2	土手1以南	縄文～縄文3	打欠石錘	扁平礫	安山岩	41.4	44.9	12.9	37.9	
1672	20・21-3	西半	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	51.4	36.6	14.5	43.3	
1673	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	56.4	45.8	17.9	59.2	
1674	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	打欠石錘	扁平礫	安山岩	53.6	58.9	17.7	85.3	
1675	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	57.3	45.5	17.9	55.8	
1676	20・21-3	東半	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	凝灰岩	66.5	76.7	18.1	138.9	
1677	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	64.8	53.0	21.0	85.3	
1678	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	打欠石錘	扁平礫	流紋岩	62.2	54.6	9.8	47.5	
1679	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文3	打欠石錘	扁平礫	安山岩	59.9	56.6	17.1	77.4	
1680	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	62.6	64.8	14.4	77.5	
1681	20・21-2	西半 海側	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	56.4	45.9	16.0	58.5	
1682	20・21-2	西半 山側	縄文3	打欠石錘	扁平礫	流紋岩	66.9	55.8	12.8	47.8	
1683	20・21-2	土手4内	縄文3	打欠石錘	扁平礫	流紋岩	58.1	55.5	19.4	65.8	
1684	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	打欠石錘	扁平礫	安山岩	57.3	60.4	12.3	37.3	
1685	20・21-2	土手3	粘質シルト1～2	打欠石錘	扁平礫	流紋岩	63.3	57.0	21.5	77.8	
1686	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	61.9	58.6	15.6	80.6	
1687	20・21-2	海側	縄文3	打欠石錘	扁平礫	流紋岩	59.7	56.0	17.1	68.0	
1688	20・21-2	西半 海側	縄文	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	61.3	60.2	17.9	91.4	
1689	20・21-2		SK25	打欠石錘	扁平礫	流紋岩	67.9	70.2	15.9	93.6	
1690	20・21-3	中央土手	縄文	打欠石錘	扁平礫	閃緑岩	69.0	42.9	10.2	53.0	
1691	20・21-3		縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	64.6	53.4	21.4	98.4	
1692	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	68.3	55.7	25.8	138.1	
1693	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	76.2	59.0	15.3	98.4	
1694	20・21-1	試掘TR～中央TR間 西半	弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	74.0	61.8	17.7	118.7	
1695	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	71.2	55.9	22.3	141.5	
1696	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	75.7	64.2	25.8	125.1	
1697	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	79.2	72.9	27.2	140.1	
1698	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	79.2	70.2	18.9	133.8	
1699	20・21-1	湿地層内	黒灰色粘質シルト層	打欠石錘	扁平礫	流紋岩	72.1	67.1	11.9	85.4	
1700	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	74.9	73.4	18.3	134.8	
1701	20・21-3		縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	74.2	72.4	24.5	141.7	
1702	20・21-3	中央土手	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	77.8	65.8	26.0	166.3	
1703	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面	打欠石錘	扁平礫	砂岩	76.0	74.1	15.6	109.9	
1704	20・21-2	土手1以南	縄文	打欠石錘	扁平礫	花崗岩	77.4	67.5	29.5	231.1	
1705	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	78.8	64.5	13.8	70.2	

第19表 石器・石製品観察表(12) - 2

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1706	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	75.0	66.3	18.1	117.2	
1707	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	78.2	85.3	35.2	277.1	
1708	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	79.7	79.0	15.5	127.4	
1709	20・21-2	西半 山側	縄文3	打欠石錘	扁平礫	安山岩	81.4	74.5	22.9	173.0	
1710	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1	打欠石錘	扁平礫	安山岩	80.0	67.5	34.9	143.7	
1711	20・21-2	西半 海側	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	83.7	68.6	26.9	171.0	
1712	20・21-2	西半 海側	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	88.2	89.8	30.4	327.7	
1713	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	流紋岩	80.6	76.6	12.3	101.1	
1714	20・21-2	西半 海側	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	85.3	77.6	29.8	228.3	
1715	20・21-3	西半	黒褐色土	打欠石錘	扁平礫	安山岩	86.4	75.5	15.5	132.0	
1716	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	打欠石錘	扁平礫	片岩	80.8	74.6	15.7	155.2	
1717	20・21-3	東半	縄文	打欠石錘	扁平礫	緑色片岩	84.3	81.0	11.9	130.2	
1718	20・21-3		弥生～古代	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	82.9	69.8	15.1	113.1	
1719	20・21-3		弥生～古代	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	85.6	70.8	27.1	236.6	
1720	20・21-3		遺構面およびその下層	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	84.6	76.8	27.7	223.5	
1721	20・21-3	東半	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	88.2	98.4	22.1	222.5	礫短軸に貝殻状剥離。 図版29右4
1722	20・21-3	東半	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	87.2	78.6	27.6	275.8	
1723	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	打欠石錘	扁平礫	安山岩	80.0	58.7	18.1	117.5	
1724	20・21-3	西半	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	85.6	69.2	13.8	113.1	
1725	20・21-3	西半	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	83.2	56.9	18.7	108.9	
1726	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	89.1	71.0	22.4	195.3	
1727	20・21-1	試掘TR～中央TR間 西半	縄文3	打欠石錘	扁平礫	流紋岩	83.0	64.8	17.6	122.8	
1728	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文3	打欠石錘	扁平礫	花崗岩	87.1	72.1	34.5	297.0	
1729	20・21-1	試掘TR～中央TR間 西半	縄文3	打欠石錘	扁平礫	花崗岩	84.8	73.1	29.2	149.2	
1730	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	粘板岩	80.6	52.3	11.0	66.0	
1731	20・21-1	湿地層内	黒灰色粘質シルト層	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	86.9	80.7	24.1	225.1	
1732	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	打欠石錘	扁平礫	流紋岩	83.3	66.5	13.3	106.3	
1733	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	打欠石錘	扁平礫	安山岩	87.7	92.7	21.2	253.1	
1734	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	打欠石錘	扁平礫	安山岩	81.6	81.2	20.0	165.9	
1735	20・21-3	東半	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	89.8	89.2	20.6	211.2	
1736	20・21-1	試掘TR～中央TR間	縄文3	打欠石錘	扁平礫	花崗岩	87.4	81.1	32.3	316.2	
1737	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	89.4	74.2	16.0	177.5	
1738	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	98.0	87.6	19.0	196.3	
1739	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	打欠石錘	扁平礫	安山岩	96.0	80.6	18.9	183.1	
1740	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文2	打欠石錘	扁平礫	凝灰岩	90.1	87.4	24.9	257.7	
1741	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	91.1	89.7	30.8	323.4	
1742	20・21-3	西半	縄文	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	95.0	80.7	21.5	237.7	
1743	20・21-3	西半	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	95.9	89.1	27.4	274.3	
1744	20・21-3	西半	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	99.9	84.3	20.2	232.7	
1745	20・21-3	西半	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	96.5	89.6	39.5	460.5	
1746	20・21-3		弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	97.8	89.9	21.8	283.7	
1747	20・21-3	東半	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	94.9	60.1	18.5	159.5	
1748	20・21-3		遺構面およびその下層	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	94.3	83.3	19.5	203.1	
1749	20・21-2	土手1～2間	弥生	打欠石錘	扁平礫	片岩	98.3	84.5	27.4	306.6	
1750	20・21-3		弥生～古代	打欠石錘	扁平礫	安山岩	95.8	65.2	29.5	267.2	
1751	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	打欠石錘	扁平礫	安山岩	94.6	84.8	22.6	261.3	

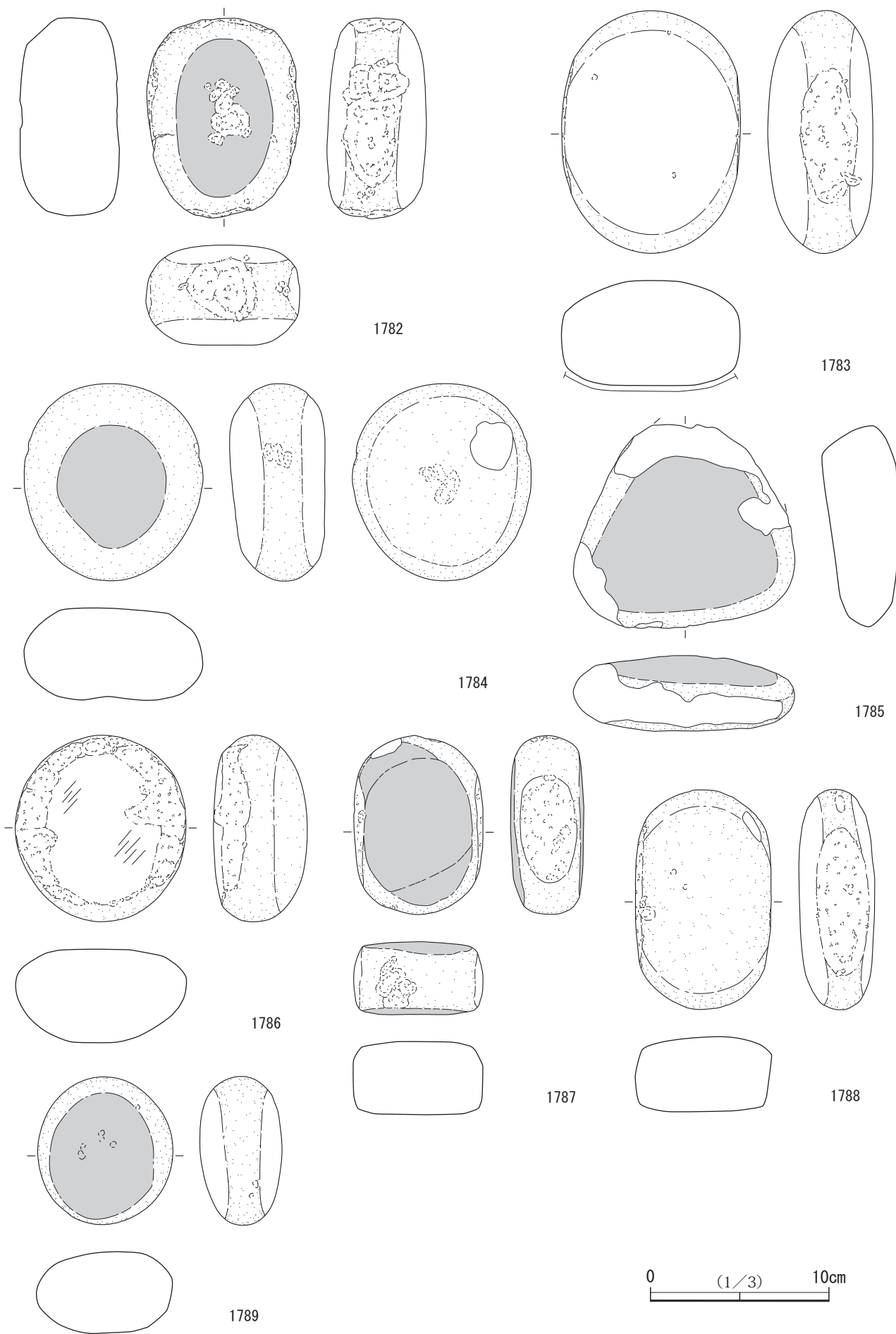
第19表 石器・石製品観察表(12) - 3

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	形態	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1752	20・21-3	東半	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	93.4	89.6	23.2	230.3	
1753	20・21-2	土手1以南	縄文～縄文3	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	91.8	70.1	17.2	165.3	
1754	20・21-2	湿地層内	縄文遺構面	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	90.1	85.6	32.8	349.4	
1755	20・21-3	中央土手	縄文	打欠石錘	扁平礫	砂岩	95.9	81.0	26.5	320.3	
1756	20・21-3	中央土手	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	101.7	86.2	37.0	528.7	
1757	20・21-3	西半	黒褐色土	打欠石錘	扁平礫	花崗岩	103.3	68.7	25.8	244.3	
1758	20・21-3	東半 海側	縄文	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	100.2	84.5	41.9	533.9	
1759	20・21-3		弥生～古代	打欠石錘	扁平礫	安山岩	103.9	90.0	34.0	428.2	
1760	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面	打欠石錘	扁平礫	流紋岩	102.0	93.3	31.2	385.0	
1761	20・21-3	西半	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	109.0	84.6	34.8	440.4	
1762	20・21-3	西半	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	109.1	80.5	20.4	293.3	
1763	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	打欠石錘	扁平礫	凝灰岩	109.1	76.3	29.8	304.2	
1764	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	打欠石錘	扁平礫	流紋岩	103.3	82.4	26.9	243.9	
1765	20・21-3	西半	黒褐色土	打欠石錘	扁平礫	花崗岩	116.5	82.0	36.6	522.2	
1766	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	打欠石錘	扁平礫	花崗岩	115.0	82.8	39.3	579.0	
1767	20・21-3	西半 山側斜面	弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	113.6	84.2	34.8	463.3	
1768	20・21-2	土手1～2間	弥生	打欠石錘	扁平礫	安山岩	108.0	77.6	29.0	256.0	
1769	20・21-3	中央土手	縄文	打欠石錘	扁平礫	花崗岩	111.3	106.5	44.1	741.5	
1770	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	打欠石錘	扁平礫	安山岩	106.3	89.6	17.9	255.2	
1771	20・21-3	西半	黒褐色土	打欠石錘	扁平礫	安山岩	110.5	93.5	25.4	365.9	
1772	20・21-3	東半	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	103.2	88.3	25.0	274.7	
1773	20・21-3	西半	黒褐色土	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	124.1	104.2	29.0	561.7	
1774	20・21-3	西半	縄文	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	117.9	102.7	34.0	546.2	
1775	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	打欠石錘	扁平礫	安山岩	123.2	100.4	24.7	407.1	
1776	20・21-3	西半	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	123.5	104.4	24.2	311.1	
1777	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1～2上面	打欠石錘	扁平礫	結晶片岩	96.8	86.5	33.9	403.0	正面中央に敲打による凹み
1778	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	打欠石錘	扁平礫	安山岩	129.2	98.9	47.4	678.1	表裏中央に敲打による凹み
1779	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	打欠石錘	扁平礫	流紋岩	126.9	106.7	26.6	378.8	
1780	20・21-2	西半 海側	縄文	打欠石錘	扁平礫	安山岩	139.5	98.6	20.2	346.5	
1781	20・21-2		遺構検出	打欠石錘	楕円礫	閃緑岩	245.7	149.4	87.2	4933.4	長軸側面に抉り加工を持つ、大型石錘

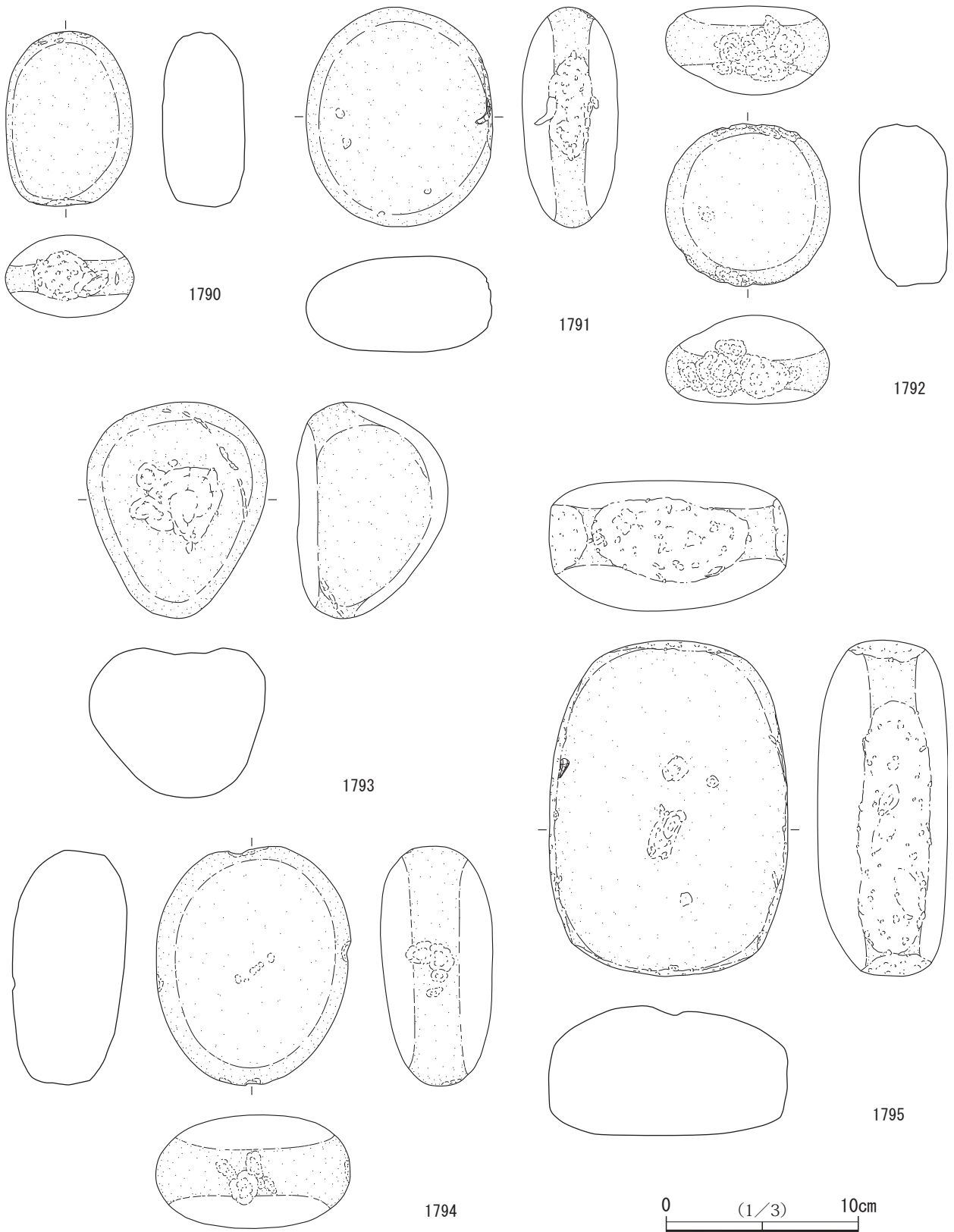
敲石・磨石(第178～181図 図版126～128)

1782～1809は敲石および磨石である。このうち1782～1784、1786、1787は敲打痕と磨面があることから、敲石および磨石として使用されたとみられる。1785、1788、1789は磨石、他は敲石である。

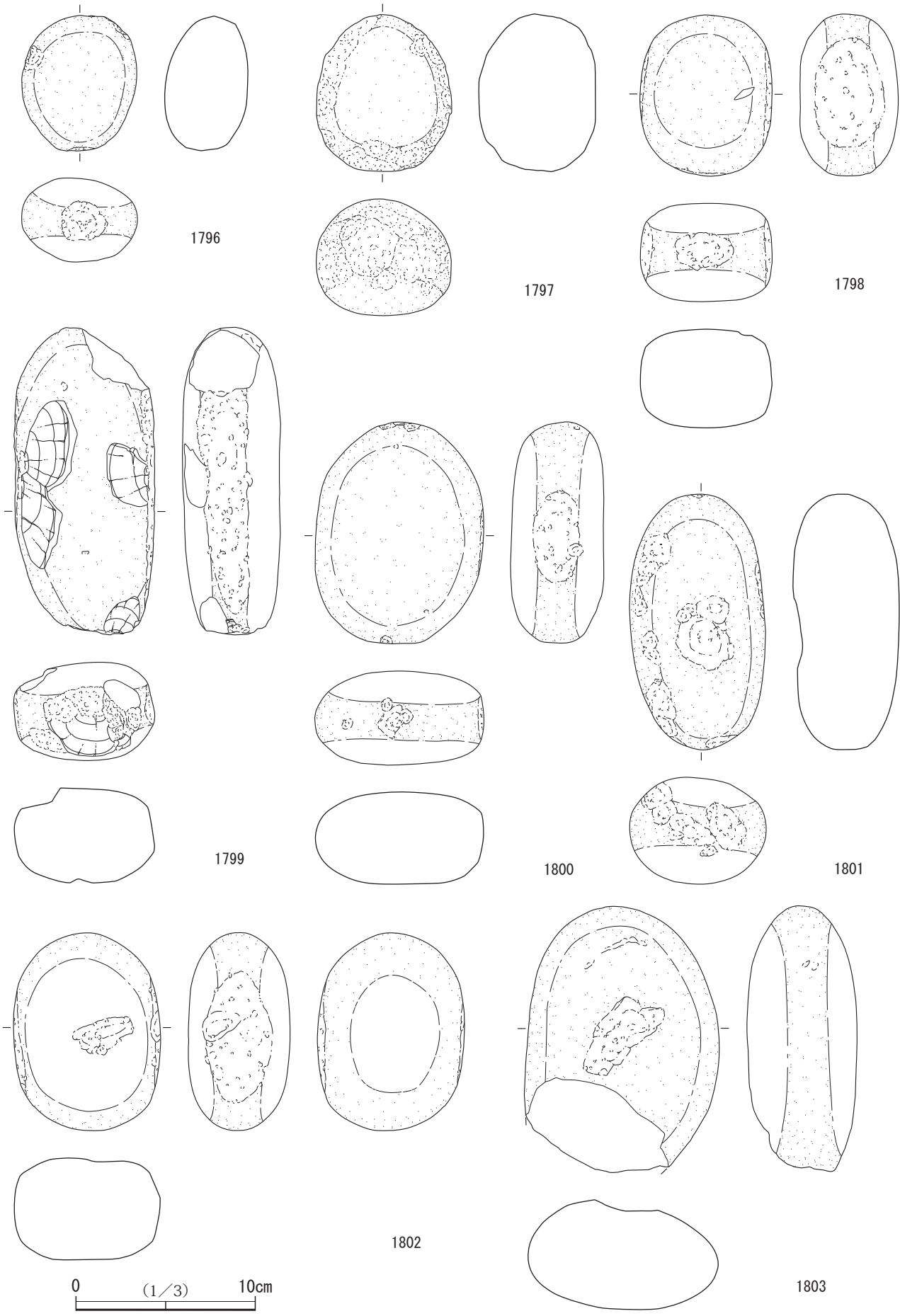
石材は安山岩を中心とし、砂岩、結晶片岩などの円礫を使用している。1787、1788、1795、1798、1802は上下辺または側辺を使用しての敲打により、側辺が直線となり、石鱗形を呈する。1804、1805は棒状の礫の下端または上下端を使用している。1806は棒状の礫を叩き折って右側辺に敲打痕が認められる。これら形態の差は用途の違いかもしれない。なお1784、1785、1803は被熱の痕跡が確認された。



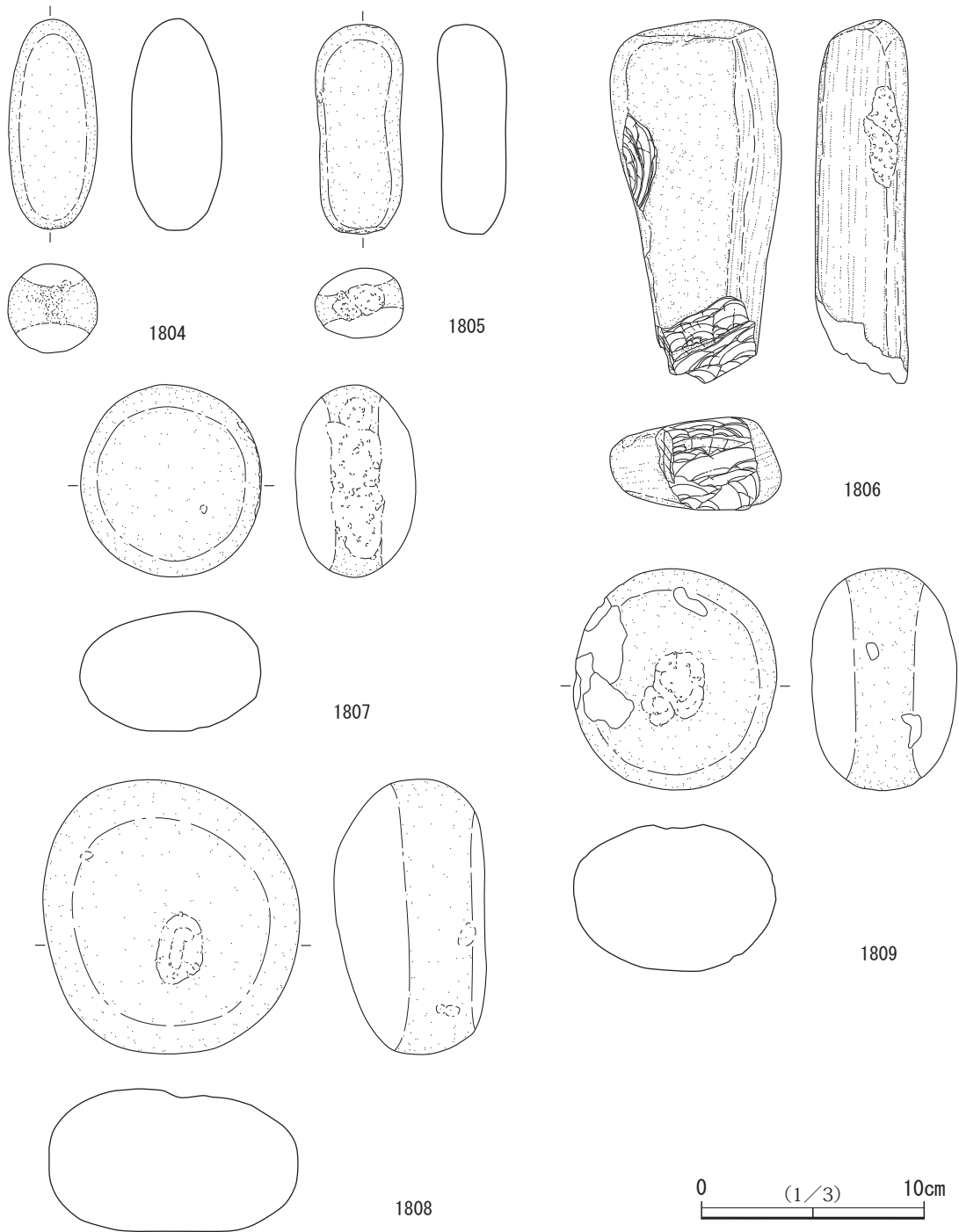
第178図 石器・石製品実測図(49)



第179图 石器・石製品実測図(50)



第180図 石器・石製品実測図(51)



第181図 石器・石製品実測図(52)

砥石(第182図 図版128)

1810～1812は砥石である。1810は砂岩の板状石材を使用し、側辺および上面を砥面としている。1811は長方形の扁平な礫を素材としており、上辺の端に突起状のつまみを作りだしている。形状から器種の選定は難しいが、石材である砂岩や扁平な形状からみて、砥石と判断した。1812は緑色片岩を石材とし、正面を砥面としている。背面は二次加工が認められる。1810、1812が弥生時代、1811は縄文時代のもものとみられる。

石皿(第183、184図 図版129、130)

第20表 石器・石製品観察表(13)

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1782	20・21-1	海側～試掘TR間		敲石+磨石	結晶片岩	112.2	86.0	56.2	882.5	正面磨面、表裏上下左右面に敲打痕。
1783	20・21-2	西半 海側	縄文	敲石+磨石	安山岩	136.2	100.5	59.3	1310.0	左右面はザラザラした磨面。裏面に磨面
1784	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	敲石+磨石	花崗岩	110.8	100.1	53.7	825.8	正面磨面、右側面と裏面に敲打痕。被熱。
1785	20・21-3	東半	遺構面およびその下層	磨石	砂岩	114.5	124.4	42.5	857.8	正面磨面。被熱。
1786	20・21-2	西半 山側	縄文3	敲石+磨石	結晶片岩	104.7	96.2	52.8	744.9	正面に磨面。磨面を囲むように敲打痕。
1787	20・21-3	中央土手	縄文	敲石+磨石	安山岩	100.7	72.8	41.2	567.7	表裏平滑な磨面。左右面にザラザラした面。上下面に敲打痕。
1788	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	磨石	安山岩	123.7	76.6	43.0	699.1	左右面はザラザラした面
1789	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	磨石	安山岩	83.2	76.0	46.1	431.9	正面磨面。軽微な敲打痕。
1790	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	敲石	砂岩	91.7	66.9	43.0	380.3	上下両端に敲打痕
1791	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	弥生	敲石	安山岩	114.7	97.8	50.4	576.2	右面に敲打痕。
1792	20・21-3	東半 海側	弥生	敲石	安山岩	84.9	85.9	46.4	481.1	上下両端に敲打痕。正面に軽微の敲打痕。
1793	20・21-3	東半	弥生～古代	敲石	砂岩	113.1	94.5	79.0	1017.1	正面敲打痕。
1794	20・21-3		弥生～古代	敲石	安山岩	124.8	101.4	59.6	1135.5	下面、右側面に敲打痕。正面に軽微の敲打痕。
1795	20・21-2	土手1～2間	弥生	敲石	安山岩	175.4	124.8	68.4	2731.8	左右上下面はザラザラした面。正面に敲打痕。
1796	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	敲石	安山岩	75.7	64.8	46.7	321.2	上下左面に敲打痕。
1797	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	敲石	安山岩	87.8	75.7	65.2	625.3	側面に敲打痕。
1798	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	敲石	安山岩	90.3	73.9	55.2	599.5	左右面はザラザラした面。上下面に敲打痕。
1799	20・21-3		遺構面およびその下層	敲石	安山岩	171.8	79.1	54.9	1007.1	左右面はザラザラした磨面。下面に敲打痕。
1800	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	敲石	花崗岩	124.2	94.3	52.4	980.4	側面はザラザラした面。上下面に敲打痕。
1801	20・21-1		遺構検出	敲石	安山岩	143.1	76.3	59.9	948.5	棒状礫の表裏に敲打による凹み。上下端、左面に敲打痕。
1802	20・21-2	土手3	縄文3	敲石	安山岩	110.7	82.5	57.2	836.8	左右面はザラザラした面。正面に敲打痕。
1803	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	敲石	安山岩	149.0	109.4	61.8	1355.7	棒状礫の表裏に敲打による凹み。被熱。
1804	20・21-3	西半	遺構面およびその下層	敲石	凝灰岩	94.9	40.2	40.4	143.1	棒状礫の下端に敲打痕
1805	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	敲石	安山岩	94.7	39.8	31.7	187.4	棒状礫の上下両端に敲打痕
1806	20・21-3	中央土手	縄文	敲石	緑色片岩	163.7	77.2	42.1	865.4	棒状礫の端を叩き折り。右側面に敲打痕
1807	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	敲石	安山岩	86.9	81.6	54.4	545.9	右面に敲打痕。
1808	20・21-2	海側	縄文3～粘質シルト1	敲石	砂岩	124.1	115.8	68.8	1364.2	正面敲打痕。
1809	20・21-3	西半	遺構面およびその下層	敲石	安山岩	100.3	91.9	65.7	827.9	正面敲打痕。

1813～1819は石皿である。中央に使用による凹みがあり、機能面は表面のみのもので、裏面も使用しているものがある。また使用頻度によって凹みの深さも異なる。1813～1815は表裏が機能面となっている。1816は板状の角礫を打ち欠いて整形したもので、表面中央に浅い凹みが認められる。結晶片岩製。1817は結晶片岩の長方形石材で、長軸方向に使用による深い凹みがある。吐き出し口を有する形態である。1818は表裏面を使用。安山岩製。1819は最も大型の石皿である。安山岩製で、長さ31.8cm、厚さ7.4cm、重さ10,800gである。

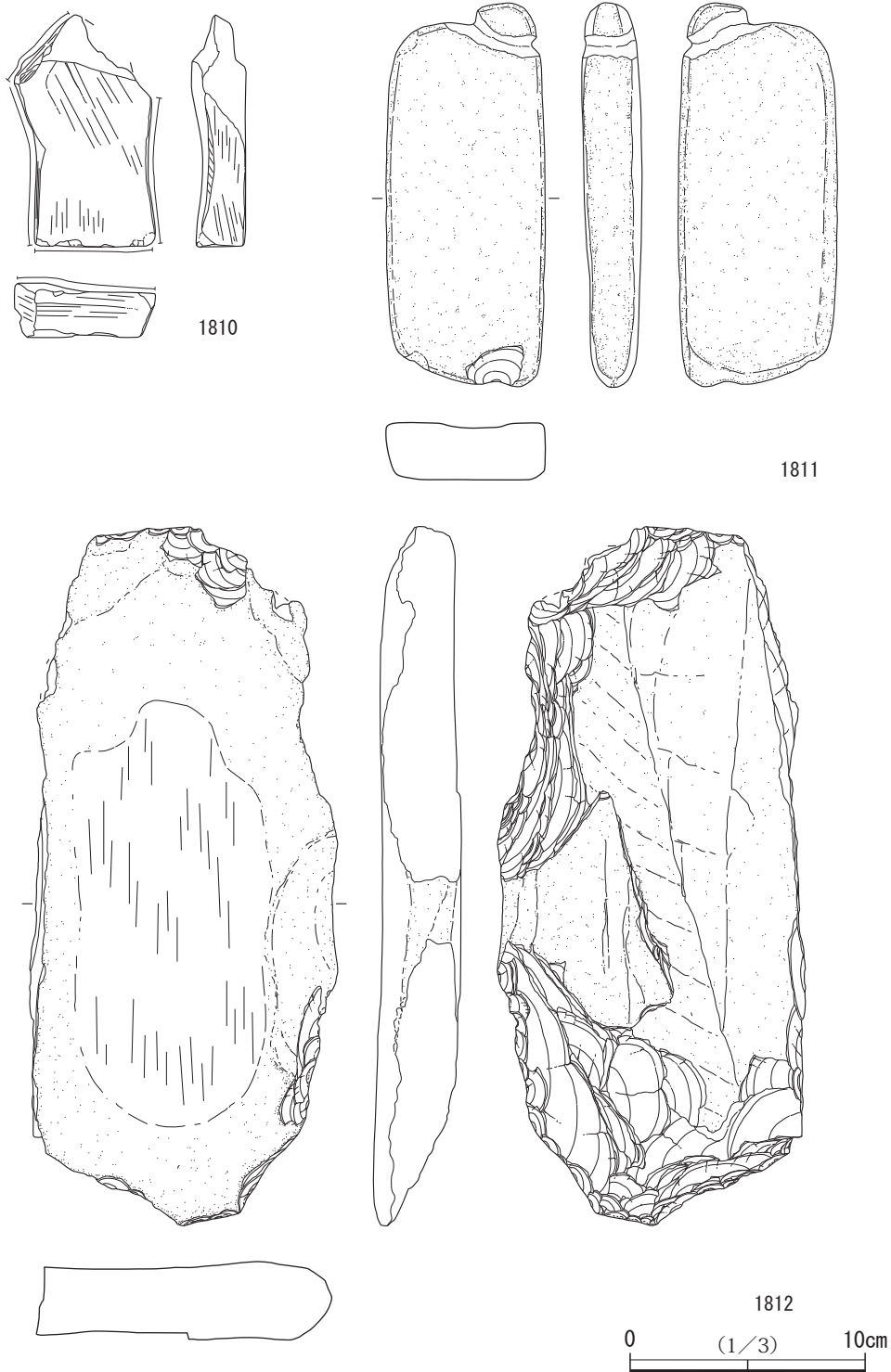
石剣(第185図 図版131)

凝灰岩の石材を研磨整形しており、形態から石剣の破片である可能性がある。

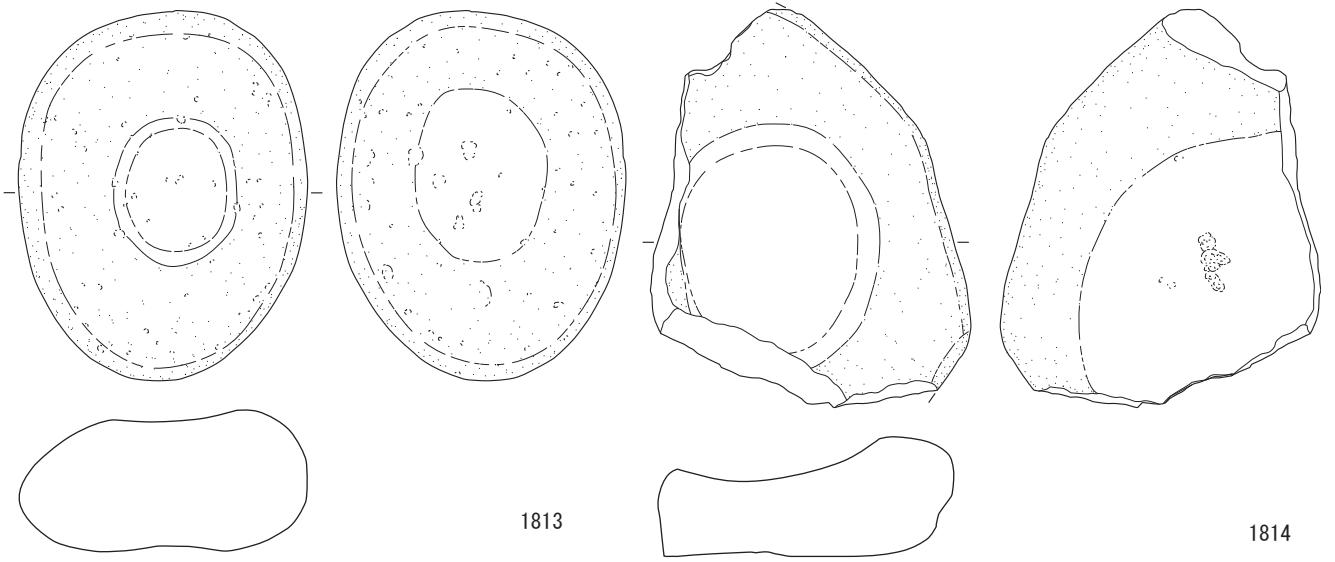
石包丁(第185図 図版131)

第21表 石器・石製品観察表(14)

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1810	20・21-3	西半 山側	弥生~古代	砥石	砂岩	99.0	60.2	23.7	148.7	破損。ほぼ全面に砥面をもつ。
1811	20・21-2	土手1~2間	縄文~弥生	砥石	砂岩	164.0	68.5	26.1	309.0	四角い扁平礫を素材。礫の一角に 摘み作出
1812	20・21-1	海側~試掘TR間	弥生	砥石	緑色片岩	297.8	131.4	37.7	2122.9	裏面に二次加工。正面に砥面。

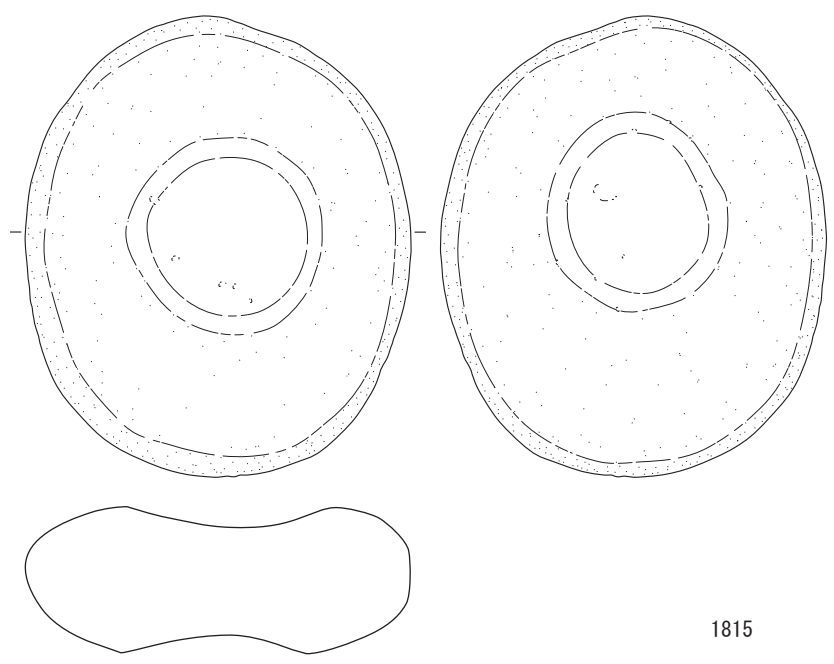


第182図 石器・石製品実測図(53)

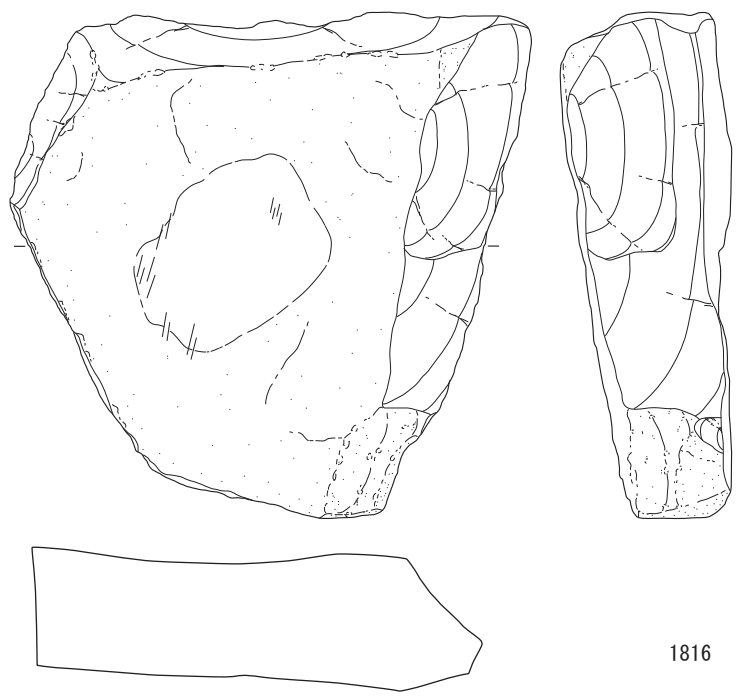


1813

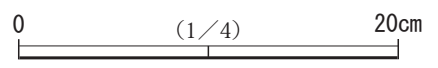
1814



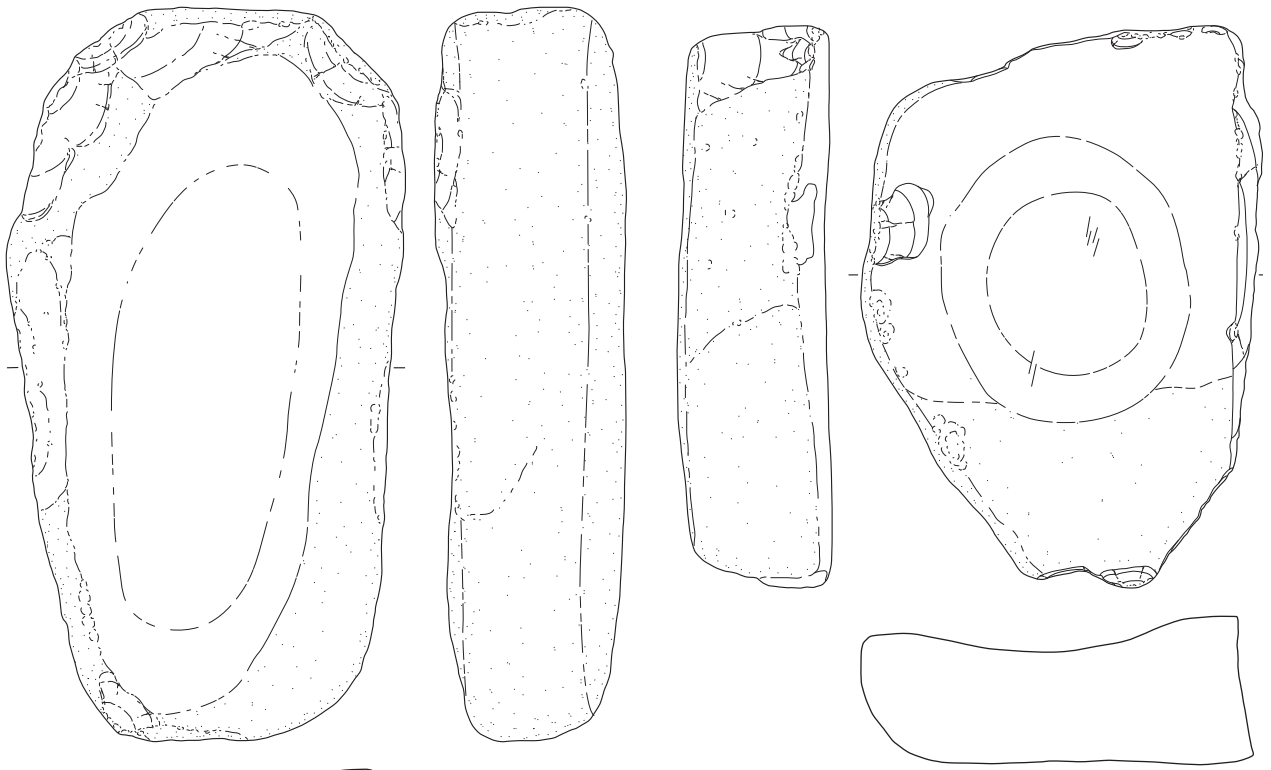
1815



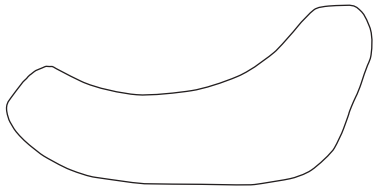
1816



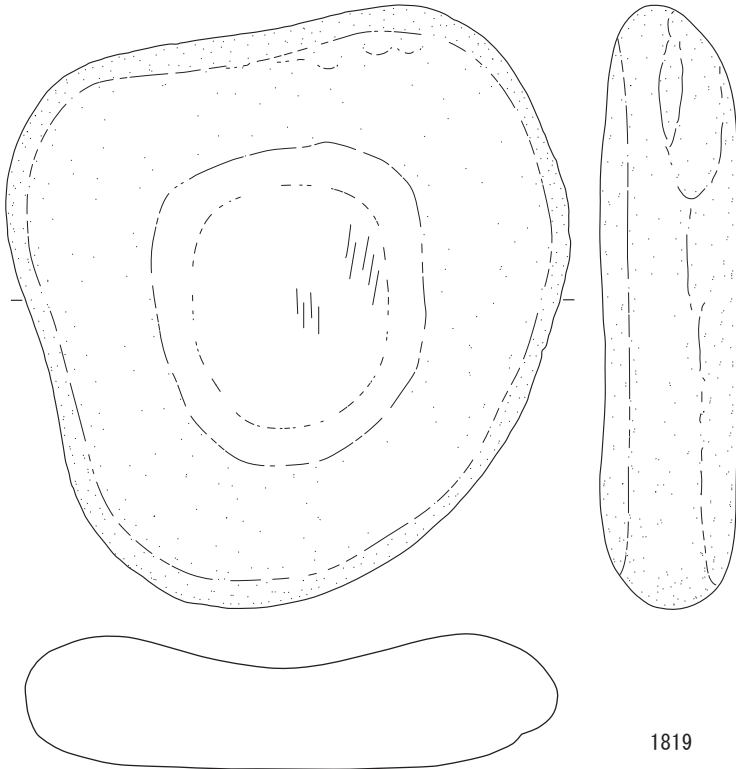
第183図 石器・石製品実測図(54)



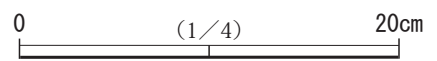
1818



1817



1819



第184図 石器・石製品実測図(55)

直線的な背部に刃部は両刃で外湾している半月形外湾刃の石包丁で、1/2が残存する。両側穿孔の紐通しの孔がある。凝灰岩製。使用痕分析の結果(「付編」参照)、コーングロスが検出され、イネ科植物に使用されたと判断される。なお今回の調査で出土した石包丁はこの1点のみである。

石鑿(第185図 図版131)

長さ9.8cm、幅1.4cmの完形品である。緑色凝灰岩製。刃部は片刃で、全体に研磨整形を施す。

石斧(第186～188図 図版131)

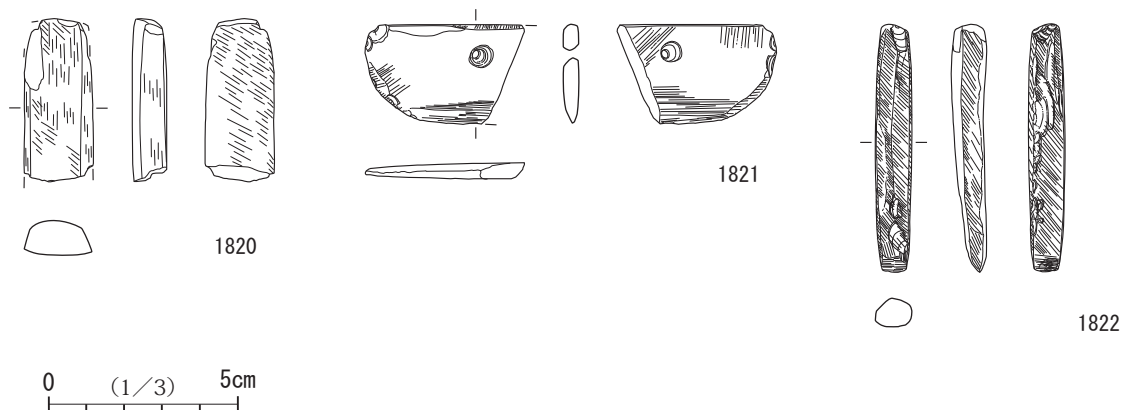
1823～1829、1830～1834は磨製石斧およびその未製品である。磨製石斧は、敲打により整形で基部を細くし、刃部は研磨整形で幅広にしている。石材は安山岩、凝灰岩、ホルンフェルスなどを使用している。1830は柱状片刃石斧の刃部片である。頁岩製。1835～1840は打製石斧又はその可能性があるものである。扁平礫を素材しており打撃による整形している。刃部に土擦痕は確認されていない。なお1839は削器(1435)と同一母岩の可能性はある。

第22表 石器・石製品観察表(15)

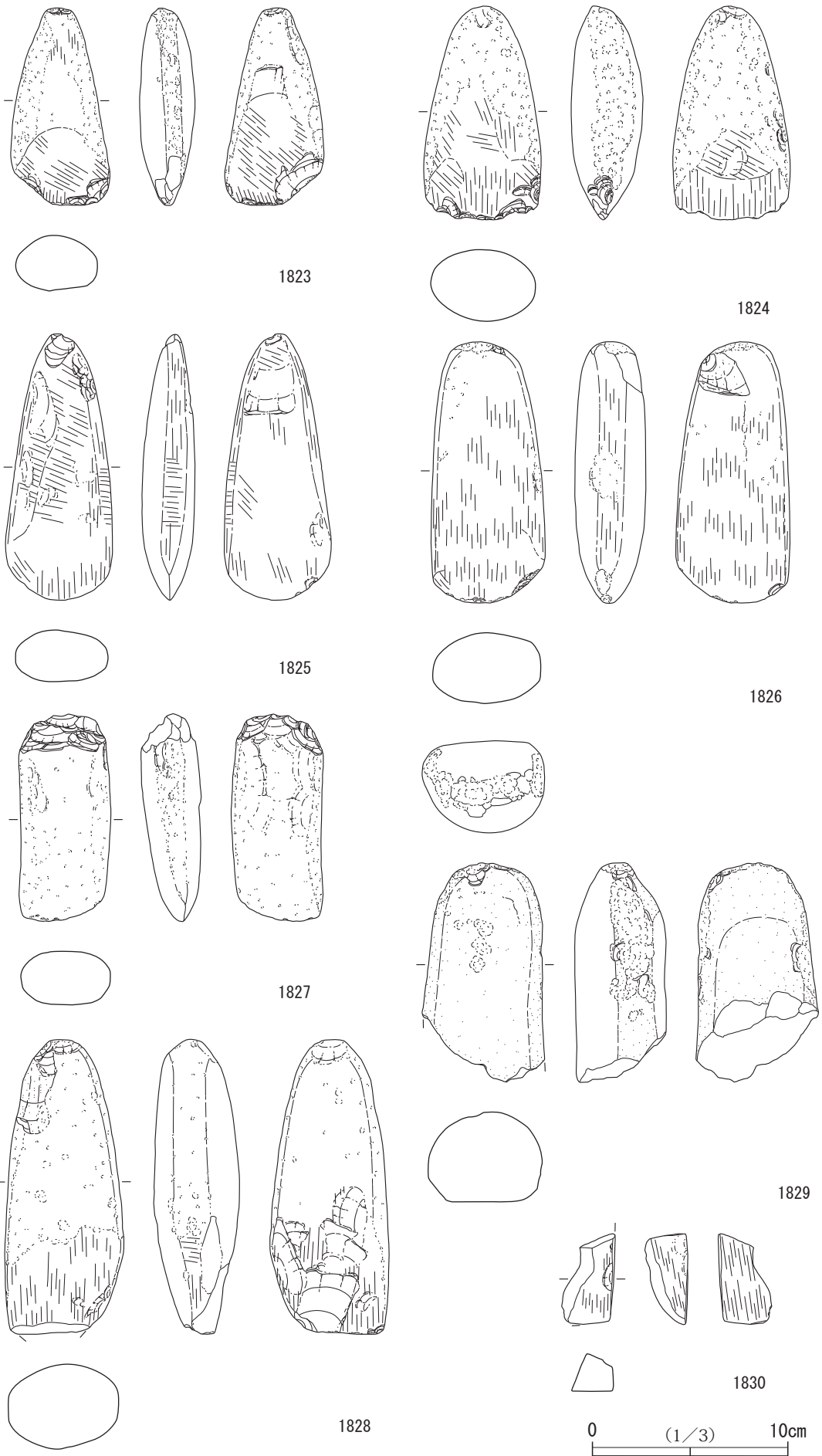
番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1813	20・21-2	西半 海側	縄文～弥生	石皿	安山岩	195.3	152.7	76.0	2929.2	表裏中央に凹んだ機能面。
1814	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	石皿	安山岩	210.1	169.2	65.2	2500.2	破損。正面に凹んだ機能面。裏面に敲打痕。幾分平滑なので磨面としても機能している。
1815	20・21-1	海側	縄文2	石皿	安山岩	243.3	203.8	84.7	3674.7	表裏中央に凹んだ機能面。
1816	20・21-2		遺構面より下層	石皿	結晶片岩	266.8	274.9	90.5	8200.0	板状の角礫を打ち欠いて整形。中央に機能面
1817	20・21-1	海側	縄文	石皿	結晶片岩	387.0	210.5	101.5	9400.0	吐き出し口ある形態。
1818	20・21-2	中央TR～東TR間	縄文～弥生	石皿	安山岩	296.2	211.9	81.8	8200.0	表裏面に機能面。
1819	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文	石皿	安山岩	318.2	297.4	73.9	10800.0	中央に凹んだ機能面。図版28右1

第23表 石器・石製品観察表(16)

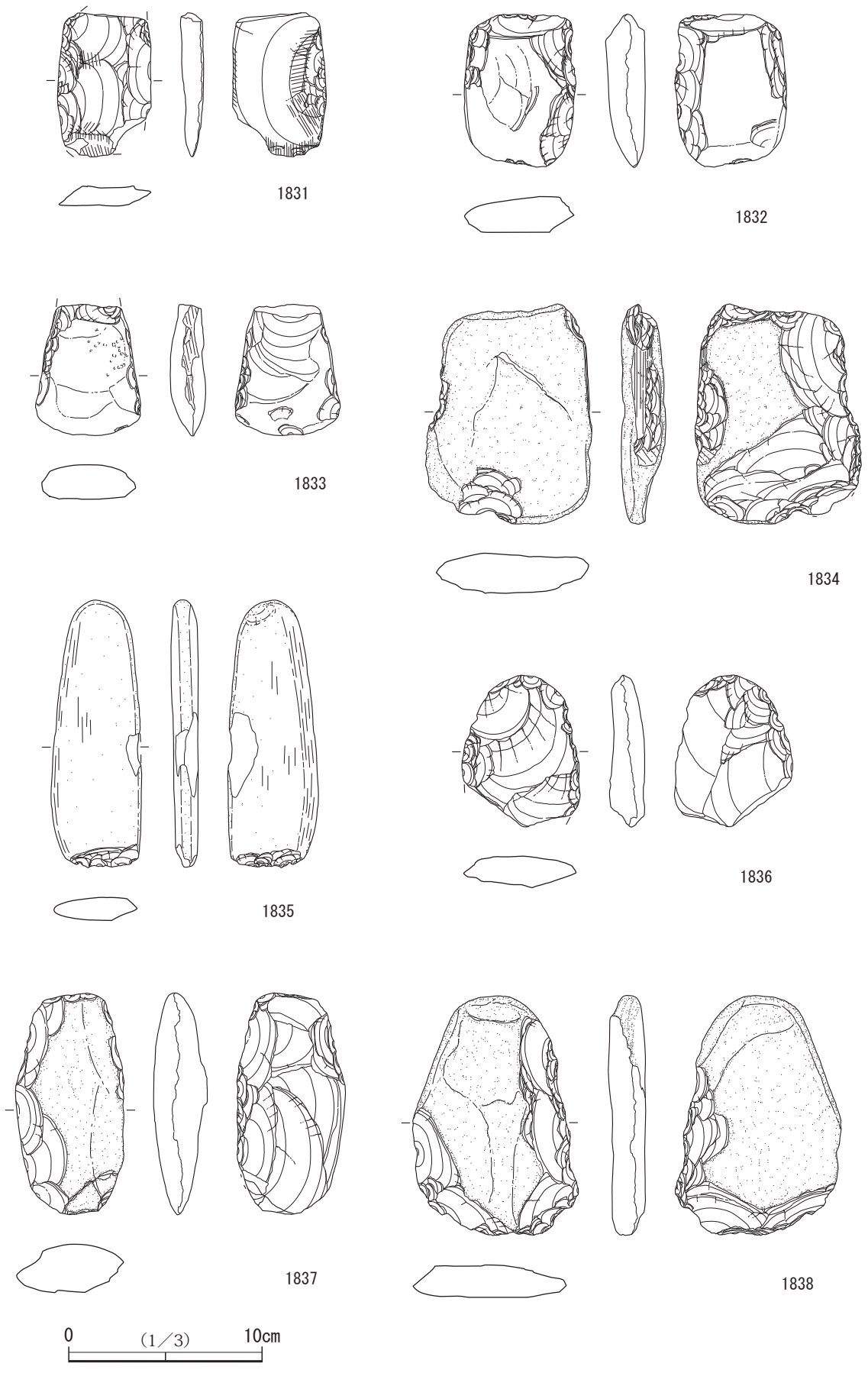
番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1820	20・21-1		弥生	石剣?	凝灰岩	64.6	27.6	14.0	45.4	断片資料。研磨整形
1821	20・21-2	西半 海側	弥生	石包丁	粘板岩	39.7	63.3	6.7	22.7	破損。直線背、外湾した両刃の刃部。コーングロスを確認
1822	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	石鑿	緑色凝灰岩	98.0	14.7	14.2	33.3	整形技術 HD+Po



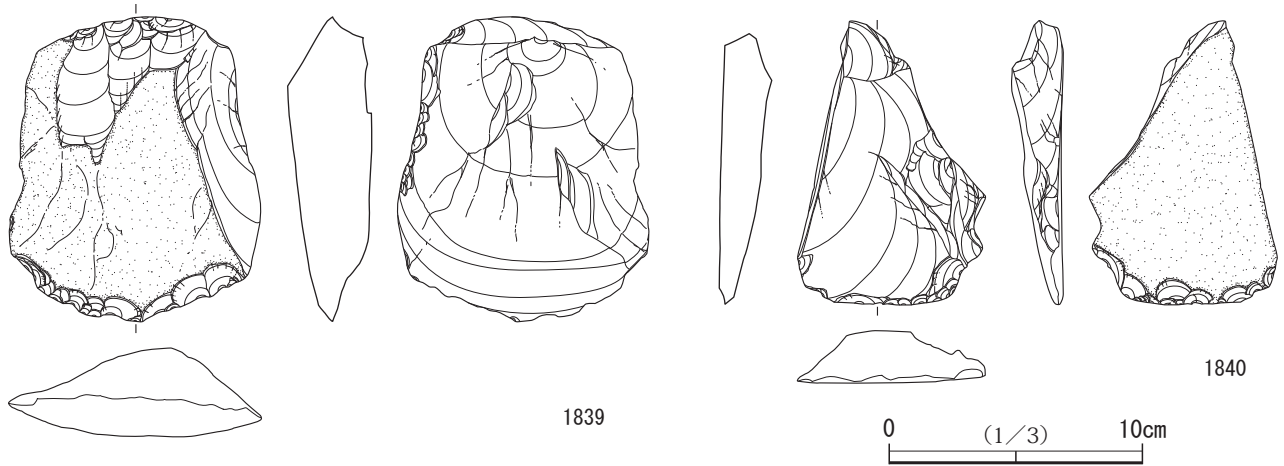
第185図 石器・石製品実測図(56)



第186図 石器・石製品実測図(57)



第187図 石器・石製品実測図(58)



第188図 出土石器実測図(59)

装身具(第189図 図版131)

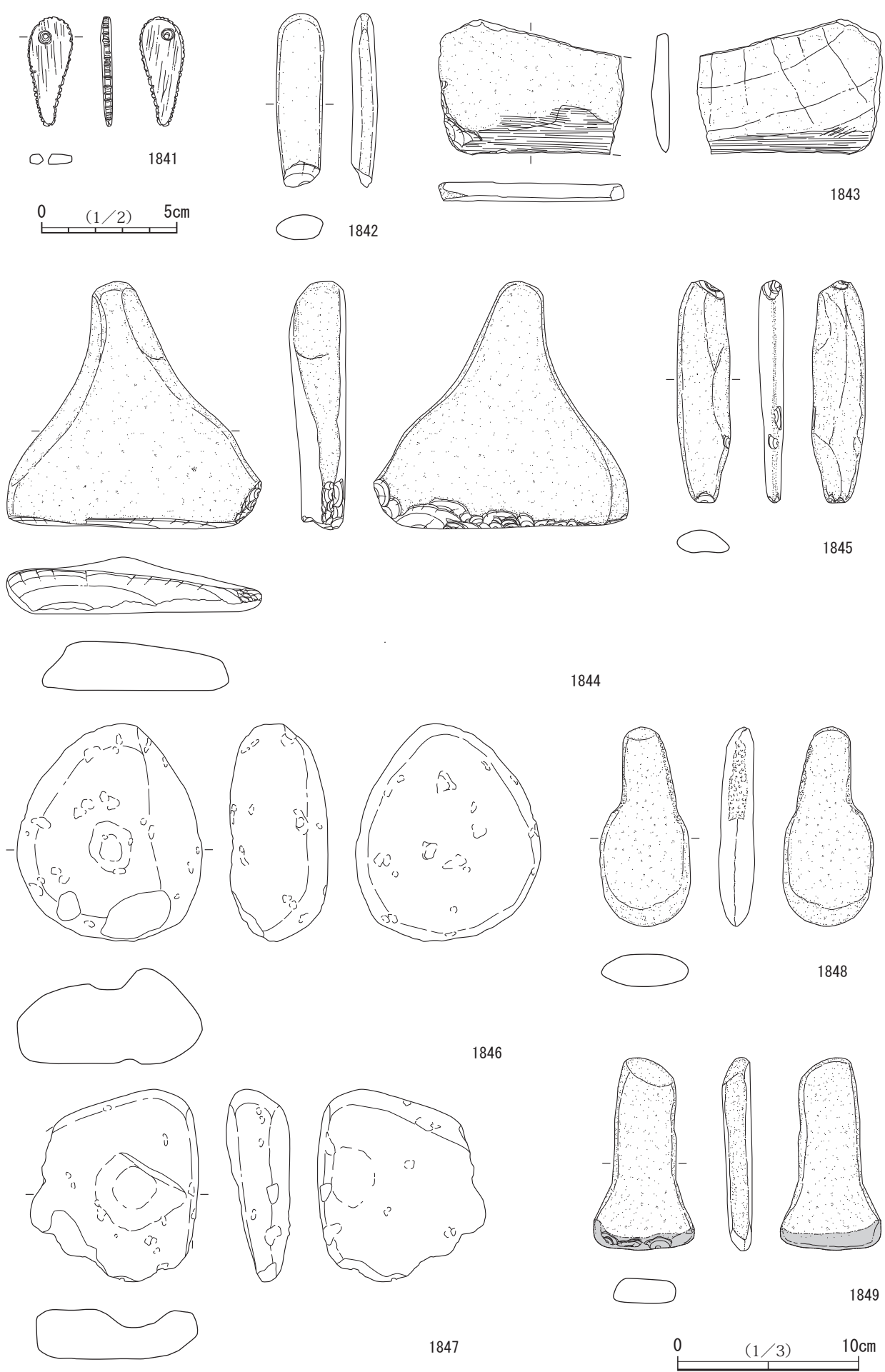
1841は長さ4cmの装身具で、側辺に刻みを巡らしている。粘板岩製。

その他の石器(第189・190図 図版132、133)

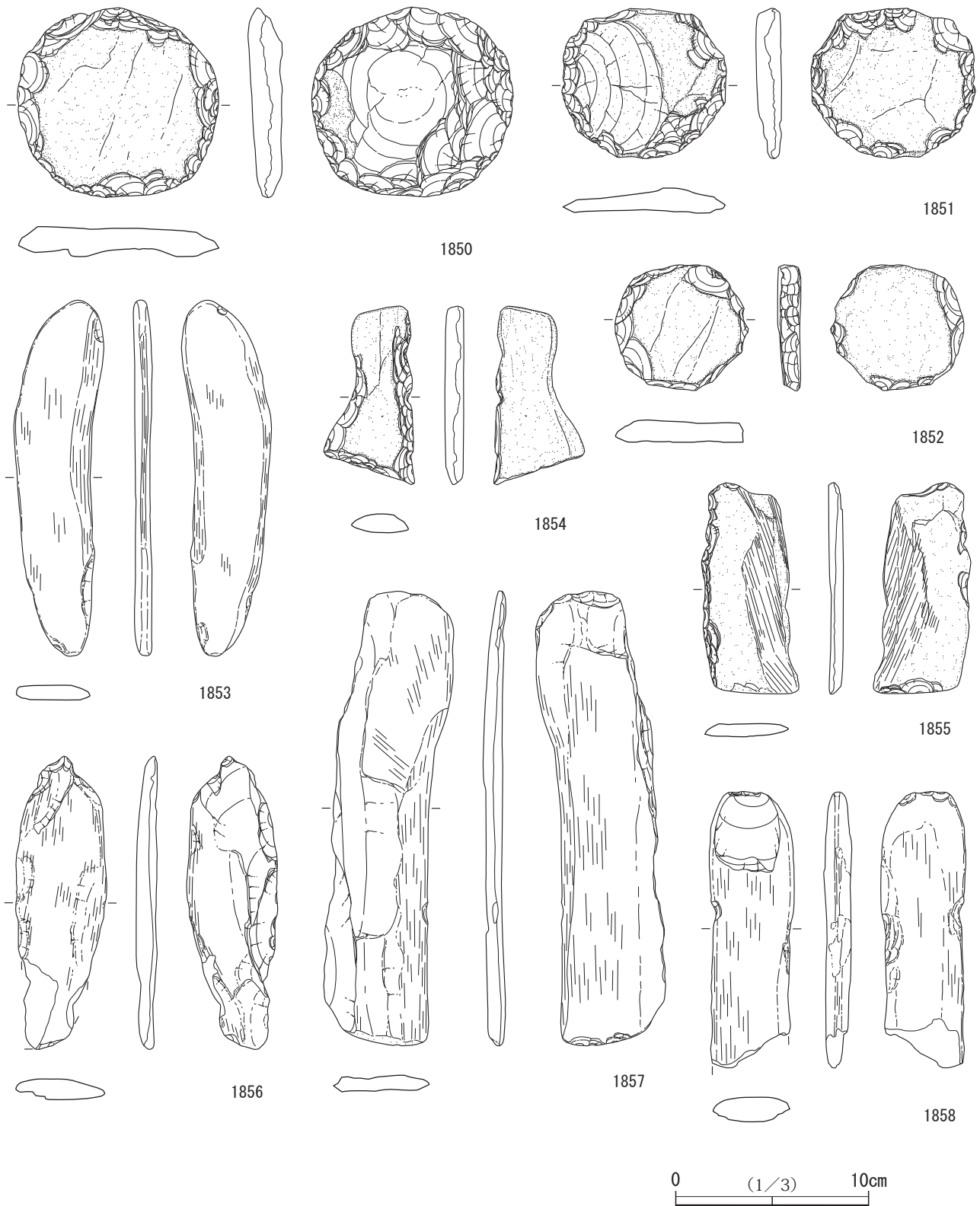
1842、1844、1845、1848、1849は礫石器。棒状あるいは不整形な形状を呈し、側辺などに剥離面や敲打痕が認められる。1849は下辺が広がる扁平な結晶片岩を素材としており、土擦痕が確認された。

第24表 石器・石製品観察表(17)

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	石材	整形	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1823	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文～弥生	磨製石斧	緑色片岩	Pe+Po	101.3	50.9	29.0	201.4	基部を敲打整形、刃部は研磨整形。
1824	20・21-3	東半	縄文	磨製石斧	安山岩	Pe+Po	109.5	60.5	36.9	322.2	基部を敲打整形、刃部は研磨整形。図版30左3
1825	20・21-2	西半 山側	SK16	磨製石斧	凝灰岩	HD+Po	136.5	54.8	27.1	246.0	ほぼ全面を研磨している。
1826	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	磨製石斧	凝灰岩	Pe+Po	134.0	58.8	36.6	485.4	ほぼ全面を研磨している。
1827	20・21-2	海側	縄文3	磨製石斧	頁岩	HD+Pe	106.5	47.6	31.1	237.5	剥離整形後、全面敲打整形。基部再加工か。
1828	20・21-1	海側～試掘TR間		磨製石斧	硬砂岩	Pe+Po	151.2	61.3	44.4	541.5	刃部欠損。基部を敲打整形し、刃部は研磨整形。図版28左1
1829	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文3	磨製石斧未製品	安山岩	Pe	112.6	62.8	47.2	478.3	棒状礫に側面を中心に敲打整形。
1830	20・21-2	土手1	縄文	柱状片刃石斧	頁岩	Po	46.6	27.7	22.2	31.0	刃部断片資料
1831	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	磨製石斧	凝灰岩	HD+Po	74.7	48.6	12.3	47.1	刃部と体部一部のみ磨製。横長剥片素材。
1832	20・21-1	湿地層内	青灰色粘質シルト	磨製石斧	ホルンフェルス	HD	79.2	58.1	20.8	131.4	表面状態のため、研磨痕は不明。
1833	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文3	磨製石斧	ホルンフェルス	HD+Pe	68.2	54.6	18.7	93.0	表面状態のため、研磨痕は不明。
1834	20・21-3	西半	遺構面およびその下層	磨製石斧未製品	緑色片岩	HD+Po	113.9	86.3	23.4	332.0	扁平礫素材。右側面に研磨整形。
1835	20・21-1	試掘TR～中央TR間 東半	縄文	打製石斧	緑色片岩	HD	138.6	47.2	14.2	153.5	扁平礫素材。素材の一端に二次加工。土擦痕なし。
1836	20・21-2		SK24	打製石斧	凝灰岩	HD	78.7	61.5	18.4	85.7	刃部欠損
1837	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	打製石斧	ホルンフェルス	HD	115.0	56.5	28.1	210.2	土擦痕なし。
1838	20・21-1	試掘TR～中央TR間	弥生	打製石斧	緑色片岩	HD	124.3	86.1	19.7	310.7	扁平礫素材。土擦痕なし。
1839	20・21-1	試掘TR～中央TR間	縄文～弥生	打製石斧?	安山岩	叩折+HD	120.8	99.8	35.2	423.7	平坦打面からHDによる縦長剥片素材。1435と同一母岩か?
1840	20・21-3		弥生	打製石斧?	サヌカイト	叩折+HD	112.4	74.5	20.8	136.5	刃部摩滅?



第189図 石器・石製品実測図(60)



第190図 石器・石製品実測図(61)

1843は横長の緑色片岩に片刃の刃部を研磨整形したものである。石包丁に類似するが、使用痕分析の結果、コーングロスは検出されなかったため、収穫具以外の用途が考えられる。

1846、1847は軽石の中央に凹みのある石製品である。軽石は礫群の中から多く検出されたが、ほとんどが自然礫であり、このような凹みを持つものはほとんどない。

1850～1852は石製円盤である。扁平な礫の周辺を加工し、形態を整形している。1850は被熱の

第25表 石器・石製品観察表(18)

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1841	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1	装身具	粘板岩	40.7	16.8	4.6	3.4	素材を研磨整形し、両側面に擦切で刻みを多数いれる。サメ歯の模倣品であろう。
1842	20・21-1	海側～試掘TR間	縄文2	礫石器	緑色片岩	96.6	26.8	14.7	62.5	棒状礫の一端に剥離面
1843	20・21-3	東半	縄文～弥生	擦切具	安山岩	74.9	102.7	11.1	126.8	刃部断面石包丁に比較し丸みをもつ。検鏡したがコーングロスを確認されていない。
1844	20・21-2	湿地層内	縄文遺構面	礫石器	安山岩	137.5	141.1	31.9	557.2	下面を叩き折り、その面を打面に二次加工みられる。スタンプ状石器に近い形態。
1845	20・21-1	海側～試掘TR間	弥生	礫石器	結晶片岩	123.2	30.3	14.4	70.4	棒状礫の一端に剥離面
1846	20・21-2	湿地層内	粘質シルト1	石製品	軽石	120.6	102.7	54.4	121.6	正面中央に凹み
1847	20・21-2	海側～試掘TR間	縄文3	石製品	軽石	106.8	93.2	35.6	90.1	正面中央に凹み
1848	20・21-2	土手3	縄文3	礫石器	砂岩	110.5	50.6	20.6	134.0	両側面上部に敲打整形し、柄部を成形。
1849	20・21-2	土手1～2間	弥生	礫石器	結晶片岩	106.9	56.4	16.9	129.0	下端が広がる扁平礫素材。土擦痕あり。
1850	20・21-3	東半	縄文	石製円盤	安山岩	98.6	104.6	17.9	213.9	扁平礫素材。周辺を加工し、形態を整形。裏面にタマネギ状剥離みられる。被熱。
1851	20・21-3	東半	縄文	石製円盤	安山岩	78.2	85.7	13.7	105.0	扁平礫素材。周辺を加工し、形態を整形。
1852	20・21-3		縄文～弥生	石製円盤	結晶片岩	65.6	69.7	12.3	80.3	扁平礫素材。周辺を加工し、形態を整形。
1853	20・21-1	試掘TR～中央TR間	縄文	石包丁様石器	緑色片岩	185.0	47.1	9.9	120.0	剥離整形後、縁辺を表面を研磨整形。
1854	20・21-2	海側	縄文3	石包丁様石器	緑色片岩	92.7	47.8	10.4	58.2	周辺を加工。研磨整形は見られない。
1855	20・21-3	東半	縄文～弥生	石包丁様石器	緑色片岩	110.0	50.9	8.1	58.3	剥離整形後、縁辺を表面を研磨整形。
1856	20・21-2	西半 海側	古代～中世	石包丁様石器	緑色片岩	152.3	47.5	11.2	95.9	剥離整形後、縁辺を表面を研磨整形。
1857	20・21-1	試掘TR～中央TR間	縄文	石包丁様石器	緑色片岩	236.0	67.7	12.0	199.6	剥離整形後、縁辺を表面を研磨整形。
1858	20・21-3	東半 海側	縄文	石棒	緑色片岩	143.8	44.6	14.5	143.9	破損。

痕跡がある。1852は結晶片岩、他は安山岩である。

1853、1855～1857は緑色片岩の板材を剥離調整後、縁辺と表面を研磨整形した石器である。形態から、石包丁や収穫具の一部ともとれるが、使用痕分析の結果、コーングロスは検出されなかったため、収穫具の可能性は低いとみられる。ここでは同様な形態であるが研磨整形していない1854も含めて石包丁様石器として仮称しておきたい。海浜部の遺跡であることから、漁撈に関連する道具の可能性もあるが、今後の資料増加により名称や用途の検討が必要となるであろう。

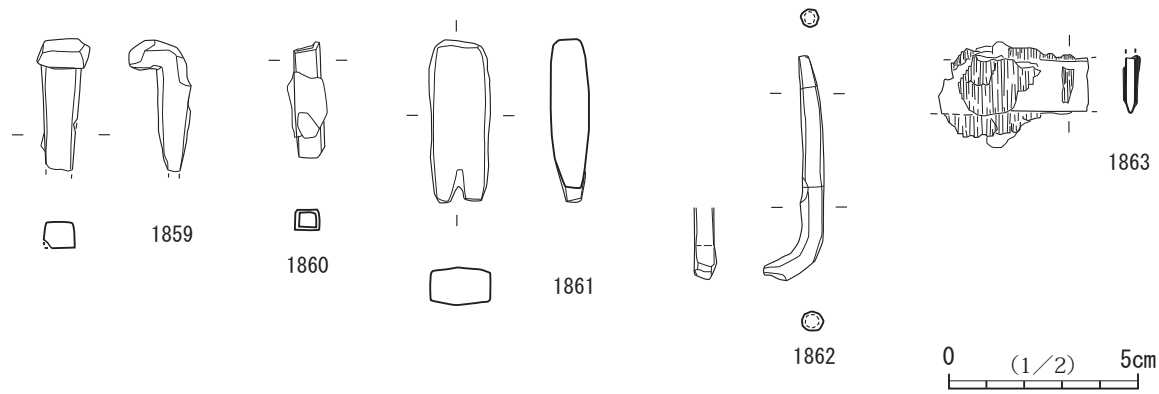
1858は石棒である。緑色片岩製で、下半を欠損している。両側面に抉りを入れている。

(3) 鉄製品(第191図 図版134)

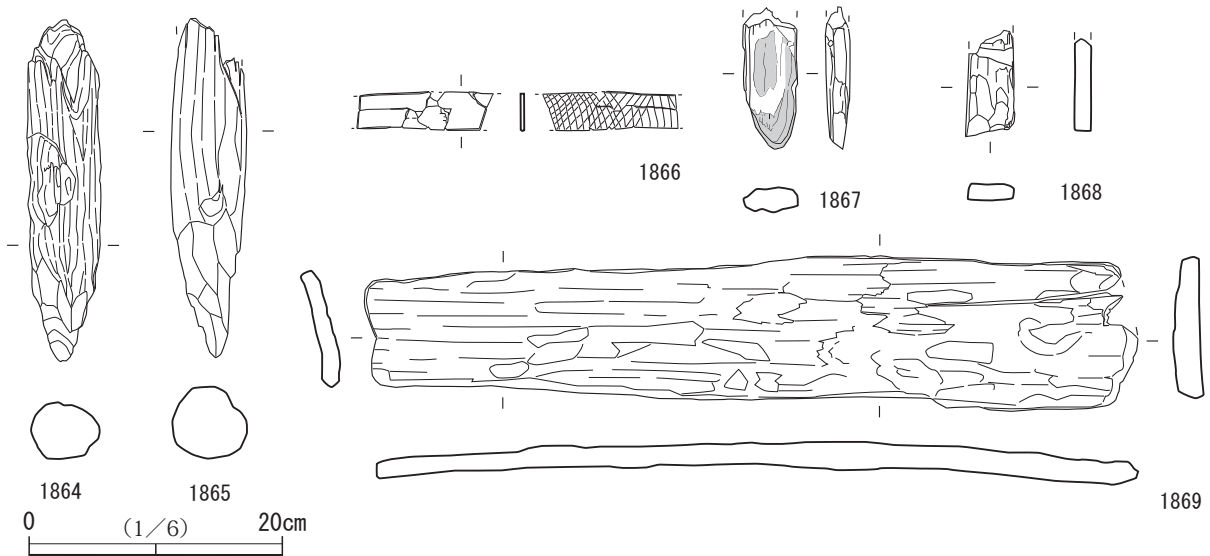
鉄製品は5点出土した。1863は弥生時代の可能性があるが、他は古代以降である。1859、1860は鉄釘である。1861は下辺に抉りを持つ楔状の鉄製品である。1862は形状からすると釣り針の可能性はある。1863は刀子片で、木質が錆着している。

(4) 木製品(第192図 図版134)

1864～1866は古代の湿地跡内の粘質シルト層から出土した。1864、1865は杭で、長さ27cm。1866は曲げ物の側板である。格子状の切り込みが内面にみられる。1867～1869は縄文時代湿地跡の最下層付近から出土した板材である。1867は被熱により一部炭化している(アミかけ部分)。1869は長さ61.6cmの板材である。これらの木製品の材質は、1866がヒノキ科アスナロ属で、他はマツ科マツ属である。



第191図 鉄製品実測図



第192図 木製品実測図

第26表 鉄製品観察表

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	特徴
1859	20・21-2		古代～中世	鉄釘	—	1.4-0.8	0.7	
1860	20・21-2		古代～中世	鉄釘	—	0.7	0.6	
1861	20・21-2	東半 海側	弥生～古代	不明鉄器	4.3	1.6	1.0-0.4	楔形状、凹みあり
1862	20・21-2	土手1～2間	弥生～古代	鉄針か	5.9	0.6-0.4	0.6-0.5	
1863	20・21-2	東半 山側	縄文～弥生	刀子か	残4.0	残1.4	0.3	木質が錆着

第27表 木製品観察表

番号	地区	出土位置	層位・遺構	器種	材質	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	特徴
1864	20・21-2	湿地層	古代湿地層 黒褐色粘質シルト	木杭	マツ科マツ属	27.0	5.4	4.5	
1865	20・21-2	湿地層	古代湿地層 黒褐色粘質シルト	木杭	マツ科マツ属	27.0	6.0	5.7	
1866	20・21-2	湿地層	古代湿地層 黒褐色粘質シルト	曲げ物(側板)	ヒノキ科アスナロ属	10.9	3.0	0.3	板面に格子状の切り込みあり。
1867	20・21-2	湿地層	粘質シルト2の下 腐葉土層	板材	マツ科マツ属	11.2	4.3	1.9	一部炭化
1868	20・21-2	湿地層	粘質シルト2の下 腐葉土層	板材	マツ科マツ属	8.5	3.8	1.3	加工痕あり
1869	20・21-2	湿地層	粘質シルト2の下 腐葉土層	板材	マツ科マツ属	61.6	10.2	2.1	

IV ま と め

今回の調査範囲は前回調査の北側に隣接した浜堤および後背湿地で、縄文時代から古代、中世の遺物包含層が堆積し、縄文、弥生、古代の遺構が確認された。大型の礫が多く含む遺物包含層の堆積状況から、高潮等による浸食、攪乱によって浜堤上の遺構は消滅し、遺物包含層の形成が行われたとみられる。このような遺跡の時期や特徴は、前回の調査報告（石井編2007『田ノ浦遺跡』）と共通する点が多いが、その中で浜堤から後背湿地にかけての傾斜面に縄文時代の遺構を確認できたことが今回の大きな成果であった。以下、各時代における調査成果とともに前回調査との比較をし、あわせて実施した自然科学分析の結果も踏まえてまとめとする。

縄文時代

集落の立地 調査では現在の海岸線に平行する縄文時代の浜堤堆積層と後背湿地の範囲を確認できた。最下層では自然流木が堆積し、年代測定によれば縄文時代前期の値を示す試料が多い。包含層で最も古い土器は前期であることから、この時期に居住を開始したとみられる。この最下層の上に後期初頭の貯蔵穴群を検出した粘質シルト層が堆積する。年代測定では前期から後期の数値を示しており、土器や遺構の年代と一致する。さらにこの貯蔵穴遺構面に相当する浜堤傾斜面で、後期とみられる柱穴、土坑を検出したことから、浜堤の北側にも集落があったことが確認された。前回調査では17・18－4区の浜堤緩斜面で柱穴、土坑が検出されており、南北にのびる浜堤のうち、北、南の両端で縄文時代遺構および包含層が分布することから、この範囲が居住範囲であると考えられる。浜堤の中央部に遺構および遺物の出土が無いのは、砂礫の堆積が未発達で高さも十分ではないため波浪の影響を受けやすく、居住に適していなかった可能性がある。これは今回の調査で確認した当時の湿地範囲が、海岸に平行ではなく現浜堤に対して斜めに広がり、当時の浜堤の幅が中央に向かって狭くなっていることからもうかがえる。ところでこれらを一連の集落と捉えた場合、大量の土器、石器が出土するなどの共通点とともに、貯蔵穴の検出、漁労具とみられる礫器の出土など、相違点も認められる。削平による残存状況や時期差も考慮されるが、集落内における役割や機能の違いを反映している可能性がある。

縄文土器 今回の調査では、遺構、遺物包含層から前期から晩期にかけての土器が出土したが、時期の中心は後期であり、出土土器のほとんどは遺物包含層からである。縄文遺物包含層は、土層観察から「縄文」「縄文2」「縄文3」「遺構面およびその下層」などに分層したが、いずれも後期を中心として前期から晩期までの複数時期の土器が混在して出土することから、高潮等による二次堆積によって形成された包含層と見られる。ただし1区の「縄文3」、3区の「遺構面およびその下層」など包含層の下層では前期から中期にかけての土器の比率が高い傾向にある。

前期の土器は、前回調査でも確認された羽島下層式、彦崎Z1式が出土する。それ以外の型式として、前期前半の轟B式、前期末の大歳山式が新たに確認された。中期の土器は、前回調査ではほとんど確認されていないが、今回の調査で船元式、里木式が認められる。また中期末から後期初頭にあたる沈線文系土器（163～172）、縄文と沈線文を施す土器（264、265、272、273、274、279、291など）も認められる。後期の土器は、初頭から前葉にあたる中津式、福田KⅡ式およびその併行期の沈線文系、刻目隆帯文系土器が多く出土する。器種は深鉢、浅鉢のほか、把手付壺（403）、把手付浅鉢（404、

405)、双耳壺(406、407、411)、注口土器(38、416)が認められ、多岐にわたる。また縁帯文成立期、津雲A式やその併行期の縁帯文土器も出土する。後期末から晩期にかけての土器は、岩田第4類、黒川式併行期、刻目突帯文土器が出土する。

以上の型式以外に、中期末から後期前半にかけて他地域の型式に類似する土器が認められる。胎土や施文方法が本来の型式と異なるものもあるが、施文の特徴や文様意匠を共有しており、それらの影響を受けたとみられる。特に春日式(150～154)、西和田式(248)、綾B式(372)、コウゴロ松式(448)、鐘崎式(532～534)、市来式(538)等、九州の土器型式の影響を受けたものが多く認められる。その他、南西四国の片粕式(537、539)に類似するもの、山陰系の渦巻状J字文を施すもの(339)、関東系の加曾利E式(268)や三十稲場式に類似する胴部刺突文を施すもの(487)も認められる。

胎土の特徴として、角閃石を含む一群、雲母を著しく多量に含む一群が認められる。これらは前回調査でも確認され、搬入品の可能性が高いものである。角閃石を含む一群は中期末の縄文と沈線文を施す土器(266、267、272、273など)、後期中葉の土器(515～519)に多く認められる。また、雲母を多量に含む一群(157、168、170、196、207、238、288、302、307、310、330、345、358、595、673、688など)は、中津式および沈線文系土器に多く認められる。

田ノ浦遺跡では、西部瀬戸内地域の前期から晩期にかけての各型式の土器がまとまって出土している。また中心となる時期である中期末から後期前半には、搬入品の可能性のある胎土の異なる土器や他地域の型式の影響を受けた土器が多数認められ、当該期における各地域との活発な交流を想定できる。

堅果類貯蔵穴 今回の調査では縄文時代後期の堅果類(ドングリ)貯蔵穴を14基確認した。縄文時代低湿地型貯蔵穴は西日本において79遺跡1060穴以上が調査されており(柳浦 2004)、県内では平生町岩田遺跡(晩期前半、33基)に次ぐ2遺跡目である。ここではその特徴をまとめてみる。

浜堤と後背湿地との境に位置し、湿地内堆積である粘質シルト層を掘り込んでおり、内部は湿潤である。規模は、径が100cmを超える大型の2基以外は60～70cmの小型土坑で、深さは7～32cmと浅い。深さが浅いことから上位をある程度削平されたとみられる。堅果類は底面近くから出土し、最も多く出土したのはSK28の568個(果実、子葉、殻斗の完形、破片すべて)である。堅果類のうち、多くはイチイガシなどのコナラ属が主体であるが、SK34はスダジイ、ツブラジイのシイ属がほとんどで、他の貯蔵穴とは堅果類の組成が異なる。これは意図的に選別し貯蔵したともみれるが、「成り年」の関係で採集時にイチイガシが不作であったことも考慮される。これらの堅果類は底面および底面に流入した砂層内から出土することから、取り残した状態で廃棄されたことがうかがえる。

貯蔵方法は堅果類が出土した周辺に編み物や敷物などの有機物の痕跡は認められないことから、貯蔵穴内に直接収納したものとみられる。閉塞施設は木材、樹皮、編み物、小枝・木葉が知られるが、当遺跡では埋土中に樹皮、木の葉、木の小片が含まれる場合が多く、SK21では堅果類の上に樹皮が覆っていた。岩田遺跡でも樹皮で覆う例が報告されていることから、同様な施設が想定される。また内面に大型の礫が検出される例(SK28、32、35)があるが、閉塞施設の重しや貯蔵穴の目印として置かれた石が廃棄などにより内部に転落した可能性がある。

SK31～33、35以外の貯蔵穴は、15mの間に一定間隔をおいて重複せずに掘り込まれており、時期を置かず使用されていたことを示している。また貯蔵穴は規模から大型(SK28、35)とそれ以外

の小型のグループに分けられ、分布は大型が南側に、小型が中央から北側に位置する。大型 (SK35) と小型 (SK33) の重複関係からすると、大型貯蔵穴が先行し、その後北側に小型貯蔵穴が掘り込まれていった可能性がある。ただ出土する少数の縄文土器からすると、いずれも縄文時代後期初頭と考えられる。

以上貯蔵穴の特徴をまとめたが、これらの内容は西日本における低湿地型貯蔵穴の特徴をよく示しており、海岸に近接した後背湿地に立地することと相俟って、海浜部縄文集落の食料貯蔵のあり方を考える良好な資料といえよう。

石器・石材 前回調査に引き続き姫島産黒曜石、金山産サヌカイトなどの石材やそれらの大量の剥片が出土した。姫島産黒曜石は円礫、サヌカイトは板状石材が出土したことから原産地からの石器素材として搬入されたことを、また多くの剥片はこの地における石器製作が行われていたことを物語っている。さらに調査面積 1,098 m² に対し石鏃は 500 点以上出土するなど、器種の豊富さや多量の出土点数からも、想定される集落規模を超える石材、剥片、製品を保有していたと考えられる。このことは、各種の石材を集積し、他遺跡へ供給していたとされる指摘 (石井 2009) を、さらに補強する資料といえる。

出土した石器のうち、典型的なサヌカイト製石匙、削器、石棒は東日本的な石器であり、他方、黒曜石製石器や島原地域を中心とする漁労具とみられる礫器は九州系の石器である。出土遺物に認められる東西の要素は石器だけでなく、先述した土器でも、九州、四国、山陰のみならず関東系土器までが出土するなど、縄文時代の活発な交流を見て取れる。瀬戸内海を介した石材の流通は、石材にとどまらず人、モノが移動することで、九州と東日本の文化要素が流入し合い、瀬戸内海の縄文文化の展開に大きく関与していることを、田ノ浦遺跡出土資料も反映していると考えられる。

遺跡の性格 縄文時代の田ノ浦遺跡は、大量に出土した遺物や検出遺構から、県東部を代表する縄文遺跡の一つと考えられる。集落は前期から晩期にかけて断続的に営まれた集落で、その中心時期は後期から晩期にかけてである。遺構遺物から、そこでは狩猟 (石鏃)、採集 (敲き石・石皿、堅果類貯蔵穴)、漁労 (石錘、礫器) の生活を基盤として、他方で瀬戸内海を介した石材 (黒曜石、サヌカイト) の交易によって、他地域と盛んに交流していた縄文海浜集落の様子がみてとれよう。

弥生時代

今回の調査では弥生時代前期から中期初頭の土器が多く出土している。また西側の丘陵斜面に土坑が 1 基確認されたことから、同時期の集落が丘陵斜面の安定した地山層を中心に立地していた可能性がある。ただ遺構としては SK12 のみで、遺物が山側および海岸礫を多く含む包含層から出土したことから、弥生以降の土地改変および高潮等の攪乱によって遺構の多くが残っていないとみられる。前回同様湿地跡内からの花粉分析によるイネの検出、使用痕のある石包丁の出土から、後背湿地を利用した小規模な稲作が行われたことを示している。出土土器では豊後地域に関連のある土器や東瀬戸内の凹線甕が出土し、瀬戸内海における交流の様子を示している。

古墳時代

前回調査ではミニチュア土器や高坏がでまどまって出土しており、浜堤上で何らかの祭祀行為が行われたことが指摘されている。その隣接区である 2 区からは同様な土器はほとんど出土していないこと

から、古墳時代の祭司の場は浜堤の限られた場所であったと見てよいだろう。

古代以降

前回の調査では多くの製塩土器が出土したことから、製塩遺構の存在が指摘されていたが、今回製塩土器を伴うSK10が確認された。被熱の痕跡がないため、確実に製塩関係の施設かどうかは不明である。ただSK10周辺の海岸側では製塩土器、古代土師器、カマドなどの破片が出土することから、海岸側で製塩を行っていた可能性は高い。今回出土した製塩土器は、器形が砲弾型で内面に布目痕が残る六連式土器は少なく、円筒形で内面に刷毛目調整を施しているものが多いのが特徴である。この円筒形で内面刷毛目調整の土器は、平生町浜田遺跡からも六連式とともに出土しており、畿内出土の焼塩土器の関連性が指摘されている(渡辺 2004)。このような内面刷毛目調整の製塩土器は、消費地である畿内内陸部でも少量確認され、8世紀中・後半から9世紀初頭に比定されているが、産地確認までは至っていない(岩本 1983)。これらが同種である判断は今後の検討課題であるが、県東部に分布する可能性があり、注目される。

この時期の遺構として柱穴、土坑が検出され、古代以降の集落の一部が明らかとなった。残存する範囲は丘陵裾から後背湿地西端までで、製塩土器の時期とともに一般集落にはあまりみられない黒色土器や施釉陶器など10世紀以降の遺物も出土している。前回報告では出土遺物から官営または有力勢力による組織的な製塩を想定しており、これに携わった集落の可能性がある。

中世以降の遺物数は圧倒的に少なくなるのは前回と同様である。ただ龍泉窯系の青磁碗など一般集落には少ない遺物もあることから、古代以降の製塩や海上交通を担った地理的特長や役割を、中世前期まで少なからず保っていた現れであろう。

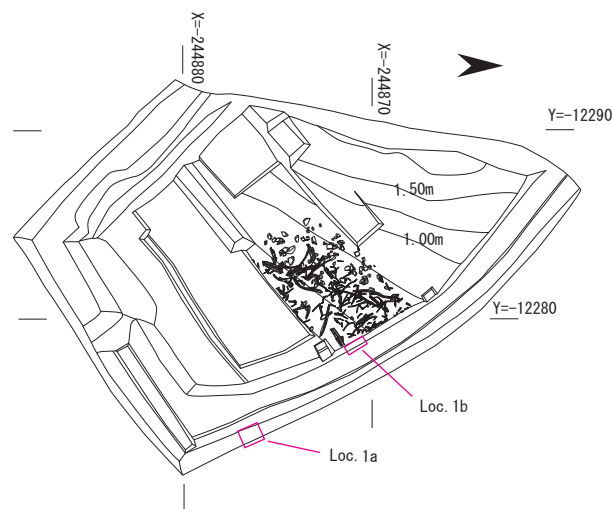
(注) 実施した自然科学分析は、放射性炭素年代(A M S測定)、花粉分析、珪藻分析で、試料採集場所および層位は第193図、第28表のとおりである。また貯蔵穴や湿地跡出土の種実、樹木等の同定、さらに堆積土中にしばしば認められる黒色硬化土壌について、その生成由来についても分析を行った。分析結果については付編に掲載している。

参考文献

- 石井龍彦編 2007 『田ノ浦遺跡』山口県埋蔵文化財センター。
- 石井龍彦 2009 「西部瀬戸内地域の石器石材利用の様相」『考古学ジャーナル』 No.594。
- 岩本正二 1983 「7～9世紀の土器製塩」『文化財論叢』同朋舎。
- 幸泉満夫 2007 「西部瀬戸内の縄文後期土器」『縄文後晩期の西部瀬戸内地方』(第18回中四国縄文研究会)。
- 小林達雄編 2008 『総覧縄文土器』。
- 竹広文明 2009 「瀬戸内周辺の石器石材利用」『考古学ジャーナル』 No.594。
- 千葉豊編 2010 『西日本の縄文土器 後期』真陽社。
- 中越利夫 2000 「岩田遺跡」『山口県史 資料編 考古1』。
- 平生町教育委員会 1974 『岩田遺跡』。
- 水ノ江和同 2007 「低湿地型貯蔵穴」『縄文時代の考古学5 なりわいー食料生産の技術ー』同成社。
- 柳浦俊一 2004 「西日本縄文時代貯蔵穴の基礎的研究」『島根考古学会誌』第20・21集合併号 島根考古学会。
- 渡辺一雄 2004 「製塩土器」『山口県史 資料編 考古2』。

第28表 試料採取土層対照表

試料採集場所	試料番号	土層断面	土層番号	試料採集場所	試料番号	土層断面	土層番号
Loc. 1a	1	O-O'	60	Loc. 1b	31	P-P'	35
Loc. 1a	2	O-O'	60	Loc. 1b	32	P-P'	35
Loc. 1a	3	O-O'	60	Loc. 1b	33	P-P'	33
Loc. 1a	4	O-O'	60	Loc. 1b	34	P-P'	33
Loc. 1a	5	O-O'	60	Loc. 1b	35	P-P'	30
Loc. 1a	6	O-O'	60	Loc. 1b	36	P-P'	30
Loc. 1a	7	O-O'	60	Loc. 1b	37	P-P'	20
Loc. 1a	8	O-O'	60	Loc. 1b	38	P-P'	20
Loc. 1a	9	O-O'	60	Loc. 1b	39	P-P'	19
Loc. 1a	10	O-O'	52	Loc. 1b	40	P-P'	19
Loc. 1a	11	O-O'	51	Loc. 1b	41	P-P'	13
Loc. 1a	12	O-O'	51	Loc. 1b	42	P-P'	13
Loc. 1a	13	O-O'	50	Loc. 1b	43	P-P'	6
Loc. 1a	14	O-O'	49	Loc. 1b	44	P-P'	5
Loc. 1a	15	O-O'	49	Loc. 1b	45	P-P'	5
Loc. 1a	16	O-O'	47	Loc. 1b	46	P-P'	4
Loc. 1a	17	O-O'	47	Loc. 1b	47	P-P'	3
Loc. 1a	18	O-O'	44	Loc. 1b	48	P-P'	3
Loc. 1a	19	O-O'	44	Loc. 1b	49	P-P'	2
Loc. 1a	20	O-O'	44	Loc. 1b	50	P-P'	2
Loc. 1a	21	O-O'	43				
Loc. 1a	22	O-O'	42				
Loc. 1a	23	O-O'	42				
Loc. 1a	24	O-O'	40				
Loc. 1a	25	O-O'	40				
Loc. 1a	26	O-O'	37				
Loc. 1a	27	O-O'	36				
Loc. 1a	28	O-O'	35				
Loc. 1a	29	O-O'	34				
Loc. 1a	30	O-O'	32				



第193図 試料採取場所位置図(20・21-2区)

V 付 編

使用痕分析

株式会社 アルカ

1. 観察方法

キーエンス社のデジタルHDマイクロスコープ (VH-7000) による高倍率ズームレンズ (VH-Z450) と、低倍率ズームレンズを用いて使用痕観察をおこなった。観察倍率は、200倍～1000倍、10～40倍である。観察面は、適宜アルコールを浸した脱脂綿で軽く拭き取り、脂分などを取り除いた。観察範囲は、石器表面全体を詳細に観察し、使用痕光沢および線状痕の認定をおこなった。使用痕光沢分類は梶原・阿子島の分類基準によっている (梶原・阿子島 1981)。微小剝離痕は、阿子島 (阿子島 1981、89) を用いた。

2. 分析結果

遺物番号 1821 (本文第 185 図 顕微鏡図版-1)

磨製石包丁である。中央部で破損しているが、残存部分から、全体の形態は刃部が外湾し、背部が直線状の半月形外湾形の石包丁である。全面研磨で整形しており、敲打の痕跡は見られなかった。

紐孔の縁には擦れたような痕跡は確認できなかった。刃部は両刃で、外湾の形態を呈する。しのぎは不明瞭である。

石器正面に B タイプ光沢 (コーングロス) が確認できた (写真 1)。それ以外の部分には光沢はみられない (写真 2、3)。

線状痕は確認できなかった。

[推定される操作]

光沢タイプからイネ科植物に対して使用されたと思われる。線状痕が確認できなかったので、具体的な操作方法を特定することは難しいが、他遺跡の光沢分布などの成果を考慮すると、穂摘みの操作が一番無難であろう。

遺物番号 1843 (本文第 189 図 顕微鏡図版-1)

刃部が研磨整形されており、当初石包丁と判断したが、検鏡したところコーングロスは確認できなかった (写真 4 から 5)。上記石包丁の刃部は鋭い辺を形成しているのに対し、この石器の刃部は幾分丸みを帯びている。

光沢がみられない点と、刃部の形状が異なることから、石包丁のような収穫具でなく、別の用途の可能性もある。

遺物番号 1853、1855～1857；石包丁様石器 (本文第 190 図 顕微鏡図版-2)

緑色片岩製で、刃部が研磨整形された石器である。西日本では学史的に縄文後晩期農耕論が盛んに議論されてきており、石器組成の中で削器類が収穫具ではないかと考えられてきた。田ノ浦遺跡出土のこれら資料も収穫具の可能性もあると思い、図版-2 に掲載した資料 4 点を検鏡した。結果、コー

ングロスを確認できなかった。写真2にあるような鈍く、粗い表面の光沢は確認できる程度である。

この資料から判断する限り、収穫具としてこれら石器が用いられた可能性は低いといえよう。

遺物番号1849(本文第189図 顕微鏡図版-3)

礫素材の一端に土擦痕のような痕跡がみられた(写真1)。類似資料は長崎県深掘遺跡などで確認されており、その所見によるとやはり摩滅が確認されている。

土掘り具として使用されたのであろうか。

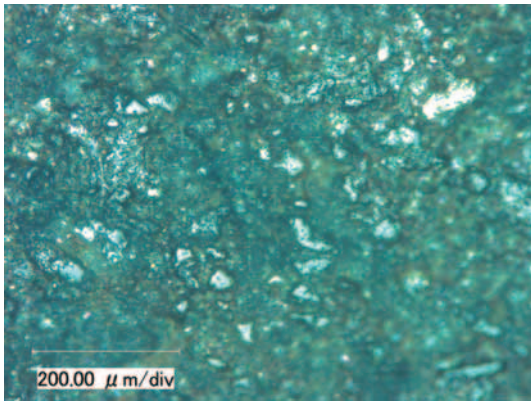
遺物番号1425、1426、1430、1478、1491、1518:黒曜石製石器(本文第139、145、146、151 顕微鏡図版-3)

図版-3に掲載した黒曜石製石器をサンプルで検鏡したが、姫島産は表面が激しく荒れており、使用痕は確認できないと判断した。

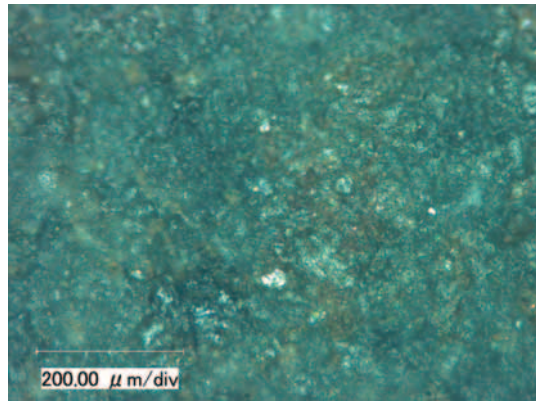
腰岳産は、これまで著者が検鏡した東日本の黒曜石と同じような表面状態であり(写真5)、条件がよければ使用痕が確認できる可能性があると思われる。ただ検鏡した資料には使用痕は確認できなかった。

参考文献

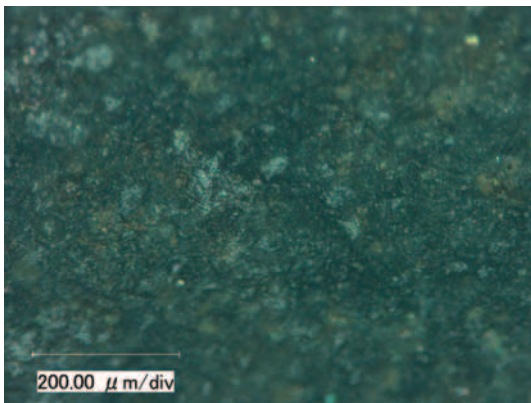
- 阿子島香 1981 「マイクロフレイキングの実験的研究(東北大学使用痕研究チームによる研究報告その1)」『考古学雑誌』66-4 pp.1-27
- 阿子島香 1989 『石器の使用痕』考古学ライブラリー56 ニュー・サイエンス社
- 石井龍彦 2009 「西部瀬戸内地域の石器石材利用の様相」『考古学ジャーナル』594 pp.13-16
- 石井龍彦他 2007 『田ノ浦遺跡』山口県埋蔵文化財センター調査報告第59集
- 賀川光夫 1967 「縄文晩期農耕の一問題—いわゆる扁平石器の用途—」『考古学研究』13-4 pp.10-17
- 角張淳一 1998 「石器研究についての感想」『東京考古』16 pp.135-165
- 角張淳一 2000 「続・石器研究についての感想」『東京考古』18 pp.46-70
- 角張淳一 2002 「石器研究の展望」『利根川』23 pp.1-14
- 角張淳一 2003 「剥片剥離技術の検討および石器実測図の評価」『平成14年度 愛知県埋蔵文化財センター年報』愛知県埋蔵文化財センター pp.78-84
- 角張淳一 2007a 「石器の製作」『考古学ハンドブック』親書館 pp.104-105
- 角張淳一 2007b 「先土器時代石器技法論」『列島の考古学・渡辺誠先生古希記念論文集』 pp.263-276
- 梶原洋・阿子島香 1981 「頁岩製石器の実験使用痕研究—ポリッシュを中心とした機能推定の試み—(東北大学使用痕研究チームによる研究報告その2)」『考古学雑誌』67-1 pp.1-35
- 小南裕一 2003 「中四国における姫島産黒曜石の流通—縄文次代を対象として—」『Stone Sources』3 pp.67-72
石器原産地研究会
- 小南裕一 2009 「山口県域における縄文後・晩期の剥片石器」『山口県埋蔵文化財センター年報 陶墳』22 pp.17-30
- 竹岡俊樹 1989 『石器研究法』言叢社
- 中村豊 2003 「結晶片岩製打製収穫具と打製石斧」『古代文化』55-12 pp.1-14



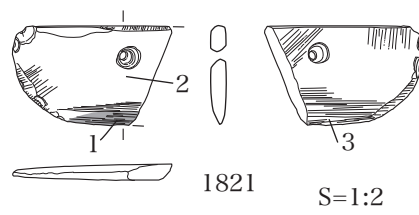
1



2

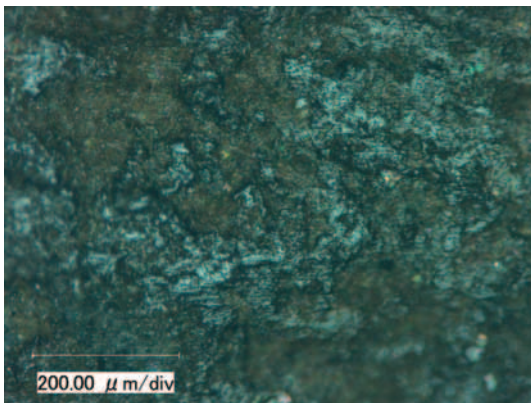


3

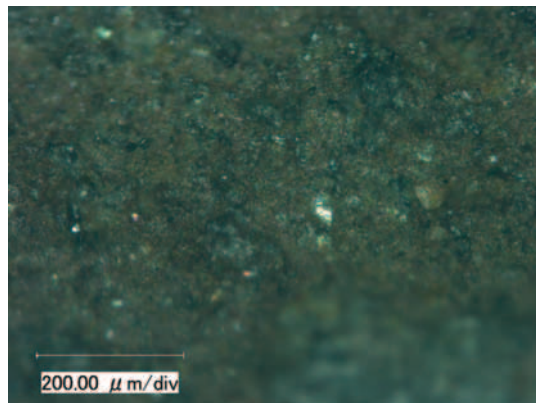


1821

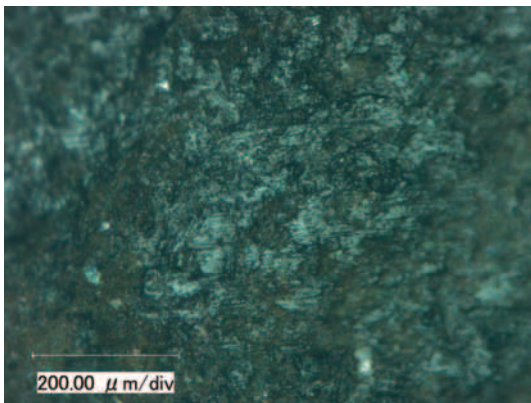
S=1:2



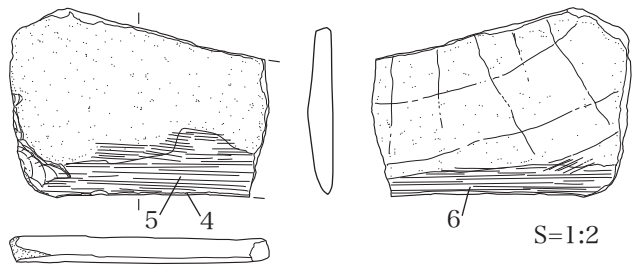
4



5



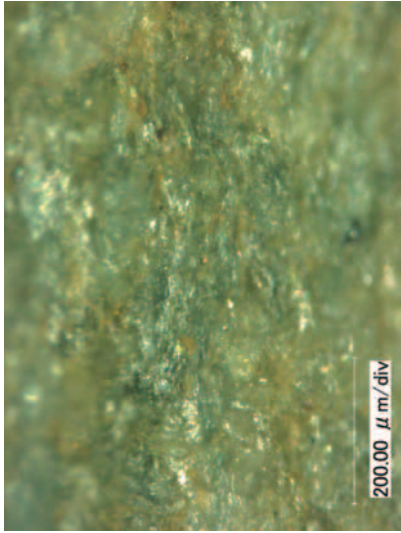
6



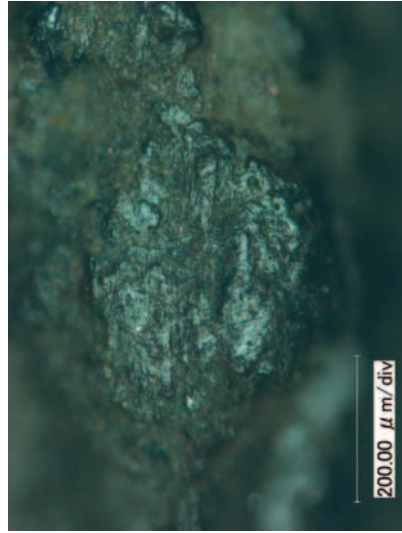
1843

S=1:2

田ノ浦遺跡 顕微鏡図版-1



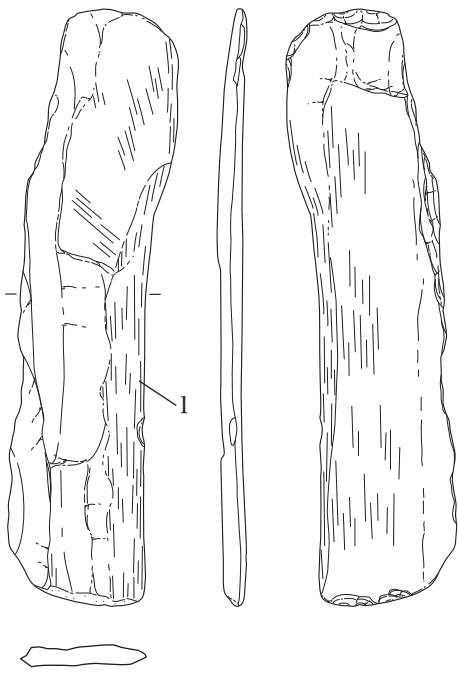
1



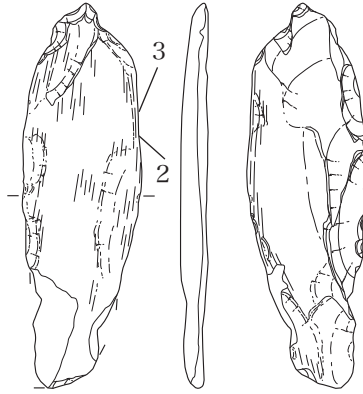
2



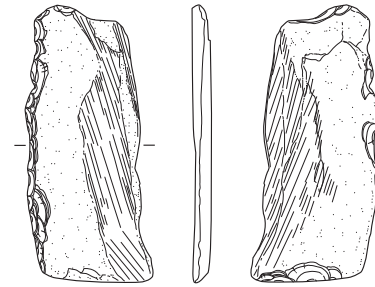
3



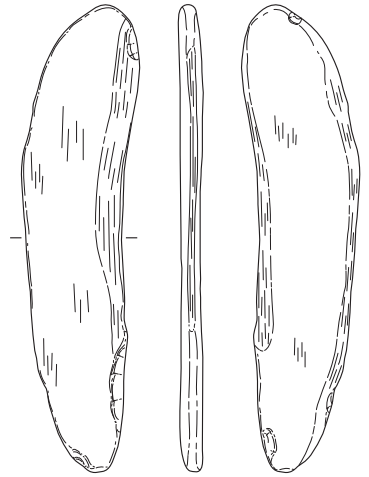
1857



1856



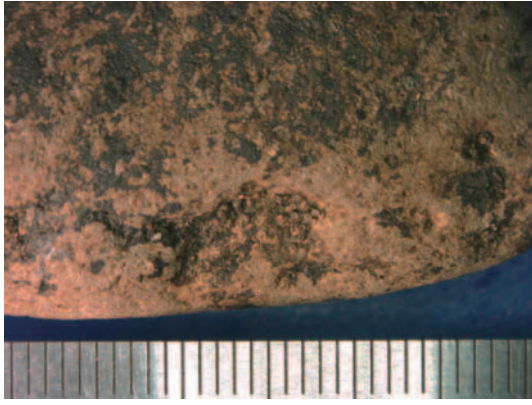
1855



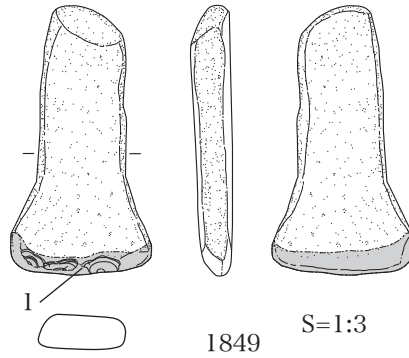
1853

S=1:3

田ノ浦遺跡 顕微鏡図版-2

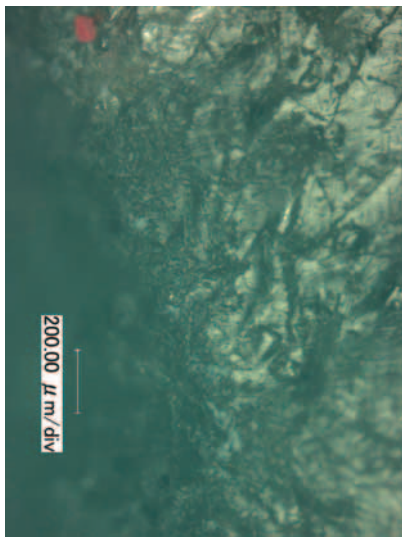


1

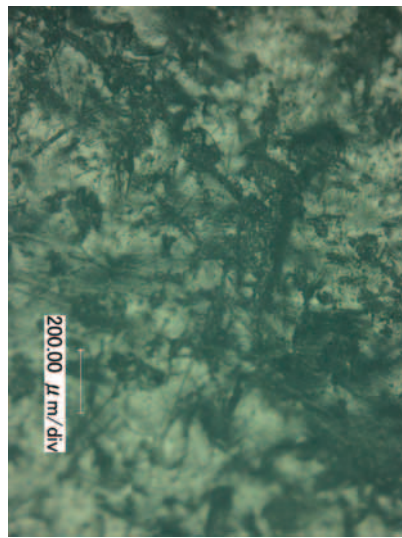


1849

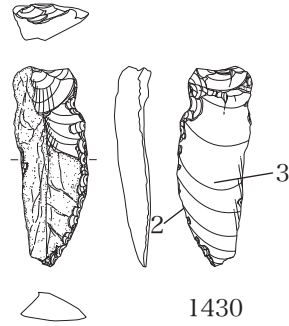
S=1:3



2



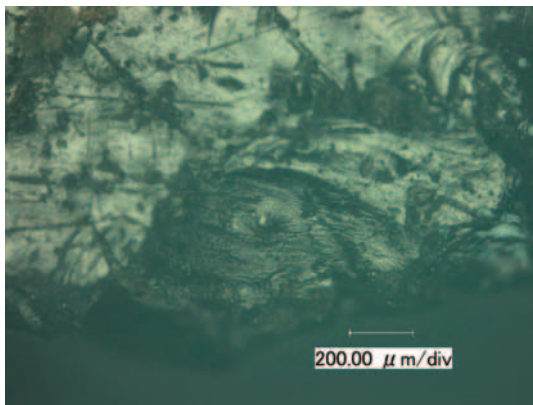
3



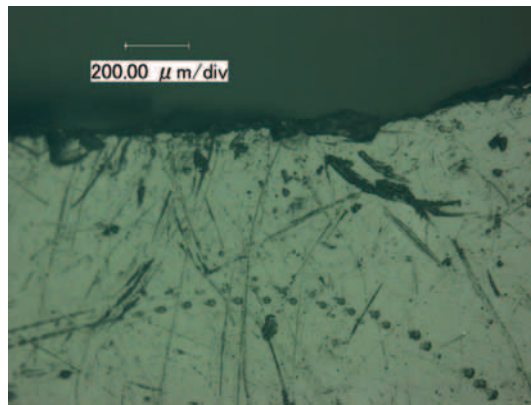
1430



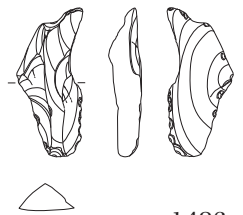
1425



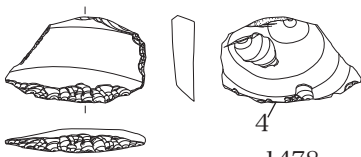
4



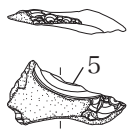
5



1426



1478



1518



1491

田ノ浦遺跡 顕微鏡図版-3

田ノ浦遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

田ノ浦遺跡は、山口県熊毛郡上関町大字長島(北緯33° 47' 30"、東経132° 2' 2")に所在し、瀬戸内海に面した浜堤とその背後の湿地に立地する。測定対象試料は、調査区東側断面より採取された土壌(IAAA-101310～101316)と浜堤の背後にできた湿地内から出土した木片(IAAA-101317～101331)の合計22点である(表1)。

2 化学処理工程

(1) メス・ピンセットを使い、付着物や混入物を取り除く。

(2) 木片は酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理、土壌は酸処理を実施し、不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。酸処理では、通常1mol/ℓ(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。AAA処理を行った試料で、アルカリ濃度が1Mに達したものは「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。酸処理のみの試料は表1に「HCl」と記載する。

(3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。

(4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。

(5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。

(6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3 測定方法

3MVタンデム加速器(NEC Pelletron 9SDH-2)をベースとした¹⁴C-AMS専用装置を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4 算出方法

(1) δ¹³Cは、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

(2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代はδ¹³Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差(±1σ)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

(3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。

pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.1較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

5 測定結果

調査区東側断面より採取された土壌の ^{14}C 年代は、下部のLoc.1a-1が $5380 \pm 30\text{yrBP}$ 、Loc.1a-4が $5180 \pm 30\text{yrBP}$ 、Loc.1a-12が $4290 \pm 30\text{yrBP}$ 、Loc.1a-22が $3450 \pm 30\text{yrBP}$ 、上部のLoc.1b-32・33・34が $2320 \pm 30\text{yrBP}$ 、Loc.1b-35・36が $2400 \pm 30\text{yrBP}$ 、Loc.1b-37・38・39が $2630 \pm 30\text{yrBP}$ である。下部の4点と上部の3点は各々年代がよくまとまっているとは言えないが、下部で最も新しいLoc.1a-22よりも、上部で最も古いLoc.1b-37・38・39の方が新しい値を示すことから、層位の上下関係と年代の前後関係はおおむね整合的である。暦年較正年代 (1σ) は、下部の4点を大きくまとめて見ると $4300 \sim 1700\text{cal BC}$ 頃、同様に上部の3点は $800 \sim 400\text{cal BC}$ 頃となっており、下部は縄文時代前期から後期頃、上部は縄文時代晩期から弥生時代前期頃に相当する。

次に浜堤背後の湿地内から出土した木片の ^{14}C 年代をレベルに従って検討する。

L=1.8～2.39mの範囲から出土した木片は、No20070が $1270 \pm 30\text{yrBP}$ 、No20073が $1440 \pm 30\text{yrBP}$ 、No20141が $1850 \pm 30\text{yrBP}$ 、No20142が $2150 \pm 30\text{yrBP}$ 、No20156が $2200 \pm 30\text{yrBP}$ である。5点の間には年代差が認められるが、下位で出土した試料に比べていずれも新しい値を示している。暦年較正年代 (1σ) を大きくまとめて見ると、 $350\text{cal BC} \sim 770\text{cal AD}$ 頃となり、弥生時代中期から古代頃に当たる。

L=1.06～1.4mの範囲で出土した木片では、No20062が $3250 \pm 30\text{yrBP}$ 、No20123が $5210 \pm 30\text{yrBP}$ 、No20134が $3280 \pm 30\text{yrBP}$ 、No20135が $3620 \pm 30\text{yrBP}$ である。No20123は、より下位で出土した木片に近い年代値であるが、その他の3点はある程度まとまっており、特にNo20062とNo20134は誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で一致する。暦年較正年代 (1σ) は、No20123を除いて3点をまとめると、 $2000 \sim 1500\text{cal BC}$ 頃で縄文時代後期頃に相当する。

L=0.40～0.77mの範囲から出土した木片は、No20093が $5180 \pm 30\text{yrBP}$ 、No20097が $5200 \pm$

30yrBP、No20102が5360 ± 30yrBP、No20116が5100 ± 30yrBPと、かなりまとまった値を示す。さらにほぼ同じレベルで検出された土坑SK33出土のNo20029が5070 ± 30yrBPで、これも近い値と言える。これらの暦年較正年代(1σ)を大きくまとめると4300～3800cal BC頃の範囲で、縄文時代前期頃に当たる。

レベルの記載がないNo20118の¹⁴C年代は4230 ± 30yrBP、暦年較正年代(1σ)は2898～2777cal BCの間に2つの範囲で示され、縄文時代中期後葉頃に当たる値である。

試料の炭素含有率は、土壌が約4～21%、木片が約50～70%程度で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-101310	Loc.1a-1	20・21-2区東側断面下部	土壌	HCl	-27.69 ± 0.5	5,380 ± 30	51.21 ± 0.2
IAAA-101311	Loc.1a-4	20・21-2区東側断面下部	土壌	HCl	-28.24 ± 0.35	5,180 ± 30	52.49 ± 0.2
IAAA-101312	Loc.1a-12	20・21-2区東側断面下部	土壌	HCl	-28.02 ± 0.33	4,290 ± 30	58.63 ± 0.22
IAAA-101313	Loc.1a-22	20・21-2区東側断面下部	土壌	HCl	-27.34 ± 0.42	3,450 ± 30	65.07 ± 0.22
IAAA-101314	Loc.1b-32・33・34	20・21-2区東側断面上部	土壌	HCl	-26.03 ± 0.5	2,320 ± 30	74.89 ± 0.25
IAAA-101315	Loc.1b-35・36	20・21-2区東側断面上部	土壌	HCl	-24.34 ± 0.6	2,400 ± 30	74.19 ± 0.26
IAAA-101316	Loc.1b-37・38・39	20・21-2区東側断面上部	土壌	HCl	-24.57 ± 0.49	2,630 ± 30	72.08 ± 0.24
IAAA-101317	No20070	湿地層(古代) L=約2.1～1.8m	木片	AAA	-25.7 ± 0.49	1,270 ± 30	85.36 ± 0.27
IAAA-101318	No20073	湿地層(古代) L=約2.4～2.0m	木片	AAA	-28.63 ± 0.48	1,440 ± 30	83.59 ± 0.27
IAAA-101319	No20141	湿地層(古墳～弥生) 緑黑色シルト L=約2.3m	木片	AAA	-25.01 ± 0.4	1,850 ± 30	79.44 ± 0.26
IAAA-101320	No20142	湿地層(弥生) 黒色シルト～緑 黒色シルト L=約2.3m	木片	AAA	-28.03 ± 0.33	2,150 ± 30	76.56 ± 0.25
IAAA-101321	No20156	湿地層(弥生) L=約2.39～2.20m	木片	AAA	-28.03 ± 0.49	2,200 ± 30	76.08 ± 0.25
IAAA-101322	No20029	土坑(SK33) L=約0.8m	木片	AAA	-22.78 ± 0.37	5,070 ± 30	53.22 ± 0.2
IAAA-101323	No20062	湿地層(縄文) 粘質シルト1より下 L=約1.4～1.2m	木片	AAA	-24.78 ± 0.61	3,250 ± 30	66.72 ± 0.24
IAAA-101324	No20123	湿地層(縄文) 粘質シルト1～ 粘質シルト2 L=約1.4～1.2m	木片	AAA	-28.63 ± 0.48	5,210 ± 30	52.26 ± 0.2
IAAA-101325	No20134	湿地層(縄文) 粘質シルト1 L=約1.25～1.06m	木片	AAA	-25.14 ± 0.46	3,280 ± 30	66.48 ± 0.24
IAAA-101326	No20135	湿地層(縄文) 粘質シルト1 L=約1.25～1.06m	木片	AAA	-22.93 ± 0.6	3,620 ± 30	63.68 ± 0.23
IAAA-101327	No20093	湿地層(縄文) 粘質シルト2の下 腐葉土層 L=約0.77～0.64m	木片	AAA	-29.69 ± 0.52	5,180 ± 30	52.45 ± 0.2
IAAA-101328	No20097	湿地層(縄文) 粘質シルト2の下 腐葉土層 L=約0.65～0.40m	木片	AAA	-27.05 ± 0.48	5,200 ± 30	52.34 ± 0.21
IAAA-101329	No20102	湿地層(縄文) 粘質シルト2の下 腐葉土層 L=約0.6～0.8m	木片	AAA	-25.13 ± 0.54	5,360 ± 30	51.31 ± 0.19
IAAA-101330	No20116	湿地層(縄文) 粘質シルト2の下 腐葉土層 L=約0.6～0.8m	木片	AAA	-24.46 ± 0.53	5,100 ± 30	53.02 ± 0.21
IAAA-101331	No20118	湿地層(縄文) 粘質シルト2の下 腐葉土層	木片	AAA	-26.58 ± 0.4	4,230 ± 30	59.08 ± 0.21

[#3781]

表 2 (1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-101310	5,420 \pm 30	50.93 \pm 0.19	5,375 \pm 31	4325calBC - 4287calBC (25.4%) 4269calBC - 4230calBC (30.9%) 4196calBC - 4174calBC (12.0%)	4331calBC - 4224calBC (64.3%) 4207calBC - 4157calBC (18.0%) 4131calBC - 4067calBC (13.2%)
IAAA-101311	5,230 \pm 30	52.14 \pm 0.2	5,177 \pm 31	4037calBC - 4022calBC (16.9%) 3994calBC - 3962calBC (51.3%)	4044calBC - 3952calBC (95.4%)
IAAA-101312	4,340 \pm 30	58.26 \pm 0.22	4,289 \pm 30	2914calBC - 2889calBC (68.2%)	3011calBC - 2979calBC (4.8%) 2956calBC - 2952calBC (0.3%) 2941calBC - 2876calBC (90.2%)
IAAA-101313	3,490 \pm 30	64.76 \pm 0.22	3,451 \pm 27	1871calBC - 1846calBC (17.1%) 1811calBC - 1804calBC (3.8%) 1776calBC - 1736calBC (34.6%) 1713calBC - 1694calBC (12.7%)	1879calBC - 1838calBC (21.9%) 1830calBC - 1689calBC (73.5%)
IAAA-101314	2,340 \pm 30	74.73 \pm 0.24	2,322 \pm 27	403calBC - 386calBC (68.2%)	477calBC - 473calBC (0.2%) 415calBC - 358calBC (92.7%) 279calBC - 257calBC (2.5%)
IAAA-101315	2,390 \pm 30	74.29 \pm 0.24	2,398 \pm 27	510calBC - 436calBC (52.2%) 425calBC - 404calBC (16.0%)	726calBC - 693calBC (5.8%) 541calBC - 397calBC (89.6%)
IAAA-101316	2,620 \pm 30	72.15 \pm 0.23	2,629 \pm 26	813calBC - 794calBC (68.2%)	832calBC - 782calBC (95.4%)
IAAA-101317	1,280 \pm 20	85.24 \pm 0.25	1,271 \pm 25	688calAD - 724calAD (37.1%) 740calAD - 771calAD (31.1%)	668calAD - 780calAD (95.0%) 795calAD - 798calAD (0.4%)
IAAA-101318	1,500 \pm 30	82.97 \pm 0.26	1,440 \pm 26	602calAD - 644calAD (68.2%)	573calAD - 652calAD (95.4%)
IAAA-101319	1,850 \pm 30	79.44 \pm 0.25	1,848 \pm 26	129calAD - 214calAD (68.2%)	86calAD - 110calAD (7.9%) 117calAD - 237calAD (87.5%)
IAAA-101320	2,200 \pm 30	76.08 \pm 0.25	2,145 \pm 26	346calBC - 321calBC (15.8%) 206calBC - 161calBC (44.1%) 133calBC - 118calBC (8.3%)	354calBC - 293calBC (24.1%) 230calBC - 219calBC (1.8%) 213calBC - 92calBC (68.9%) 68calBC - 61calBC (0.6%)
IAAA-101321	2,250 \pm 30	75.61 \pm 0.24	2,195 \pm 26	356calBC - 286calBC (47.1%) 234calBC - 202calBC (21.1%)	366calBC - 186calBC (95.4%)
IAAA-101322	5,030 \pm 30	53.47 \pm 0.19	5,066 \pm 29	3943calBC - 3909calBC (21.3%) 3879calBC - 3802calBC (46.9%)	3954calBC - 3795calBC (95.4%)
IAAA-101323	3,250 \pm 30	66.75 \pm 0.22	3,250 \pm 28	1605calBC - 1584calBC (11.8%) 1536calBC - 1492calBC (45.3%) 1479calBC - 1458calBC (11.1%)	1609calBC - 1452calBC (95.4%)

表 2 (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-101324	5,270 \pm 30	51.87 \pm 0.19	5,213 \pm 31	4041calBC - 4012calBC (36.9%) 4004calBC - 3978calBC (31.3%)	4221calBC - 4212calBC (1.1%) 4153calBC - 4134calBC (2.6%) 4056calBC - 3961calBC (91.7%)
IAAA-101325	3,280 \pm 30	66.46 \pm 0.23	3,280 \pm 28	1608calBC - 1570calBC (32.8%) 1561calBC - 1518calBC (35.4%)	1627calBC - 1495calBC (95.4%)
IAAA-101326	3,590 \pm 30	63.95 \pm 0.22	3,624 \pm 29	2026calBC - 1948calBC (68.2%)	2121calBC - 2095calBC (5.3%) 2041calBC - 1897calBC (90.1%)
IAAA-101327	5,260 \pm 30	51.95 \pm 0.19	5,183 \pm 30	4037calBC - 4022calBC (19.5%) 3994calBC - 3965calBC (48.7%)	4043calBC - 3957calBC (95.4%)
IAAA-101328	5,230 \pm 30	52.12 \pm 0.2	5,199 \pm 31	4039calBC - 4017calBC (29.8%) 3999calBC - 3971calBC (38.4%)	4051calBC - 3956calBC (95.4%)
IAAA-101329	5,360 \pm 30	51.3 \pm 0.19	5,360 \pm 30	4318calBC - 4296calBC (11.1%) 4263calBC - 4228calBC (24.9%) 4202calBC - 4169calBC (20.7%) 4128calBC - 4119calBC (3.7%) 4095calBC - 4078calBC (7.8%)	4326calBC - 4285calBC (15.9%) 4270calBC - 4221calBC (27.9%) 4211calBC - 4151calBC (26.9%) 4134calBC - 4055calBC (24.7%)
IAAA-101330	5,090 \pm 30	53.08 \pm 0.2	5,096 \pm 31	3958calBC - 3937calBC (17.8%) 3872calBC - 3810calBC (50.4%)	3966calBC - 3895calBC (37.0%) 3881calBC - 3800calBC (58.4%)
IAAA-101331	4,250 \pm 30	58.89 \pm 0.2	4,227 \pm 28	2898calBC - 2868calBC (46.1%) 2804calBC - 2777calBC (22.1%)	2906calBC - 2858calBC (52.6%) 2811calBC - 2751calBC (36.4%) 2723calBC - 2701calBC (6.5%)

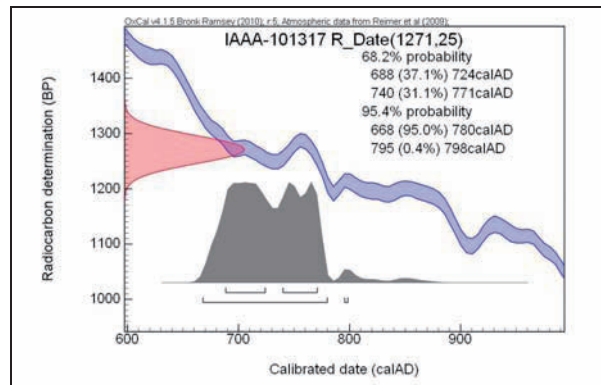
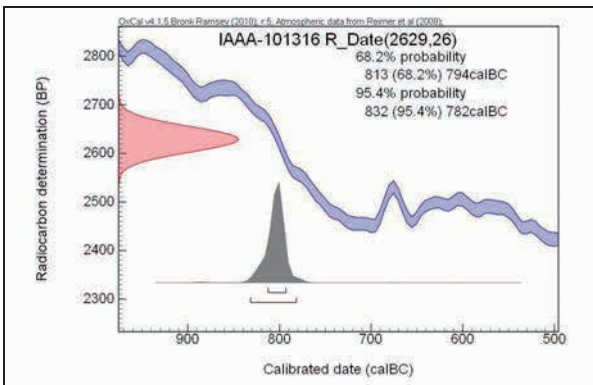
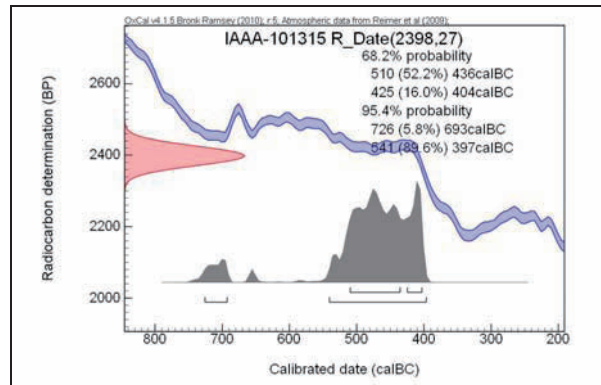
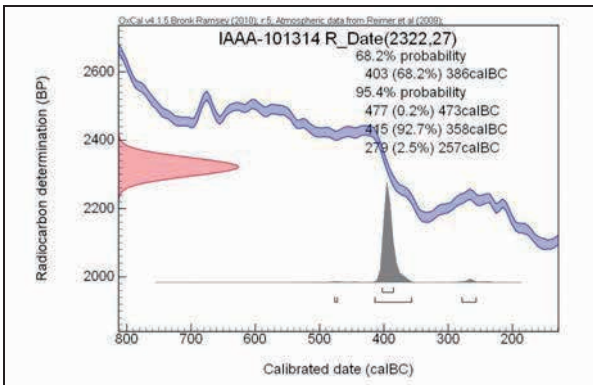
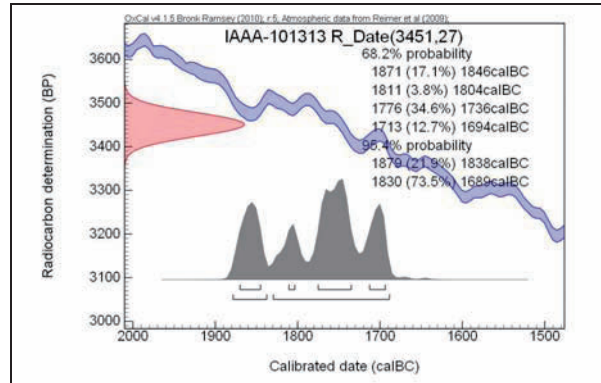
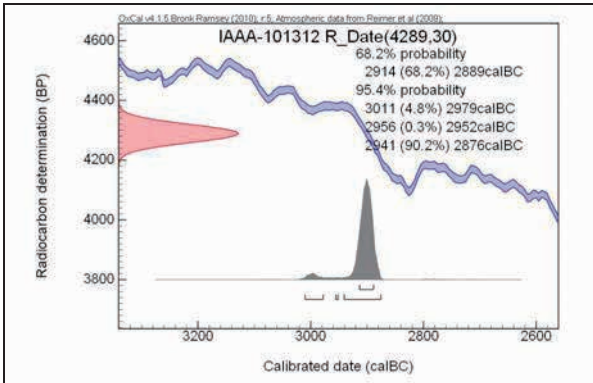
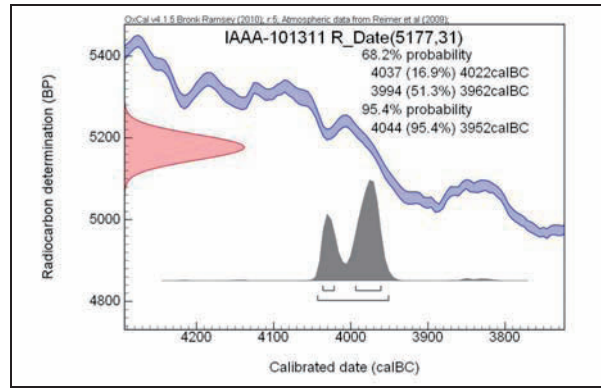
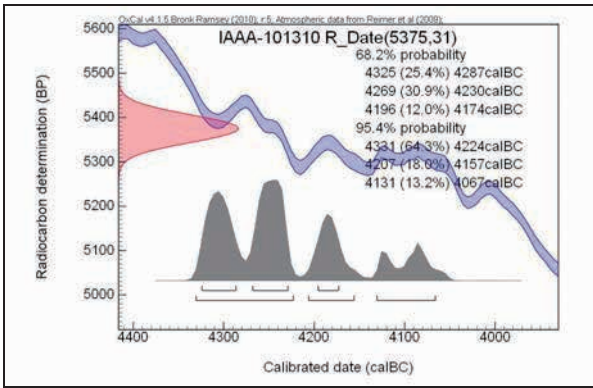
〔参考値〕

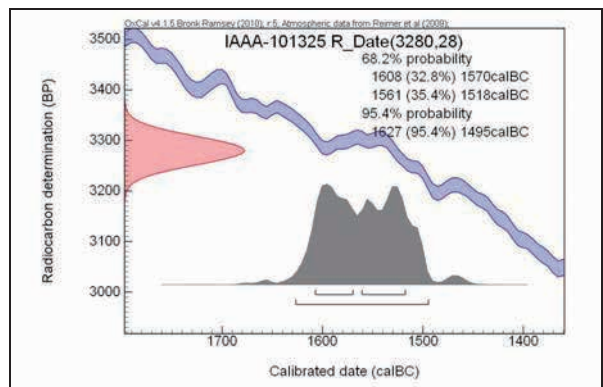
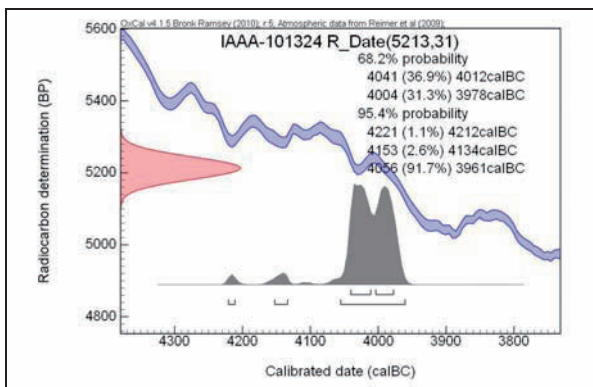
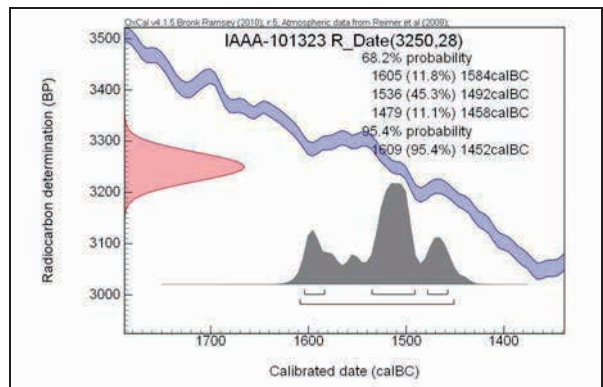
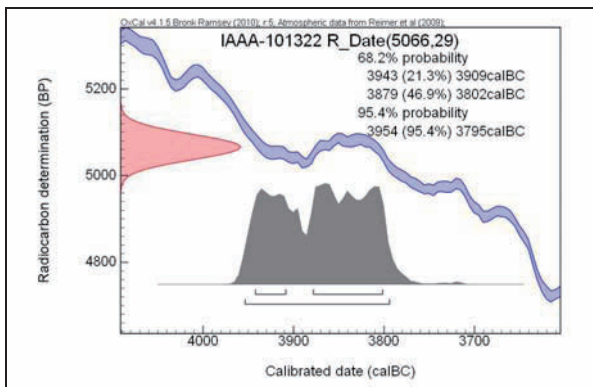
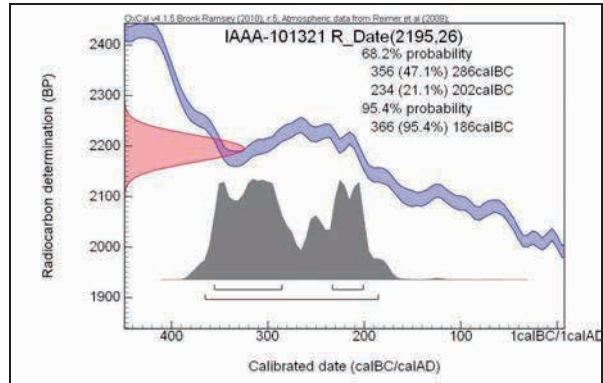
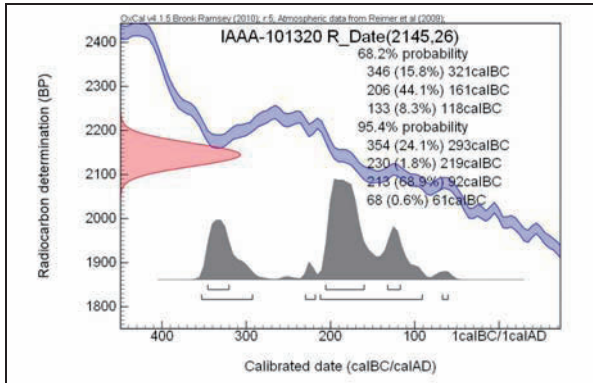
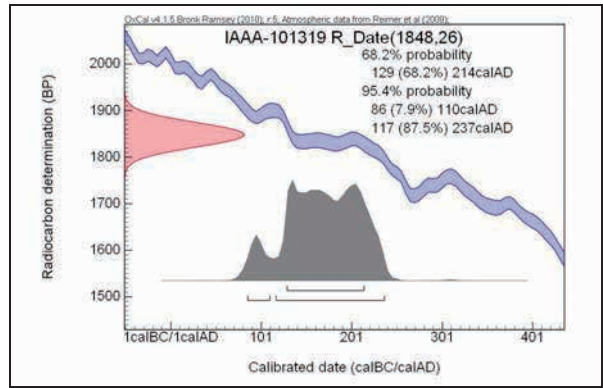
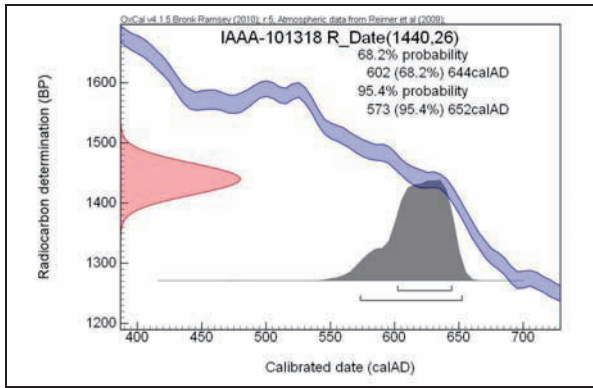
文献

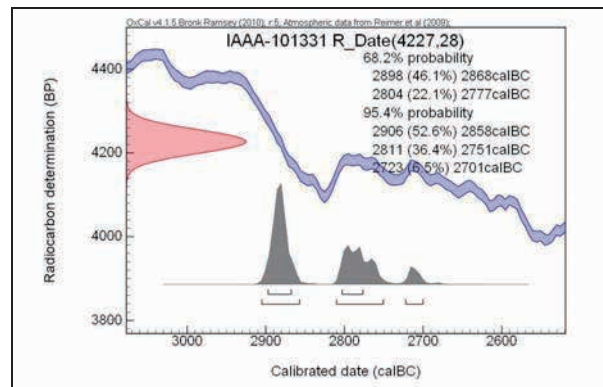
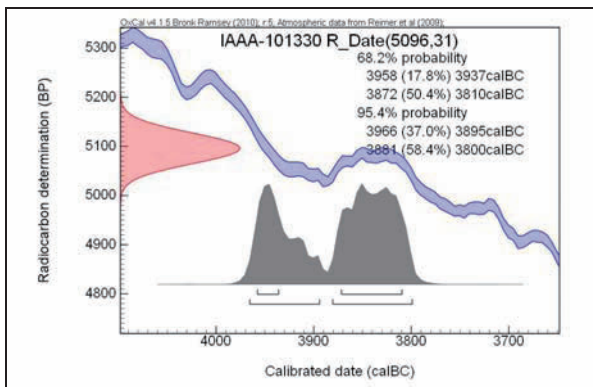
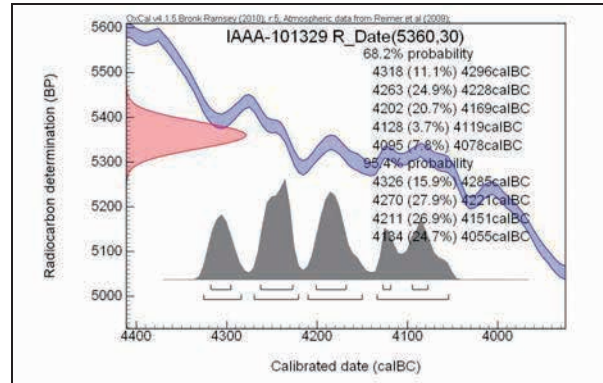
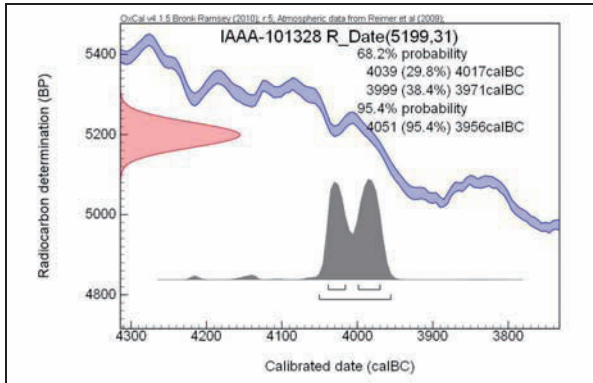
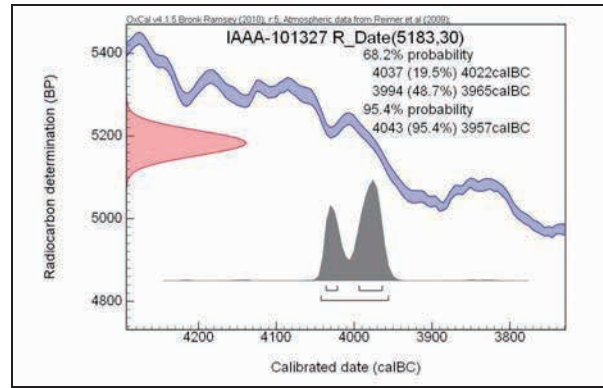
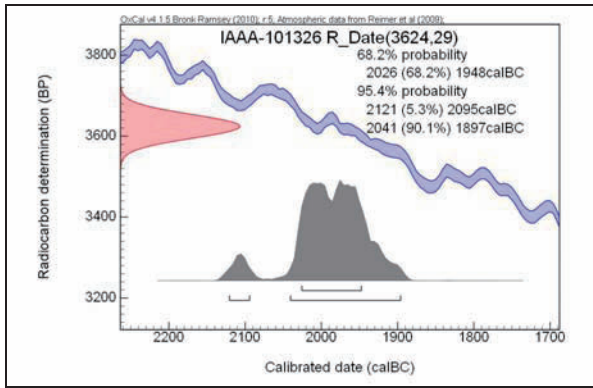
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150







[参考] 暦年較正年代グラフ

田ノ浦遺跡の自然科学分析

(株) 加速器分析研究所

はじめに

田ノ浦遺跡は、山口県上関町長島に所在する。発掘調査により、縄文時代～平安時代にかけての遺物包含層や土坑等の遺構が確認されている。

今回の分析調査では、遺跡より採取された土壌や種実・木材などの植物遺物を対象に、古環境推定を目的として珪藻分析、花粉分析、種実遺体分析・種実同定・葉同定、樹種同定を実施する。また、黒色硬化土壌の由来を検討するため、蛍光X線分析と薄片作製・鑑定を実施する。なお、現時点では、堆積層の詳細な年代および遺物の出土状況に関する情報が不足しているため、これらの情報を含めた解析は稿を改めて行う。

I. 古環境と植物資源利用

1. 試料

(1) 珪藻分析・花粉分析

試料は、Loc.1a 20・21-2区の東断面下部より採取された試料番号1～30と、Loc.1b 20・21-2区の東断面上部より採取された試料番号31～50の、土壌計50点である。試料番号1～26は縄文時代の遺物包含層、試料番号27～30は縄文～弥生の遺物包含層、試料番号31～40は弥生～古墳(主として弥生)の遺物包含層、試料番号41～43は古代の遺物包含層、試料番号44～50は古代～中世(主として古代)の遺物包含層である。

(2) 種実・葉同定

試料は、Loc.1a 20・21-2区東断面下部より採取された堆積物7点(試料番号2・3、4、5・6、7・8、9、12-14、18-20)と、各遺構から出土したどんぐり類主体の種実遺体単体試料36点、葉同定試料8点である。堆積物の試料番号は、珪藻分析および花粉分析の試料番号と同様である。堆積物については、水洗選別を実施した上で同定を行う。

(3) 樹種同定

試料は、出土した自然木など33点である。No20036、No20117、No20121には、それぞれ3点の木材が認められたため、形状・径等を記録した上で枝番号を付して採取した。このうち、No20029、No20110の2点は、表面が完全に炭化していたため、炭化部分を試料として採取している。

2. 分析方法

(1) 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法(4時間放置)の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学

顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料はこの限りではないが、全面を走査する)。分類群の同定は、原口ほか(1998)、Krammer(1992)、Krammer & Lange-Bertalot(1986,1988,1991a,1991b)、渡辺ほか(2005)、小林ほか(2006)などを参照し、分類基準はRound *et al.*(1990)に、壊れた珪藻殻の計数基準は柳沢(2000)に従う。

同定結果は、中心類(Centric diatoms; 広義のコアミケイソウ綱Coccosinodiscophyceae)と羽状類(Pennate diatoms)に分け、羽状類は無縦溝羽状珪藻類(Araphid pennate diatoms; 広義のオビケイソウ綱Fragilariophyceae)と有縦溝羽状珪藻類(Raphid pennate diatoms; 広義のクサリケイソウ綱Bacillariophyceae)に分ける。また、有縦溝類は、単縦溝類、双縦溝類、管縦溝類、翼管縦溝類、短縦溝類に細分する。

各分類群の生態性については、Vos & de Wolf(1993)を参考とするほか、塩分濃度に対する区分はLowe(1974)に従い、真塩性種(海水生種)、中塩性種(汽水生種)、貧塩性種(淡水生種)に類別する。また、貧塩性種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度(pH)・流水に対する適応能についても示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率5.0%以上の種類について主要珪藻化石群集の層位分布図を作成するほか、淡水生種の生態性についても100個体以上の試料について図示する。また、産出化石が現地性を判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析にあたり、海水生種(真塩性種)～汽水生種(中塩性種)については小杉(1988)、淡水生種(貧塩性種)については安藤(1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内(1991)、汚濁耐性については渡辺ほか(2005)の環境指標種を参考とする。

(2) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛、比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9:濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての分類群について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

(3) 種実・葉同定

土壌試料中から植物遺体を分離するために、一定容量(100cc、試料番号18-20は50cc)の土壌を水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、同定が可能な種実や葉などの大型植物遺体を抽出する。

種実や葉の同定は、現生標本と石川(1994)、中山ほか(2000)、岡本(1973)、伊藤(2001)、徳永

(2004)、濱野(2005)等との対照より実施し、個数を数えて一覧表で示す。一部は容量を併記する。種実以外の抽出物は一覧表の下部に一括してまとめ、プラスで表示する。分析後は、種実遺体を70%程度のエタノール溶液を入れた容器中で保存する。葉は、透明なフィルム(エスカル：三菱ガス化学株式会社製)に挟んで保管する。

(4) 樹種同定

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。炭化部分を試料とした2点は、自然乾燥させた後、3断面の割断面を作製して実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。各試料の観察で確認された特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して分類群を同定する

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3. 結果

(1) 珪藻分析

結果を表1、2、図1、2に示す。珪藻化石の産出頻度は、Loc.1bの試料番号47～50の4試料が少なかったほかは豊富に産出する。産出分類群数は、合計で56属236分類群である。以下、地点ごとに述べる。

・ Loc.1a 20・21-2区東断面下部

Loc.1aでは、珪藻化石群集の消長に注目すると、試料番号1～8、9～10、11～12、13～30で違いが認められる。試料番号1～8は、止水性で偶来性浮遊性種(普段は、水生植物などに付着して生育しているが、波等の物理的な影響を受けて基物から剥離した後は浮遊生活を営む種)の*Pseudostaurosira brevistriata*、*Staurosira venter*が優占することで特徴付けられる。

試料番号9～10は、陸生珪藻B群であり好汚濁性種(有機汚濁の進んだ腐水域に生息する種)でもある*Diadismis confervacea*、前試料で優占した止水性で偶来性浮遊性種の*Pseudostaurosira brevistriata*、*Staurosira venter*が多産する。

試料番号11～12は、流水不定性で沼沢湿地付着生種(沼よりも浅く水深が1m前後で一面に水生植物が繁茂している沼沢や更に水深の浅い湿地で優勢な出現の見られる種)の*Eunotia minor*、流水不定性で付着性の*Gomphonema parvulum*が多産する。

試料番号13～30は、全般的に見ると陸生珪藻B群であり好汚濁性種でもある*Diadismis confervacea*が優占あるいは多産することで特徴付けられる。これに付随して、流水不定性で沼沢湿地付着生種の*Eunotia minor*、流水不定性で付着性の*Gomphonema parvulum*、*Pinnularia brevicostata*、好止水性で付着性の*Pinnularia acrosphaeria*、*Gomphonema gracile*、好流水性で中～下流性河川指

表 1.Loc.1a 20・21-2 区 東断面下部の珪藻分析結果 (3)

分類群	生態性		環境																																		
	塩分	pH	流水	指標種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
<i>Caloneis tenuis</i> (Greg.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	U																																	
<i>Caloneis truncatula</i> (Grunow)	Ogh-ind	al-li	ind	U		1																															
<i>Diatomella baifouriana</i> (W.Smith)Greville	Ogh-ind	ind	ind	RB																																	
<i>Pinnularia elegans</i> (W.Smith)Krammer	Euh-Meh	ind	ind	RB																																	
<i>Pinnularia acroplicata</i> W.Smith	Ogh-ind	al-li	l-ph	O																																	
<i>Pinnularia anglica</i> Krammer	Ogh-ind	ac-il	ind	T																																	
<i>Pinnularia borealis</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA,U																																	
<i>Pinnularia brauniana</i> (Grun.)Mills	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	P,U																																	
<i>Pinnularia brevicostata</i> Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind																																		
<i>Pinnularia cf. dactylus</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	l-ph																																		
<i>Pinnularia divergens</i> W.Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph																																		
<i>Pinnularia gentilis</i> (Donkin)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-bi																																		
<i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O,U																																	
<i>Pinnularia lundii</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	l-ph																																		
<i>Pinnularia maclintata</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph																																		
<i>Pinnularia mayeri</i> Krammer	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	S																																	
<i>Pinnularia microstauron</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S																																	
<i>Pinnularia neomajor</i> Krammer	Ogh-hob	ac-il	l-bi																																		
<i>Pinnularia nobilis</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph																																		
<i>Pinnularia nodosa</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O																																	
<i>Pinnularia ornata</i> H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph																																		
<i>Pinnularia rupestris</i> Hantzsch	Ogh-hob	ac-il	ind	O																																	
<i>Pinnularia ruttneri</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph																																		
<i>Pinnularia schoenfelderi</i> Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RB																																	
<i>Pinnularia stomatophora</i> (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind																																		
<i>Pinnularia streptoragha</i> Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph																																		
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S																																	
<i>Pinnularia subcapitata</i> var. <i>paucistriata</i> (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	U																																	
<i>Pinnularia subglobba</i> Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind																																		
<i>Pinnularia subglobba</i> var. <i>undulata</i> Krammer	Ogh-ind	ac-il	ind																																		
<i>Pinnularia subnodosa</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph																																		
<i>Pinnularia subrupestris</i> Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind																																		
<i>Pinnularia substomatophora</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph																																		
<i>Pinnularia sudetica</i> (Hise)M.Peragallo	Ogh-hob	ac-il	l-ph																																		
<i>Pinnularia ueno</i> Skvortzov	Ogh-hob	ac-il	l-ph																																		
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O,U																																	
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk																																		
<i>Fallacia tenera</i> (Hust.)D.G.Mann	Ogh-Meh	al-li	ind	S																																	
<i>Sellophora americana</i> (Ehr.)Mann	Ogh-ind	al-li	l-ph	U																																	
<i>Sellophora laevisima</i> (Kuetz.)Mann	Ogh-ind	ind	ind	U																																	
<i>Sellophora pupula</i> (Kuetz.)Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S																																	
<i>Sellophora pupula</i> var. <i>subcapitata</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	S																																	
<i>Sellophora seminulum</i> (Grun.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-li	ind	RB,S																																	
管絨藻類																																					
<i>Bacillaria paxillifer</i> (O.F.Mull.)Hendey	Ogh-Meh	al-li	l-ph	U																																	
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RA,U																																	
<i>Nitzschia scalaris</i> (Ehr.e.p.)W.Smith	Euh-Meh	ind	ind																																		
<i>Nitzschia sigma</i> (Kuetz.)W.Smith	Euh-Meh	ind	ind	EZ																																	
<i>Nitzschia lorentziana</i> Grunow	Meh	ind	ind	EZ																																	
<i>Nitzschia brevisima</i> Grunow	Ogh-Meh	al-li	ind	U																																	
<i>Nitzschia palea</i> (Kuetz.)W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S																																	
<i>Nitzschia amphibia</i> Grunow	Ogh-ind	al-li	ind	S																																	
<i>Nitzschia hantzschiana</i> (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S																																	
<i>Nitzschia linearis</i> (W.Smith)W.Smith	Ogh-ind	al-bi	r-bi	U																																	
<i>Nitzschia palustris</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	U																																	
<i>Nitzschia terrestris</i> (Pat.)Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI																																	
<i>Nitzschia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk																																		
<i>Tryblionella hungarica</i> (Grunow)D.G.Mann	Meh	unk	unk	EI																																	

表 1.Loc.1a 20・21 - 2 区 東断面下部の珪藻分析結果 (4)

分類群	生態性		環境																																
	塩分	pH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
<i>Tryblionella plana</i> (W.Sm.)Pelletan	Meh																																		
<i>Tryblionella debilis</i> Arnott	Ogh-ind	al-il																																	
<i>Epithemia turgida</i> (Ehr.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	4																																
<i>Rhopalodia musculus</i> (Kuetz.)O.Muller	Meh	al-il																																	
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.)O.Muller	Ogh-Meh	al-il																																	
<i>Epithemia adnata</i> (Kuetz.)Brebisson	Ogh-ind	al-il	1	3																															
<i>Rhopalodia gibba</i> (Ehr.)O.Muller	Ogh-ind	al-il	1	1																															
<i>Rhopalodia gibba</i> var. <i>ventricosa</i> (Kuetz.)H.&M.Perey	Ogh-ind	al-il																																	
翼管藻類																																			
<i>Sunirella angusta</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il																																	
<i>Sunirella robusta</i> Ehrenberg	Ogh-hob	al-il																																	
短鞭藻類																																			
<i>Eunotia bilunaris</i> (Ehr.)Mills	Ogh-hob	ac-bi																																	
<i>Eunotia faba</i> (Ehr.)Grunow	Ogh-hob	ac-il																																	
<i>Eunotia implicata</i> Neespe & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il																																	
<i>Eunotia incisa</i> W.Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il																																	
<i>Eunotia minor</i> (Kuetz.)Grunow	Ogh-hob	ac-il	1	1																															
<i>Eunotia monodon</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	1	1																															
<i>Eunotia naegelii</i> Migula	Ogh-hob	ac-bi																																	
<i>Eunotia parallela</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il																																	
<i>Eunotia praerupta</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il																																	
<i>Eunotia praerupta</i> var. <i>bidens</i> (Ehren.)Grunow	Ogh-hob	ac-il																																	
<i>Eunotia</i> spp.	Ogh-unk	unk																																	
海水生種			0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
海水～汽水生種			3	1	0	0	1	1	1	3	5	3	0	4	6	2	0	0	2	5	8	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種			7	3	5	1	5	1	1	1	3	5	7	3	14	5	9	13	23	15	20	13	3	1	2	14	3	2	1	1	6	3			
淡水生種			6	5	2	3	1	3	5	5	13	5	9	1	5	0	1	3	4	4	5	1	3	5	0	1	2	4	2	0	2	1			
珪藻化石総数			228	232	215	213	221	208	197	208	198	193	189	197	182	91	195	186	173	184	175	81	199	201	198	189	198	194	195	200	199	193			
			244	241	222	217	228	214	204	215	217	208	208	201	205	102	207	202	202	205	205	103	207	208	202	205	203	200	200	204	212	201			

凡例
 H.R.: 塩分濃度に対する適応性
 Euh : 海水生種
 Meh : 海水生種 - 汽水生種
 Ogh : 汽水生種
 Ogh-hil : 貧塩好塩性種
 Ogh-ind : 貧塩不定性種
 Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種
 Ogh-unk : 貧塩不明種
 珪藻指標種群
 A: 外洋指標種, B: 内湾指標種, D1: 海水砂質干潟指標種, E1: 海水泥質干潟指標種, E2: 汽水泥質干潟指標種(以上は小杉,1988)
 J: 上流性河川指標種, K: 中～下流性河川指標種, L: 最下流性河川指標種, M: 湖沼沼沢性種, N: 湖沼沼沢性種(以上はAsai & Watanabe,1995)
 S: 好汚濁性種, U: 広域適応性種, T: 好清水性種(以上はAsai & Watanabe,1995)
 R: 陸生珪藻(RAA群, RB-B群, RI: 未区分、伊藤・堀内,1991)

表2.Loc.1b 20・21-2区 東断面上部の珪藻分析結果(1)

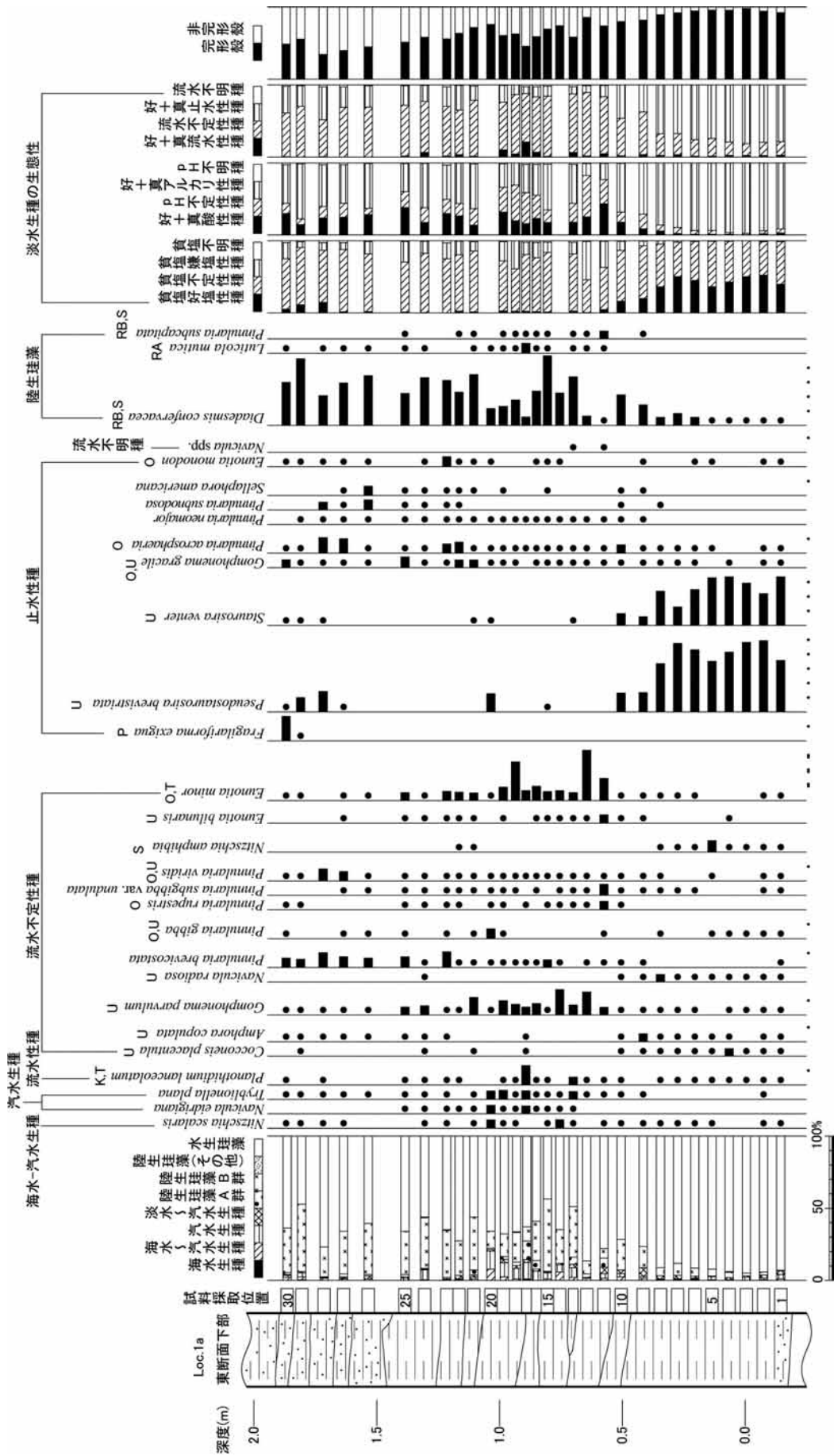
分類群	生態性		環境指標種		生態性																			
	塩分	pH	流水	指標種	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
Bacillariophyta(珪藻植物門)																								
Centric Diatoms(中心型珪藻類)																								
<i>Aulacoseira ambigua</i> (Grun.)Simonsen	Ogh-ind	al-ii	l-bi	NU	-	-	-	-	-	1	8	2	1	-	8	16	9	-	-	-	-	-	-	-
<i>Aulacoseira crassipunctata</i> Krammer	Ogh-ind	ac-ii	l-ph		-	-	-	-	31	72	27	20	13	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Paralia sulcata</i> (Ehr.)Cleve	Euh		B		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cyclotella striata</i> - <i>C. stylorum</i>	Ogh-Meh				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cyclotella meneghiniana</i> Kuetzing	Ogh-Meh	al-ii	l-ph	L.S	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Araphid Pennate Diatoms(無縱溝羽狀珪藻類)																								
<i>Fragilaria perminuta</i> (Grun.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-ii	ind		-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilariforma exigua</i> (Grun.)D.M.Williams & Round	Ogh-hob	ac-ii	l-ph	P	9	6	1	-	-	-	-	6	-	22	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Meridion constrictum</i> Ralfs	Ogh-ind	al-ii	r-bi	K.T	-	-	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pseudostaurisira brevisirata</i> (Grun.)Williams & Round	Ogh-hil	al-ii	l-ph		33	-	1	-	-	-	-	1	-	15	20	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Punctastriata linearis</i> D.M.Williams et Round	Ogh-ind	al-ii	l-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Staurisira construens</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-ii	l-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Staurisira venter</i> (Ehren.)H.Kobayasi	Ogh-ind	al-ii	l-ph	U	16	1	-	-	-	-	-	1	-	14	18	5	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Staurisirella pinnata</i> (Ehr.)Williams & Round	Ogh-ind	al-ii	l-ph	U	1	-	2	1	1	2	1	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Synedrella parasitica</i> (W.Smith)Round	Ogh-ind	al-ii	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ulnaria lanceolata</i> (Kuetzing)Compere	Ogh-ind	al-ii	r-bi	J.K.T	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ulnaria ulna</i> (Nitzsch)Compere	Ogh-ind	al-ii	ind		2	7	2	-	3	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Thalassionema mitschkoizoides</i> (Grun.)Grunow	Euh			AB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Raphid Pennate Diatoms(有縱溝羽狀珪藻類)																								
Monoraphid Pennate Diatoms(單縱溝羽狀珪藻類)																								
<i>Achnanthes coarctata</i> (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes inflata</i> (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Karayevia clevei</i> (Grun.)Round et Bukhtiyarova	Ogh-ind	al-ii	l-ph	T	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Planctothidium lanceolatum</i> (Breb. ex Kuetz.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	r-ph	K.T	-	-	13	-	2	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Planctothidium rostratum</i> (Oestrup)Round et Bukhtiyarova	Ogh-ind	al-ii	r-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Psammothidium montanum</i> (Krasske)Mayama	Ogh-ind	ind	ind	Ri,T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnantheidium exiguum</i> (Grunow)Czarnecki	Ogh-ind	al-ii	ind	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnantheidium lapidosum</i> (Krasske)H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph	T	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis euglypta</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-ii	r-ph	T	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis lineata</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-ii	r-ph	T	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis placentula</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-ii	ind	U	1	1	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Biraphid Pennate Diatoms(双縱溝羽狀珪藻類)																								
<i>Amphora copulata</i> (Kuetz.)Schoeman et R.E.M.Archibald	Ogh-ind	al-ii	ind	U	4	4	4	2	4	5	8	16	14	25	18	13	13	1	-	-	-	-	-	-
<i>Amphora fontinalis</i> Hustedt	Ogh-ind	al-ii	ind		-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Amphora normanii</i> Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella amphicephala</i> Naegeli	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella aspera</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-ii	ind	O	-	11	9	24	1	5	-	2	2	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella cuspidata</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	T	-	12	1	-	-	-	1	-	-	1	2	1	9	-	-	-	-	-	-	1
<i>Cymbella tumida</i> (Breb.)Van Heurck	Ogh-ind	al-ii	ind	T	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2
<i>Cymbobolera naviculiformis</i> (Auerswald)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	O.U	-	2	1	-	4	1	2	7	10	6	4	9	15	-	-	-	-	-	-	-
<i>Encyonema mesianum</i> (Kholnoky)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	1	-	-	-	-	1	-	1	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Encyonema siloesiacum</i> (Bleisch)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	13	1	1	2	6	1	-	3	-	5	9	4	5	-	-	-	-	-	-	1
<i>Placoneis eigmensis</i> (Greg.)E.J.Cox	Ogh-ind	al-ii	ind	O.U	-	3	4	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Placoneis eigmensis</i> var. <i>neglecta</i> (Krasske)H.Kobayasi	Ogh-ind	al-ii	r-ph	U	-	4	-	2	-	-	-	-	-	4	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Placoneis gastrum</i> (Ehrenb.)Mereschkowsky	Ogh-ind	al-ii	l-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	7	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-ii	l-ph	O.U	17	1	1	-	2	-	5	8	9	5	12	8	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Gomphonema insigne</i> Gregory	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema parvulum</i> (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	5	1	2	2	5	3	5	8	4	6	3	9	3	-	-	-	-	-	-	1
<i>Gomphonema pseudoaurum</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-ii	ind	S	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表2.1.oc.1b 20・21 - 2区 東断面上部の珪藻分析結果(2)

分類群	生態性		環境																						
	塩分	pH	流水	指標種	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	
<i>Gomphonema pumilum</i> (Grun.)Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-ii	ind																						
<i>Gomphonema subclavatum</i> (Grun.)Grunow	Ogh-ind	al-ii	ind	U				1																	
<i>Gomphonema subtile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-ii	ind					4						2		2									
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse)Cleve	Ogh-ind	al-ii	ind	T	1	8	24	5	8	5	10	11	26	14	17	9	5								
<i>Diploneis parma</i> Cleve	Ogh-ind	ind	l-ph		2	9	5	2	2	5	6	16	19	20	5	5	13								
<i>Diploneis yatuikaensis</i> Horikawa et Okuno	Ogh-ind	ind	l-ph	RI			4					1	1	1	1										
<i>Hipocodonta hungarica</i> (Grun.)Lange-Bertalot et al.	Ogh-Meh	al-ii	ind	U																					
<i>Navicula bryophila</i> J.B.Petersen	Ogh-ind	al-ii	ind	RI,U																					
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>curvata</i> HKobayasi	Ogh-ind	al-ii	ind				1																		
<i>Navicula placenta</i> fo. <i>obtusa</i> Meister	Ogh-ind	al-ii	ind																						
<i>Navicula radiosa</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-ii	ind	U																					
<i>Navicula aff. recens</i> Lange-Bertalot	Ogh-unk	unk	unk																						
<i>Navicula rostellata</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-ii	r-ph	K,U										2	3	6	1								
<i>Navicula slesvicensis</i> Grunow	Ogh-ind	al-ii	ind	T																					
<i>Navicula spp.</i>	Ogh-unk	unk	unk																						
<i>Gyrosigma nodiferum</i> (Grun.)G.West	Ogh-Meh	al-ii	ind																						
<i>Gyrosigma procerum</i> Hustedt	Ogh-ind	al-ii	ind	U																					
<i>Craticula ambigua</i> (Ehr.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-ii	ind	S																					
<i>Craticula cuspidata</i> (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-ii	ind	S																					
<i>Craticula perrotettii</i> Grunow	Ogh-ind	al-ii	ind																						
<i>Stauroneis acuta</i> W.Smith	Ogh-ind	al-ii	l-ph		1	4	4	2	2																
<i>Stauroneis anceps</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T																					
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O,U	1	2			5	1	6	3	3	1	2										
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> fo. <i>hattorii</i> Tsumura	Ogh-ind	ind	ind	O	2	4	1																		
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> var. <i>signata</i> Meister	Ogh-ind	ind	ind																						
<i>Stauroneis smithii</i> Grunow	Ogh-ind	al-ii	ind	U																					
<i>Stauroneis spp.</i>	Ogh-unk	unk	unk																						
<i>Frustula vulgaris</i> (Thwait.)De Toni	Ogh-ind	al-ii	ind	U																					
<i>Diadesmis biceps</i> Arnott ex Grunow in Van Heurck	Ogh-ind	al-ii	ind					2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Diadesmis confervacea</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-ii	ind	R,A,T																					
<i>Diadesmis contorta</i> (Grun.)ex Van Heurck;D.G.Mann	Ogh-ind	al-ii	ind	R,B,S	22	4	5		3	4		1	1	2	2										
<i>Luticola mutica</i> (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-ii	ind	R,A,T																					
<i>Luticola ventricosa</i> (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-ii	ind	R,A,S																					
<i>Neidium ampliatum</i> (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ac-ii	l-ph	RI,U																					
<i>Neidium dubium</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-ii	ind		4				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Neidium iridis</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-ii	ind	O,U	1	1																			
<i>Neidium tokyoensis</i> HKobayasi	Ogh-hob	ac-ii	ind		6				1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Caloneis angustivalva</i> Boye P.	Ogh-ind	ind	ind																						
<i>Caloneis bacillum</i> (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-ii	l-ph	RI																					
<i>Caloneis leptosoma</i> Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-ii	l-ph	U																					
<i>Caloneis minuta</i> (Grunow)Ohtsuka et Fujita	Ogh-ind	al-ii	ind	RB	2				1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-ii	ind		5																				
<i>Caloneis tenuis</i> (Greg.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	U																					
<i>Caloneis truncatula</i> (Grunow)	Ogh-ind	al-ii	ind	U	1																				
<i>Diatomella balfouriana</i> (W.Smith)Greville	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	4																			
<i>Pinnularia acrosphaeria</i> W.Smith	Ogh-ind	al-ii	l-ph	O	2	10	3	8	25	6	8	10	15	11	5	2	10								
<i>Pinnularia acrosphaeria</i> var. <i>undulata</i> Skvortzow	Ogh-ind	al-ii	l-ph	O	3	3																			
<i>Pinnularia anglica</i> Krammer	Ogh-hob	ac-ii	ind	T																					
<i>Pinnularia appendiculata</i> (Ag.)Cleve	Ogh-hob	ind	ind	RB																					
<i>Pinnularia borealis</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA,U																					
<i>Pinnularia brauniana</i> (Grun.)Mills	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	P,U																					
<i>Pinnularia brevissonii</i> (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U																					
<i>Pinnularia brevicostata</i> Cleve	Ogh-ind	ac-ii	ind		9	14	4	17	28	11	8	6	7	3	4	3									

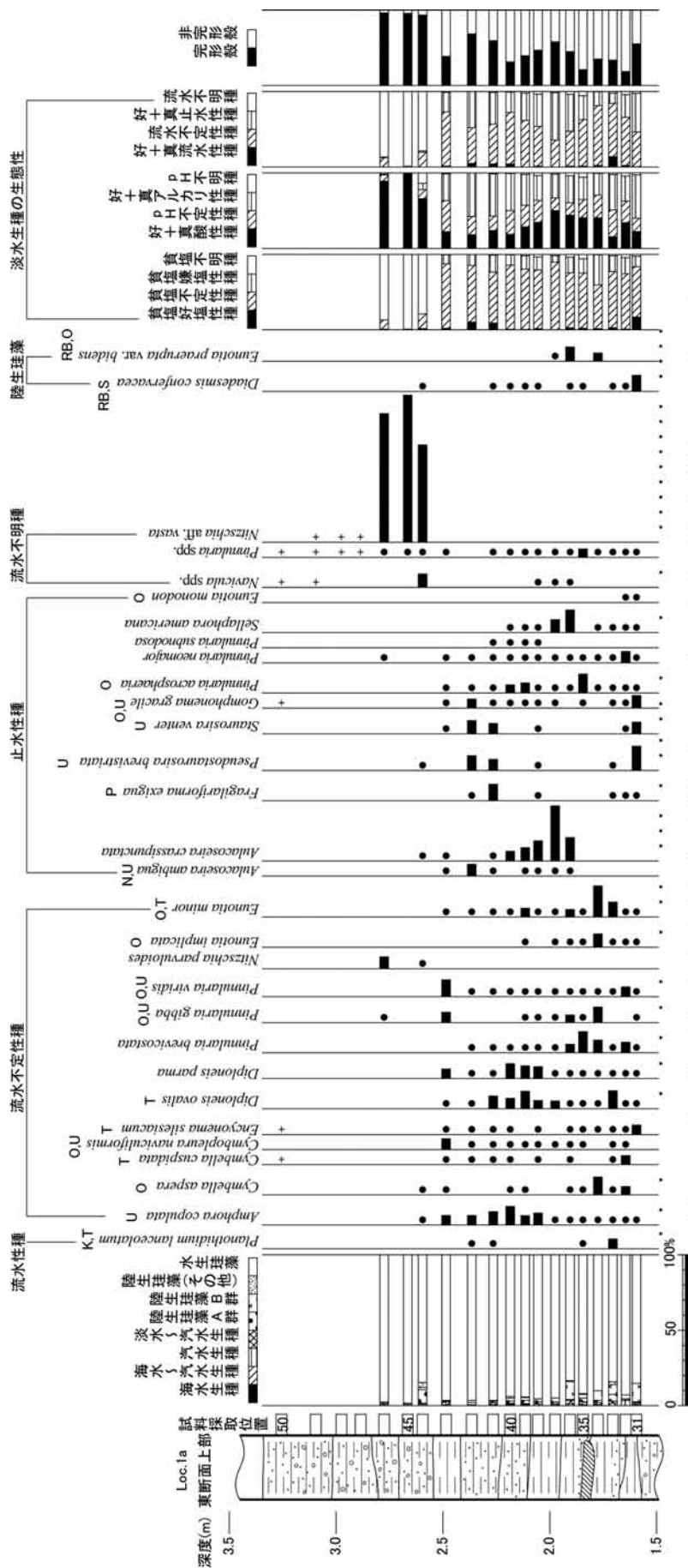
表2.Loc.1b 20・21-2区 東断面上部の珪藻分析結果(3)

分類群	生態性		環境																			
	塩分	pH	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
<i>Pinnularia cardinalis</i> (Ehr.)W.Smith	Ogh-hob	ac-il						1														
<i>Pinnularia cf. dactylus</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il					2															
<i>Pinnularia divergens</i> W.Smith	Ogh-hob	ac-il	2	2	1	1	1			1	2	3	1	1								
<i>Pinnularia divergens</i> var. <i>elliptica</i> (Grun.)Cleve	Ogh-hob	ind													1							
<i>Pinnularia episcopalis</i> Cleve	Ogh-hob	ac-il					1	1											1	2	2	
<i>Pinnularia genitilis</i> (Donkin)Cleve	Ogh-ind	ac-il																				
<i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il				21	2	10	3	3	2				14		1					
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>disimilis</i> H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il										1										
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>parva</i> (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	ac-il													2							
<i>Pinnularia graciloides</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il					1							2	4							
<i>Pinnularia lundii</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	1												1							
<i>Pinnularia macilenta</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il		4	2	5	1		1	2				1	2							
<i>Pinnularia mayeri</i> Krammer	Ogh-hob	ac-bi												4								
<i>Pinnularia mesolepta</i> (Ehr.)W.Smith	Ogh-ind	ac-il																1				
<i>Pinnularia microstauron</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ac-il						1														
<i>Pinnularia neomajor</i> Krammer	Ogh-ind	ac-il	3	15	6	3	6	1	1	3	2	1	2	2	4							
<i>Pinnularia nobilis</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il				2	1	2														
<i>Pinnularia ornata</i> H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il			1																	
<i>Pinnularia rivularis</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il								1	1	1		2	1							
<i>Pinnularia rupestris</i> Hantzsch	Ogh-hob	ac-il																				
<i>Pinnularia stomatophora</i> (Grun.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	1	4	3	2	5			1	3	4	3	3								
<i>Pinnularia schoenfelder</i> Krammer	Ogh-ind	ind																				
<i>Pinnularia schroederi</i> (Hust.)Krammer	Ogh-ind	ind					1							1								
<i>Pinnularia senjoiensis</i> H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il								2	2											
<i>Pinnularia similis</i> Hustedt	Ogh-ind	ind			1	1																
<i>Pinnularia stomatophora</i> (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	4			1	6	1	2	2	3	1	1	2	4							
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ac-il			2	1	1															
<i>Pinnularia subgibba</i> Krammer	Ogh-hob	ac-il											1	2	1							
<i>Pinnularia subgibba</i> var. <i>undulata</i> Krammer	Ogh-ind	ac-il	1								1	1										
<i>Pinnularia subnodosa</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il									6	1	3	1								
<i>Pinnularia subrupestris</i> Krammer	Ogh-hob	ac-il		1		1	2															
<i>Pinnularia substomatophora</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	4	2	1	1	4	1	1													
<i>Pinnularia sudetica</i> (Hilse)M.Peragallo	Ogh-hob	ac-il																				
<i>Pinnularia ueno</i> Skvortzow	Ogh-hob	ac-il	1				7	1	4	2	7	3	3	3	1							
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	6	13	2	6	9	3	4	4	4	6	3	2	23							
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	5	7	3	1	11	6	1	3	4	1	2									1
<i>Sellaphora americana</i> (Ehr.)Mann	Ogh-ind	al-il	2	1	1	4		30	17	5	7	1										
<i>Sellaphora laevissima</i> (Kuetz.)Mann	Ogh-ind	ind						2	1	2	3	1	1	4								
<i>Sellaphora pupula</i> (Kuetz.)Mereschkowsky	Ogh-ind	ind						1														
<i>Sellaphora pupula</i> var. <i>subcapitata</i> Hustedt	Ogh-ind	ind						1														
<i>Sellaphora rectangularis</i> (Greg.)Lange-B& Metzeltin	Ogh-ind	ind																				
<i>Sellaphora seminulum</i> (Grun.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il													2							
管絨藻類													1									
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	ind	1		1	1	4				1			1		5	1					
<i>Hantzschia elongata</i> (Hantzsch)Grunow	Ogh-ind	unk													1							
<i>Hantzschia vivax</i> (W.Smith)M.Pregallo	Ogh-ind	al-il												2								
<i>Nitzschia scalaris</i> (Ehr.e.p.)W.Smith	Euh-Meh		1																			
<i>Nitzschia sigma</i> (Kuetz.)W.Smith	Euh-Meh																					
<i>Nitzschia vitrea</i> Norman	Meh																1					
<i>Nitzschia brevissima</i> Grunow	Ogh-Meh	al-il																1				
<i>Nitzschia clausii</i> Hantzsch	Ogh-hil	al-il																				
<i>Nitzschia palea</i> (Kuetz.)W.Smith	Ogh-Meh	ind																1				
<i>Nitzschia heideni</i> Meister	Ogh-ind	al-il																				1
<i>Nitzschia linearis</i> (W.Smith)W.Smith	Ogh-ind	al-bi																				



海水-汽水-淡水性種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水性種の生態性の比率は淡水性種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は5%未満、+は100個体未満の試料について検出した種類を示す。
 (環境指標種, K中〜下流性河川指標種, N湖沼沼沢湿地指標種, O沼沢湿地付着性種, P高層湿原指標種, S好汚濁性種, U広域適応性種, T好清水性種, RA陸生珪藻A群, RB陸生珪藻B群, RI未区分陸生珪藻)

図1. Loc.1a 20・21-2区東断面下部における主要珪藻化石群集の層位分布



海水一汽水一淡水性種産出率・各種産出率・完形産出率は全体基数、淡水性種の生態性の比率は淡水性種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は5%未満、+は100個体未満の試料について検出した種類を示す。(環境指標種、K:中～下流性河川指標種、N:湖沼沼沢湿地指標種、O:沼沢湿地付着生種、P:高層湿原指標種、S:好汚濁性種、U:広域適応性種、T:好清水性種、RA:陸生珪藻A群、RB:陸生珪藻B群、Ri:未区分陸生珪藻)

図2. Loc.1b 20・21-2区東断面上部における主要珪藻化石群集の層位分布

標種(河川中～下流部や河川沿いの河岸段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現する種)の *Planorbulina lanceolatum*、汽水付着性の *Tryblionella plana*、*Navicula eidrigiana*、海水～汽水付着性の *Nitzschia scalaris* などが産出する。

・ Loc.1b 20・21-2区東断面上部

Loc.1bでは、珪藻化石群集の消長に注目すると、試料番号31～35、36～37、38～43、44～46、47～50で違いが認められる。試料番号31～35は、完形率が約30%と化石の保存状態が悪い。特に多産する種はないが *Cymbella aspera*、*Eunotia minor*、*Eunotia implicata*、*Pinnularia gibba*、*Gomphonema gracile*、*Pinnularia acrosphaeria* などの沼沢湿地付着生種群が多く認められる。

試料番号36～37は、好止水性で付着性の *Aulacoseira crassipunctata*、*Sellaphora americana* が多産することで特徴付けられる。前種は、標高の高い北方スコットランドの小形の池が模式地で、植物に付着して生育し、電解質成分の少ない貧栄養の泥炭池に出現する (Krammer & Lange-Bertalot,1991a) とされている。我が国では腐植性の水域からしばしば出現する種である (吉川,2006)。後種は、全国の湖沼や河川に広く分布するとされている (田中,2002)。

試料番号38～43は、流水不定性で付着性の *Amphora copulata*、*Diploneis ovalis*、*Diploneis parva*、好止水性で付着性の *Aulacoseira crassipunctata* などが多産する。

試料番号44～46は、流水不明種の *Nitzschia* aff. *vasta* が本試料に特徴的に優占することで特徴付けられる。本種は、ドイツでは汽水で認められたとされているが (Krammer & Lange-Bertalot,1988)、酸性度の高い強酸性の水域にも生息するとされている (DeNicola,2000)。本地点では、前後の群集組成から酸性種として生育していたと想定される。

試料番号47～50は、珪藻化石の産出が少なく、保存も悪い。少ないながらも、前試料で優占した流水不明種の *Nitzschia* aff. *vasta* や、酸性水域に一般的な *Pinnularia* spp. 等が散見される。

(2) 花粉分析

結果を表3、4、図3、4に示す。図表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、分類群間の区別が困難なものを示す。なお、木本花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示するととどめておく。Loc.1bの試料番号44、45以外の試料から花粉化石が豊富に産出し、保存状態も比較的良好なものが多い。以下、地点ごとに述べる。

・ Loc.1a 20・21-2区東断面下部

Loc.1aをみると、試料番号1～7では木本花粉が優占し、マツ属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属一ケヤキ属、エノキ属—ムクノキ属が多く産出し、モミ属、クマシデ属—アサダ属、コナラ属コナラ亜属、シイ属、キハダ属、アカメガシワ属、エゴノキ属等を伴う。草本花粉は、少ないながらもイネ科、カヤツリグサ科、サナエタデ節—ウナギツカミ節、ヨモギ属等が認められる。また、ガマ属、サジオモダカ属、ヒシ属、ゴキヅル属等の水湿地生草本、クンショウモ属などの水生藻類も検出される。

試料番号8～25にかけては、草本花粉の割合が増加する。木本花粉についてみると、前述同様マツ属、アカガシ亜属、シイ属、ニレ属—ケヤキ属、エノキ属—ムクノキ属等が多く認められる。層的な変化についてみると、試料番号20に向かうにつれマツ属の割合が増加し、ニレ属—ケヤキ属、エノ

表3.Loc.1a 20・21 - 2区 東断面下部の花粉分析結果(1)

分類群	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
木本花粉																																
マキ属	7	3	6	2	-	-	-	1	1	-	3	1	-	1	3	3	6	1	1	-	3	2	2	1	25	22	12	8	8	18	20	
モミ属	3	4	-	1	9	4	3	6	10	4	2	1	9	1	5	3	5	5	2	2	2	2	3	4	4	4	5	3	3	4	15	
ツガ属	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	2	1	1	-	-	1	-	1	2	-	3	-	1	2	1	-	2	1	1	5		
トウヒ属	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
マツ属 雄 菅束亜属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
マツ属 雌 菅束亜属	15	40	37	33	27	26	17	12	22	34	31	6	20	19	48	49	28	40	92	29	47	80	32	53	28	58	33	51	37	59		
マツ属 (不明)	33	38	48	30	40	27	29	17	34	44	72	33	30	43	62	134	98	80	119	76	147	97	89	108	80	103	134	158	78	160		
コウヤマキ属	-	-	1	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2		
スギ属	5	-	2	1	3	4	1	2	6	1	2	4	2	3	3	1	3	3	6	8	15	2	2	7	3	-	4	5	12	6		
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	2	2	-	1	2	-	3	7	1	2	2	7	-	7	2	2	1	1	4	8	9	3	3	2	5	1	1	1	4			
ヤマモモ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	1	-	-	1	1	1	-	-	1	-	2	1	2	1	-	1		
サウゲルミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	3	-	-	-	1		
クルミ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1			
クマシデ属-アサダ属	-	2	5	1	2	8	4	1	2	3	2	3	2	1	2	-	2	3	2	1	4	3	2	3	1	-	1	1	4	1		
カハノキ属	-	1	-	1	1	1	-	-	3	1	1	1	-	1	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	1	-	1	1	-	-		
ハンノキ属	-	-	-	-	-	2	-	-	1	1	1	1	-	-	1	-	-	1	1	1	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-		
フナ属	1	2	-	-	2	1	-	-	1	-	2	-	2	-	2	1	2	1	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-		
コナラ属コナラ亜属	2	5	4	2	8	1	5	7	4	3	3	2	1	5	11	3	4	7	3	10	8	3	2	3	5	-	1	8	5	3		
コナラ属アカガシ亜属	41	22	22	35	32	30	39	51	60	37	53	71	39	38	38	24	29	24	29	44	34	28	29	77	43	8	22	20	33	16		
クリ属	3	3	1	1	4	1	2	4	4	2	4	6	6	4	6	4	7	6	3	15	1	3	11	11	9	8	7	1	6	1		
シイ属	6	7	2	7	10	10	6	9	19	17	16	14	25	36	20	3	21	12	26	31	20	12	18	42	11	9	14	12	20	8		
ニレ属-ケヤキ属	37	42	30	38	26	19	23	50	27	11	13	24	32	42	46	20	19	26	26	8	2	1	1	1	1	-	2	-	1	1		
エノキ属-ムクノキ属	54	21	22	31	24	44	47	48	34	53	23	32	14	14	16	6	8	5	5	5	3	-	1	-	-	-	2	2	2	1		
サネカズラ属-マツバサ属	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
シキミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
ジャケツイバラ属	-	-	-	-	2	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-		
ネムノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
サンショウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
カラスザンショウ属	-	-	-	-	1	1	2	2	2	-	1	-	5	1	1	-	-	-	1	-	2	-	3	1	-	-	1	1	1	1		
キハダ属	1	5	11	2	4	5	2	1	1	2	5	3	11	6	1	1	1	1	2	3	1	1	-	-	-	-	1	2	-	-		
ミカン属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	1	-	-	-		
ミカン科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
センダン属	-	1	1	1	2	1	-	2	1	1	-	4	-	1	3	1	-	-	1	8	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-		
アカメカシワ属	1	2	9	6	4	3	2	3	2	2	5	1	1	-	4	1	1	42	7	1	-	1	3	1	1	-	1	1	1	1		
シラキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	2	-	-	1	1	-	2	2	-	-	3	2	3	-	-	-	-	-		
ウルシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
モチノキ属	-	1	-	-	1	1	1	5	3	1	-	1	-	-	1	-	1	1	1	1	1	-	1	3	1	1	1	1	-	-		
ニシキギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-		
カエデ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
トチノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
フトウ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	3	1	-	-	-	-	1	4	2	-	-	-	1	1	-	-	1	-		
ノブドウ属	2	2	2	-	1	1	1	1	3	1	1	1	1	2	1	6	1	5	2	6	23	14	3	2	2	-	-	1	2	1	-	
ツバキ属	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
フヨウ属	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
アオギリ属 近似種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
アオギリ属	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	5	3	4	1	5	15	7	5	2	2	2	1	3	1	1	1	1	1	1		
グミ属	1	2	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	1	1	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
ウコギ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

表3.Loc.1a 20・21-2区 東断面下部の花粉分析結果(2)

分類群	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
アオキ属	-	3	1	1	-	2	1	1	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
ミズキ属	1	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	1	1	-	1	1	1	2	-	2	-	-		
ツツジ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
カキノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
ハイノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
エコノキ属	1	5	12	7	10	8	7	5	3	1	1	1	1	2	1	-	1	1	3	1	1	2	1	1	2	1	-	-	1		
イボタノキ属	1	-	4	1	-	-	1	-	1	1	2	1	2	3	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4	1	2	1	-	-		
トネリコ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
サカキカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
カマズミ属	-	2	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
スイカズラ属	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-		
草本花粉																															
ガマ属	-	1	1	-	-	-	-	10	19	97	46	47	3	5	18	15	8	32	16	9	10	10	4	52	31	5	16	4	2		
ミクリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
サジオモダカ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	1	2	3	-	1	1	1	1	1	-	1	1	1	1	4	3	1		
オモダカ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4		
イネ科	-	2	5	2	2	1	1	1	1	5	12	29	20	22	7	3	12	4	9	6	4	-	-	-	35	57	45	57	82		
カヤツリグサ科	5	4	16	-	-	1	3	27	74	66	29	42	58	33	29	21	32	24	27	31	14	34	19	83	49	8	38	9	7	14	
ミズアオイ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	2	3	14	
クワ科	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1	2	1	3	2	-	2	1	-	1	4	2	1	3	
ギンギン属	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	
サナエタテ節-ウナギツカミ節	-	4	1	-	-	1	1	2	1	3	24	14	13	14	7	15	23	8	14	6	18	8	5	12	6	4	3	3	11		
タデ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	3	3	2	2	3	4	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アカサ科-ヒユ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	4	-	
ナデシコ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	
ハス属	-	-	-	-	-	-	-	4	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
キンボウグ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	1	1	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
キンボウグ科	2	3	1	-	-	-	-	1	5	5	1	1	1	3	3	-	1	5	13	-	-	-	1	2	-	1	5	-	-	-	
アブラナ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
バラ科	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
マメ科	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	1	3	1	1	-	-	-	-	-	7	-	1	1	4	-	1	-	-	-	1	
トウダイグサ科	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヒメシソギ属近似種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヒシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アカバナ属-ミズエキノシタ属	-	-	-	-	11	10	3	4	3	4	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	3	1	1	-	-	-	1	-	-	-	
アリトウグサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	1	-	2	-	2	1	1	-	1	2	3	
フサモ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	3	-	-	-	-	-	
セリ科	1	-	1	1	-	-	2	-	-	-	4	7	3	1	2	3	2	5	2	1	1	-	1	1	1	1	-	-	-	4	
シソ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
オナモミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
キク亜科	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	1	3	1	2	2	1	3	-	1	1	1	1	2	3	3	1	2
タンポポ亜科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
不明花粉	15	9	8	5	3	8	3	5	7	10	13	8	10	14	9	9	8	7	4	-	25	5	12	13	8	2	4	5	9	7	
シダ類孢子																															
ヒカゲノカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
センマイ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オオハコ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

表3.Loc.1a 20・21-2区 東断面下部の花粉分析結果(3)

分類群	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
ヤエムグラ属-アカネ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オミナエシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ゴキツル属	-	1	2	1	1	1	-	3	3	21	13	16	15	7	2	5	5	5	1	3	6	3	2	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	3	-	2	2	1	1	-	5	2	5	-	2	2	3	1	1	2	5	2	6	3	1	3	5	1	1	3	1	8	7
イノモトソウ属	1	-	3	-	3	-	1	1	-	-	-	1	1	-	3	1	5	-	3	1	1	1	2	7	5	4	7	5	2	6
アカウキクサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
他のシダ類孢子	16	48	43	36	42	20	25	24	26	13	63	23	11	22	27	35	73	8	18	17	25	9	9	41	28	24	41	28	29	59
合計	220	221	225	205	219	203	200	243	255	229	254	233	215	245	278	269	258	280	355	275	339	259	222	364	240	217	249	281	232	303
木本花粉	12	16	30	7	15	15	15	61	114	217	137	169	122	95	80	73	92	96	84	86	73	64	42	165	103	64	142	74	96	146
草本花粉	15	9	8	5	3	8	3	5	7	10	13	8	10	14	9	9	8	7	4	0	25	5	12	13	8	2	4	5	9	7
不明花粉	17	48	46	36	45	20	26	26	26	13	63	24	12	22	30	37	78	9	22	18	26	9	11	48	33	28	48	33	31	71
シダ類孢子	249	285	301	248	279	238	241	330	395	459	454	426	349	362	388	379	428	385	461	379	438	332	275	577	376	309	439	388	359	520
総計(不明を除く)	-	-	-	-	-	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クンシヨウモ属	-	-	-	-	-	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表4.Loc.1b 20・21-2区 東断面上部の花粉分析結果(1)

分類群	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
木本花粉																				
マキ属	9	7	1	1	-	1	-	2	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-
モミ属	4	4	29	4	4	10	8	7	8	6	4	2	5	1	-	4	3	4	1	-
ツガ属	1	4	4	4	2	5	11	4	7	5	4	2	9	-	-	4	7	9	4	1
トウヒ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属単維管束亜属	-	-	-	-	-	-	1	-	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属複維管束亜属	36	76	95	80	50	29	52	79	68	91	70	79	89	4	1	20	73	48	37	76
マツ属(不明)	100	100	98	84	118	84	84	104	123	116	110	112	159	36	5	119	181	145	140	122
コウヤマキ属	-	-	1	-	1	1	2	1	1	1	-	1	3	-	-	-	-	1	-	-
スギ属	4	3	1	6	9	26	21	14	20	3	12	8	15	2	1	8	2	1	2	-
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	2	2	-	-	2	5	1	1	2	1	4	4	7	-	-	4	-	-	-	-
ヤマモモ属	1	1	-	-	-	1	4	1	-	1	1	1	2	-	1	2	1	-	-	-
サワグルミ属	-	-	-	1	-	-	1	1	2	2	1	2	2	-	-	2	3	-	1	-
クルミ属	2	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
クマシデ属-アサダ属	4	3	-	2	3	6	4	5	7	5	2	4	4	2	-	9	-	-	2	2
カバノキ属	1	1	-	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	4	-	-	1	1
ハンノキ属	1	1	-	-	-	3	2	1	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	1	1
ブナ属	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-
コナラ属コナラ亜属	3	2	-	4	2	5	10	1	4	1	7	5	10	-	-	9	-	2	6	1
コナラ属アカガシ亜属	28	17	3	18	11	31	23	19	20	9	24	14	15	5	2	21	1	2	6	3
クリ属	6	-	-	2	2	9	7	9	5	-	7	5	4	-	-	1	-	-	-	-
シイ属	13	3	1	8	1	21	9	6	5	3	6	11	6	-	-	3	-	-	-	-
ニレ属-ケヤキ属	1	1	-	1	-	1	4	1	6	3	1	1	1	-	-	6	-	-	4	1
エノキ属-ムクノキ属	2	1	-	-	1	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤドリギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
イスノキ属	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
カラスザンショウ属	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コクサギ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キハダ属	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ミカン科	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカメガシワ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
シラキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ウルシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
モチノキ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブドウ属	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ノブドウ属	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シナノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
グミ属	-	-	1	-	2	2	-	4	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウコギ科	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツツジ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
カキノキ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハイノキ属	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
エゴノキ属	1	1	1	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
イボタノキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
トネリコ属	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クサギ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スイカズラ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草本花粉																				
ガマ属	1	3	-	54	11	61	140	31	34	4	5	3	1	-	-	4	-	-	2	-
サジオモダカ属	1	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
オモダカ属	14	-	-	-	-	-	1	1	6	1	4	2	1	-	-	-	-	-	-	2
スプタ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズオオバコ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
イネ科	67	51	4	14	38	77	69	82	99	83	151	149	117	20	-	266	86	77	453	216
カヤツリグサ科	141	89	5	35	19	81	30	24	25	5	18	28	35	7	-	15	3	-	17	6
イボクサ属	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ミズアオイ属	11	2	-	1	-	-	2	-	5	3	4	3	4	-	-	-	-	-	-	-
ユリ科	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クワ科	1	-	-	3	-	12	1	-	5	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ギンギン属	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタデ節-ウナギツカミ節	9	4	23	18	13	8	8	7	8	9	2	1	4	2	-	-	3	3	-	1
タデ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-
ソバ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
アカザ科-ヒユ科	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ナデシコ科	1	-	-	-	-	1	1	1	2	2	1	-	-	-	-	2	-	-	1	2
キンポウゲ属	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
キンポウゲ科	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
アブラナ科	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-
バラ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
マメ科	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	2	-
キカシグサ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカバナ属-ミズユキノシタ属	-	2	-	-	-	2	-	-	1	2	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-
セリ科	-	-	-	6	1	4	3	-	3	1	1	3	2	-	-	-	-	-	-	-
シソ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
オオバコ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オミナエシ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
ヨモギ属	19	6	-	15	2	12	13	-	8	3	13	10	9	8	-	77	2	4	14	6

キ属—ムクノキ属の割合が減少する傾向が認められ、試料番号21～25ではニレ属—ケヤキ属、エノキ属—ムクノキ属の割合は極わずかである。その他ではマキ属、モミ属、スギ属、コナラ亜属、クリ属、キハダ属、アカメガシワ属、ノブドウ属、グミ属等を伴い、栽培種の可能性があるカキノキ属も検出される。草本花粉ではガマ属、カヤツリグサ科が多く産出し、イネ科、サナエタデ節—ウナギツカミ節、ゴキヅル属、ヨモギ属等を伴う。水湿地生草本では、ミクリ属、サジオモダカ属、ハス属、ヒシ属、フサモ属等も検出される。なお、イネ科の花粉について詳細に検討した結果、イネ属は含まれていなかった。

試料番号26～30をみると、木本花粉ではマツ属が最も多く産出し、マキ属、モミ属、スギ属、アカガシ亜属、クリ属、シイ属等を伴う。草本花粉ではイネ科が最も多く産出し、ガマ属、カヤツリグサ科、サナエタデ節—ウナギツカミ節、ヨモギ属等を伴う。その他では、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、ヒシ属等の水湿地生草本、水湿地生シダ類のアカウキクサ属も認められる。

・ Loc.1b 20・21-2区 東断面上部

試料番号31～43をみると、木本花粉ではマツ属が多産し、モミ属、ツガ属、スギ属、アカガシ亜属、クリ属、シイ属等を伴う。また、カキノキ属もわずかではあるが認められる。草本花粉ではガマ属、イネ科、カヤツリグサ科が多く産出し、サナエタデ節—ウナギツカミ節、ヨモギ属等を伴う。水生及び湿地生の種類では、サジオモダカ属、オモダカ属、スブタ属、イボクサ属、ミズアオイ属等の草本、デンジソウ属、アカウキクサ属等のシダ類、クンショウモ、シャジクモ類等の藻類も検出される。

試料番号44、45は、花粉化石の産状が悪かったが、木本花粉ではマツ属、アカガシ亜属等が、草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属等が認められる。

試料番号46～50は、花粉化石が豊富に産出するものの、他の試料と比較すると保存状態はやや悪い。木本花粉ではマツ属が優占し、モミ属、ツガ属、アカガシ亜属等を伴う。草本花粉ではイネ科が優占し、カヤツリグサ科、ヨモギ属、キク亜科などが認められる。水湿地生のものは、種類数・個体数共に少なくなり、ガマ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、アカウキクサ属等の花粉・検出される。栽培種の可能性がある種類では、ソバ属がわずかに認められる。

表4. Loc.1b 20・21-2区 東断面上部の花粉分析結果(2)

分類群	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
オナモミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
キク亜科	1	1	2	3	-	2	1	1	1	2	2	1	2	-	-	11	5	5	10	5
タンポポ科	-	1	-	2	-	-	-	1	1	1	-	1	1	-	-	3	-	1	11	3
不明花粉	6	1	-	4	2	6	5	3	4	4	5	7	4	4	1	2	1	2	4	3
シダ類胞子																				
ヒカゲノカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
デンジソウ属	-	-	-	-	3	3	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ゼンマイ属	-	1	12	4	2	6	7	2	2	6	2	4	1	-	-	1	-	-	-	-
イノモトソウ属	-	3	14	3	1	-	1	1	4	1	-	-	-	-	-	3	-	-	1	-
アカウキクサ属	16	16	3	2	1	1	1	1	3	-	3	2	4	-	-	-	-	1	3	-
他のシダ類胞子	41	24	72	48	17	39	27	26	36	19	44	27	44	8	1	52	30	39	54	25
合計																				
木本花粉	226	234	237	219	210	249	250	261	283	257	259	258	341	50	10	218	273	212	208	208
草本花粉	270	160	35	153	86	268	271	149	200	119	205	210	184	37	0	382	101	90	513	242
不明花粉	6	1	0	4	2	6	5	3	4	4	5	7	4	4	1	2	1	2	4	3
シダ類胞子	57	44	101	57	24	49	37	32	47	26	49	33	49	8	1	56	30	40	58	25
総計(不明を除く)	553	438	373	429	320	566	558	442	530	402	513	501	574	95	11	656	404	342	779	475
その他																				
クンショウモ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ジャジクモ類	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(3) 種実・葉同定

堆積物の分析結果を表5に、種実・葉同定結果を表6に示す。全試料を通じて、裸子植物4分類群、被子植物49分類群4592個の種実や葉が検出されたほかに、不明種実、広葉樹の葉、木の芽、木材、炭化材、不明炭化物、植物のトゲ、昆虫類が確認された。なお、葉同定の2試料(20043、20045の一部)は、イネ科タケ亜科の稈鞘であった。

大型植物遺体群には、栽培種のもの核が1個確認された(試料番号20055)。栽培種を除いた分類群の種類構成は、土壌試料と単体試料で異なる。土壌試料からは、木本14分類群(針葉樹のクロマツ、マツ属複維管束亜属、広葉樹のブナ科、ムクノキ、クワ属、カジノキ、シマサルナシ、ヒサカキ属、キイチゴ属、アカメガシワ、カラスザンショウ、イヌザンショウ、イイギリ、ミズキ属)130個、草本21分類群(サジオモダカ属、オモダカ科、ヒルムシロ属、ホッスモ近似種、イネ科、ミクリ属、アゼスゲ類、スゲ属、シンジュガヤ属、ウキヤガラ、ホタルイ属、カヤツリグサ科、タデ属、アカザ科、タガラシ、ゴハリマツモ、マツモ属、カタバミ属、ヒシ属、ミズユキノシタ、ヒメシロアサザ)1336個、計1466個が確認された。木本は河畔林要素(ムクノキなど)や明るく開けた林縁部などに生育する低木類が確認される程度で少なく、水湿地生植物から成る草本主体の種類構成を示す。試料番号18-20は種実検出個数が多く(試料50ccより660個)、湿生植物のタガラシが578個を占める。試料番号9、7・8、5・6、4、2・3では浮葉植物のヒシ属や沈水植物のホッスモ近似種が確認される。試料番号2・3は、ホッスモ近似種が多く、タガラシが少ない。

単体試料は、木本18分類群(針葉樹のマツ属複維管束亜属、カヤ、イヌガヤ、広葉樹のイチイガシ、アラカシ、アカガシ亜属A、アカガシ亜属、コナラ属、スダジイ、ツブラジイ、シイ属、シリブカガシ、クスノキ科、ヤブツバキ、アカメガシワ、カラスザンショウ、イヌザンショウ、エゴノキ)3111個、草本5分類群(ホッスモ近似種、ミクリ属、アゼスゲ類、ナデシコ科、ヒシ属)14個、計3125個が確認された。単体試料の大半を占めるどんぐり類は、イチイガシやイチイガシと思われるコナラ属アカガシ亜属主体で、SK28、SK35ではアラカシ、SK18、SK19、SK23、SK30ではイチイガシ、アラカシ以外のアカガシ亜属(本分析ではアカガシ亜属A)も確認された。SK33、試料番号20046ではシイ属スダジイ、ツブラジイが多く確認され、試料番号20051ではマテバシイ属シリブカガシが1個確認された。これらの遺構間における出土分類群の差異を表7に示す。

以下に、主な分類群の形態的特徴等を記す。

- ・クロマツ (*Pinus thunbergii* Parlato) マツ科マツ属複維管束亜属

針葉は灰褐色、長さ1cm以上、径1-1.5mm程度の針形で、短枝から2針葉が伸びる。葉横断面は半円形。中心部に2個の維管束がある。葉横断面を観察した結果、4~10個程度の樹脂道が葉肉内に点在する。なお、断面を確認していない個体を複維管束亜属にとどめている。

- ・マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen *Diploxylon*) マツ科

球果は黒褐色、長さ3-4cm、径2-3cm程度の円錐状広卵体。木質で長楕円状矩形の種鱗が覆瓦状、螺旋状に密着する。種鱗外面は不規則な四~五角形で肥厚し、横の稜線とその中央部に短く突起する臍点がある。

- ・イチイガシ (*Quercus gilva* Blume) ブナ科コナラ属

表5. 種実分析結果

分類群	部位	状態	Loc.1a 20・21-2区 東断面下部						
			2・3	4	5・6	7・8	9	12-14	18-20
木本									
クロマツ	葉	破片		1					
マツ属複維管束亜属	葉	破片(先端部)		2	9	2	1		1
		破片		12	19	5	5		
ブナ科	果実	破片	1	1	1	5			
ムクノキ	核	破片	22						
クワ属	核	完形	2						
		破片		1					
カジノキ	核	破片					1		
シマサルナン	種子	完形	1						
		破片						3	
キイチゴ属	核	破片	1						
ヒサカキ属	種子	完形							1
アカメガシワ	種子	完形			1				
		破片			1			24	
カラスザンショウ	種子	完形			1				
イヌザンショウ	種子	完形	1			1			
		破片	1						
イイギリ	種子	破片	1					1	
ミズキ属	核	破片							1
草本									
サジオモダカ属	果実	完形					2		
		破片							1
オモダカ科	種子	完形					4	23	2
ヒルムシロ属	果実	完形	5	1		2	4		
		破片				1	1		
ホツモ近似種	種子	完形	96	45	40	18	14		
		破片	10	7	1	6	2		
イネ科	果実	完形			1				
		破片	2						
ミクリ属	果実	完形					4		2
		破片				1	2		
アゼスゲ類	果実	完形	1	1		1	13	1	
		破片					1	3	
スゲ属	果実	完形				1			1
シンジュガヤ属	果実	破片					1		
ウキヤガラ	果実	完形					3	2	
		破片					2		1
ホタルイ属	果実	完形					50		25
		破片					19		13
カヤツリグサ科	果実	完形	4	1	1	2	11	12	24
		破片			2		2	18	1
タデ属	果実	完形					1		1
		破片	4		1			2	6
アカザ科	種子	完形	1						
タガラシ	果実	完形	3	2	3	1	64		129
		破片	7	1	2	2	44	4	449
ゴハリマツモ	果実	完形	1						
		破片				2			
マツモ属	果実	完形					1		
		破片				1	1	1	
カタバミ属	種子	完形		1		1			
ヒシ属	果実	完形		1					
		破片	3	17	23	12	12		
ミズユキノシタ	種子	完形					15		1
		破片					1		
ヒメシロアサザ	種子	完形							1
不明種実		完形							1
		破片		8			4		2
その他									
不明			44	20	15	7	18		
広葉樹の葉			+	+	+	+			
木の芽				+		+			
木材			+	+	+	+	+		+
炭化材			+	+		+	+	+	+
不明炭化物									+
植物のトゲ			+	+	+	+	+		
昆虫類			+	+	+	+	+		+
分析量			100cc 111.57g	100cc 113.80g	100cc 128.64g	100cc 111.32g	100cc 103.07g	100cc 119.09g	50cc 60.70g

表6. 種実・葉同定結果(1)

試料	No	出土遺構	種別	点数	備考	分類群	部位	状態	個数	容量(cc)	備考						
ドングリ(ほぼ完形に残るもの)	20002	SK18	ドングリ	85		イチイガシ	果実	完形	6	8							
						アカガシ亜属	果実	完形	38	70							
						アカガシ亜属	果実	破片	2	<1							
						アカガシ亜属	果実・殻斗	完形	1	1	果実頂部欠損						
						アカガシ亜属A	果実	完形	9	20	頂部突出						
						アカガシ亜属A	果実	破片	1	<1							
						コナラ属	果実	完形	23	35							
						コナラ属	果実	破片	41	5	10個基部確認,計10個体以上						
ドングリ(ほぼ完形に残るもの)	20005-1	SK19	ドングリ	21		コナラ属	子葉	破片	4	<1							
						アカガシ亜属	果実	完形	3	4							
						アカガシ亜属A	果実	完形	13	45	頂部突出						
						アカガシ亜属	果実	破片	2	<1							
						コナラ属	果実	完形	3	4							
ドングリ(ほぼ完形に残るもの)	20007	SK20	ドングリ	18		コナラ属	果実	破片	12	1							
						アカガシ亜属	果実	完形	15	30							
						アカガシ亜属	果実・殻斗	完形	1	2							
						コナラ属	果実	完形	2	2							
ドングリ(ほぼ完形に残るもの)	20012	SK23	ドングリ	42		コナラ属	果実	完形	1	2	着点部のみ						
						アカガシ亜属A	果実	完形	25	80	頂部突出						
						アカガシ亜属A	果実	破片	9	4							
ドングリ(ほぼ完形に残るもの)	20016	SK28	ドングリ	137		コナラ属	果実	完形	7	13							
						アカガシ亜属	果実	破片	40	10	10個着点確認,計15個体以上						
						イチイガシ	果実	完形	8	10							
						イチイガシ	果実	破片	1	1	花柱のみ						
ドングリ(ほぼ完形に残るもの)	20020	SK29	ドングリ	7		アカガシ亜属	果実	完形	112	240							
						アカガシ亜属	果実・殻斗	完形	1	1	果実頂部欠損						
						コナラ属	果実	完形	15	30							
						コナラ属	果実	完形	6	10							
ドングリ(ほぼ完形に残るもの)	20022	SK30	ドングリ	105		コナラ属	果実	完形	1	2							
						イチイガシ	果実	完形	5	9							
ドングリ(ほぼ完形に残るもの)	20026	SK33	ドングリ	11		イチイガシ	子葉	完形	1	<1							
						アカガシ亜属	果実	完形	58	90							
						アカガシ亜属	果実	破片	3	1							
						アカガシ亜属A	果実	完形	1	2							
						アカガシ亜属	殻斗	完形	1	<1							
						コナラ属	果実	完形	37	70							
						コナラ属	果実	破片	14	8	1個着点確認,計3個体未済						
						ツブラジイ	果実	完形	4	2							
ドングリ(ほぼ完形に残るもの)	20030	SK34	ドングリ	33		ツブラジイ	果実	破片	4	0.5	計1個体以上						
						アカガシ亜属	果実	完形	2	1.5							
						コナラ属	果実	完形	4	8							
						イチイガシ	果実	完形	1	1							
ドングリ(ほぼ完形に残るもの)	20033	SK35	ドングリ	243		アカガシ亜属	果実	完形	23	80							
						コナラ属	果実	完形	9	8							
						カヤ	種子	完形	1	1							
ドングリ(ほぼ完形に残るもの)	20033	SK35	ドングリ	243		カヤ	種子	破片	1	<1							
						アラカシ	果実	完形	3	3							
						イチイガシ	果実・殻斗	完形	1	1							
						イチイガシ	果実	完形	30	60							
						アカガシ亜属	果実	完形	160	290							
						アカガシ亜属	殻斗	完形	3	1							
						アカガシ亜属	殻斗	破片	2	<1							
						コナラ属	果実	完形	48	90							
						コナラ属	果実	破片	1	<1							
						コナラ属	果実	破片	1	2							
						イヌガヤ	種子	完形	1	1							
						ドングリ(ほぼ完形に残るもの)	20040	※1	ドングリ	1		シリブカガシ	果実	完形	1	2	
						ドングリ(ほぼ完形に残るもの)	20051	※3	ドングリ	1		イチイガシ	果実	完形	1	1	
ドングリ(その一部が残るもの)	20003	SK18	ドングリ	92		アカガシ亜属A	果実	完形	5	5							
						アカガシ亜属A	果実	破片	14	4							
						アカガシ亜属	果実	完形	7	6							
						アカガシ亜属	果実	破片	25	9	4個花柱のみ						
						アカガシ亜属	果実・殻斗	完形	1	<1							
						コナラ属	果実	完形	6	5							
						コナラ属	果実	破片	96	40	31個着点確認						
						コナラ属	果実	破片	7	4							
						木材			7	4							
						炭化材			2	<1							
						ドングリ(その一部が残るもの)	20005-2	SK19	ドングリ	2		アカガシ亜属	果実	破片	1	1	
						ドングリ(その一部が残るもの)	20008	SK20	ドングリ	36		コナラ属	果実	破片	7	2	2個基部確認,計2個体
						ドングリ(その一部が残るもの)	20008	SK20	ドングリ	36		イチイガシ	果実	破片	2	<1	1個花柱のみ
アカガシ亜属	果実	完形	12	15													
アカガシ亜属	果実	破片	14	7	3個花柱のみ												
コナラ属	果実	完形	4	5													
コナラ属	果実	破片	31	4	7個基部確認,計10個体以上												
コナラ属	子葉	破片	6	<1													
アカメガシワ	種子	完形	1	<1													
エゴノキ	種子	破片	1	<1													
ドングリ(その一部が残るもの)	20010	SK21	ドングリ	1		アカガシ亜属	果実	破片	1	<1	頂部のみ						
ドングリ(その一部が残るもの)	20013	SK23	ドングリ	53		アカガシ亜属A	果実	完形	5	10							
						アカガシ亜属A	果実	破片	80	40							

表6. 種実・葉同定結果(2)

試料	No	出土遺構	種別	点数	備考	分類群	部位	状態	個数	容量(cc)	備考							
ドングリ(その一部が残るもの)	20013	SK23	ドングリ			コナラ属	果実	完形	2	4	46個着点確認							
						コナラ属	果実	破片	288	80								
						コナラ属	子葉	破片	10	<1								
						ミクリ属	果実	破片	1	<1								
ドングリ(その一部が残るもの)	20017	SK28	ドングリ	120		イチイガシ	果実	完形	3	3	2個花柱のみ							
						イチイガシ	果実	破片	4	<1								
						アラカシ	果実	完形	4	4								
						アラカシ	果実	破片	22	1								
						アカガシ亜属	果実	完形	42	70								
						アカガシ亜属	果実	破片	29	14								
						アカガシ亜属	果実・殻斗	完形	4	2								
						アカガシ亜属	果実・殻斗	破片	1	<1								
						アカガシ亜属	殻斗	完形	1	<1								
ドングリ(その一部が残るもの)	20017	SK28	ドングリ	120		アカガシ亜属	殻斗	破片	2	<1	58個着点確認							
						コナラ属	果実	完形	25	40								
						コナラ属	果実	破片	286	80								
						コナラ属	子葉	破片	6	<1								
						スダジイ	果実	破片	1	<1								
						シイ属	果実	破片	1	<1								
						センダン	核	完形	1	<1								
						木材			1	<1								
						炭化材			3	<1								
						ドングリ(その一部が残るもの)	20021	SK29	ドングリ	24			イチイガシ	果実	完形	1	2	花柱のみ
													イチイガシ	果実	破片	1	1	
													アカガシ亜属	果実	完形	4	4	
													アカガシ亜属	果実	破片	2	1	
コナラ属	果実	完形	1	1														
コナラ属	果実	破片	30	10														
コナラ属	子葉	完形	1	<1														
コナラ属	子葉	破片	3	<1														
炭化材			1	<1														
ドングリ(その一部が残るもの)	20023	SK30	ドングリ	83		アカガシ亜属	果実	完形	8	13	30個着点確認							
						アカガシ亜属	果実	破片	21	14								
						アカガシ亜属A	果実	破片	6	3								
						コナラ属	果実	完形	5	2.5								
						コナラ属	果実	破片	136	50								
						コナラ属	子葉	破片	4	<1								
ドングリ(その一部が残るもの)	20027	SK33	ドングリ	150		マツ属複雑管束亜属	葉	破片	1	<1	果実頂部欠損							
						イチイガシ	果実	破片	1	<1								
						アカガシ亜属	果実	完形	6	5								
						アカガシ亜属	果実	破片	5	1								
						コナラ属	果実	完形	3	1								
						コナラ属	果実	破片	8	<1								
						スダジイ	果実	完形	16	14								
						スダジイ	果実	破片	15	5								
						ツブラジイ	果実	完形	38	30								
						ツブラジイ	果実	破片	19	4								
						シイ属	果実	完形	3	1								
						シイ属	果実	破片	55	9								
						シイ属	果実・殻斗	完形	2	<1								
						シイ属	果実・殻斗	破片	8	<1								
						シイ属主体	果実	破片	282	30								
						ヤブツバキ	種子	破片	2	1								
						アカメガシワ	種子	完形	1	<1								
						アゼスゲ類	果実	完形	1	<1								
						木材			5	<1								
炭化材			7	1														
ドングリ(その一部が残るもの)	20031	SK34	ドングリ	53		イチイガシ	果実	完形	1	2	6個着点確認							
						イチイガシ	果実	破片	1	<1								
						アカガシ亜属	果実	完形	7	5								
						アカガシ亜属	果実	破片	9	4								
						コナラ属	果実	完形	8	9								
						コナラ属	果実	破片	46	15								
						コナラ属	子葉	破片	3	<1								
						コナラ属	子葉	破片	3	<1								
ドングリ(その一部が残るもの)	20034	SK35	ドングリ	169		マツ属複雑管束亜属	葉	破片	1	<1	花柱のみ							
						イヌガヤ	種子	破片	1	<1								
						カヤ	種子	破片	1	<1								
						イチイガシ	果実	完形	3	3								
						イチイガシ	果実	破片	5	<1								
						アラカシ	果実	完形	11	20								
						アラカシ	果実	破片	52	15								
						アカガシ亜属	果実	完形	47	90								
						アカガシ亜属	果実	破片	15	8								
						アカガシ亜属	殻斗	破片	1	<1								
						コナラ属	果実	完形	45	80								
						コナラ属	果実	破片	128	70								
						アカメガシワ	種子	完形	1	<1								
						カラスザンショウ	種子	完形	1	<1								
						ナデシコ科	種子	完形	1	<1								
						ヒシ属	果実	破片	1	<1								
炭化材			1	<1														
植物のトゲ			2	<1														

表6. 種実・葉同定結果(3)

試料	No	出土遺構	種別	点数	備考	分類群	部位	状態	個数	容量(cc)	備考
ドングリ(その一部が残るもの)	20046		ドングリ	38		マツ属複維管束亜属	種鱗	破片	7	1	
						イヌガヤ	種子	完形	5	6	
						イヌガヤ	種子	破片	13	4	計4個体未満
						コナラ属	果実	完形	1	2	
						コナラ属	果実	破片	1	<1	
						スダジイ	果実	破片	4	1.5	計2個体未満
						ツブラジイ	果実	破片	3	1	計2個体未満
						シイ属	果実	破片	59	9	計約20個体
						ヤブツバキ	種子	完形	1	2	
						イヌザンショウ	種子	破片	1	<1	
						ムクロジ	種子	完形	2	3	
						ムクロジ	種子	破片	5	1	
						センダン	核	完形	3	2.5	
						センダン	核	破片	8	2	計3個体未満
						ホッスモ近似種	種子	完形	1	<1	
						アゼスゲ類	果実	完形	1	<1	
						ヒシ属	果実	破片	5	1	計3個体未満
ドングリ以外の種子	20014	SK23	不明種子	5		センダン	核	破片	4	-	
						不明植物	破片	1	-		
ドングリ以外の種子	20028	SK33	マツ	1		マツ属複維管束亜属	球果	完形	1	-	
ドングリ以外の種子	20035	SK35	マツ?	2		マツ属複維管束亜属	球果	完形	2	-	
ドングリ以外の種子	20037	※1	不明種子	1		イヌガヤ	種子	完形	1	-	
ドングリ以外の種子	20041	※1	マツ	2		マツ属複維管束亜属	球果	完形	2	-	
ドングリ以外の種子	20042	※1	不明種子	5		ヤブツバキ	種子	破片	2	-	
						ヒシ属	果実	破片	3	-	
ドングリ以外の種子	20047	※1	マツ	2		マツ属複維管束亜属	球果	完形	2	-	
ドングリ以外の種子	20050	※2	その他	1	内1点	ムクノキ	核	完形	1	-	
						ムクノキ	核	破片	26	-	約4個体分
						不明植物			1	-	樹皮?
ドングリ以外の種子	20052	※4	不明種子	1		不明植物			1	-	
ドングリ以外の種子	20055	※5	モモ?	1		モモ	核	完形	1	-	表面摩耗
ドングリ以外の種子	20080	※1	マツ他	3		マツ属複維管束亜属	球果	完形	1	-	
						イヌガヤ	種子	完形	1	-	
						センダン	核	完形	1	-	
ドングリ以外の種子	20082	※1	マツ	4		マツ属複維管束亜属	球果	完形	4	-	
葉同定試料	20004	SK18	葉	1	20点中1点	広葉樹?	葉	破片	20	-	状態不良
葉同定試料	20018	SK28	葉	1		広葉樹?	葉	破片	1	-	状態不良
葉同定試料	20024	SK30	葉	1	8点中1点	広葉樹	葉	破片	8	-	状態不良
葉同定試料	20043	※1	葉	1		タケ亜科	稗鞘	破片	2	-	
葉同定試料	20044	※1	葉	1		広葉樹	葉	破片	1	-	下半部残存.シイ属?
葉同定試料	20045	※1	葉	8		クスノキ科	葉	破片	2	-	1個基部残存
						広葉樹	葉	破片	4	-	2個基部残存.アカガシ亜属?
						広葉樹	葉	破片	8	-	
						タケ亜科	稗鞘	破片	5	-	
葉同定試料	20053	※4	葉	2		広葉樹	葉	破片	2	-	革質.常緑広葉樹と思われる
葉同定試料	20081	※1	葉	1		広葉樹	葉	破片	1	-	シイ属?

※1・・・粘質シルト2下の腐葉土層 ※2・・・粘質シルト2内 ※3・・・粘質シルト1～2間の腐葉土層
 ※4・・・粘質シルト1内 ※5・・・古代湿地層内

果実は茶～黒褐色、長さ1.5cm、径1-1.1cm程度の卵状楕円体。頂部には殻斗の圧痕である輪状紋がみられる。頂部中央は、長さ3mm程度の花柱基部が突出し、柱頭の先端部は3つに分かれ傘状で外側を向く。基部はやや突出し、果皮とは別組織の灰褐色、径5mm程度の円形で維管束の穴が輪状に並ぶ着点がある。果皮表面は平滑で、浅く微細な縦筋が配列する。果実基部を包む殻斗は、灰褐色、径1-1.2cm、高さ0.5cm程度の椀状で表面には4-6段程度の輪状紋がある。同定根拠となる柱頭を欠損する果実をアカガシ亜属、亜属の判別根拠となる果実頂部の輪状紋を欠損している果実をコナラ属としている。子葉は灰褐色、長さ1cm、径0.8cm程度の広卵体。2枚からなる子葉は極端に不揃いで、合わせ目は球体表面を蛇行して一周する。幼根は頂端からずれた位置にある。表面には、1本の深い溝が基部から頂部に向かい2/3程度まで発達している。子葉は木質で脆く、表面には縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。

・アラカシ (*Quercus glauca* Thunb. ex Murray) ブナ科コナラ属

果実は暗灰褐色、長さ1.4cm、径1cm程度の卵状楕円体。頂部には輪状紋が5-6段確認され、同心円状に薄く肩に広がる。果実頂部から伸びる3花柱は短く太く、柱頭は急に舌状に開く。基部は灰褐色、

径7mm程度の円形で維管束の穴が輪状に並ぶ着点がある。果皮表面は平滑で微細な縦筋がある。

- ・アカガシ亜属 A (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* A)

果実は黒褐色、長さ1.7-2.0cm、径1.2-1.4cm程度の楕円体と、アカガシ亜属では比較的大型である。果実頂部には、殻斗の圧痕である輪状紋が突出し、花柱を欠損する。果皮表面には微細な縦筋があり、平滑な個体や粗い縦縞にみえる凹凸がある個体がみられる。果実基部は切形またはやや突出し、灰褐色、径5.5-6.5mm程度の円形で維管束の穴が輪状に並ぶ着点がある。上記イチイガシ、アラカシ以外のアカガシ亜属と判断される。

- ・スダジイ (*Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatusima ex Yamazaki et Mashiba) ブナ科シイ属

果実は黒褐色、長さ1.5-2cm、径1.2cm程度の卵体。頂部は尖り、基部を占める着点は灰褐色、円状不定形で維管束の穴が不規則な輪状に並ぶ。果皮表面にはコナラ属よりもやや粗い溝が縦列する。なお、径1-1.3cm程度の丸く小さな個体をツブラジイ (*C. cuspidata* (Thunb. ex Murray) Schottky)、両種の区別が困難な破片をシイ属としている。

- ・シリブカガシ (*Lithocarpus glabra* (Thunb. ex Murray) Nakai) ブナ科マテバシイ属

果実は黒灰褐色、楕円体。長さ1.6cm、径1.1cm程度。頂部はやや尖り、基部は切形で着点は径4mm程度の円形で深く凹む。果皮外面は平滑でごく浅く微細な縦筋がある。

- ・クスノキ科 (Lauraceae)

葉は黄灰褐色、葉脚は広い楔形で長さ3.5cm、最大幅2.2cm程度で先端部と葉柄を欠損する。完形ならば卵状楕円形。葉縁は全縁。葉脈は基部近くで分かれた三行脈。クスノキ (*Cinnamomum camphora* (L.) Presl) である可能性が高いが、ヤブニッケイ (*C. insularimontanum* Hayata)、シロダモ (*Neolitsea sericea* (Bl.)), イヌガシ (*N. aciculata* (Bl.) Koidzumi) の可能性もあるため、クスノキ科としている。

- ・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核(内果皮)は灰褐色、長さ2.7cm、幅2.2cm、厚さ1.7cmのやや偏平な広楕円体。頂部は尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1本の明瞭な縦の縫合線が発達し、背面正中線に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状にみえる。脆く、表面は摩耗している。

- ・サジオモダカ属 (*Alisma*) オモダカ科

果実は淡～灰褐色、長さ2.5mm、幅1.7mm、厚さ0.3mm程度のやや偏平な広卵体。基部は切形。背面に深い縦溝が1本走る。果皮は海綿状で中に入る1個の種子が透けてみえる。種子は灰～黒褐色、径0.5mm程度の倒U字状に曲がった円柱状で偏平。種皮は薄く膜状で、表面には縦長の微細な網目模様が配列する。種子のみの検出をオモダカ科 (Alismataceae) としている。

- ・ホッスモ近似種 (*Najas* cf. *graminea* Del.) イバラモ科イバラモ属

種子は淡～灰褐色、長さ1.9-2.2mm、径0.5mm程度の針状長楕円体。両端は細く尖る。種皮は薄く透き通り、表面にはやや縦長の粒状網目模様が縦列する。

- ・ウキヤガラ (*Scirpus fluviatilis* (Torr.) A. Grey) カヤツリグサ科ホタルイ属

果実は灰黒褐色、長さ3.0mm、径1.8mm程度の三稜状狭倒卵体。頂部の柱頭部分はやや伸びて切形。

断面は3角形。基部は切形で、灰褐色、果実とほぼ同長で下向きの逆刺をもつ刺針状花被片が伸びる。果皮はやや厚く表面は粗面。

- ・タガラシ (*Ranunculus sceleratus* L.) キンポウゲ科キンポウゲ属

果実は径1.2mm、厚さ0.5mm程度のやや扁平な広楕円体。果皮表面は粗面。中心部は淡黄褐色でやや凹み、縁は黄白色の海綿状で水に浮きやすい。

- ・ゴハリマツモ (*Ceratophyllum demersum* L. var. *quadrispinum* Makino) マツモ科マツモ属

果実は灰褐色、長さ3.8-4.0mm、径2.3mm、厚さ1.5mm程度のやや扁平な長楕円体。果実頂部に1本、上下に各2本、計5本伸びる長さ2-3mm程度の細長い針状突起を欠損する。果皮はやや厚く表面は粗面。

- ・ヒシ属 (*Trapa*) ヒシ科

果実は灰黄褐色、長さ1.8cm、幅1.4cm、厚さ5mm程度のやや扁平な三角状広倒卵体。果実先端中央部には低い円柱状の子房突起があり、その中心に短い刺がある。両肩と下背腹面に各1本、計4本ある先端部は細かい逆刺をもつ細く長い刺がある。破片は、肩の部分で大きき2mm程度。果皮表面はやや平滑。ヒメビシ (*T. incisa* Sieb. et Zucc.) と思われる。

- ・ミズユキノシタ (*Ludwigia ovalis* Miq.) アカバナ科チョウジタデ属

種子は淡褐色、長さ0.7mm、径0.5mm程度の広楕円体。基部の短い突起の先に臍がある。側面に、淡黄褐色、大きき0.6mm程度の三角形で海綿状の付属体が付く。種皮表面には横長の凹点による微細な網目模様が配列する。

- ・ヒメシロアサザ (*Nymphoides coreana* (Lev.) Hara) ミツガシワ科アサザ属

種子は黄褐色、長さ1.3mm、幅1mm、厚さ0.8mm程度のやや歪なレンズ状広楕円体。基部一端、斜切状に暗褐色、線形の臍がある。種皮は平滑で光沢があり、内奥まで通る微細な粒状網目模様がある。種皮はやや厚く断面は柵状。

(4) 樹種同定

樹種同定結果を表8に示す。木材は針葉樹3分類群(マツ属複維管束亜属、ヒノキ、イヌガヤ)と広葉樹9分類群(エノキ属、ニレ属、ヤマグワ、クスノキ、クスノキ科、サクラ属、ムクロジ、トネリコ属、チシャノキ属)に同定された。なお、No20001、No20115の2点は、道管が認められることから広葉樹であるが、節であったり、保存状態が悪く、壁孔、穿孔板等が観察できないため、種類の同定には至らなかった。また、No20011は広葉樹の樹皮、No20121-3は針葉樹の樹皮で、木部細胞が残っていないため、種類は不明である。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

- ・マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxylon*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-10細胞高。

- ・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや

表8. 樹種同定結果

No	出土遺構	種別	形状	木取り	樹種	備考
20001	SK16	木	節部分	—	広葉樹	枝の直径2.5cm、本体の半径2.5cm以上
20009	SK20	木	節部分	—	マツ属複雑管束亜属	
20011	SK21	木の皮	板状	樹皮	広葉樹の樹皮	
20029	SK33	木	板状	芯持分割材	ヒノキ	炭化
20036	-1 SK35	木	丸木	芯持丸木	クスノキ科	直径2.5×1.5cm
	-2 SK35	木	丸木	芯持丸木	マツ属複雑管束亜属	直径2.5cm
	-3 SK35	木	丸木	芯持丸木	キハダ?	樹皮付・直径1×0.6cm
20094	湿地層(縄文) 粘質シルト2下の腐葉土層	木	丸木	芯持丸木	ヤマグワ	直径5cm
20098	湿地層(縄文) 粘質シルト2下の腐葉土層	木	丸木	芯持丸木	エノキ属	直径4cm
20100	湿地層(縄文) 粘質シルト2下の腐葉土層	木	丸木	芯持丸木	イヌガヤ	直径1cm
20101	湿地層(縄文) 粘質シルト2下の腐葉土層	木	板状	樹皮	タブノキ	
20104	湿地層(縄文) 粘質シルト2下の腐葉土層	木	丸木	芯持丸木	マツ属複雑管束亜属	直径3×2cm
20105	湿地層(縄文) 粘質シルト2下の腐葉土層	木	丸木	芯持丸木	エノキ属	直径7×4cm
20110	湿地層(縄文) 粘質シルト2下の腐葉土層	木	角材状	芯持木	ヒノキ	炭化
20113	湿地層(縄文) 粘質シルト2下の腐葉土層	木	丸木	芯持丸木	トネリコ属	直径6.5×4cm
20115	湿地層(縄文) 粘質シルト2下の腐葉土層	木	根株?	—	広葉樹	大木の一部
20117	-1 湿地層(縄文) 粘質シルト2下の腐葉土層	木	丸木	芯持丸木	クスノキ科	樹皮付・直径3cm
	-2 湿地層(縄文) 粘質シルト2下の腐葉土層	木	丸木	芯持丸木	エノキ属	樹皮無・直径5cm
	-3 湿地層(縄文) 粘質シルト2下の腐葉土層	木	丸木	芯持丸木	イヌガヤ	樹皮無・直径2cm
20120	湿地層(縄文) 粘質シルト1～2間	木	丸木	芯持丸木	クスノキ科	直径6cm
20121	-1 湿地層(縄文) 粘質シルト1～2間 腐葉土層	木	丸木	芯持丸木	クスノキ科	直径5×2.8cm
	-2 湿地層(縄文) 粘質シルト1～2間 腐葉土層	木	丸木	芯持丸木	サクラ属	樹皮付・直径2.5cm
	-3 湿地層(縄文) 粘質シルト1～2間 腐葉土層	木	板状	樹皮	針葉樹の樹皮	
20122	湿地層(縄文) 粘質シルト1～2間 腐葉土層	木	丸木(二又)	芯持丸木	エノキ属	直径3cm
20124	湿地層(縄文) 粘質シルト1～2間 腐葉土層	木	丸木	芯持丸木	マツ属複雑管束亜属	直径5cm
20125	湿地層(縄文) 粘質シルト1～2間 腐葉土層	木	丸木	芯持丸木	ヒノキ	直径3cm
20126	湿地層(縄文) 粘質シルト1～2間 腐葉土層	木	丸木	芯持丸木	ムクロジ	樹皮付・直径3.5cm
20136	湿地層(縄文) 粘質シルト1内	木	棒状	半裁状	チシャノキ属	直径4.5cm
20140	湿地層(縄文) 粘質シルト1内	木	ウロ部分?	—	クスノキ	
20156	湿地層(弥生) 緑黒色粘質シルト	木	丸太?	芯持木	マツ属複雑管束亜属	AMSと同一
20157	湿地層(縄文) 粘質シルト2下の腐葉土層	木	丸太	芯持丸木	クスノキ科	直径30cm以上
20158	湿地層(縄文) 粘質シルト2下の腐葉土層	木	丸太	芯持丸木	ヒノキ	
20159	湿地層(弥生) 黒色粘質シルト	木	根株?	—	ヒノキ	

急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1-3個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・イヌガヤ (*Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K. Koch f.) イヌガヤ科イヌガヤ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され、分野壁孔はヒノキ型で1分野に1-2個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・エノキ属 (*Celtis*) ニレ科

環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合し接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高で鞘細胞が認められる。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poiret) クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は3-5列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部では単独または2-4個が複合して斜方向に配列し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。

・クスノキ (*Cinnamomum camphora* (L.) Presl) クスノキ科ニッケイ属

散孔材で、道管径は比較的大径、管壁は薄く、横断面では楕円形、単独または2-3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。柔組織は周囲状～翼状。柔細胞には油細胞が顕著に認められる。

・クスノキ科 (Lauraceae)

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2-3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が顕著に認められる。

上記、クスノキを除くクスノキ科のいずれかと考えられるが、同定には至らず、クスノキ科とした。

・ムクロジ (*Sapindus mukorossi* Gaertn.) ムクロジ科ムクロジ属

環孔材で、孔圏部は1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合して配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-40細胞高。柔組織は周囲状～連合翼状、帯状およびターミナル状。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-30細胞高。

・チシャノキ属 (*Ehretia*) ムラサキ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、多数が塊状に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-5細胞幅、1-40細胞高。

環孔材になる特徴から、チシャノキあるいはマルバチシャノキと考えられる。

4. 考察

(1) 堆積環境

結果でも述べたように Loc.1a では、試料番号1～8、9～10、11～12、13～30、Loc.1b では、試料番号31～35、36～37、38～43、44～46、47～50で群集に違いが認められた。入江に面しているにも関わらず、全試料を通して海水～汽水域に生育する珪藻類の産出がほとんど見られず、淡水生種を主体とした組成になっているのが特徴である。この結果から、後背の山地から流れ込む河川の影響を強く受けていることが推定される。

試料番号1～8は、*Pseudostaurosira brevistriata*、*Staurosira venter*などの好+真止水性種が優占することから、池沼のような安定した止水域の水域環境が推定される。また、水質的には、好塩性種

が多産することから、塩類の豊富な水域で汚濁に対しては広域適応性種が多産したことから中程度に汚濁した中栄養の水域で、水素イオン濃度的には好+真アルカリ性種が優占したことからアルカリ性であったと考えられる。

試料番号9～10は、好+真止水性種と流水不定性種によって特徴付けられ、乾いた環境にも耐性のある陸生珪藻も多産したことから、池沼～沼沢地のような水域環境が推定される。水質的には、中栄養で弱アルカリ性であったと思われる。

試料番号11～12は、*Eunotia minor*を始めとする沼沢湿地付着生種群が多産したことから、沼沢地～湿地のような湿潤な環境が推定される。水質的には、好+真酸性種とpH不定性種が多産したことから中性～弱酸性であったと思われる。

試料番号13～30は、陸生珪藻B群であり好汚濁性種でもある*Diadlesmis confervacea*が優占あるいは多産すること、沼沢湿地付着生種群も伴うことなどから、乾燥することもある沼沢または湿地のような湿潤な環境が推定される。また、中～下流性河川指標種や汽水生種、海水～汽水生種も産出したことから、流水の流れ込みによる二次堆積もあった可能性がある。

試料番号31～35は、沼沢湿地付着生種群や湿地に多く生息する*Pinnularia*属が多産したことから、沼沢あるいは湿地のような水域環境が推定される。

試料番号36～37は、電解質成分の少ない貧栄養の泥炭池に出現する*Aulacoseira crassipunctata*が特徴的に多産することから、水生植物が繁茂し泥炭が発達するような水深の浅い腐植酸性の水域が推定される。

試料番号38～43は、泥炭池に出現する*Aulacoseira crassipunctata*や*Amphora copulata*、*Diploneis ovalis*、*Diploneis parma*などの流水不定性種が多産し、沼沢湿地付着生種群を伴う。よって、泥炭が形成されるような湿地あるいは沼沢地の水域環境が推定される。

試料番号44～46は、強酸性の水域に生息する*Nitzschia aff. vasta*が特徴的に優占することから、酸性水域が形成されたと考えられる。ただし、水域の様態については、流水に対する適応性が不明であることから明言することが出来ない。

試料番号47～50は、産出化石が少なかったことから珪藻化石の生態的特徴から堆積環境について検討することは困難であった。ただし、少ないながらも水生化石が産出したことから、水成堆積した可能性が指摘される。

(2)Loc.1a 東断面下部の古植生

縄文時代の遺物包含層であるLoc.1aの花粉分析結果をみると、最下層の試料番号1～9では木本類の占める割合が高いが、上位の試料番号8、9では木本花粉の割合がやや低くなる。花粉化石では、針葉樹のマツ属、常緑広葉樹のコナラ属アカガシ亜属、落葉広葉樹のニレ属一ケヤキ属、エノキ属一ムクノキ属等が多く認められる。マツ属のうちで亜属まで同定できたものは、全て複維管束亜属であった。同試料の種実分析では、複維管束亜属の葉が検出されており、試料番号4から抽出した1点の組織観察からクロマツが含まれていることが明らかとなっている。クロマツは、海岸砂丘においてマツ林を形成することから、周囲の砂丘上にクロマツが生育していたことが推定される。

また、アカガシ亜属やシイ属は、暖温帯性常緑広葉樹林の主要構成要素であり、後背の山地に生育していたことが推定される。種実の結果をみると、アカガシ亜属にはイチイガシを主体にアラカシが混じる組成が見られ、少なくとも2種が分布していたことが推定される。このうち、アラカシは二次林構成種である。また、シイ属については、種実でスダジイとツブラジイが確認され、2種が混在していたことが推定される。キハダ属、エゴノキ属等の落葉広葉樹やノブドウ属等のつる植物は、林縁部の植生を反映する種類であり、遺跡周辺の林縁部などに生育していたことが推定される。ニレ属－ケヤキ属、エノキ属－ムクノキ属等は、河畔などの適湿地に林分を形成する種を含む分類群であり、河川沿いに林分を形成していたと推測される。

草本類は、少ないながらも、イネ科、カヤツリグサ科、サナエタデ節－ウナギツカミ節、ヨモギ属等が認められる。これらは、開けた明るい場所に生育する種を含むことから、林縁部などに生育していたと考えられる。また、ガマ属、サジオモダカ属、ヒシ属、ゴキヅル属等の水湿地生草本、クンシヨウモ属などの水生藻類も検出される。イネ科やカヤツリグサ科にも水湿地に生育する種が含まれることから、周辺にこれらの草本類・藻類が生育する水湿地の存在が窺え、珪藻分析から池沼とされる結果とも調和的である。

試料番号10～25については、認められる木本類の種類構成に大きな変化は認められないが、上位になるほどニレ属－ケヤキ属、エノキ属－ムクノキ属が減少し、マツ属が増加する傾向が認められる。特に試料番号21～25では、ニレ属－ケヤキ属、エノキ属－ムクノキ属は極わずかししか検出されない。一方、草本類はその割合が増加し、ガマ属、カヤツリグサ科が多産し、イネ科、ゴキヅル属等を伴う。これらは、水湿地に生育する種が含まれる他、水生植物のミクリ属、サジオモダカ属、ハス属、ヒシ属、水生藻類のクンシヨウモ属も検出されることから、試料番号8～25堆積時には、これらの草本類が生育する水湿地が多く認められた可能性がある。特に試料番号8～10では水深のある場所に生育するハス属が認められることから、珪藻化石と同様に池沼のような環境が想定される。

一方、種実遺体分析からは、試料番号2～20にかけて水湿地生植物から成る草本類主体で、沈水植物のホッスモ近似種、沈水性浮遊植物のゴハリマツモ、マツモ属、沈水性～浮葉性植物のヒルムシロ属、浮葉植物のヒシ属、ヒメシロアサザ、抽水植物のミクリ属、ウキヤガラ、ホタルイ属、抽水性～湿生植物のサジオモダカ属、オモダカ科、アゼスゲ類、スゲ属、シンジュガヤ属、沈水または湿生植物のミズユキノシタ、湿生植物のタガラシが確認された。ゴハリマツモは、現在極めて稀な種である。その他に、湿生～中生植物のイネ科、カヤツリグサ科、タデ属、アカザ科、カタバミ属が確認された。これらは、花粉化石から検出される群集組成とも調和的である。また、これらの水生植物主体の種実遺体群集からみた当時の堆積場は、水深が存在する水湿地環境と推定され、珪藻分析の結果とも一致する。水深は、抽水植物が生育可能な約1m以内から、浮葉植物が生育可能な約2m以内、沈水植物が生育可能な約3m以内程度まで存在したことが考えられる。また、試料番号18-20におけるタガラシの多産と、試料番号9、7・8、5・6、4、2・3におけるヒシ属、ホッスモ近似種の出現、試料番号2・3におけるホッスモ近似種の多産とタガラシの減少傾向は、水域環境の変化を反映しているものと考えられる。木本は、常緑高木のクロマツ、マツ属複雑管束亜属、常緑または落葉高木のブナ科、常緑低木のヒサカキ属、河畔林要素で落葉高木のムクノキ、イイギリ、ミズキ属、落葉(小)高木のク

ワ属、カジノキ、アカメガシワ、常緑または落葉低木のキイチゴ属、落葉低木のカラスザンショウ、イヌザンショウ、落葉つる性木本のシマサルナシなどが確認された。これらの分類群は、花粉分析結果とも調和的である。

なお、花粉分析と種実分析を比較すると、アカメガシワ属の花粉化石がほとんど産出しない試料番号12-14でアカメガシワの種実が多数検出され、アカメガシワの種実が全く検出されなかった試料番号18でアカメガシワ属の花粉が多数産出する状況がみられる。アカメガシワ属は、雌雄異株であることから、花粉と種実の検出状況の違いは、各試料堆積時の雄株・雌株の分布状況や花粉と種実のタフオノミーの違い等を反映している可能性がある。

試料番号26～30では、木本類ではマツ属が優占し、アカガシ亜属、シイ属等を伴う。草本類ではそれまでは少なかったイネ科が多く産出するようになり、ガマ属、カヤツリグサ科、サナエタデ節ーウナギツカミ節、ヨモギ属等を伴う。イネ科花粉の一部について観察したところ、イネ属が含まれていることが確認できた。水田・畦畔等の遺構は確認されていないが、周囲で稲作が行われていた可能性があり、今後土壌中の炭化物などを用いた年代測定などを行って稲作開始時期の年代を明らかにする必要がある。周囲の低地では、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、ヒシ属、アカウキクサ属等が生育する水湿地の存在も窺える。また、後背山地には、アカガシ亜属、シイ属等の常緑広葉樹林を主体にマキ属等の針葉樹を伴う植生が継続してみられたと考えられるが、マツ属の生育範囲が拡大した可能性がある。

(3)Loc.1b 東断面下部の古植生

弥生時代を主体に古墳時代までの遺物が包含されるLoc.1bの試料番号31～40では、Loc.1aの試料番号26～30と同様の傾向が認められ、木本類ではマツ属を主体とし、アカガシ亜属、シイ属等の常緑広葉樹、モミ属、スギ属等の針葉樹を伴うことから、森林植生に大きな変化はなかったと考えられる。一方、草本類も同様にイネ科が多産し、カヤツリグサ科、サナエタデ節ーウナギツカミ節、ヨモギ属等が検出され、これらの草本類が生育する草地環境が想定される。また、多産するガマ属をはじめ、サジオモダカ属、オモダカ属、スブタ属、イボクサ属、ミズアオイ属、デンジソウ属、アカウキクサ属、クンショウモ、シャジクモ類等の、水生及び湿地生の草本類・シダ類・藻類も多く認められ、周囲の水湿地を反映していると考えられる。

古代の遺物包含層である試料番号41～43も、試料番号31～40と同様の傾向が見られ、似たような植生がみられたと考えられる。

古代を主体に、中世までの遺物が含まれる試料番号44～50では、試料番号44、45で古植生推定を行えるだけの花粉化石が検出されなかった。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壤微生物によって分解・消失するとされている(中村,1967;徳永・山内,1971;三宅・中越,1998など)。珪藻分析の結果からは酸性な水域が推定されているが、わずかに認められる花粉化石の産状が悪いことから、堆積後の経年変化により分解・消失したと推測される。

試料番号46～50にかけては、群集組成はかなり極端になり、木本類ではマツ属が、草本類ではイネ科が優占する。検出される花粉化石の保存状態は、試料番号44、45を除くこれまでの試料と比較

するとやや悪い。花粉やシダ類胞子は、腐蝕に対する抵抗性が種類により異なり、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている(中村,1967;徳永・山内,1971;三宅・中越,1998など)。その他に検出される木本類・草本類においても、比較的分解に強い花粉や、分解が進んでも同定可能な花粉が検出されていることから、経年変化による分解の影響により、選択的にマツ属やイネ科が多く残された可能性もある。少なくとも、当時の周辺に、海岸林や二次林としてのマツ属、アカガシ亜属等の常緑広葉樹、イネ科、ヨモギ属等の草本植物が存在したと考えられる。なお、植物利用の可能性としては、栽培種であるツバ属が試料番号47で検出される。

(4) 自然木

自然木と考えられる木材については、花粉や種実の層序との関係が不明瞭である。これらの木材には、針葉樹3分類群(マツ属複維管束亜属、ヒノキ、イヌガヤ)と広葉樹9分類群(エノキ属、ニレ属、ヤマグワ、クスノキ、クスノキ科、サクラ属、ムクロジ、トネリコ属、チシャノキ属)が認められており、花粉分析や種実分析結果と調和的な分類群が多いが、花粉分析や種実で多く見られたアカガシ亜属やシイ属などの常緑広葉樹が全く認められない。この結果から、木材は、河畔林など局所的な要素を強く反映していることが推定される。なお、クスノキ科は、花粉では残りにくい分類群であるが、木材の結果からクスノキとクスノキ以外のクスノキ科の少なくとも2分類群が生育していた可能性がある。クスノキ科については、直径30cmを超える個体も見られ、高木となる種類が含まれていることが推定される。

(5) 各遺構における植物利用

各遺構から採取されたどんぐり類を主体とする単体試料は、イチイガシなどのコナラ属アカガシ亜属主体で、アラカシ(SK28、SK35)、アカガシ亜属A(SK18、SK19、SK23、SK30)が混じる遺構も確認された。SK33、試料番号20046では、シイ属スダジイ、ツブラジイの多産が確認された。試料番号20051ではマテバシイ属シリブカガシが1個確認された。出土部位は、果実が圧倒的に多く、殻斗や果実内部の子葉も確認された。これらの分類群は、適潤地からやや湿潤な場所や降水量の多い地域に極相林として発達する常緑高木である。また、果実内部の子葉が食用可能で収量も多く、植物質食糧として有用である(渡辺,1975)。これらの出土どんぐり類は、本遺跡周辺域の谷沿いなどに生育していた親植物から成熟果実を採取し、遺構内に貯蔵していた食用前の段階と示唆される。また、イチイガシ、スダジイ、ツブラジイの子葉は生食可能で、イチイガシ以外のアカガシ亜属とはあく抜きを要することから、出土分類群の遺構間差異は、調理工程の違いを反映していると考えられる。

どんぐり類のほかには、栽培種のモモの核が1個確認され(試料番号20055)、当時の利用が推定される。また、木本は常緑高木のマツ属複維管束亜属、カヤ、クスノキ科、ヤブツバキ、常緑低木のイヌガヤ、落葉(小)高木のアカメガシワ、カラスザンショウ、イヌザンショウ、エゴノキが確認された。これらの樹種は、前述のように本遺跡周辺域に分布する常緑広葉樹林の林内や、河畔林や林縁部などの比較的明るい場所に生育していたものに由来すると考えられる。カヤ、イヌガヤ、ヤブツバキは種

子が食用や油料に利用可能な有用植物である。これらの出土種子自体に利用の痕跡は認められないが、上記のどんぐり類とともに当時利用されていた可能性に触れておく。草本は、水生植物のホッスモ近似種、ミクリ属、アゼスゲ類、ヒシ属と中生植物のナデシコ科が確認されたことから、遺構周辺の水湿地環境に由来すると考えられる。

(6) 木材利用

出土した木材は、自然木と考えられる芯持丸木が多いが、加工痕や火を受けた痕跡(炭化)など、人間の利用の痕跡が認められる木材も含まれている。利用の可能性がある木材は、いずれも針葉樹のヒノキに同定された。ヒノキの木材は、木理が通直で割裂性が高く、加工は容易である。何らかの木製品に利用され、一部は火を受けていたことも推定される。ヒノキは、自然木と考えられる木材にも認められており、後背山地などで木材が入手できた可能性がある。

II. 黒色硬化土壌の由来

1. 試料

試料は、黒色硬化土壌(Mnサンプル)1点である。肉眼的には砂礫を多含する黒灰色を呈する土壌であり、やや硬化している。蛍光X線分析と薄片作製・鑑定を実施する。

2. 分析方法

(1) 蛍光X線分析

本調査では黒色硬化面のほか、灰褐色非硬化面についても測定を実施する。調査に用いた装置はセイコーインスツルメンツ(株)製エネルギー分散型蛍光X線分析装置(SEA2120L)である。なお、本装置は下面照射型の装置であるため、測定はマイラー膜(2.5 μ m)(ケンプレックス製CatNo106)を介している。

表9. 蛍光X線分析の測定条件

測定装置	SEA2120L	
管球ターゲット元	Rh	
コリメータ	ϕ 10.0mm	
フィルター	なし	
マイラー	ON	
雰囲気	真空	
励起電圧(kV)	15	50
管電流(μ A)	自動設定	自動設定
測定時間(秒)	300	300
定性元素	Na~Ca	Sc~U

得られた特性X線スペクトルは元素定性を実施した後、マイラー膜による吸収補正を施し、FP法(ファンダメンタルパラメーター法)を用いたスタンダードレス分析により定量演算を行い、相対含有率(質量%)を求める。なお、本装置による定量可能元素は $_{11}\text{Na}$ から $_{92}\text{U}$ の範囲にある元素であるため、これら範囲外の元素についてはFP法による定量演算に利用することが出来ないこと、また算出された結果は半定量的なものであることに留意しておく必要がある。本調査における測定条件の詳細を表9に示す。

(2) 薄片作製鑑定

薄片観察は、試料を0.03mmの厚さに研磨して薄片にし、顕微鏡下で観察すると、構成する鉱物の大部分は透光性となり、鉱物の性質・組織などが観察できるようになるということを利用している。

薄片を作成するため、試料をダイヤモンドカッターにより22×30×15mmの直方体に切断し、薄片用のチップとする。そのチップをプレパラートに貼り付け、#180~#800の研磨剤を用いて研磨機上で厚さ0.1mm以下まで研磨する。さらに、メノウ板上で#2500の研磨剤を用いて正確に0.03mmの厚さに調整する。プレパラート上で薄膜状となった試料の上にカバーガラスを貼り付け、

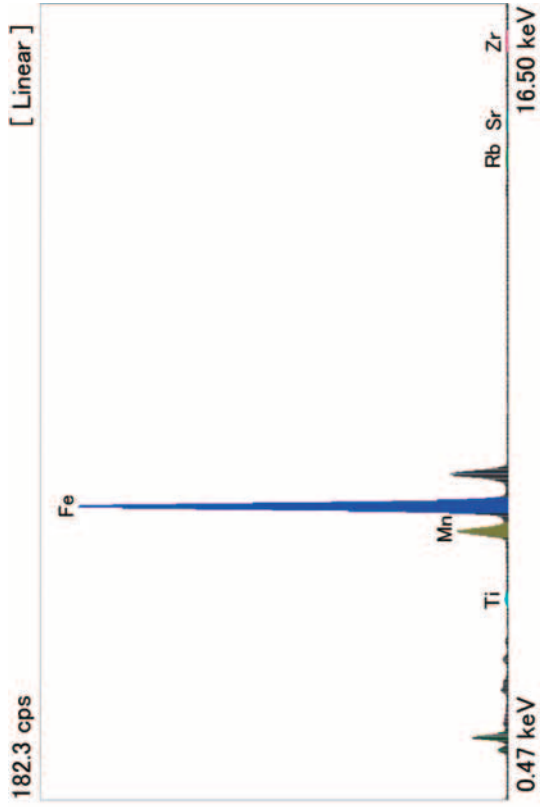


図5. Mnサンプル黒色硬化面の蛍光X線スペクトル(左:励起電圧15kV、右:50kV)

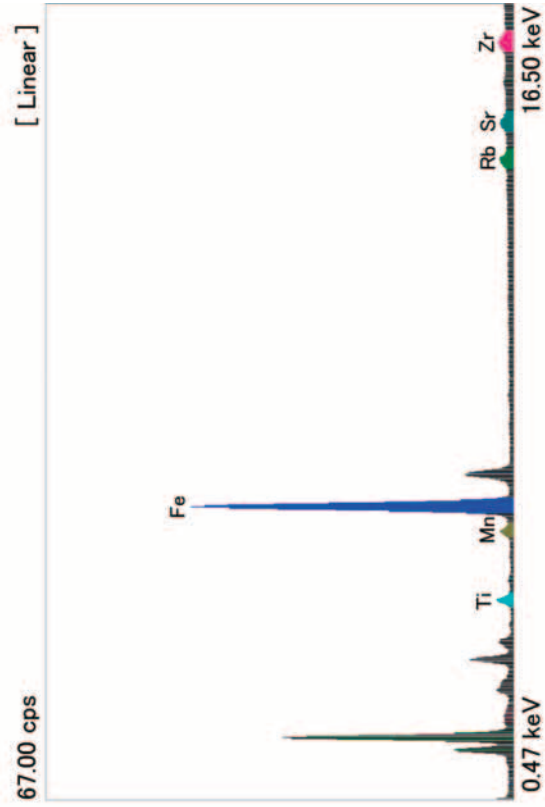


図6. Mnサンプル灰褐色非硬化面の蛍光X線スペクトル(左:励起電圧15kV、右:50kV)



薄片の完成品とする。薄片は偏光顕微鏡を使用し、下方ポーラーおよび直交ポーラー下において観察する。

3. 結果

(1) 蛍光X線分析

蛍光X線スペクトルを図5、6に、FP法により求めた化学組成を表10に示す。黒色硬化面では、灰褐色非硬化面と比較してFe(鉄)とMn(マンガン)が濃集し、他の検出元素は相対的に減少する。黒色硬化土壌の形成にFeとMnが関与していることは明らかである。

(2) 薄片作製鑑定

薄片は、偏光顕微鏡下において観察記載を行った。鏡下における量比は、薄片上の観察面全体に対して、多量(◎:>50%)、中量(○:20~50%)、少量(△:5~20%)、微量(+:<5%)およびきわめて微量(±:<1%)という基準で目視により判定した。代表的な個所については下方ポーラーおよび直交ポーラー下において写真撮影を行い、写真図版として添付した。以下に鏡下観察結果を述べる。

Mnサンプルは中粒砂~中礫サイズの碎屑片を中量~多量含む礫混じり粗粒砂であり、淘汰は不良である。碎屑片は角礫状~亜円礫状を呈し、変形作用を受けた花崗岩が主体となっており、中量程度含まれる。花崗岩には、マイロナイト化しているものもあり、変形・細粒化した石英が集合して脈石英となっているものも認められる。碎屑片としてはこの他に、石英、カリ長石、斜長石、白雲母、黒雲母、角閃石、ざくろ石、風化粒子なども伴われる。

基質は少量のシルト・粘土で埋められており、その大半は水酸化鉄および粘土鉱物からなる。水酸化鉄は、粘土鉱物と共生して碎屑片の粒間を埋めているが、基質には径0.1~2mm大の不定形を呈する孔隙が少量~中量程度分布している。孔隙の壁には黒色の不透明鉱物が付着している。不透明鉱物は、水酸化鉄と共生し、基質中にも局所的に濃集して点在している。

表10. 蛍光X線分析結果(化学組成)

試料名	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Rb	Sr	Zr	
Mnサンプル	黒色硬化面	34.67	0.46	17.69	38.94	4.77	1.77	0.27	0.10	1.27	0.03	0.02	0.01
	灰褐色非硬化面	59.15	0.97	25.09	7.24	0.28	2.63	0.72	0.17	3.67	0.03	0.03	0.02

(単位:wt%)

4. 考察

Mnサンプルとされる試料の黒色硬化面および灰褐色非硬化面を対象とした蛍光X線分析の結果、灰褐色非硬化面に対して黒色硬化面では、Fe(鉄)とMn(マンガン)の濃度がきわめて高いということが明らかとなった。黒色硬化面におけるFe₂O₃は38.9wt%、MnOは4.8wt%となっている。鏡下観察の結果を考慮すると、Feが高い要因は、基質の大部分を構成する水酸化鉄によるものと判断される。一方のMnは、孔隙の壁を縁取って分布したり、基質中に点在する黒色不透明鉱物に起因していると推測される。

基質中に多量に分布する水酸化鉄は、その産状から鉱物片として含まれる黒雲母の酸化(風化)により生成したものと考えられる。鉱物片として認められる黒雲母は著しく酸化しており、それに加え、花崗岩岩片中の黒雲母も少なからず酸化し、水酸化鉄がクラックを通じて拡散する産状が認められる。黒雲母の酸化には、水が関与したとみられるが、熱水変質による変質鉱物は認められないことから、

地表付近における地下水などの水が関与していたものと推測される。

一方のMnについては、一般にマンガンはpHと酸化還元電位(Eh)により著しく変動し、pH8以下(Eh 500mV以下)では水溶性のMn²⁺として存在し、pH8以上ではMn⁴⁺に自然酸化されて酸化物Mn₃O₄、MnO₂、炭酸塩MnCO₃、珪酸塩MnSiO₃などになることが知られている(若尾, 1997)。分析した試料においても、還元状態で生成したMn²⁺が地下水などに伴って移動し、再び酸化状態となることで沈殿集積したといったプロセスも考えられる。しかし、鏡下における産状からその成因を特定することは難しいと判断される。

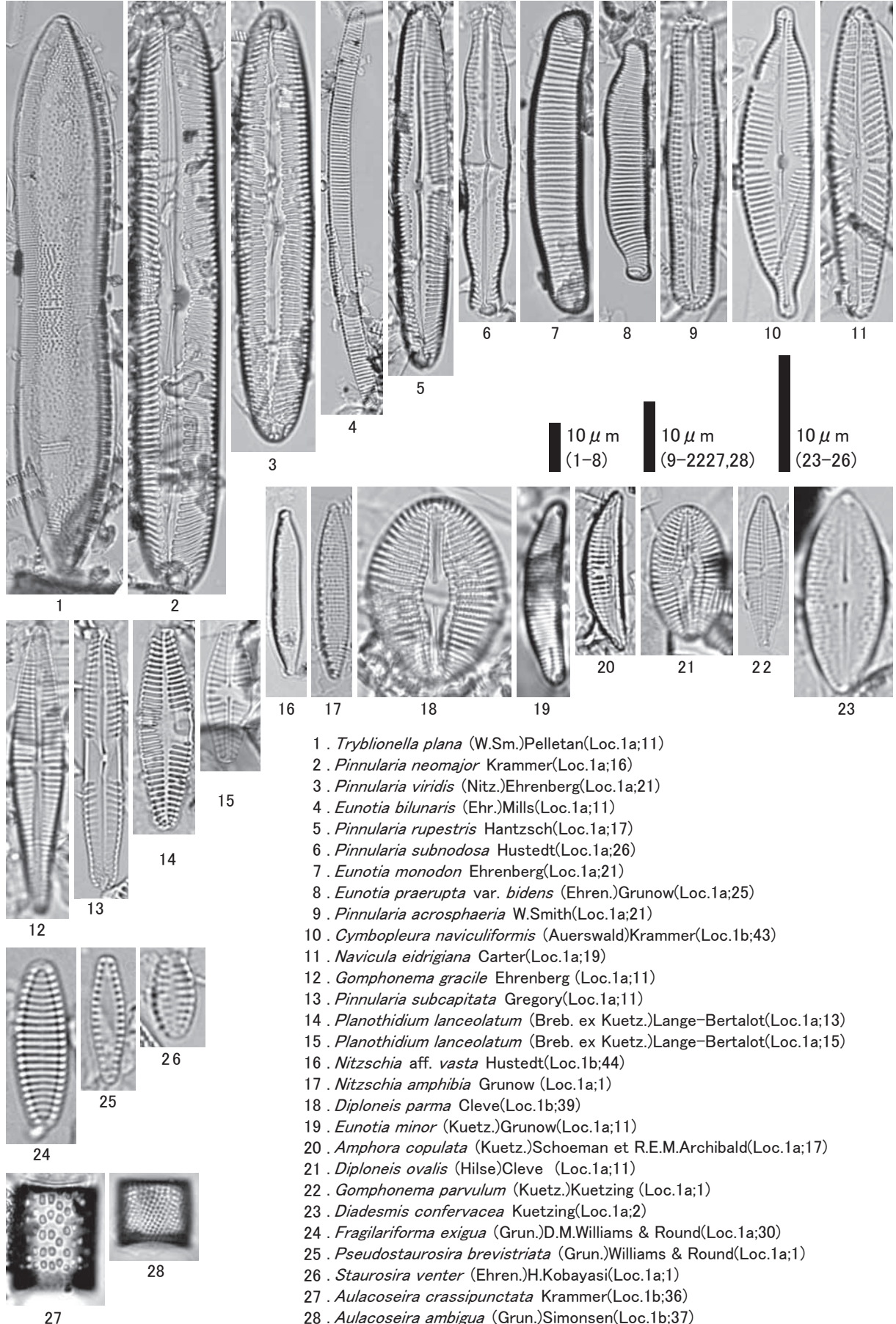
FeおよびMnの生成過程についてのこれ以上の詳細な検討は難しいが、上に示した状況から本土壤試料の硬化には、少なくとも碎屑片の粒間を埋めている水酸化鉄、粘土鉱物およびマンガン物質が関与していることが窺える。

引用文献

- 安藤一男,1990,淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用.東北地理,42,73-88.
- Asai, K. & Watanabe, T.,1995,Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2)Saprophilous and saproxenous taxa. *Diatom*,10, 35-47.
- DeNicola, D.M.,2000,A review of diatoms found in highly acidic environments.*Hydrobiologica*,433,111-122.
- 濱野周泰,2005,原寸図鑑葉っぱでおぼえる樹木. 柏書房,334p.
- 原口和夫・三友清史・小林 弘,1998,埼玉の藻類 珪藻類.「埼玉県植物誌」,埼玉県教育委員会,527-600.
- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- Hustedt, F.,1937-1939,*Systematische und ökologische Untersuchungen über die Diatomeen-Flora von Java,, Bali und Sumatra*. Archiv für Hydrobiologie, Supplement,15:131-177,15:187-295,15:393-506,15:638-790,16:1-155,16:274-394.
- 石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑,石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
- 伊藤ふくお,2001,どんぐりの図鑑,北川尚史監修,トンボ出版,79p.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊藤良永・堀内誠示,1991,陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用.珪藻学会誌,6,23-45.
- 小杉正人,1988,珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用.第四紀研究,27,1-20.
- 小林 弘・出井雅彦・真山茂樹・南雲 保・長田啓五,2006,小林弘珪藻図鑑.第1巻,(株)内田老鶴圃,531p.
- Krammer, K.,1992,*PINNULARIA.eine Monographie der europäischen Taxa.BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26*. J.CRAMER,353p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1986,*Bacillariophyceae.1.Teil: Naviculaceae. In: Suesswasserflora von Mittel-europa.Band2/1*. Gustav Fischer Verlag,876p.

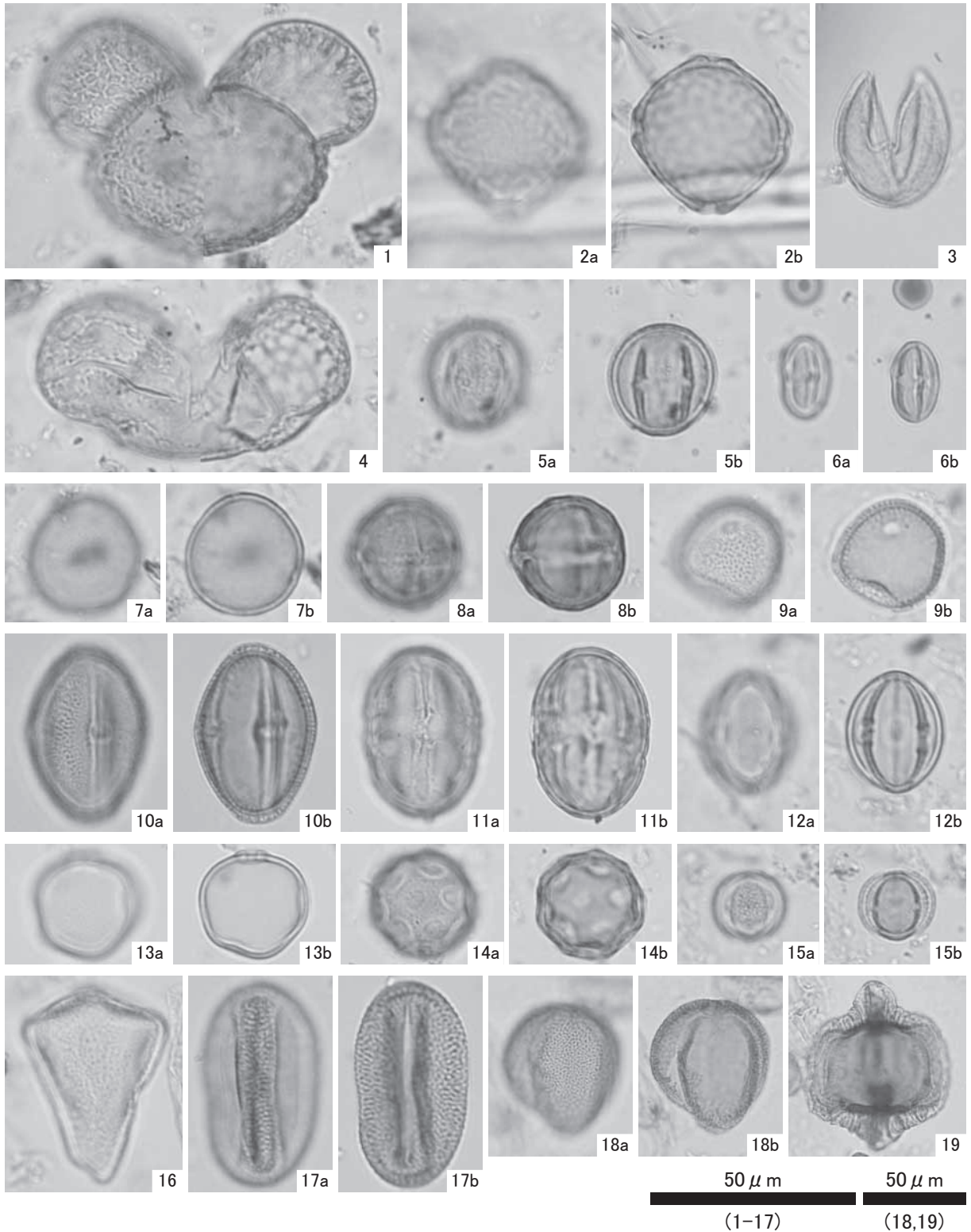
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1988, *Bacillariophyceae. 2. Teil: Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band 2/2.* Gustav Fischer Verlag, 536p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1991a, *Bacillariophyceae. 3. Teil: Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band 2/3.* Gustav Fischer Verlag, 230p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H., 1991b, *Bacillariophyceae. 4. Teil: Achnantheaceae, Kritische Ergänzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band 2/4.* Gustav Fischer Verlag, 248p.
- Lange-Bertalot, H., 2001, *Navicula sensu stricto 10 genera separated from Navicula sensu lato, Frustulia.* 526pp. *In: Lange-Bertalot, H. (ed.) Diatoms of Europe: Diatoms of the European Inland Waters and Comparable Habitats* 2. A.R.G. Gantner Verlag K.G., Ruggell.
- Lowe, R.L., 1974, *Environmental Requirements and Pollution Tolerance of Fresh-water Diatoms.* 334p. *In: Environmental Monitoring Ser. EPA Report 670/4-74-005. Nat. Environmental Res. Center Office of Res. Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinnati.*
- 三宅 尚・中越信和, 1998, 森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態. 植生史研究, 6, 15-30.
- 中村 純, 1967, 花粉分析. 古今書院, 232p.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑, 東北大学出版会, 642p.
- 岡本素治, 1973, どんぐりのはなし (3). Nature Study, 19(8), 大阪市立自然科学博物館編, 大阪自然科学研究会, 7-10.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘 (日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].
- Round, F. E., Crawford, R. M. & Mann, D. G. 1990, *The diatoms. Biology & morphology of the genera.* 747p. Cambridge University Press, Cambridge.
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
- 田中正昭, 2002, 日本淡水産動植物プランクトン図鑑. 584p.
- 徳永桂子, 2004, 日本どんぐり大図鑑. 偕成社, 156p.
- 徳永重元・山内輝子, 1971, 花粉・胞子. 化石の研究法, 共立出版株式会社, 50-73.
- Vos, P.C. & H. de Wolf, 1993, Diatoms as a tool for reconstructing sedimentary environments in coastal wetlands; methodological aspects. *Hydrobiologica*, 269/270, 285-296.
- 渡辺仁治・浅井一視・大塚泰介・辻 彰洋・伯耆晶子, 2005, 淡水珪藻生態図鑑. 内田老鶴圃, 666p.
- 柳沢幸夫, 2000, 計数・同定. 「化石の研究法—採集から最新の解析法まで—」, 化石研究会, 共立出版株式会社, 49-50.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].
- Witkowski, A., & Lange-Bertalot, H. & Metzeltin, D., 2000, *Iconographia Diatomologica 7. Diatom flora of Marine coast* 1. A.R.G. Gantner Verlag K.G., 881p.
- 若尾紀夫, 1997, 重金属の形態変化と土中微生物, 「土の環境圏」, 株式会社フジ・テクノシステム, 313-319.
- 渡辺 誠, 1975, 縄文時代の植物食. 雄山閣出版, 187p.

图版1 珪藻化石



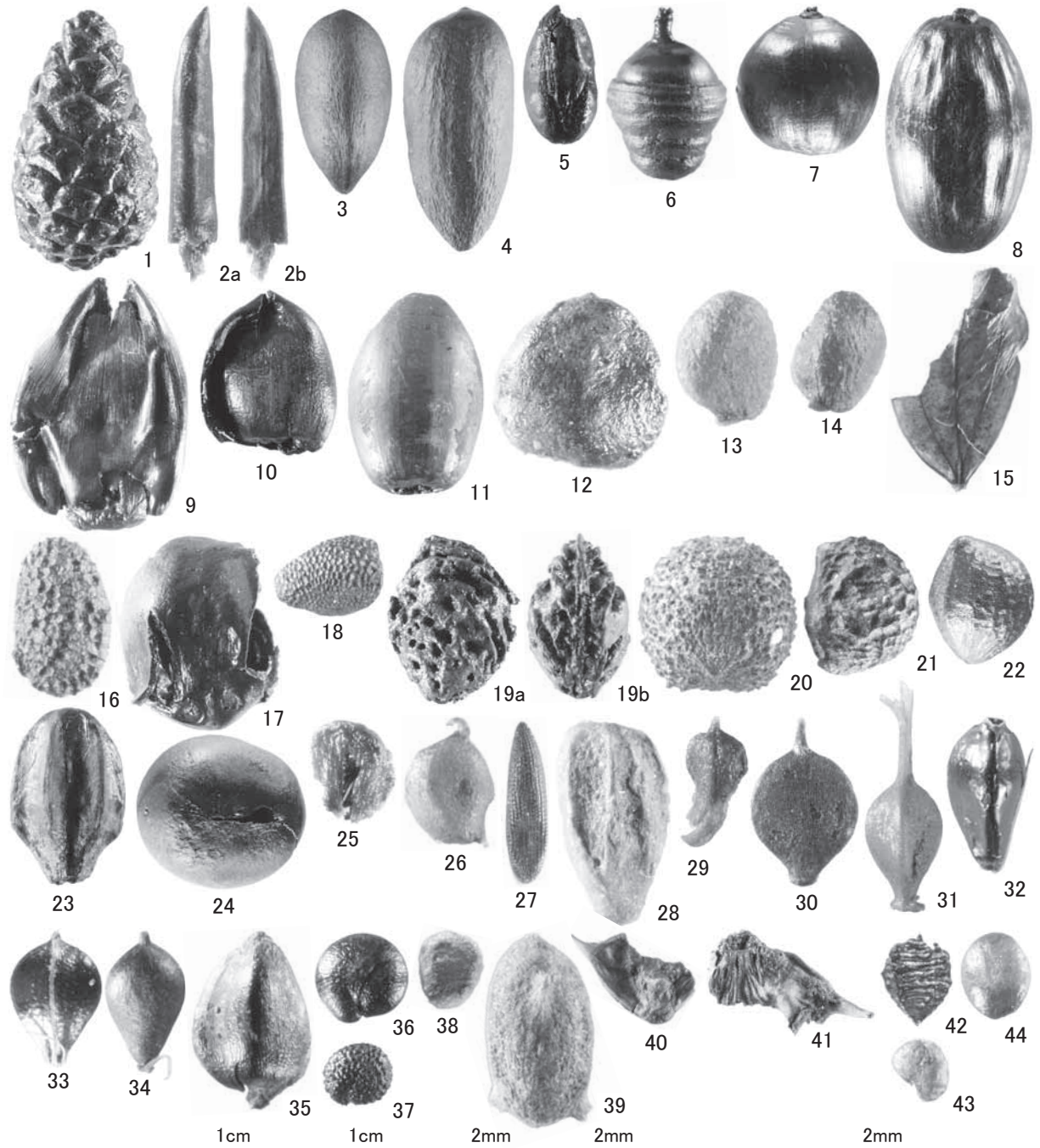
1. *Tryblionella plana* (W.Sm.)Pelletan(Loc.1a;11)
2. *Pinnularia neomajor* Krammer(Loc.1a;16)
3. *Pinnularia viridis* (Nitz.)Ehrenberg(Loc.1a;21)
4. *Eunotia bilunaris* (Ehr.)Mills(Loc.1a;11)
5. *Pinnularia rupestris* Hantzsch(Loc.1a;17)
6. *Pinnularia subnodosa* Hustedt(Loc.1a;26)
7. *Eunotia monodon* Ehrenberg(Loc.1a;21)
8. *Eunotia praerupta* var. *bidens* (Ehren.)Grunow(Loc.1a;25)
9. *Pinnularia acrosphaeria* W.Smith(Loc.1a;21)
10. *Cymbopleura naviculiformis* (Auerswald)Krammer(Loc.1b;43)
11. *Navicula eidrigiana* Carter(Loc.1a;19)
12. *Gomphonema gracile* Ehrenberg (Loc.1a;11)
13. *Pinnularia subcapitata* Gregory(Loc.1a;11)
14. *Planothidium lanceolatum* (Breb. ex Kuetz.)Lange-Bertalot(Loc.1a;13)
15. *Planothidium lanceolatum* (Breb. ex Kuetz.)Lange-Bertalot(Loc.1a;15)
16. *Nitzschia* aff. *vasta* Hustedt(Loc.1b;44)
17. *Nitzschia amphibia* Grunow (Loc.1a;1)
18. *Diploneis parva* Cleve(Loc.1b;39)
19. *Eunotia minor* (Kuetz.)Grunow(Loc.1a;11)
20. *Amphora copulata* (Kuetz.)Schoeman et R.E.M.Archibald(Loc.1a;17)
21. *Diploneis ovalis* (Hilse)Cleve (Loc.1a;11)
22. *Gomphonema parvulum* (Kuetz.)Kuetzing (Loc.1a;1)
23. *Diadesmis confervacea* Kuetzing(Loc.1a;2)
24. *Fragilariforma exigua* (Grun.)D.M.Williams & Round(Loc.1a;30)
25. *Pseudostaurosira brevistriata* (Grun.)Williams & Round(Loc.1a;1)
26. *Staurosira venter* (Ehren.)H.Kobayasi(Loc.1a;1)
27. *Aulacoseira crassipunctata* Krammer(Loc.1b;36)
28. *Aulacoseira ambigua* (Grun.)Simonsen(Loc.1b;37)

図版2 花粉化石



- | | | |
|----------------------|----------------------|-------------------|
| 1. マツ属(試料番号1) | 2. ニレ属—ケヤキ属(試料番号2) | 3. スギ属(試料番号36) |
| 4. マキ属(試料番号1) | 5. コナラ属アカガシ亜属(試料番号1) | 6. シイ属(試料番号2) |
| 7. エノキ属—ムクノキ属(試料番号1) | 8. アカメガシワ属(試料番号3) | 9. ガマ属(試料番号10) |
| 10. ノブドウ属(試料番号22) | 11. カキノキ属(試料番号12) | 12. ゴキヅル属(試料番号10) |
| 13. イネ科(試料番号12) | 14. サジオモダカ属(試料番号10) | 15. ヨモギ属(試料番号10) |
| 16. カヤツリグサ科(試料番号2) | 17. ソバ属(試料番号47) | 18. ハス属(試料番号8) |
| 19. ヒシ属(試料番号5) | | |

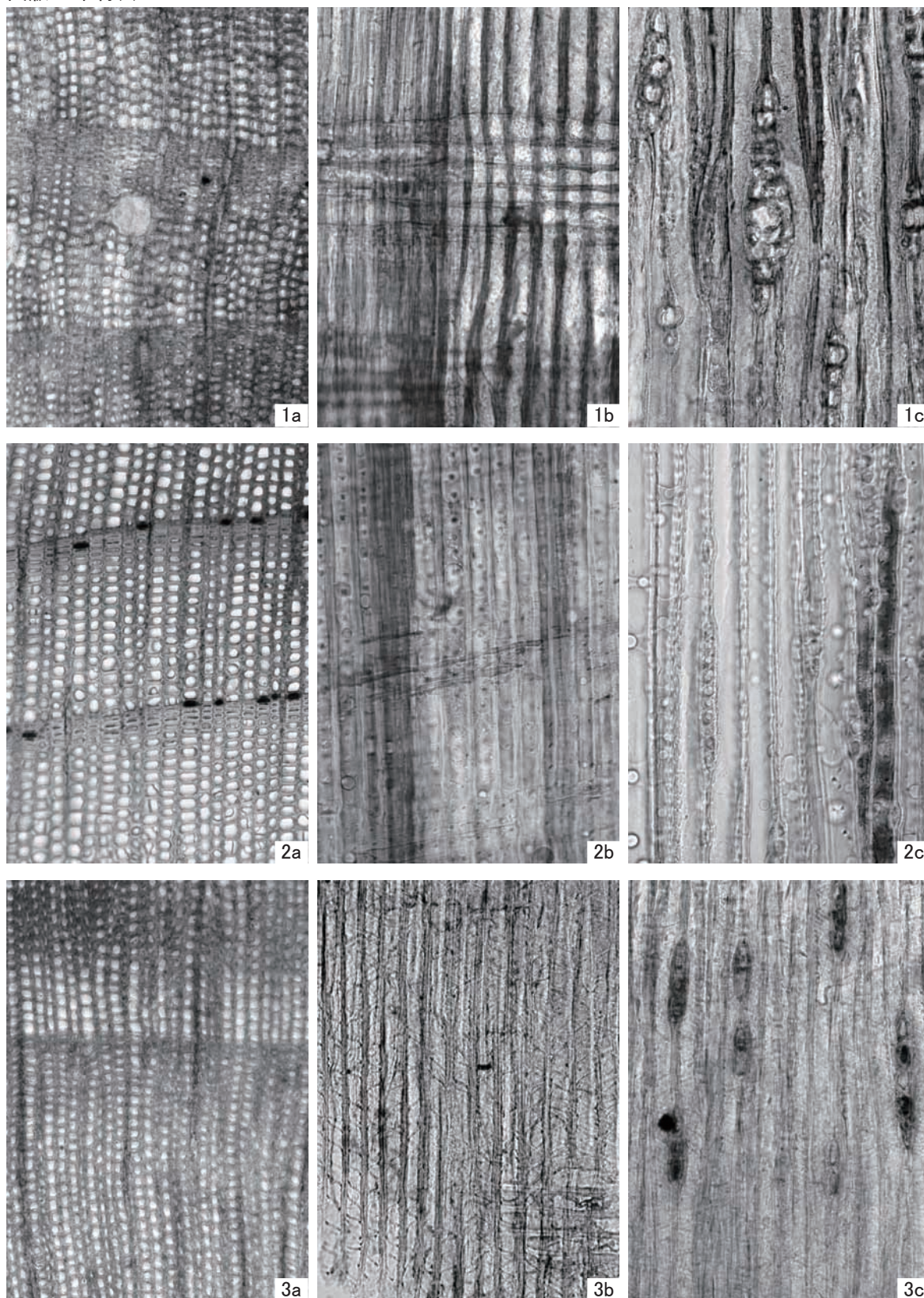
図版3 大型植物遺体



(1,15,19) (3-11,17,23,24,40,41) (12) (2,20-22,28,29,32,39) (13,14,16,18,25-27,30,31,33-38,42-44)

- | | | |
|----------------------------|---------------------------|--------------------------|
| 1. マツ属複雑管束亜属 球果(試料番号20041) | 2. マツ属複雑管束亜属 葉(試料番号5・6) | 3. イヌガヤ 種子(試料番号20037) |
| 4. カヤ 種子(試料番号20033) | 5. イチイガシ 子葉(試料番号20022) | 6. イチイガシ 果実(試料番号20033) |
| 7. アラカシ 果実(試料番号20033) | 8. アカガシ亜属A 果実(試料番号20012) | 9. スダジイ 果実(試料番号20027) |
| 10. ツブラジイ 果実(試料番号20027) | 11. シリブカガシ 果実(試料番号20051) | 12. ムクノキ 核(試料番号20050) |
| 13. クワ属 核(試料番号2・3) | 14. カジノキ 核(試料番号9) | 15. クスノキ科 葉(試料番号20045) |
| 16. シマサルナシ 種子(試料番号2・3) | 17. ヤブツバキ 種子(試料番号20046) | 18. ヒサカキ属 種子(試料番号18-20) |
| 19. モモ 核(試料番号20055) | 20. アカメガシワ 種子(試料番号5・6) | 21. カラスザンショウ 種子(試料番号5・6) |
| 22. イヌザンショウ 種子(試料番号7・8) | 23. センダン 核(試料番号20046) | 24. ムクロジ 種子(試料番号20046) |
| 25. サジオモダカ属 果実(試料番号9) | 26. ヒルムシロ属 果実(試料番号2・3) | 27. ホツモ近似種 種子(試料番号2・3) |
| 28. ミクリ属 果実(試料番号9) | 29. ミクリ属 果実(試料番号7・8) | 30. アゼスゲ類 果実(試料番号9) |
| 31. スゲ属 果実(試料番号7・8) | 32. ウキヤガラ 果実(試料番号9) | 33. ホタルイ属 果実(試料番号9) |
| 34. カヤツリグサ科 果実(試料番号18-20) | 35. タデ属 果実(試料番号18-20) | 36. アカザ科 種子(試料番号2・3) |
| 37. ナデシコ科 種子(試料番号20034) | 38. タガラシ 果実(試料番号18-20) | 39. ゴハリマツモ 果実(試料番号7・8) |
| 40. ヒシ属 果実(試料番号4) | 41. ヒシ属 果実(試料番号20046) | 42. カタバミ属 種子(試料番号4) |
| 43. ミズユキノシタ 種子(試料番号9) | 44. ヒメシロアサザ 種子(試料番号18-20) | |

図版4 木材(1)



1. マツ属複維管束亜属(No20009)

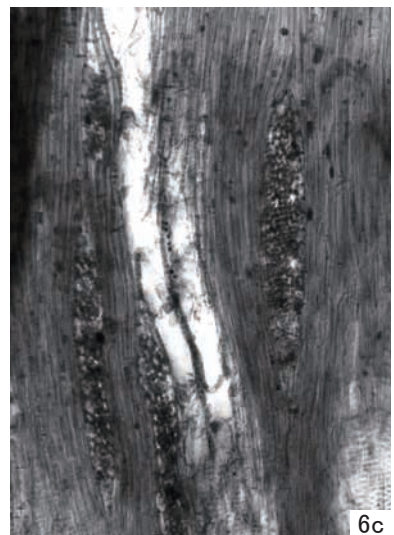
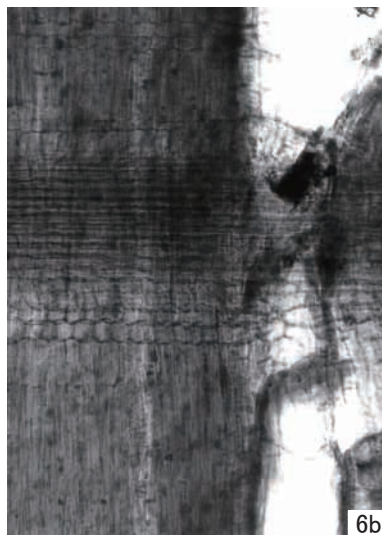
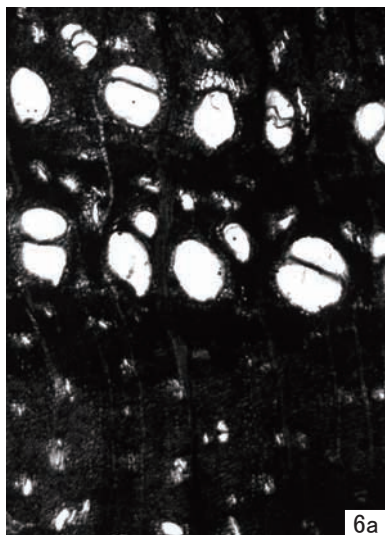
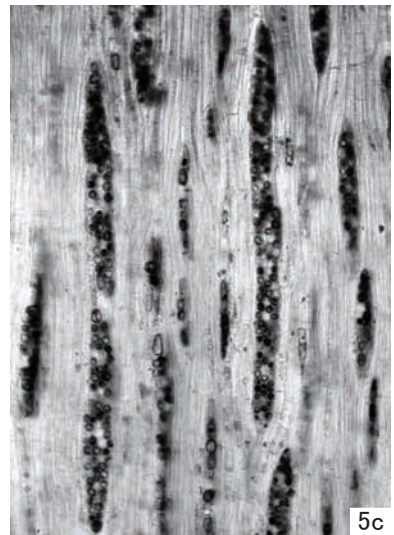
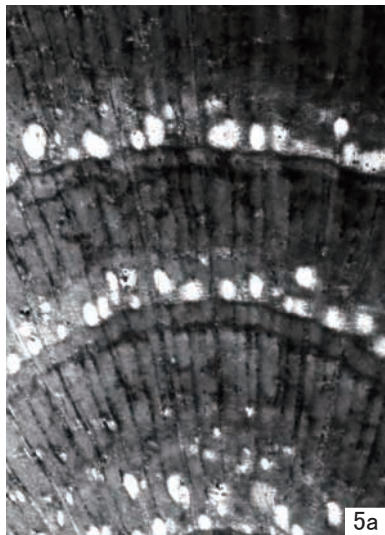
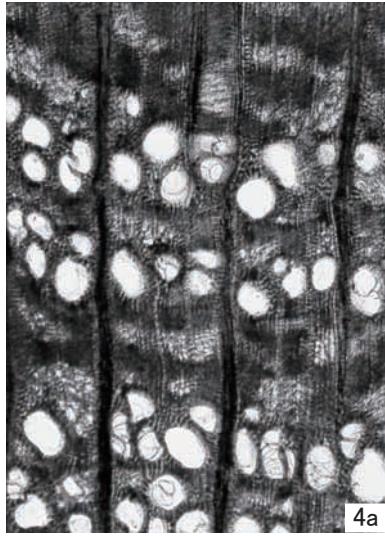
2. ヒノキ(No20135)

3. イヌガヤ(No20117-3)

a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μ m: a
100 μ m: b, c

図版5 木材(2)



4.エノキ属(No20117-2)

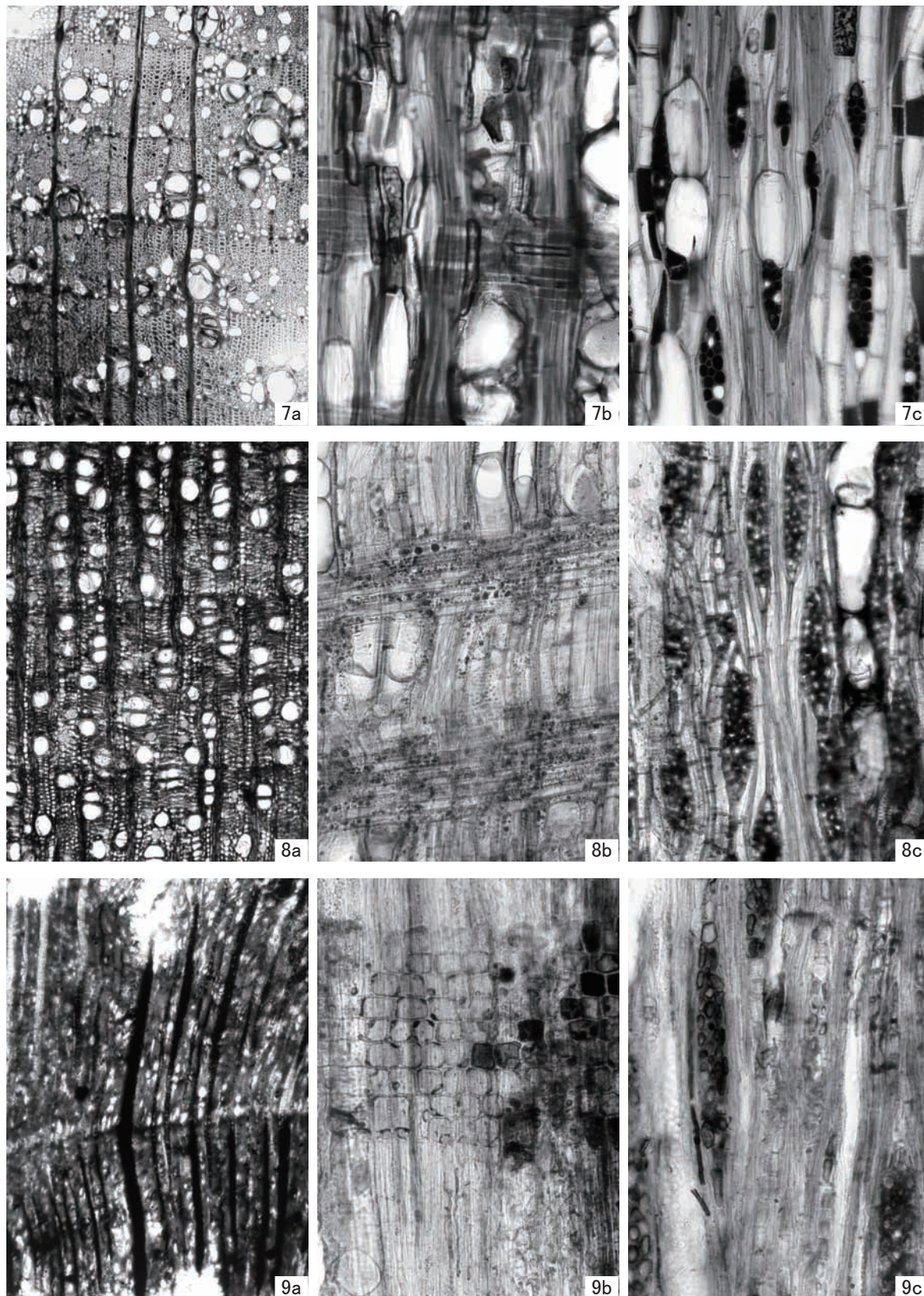
5.ニレ属(No20036-3)

6.ヤマグワ(No20094)

a: 木口, b: 柁目, c: 板目

300 μ m: a
200 μ m: b, c

図版6 木材(3)



7.クスノキ(No20140)

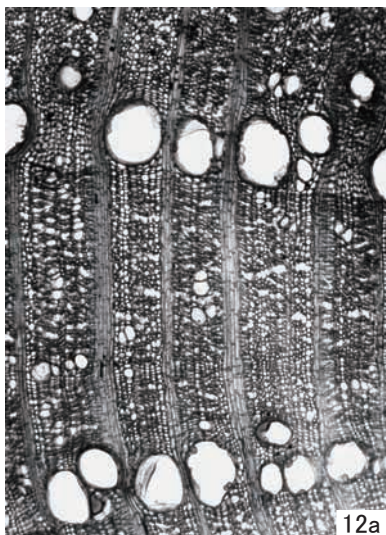
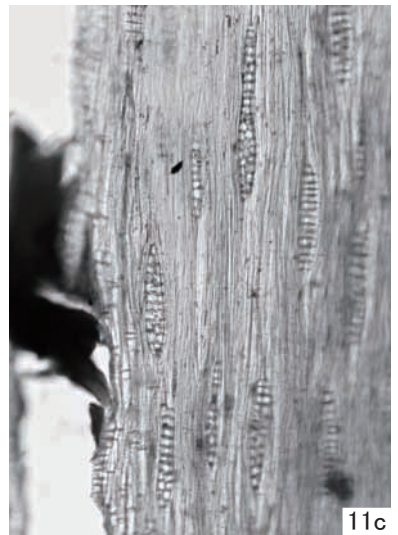
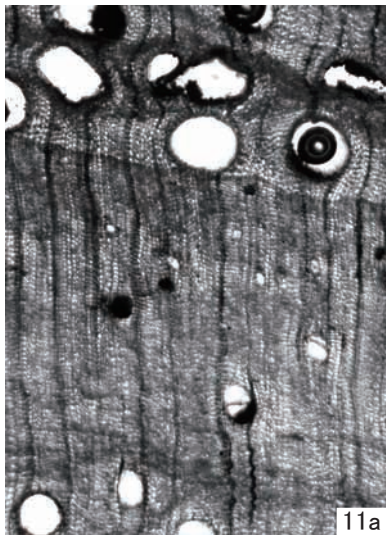
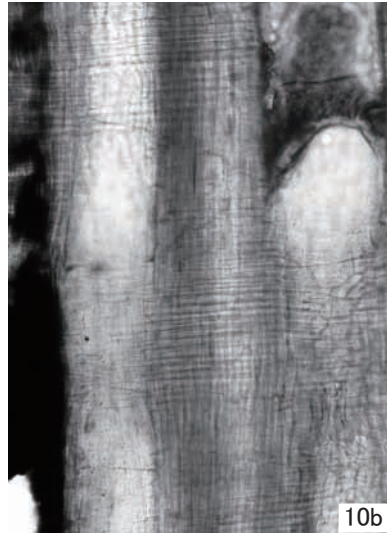
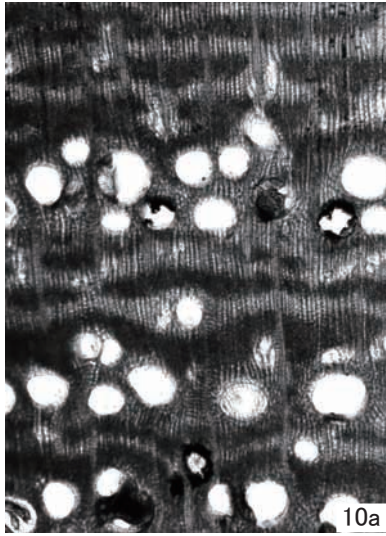
8.クスノキ科(No20101)

9.サクラ属(No20121-2)

a: 木口, b: 柁目, c: 板目

300 μ m: a
200 μ m: b, c

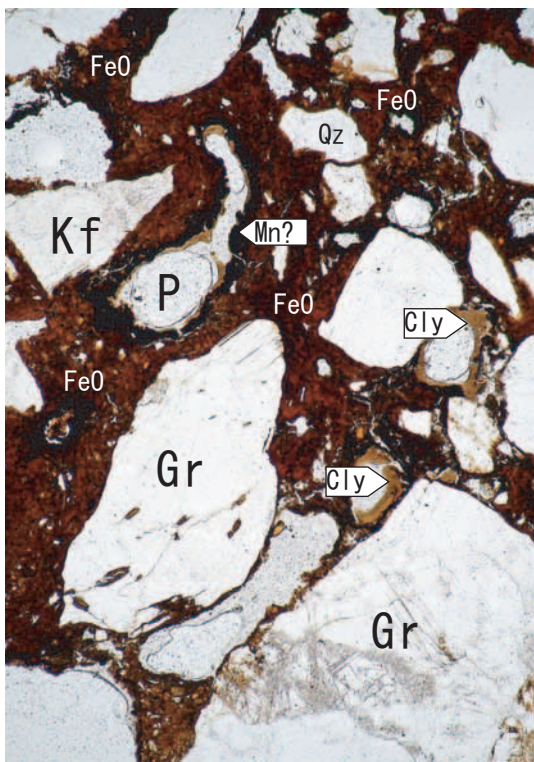
図版7 木材(4)



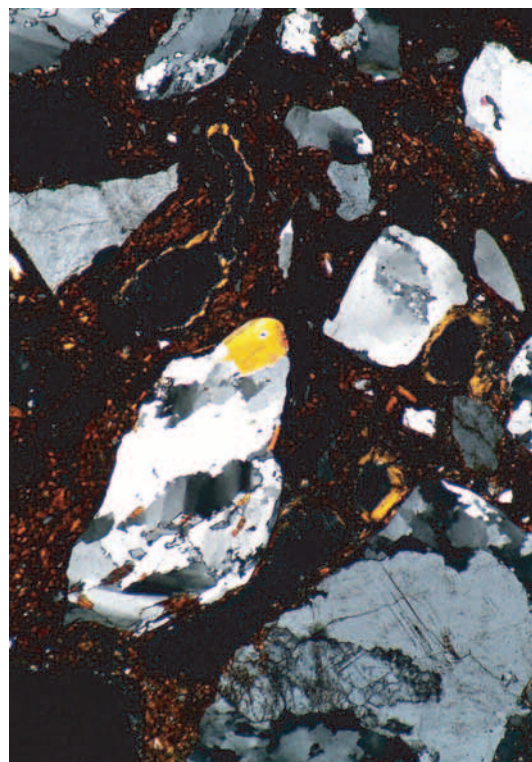
10.ムクロジ(No20126)
 11.トネリコ属(No20113)
 12.チシャノキ属(No20136)
 a:木口, b:柁目, c:板目

300 μ m:a
 200 μ m:b,c

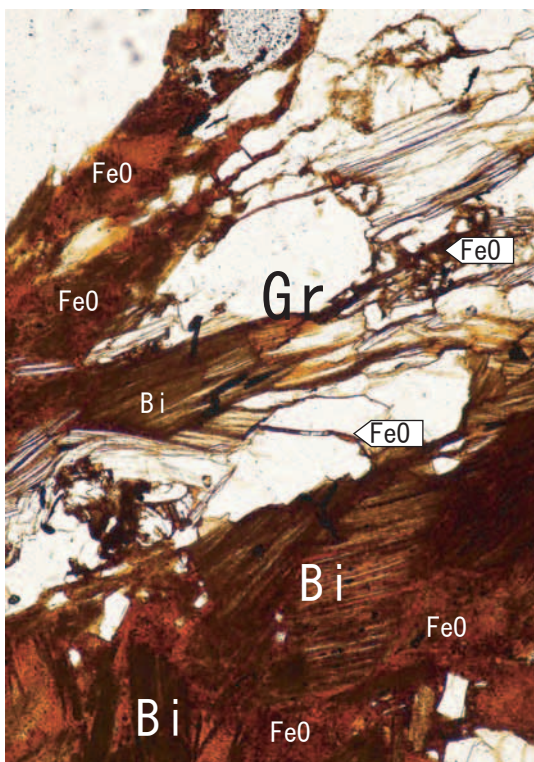
図版8 Mnサンプル 薄片



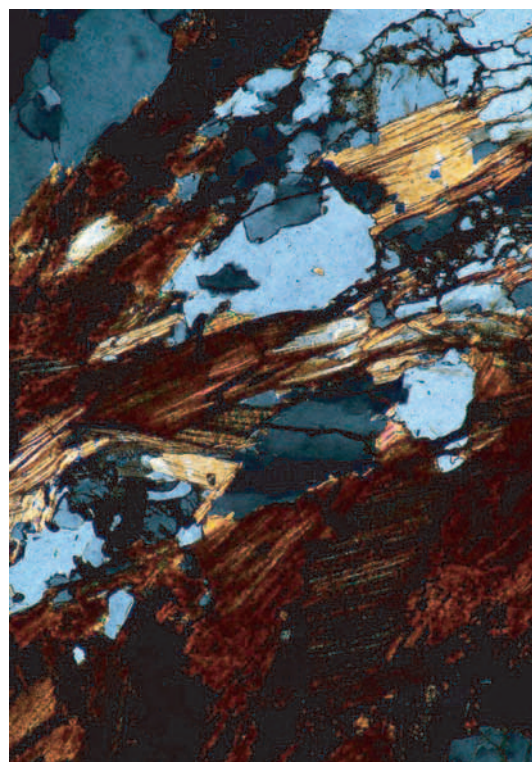
1.Mnサンプル 下方ポーラー
 基質を埋める水酸化鉄の状況



0.5mm 直交ポーラー



2.Mnサンプル 下方ポーラー
 黒雲母の風化状況



0.2mm 直交ポーラー

Qz: 石英 Kf: カリ長石 Bi: 黒雲母 Cly: 粘土鉱物 Mn?: マンガン物質?
 FeO: 水酸化鉄 P: 孔隙

图 版



発掘調査範囲（17・18年度調査と20・21年度調査範囲を合成）



遺跡完掘状況（縄文～弥生）（20・21 - 1～3区の合成写真）



遺跡完掘状況（縄文）（20・21 - 1～3区の合成写真）



遺跡全景（南東から）



遺跡全景（北東から）



20・21 - 1 区完掘状況 (南東から)



20・21 - 3 区 完掘状況



20・21 - 2区 完掘状況 (弥生)



20・21 - 2区 完掘状況 (縄文)

図版6



20・21 - 1区調査前状況（南東から）



20・21 - 2区調査前状況（東から）



20・21 - 3区調査前状況（東から）



20・21 - 1 区礫検出状況（北から）



20・21 - 1 区礫検出状況（北から）

図版8



20・21 - 2区礫検出状況（北から）



20・21 - 2区礫検出状況（北から）



20・21 - 3区礫検出状況（弥生～古代）（北東から）



20・21 - 3区礫検出状況（縄文～弥生）（北東から）



20・21 - 3区遺構面（縄文）完掘状況（北東から）



柱穴群完掘状況（1）（北から）



柱穴群完掘状況（2）（北東から）



柱穴群完掘状況（3）（南東から）



柱穴群完掘状況（4）（北東から）



S K 14 完掘状況（南から）



S K 27 完掘状況（北から）



S K 15 土器出土状況（東から）



S K 16・17 完掘状況（北から）



S K 22 礫検出状況（東から）



S K 22 完掘状況（東から）



S K 24・25 土器出土状況（東から）



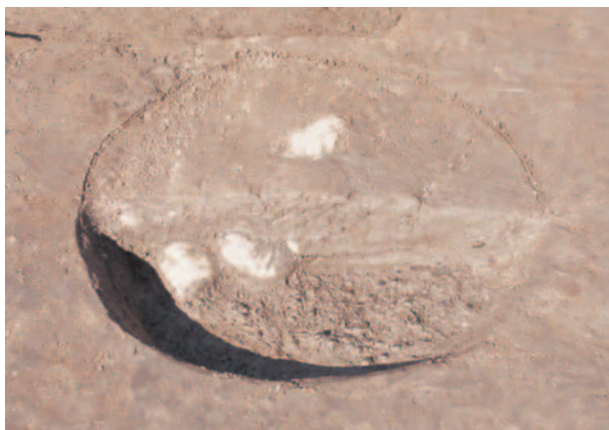
S K 24・25 完掘状況（東から）



S K 30 ドングリ出土状況（南東から）



S K 30 ドングリ 出土状況（部分 南東から）



S K 30 (南東から)



S K 30 (南東から)



S K 28 完掘状況 (南から)



S K 29 完掘状況 (南から)



S K 23 ドングリ出土状況 (南東から)



S K 23 ドングリ出土状況 (部分 南東から)



S K 34 ドングリ出土状況 (南から)



S K 34 ドングリ出土状況 (部分 東から)



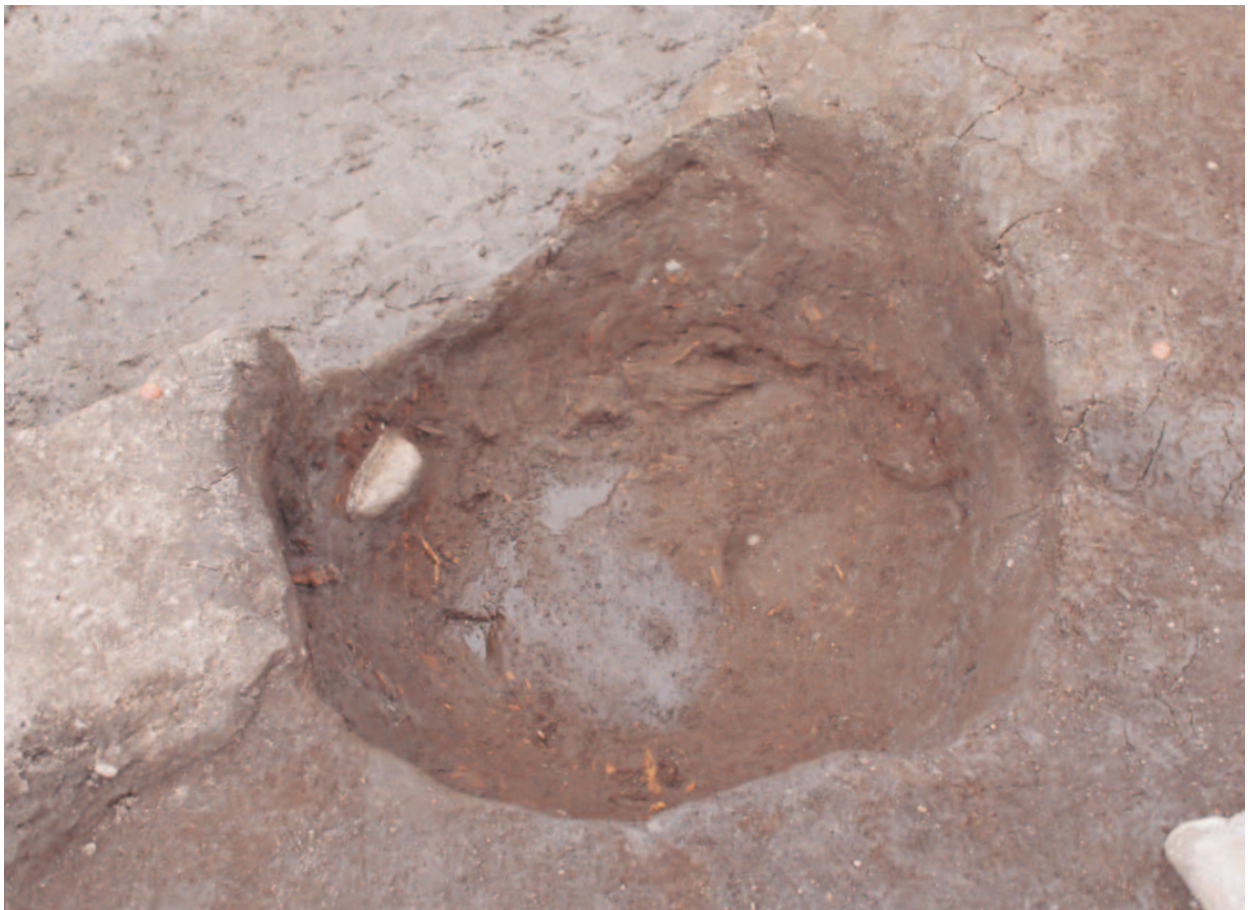
S K 20 土層断面 (南東から)



S K 20 完掘状況 (南東から)



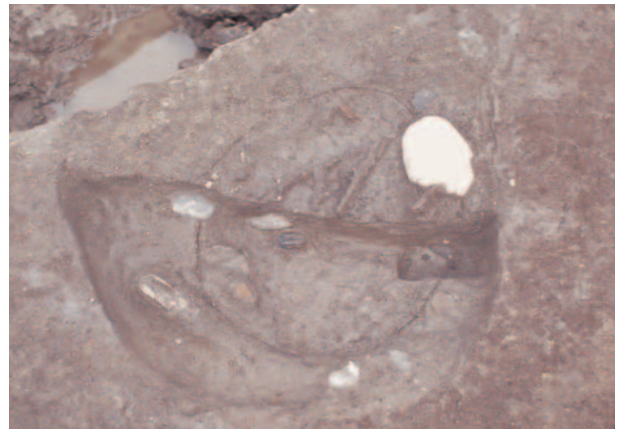
S K 35 礫検出状況（南から）



S K 35 ドングリ出土状況（南から）



S K 33・35 土層断面 (北西から)



S K 33 完掘状況 (南から)



S K 18 完掘状況 (北西から)



S K 19 ドングリ出土状況 (北西から)



S K 31・32 検出状況 (北東から)



S K 31・32 完掘状況 (北東から)



S K 21 完掘状況 (南東から)



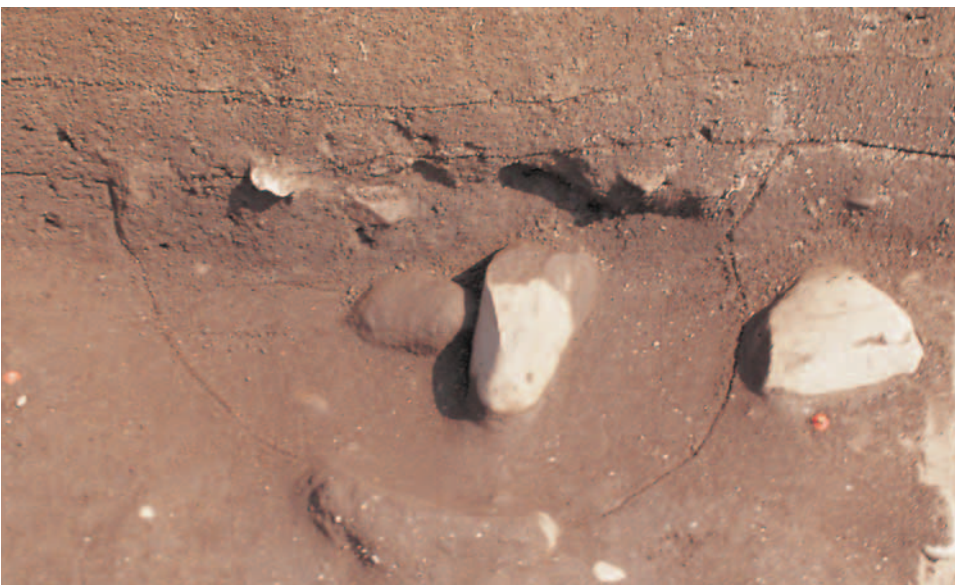
S K 36 完掘状況 (北西から)



S K 10 土器出土状況（西から）



S K 10 土器出土状況（部分 西から）



S K 10 完掘状況（西から）

図版 18



S K 12 完掘状況 (南東から)



S K 1 完掘状況 (北東から)



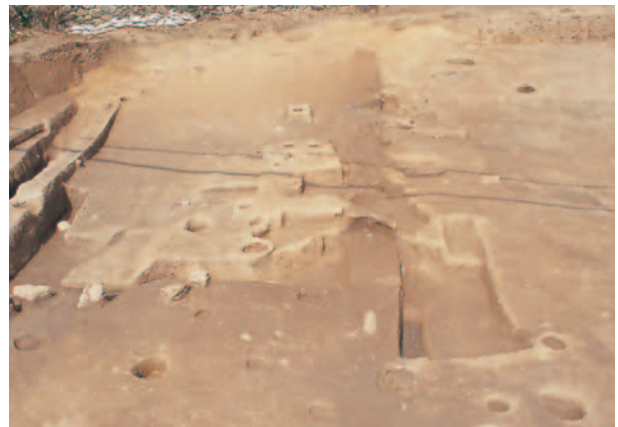
S K 3 完掘状況 (北東から)



S K 群完掘状況 (東から)



S K 7 完掘状況 (北東から)



S K・S P 完掘状況 (南東から)



S K 11 完掘状況 (西から)



S K 13 完掘状況 (西から)



20・21 - 1区遺構面(古代)完掘状況(北から)



20・21 - 2区遺構面(古代)完掘状況(北から)



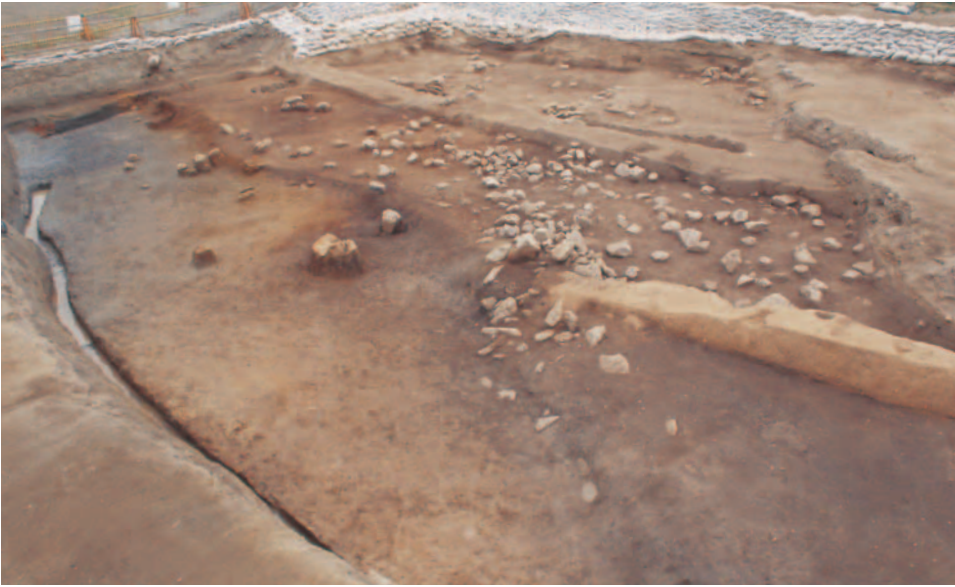
20・21 - 1 区柱穴完掘状況（北東から）



20・21 - 2 区柱穴完掘状況（北から）



20・21 - 3 区柱穴完掘状況（東から）



20・21 - 2区湿地跡（古代）検出状況（北から）



20・21 - 2区湿地跡（古代）検出状況（北から）



20・21 - 2区杭出土状況（北から）



20・21 - 2区湿地跡（弥生）検出状況（北から）



20・21 - 2区湿地跡（弥生）内自然木検出状況（北から）



20・21 - 2区湿地跡（弥生）内自然木検出状況（東から）



20・21 - 2区遺構面（縄文）完掘状況（北から）



20・21 - 2区遺構面（縄文）完掘状況（北東から）



20・21 - 2区完掘状況（北西から）



20・21 - 2区完掘状況（北東から）



20・21 - 2区 完掘状況（南東から）



自然流木検出状況（北東から）



自然流木検出状況（北西から）



土層P'-P北半部 (北から)



土層N'-N (北西から)



20・21-2区東半部土層断面 (北西から)



土層Q-Q' (北東から)



土層M'-M、L'-L (北西から)



土層Q-Q'西半部 (北東から)



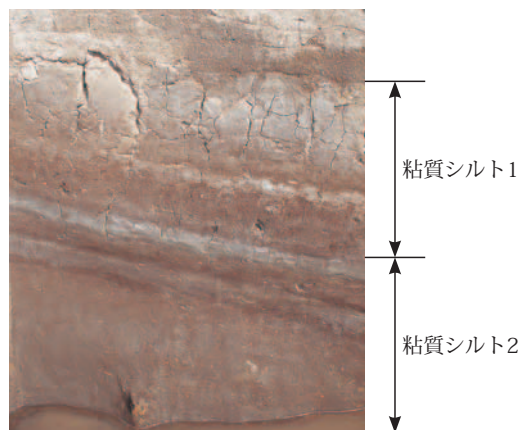
土層R-R' (北東から)



土層K'-K南半部 (北西から)



土層O'-O (部分 南西から)



土層O'-O (拡大 南西から)



土層H'-H北半部 (北西から)



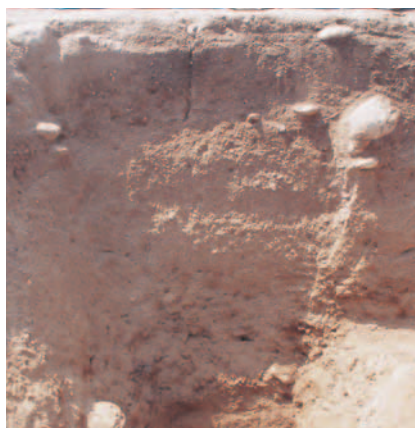
土層H'-H南半部 (西から)



土層C'-C (南東から)



土層F'-F、G'-G (南から)



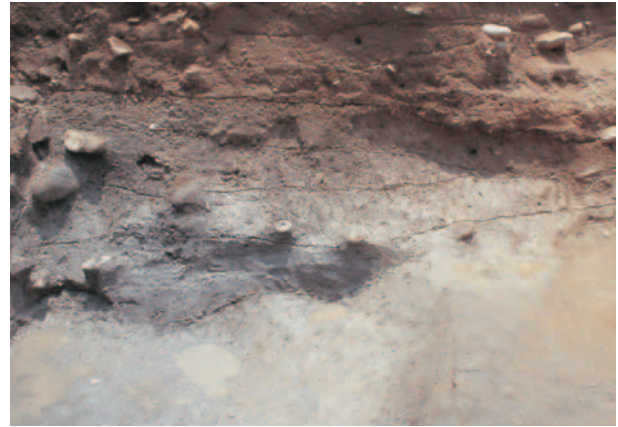
土層I-I' (南東から)



20・21-1区湿地跡 (縄文) (南西から)



土層D'-D (縄文) (南西から)



土層H'-H湿地跡部分 (北西から)



土層T-T' (遺構面まで) (南東から)



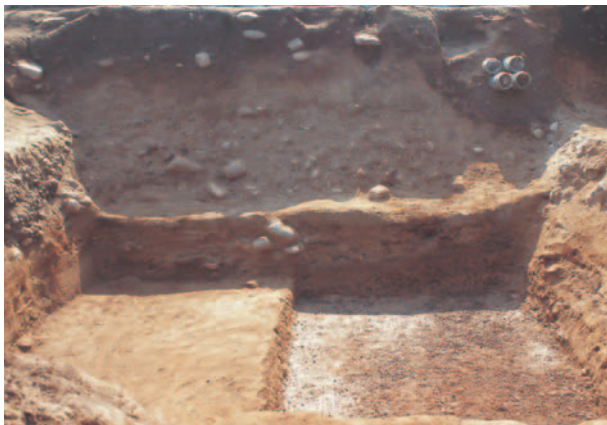
土層S-S' (北東から)



土層U-U' (北東から)



遺構面下掘り下げ部分 (北東から)



土層S-S' (遺構面下) (北東から)



土層T-T' (遺構面下) (南東から)



20・21 - 1区石斧出土状況（東から）



20・21 - 1区石皿出土状況（南から）



20・21 - 1区弥生土器出土状況（東から）



20・21 - 2区土師器出土状況（東から）



20・21 - 2区石錘出土状況（北から）



20・21 - 2区土師器出土状況（西から）



20・21 - 2区土錘出土状況（西から）



20・21 - 2区土師器出土状況（西から）



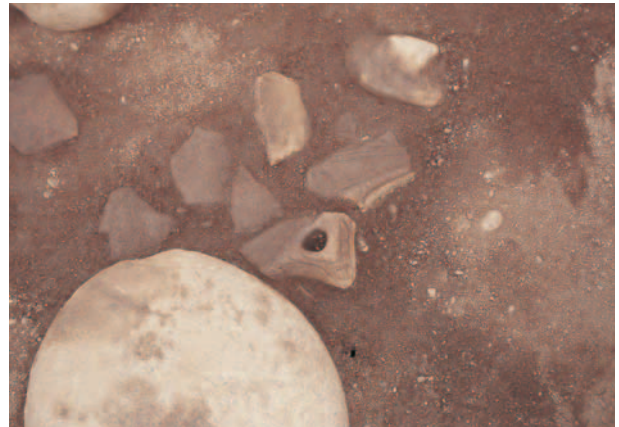
20・21 - 2区弥生土器出土状況（東から）



20・21 - 2区縄文土器出土状況（北東から）



20・21 - 2区弥生土器出土状況（東から）



20・21 - 2区縄文土器出土状況（北から）



20・21 - 2区弥生土器出土状況（南東から）



20・21 - 2区黒曜石石核出土状況（北から）



20・21 - 3区須恵器出土状況（北から）



20・21 - 3区石錘出土状況（東から）

図版 30



20・21 - 3区縄文土器出土状況 (北から)



20・21 - 3区縄文土器出土状況 (北から)



20・21 - 3区黒曜石石核出土状況 (東から)



20・21 - 3区黒曜石石核出土状況 (南から)



20・21 - 3区石斧出土状況 (東から)



20・21 - 3区石匙出土状況 (北から)



20・21 - 3区石匙出土状況 (西から)



20・21 - 3区黒曜石石核出土状況 (南から)



繩文土器(1)



繩文土器 (2)



繩文土器 (3)



繩文土器 (4)



繩文土器 (5)



繩文土器 (6)



繩文土器 (7)



繩文土器 (8)



繩文土器 (9)



繩文土器 (10)



繩文土器 (11)



縄文土器 (12)



繩文土器 (13)



繩文土器 (14)



繩文土器 (15)



繩文土器 (16)



繩文土器 (17)



縄文土器 (18)



繩文土器 (19)



繩文土器 (20)



繩文土器 (21)



繩文土器 (22)



繩文土器 (23)



繩文土器 (24)



繩文土器 (25)



繩文土器 (26)



繩文土器 (27)



繩文土器 (28)



繩文土器 (29)



繩文土器 (30)



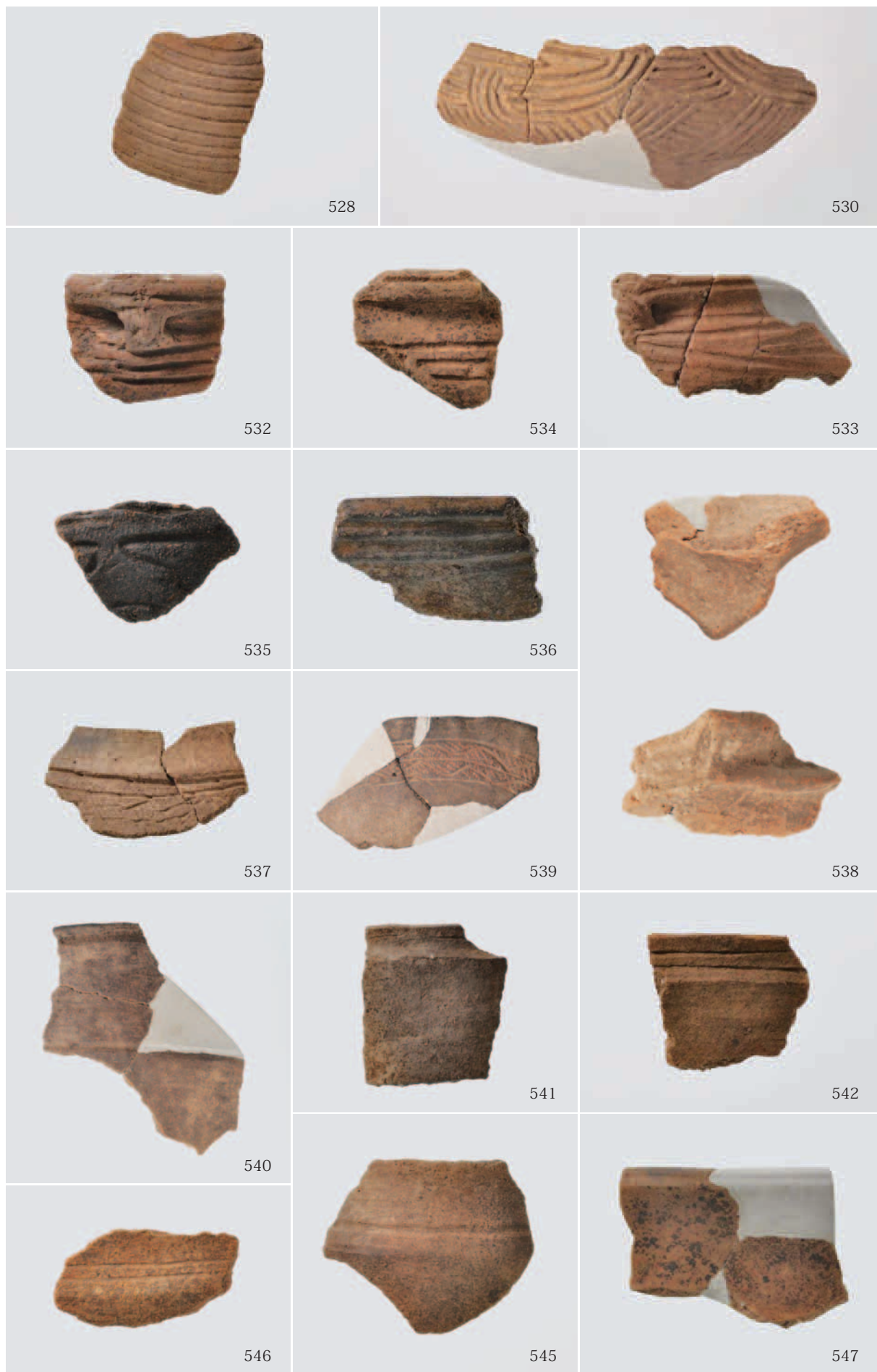
繩文土器 (31)



繩文土器 (32)



繩文土器 (33)



繩文土器 (34)



繩文土器 (35)



縄文土器 (36)



繩文土器 (37)



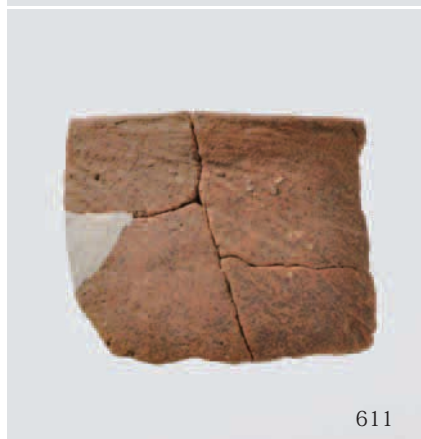
縄文土器 (38)



605



612



611



613



614



615



616



617



619



618

縄文土器 (39)



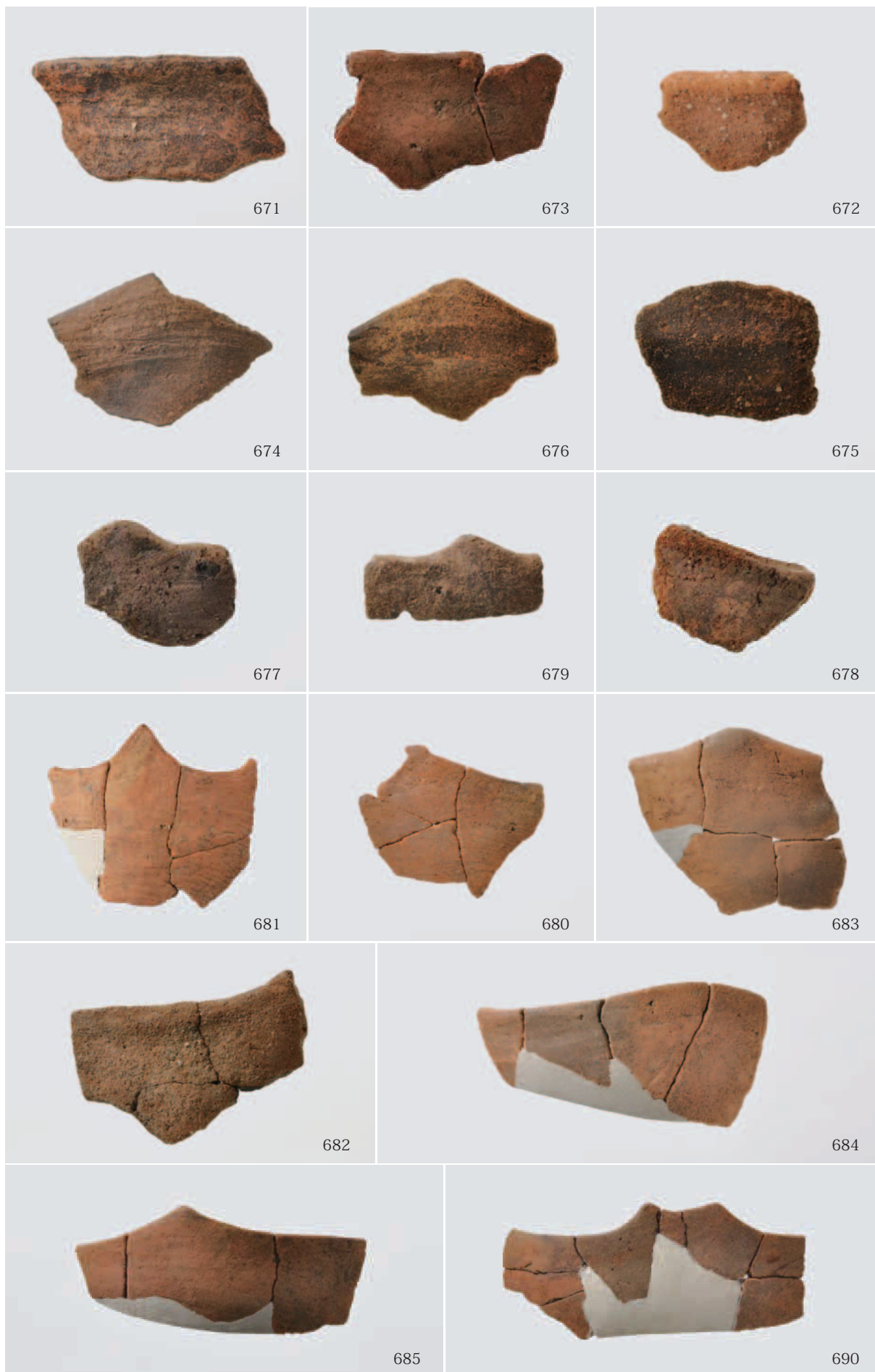
繩文土器 (40)



縄文土器 (41)



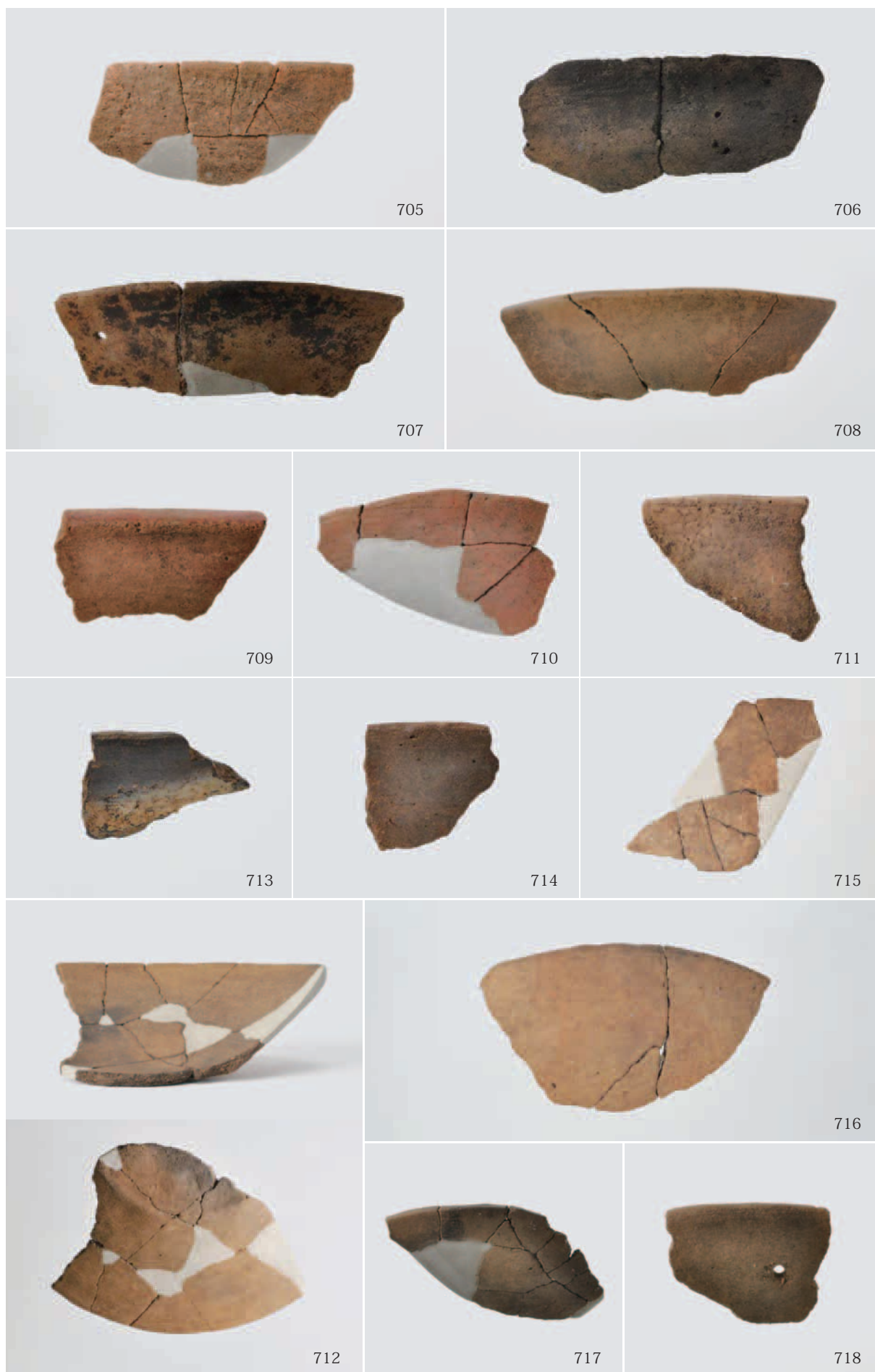
繩文土器 (42)



繩文土器 (43)



出縄文土器(44)



縄文土器 (45)



繩文土器 (46)



繩文土器 (47)



繩文土器 (48)



縄文土器 (49)

図版 80



縄文土器 (50)



弥生土器 (1)



弥生土器 (2)



弥生土器 (3)



弥生土器 (4)



弥生土器 (5)



弥生土器(6)



弥生土器 (7)



弥生土器 (8)



土師器(1)・須恵器(1)



土師器(2)・須恵器(2)



土師器 (3)



製 塩 土 器

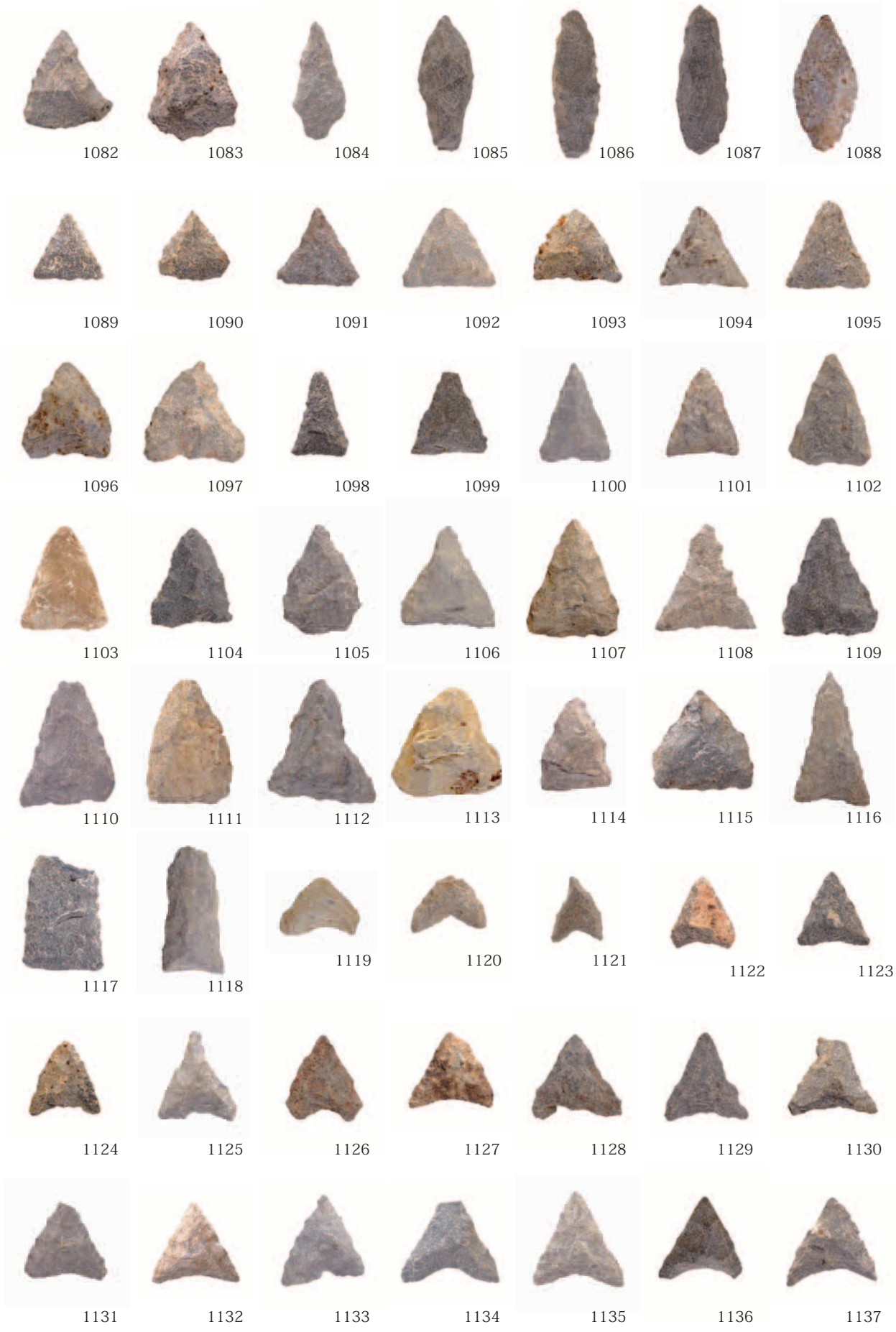


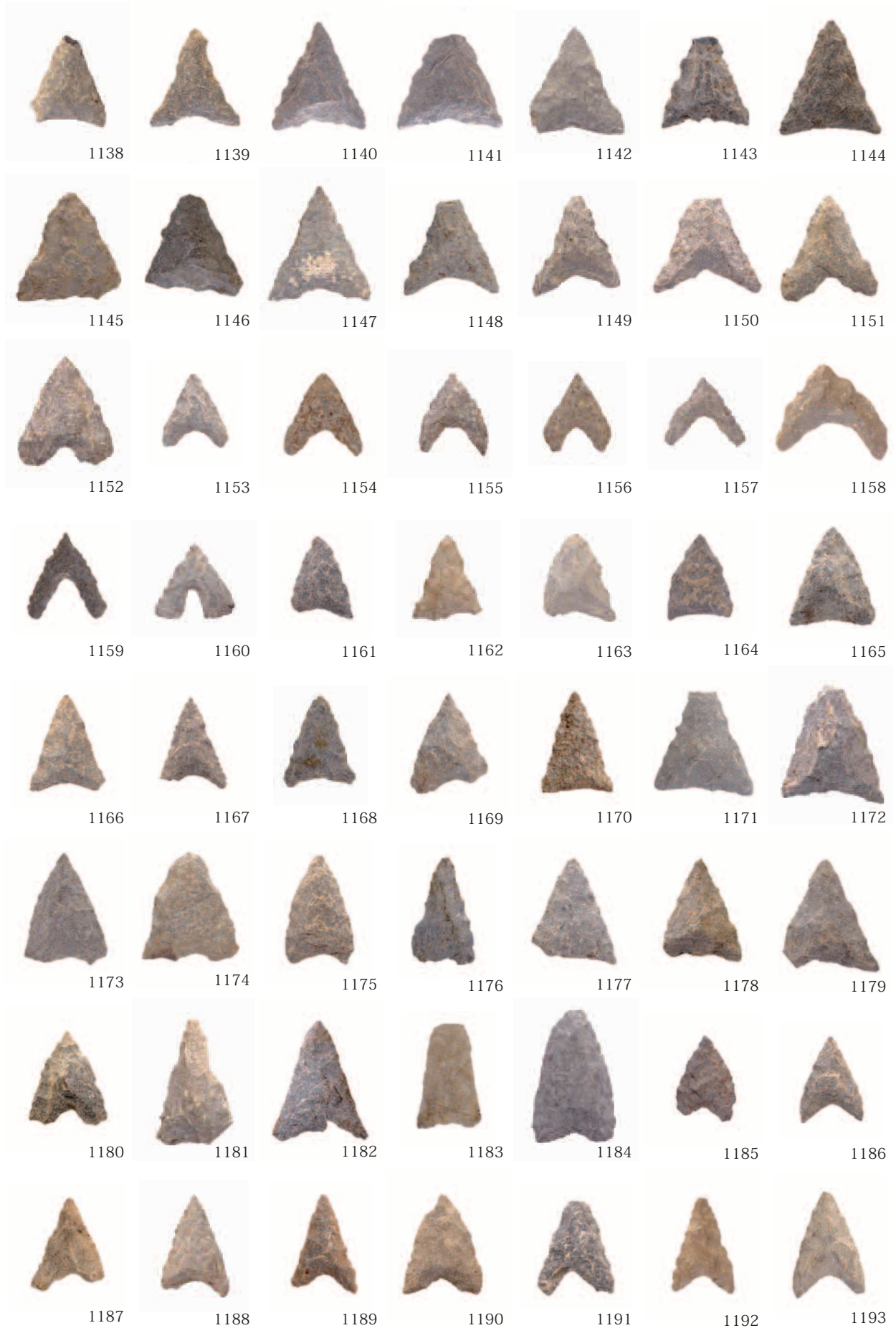
黑色土器・陶磁器・瓦質土器



土製品 (1)











图版 100









1427



1428



1425



1426



1430



1429



1431



1432



1433



1434



1435



1436



1437



1440



1438



1443



1439



1441



1442



1444



1445



1446

图版 104



1447



1448



1449



1457



1450



1451



1452



1453



1454



1459



1460



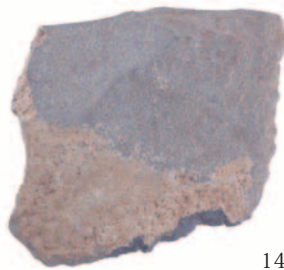
1462



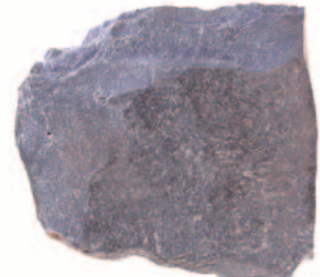
1463



1455



1456



1458



1461



1464



1465



1466



1467



1468



1469



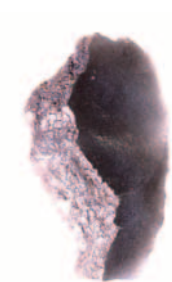
1470



1471



1472



1473



1474



1475



1476



1477



1478



1479



1480



1481



1482



1483



1486



1484



1485



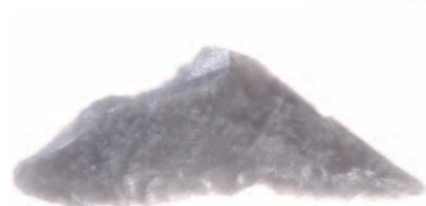
1489



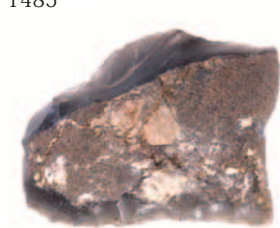
1487



1488



1490



1491



1492



石器·石製品 (11)



1517



1519



1521



1522



1523



1524



1525



1527



1526



1528



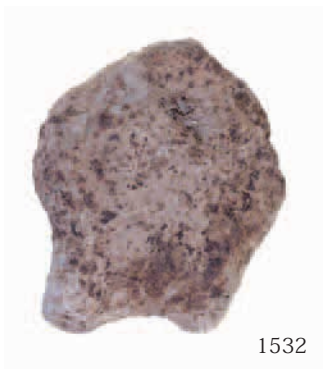
1530



1529



1531



1532



1533



1534



1535



1536



1537



1538



1539



1540



1541



1542



1543



1544



1545



1546



1547



1548



1549



1550



1551



1552



1553



1554



1555



1556



1557



1558



1559



1560



1561



1562



1563



1564



1565



1566



1567



1568



1569



1570



1571



1572



1573



1574



1575



1576



1577



1578



1579



1580



1581



1582



1583



1584



1585



1586



1587



1588



1589



1590



1591



1592



1593



1594



1595



1596



1597



1598



1599



1600



1601



1602



1603



1604



1605



1606



1607



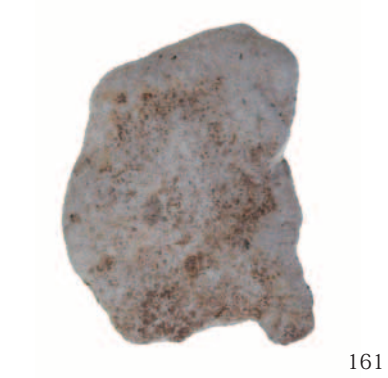
1608



1609



1610



1611



1612



1613



1614



1615



1616



1617



1618



1619



1620



1621



1622



1623



1624



1625



1626



1627



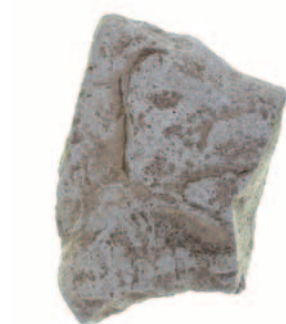
1628



1629



1630



1631



1632



1633



1634



1635



1636



1637



1638



1639



1640



1641



1642



1643



1644



1645



1646



1647



1648



1649



1650



1651



1652



1653



1654



1655



1656



1657



1658



1659



1660



1661



1662



1663



1664



1665



1666



1667



1668



1669



1670



1671



1672



1673



1674



1675



1676



1677



1678



1679



1680



1681



1682



1683



1684



1685



1686



1687



1688



1689



1690



1691



1692



1693



1694



1695



1696



1697



1698



1699



1700



1701



1702



1703



1704



1705



1706



1707



1708



1709



1710



1711



1712



1713



1714



1715



1716



1717



1718



1719



1720



1721



1722



1723



1724



1725



1726



1727



1728



1729



1730



1731



1732



1733



1734



1735



1736



1737



1738



1739



1740



1741



1742



1743



1744



1745



1746



1747



1748



1749



1750



1751



1752



1753



1754



1755



1756



1757



1758



1759



1760



1761



1762



1763



1764



1765



1766



1767



1768



1769



1770



1771



1772



1773



1774



1775



1776



1777



1778



1779



1780



1781



1782



1784



1783



1787



1786



1789



1788



1790



1785



1791



1793



1792



1794



1804



1795



1797



1805



1800



1801



1799



1802



1796



1798



1803



1806



1807



1808



1809



1810



1811



1812



1813



1815



1817



1818



1814



1816



1819



1821



1830



1841



1822



1820



1823



1824



1825



1826



1828



1827



1829



1831



1832



1833



1834



1836



1837



1838



1835



1839



1840



1842



1845



1843



1848



1849



1844



1846



1847



1850



1852



1851



1853



1855



1856



1858



1854



1857



鉄製品・木製品



SK30 切り取り作業①



SK30 切り取り作業②



土壌試料採取作業①



土壌試料採取作業②

SK30 切り取り作業・土壌試料採取作業風景

報告書抄録

ふりがな	たのうらいせき2
書名	田ノ浦遺跡Ⅱ
副書名	平成20・21年度調査
巻次	
シリーズ名	山口県埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第74集
編集著者名	谷口哲一 後藤義拓 米田浩晃 山本寛子 中原香織
編集機関	山口県埋蔵文化財センター
所在地	〒753-0073 山口県山口市春日町3番22号 TEL083-923-1060
発行年月日	西暦2011年3月29日（平成23年3月29日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たのうら 田ノ浦遺跡	やまぐちけん 山口県 くまげ郡 かみのせきちょう 上関町 おおあざながしま 大字長島 あざない 字田ノ浦 ちない 地内	35341		33°47'33"	132°2'2"	20090126 ～ 20100319	1,098	原子力発 電所準備 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
田ノ浦遺跡	集落跡 散布地	縄文 弥生 古代	土坑 柱穴 杭列跡 柵跡	36 101 1 1 縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 製塩土器 黒色土器 陶磁器 土製品 石器・石製品 鉄製品 木製品 種子等自然遺物	遺物包含層から縄文土器をはじめとする多くの遺物が出土。縄文時代後期の堅果類貯蔵穴を14基検出。

要約	<p>田ノ浦遺跡は海浜部の浜堤および後背湿地に立地する縄文時代から古代・中世にかけての集落跡、散布地である。高潮等による浸食、攪乱によって遺構の残存状況は良くないが、厚く堆積した遺物包含層からは縄文時代から古代を中心とする遺物が多く出土する。検出された遺構のうち、縄文時代後期には14基の堅果類貯蔵穴が確認された。県内では岩田遺跡に次いで2遺跡目であり、縄文時代の食料保管方法を示す良好な資料である。縄文土器は前期から晩期のものが出土し、大半が後期土器である。これらには他地域の土器も含まれ、県東部における縄文土器の様相を良く示している。出土石器の種類も豊富で数量も多い。また姫島産黒曜石やサヌカイトなどの石材や剥片も集落規模に比して多数出土することから、瀬戸内海ルートによる石材の搬入、集積、周辺遺跡への供給および石器生産が行われた可能性がある。また遺構は不明ながら、奈良時代から平安時代にかけて製塩を行っていたことが明らかとなった。</p>
----	--

山口県埋蔵文化財センター調査報告 第74集

田ノ浦遺跡Ⅱ

2011年3月29日

編集・発行 財団法人山口県ひとつくり財団
山口県埋蔵文化財センター
〒753-0073 山口県山口市春日町3番22号

印刷 瞬報社写真印刷株式会社
〒752-0927 山口県下関市長府扇町9番50号

